『PRIDE無差別級GP』先取り総力特集!!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2006 97 880yen



拳で世間を振り向かせろ!
真のスーパースターへ向け始動!!

五味隆典

闘いに人生を賭ける男たち
その一途な生き様を読め!

髙阪剛
西島洋介

PRIDE.31で波乱続出!!
GPへの闘いはすでに始まっている!

E・ヒョードル
A・R・ノゲイラ
マーク・ハント
A・オーフレイム
M・コールマン

[大爆発! ハッスル3月シリーズ大総括!!]
究極の愛憎対談が実現!
HG vs RG
TAJIRIの静かなる激白
「ボクがハッスルする理由」

元気、所、宇野はいかに闘ったか
3・15『HERO'S』完全詳報

4・5魔娑斗と闘う所英男の盟友
レミギウス・モリカビュチス

謎! 謎! 謎!
「田村潔司、敗戦後の行動の裏」
「ハリトーノフ完敗の裏」を探る!

某誌に休刊騒動ボッ発!
いま格闘技雑誌に何が起こっているのか!?

新日離脱組のその後を追う!
"ケロちゃん"ついに登場!
田中秀和
吉江豊

4・2『武士道』で輝け!! 真っ赤に燃える王者の印!

ゴゴゴゴゴ PRIDEの星

kamipro 97 真っ赤に燃える王者の印! PRIDEの星

〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

スカパー!モバイル

総合バトルエンタテインメントサイト『スカパー!バトルLIFE!!』
オープン2ヶ月目にして早くも暗雲!?

スカパー!は、ちめーてき。
(バトルLIFE!!)



ここがちめーてき。その1

金沢"GK"克彦さんに「これからは"SK"(スカパー!金沢)を名乗ってもらえませんか?」とお願いしたところ、あっさり「お好きにどうぞ。がんばってね」と快諾されてしまうメディアとしてのナメられっぷり…。



ここがちめーてき。その2

また、ターザン山本!さんに「スーザン山本!に変えてください」といまだに言えないヘタレっぷり。そんなにビビる相手じゃないっていうのは、わかってるつもりなんですけど…。



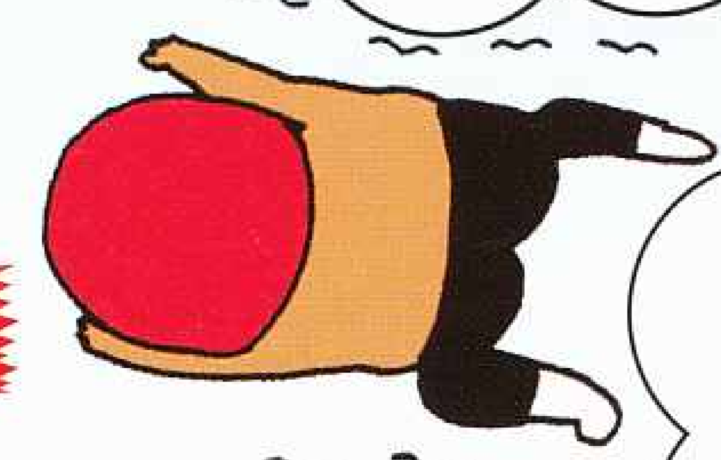
ここがちめーてき。その3

我らが永田裕志選手(新日本プロレス)の奥様が、本音まじりで新日本プロレスの試合レポート(その名も『ナガタルック』!)を書いているところ。大丈夫かなぁ…。もちろんヘタレなので、もらった原稿内容を修正することもできずそのまま配信しています…。

ここがちめーてき。その4

吉田豪さんにも連載コラム(『紙のプロ格 NOTV』)を書いていただいているところ。だってこの人、プロレス・格闘技の生観戦もろくにしないで、テレビやネット、紙媒体からの情報だけでマット界を語るんですよ…。





ここがちめーてき。その5

こんなこともありました。ビッグマウスの上井さんに「新しくメディアとしてスタートしました。うちにも会見情報などのプレスリリースを送ってください」とお願いしたら、「うーん…。わしは今、ネコの手も借りたいくらい忙しいんで…なんとかお力になりたいんですが、今回はちょっと…ご免なさい」と思いっきりなにか勘違いをされて断られてしまったところ…かな。

それでも「後発じゃない! 大トリだ!」な充実コンテンツ!!

- ★PRIDE、K-1、ハッスル、新日本プロレス、全日本プロレスを中心としたマット界の最新ニュースを毎日超速配信!
- ★最新ビッグマッチの詳細な試合リポート! そしてレビュー!
- ★旬のプロレスラー・格闘家への独占インタビュー!
- ★ターザン山本!×金沢"SK"克彦が定例対談でマット界を毎週ブッタ斬り!
- ★週刊! SK金沢の『疾風怒濤! SK激場2006』&ターザン山本!の『アブノーマルな水曜日(通称:あぶ水)』!
- ★DSE広報局 局長・笹原圭一氏がPRIDE、ハッスルに関する質問・疑問をすべて答える!
- ★至近距離の真実! K-1オフィシャルライター松井孝夫による『K-1、HERO'Sインサイドリポート』!
- ★あの名作が『バトルLIFE!!』で甦った! 渕正信の孤独私小説『ロンリーワン』!
- ★連載:漢たちの愛車、漢たちが愛するお店紹介!
- ★こちらも連載:『バトルWIFE!!』『素敵な奥様~○○の妻でございます~』!
- ★充実!選手プロフィール!
- ★スカパー!の放送と連動した企画もご用意!

増殖する

『バトルLIFE!!』ファミリー!

週刊・月刊・不定期コラムは、ちめーてきなまでの豪華執筆陣!!

ターザン山本!(元『週刊プロレス』編集長、現・野武士)金沢"SK"克彦(元『週刊ゴング』編集長、現スーパープロレスライター)・吉田豪(プロインタビュアー&プロ書評家)・笹原圭一(DSE広報局局長)・松井孝夫(K-1オフィシャルライター)・増田英彦(ますだおかだ)・永田ちえこ(永田裕志夫人)……などなど刻一刻と増殖中!

情報料	アクセス方法	受付時間
315円/月(税込)	◎iモード:iMENU→メニューリスト→スポーツ→格闘技/大相撲 ◎EZweb:EZトップメニュー→カテゴリで探す→スポーツ→格闘技 ◎Vodafone live!:Vodafone live!→メニューリスト→スポーツ→格闘技	カスタマーセンター 0570-033-103 平日 10:00～20:00 土日祝 10:00～18:00

てってーてきにやるよぉ。スカパー! バトルLIFE!!



無差別級GP直前——
嵐の前の大熱風!!

2006 No.97 CONTENTS

kamipro

表紙イラスト／岡村晶明
表紙文字&フレーム／師岡とおる

夜空にきらめく幾多の星——

大きな星、輝く星、流れ星、

そんな中に真っ赤に燃えさかる

PRIDEの星がある。

見ろ、あれがPRIDEの星——

その星の名は五味隆典!


いま総合格闘技は

この男を中心に回っている。

ピュアでリアルな輝きを放つ一等星!

PRIDEの星





拳で世間を振り向かせろ!
つかめ、ゴールデンタイム!!

隆典

——（表紙の見本を見せながら）これ次号の表紙なんですけど、いかがですか？

五味　これならカッコいいじゃないですか。最初、イラストになるって聞いたときはちょっと心配だったんですけどね。

——どう心配だったんですか？

五味　あの～、藤田選手の表紙があったじゃないですか。ああいうふうになるんじゃないかと思って。

——今度は俺がキングコングにさせられるのか、と（笑）。

五味　飛行機つかんじゃったりとかね。俺は何をやらされるのかと思ったんだけど（笑）。これなら大丈夫でしょう。

——ま、五味さんも目は燃えちゃってますけどね（笑）。

五味　でもなぁ、チャンピオンになったときの表紙（本誌95号）は不評だったな～。

——そうなんですか？

五味　ボクの顔がねぇ……まぁ、あのとき寝てなかったし、ヒゲも剃らずに撮影行っちゃった俺が悪いんだけど（笑）。

——じつはあの写真、寝癖をデジタル処理で直させてもらったんですよ（笑）。

五味　やっぱね、人生賭けて闘った6日後に取材は無理だよ～。もう、ぼーっとしちゃって、顔も洗わないで行きそうになっちゃいましたからね。

——それは、ちょっとぼーっとしすぎですよ！

五味　いや、無理無理。ホントに。

——大仕事を成し遂げたあとで、一気に緊張感なくなった感じですか？

五味　緊張の「き」の字もなかった。しかも正月でしょ？　頭からっぽだよ（笑）。

——そういえば、先日の『PRIDE・31』では、もう2月も終わりだというのにリング上から「明けましておめでとうご

燃える王者が真のスーパースターへ向け始動!!

PRIDE王座はスタートライン

五味



4・2『PRIDE武士道』マーカス・アウレリオと激突!!

日本人初のPRIDE王者・五味隆典が、真のスーパースターに向けて始動！　昨年は格闘技界のあらゆる賞を総なめにする活躍を見せた五味隆典。しかし、地上波ゴールデンタイムでの『PRIDE武士道』放送が実現していないことから、その実績に世間の注目度が追いついていないこともたしか。そんな現状を力ずくで打破するべく、今年も五味は走り続ける！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和

designed by hisa (TwoThree)

ざいます」って挨拶してましたけど、まだ正月休みが続いてたんですか？（笑）。

五味　いや、やっぱ今年初めて『PRIDE』のファンの前に出たんで、「そういえば、新年の挨拶まだだったな」と思って。

――べつに3カ月近く正月休みが続いてたわけじゃないと（笑）。

五味　たしかに一カ月半ぐらいはみんなで遊んだりしてましたけどね。そのあとは、いろんな格闘技の興行を観に行ったりして、試合に対する勘とかだけは鈍らせないようにして。

――ある意味、メンタルトレーニングの一貫みたいな感じで。

五味　でも、ホント興行がたくさんあって、いろんな団体の試合観に行くだけで週末全部埋まりましたけどね。それでいよいよ自分の番だなっていう。

――観に行った興行の中で一番刺激になったとか、印象に残ったような試合はありましたか？

五味　そうですね、DEEPの長南選手の試合（vs桜井隆多）であったり、あとは『PRIDE・31』の西島（洋介）選手の試合は素晴らしかったですよね。ただ、西島選手頑張ったんですけど、メインで負けちゃうとやっぱりお客さんの気持ちが少し下がっちゃうと思うんで、次は俺がメインでしっかりKOして、お客さんに気持ちよく帰ってもらおうって。そうすると、必然的に上半期のベストバウトも取れるわけですよ。

――ワハハハ！　もう上半期ベストバウトを視野に入れてますか（笑）。

五味　だってもう4月ですからね。やっぱりどんなスポーツでも、誰かが凄いことやったら「もっと凄いのやってやろう」ってなるもんですから。長南選手や西島選手が凄いのやったら、ボクはもっと凄いのやってやるってテンション上がりますからね。

修斗やDEEPと比べると『PRIDE』はプロとしての空気感が全然違いますよね

――いろんな団体を観たあと『PRIDE』の試合を観たりすると、改めて自分がどんでもない戦場で闘ってるんだとか思いませんでした？

五味　やっぱりプロとしての空気感が全然違いますよね。これがプロの舞台だなって。もう演出から試合から全部。

――修斗もビッグマッチでしたけど、空気感はまったく違いますよね。

五味　そうですね。修斗はいい意味でプロとは別の価値観の世界なんでしょうね。選手が損得抜きで純粋に闘って作り上げる、ある種、甲子園みたいなところがありますよね。

隆典



2・28『PRIDE.31』のリング上に挨拶のため上がると、これまでにない熱を持った大歓声で迎え入れられた五味。日本人初のPRIDE王者となったことで、確実にファンの五味を見る目が違ってきている。

――たしかにプロ特有の"まがまがしさ"というのは、修斗の理念とは別にところにある気はしますね。

五味　でもDEEPには"プロ"を感じるし、あの"奪い合い感"っていうのはDEEPならではだと思うんですよね。

――"奪い合い感"ですか？

五味　そう。勝てば『PRIDE』にもつながっていくけど、負ければチャンスを失なう。勝つと負けるのとでは大きく違ってくるという、その切羽詰まった雰囲気が格闘技には不可欠だと思うんですよ。それを感じさせてくれたのが長南選手だったりね。

――修斗は修斗の世界王座に一番の価値をおいている世界ですから、そこがちょっとDEEPとは違うと。

五味　そうですね。それがいいか悪いかってわけじゃないけど、ボクが修斗のチャンピオンだったときは「UFCに出たい」とか「世界一の選手とやりたい」という気持ちを常に持ち続けることでモチベーションを保とうとしてたんですけど、なかなか実現に至らなくて……。

――まぁ、修斗王座の防衛だけで先が見えないと、モチベーション保つのが難しいでしょうね。

五味　たとえば、このあいだの菊地（昭）選手。あれはもうあきらかにモチベーションを見失なってる試合ですよね（青木真也に敗れ修斗ミドル級王座から転落）。チャンピオンになったら、もうそこがゴールというか。そういった部分ではちょっと気の毒になってきますよね。まぁ、でもそれを言ったらもう修斗の話はキリがないから、このへんにしときますけど。

――修斗といえば、川尻選手がヨアキム・ハンセンのローブローで苦しんでるあいだ、リングサイドで笑ってる五味さんの顔が何度もビジョンに抜かれてましたよね（笑）。

五味　あれねぇ！　なんかイメージ悪いよね（笑）。

――リング上で川尻選手が悶絶してるのに、ビジョンには五味選手の笑顔が大写しという（笑）。あれカメラに撮られてるの気づいてました？

五味　途中で気づいて「そんなとこ撮んなよ！」と思って。この状況をどうやって俺に見ろっていうんだっていうか。神妙な顔してリングを見つめるわけにもいかないし、もう笑うしかないでしょう、あそこは（笑）。

――金的ってメチャクチャ痛いのに、端から見ると笑ってしまうという、やられた人にとってはホントにつらいシチュエーションですからね（笑）。

五味　ボクもこのあいだ、空手の練習中にローブローもらって、ホント立てなかったんですよ。自分の力じゃどうにもならないですからね。ただ、川尻選手は試合前「殺し合いだと思ってやる」って言ってたんで、だったらローブローはもらっちゃいけないんですよね。

――ローブローをもらわないのも技術だって言う人もいますもんね。

五味　だから、やっぱり簡単に「殺し合いだ」とか言わないほうがいいですよね。

それにしても、あの興行は長かったですよね。
――長かったですよねぇ。
五味　午後4時から10時すぎまでやって、最後がアレだからね。
――五味選手は最前列の〝チャンピオンシート〟（修斗の歴代王者が招待されていた席）だったから、途中で帰るわけにもいきませんもんね。
五味　まぁ、でも修斗のお客さんもボクが「PRIDEライト級チャンピオン」って紹介されたら、凄く喜んでくれたんで、よかったですね。
――修斗から巣立った選手が世界のトップに立ったわけですから、修斗のファンにとっても誇らしいでしょうからね。
五味　そういった意味では恩返しできたかなって思うんですけどね。やっぱりチャンピオンというだけで周りの見方も違うだろうし。このあいだの『PRIDE・31』のときも、最初は「試合もやんないのに（リング上で挨拶するの）イヤだな～」って思ってたんですけど、いざ挨拶で入場してみたらもの凄く喜んでくれて。
――ホント、これまでと歓声の質と大きさが全然違いましたよね。
五味　だから見方を変えればようやく認知されてきたというか、スタートラインに立ったと捉えてもいいでしょうね。
――そうですよね。『PRIDE』のチャンピオンを獲るっていう目標は達成しましたけど、これからさらに五味隆典という名前を広めていくことだったり、『PRIDE武士道』という舞台自体をもっと大きくしたり、五味選手がやるべきことはまだまだありますもんね。
五味　だからそういったことをモチベーションにして、なんでもいい方向に捉えてますけど。
――当面は『武士道』のゴールデンタイム放送が目標になってくると思いますけど、「これだけのことを俺はやってきたのに、まだなのか」っていういら立ちは正直言ってあります？
五味　う～ん。どうなんだろう。自分のやるべきことはやってますからね。まぁ、あとはそのときが来るのを楽しみにしてる感じですけど。でも、もしゴールデンが決まったとしたら、たとえば試合が15分あって、入場含めると20分ぐらいあるわけですよね。それに過去のVTR入れたらボクだけでゴールデン1時間ぐらい独占できるのかなとか思って。そりゃ凄いなとか思ったりしますけど（笑）。
――下手したら、「〝五味隆典の〟PRIDE武士道」っていう番組タイトルになるかもしれませんよ（笑）。
五味　4月の試合でそれやりたかったなぁ。焦らずやっていきますけど、あんまり待たされると、いいとき終わっちゃうかもしれないからね（笑）。ホントそこを気をつけないといけないですよ！　もうさんざん闘い続けて、もう力出ないよ……っていうときにゴールデンで放送になったりしないように。
――スポーツ選手にとって全盛期というか、いい時期ってどうしても限られた時間ですからね。
五味　そうそう。それは体力的に衰えることだけじゃなくて、メンタルの部分で同じように闘ってると、そういうことに飽きてしまったり、興味がなくなると急に力が出なくなったりするんだよね。自分が修斗を離れる前もそうでしたし。そうならないように気をつけないと。
――焦ってはいなくても、いまの俺を早く多くの人に観てほしいというのは当然ありますよね。
五味　だからね、俺思うんですけど、一昨年、去年とやってきた試合でゴールデンも充分いけたんじゃないかなって（笑）。
――いや、内容的には文句なくいけましたよ（笑）。
五味　だから難しいですよね。9月の有明なんか一日で、川尻選手とアゼレードとやったりしても、それを観てる人ってやっぱり限られてますからね。しかも、そういう試合をやっても格闘技界の流れは速いんで、過去の人にならないようにしないと。
――やっぱり、そういう状況で、ゴールデンでやってるほかの格闘技イベントの番組観たりすると、「悔しい」って気持ちになりますか？
五味　まぁ、やることやってる人間と、世間の若い子が口に出す名前が違いますからね。そういった状況が頭にくるというか、燃える部分ではありますよね。

五味



やることやってる人間と世間の若い子が口に出す名前が違うのは頭にくるというか燃えますよね

俺と帯谷が二人ともチャンピオンになって 不気味なオーラ出しながらのし歩きたい！

——その怒りがモチベーションになるというか。

五味　だって俺に対して「わたし○○○君と一緒に飲んだことあるの～」とか自慢げに言ってくる女の子とかいますからね（笑）。

——ダハハハ！『ＰＲＩＤＥ』の世界チャンピオンに向かって何を言ってるんだ、と（笑）。その女の子にとっては、目の前にいる五味隆典がどんだけ凄い人かわからず、テレビに出てた選手に会ったことあるのを自慢しちゃったんでしょうね。

五味　それが世間というか、テレビなんでしょうけど、そんなことよりやっぱりやることやって、俺はＰＲＩＤＥチャンピオンとして街をのし歩きたいですね（笑）。

——ガハハハハ！

五味　それはホントに思ってる。もう帯谷もＤＥＥＰのチャンピオンにさせて、もう二人で不気味なオーラ漂わせてのし歩きたい！（笑）。

——チャラチャラした人を近寄せないくらいに（笑）。

五味　だからそこは世間の人に合わす部分と、やっぱり尊いものにするっていう部分で逆行してしまうんですよね。それをどうアピールできるかっていうのはありますよね。

——闘いを突き詰めてマニアックになりすぎてもいけませんからね。

五味　そういう意味では、かつての（佐藤）ルミナさんって凄かったと思うんですよ。あの当時、なんでルミナさんみたいに若いお兄ちゃんがこんなことやるんだろう？　っていう目もあったと思うんですよね。もっと普通に遊んで、スノーボードやって、クラブ行って、周りはそうやって楽しんでるのにって。でも、そこであえてキツいことやってる若い人がいるってことで修斗は人気が出たと思うんですよ。ボクもそれを観に行ってた人間ですからね。それまで修斗は一部の特殊な人しかやってないふうに見えたじゃないですか？

——俗世間から隔離されてるかのような、超硬派な人たちが多かったですよね（笑）。

五味　桜田（直樹）さんなり、田中（健一）さんといった、〝いかにも格闘家〟という人たちが多かったと思うんですけど、ルミナさんの頃から変わりましたよね。なんで若い人がこんなことをやってるんだろう、でもあえてスノーボードとかじゃなくて格闘技やってるんだな、ほかの奴らには真似できねぇなっていうふうに見えたんですよ。だからルミナさんたちのそういった部分にボクは惹かれたし、いまも学びたいところですよね。

——でも、僕らからすると、五味選手はかつてのルミナ選手的魅力を一つ越えた部分というか……いまの中量級の選手たちって〝等身大〟とか、〝若い人たちと同じ目線〟だって最近よくいわれてますけど、若い人たちと同じ目線じゃなくて、若い人が見上げる星。それこそ〝ＰＲＩＤＥの星〟になってほしいんですよ。たとえば金メダル取った荒川静香選手とか、歳は若い人と同世代でも〝等身大〟とか〝同じ目線〟だとは思わないじゃないですか。



五味と毎日のように練習する木口道場の後輩、帯谷がDEEP後楽園で雷暗暴とDEEPライト級王座決定戦に挑むことが決定。五味のいうように、PRIDEとDEEPのチャンピオとして街をのし歩くことはできるか？

五味　そうですね。やっぱりオリンピックの力は凄いですけど、ボクも日本人初のＰＲＩＤＥ王者ですからね。もっともっと格闘技のステータスを上げないといけないと思いますよね。

——五味さんもＰＲＩＤＥ王者になったときに言ってましたけど、ＰＲＩＤＥでチャンピオンになることって、オリンピックでメダルを取ることにも負けない、それこそ荒川選手にも負けない偉業だと思いますからね。

五味　でも俺、荒川さんは好きだな～。みんな好きでしょうけど、俺は最初から荒川さんは絶対メダル取ると思ってたから！

——五味選手は荒川選手の凄さを見抜いてましたか（笑）。

五味　俺、ああいう完璧主義者大好きなんですよね。だってあの人もべつにテレビの恩恵を受けてこなかったわけじゃないですか。事前の報道とかもそんなにされずに。

——そうですよね。トリノオリンピック開幕前まではミキティ（安藤美姫）ばっかりでしたからね。

五味　そうそう。その事前の過熱報道に乗っちゃったのが、たぶんミキティと（上村）愛子ちゃんなんだよね。あの二人は知名度とか露出の面では、大会前からメダル取ったのと同じぐらいのステータスになっちゃってたじゃないですか。でも、荒川さんは違うんだよね。大会前の取材攻勢は受けずに自分の身体を休ませて、虎視眈々と狙ってたわけですから。

——それで本番で実力を爆発させると。

五味　それで金メダル獲って、全部持っていったでしょ？

——もう、終わってみれば『荒川静香のトリノ五輪』にしちゃいましたよね。

五味　実力で全部ひっくり返したんだから、そこがカッコいいよね。逆にミキティの帰るときの報道陣の少なさがまた凄くてさ、いや～、あのコントラストが凄かったなぁ。

——ちょっとすいません。五味選手、トリノ五輪メチャクチャ詳しいですね（笑）。

五味　もう俺、ワイドショー見まくってるから！　オリンピック期間中はほとんど主婦みたいだったからね（笑）。

——でも、五味選手も同じように世界を相手に闘ってるアスリートとして、そういった実力で世間の目を自分に向けさせた荒川選手の快挙を自分と重ね合わせたりする部分もあったんじゃないですか？

五味　俺もＰＲＩＤＥチャンピオンになったとき、あんなふうになりたいっていうのはありましたよね。もうワイドショーで五味隆典はこういう人物だって、繰り返し流されるようなね（笑）。

——だからやっぱり五味選手には〝格闘技界の荒川静香〟になってほしいですよ。荒川選手の演技ってフィギュアスケートを全然知らない人が観ても、やっぱり凄

五味隆典


4·2『PRIDE武士道』で輝く!
PRIDEの星

これだけの二年間はなかなか作れないでしょう だからこそゴールデンでオンエアしてほしい

いし美しいと思うわけじゃないですか。五味選手の試合も同じだと思うんですよね。川尻戦とかアゼレード戦とか、誰が見ても「凄ぇ！」って感じる試合だと思いますから。

五味　だからあとは、どう多くの人に観てもらうかですよね。そこが自分の力だけじゃ難しいところなんですけど。

―ファイターは試合で観せ続けるしかないですもんね。あとはそれに周りがいつ気づくかっていう。でも、五味選手自身も自分が作り上げてきた〝作品〟というものに関しては、絶対の自信を持ってるんじゃないですか？

五味　そうですね。これだけの二年間っていうのはなかなか作れないと思いますよ。他の選手に聞いてみたら一番早いんじゃないですかね。「二年間でこれだけの試合をやったヤツがいるんだけどちょっと見てみる？」って。それでビデオ見せられたら、もうその人、たぶん格闘技やめちゃうよね。そう思うな。

―ほかの選手が自信喪失するぐらいの試合を見せ続けてきた自負がある、と。

五味　だから、あとは周りのスタッフのみなさんや、マスコミ、ファンのかたがたの力をお借りして、なんとかゴールデンでのオンエアを実現してもらいたいですけどね。

―ぜひそれは近いうちに実現してもらいたいですよね。微力ながらウチでもガンガン煽っていきたいと思いますんで。では、そろそろ時間もなくなってきたんで次のマーカス・アウレリオ戦（4・2『PRIDE武士道−其の拾−』）についてもうかがいたいのですが。これまでの相手と違って、試合展開は地味ながら実力はたしかな難敵ですよね。

五味　まぁ、ここで負けるわけにはもちろんいかないし、きっちりとKOしかないですね。うまいこと言う先輩がいて、もしここで負けたら「じゃあマーカスがライト級GPにもし出てたらチャンピオンだったんじゃないか？」っていうふうに見ちゃう人もいるから、常に落とすわけにはいかないって言うんですよ。



1978年9月22日、神奈川県出身。第5代修斗ウェルター級チャンピオン。PRIDE GP 2005ライト級トーナメント優勝、初代PRIDEライト級チャンピオン。PRIDE戦績10戦無敗（8KO）。173cm、72.9kg。

―チャンピオンはある意味、全試合が防衛戦であり、トーナメント決勝戦が毎回続くようなものですからね。

五味　そうですね。だからこうやってどんどん追いつめられていきますけど、ギリギリまで頑張っていく、と。実際これが終わると少し休めますし。

―でも、6月にも『武士道』開催が予定されてますから、そこでも試合オファーがあるんじゃないですか？

五味　いやいや、次がいつかはまだわからないです。一試合一試合より大事になってくるんで、しっかり準備して出ようと思ってますから。

―じゃあ、もし今年もライト級GPが開催されても、いまの段階では出場に関しては何も言えないと？

五味　GPに関しては、ボクは初代チャンピオンというだけで充分です。たとえば、なんかの拍子で負けても、またGPのベルトを獲りにいこうとは思わないでしょうね。自分は必ず片道切符で行きますから。

―では、GPへの出場という以外での、今年の最大のモチベーションや目標ってなんですか？


五味　ん～、なんだろ？　まぁ、とりあえずゴールデンということでいいんじゃないですか。あとはこの『PRIDE武士道』という舞台や、中量級というものをどこまで高められるかっていうのもありますし。もうどんどん周りを巻き込んで、やることやってるってところを見せていきたいですね。そのためにも、まずは4月2日の今年一発目をしっかり勝たないといけないんで。頑張りますよ。

―わかりました。今年も五味選手と『PRIDE武士道』のさらなる爆発を期待してます！

［06年3月7日／DSEにて収録］


3月7日、都内DSE事務所にて、PRIDEライト級王者・五味隆典の今年一発目の試合が4・2『武士道-其の拾-』有明コロシアム大会でのマーカス・アウレリオ戦になったことが発表された。アウレリオは、K-1や『HERO'S』で活躍しているレミギウスらを撃破し、04年のZST GP王者に輝いている柔術黒帯の寝技師。このカードに五味は「挑戦を受けてくれただけでありがたい」と感謝を表すと、「メインだからKOでインパクトを残して、お客さんを気持ちよく帰らせたい」と、エースとしての自覚を見せた。会見に同席した高田本部長も「どっかに負けているのはそこだけ！」と『武士道』のゴールデンタイム進出へ向けバックアップするかまえを見せた。2006年、ついに動き出したライト級王者・五味は『武士道』をどこまで導いていくのか!?



PRIDE.31で輝いた

二つの覚悟


ALLIANCE

高阪剛

KOSAKA"DADY"TSUYOSHI

"世界のTK"が最後の大勝負
すべてを賭けて無差別級GPに挑む！

自分は生涯格闘家。
だからこそ、
自分自身にケジメを
つけなきゃならない



世界のTK、PRIDE無差別級GPで引退——
悲壮な覚悟を胸に挑んだ2·26『PRIDE.31』で、マリオ・スペーヒーを見事KOで下したTK。しかし試合後、マイクを握ったTKが涙ながらに絞り出した言葉は、PRIDE無差別級GP出場とそこでの引退宣言だった。はたして、何がTKに引退を決意させたのか？"賢者"の真意を読め！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫
designed by hisa（TwoThree）

高阪剛

KOSAKA "DADY" TSUYOSHI

高阪　ちょっとアグラかくのつらいんで、イス出していいですか？

――どうしたんですか？

高阪　試合（マリオ・スペーヒー戦）前の練習で、アバラやっちゃったみたいなんですよね。

――え!?　大丈夫なんですか？

高阪　いや、わからない。

――わからない（笑）。

高阪　病院行ってないんで。試合中も気にせずやってたし……たぶん気合いが入ってたから大丈夫だったんでしょうね。終わった途端に痛くなったんですけど（笑）。

――ダハハハ！　早く病院行ってくださいよ！

高阪　いや、行かない。行っても「これ、どうかなってますよ、安静にしてください」って言われるだけですから。本当に折れてたらイヤやしね。

――折れてるかもしれないけど、折れてないことにしようと（笑）。

高阪　だって「折れてます」って言われたら、気分的にへこむじゃないですか。だから病院はできるだけ行かない。

――いやぁ、"格闘技界の賢者"とは思えない発言ですね（笑）。

高阪　"賢者"って、誰が言い出したんですか。そんなこと（笑）。

――知りませんけど、もうテレビ的にはすっかり"賢者"ですよ。ただ、マリオ戦は賢者らしからぬ、本能むき出しの野性的な闘いでしたけど（笑）。

高阪　ま、そうでしたね。最初からなんも考えないで、倒すことだけに集中して、気持ちの赴くままに身を任せようと思ってたんで。

――それで必然的に打撃勝負にいったわけですか？

高阪　いや、打撃勝負でいこうとかも考えてなくて、ただ攻撃し続けようと思ってたら、たまたまああいう形になりましたね。今回、自分は技術的なことは正直どうでもよくて、気持ちの部分を一番大事にしたかったんですよ。

――それは、高阪さんの中にそうしないと済まないようなことがあったんですか？



これがマリオ・スペーヒー戦直前、殺気を漂わせたＴＫの表情。尋常じゃないほど気合いが入りまくり、完全に目が据わっている。怖い！

高阪　やっぱり、去年の10月の試合（マイク・カイル戦）とかヒョードルに負けた試合とかがもの凄い自分の中でしこりになってたんでね。負けたことよりも、自分の試合のやり方に腹が立って仕方なかったんです。要は、自分らしい試合をまったくしてなかったということなんです。

――どこかで守りに入ってたわけですか。

高阪　そうですね。なんか格闘技を始めた頃の気持ちっていうのがぼやけてきてたんですよ。長いことやってると、そういう思いを繰り返すのは当然かもしれないんですけど、ヒョードル戦はとくに、自分があまりにも不甲斐なかったっていうのがあって。だから、もう一回格闘技を始めた頃の気持ちをなんとかして取り戻そうと思って、自分自身にとことん厳しくすることだけを考えて練習したんです。

――そのための周りのバックアップも当然あったわけですか？

高阪　ありましたね。だからこれは自分の周りの人間にホント感謝してますよ。それから（吉田）秀彦が（テレビ解説で）言っちゃったから話しますけど、かみさんが出産の準備で1月の中旬ぐらいから実家に帰ってて、自分は久しぶりの一人暮らしだったんですよ。そこからは、もう単純に「朝起きて、トレーニングして、家に帰って、メシ食って寝る」っていうだけの生活がキッチリできたんですよね。ジムもほかのスタッフに任せることができて、自分のことだけに集中することで、だんだん輪郭が見えてきたんですよ。「そうや、この感じや」っていうのが。

――でも、お子さんが産まれる前ですから、心配で気持ちが練習に集中できないということはなかったんですか？

高阪　そのへんは自分、もの凄く恵まれてて、かみさんがまったく心配させないようにしてくれたんですよね。初産ですから、ちょっと弱い人間だったら泣きついてきたりする状況やったのかもしれませんけど、下手したら自分より強い人間ですからね（笑）。

――世界のＴＫより強い奥さん（笑）。

高阪　おかげで集中できたし、大事なものを取り戻すこともできたんですよね。本当に家族と仲間がいなかったらあのリングで勝ってなかっただろうし、あそこまで自分を高めることはできなかったでしょうね。

――試合前、奥さんと電話か何かでお話されたりしたんですか？

高阪　う～ん、べつに。いつも通りでした。「心配しないで、しばき倒してきなさい」って（笑）。

――強いですねぇ（笑）。そのおかげで、もの凄い集中力のためか、あの日、高阪さんの入場してくるときの顔なんか、もうヤバいくらいの妖気がただよってましたよね（笑）。





［PRIDE.31］

○高阪剛vsマリオ・スペーヒー×

（1R 1分20秒 KO）

試合開始早々、マリオのフックでＴＫはいきなりダウン寸前になるも、ひたすらスタンドの打撃で攻め続け、最後はTKのフックがマリオのコメカミにヒットし、劇的な逆転KO勝ちを収めた。



あのTKが試合に勝って喜びの涙を流したあと、マイクを握ると、無差別級GP出場アピールとともに、その大会での引退を表明！　マリオ戦は重い覚悟を背負っての闘いだったのだ。

髙阪　ハハハハ、そうですか？

――試合前のインタビューで「もしかしたらリング上で人を殺してしまうかもしれない」って言ってましたけども、それこそ人を殺しそうな、夜道で見かけたら通報間違いなしの顔でしたよ（笑）。

髙阪　とてももうすぐ子どもが産まれる親の顔じゃないですよね（笑）。でも、あれはべつに（顔を）作ってやってるわけでもないし、自然と自分の気持ちがああなっていくんですよ。でも、その気持ちを作るのが大事だと思うんですよね。格闘技って内面から溢れてくるものをぶつけ合うものだと思いますから。

――それと今回とくに驚いたのは、KO勝ちして、髙阪さんがリング上で涙を流されたことなんですよ。こんなことって初めてですよね？

髙阪　カッコ悪いなーって思ったんですけどね（照）。だから「できるだけ見んといてくれ、恥ずかしい」って。でも、涙が出てきた瞬間って自分でもよく覚えてないんですよ。もうリングに上がったときから、恥も外聞もなく、心が素っ裸の状態だったんですよ。やっぱり自分自身、もの凄い覚悟を持って挑んだ試合だったし、あんまり軽はずみにこんなこと言っちゃいけないんですけど、本当に「死んでしまってもいい」と、そこまでの気持ちで挑んだ試合でしたから。

――なぜそこまで追い込んでたんですか？

髙阪　さっきの話になりますけど、やっぱり自分の中で格闘技を始めたときの気持ちってのがそうだったんですよ。逆に言ってしまえば、弱かった自分への裏返しなんですけど。この世界に入るってことは、いつ死んでもおかしくないんだって。その覚悟でこの世界に飛び込んだ、自分に対するケジメをつけようとしたんですよね。

本当に「死んでもいい」ぐらいの気持ちで挑んだ試合だったんです

――その先にあったのが、試合後の無差別級ＧＰ参戦アピールと引退宣言だったわけですか。

髙阪　それも去年の11月ぐらいに自分の中で決めたんですよ。もう一回、自分自身にケリをつけるために、すべてをＧＰに賭けてみようって。

――でも、無差別級ＧＰ優勝を目指すだけでなく、引退までしようと思ったのはどういった理由からなんですか？

髙阪　……それを話すのは引退してからでいいですか。まだ自分には向き合いたいものがあるから。でも、ちょっと言うと「大事なものを大事にしたかった」っていうことですかね。それだけの理由なんですけど。自分にとって大事なものを一番大事な状態でとっておきたかったっていうのが大まかな理由なんですよ。細かい理由はまだあるんですけど、そのへんのことは全部終わってから話します。

――わかりました。ちなみに、引退っていままでも何回か考えたことがあったんですか？

髙阪　いや、ないです（キッパリ）。今回が初めてですね。自分は格闘技始めた頃から決めてたんですよ。「一瞬でも格闘技に対して気持ちの翳りとか、後ろめたいことがあったら、もうその時点で辞めよう」って。それが10月の試合（マイク・カイル戦）、まあ4月のヒョードル戦も含めてそうだったんですけど。10月の試合が終わって自分と向き合って決めたのが決定的でしたね。「どうなってしまったんだ、俺は？」って自問自答して。試合の中で攻撃する気持ちを一瞬でも忘れた瞬間があったんじゃないかと。たとえば「ここでブレイクがかかったらいいな」とか思ってたんじゃないかって。そしたら、確かにそういう気持ちがあったんですよね。それに気づいた瞬間にもう決めた、と。

――でも、それって選手としては普通に思うことなんじゃないんですか？

髙阪　でも自分はそれが許せなかったんですよ。ちょっとでもそんな気持ちになったらやる資格ないって決めてたんで。

――ちなみに、引退することは周囲の方に相談したりはしたんですか？

髙阪　一応、かみさんには言いました。

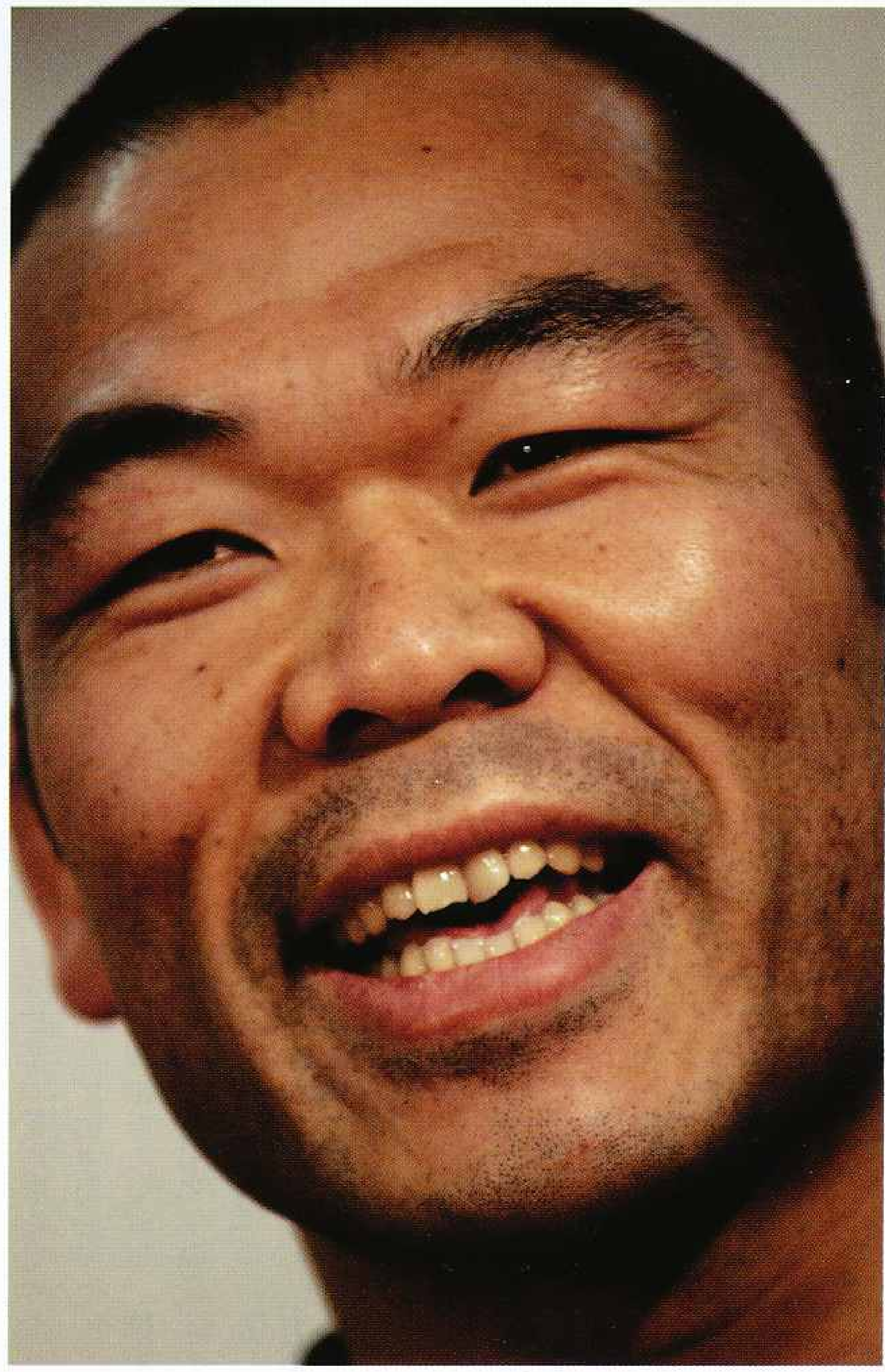
――普通に考えたら、これから子育てでお金もかかるし、現役を続けたほうが生活的には全然楽ですよね？

髙阪　でも、自分はお金を稼ぐために格闘技をやろうと思ったことは一回もないですから。「格闘技とは、自分との闘い」、それだけなんですよ。二次的なことでそれがファイトマネーになって、こういうジムを持つことができて、こうやって取材を受けてっていうことはあると思うんですけど、芯の部分っていうのはそうじゃないんですよね。もちろん、頑張ればそのぶんだけ何かが返ってくるというのもプロの選手をやっていくうちに教えられたことの一つですよ。だからこそ、その代わり死に物狂いで頑張らないと手に入らないということも教えられましたけど。

――でも、普通の選手が持つ、チャンピオンになって大きな家を建てて裕福な暮らしをしたいという欲は髙阪選手にはな

いんですか?
髙阪　自分にとって一番の欲は、そういったことじゃなくて、強くなることなんですよ。その強くなるために練習相手だとか、いい環境がほしいという欲はありますけど、裕福になりたいから強くなりたいというのとは自分は逆ですね。
——でも、その「強くなる」という欲はあっても、それを実現する肉体はいつか限界が来ますよね?
髙阪　いや、今回とくに思ったんですけど、結局ここですよね（心臓部分を拳で打って）。気持ちの部分で弱ってくると、身体もついてこなくなるんですよ。だからいつも試合のときはそうなんですけど、ギリギリまで追い込んで練習するんですよ。それによって、たとえばリングにたどり着く前に大けがをしたり、試合ができない身体になるようなことがあれば、はっきりいって自分には向いてないと思うべきだと。そう割り切ろうって思ってやってきましたから。今回も極限まで追い込もうと思って練習して、その上でもっともっとできるってのがわかりましたね。じつは今日、36歳になりましたけど。
——あ、そうなんですか?　おめでとうございます（笑）。
髙阪　もう歳だけ聞くとオッサンですけど、それは関係ないって思いますよ。
——そういう話を聞くと、なおさら引退はもったいないと思うんですけど、それとこれは別なわけですか?
髙阪　そうですね。
——じゃあ、競技者としては区切りはついても、格闘家としてはこれからも修行を続けるという感じなんですか?
髙阪　あっ！　いま、いいこと言いましたね。

産まれた娘が自分そっくりなんですけど これがかわいいんですよ～（満面の笑み）



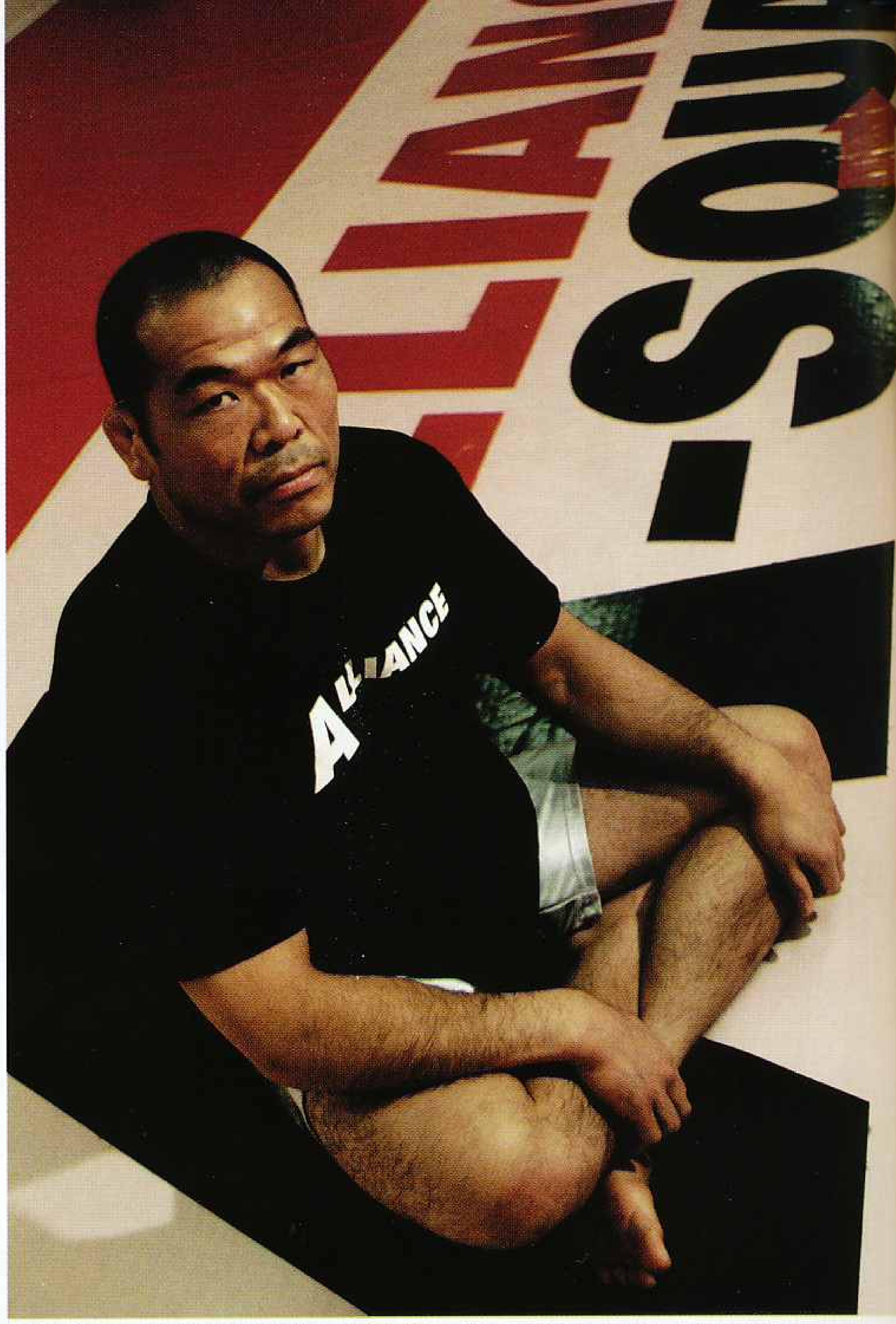
髙阪剛

KOSAKA "DADY" TSUYOSHI

——あ、ありがとうございます（笑）。べつに髙阪さんの言葉に変えといてもいいですけど（笑）。
髙阪　おっしゃる通り、自分は一生、格闘家でありたいんですよ。それは試合するってことじゃなくて、心の部分なんですよね。常に攻撃の気持ちを忘れないとか、自分に厳しくするとか。そういうのは、やっぱり格闘家じゃないと持てない部分だと思うし、そこをなくしてしまったら自分という人間が成立しなくなるんですよ。だから、まだまだ「こういう動きがあったんだ」とか言いながら研究していくだろうし、そこは変わらないと思う。というか、むしろその思いは強くなるかもしれないですね。ある意味、試合というのはそういうのを中断してやるもんなんで。試合前の練習で技を覚えたりするのは、まずあり得ないですから。
——試合前っていうのは、どれだけ反復練習して、身体に覚えさせてっていうのが勝負になりますもんね。
髙阪　そう、そこに集中してしまう。だから、試合前の練習で新しいものを発見するというのはあり得ないんですよ。
——要は、現役選手っていうのは入試前の受験生みたいな感じで、引退したあとっていうのは大学の研究室に入ったような感じになるってことですか?
髙阪　うまいこと言いますね！
——そうですか?　じゃあ、これも髙阪さんの言葉にしましょうか（笑）。
髙阪　これからは、"インタビュアーの賢者"と呼ぼう（笑）。
——ありがとうございます（笑）。
髙阪　ただ、いま現在は本当に先のことは考えてないです。5月からの無差別級GP出場も、まだ決定したわけじゃないし。だからいつ返事がきてもいいように、常に気合をためてないと。
——今度の無差別級GPっていうのは、髙阪さんがすべてを賭けるだけの価値がある大会だということもありますか?
髙阪　そう思いますよ。だって、間違いなくいまの『PRIDE』って世界で一番強い総合格闘家が集ってる場所だと思うし。その『PRIDE』の無差別級GPっていうのは、必然的に世界一の男を決めるトーナメントになると思うんですよ。自分はいままで格闘技を始めていろんな練習を繰り返してきて、結果的には、自分は世界と闘ってきたというのは胸を張って言えると思うんですよ。だからこそ、最後に闘う場所っていうのも、世界と闘う場所だっていう思いが強かったんですよね。
——化け物みたいなやつを倒すためにここまでやってきたわけですからね。
髙阪　そうですね。それを考えてアメリカに修行のために住んだりもしましたけど。でも、行った途端に英語がしゃべれないことに気づきましたけど（笑）。着いてから「電話ってどうしたらいいだろう」とか「車は?　国際免許ないよね?」とか。行ってから苦労したことはいっぱいありますけどね。住むとこだけは確保してたんですけど。
——とても賢者とは思えない（笑）。
髙阪　だから、ある意味それだけ格闘技のことだけを考えてたし、それだけ夢中になれるものに出会えたのだから、この格闘技と向き合う気持ちというのは自分は凄く大事にしたいんですよね。
——人生を賭けるものに出会うって、な

かなか難しいでしょうからね。
髙阪 そうですね。自分のためっていうのがあるからできると思うんですけど。
――それが、これからは子どものためとかになるんじゃないですか?
髙阪 そう言えば、子どもが産まれる前、いろんな人から「(産まれたら)人生観変わるよ」って聞いてたんですけど、本心では「そんなことあるかい!」と思ってたんですよ。だけど不思議なことに……これが変わったんですよね!
――ダハハハ! 髙阪さんでも変わりましたか(笑)。
髙阪 もう、びっくりした。産まれた瞬間に変わったから。
――お子さんはいつ産まれたんですか?
髙阪 3月3日です。ひな祭りに女の子が産まれたんですよ。
――いやぁ、顔に似合わず、じつにメルヘンチックな巡り合わせですね(笑)。
髙阪 それでね、顔がそっくりなんです。
え!? それはまさか……お母さんにではなく……?
髙阪 俺に(笑)。
――おめでとうございます(笑)。
髙阪 めでたいことあるかい!(笑)。でもね、これがかわいいんですよ~~!(満面の笑みで)。
――ダハハハハ! 髙阪さんのこんな笑顔、初めて見ましたよ!(笑)。
髙阪 もうシャレにならないかわいいさ(笑)。で、顔が似てるのもあるのかわからないけど、産まれた子どもは完全に自分なんですよ。
――自分の分身とかそういうことですか?
髙阪 分身というか、もう自分自身。かみさんもまったく同じことを言うんですけど、赤ちゃんが産まれるっていうのは、自分自身って思う人間が二人いるっていうことなんですよ。だから、そういうことを考えたときに、俺を産んでくれた親父とおふくろっていうのはそれだけの気持ちをもって産んで育ててくれたんだなっていうのを一瞬にして考えたんですよね。
――その瞬間、初めて親の気持ちがわかった、と。
髙阪 全部最初に戻って、自分がまだおふくろの腹ん中にいるとき両親はどんな気持ちで生活してたのかとか、そういうことが一瞬にしてわかるようになったんですよ。赤ちゃんってのは、それだけのものを教えてくれるんです。とくにこの子どもは出産予定日が26日だったんですよ。
――マリオ戦の当日ですよね。
髙阪 その時点でもの凄い巡り合わせがあったし、産まれてくる命が試合に臨む自分に力を貸してくれたって、ホントに思いますよ。
――じゃあ、試合前後の一週間というのは、もの凄く凝縮された濃い時間だったんですね。
髙阪 確かにそうでしたね。でも、試合に挑むときってそれが当たり前だと思うんですよ。自分の場合、子どものことがありましたけど、試合に向けて絶対倒してやるとか攻め続ける気持ちとか、当たり前のことなんですよ。その当たり前のことがどれだけできるかっていう、凄くシンプルなことだと思うんですよね。昔から前田(日明)さんにも言われてたんですけど、とにかくシンプルにやれと。なんとなく漠然とわかってたつもりだったんですけど、今回「こういうことやったんか」って改めて知りましたね。
――"格闘技界の賢者"が今回ようやく理解しましたか(笑)。
髙阪 "賢者"はもうええって(笑)。でも気持ちの持っていき方も根っこの部分がしっかりしてないとダメなんですよ。その根っこを支えてくれるのは仲間だったり家族だったりするんですけど、そういうものに恵まれてるなって思いはありましたね。
――なるほど。では、次はもっと大きな目標に向かって、気持ちと身体を作っていくわけですか。
髙阪 そうですね。気合だけは絶対に負けない。そして、いままでやってきたことを全部出す、それだけですね。逆にそうしてあげないと、これまでさんざん酷使してきた自分の身体がかわいそう(笑)。身体が悲鳴あげてるのにいままで無視してやってきてるんでね。だから、無差別級GPはそういうことも含めて自分自身に対するケジメにしますよ。
――わかりました。では、次も期待してますので、頑張ってください!

【06年3月6日/A―スクエアにて収録】



1970年3月6日、滋賀県出身。柔道四段の実績を引っさげリングス入団。その後、日本人で初めてＵＦＣのレギュラーとなり、"世界のＴＫ"と呼ばれる。一昨年、パンクラス初代スーパーヘビー級王座を獲得。５月からの無差別級ＧＰにすべてを賭ける。181cm、100.6kg。

男は黙って 西島洋介

〝泪橋〟を渡り PRIDEにやってきた 非運の天才ボクサー



聞き手／布施鋼治　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

designed by hisa（TwoThree）

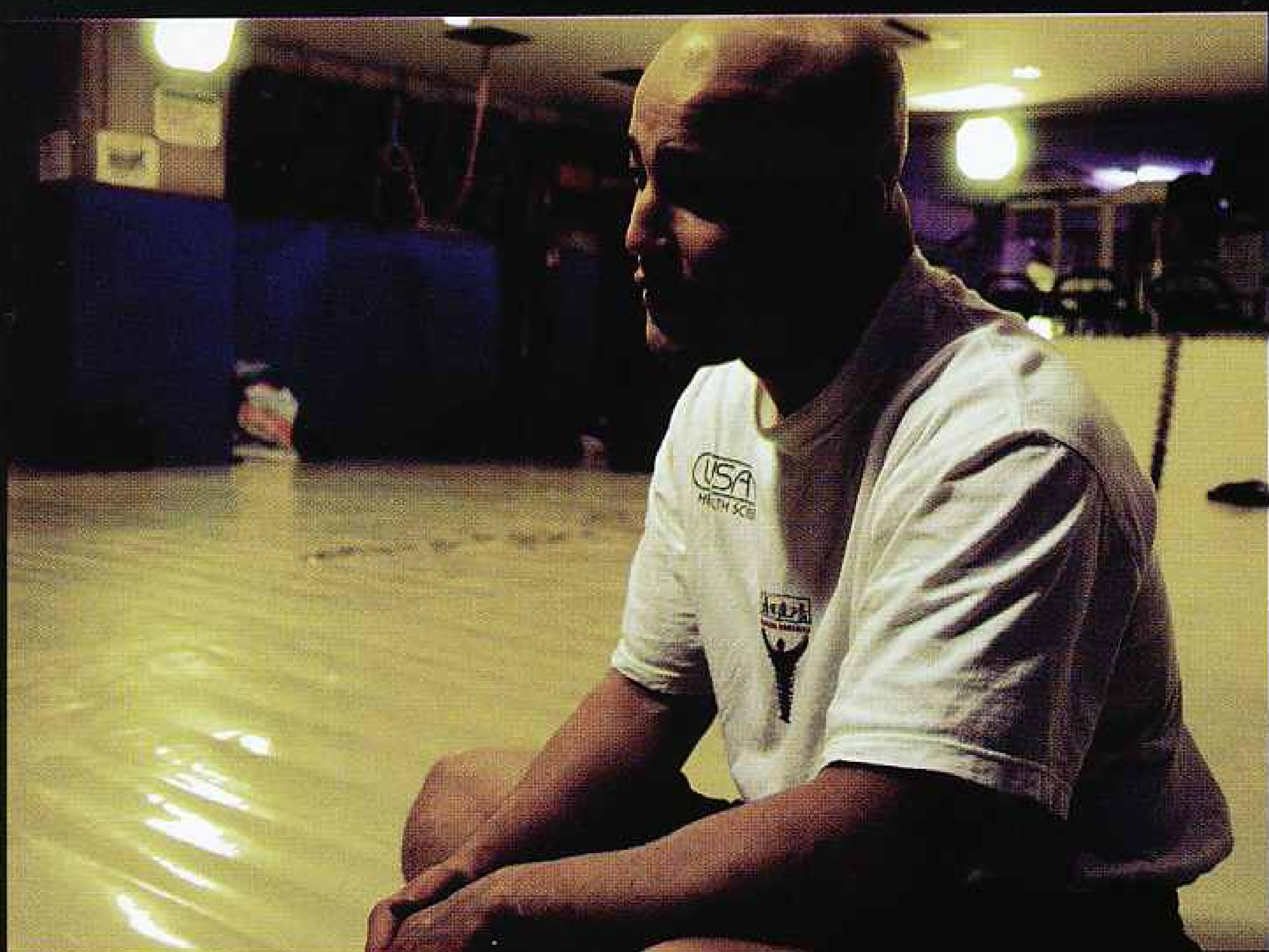
いったい誰があんな試合展開を予想しただろうか。西島洋介は途中までマーク・ハントとほぼ互角に渡り合い、寝技ではハントが有利なポジションを返す場面も作った。その後、窮地に追い込まれても、けっして勝負を諦めることはなかった。

勝負には負けた。しかし、ハントを相手に諦めない気持ちを見せたという点で、西島は立派にメインイベンターを務めたと言えるだろう。ハントも「西島は真のウォリアーだった」と絶賛したが、壮絶な打撃戦の代償は大きく、試合後病院に直行した西島はノーコメント。翌日の一夜開け会見でもFAXで短いコメントするのが精一杯だった。

決戦から12日後、西島は髙田道場にいた。聞けば、数日前から軽い練習を再開したばかりだという。インタビュー直前、西島のマネージャーに「話のほうはうまくなりました?」と水を向けると、彼女は「何も変わっていません。西島選手の場合、むしろこのほうがいいと思います。言葉と言葉のあいだにある行間をつかんでほしい」。よく総合のポイントは見えづらい〝際〟にあるといわれる。それと同様、西島のトークにも見えない〝間〟が大事ということなのだろうか。果たして西島は想像以上にゆっくりとしたリズムで話し始めた。

――子どもの頃から無口だったんですか?

西島　まあ。知らない人としゃべるのは得意じゃないです。でもべつにうまくなろうとは思わない。僕は僕ですから。



――いまはマイクアピールに長けた格闘家も、たくさんいます。

西島　そういう人を観てカッコいいと思うときもありますよ。自然に言葉が出たらいいんでしょうけど、僕は出ない。

――西島洋介を表現するのはリング上だけということ?

西島　(アッサリと) ハイ。

――試合中、対戦相手に感情を読まれたらいけない。その意味で喜怒哀楽が表に出ない西島選手の闘い方は正しい。

西島　試合中は何も考えていない。普段の練習で覚えたことをなるべく出すようにしているだけです。

――無心で闘っているわけですね。いつ頃からそういうふうに闘えるようになった?

西島　いつ頃からかなぁ。やっぱり渡米してからですかねぇ。

よくボクシングがダメになって格闘技に行くボクサーがいますけど、ボクはそうじゃない

――アメリカに渡ってからの一番の変化は?

西島　総合的にボクサーとしての技術が上がったことですかね。

――同じヘビー級でもOPBFと世界だったら、実力は段違い?

西島　やっぱりアメリカのボクサーは違いますね。パワー、打たれ強さ、それと勘がいいんですよ。スピードの差はそんなに感じないんですけどね。

――ボクサーとして最後に試合をしたのは?

西島　04年の4月、カリフォルニアのタイトルに挑戦しました。

――一度はそれでピリオドを打とうとした?

西島　(語気を強めて) いや、それでべつに終わったわけじゃない。よくボクシングがダメになって他の格闘技に行く選手とかいるけど、僕はそうじゃない。現役ボクサーとして『PRIDE』に挑戦しよう。そう思って、いまここにいるわけですから。

――西島選手にとってボクシングと『PRIDE』は同一線上に並んでいるもの?

西島　そうですね。いまは『PRIDE』に興味がある。だから『PRIDE』の王座を獲りたい。

――でも第三者から見たら、ボクシングであれだけの実績を残していたら、総合格闘技よりも同じ打撃系であるK―1に転向した方がスムーズに闘えるんじゃないかという気もします。なぜ、『PRIDE』を選んだ?

西島　強さとは何かを考えたとき、K―1だと打撃だけなので、レスリングや柔道をやっている人は不利になる。対象的に『PRIDE』には打撃もあれば、寝技もある。だったら、どっちが勝ってもおかしくないじゃないですか。フェアですよね。どっちが強いかもわかりやすい。そういう理由で『PRIDE』を選びました。

――迷いました?

西島　迷ってはいない。アメリカでボクシングをやっている頃から、ちょくちょくビデオを取り寄せて観ていましたから。

――ボクシングと比べると、総合はやるべきことがたくさんある。

西島　寝技をやって、蹴りもやらなければならない。正直、凄く大変ですね。

――その部分で頭が混乱することは?

西島　あります。難しいですね。どういうふうにトレーニングをやろうかという部分で考えてしまいますよ。

――よく総合では「攻撃と攻撃のあいだの際が大事」という話をよく聞きます。西島選手にとってもそう?

西島　その通りですね。このあいだのマーク・ハント戦でそれがよくわかりました。組まれたときにどうやって逃げるか。タックルで来られたときにどうやって突き放すか。あとローやヒザ蹴りの対策。本当にやらなければいけないことがたくさんある。

――ハント戦はガッカリした気持ちと満足した気持ちのどちらが大きかった?

西島　ガッカリも満足もしていない。やっぱりハントは強いなと思っただけですよ。内容的には完敗でしたからね。

――みんなが一番驚いたのは、西島選手が最後まで諦めない姿勢を貫いたことです。

西島　あんまり試合中のことは覚えていないんですよ。

――記憶が飛んでいた?

西島　そうですね。

――ボクサー時代と比べて記憶の飛び方

西島

は違っていた？

西島　ボクシングをやっているときも記憶が飛んだことはあったけど、今回は試合内容もあまり覚えていないんですよ。

——覚えているのは？

西島　試合前、リング中央でレフェリーがルールの最終確認をするじゃないですか。あのときのことはよく覚えています。そのあとはあんまり覚えていないですね。

——通常のボクシンググローブとオープンフィンガーグローブ（ＯＦＧ）は着けたときの感触が全然違いましたか？

西島　いや、あんまりグローブの種類とか気にしない。

——ＯＦＧは指が自由に使える上に、アンコの部分が極端に薄いじゃないですか。

西島　そうですね。ＯＦＧは使いやすい。

——ＯＦＧによるハント選手のパンチは？

西島　言葉で表現するのは難しいけど、やっぱり強いですよ。

——痛いという感じではない？

西島　痛みは全然感じない。（この世界でパンチをもらって）痛いという人はほとんどいない。ダウンするときには脳震盪を起こして倒れるわけですからね。

——確かに意識があったら倒れてはいないですよね。

西島　ときには足にまで（ダメージが）効いていることもあるじゃないですか。

——観ていて一つ不安だったのは、いままで西島選手は3分刻みの世界で生きてきたじゃないですか。でも『ＰＲＩＤＥ』の試合時間は1Ｒ10分で、2～3Ｒが5分と全然違う。

西島　そうなんですよ。とくに1Ｒの10分は長いですね。実際闘っていて、凄く長く感じました。メリハリをつけて休む時には休む。そういう戦法をとろうとしたけど、（想像以上に）向こうのプレッシャーが強かったので、あまりうまくはいかなかったですね。

——だからこそ打ち合った？

西島　そうですね、ハイ。

——昔から打ち合いは好きなほうだった？

西島　どちらかといえば、そうですね。

——昔から打たれ強かった？

西島　ボクシングには避けるスポーツという側面もある。僕はどちらかというとガードしないで避けるほうなので、基本的に打たれない。だから打たれ強いかどうかはわからない。

——だったらあれだけパンチをもらったのはハント戦が初めて？

西島　そうですね。どれくらいもらったかは覚えていないですけど。

——ビデオは見返していない？

西島　次の試合が決まったら観るでしょうけど、いまは見たくない。

——途中で寝技の展開になったらどうしよう。そういう不安はあった？

西島　寝技は高田道場で練習していたので、実際ある程度逃げることはできた。だから不安はなかったですね。

——キックの技術は？　特にボクサーにとってローの防御は必須だと思います。

西島　それも一応練習していました。

——現在の寝技のレベルを学年にたとえたら？

西島　幼稚園でしょう（笑）。まだ練習を始めてから1年も経っていないですから。

——組み技と打撃のセンスは違う。そういう話を聞いたことがあります。西島選手にとっても組み技と打撃は全然違うものですか？

西島　違いますね。でも寝技もやれば。もともとボクシングも僕はセンスがあるほうではない。続けていたから、上達したんですよ。

——地道な努力を積み重ねて物事を完成させるタイプなわけですね。

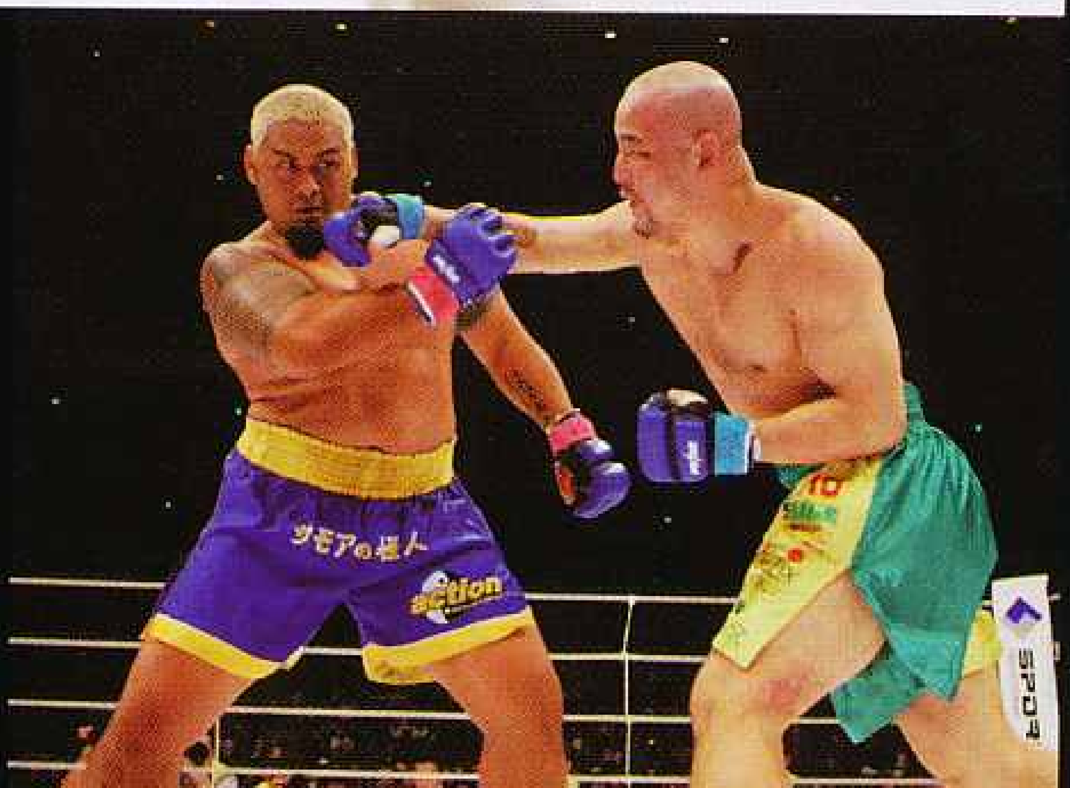
西島　寝技も努力さえすれば、上達はしますよ。その感触はありますから。実際相手の寝技から逃げられるようになったらおもしろい。

——ボクシングと違って、総合では重心をうしろに置くケースが多い。立っているときの重心のかけ方は変わりました？

西島　ボクシングをやっていたときも僕はボクサータイプではなく、低く構えるタイプだったんですよ。だからあまり変わっていない。

——総合系のトレーニングをすることで





［PRIDE.31］

○マーク・ハントvs 西島洋介×

（3R 1分18秒 レフェリーストップ）

PRIDEデビュー戦でしかも相手はいきなりマーク・ハント。戦前は無謀としか思えなかったこの一戦だが、打たれても打たれても向かっていく西島の頑張りと、ドツキ合いに応じたハントの男気で、感動の名勝負となった。

筋肉の付き具合は変わってきました？
西島　自分ではわからないですね。
―でも筋肉痛になる箇所は違っているでしょう？
西島　そうですね。筋肉痛になるところはたしかに違いますね。いまだってあちこちが痛い（笑）。
―ハント戦を通して、「この世界でやっていける」というメドは立ちました？
西島　やっていくしかない。『PRIDE』チャンピオンになるまでは辞められない。まずはミドル級。ヘビー級もチャンスがあれば、狙いたい。
―一昔前、西島選手は日本初の本格的な重量級ボクサーとして注目を集めていました。あの頃の西島選手はいま以上に寡黙だったので、何を考えているのかよくわからなかった。
西島　やっぱり自分は強くなりかった。有名になるなら、強くなって有名になりたかった。でも、あの頃はまだ未完成だったので、人気だけが先行するのが凄くイヤだった。
―だったら宇宙パンチとかユニークな名前をつけられた必殺技の数々も、本音は「なんだかなぁ」という感じだった？
西島　いや、べつになんとも思わなかったですね。最終的に強くなることが目標だったわけだけど、当時は話題だけが先行しているような感じでしたね。いつも「順序が逆なんじゃないかな？」と思っていましたよ。
―でも人気に溺れることはなかった。
西島　そうですね。強くなりたい一心だったので、練習もよくやっていました。
―ボクシングをやり始めたきっかけも、単純に強くなりたかったから？
西島　そうです。高校生のとき、たまたまヘビー級のボクシングを見たんですよ。マイク・タイソンvsマイケル・スピンクス（88年6月27日、タイソンが1RKO勝ち）。そのとき、ボクシングっておもしろいなって。これだったら、自分にもって思ったんですよ。
―その頃の身長と体重は？
西島　身長175センチ、体重は80キロ台。単なるデブでしたね。ボクシングを始める前は野球をやっていたんですけど、辞めたらポッチャリ型になってしまった。最初はプロ野球の選手になりたかったけど、団体競技はあまり向いていなかった。
―これからの青写真は？
西島　とりあえず僕は年内に『PRIDE』のベルトがほしい。そしてタイトルマッチをやって防衛したい。闘ってみたい人？『PRIDE』の王者です。ヒョードルとシウバ。
―DSEから「5月からの無差別級GPに出てほしい」と頼まれたら？
西島　一応それも頭に入っています。出る準備はしています。
―無差別級GPはその名の通り、体重に関係なく勝負が争われる。いままで階級制の中で闘ってきた者として違和感は感じない？
西島　いや、ボクシングのミドル級（72・57キロ）以上だったら、ヘビー級でも倒せるパンチがある。だから体重差は関係ない。
―今後はハントのように打ち合いで勝負を決めようとするのではなく、最初から寝技で勝負を仕掛けてくる対戦相手が続出することが予想されます。
西島　これからみっちりと寝技をやっていくしかないでしょう。どんどんレベルを上げていくことはできると思いますよ。
―年齢的なものは感じない？
西島　感じない。全然感じない。
―ちょっと疲れが抜けにくくなってきたなぁというのはない？
西島　まだ32歳。そんなオジさんじゃないですよ（苦笑）。まだまだ余裕で続けられます。おそらく総合でも、ボクシングでも40代前半までは現役を続けられるんじゃないですか。
―これから何を重点的に練習する？
西島　やっぱり寝技。寝技と立ち技の比率は3対1くらいでやっていきたい。
―いま一番マスターしたい寝技の技術は？
西島　エビという動きがあるじゃないですか。ああいう初歩的なものからマスターしていきたい。
―まずは幼稚園から小学生に進学するわけですね。次の試合までに飛び級で寝技が中学生くらいのレベルまで上がっていることを期待します（笑）。

◎


■案の定、西山の口数は決して多くなかった。こちらが「あと一言」を待っていても、放送事故が発生したラジオのように無音状態が続くのみ。そんなハラハラしっぱなしのインタビューだった。しかし、だからといっておもしろくなかったわけではない。ときとして西島の一言には独特の重みが感じられたからだ。この重みこそ西島の武器といってもいいだろう。かつて宇宙パンチを駆使していたボクサーも、いまや総合1年生。いつのまにか"PRIDEの宇宙人"になっていた。男は黙って西島洋介。無差別級GPはしゃべりが苦手な宇宙人に占拠される。

洋介



僕はただ強くなりたかった
だから昔、人気だけが
先行するのが凄く嫌だった

1973年5月15日、東京都出身。92年、本格派日本人ヘビー級ボクサーとして、「西島洋介山」のリングネームでデビュー。97年にはWBF世界クルーザー級王座を獲得するが、05年『PRIDE』参戦を電撃発表した。182cm、95.5kg。


HUNT

相手の力を引き出した上で勝つ!
この男こそ、リアル・メインイベンターだ!!

相手の弱点を突いて圧勝しても試合した気がしないんだよな



マーク・ハント

これぞメイン!『PRIDE.31』で西島洋介と対戦、あえてパンチ勝負を挑み、壮絶なるド突き合いを展開したマーク・ハント。昨年大晦日のミルコ戦勝利に続き、『PRIDE』マットで存在感を上げまくるハントを、試合翌日に直撃した。サモアの怪人が語る"天然のプロ意識"を聞け!

聞き手&本文／橋本宗洋　撮影／菊池茂夫　構成／堀江ガンツ
designed by hisa (TwoThree)

——いや〜、西島戦はホントに凄い試合でしたね!

ハント ドウモ!（日本語で）

——1Rのハントさんの動きを見る限りでは、今回は一本勝ちを狙ってるのかなと思ったんですけど、いかがですか。

ハント 相手の動きに合わせてやってたら、ああなっただけだよ。でも寝技を試したいって気持ちはあったね。せっかくエイネモと練習もしたことだし。

——で、その寝技はうなくいきましたか?

ハント いや、あんまり（笑）。

——ククククク! 途中、アームロックを狙った場面もありましたけど。

ハント キムラ（アームロック）は極まりそうだったけどねぇ。うまくいかないんで、途中でやめちゃったよ。

——一番驚いたのはニードロップのシーンですよ。あれは……。

ハント その場の思いつき（笑）。

——あ、思いつきですか（笑）。でも一昨年のシウバ戦ではヒップドロップを仕掛けてましたし、ああいうスタンプ系の技は好きだったりするんじゃないですか?

ハント 好きだね、うん。観客も沸くし、自分の体重を活かせるから。

——あのダブル・ニードロップがプロレスではポピュラーな技だというのは……。

ハント そうなの? 全然知らなかった。

——あくまで自然に出ただけだ、と（笑）。西島戦では、最初はパンチと同時にヒザとローを多用してましたよね。ボクサー殺しの常套手段というか。

ハント そうだね。

——それが、終盤はパンチのみで勝負にいったじゃないですか。あれはどうしてだったんですか?

ハント どうしてって……。まぁあれだ

ボディを狙ったのは彼のミスだ
オレの腹には分厚いプロテクターがついているんだからな(笑)



な、自分のパンチのスキルを試してみたかったっていうのはあるかな。

――ボクサー相手に、あえてパンチで勝ってやろうと。

ハント　そうそう。相手の武器がパンチだから、そのパンチで勝ったらおもしろいだろうなと思ってさ。実際、最後はパンチでKOしただろ?

――試合中、西島選手の精神力を感じた場面はありませんでしたか?

ハント　ニシジマが他の選手より、ずっと強いスピリットを持っているのは感じたね。

――2Rには打ち返してきましたからね。

ハント　そうそう、あれには驚いたね。「コイツ、まだやり返してくるのか!?」って。たいしたヤツだと思ったよ。

――西島選手はボディへのパンチを多用してきましたよね。あれは効きました?

ハント　いや、オレのボディを狙ったのは彼の作戦ミスだったな。なんつってもオレの腹には分厚いプロテクターがついてるからさ(笑)。

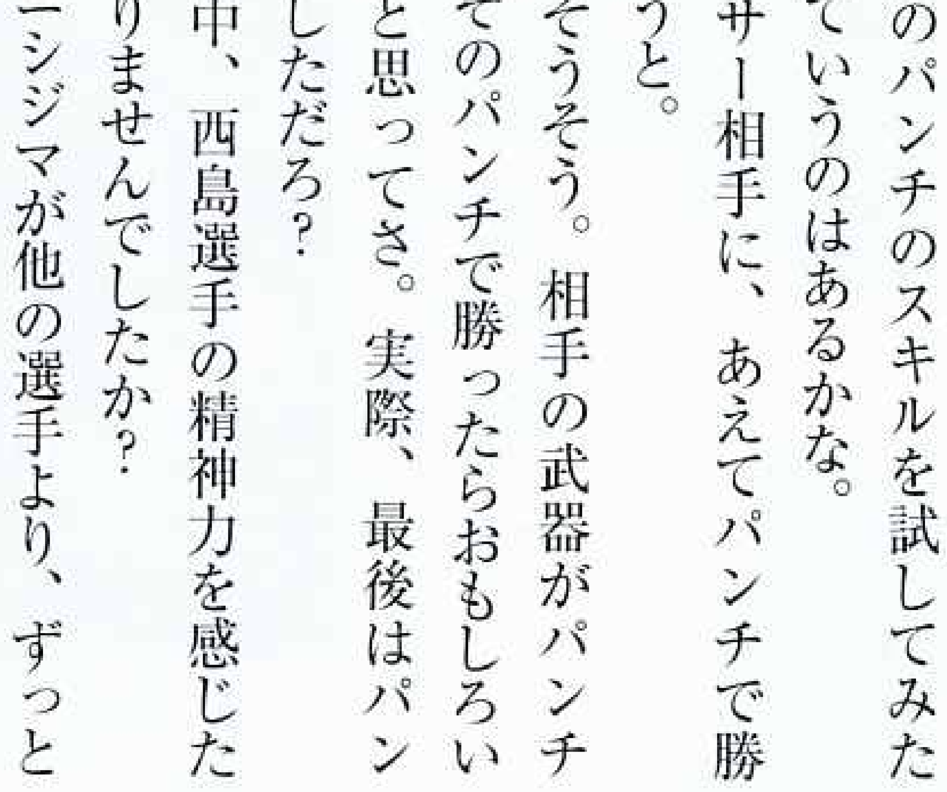
――衝撃が吸収されてしまうと(笑)。

ハント　絵に描いて説明するとな…(脂肪と筋肉の二層構造をイラストで解説)ここがオレの腹の表面。で、ここが腹筋だよ。そこまでは脂肪に覆い隠されて、こんなに離れてるわけだ(笑)。

――それは効かないはずですよね(笑)。

ハント　ただ、さっきも言ったように打ち返してくるニシジマのスピリットはたいしたもんだよ。

――ボクが試合を観ていて思ったのは、ハント選手が西島選手の根性を意気に感じて、あえてパンチ勝負に付き合ったんじゃないかなってことなんですよ。弱点を突くこともできるけど、相手に敬意を表して男と男の殴り合いに応じたというか。



自らペンを持ち、自分の腹がいかにクッションの役割をはたし、ダメージを軽減するかを図解説明するハント。これで頭蓋骨まで分厚いのだから、身体の作りが反則だ。

ハント　そうい部分はたしかにあるね。なんかこう、あのときは真っ向勝負でいきたくなっちまったんだよな。

――そこが、見ていて感動したところなんですよ。だって、単に勝つためだけだったら、ああいうことをする必要はないわけですからね。

ハント　確かに、ローやヒザで倒しちまったほうが確実に勝てるよなぁ、うん。ただ、あのときはそうはしたくなかったんだよ。ま、理由は自分でもよくわかんないんだけどさ。ニシジマのスピリットに感じるものがあったからじゃないのかなぁ。

――K―1でのレイ・セフォー戦でもノーガードでパンチを受けたりとか、やっぱりハント選手は〝小細工抜き〟が性分なんですかね。

ハント　小細工抜きね……正直そういう試合ってしんどいんだけどな(笑)。

――しんどいけど、やってしまうと。

ハント　疲れるんだけど、やってて楽しいんだよ。相手の弱点を突いて1Rで圧勝しても、試合をしたって感じがしないんだよな。

――闘っているうちに、相手に対する友情というか、リスペクトの気持ちが芽生

えてくることもあるんですか？

ハント　やっぱり、ニシジマにあそこまで頑張られたらリスペクトしちゃうよな。それに、オレは誰であろうとリングに上がってくる人間はリスペクトしてるよ。……クロコップ以外は。

——あ～、ミルコ選手はリスペクトできませんでしたか。

ハント　あの試合はダメだったね。クロコップのパフォーマンスが全然よくなかったし、それは彼自身も残念がってたよ。クロコップが向かってこなかったから、オレも能力を100パーセント出せなかったしな。

——じゃあミルコ戦と西島戦を満足度で比べると……。

ハント　そりゃニシジマとの試合のほうがずっとよかったよ。ニシジマの強いスピリットを感じることができたからな。どんだけオレにやられても、立ち向かってきたもんな。本当にやりがいのある試合だったよ。

——今回の勝利で無差別級GP出場も確定的になりましたよね。そうすると去年の大晦日から出ずっぱりになります。急にハードワークになる感じですよね。

ハント　しんどそうだねぇ。

——しんどそうですよねぇ（笑）。

ハント　連戦は精神的にかなりキツいんだよ。だからいつかはスローペースになると思う（笑）。

——早くもバケーション宣言ですか（笑）。

ハント　いつかはね。ただ、今年はできるだけ試合をしたいと思ってるよ。GPを勝ち抜いていけば、自然とそうなるし。

——「今年は試合をする」というモチベーションは、どこから出てくるんですか？

ハント　やっぱりあれだな……金。

——ダハハハ！　正直でいいですねぇ（笑）。K—1時代もそうでしたけど、やっぱり賞金がかかるGPは燃えますか。

ハント　そりゃ燃えるよ（笑）。賞金がほしかったら、勝って獲るしかないんだから。

——K—1ワールドGPでは優勝、3位という実績を残されてますけど、何かトーナメントを勝ち抜く秘訣ってあるんですか？

ハント　トーナメントは自分でも得意なほうだと思うけど、理由を考えたことはないなぁ。とにかく激しく闘って、そんで勝つってことだけだね。

——トーナメントで最大のライバルになりそうなのは誰だと思いますか？

ハント　いや、なんも考えてないよ。オレは組まれた相手と全力で闘うだけだから。

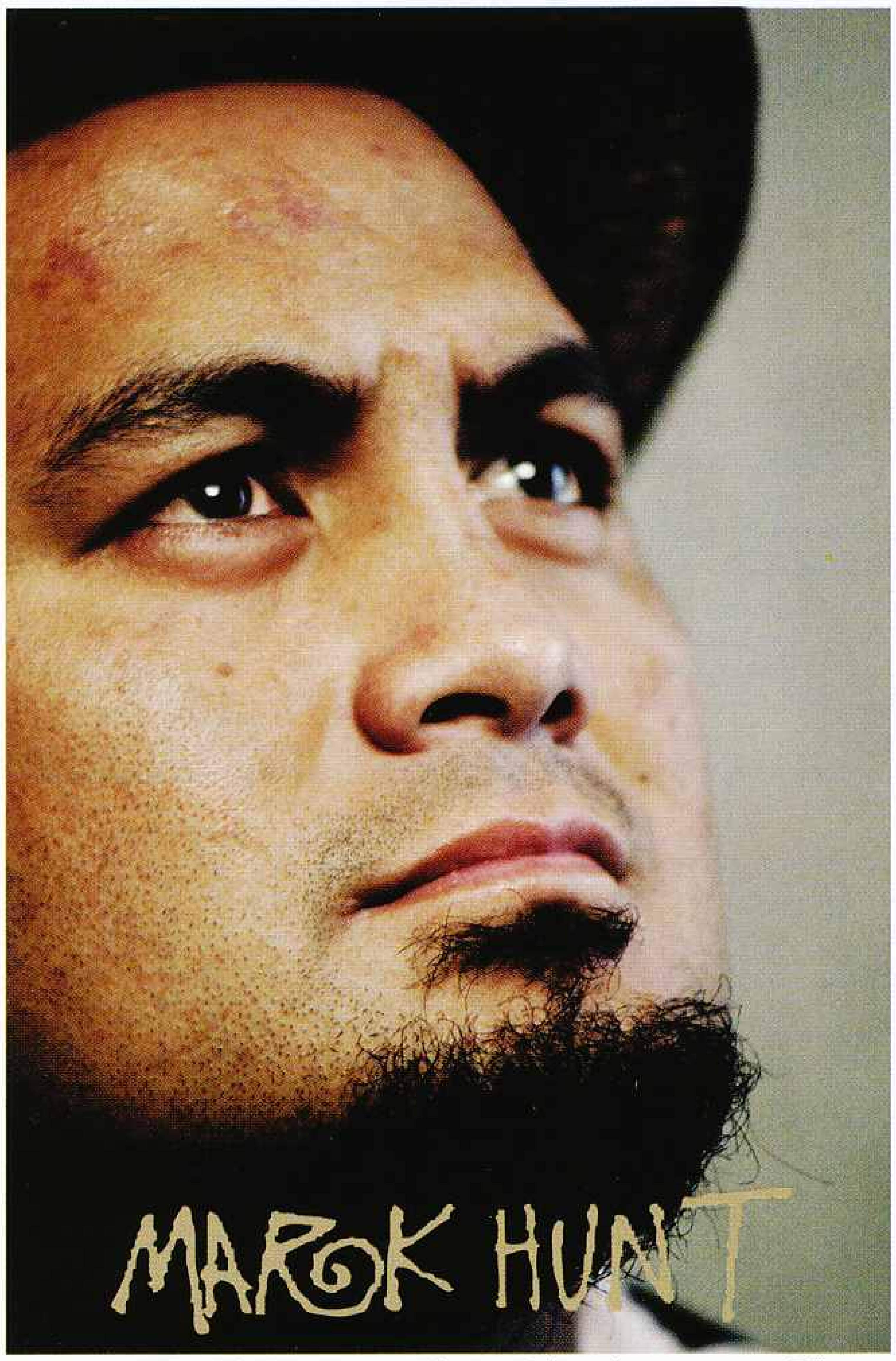
——誰が相手でも勝てばいいや、と。

ハント　そんな感じ。実際さぁ、トーナメントでは1試合も取りこぼしができないんだよ。だったら一つ一つの試合大事に闘っていくしかないじゃない。とくに誰か一人を意識してもてしょうがないって。

——いま現在、『PRIDE』の頂点に立っているのはヒョードル選手ですけど、闘ってみたいという気持ちは？

ハント　オレは組まれた相手なら誰とでもやるよ。

GPは取りこぼしが許されないんだから誰か一人を意識してもしょうがないよ



Mark Hunt■1974年3月23日、ニュージーランド出身。01年K-1 WORLD GP優勝。04年からは『PRIDE』に戦場を移し、その年の大晦日"絶対王者"シウバを撃破。昨年の大晦日にはミルコにも判定勝ちし、打倒ヒョードルの一番手に浮上した

——ハリトーノフ選手やショーグン選手がケガをしてしまったこともあって、いまやハント選手は"打倒ヒョードル"の最右翼といってもいい存在だと思うんですよ。もしヒョードル選手と闘ったら、どんな試合になると思います？

ハント　そりゃ実際にやってみないとわかんないよ。オレは作戦とかなんとか考えないから。流れのままに闘って、相手をKOするだけだね。

——で、流れのままに激しい打ち合いをしてしまう、と。

ハント　そういうこと（笑）。

——『PRIDE31』では無差別級GPに向けて増量している選手が多かったですよね。それに対してはどう思いますか？

ハント　いいことなんじゃないの？　体重が重ければ、それだけ有利に働くことも多いからさ。ただ、オレに必要なのは増量じゃなくて減量だよな（笑）。

——やっぱりそうでしたか（笑）。

ハント　もうちょっと絞れば、もっといい動きができるんだけどね。

——ハント選手のベスト体重ってどのくらいなんですか？

ハント　まあ116～120キロくらいだね。そのくらいでも、他の選手よりは全然重いから大丈夫（笑）。

——ではGPにその体重で臨んだら、ベストコンディションの証なわけですね。

ハント　そういうことだね。とにかくGPまでにいっぱい練習しとくよ。稼がないといけないし（笑）。

——では、GPでは前日計量も含めて楽しみにしてます（笑）。

ハント　ハイ、ドーモ！

【06年2月27日／都内・某ホテルにて収録】



『PRIDE.31』
ショーグン戦で
シュートボクセと
因縁勃発!

無差別級GP開幕戦で激突か
「ヴァンダレイのバカモン!!」

真剣40代しゃべり場ファイター
マーク・コールマン

無駄、無駄、心底、無駄にコールマンが熱い!! 大方の予想を覆し、ショーグンを破って“無差別GP前哨戦”を制したコールマン。アクシデント絡みの白星とはいえ、その喜びの様や、吠えっぷりは尋常じゃない!! さすが、涙もろくて熱血漢で調子に乗るのが玉に瑕! なハンマーハウスのリーダーだけある。周囲の視線をまったく気にしない真剣40代親父のしゃべりに耳を傾けろ!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也
designed by hisa (TwoThree)

【コールマンが座るべき〝主賓席〟になぜか堂々と座っている〝ハンマーハウスゆかいな3人組〟の一人、フィル・バローニ】

——こ、こんにちは。バローニさん。

バローニ　おう。今日はよろしくな！　楽しくやろうぜ、ガハハハハ!!

——……これはどういうことなんだろう（笑）。

通訳　う〜ん。私もバローニを呼んだ記憶はまるでないんですが……。

バローニ　おい！　何ブツクサ言ってるんだあ？　さっさとインタビューを始めようぜ。

コールマン　うむ。私はいつでも準備ＯＫだぞ（鼻息荒く）。

バローニ　よっしゃ！　マーク、言ってやれ、言ってやれ。昨日のパーフェクトな勝利のことを!!

コールマン　（待ちきれなかったのか堰を切ったかのように）まず、皆さんにぜひお伝えしたいことがある。私は初代ＰＲＩＤＥＧＰチャンピオン、マーク・コールマンです!!

——それは知っていますよ（笑）。

コールマン　（無視して）そんな私からファンへ大切なメッセージがあります。私を応援してくれるファン、私が負けると思っていたファン、インターネットで悪口を書いてるファン……いろんな人間に対してぜひ伝えたいのは、ショーグンの敗北は単なるアクシデントではないということだ!!

——いや、ボクも決してケチを付ける気は微塵もないんですけど。

コールマン　それならいいんだが……いや！　それでもあらためて、昨日の試合のことを説明させてくれ!!（口角泡を飛ばして）。

——はい。拒んでも無理っぽいし（笑）。

コールマン　今回の試合はショーグンがヘビー級に挑戦というテーマが含まれていたようだが、彼は１０３キロ、私は１０１キロ。年齢だけではない。体重にも歴然とした差があったが、私の素早くてパワフルなタックルがあの結末を生み出したんだ!!　それを、それを、わかってくれ！

バローニ　そうだそうだ！　マークの言う通りだ!!

——いやあ、あいかわらず熱いですね(笑)。でも、コールマンさんが41歳という高齢であることや、最近の戦績が芳しくなかったから、どうしてもアップセットと見る向きが多いんですよ。

コールマン　（猛然と口を開いて）ちょっと待った!!　確かに、確かに、41歳という年齢の選手が一流ファイターに挑むということを、多くのファンは哀れみの目で見ているんだろう。しかし!!　そんなの、冗談じゃな〜い!!　ドン!!（とテーブルを叩いて）。

——ふざけるな!!　と。

コールマン　私は歳を取るということに関して、老いるというよりは成長していると捉えている。ここ2年間は確かに結果



［PRIDE.31］
○コールマンvs ショーグン×
（1R 0分49秒 レフェリーストップ）
ミドル級から増量して試合に臨んだショーグン。早々にテイクダウンを奪われたが、慌てることなくアンダーからの三角締めでコールマンを攻め立てる。しかし、スタンドに移行した際、背を見せたところにタックルが炸裂！　受け身を計った右手をおもいきりマットに突いてしまい右ヒジを脱臼!!　なんてこったい！

を出せていないが、私に期待を持って応援してほしいんだよ。なぜなら私は初代PRIDE GPチャンピオンだからだ!!

――同じ40代の〝鉄人〟ランディ・クートゥアーは引退するけれど、コールマンさんはまだまだ現役で頑張るということですね。

バローニ　おいおい、クートゥアーとマークを一緒にするなっての。コールマンはノゲイラ、ヒョードル、ミルコ、そして今回はショーグンと、トップどころとばかり闘っているんだぜ。さらに未来への戦闘意欲を失なっていない。これはもはや生ける伝説というべき存在で、クートゥアーとは違うって！

コールマン　それに私は初代PRIDE GPチャンピオンです！（しつこく）。私がなぜ強者に足りえているか？　それは隣にいる父親のDNAを受け継いでいるからなんだ。

――あ、こちらはコールマンの親父さんでしたか。

マンパパ　ダン・コールマンだ。いつもマークがお世話になってご苦労さん。

コールマン　今回、親父にもセコンドに付いてもらった。親父はとくにスポーツをやっていたわけじゃないが、ストリートでは百戦錬磨。負け知らずだったんだよ。しかし、もう66歳という高年齢。今回の試合で乱闘が起こったが、親父の身に何もなくて本当によかったよ。もし誰かが親父に危害が加えてたら……俺はその野郎を殺してやる!!（キッパリ）。

――そこまで!!　たしかに、昨日の乱闘は怪我人が出てもなんらおかしくなかったですよね。

コールマン　じつは、あの場で何が起こったのかを正確につかめてないところがあるんだ。試合映像を振り返ってみれば、俺が正しかったのかがあらためてわかるだろう。

バローニ　うんうん。これもマークの言う通りだな。

――乱闘の導火線になったヴァンダレイのマナーについて何か言いたいことはありますか？

コールマン　（即座に）バカモ～～～ン！！！！

――ワハハハハ！　相当怒ってますね（笑）。

コールマン　感情的になるのはファイターにとって大事なことだ。しかし、それはリング上で叩きつけるべきであって、その戦場を離れたら敵ともシェイクハンドしなければいけない。いいか。普段は紳士として冷静でないといけないんだよ！！！！！

――わ、わかりましたから、ちょっと冷静になってください。

コールマン　（無視して）私はヴァンダレイのことをファイターとして尊敬しているが、あんなバカなことをやるのなら、試合でハッスルすればいい!!　私はべつにヴァンダレイとやってやってもかまわない。

――熱さだったらコールマン選手に負けないランデルマンがもし現場にいたら、もっと大変なことになってたでしょうね。

コールマン　そりゃそうだ。ランデルマンを連れてきたら、もっと大変なことになっていただろう。ランデルマンの凶暴さは計り知れないが、そして、ここにいるフィル・バローニも野獣なんだよ。

バローニ　いやいや、マークだって野獣だよ～。そして俺たちゃ野獣3匹は大の仲良しだ!!　ガハハハハハ！

――3人は普段、「バックの柄がどうだ」とか「誰が一番バカか」とか、そんなくだらない理由で喧嘩ばかりしているって聞きますけどね（笑）。親父さんから見て、息子さんの活躍はどうご覧になってるんですか？

マンパパ　いいんじゃないか。ここ3年間は心底、怠惰な生活をしていたけど。

――ワハハハ！　普段の熱血ぶりは見る影もないと？（笑）。

コールマン　（猛烈に口を開いて）それは違～う!!　じつは私は離婚したので、二人の娘の面倒を見るために、あまりトレーニングができてなかっただけなんだ。最近は娘たちもいろんなことを理解できるようになって、トレーニングをするようにお願いするようになった。「パパが練習しないと試合で負けちゃう!!」ってね……。

バローニ　……おい、いい話だなあ、ちくしょう……（しみじみと）。

コールマン　娘たちのためにも私は闘わなければならない。なぜなら私はPRIDE GPチャンピオン、マーク・コールマンだからだ！

――無差別級グランプリの登場を期待しつつ、今後もハンマーハウスのド熱血ぶりを遠くから観察していきます（笑）。

【06年2月27日／都内ホテルにて収録】



オンドリャ～!! 試合後に大乱闘勃発!!　負傷によるレフェリーストップが理解できず倒れ込んだショーグンに襲いかかったコールマンにヴァンダレイが激怒。そのままリングに雪崩れ込み両陣営入り乱れての騒動になった。笑いごとじゃないが、まるでコントのようなシーンである。

シウバに告ぐ！　あんなバカなことをするなら試合でハッスルすればいい!!



まーく・こーるまん■1964年12月20日、アメリカ出身。ご存じハンマーハウスの総大将。ランデルマン、フィル・バローニを従え、今日も無駄に熱く生きている。アッパー過ぎた反動で、とても試合直前とは思えないほどのローテンションな姿もしばしば。ハンマーハウスを楽しむということを、それらを引っくるめて見続けるということだ。





恥ずかしがらずにレジへ直行!
ノゲイラのふんどし姿が超目印だ!

本誌じゃないよ! スペシャル号だ!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

3.28 ON SALE!

860yen

超豪華3大対談実現

桜庭和志×HG

スペシャル特写でバッチコ〜イ!!

ノゲイラ兄弟×髙田統括本部長

ふんどし談義、そして伝承へ——!

ヴァンダレイ・シウバ×インリン・オブ・ジョイトイ

これぞ美女と野獣な組み合わせ!



PRIDEを支える女たち

女祭りも開催中!

高島彩／レニー・ハート／オバチャンチン
DSE USA神田由紀乃
DSE RUSSIAエステリーナ・コルサコワ
DSE女性広報の一日

3大チーム創成期PRIDEはじめて物語

シュートボクセ／ブラジリアン・トップチーム／ロシアントップチーム

豪華布陣で格闘技とまんがの関連性を読み解く

PRIDEまんが道

ヒョードル画伯／ジョシュ／長南亮／相原コージ
にわのまこと／夏目房之介／竹熊健太郎／中澤一登

格闘怪電波発生中!! これを読まずしてPRIDEは語れない!

あなたの知らないPRIDE怪人列伝

ジョー・サン／ヴァリッジ・イズマイウ／シャノン・"ザ・キャノン"・リッチ



enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/


©菊池茂夫
「ヒョードルに勝つ自信はあるよ」
——ジョシュ・バーネットの無差別級GPへ向けたインタビューは
携帯サイト「kamipro Hand」でチェック!!
スペシャルインタビュー2連発!!
★「萌え萌え女々苑」に登場した女子プロレスラー・風香がジョシュとの奇妙な関係&恋愛話を赤裸々告白!!
★死の淵から帰ってきたクレイジーモンキー・葛西純が実は……!?
1 QRコードでクイック・アクセス!!
2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス
3 hand@kamipro.com へ空メールを送信
携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法
アクセス方法
DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
vodafone メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
kamipro Hand
[QRコード]
ただいまリニューアルに向けてご意見大募集中!! アンケートに答えてプレゼントをゲッツ!
[お問い合わせ] (株)ダブルクロス 03-5368-1795

WELCOME TO UNKNOWN

MMA'S WORLD

～あなたの知らない格闘技ワールド～

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンが
クールなUSAニュースをお届け!!

Vol.2

USA cool 宅急便

CoolでHotなアメリカンMMAニュースを発信する、連載第2回目のこのコーナー!!『TUF』効果で、UFCが格闘技界の世界的なパワーバランスに影響を及ぼすほど力を付けてきつつあることは前回話した通り！ 今回はそのUFCと選手の関係性に注目!!

聞き手／デューク東郷　助手／上杉アメリカンコーヒー



PROFILE

Scott Petersen

【すこっと・ぴーたーそん】格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「質問は日本語でお願いします」。

アメリカの勝ち組UFCとそのメジャーリーガーたちの切実なフトコロ事情

──『kamipro』読者の皆さん、こんにちは！ ホットでクールなアメリカMMA情報をお送りする『USA cool宅急便』のかっ飛びドライバー、日系3世のデューク東郷です。そしてナビゲーターを務めるのは……。

スコット 『MMA WEEKLY』編集長、スコット・ピーターソンです！

──じつに一カ月ぶりだね、スコット。今月もよろしく頼むぜ！

スコット それはこっちの台詞だよ！ 何しろ君はこのコーナーの担当なのに、UFCヘビー級チャンピオンの名前すら知らないんだからな。

──今日はちゃんと覚えてきたって!! UFC王者はアンドレ・アルロフスキー。「アンドレはアフロが好き」で覚えたんだよ。GAHAHAHAHAHA!!

スコット ……な、何を言っているんだ? そんなことより今月はなんの話をしようか、デューク?

──前回はTUF（リアリティ・ショー形式の人気番組『ジ・アルティメット・ファイター』）の話が出たけど、そこでちょっと気になるのが、現在撮影中のTUFサードシーズンのコーチが、あのティト・オーティズになるってことだ。たしか、ティトはUFC52で主催者側から部外者扱いされて以来、「二度とUFCには上がることはない」って言ってたはずじゃなかったけ?

スコット そうだ。先月号では聞き流してたのに、ちょっとは勉強してきたみたいだな。

──いやあ、『kamipro』編集部から渡されたメモを読んだだけだよ!!

スコット 胸を張って言うことじゃないぞ（笑）。そもそも、ティトは一度UFCの表舞台から姿を消した選手なんだけど、じつはティトがUFC代表のダナ・ホワイトに一試合30～35万ドルのギャラを要求して、そこから両者に深い溝ができてしまったんだ。

──35万ドル!? 日本円にして400万円ぽっちもUFCは払えないのかよ。

スコット 一桁違うぞ、デューク。4000万円だよ！（笑）。

──よ、4000万円!?どっひゃ～!!

スコット どうやらティトはボクシングやベースボールとか、4大メジャースポーツの選手と比較して、その金額を要求したということなんだ。それで交渉が決裂したのはありえる話だけど、UFCがなんとホームページからティトの情報をすべて削除してしまったんだ。

──やってくれるなあ、UFCは（笑）。

スコット ティトは当時、UFCの顔のような選手だったんだよ。UFCといえばティト。ティトといえばUFCというような感じでさ。ま、いまでもアメリカのMMA界ではそんな存在なんだけど。

──つまり、日本人にとっての桜庭和志のような存在なんだね。

スコット そう。そんなレジェンドの領域にある選手を、ダナ・ホワイトはまるで存在しなかったかのように、完全にホームページから消してしまったんだ。それは、さすがに俺もどうかと思ったよ。

──交渉の過程で何かトラブルがあったのかな?

スコット 詳しいことまではわからない。だけど、最初に契約を破ったのはティトのほうだ。「これだけ人気があるのに、こんなに安いファイトマネーでやってられない」ってね。前回も言ったと思うけど、UFCのファイトマネーはホントに安いんだ！

──「働けど働けど わが暮らし楽にならざ

©MMA WEEKLY



みんなも「アンドレはアフロが好き」で覚えてしまおう。UFCヘビー級王者、アンドレ・アルロフスキーだ。海の向こうの"メジャーリーグ"もトップは旧ソ連系ファイターなのだ。

りじっと手を見る」。UFCのファイターはきっと石川啄木のような心境なんだなあ。

スコット いちいち、くだらない話で話の腰を折らないくれ（笑）。とにかくティトとUFCは金銭的な交渉で完全決裂。その後、UFCはティトをバックステージはおろか、オクタゴンにも近寄らせなかったと言われている。

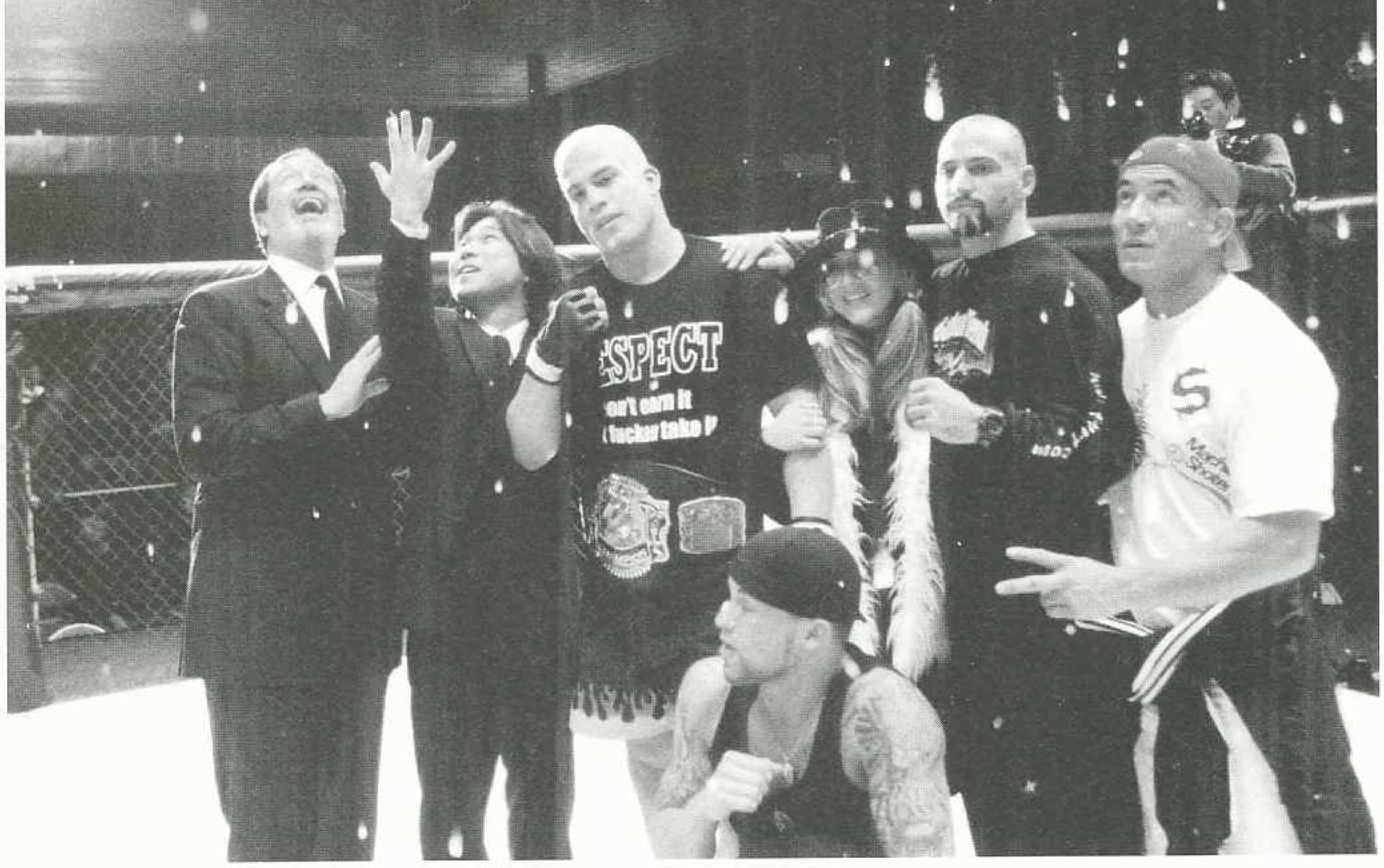
――そこで聞きたい。ティトはどうしてUFCに戻ってくることになったんだい？

スコット そこが今回のポイントだ。ラスベガスには、じつはほかにもMMAのオーガニゼーションがある。WFCという組織もその一つなんだけど、ジョン・ルイスというプロモーターが運営していたんだ。

――カール・ルイスがMMAのプロモーターかよ！

スコット ジョン・ルイス‼ 修斗で佐藤ルミナと闘ったことのある人物だよ！ ジョン・ルイスはもうその組織にかかわっていないんだけど、じつは、そのオーガニゼーションがティトをエースにして、新しくビッグイベントを立ち上げようとしていたんだ。

――なるほど！ それでUFCは、ライバル団体の出現を恐れて、TUF



次回UFC.59でじつに2年ぶりにUFC復帰を果たすことになる"バッドボーイ"ティト・オーティズ。一時は、バックステージから締め出されたとまでいわれただけに、復活のニュースは衝撃を与えた。

UFCの巨大化を探る
USA Cool宅急便

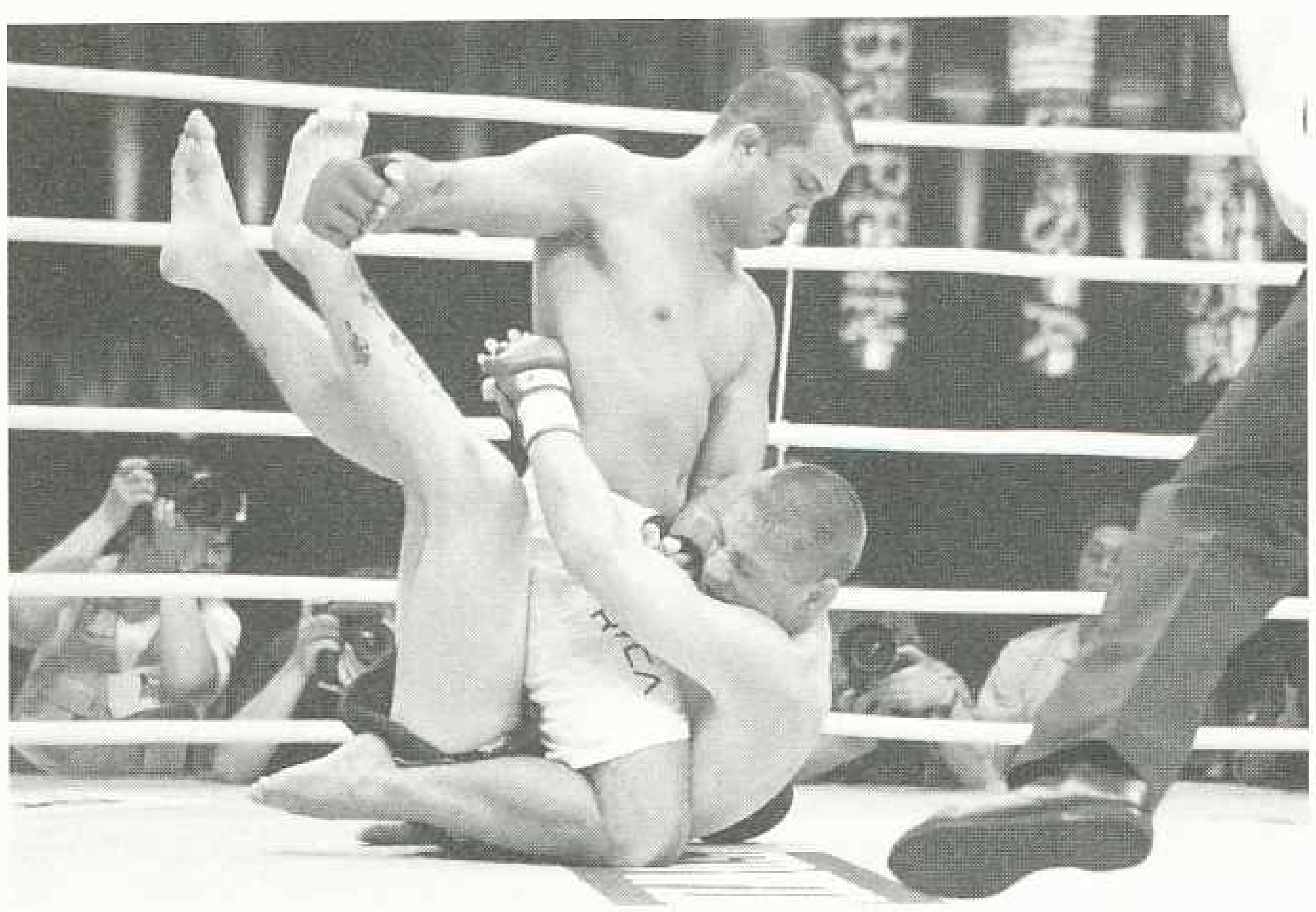
ティトは一度UFCの表舞台から消された

のコーチというおいしい役どころをティトに与えたわけだ。

スコット その通り！ ヨソのエースにされるくらいなら、自分のところで囲いこんだほうがいい、というわけさ。結局、その新しいイベントはあてにしてたティトが来なくなって、頓座したんだ。

――UFCはほかにもよく選手とトラブルになっているけど、BJ・ペンはどういうケースだったんだい？

スコット 彼はマット・ヒューズを倒したあと、K－1 ROMANEXに参戦したことはさすがの君も知ってるだろ？



04年、ライト級から転向するや、ウェルター級で無敵を誇ったマット・ヒューズのタイトルに挑戦し完勝。ベルトを奪って、その実力を満天下に示したBJだが、その直後、急遽K-1 ROMANEXに参戦。

――K－1 ROMANEX？ たしかトム・ハワードがブルー・ウルフと闘った大会だっけ？

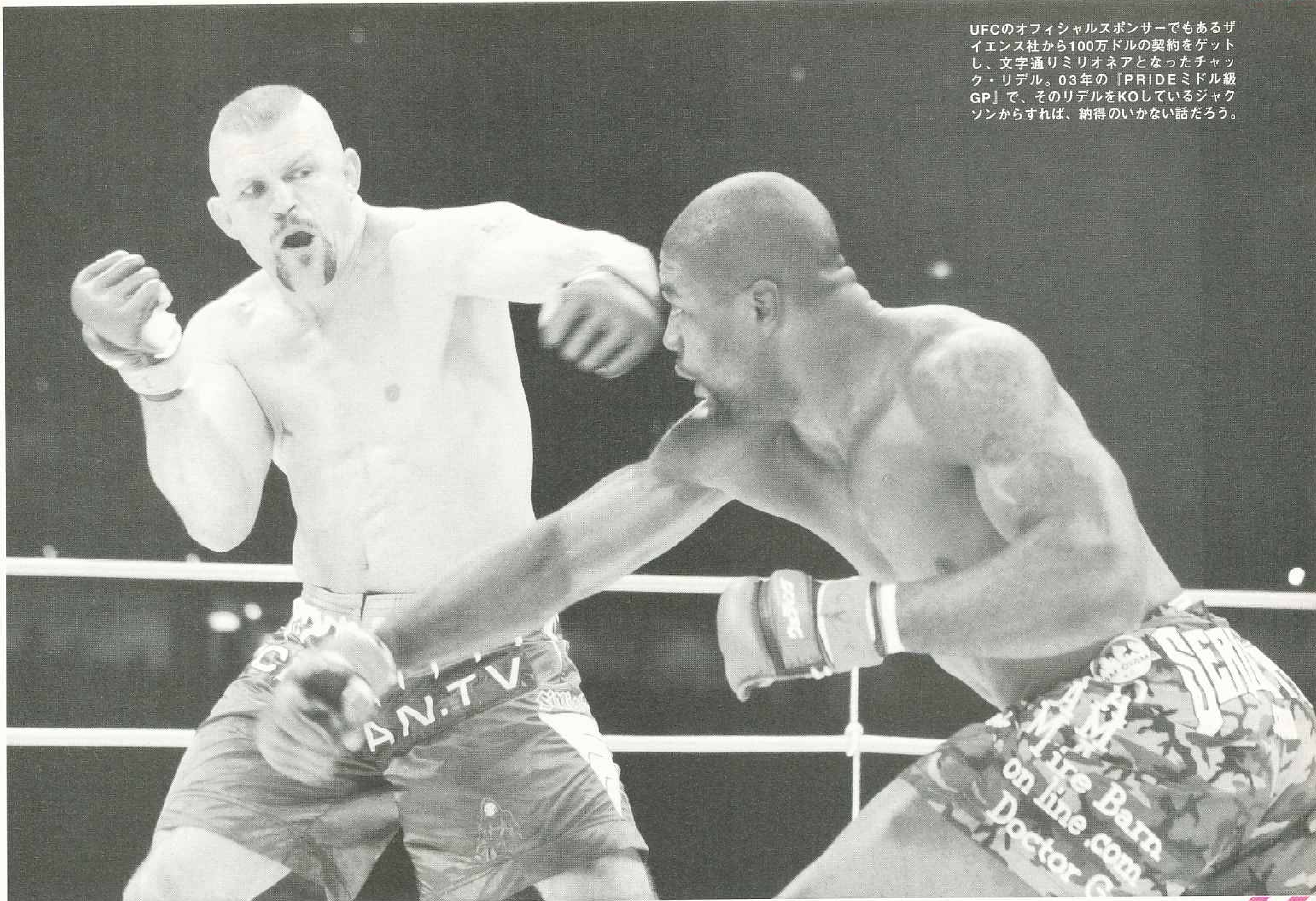
スコット どんな覚え方だよ、いったい（笑）。じつはペンは彼のファミリーの運営しているランブル・オン・ザ・ロックは別として、ほかの団体には出られない契約だったらしいんだ。それでUFCウェルター級のベルトを剥奪されてしまったんだが、結局、裁判になってBJ・ペンが勝った。だから、このあいだハワイでペンにインタビューしたときに、彼は「まだ自分がチャンピオンです」と言っていたし、彼の実家にボクが遊びに行ったら、実際に机の引き出しからチャンピオン・ベルトを出して見せてくれたんだよ。

――今回の裁判を受けてBJとUFCの仲は修復されたと捉えて問題ないのかな。

スコット まあ、それはただ単に両者の利害が一致しただけだと思う。それに、もともとBJとK－1との契約では、UFCに出場するのは問題がなかったらしいからね。結論づけると、UFCは選手とのあいだでトラブルをよく起こすけど、金銭的な部分が多いから、案外にあっさりと復縁するのも特徴かも。しかし、先月から繰り返すけど、UFCの選手に対する待遇はひどいぜ。初参戦クラスの選手なら、一試合2000ドル。勝ってプラス2000ドル。選手は、そうそう毎月試合ができるわけでもないから、生活は大変さ。家賃も払えないような選手がいるんだから。

――「いれものがない 両手でうける」。尾崎放哉のような貧困生活者もいるってことかあ。

スコット （いい加減無視して）だから選手にとってスポンサーが大事なんだけど、U



UFCのオフィシャルスポンサーでもあるザイエンス社から100万ドルの契約をゲットし、文字通りミリオネアとなったチャック・リデル。03年の『PRIDEミドル級GP』で、そのリデルをKOしているジャクソンからすれば、納得のいかない話だろう。

FCはそれさえも奪おうとしているんだ。

——ギョ!! それは、どういうことなんだい?

スコット 去年の話だけど、チーム・クエストのマット・リンドランドは自分のスポンサーの名前の入ったTシャツやパンツを穿いていたんだけど、オン・エアする際には一切認められないということで揉めたんだ。

——UFCが認めないスポンサーマークの入ったウェアは着れないということ?

スコット そう。だから過去の映像にボカシが入ったりすることもあるんだ。

——『SRS』10周年記念番組の振り返り企画で元司会者のマーシー（田代まさし）にボカシが入るみたいなもんだ。

スコット 全然違うって！ そして毎試合、計量の48時間前にそのウェアが着用できるかどうかの連絡があって、もしダメなら脱がないといけないんだ。

——広告効果を期待して、選手をバックアップしているスポンサーも多いだろうから、スポンサーからの収入に大幅に頼っている選手にとって死活問題だねえ。

スコット しかもよく考えてみれば、広告主のいる地上波ならまだしも、視聴者がお金を払っているPPVなら、そんなことは関係ないはず。もっとも、マットのスポンサーにはオンライン・カジノのスポーツブックが入っていたから、ラスベガスのカジノが反対したという話らしい。でも、前回

3・4『UFC.58 USA vs. Canada』

米国・ネバダ州ラスベガス マンダレイベイ・リゾート&カジノ

［UFCミドル級タイトルマッチ（5分5R）］
○（王者）リッチ・フランクリン（アメリカ／ミート・トラック）VS
デビット・ロワゾー（カナダ／TKOマネージメント）×
（5R 判定3-0）
※フランクリンが防衛に成功

［ウェルター級　5分3R］
○ジョルジェ・サンピエール（カナダ／トリスタージム）VS
BJ・ペン（アメリカ／BJ・ペンMMA）×
（3R 判定2-1）

［ウェルター級　5分3R］
○マイク・スウィック（アメリカ／アメリカン・キックボクシング・アカデミー）VS
スティーブ・ヴィニー（カナダ／TKOマネージメント）×
（1R 2:09 フロントチョーク）

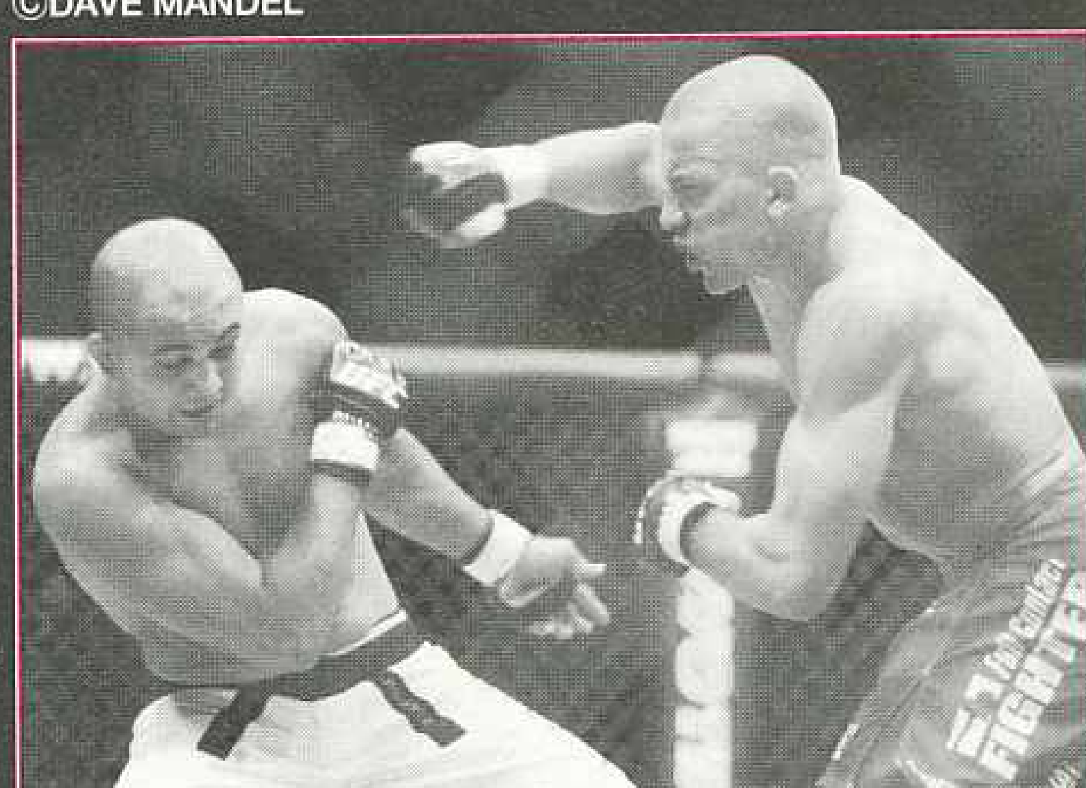
［ミドル級　5分3R］
○ネイサン・マーコート（アメリカ／ハイ・アルティチュード）VS
ジョー・ドークセン（カナダ／チーム・エクストリーム）×
（3R判定 3-0）

［ライト級　5分3R］
○マーク・ホーミニック（カナダ／チーム・トンプキンズ）VS
ジイーブス・エドワーズ（アメリカ／サード・コラム）×
（2R 1:52 腕ひしぎ三角固め）

［ウェルター級　5分3R］
○サム・スタウト（カナダ／チーム・トンプキンズ）VS
ロブ・マクドナルド（カナダ／チーム・トンプキンズ）×
（3R 判定2-1）

［ヘビー級　5分3R］
○トム・マーフィー（カナダ／チーム・トンプキンズ）VS
ロブ・マクドナルド（カナダ／チーム・トンプキンズ）×
（3R 判定2-1）

©DAVE MANDEL



元ウェルター級王者、BJが約2年ぶりのUFC復帰! その相手を務めたのはUFC.54でフランク・トリッグに、UFC.56でショーン・シャークに完勝したサンピエール。しかしながら戦前の下馬評ではやはり、現王者、マット・ヒューズ打倒最右翼と考えられるBJが圧倒的に有利。実際、BJが序盤から打撃で圧倒したが、ガス欠。テイクダウンで下になるシーンが目立ち、スプリット判定で敗れる波乱となった。またメインでは、リアリティ・ショー番組『TUFシーズン2』のコーチ役を務め知名度が上がったフランクリンがキッチリとタイトルを防衛した。

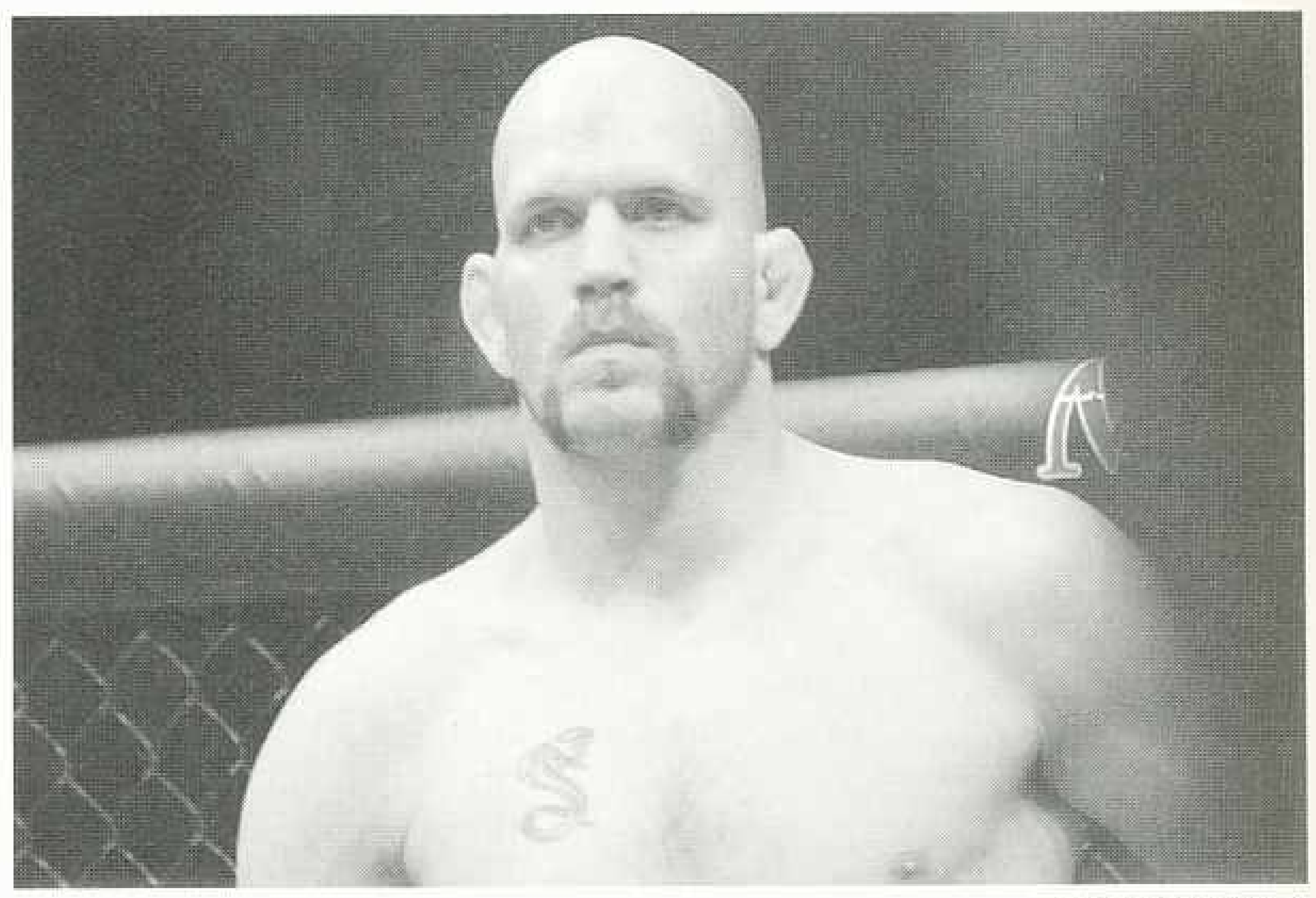
の『UFC57』を例に挙げると、グッズなどの販売を含むゲート収入が300万ドル以上あって、プラスPPVの購入が30万件もあって、UFCは大儲けしているんだからな。ほかにも、UFC曰く、彼らがオクタゴンを商標登録しているから、ほかの団体がオクタゴンを使用するとUFCにお金を払わないといけないとか。じゃ、アメリカ政府は一時停止の道路標識に八角形（＝オクタゴン）を使っているから、金を払わないとな!!（笑）。

――……うーん、スコットのたとえはイマイチ笑えないなあ。

スコット　あんたに言われたくないよ!!　結局、マットはそういったことも遠因になってUFCを出ていくことになったんだ。ミドル級のタイトル戦を約束されていたにもかかわらずに。いまは、『CAGE RAGE』で頑張っているけどね。

――そういえば、クイントン〝ランペイジ〟ジャクソンがUFCを参戦を匂わせているぞ。ジャクソンは『PRIDE・31』の試合後のコメントルームでも「ファイターとして稼げる時間は限られている」と言っていたよ。

リデルをプロテクトするなら ジャクソンはUFCに呼ばれないかも



支援を受けていたスポンサーを巡って、ダナ・ホワイトと対立したマット・リンドランド。現在、UFCでは、試合後にスポンサーに感謝の意を示すことも禁じられている。

©MMA WEEKLY

スコット　彼は「日本で闘っている限りは、スポンサーがつかない」とも嘆いていたけど、それはどうかと思うよね。日本だってボブ・サップみたいに大ブレイクする選手もいるし、ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ、ヴァンダレイらトップどころは好待遇で迎えられているだろ？　ランペイジは戦場を変える前に、マネージャーを変えたほうがいいと思うけどな（笑）。

――でも、ジャクソンは「俺の知っているファイターは100万ドルもらっている」とも言っていたよ。

スコット　それはチャック・リデルのことさ。チャックは、ザイエンス社のスポンサーがついて、100万ドルの契約を結んだんだ。

――それは凄いな～!!　とくに『PRIDE・GP2003』準決勝でチャック・リデルをぶっ飛ばしているジャクソンからすると、納得がいかないわけだ。

スコット　そうだね。でも。本当にUFCがランペイジをほしがっているかどうかはわからないさ。なぜなら、リデルはダナ・ホワイトの息子のような存在だろ。だから、プロテクトするはずだから、ジャクソンがUFCのオクタゴンに上がれるかどうかはわからない。

――なるほどね。とりあえず、リデルvsクゥートアー戦の結果次第で、ランペイジを含めたUFCライト級戦線に大きな変化があるかもしれないな。

スコット　リデルvsクゥートアー戦はとっくに終わってるよ!!　リデルの勝利でクゥートアーは引退。あんたはホントに知らなすぎ！

UFCの巨大化を探る
USA Cool宅急便

USA Cool宅急便 NEWS

カリフォルニア初の合法MMAイベント、大成功!!

3月10日、カリフォルニア州で初の認可を得たMMAイベントとなる『ストライク・フォース』がサンノゼで開催され、北米レコードとなる18,200人の観衆を集めた。歴史的興行となった今回の大会では、UFCのレジェンド、フランク・シャムロックが3年ぶりに復帰。また柔術の達人、シーザー・グレイシーは初の総合に挑戦、互いに拳を交えた。結果は打撃のキャリアで優るフランクがパンチで秒殺KO。大会は大盛況のうちに幕を降ろした。



©MMA WEEKLY

フランクが桜庭戦をアピール!!

「私たちは記録を作りました。とても嬉しいことです」と観衆に挨拶したフランクは、続けて「桜庭との試合こそ、いま、まさに望む試合です」と対戦をアピールした。今後については、「どうなるかわからないが、私のマネージャーは自分自身。これからもそうありたい」と発言。大きな組織に依存せずに、自らの道を歩むことを改めて強調。一方、「UFCとダナ・ホワイト社長は金のためにこの業界にいる人間。彼らは他人のことをなんとも思ってない」と痛烈に批判。「僕は彼らに自分の人生にかかわってほしくないし。僕はいまは恵まれたポジションにいて、彼らと仕事をする必要がない。彼らに手出しはさせない」

3・10『STRIKE FORCE Shamrock vs. Gracie』
米国・カリフォルニア州サンノゼ　HPパビリオン

○フランク・シャムロック vs シーザー・グレイシー×
（1R 21秒 KO）
○カン・リー vs マイク・アルトマン×
（1R 3分51秒 KO）
○クレイトン・グイダ vs ジョシュ・トムソン×
（5R 判定）
○ユージン・ジャクソン vs ジョルジ・オーティズ×
（3R 判定）
△マイク・カイル vs クリスズトフ・ソスジンスキー△
（1R 2分2 秒テクニカルドロー）
○ブライアン・エバソール vs マット・ホーウィッチ×
（3R 判定）
○ダニエル・ピューダー vs ジェシー・フジャラクジック×
（1R 2分2秒 裸絞め）
○ギルバート・メレンデス vs ハリス・サルミエント×
（2R 44秒 TKO）
○クラフトン・ワレンス vs ロイ・ロウス×
（2R 35秒 KO）
○ネイサン・ディアス vs トニー・ジュアレス×
（1R 3分23秒 TKO）
○スコット・グラハム vs クリス・イー×
（2R 2分37秒 裸絞め）

BJに勝ったサンピエール、ギャランティでは負けていた!?

ネバダ州アスレチックコミッションが『UFC.58』の出場全選手のギャランティを公開した。『PRIDE 武士道』でもお馴染みの強豪イーブス・エドワーズに勝ったマーク・ホーミニックは最低基準の2,000ドル十勝利者ボーナス2,000ドル。イーブス・エドワーズは8,000ドル。パンクラスに出場していたネイサン・マーコートは15,000ドル+15,000で合計30,000ドル。出場料が最も高かったのはBJで25,000ドル。BJに勝ったサンピエールは24,000ドルで、ギャランティでは僅差で負けていたものの勝利者ボーナスでダブルに。結果的に48,000ドル（約565万円）をゲットし、今大会で最も大金を手に入れた。ちなみにメインに出場していたミドル級チャンピオン、リッチ・フランクリンは16,000ドル+ボーナス16,000ドル。

選手へのギャランティは総額にして209,000ドル。前大会『UFC.57』では、チャックリデルとランディ・クートゥアーに500,000ドル支払っているため総予算はなんと666,000ドル。『UFC.58』の3倍に上がる。

新団体IFLにビッグネームがズラリ!!

MMAをプロスポーツとして進化させ、選手やコーチ、ひいてはMMA業界自体をNFLやNBA、またMLBといったメジャースポーツのレベルまで引き上げることを目標に掲げる新団体IFLが、チーム対抗戦を全面に押し出した大会を4月29日にアトランティックシティで開催する。大会では、コーチに加え、ライト級、ウェルター級、ミドル級、ライトヘビー級、ヘビー級の５階級のファイターをそれぞれ5人揃えた4つのチームが組織され、5vs5の対抗戦に挑むことになる。勝ったチームは、6週間後に開催される決勝戦に進出し、優勝を争う。4つのチームのコーチは、パット・ミレティッチ、バス・ルッテン、ヘンゾ・グレイシーにモーリス・スミスといったビッグネームがズラリ！　ファイターにもイヴァン・サラベリーやグスタボ・マチャドなど総合で実績のある選手が入っており、人気が出そうだ。キャラの強いコーチの起用など、TUFと同じ方法論が見え隠れするこの大会、はたして２匹目のドジョウはいるのか？

“霊長類ヒト科最強”の戦士が復活!?

2月末、American Championship Fightingは5月6日に行なわれるデンバー大会のカードを発表。なんとその中に、あの“霊長類ヒト科最強”マーク・ケアーの名前があり、ウェス・シムズを相手に復帰戦を行なうことが判明した！マーク・ケアーは鎮痛剤の摂取過多により生死の境を彷徨い、一時心臓が停止したほど。その後リハビリに成功し、04年には2年振りとなる「PRIDE.27」に出場するも、山本宣一の“魔性のDDT”で敗れるという結果に。あれからさらに2年。ケアーは本当に復活を果たせるだろうか。

インサイドコリア

인 사이드 코리아

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

黒社会のむごたらしい制裁、焼身自殺で負った障害を抱えてリングへ——

第1回 地獄の業火から蘇った“不死鳥”～パク・ヒョンソン物語～



文／大川“隊長”義之

格闘技はリング上の勝負がすべてである。しかし、選手がリング上で行なわれるその試合に対して背負うものが大きければ大きいほど、その試合は単なる“競技”以上の輝きを放ち、人々の心をつかんで放さない極上の“ドラマ”となる。

さて、ご存知の通り韓国人は“感情の民族”と言われるほどに、熱い。日本人よりも体温が2～3度高いのではないかと思われるほどに、何にでもムキになるし、一度何かにはまってしまえば我を忘れて没頭するという性格を持っている。

ここ数年、『PRIDE』やK－1をはじめ、格闘技がブームになりつつあるお隣の韓国でも、格闘技に対する思いは熱い。今回から始まったこのコーナーでは、そんな韓国格闘技界で熱く生きる男たちに焦点を当てながら、韓国格闘技のディープなおもしろさを紹介していきたいと思う。

今回は、“不死鳥”パク・ヒョンソンの物語である。

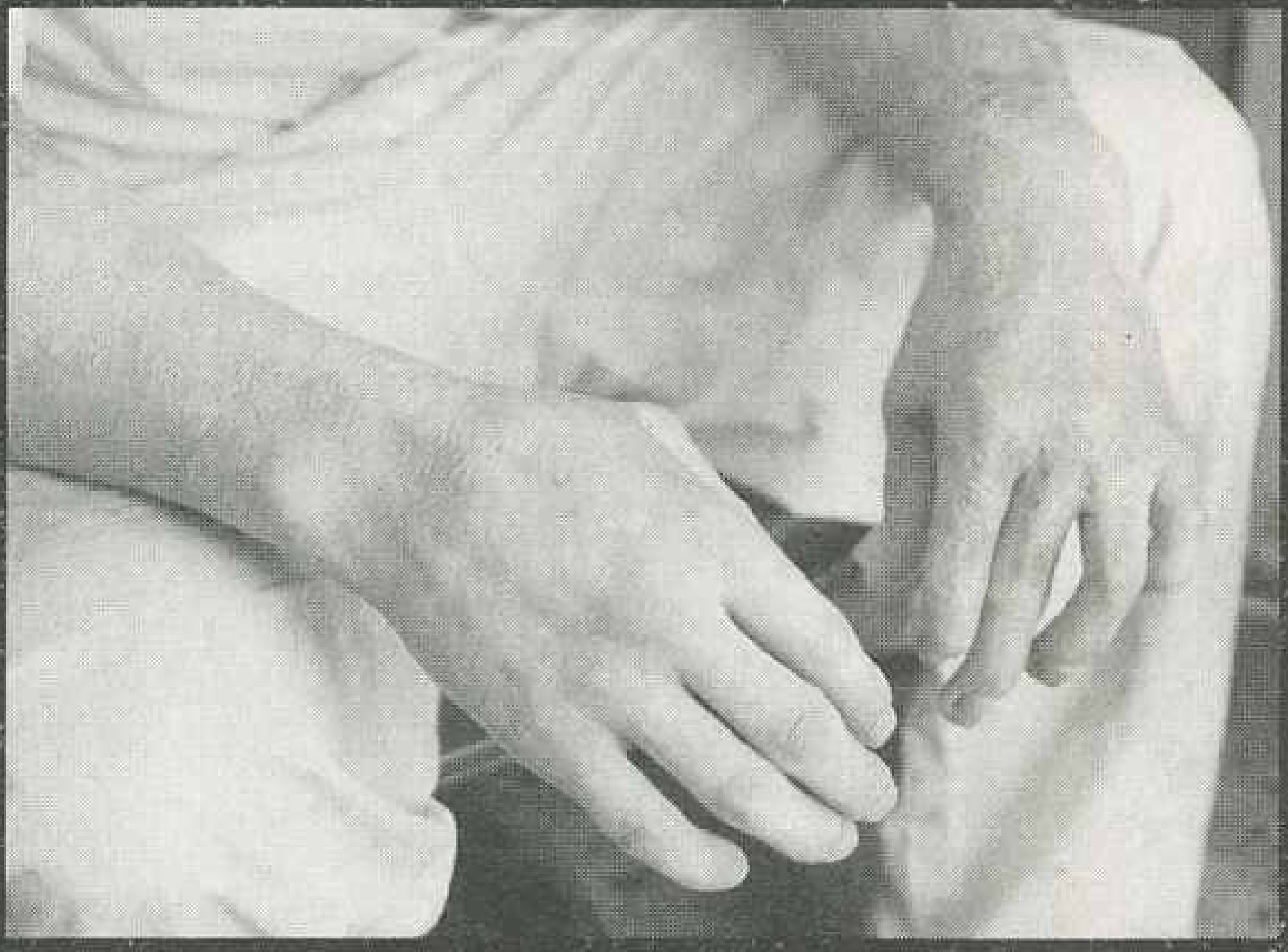
■不死鳥パク・ヒョンソン現わる！

パク・ヒョンソンは、03年に旗揚げした韓国の総合格闘技団体スピリットMC大会に出場し、その高いボクシング技術とともに彼の**波瀾万丈の数奇な人生**が、観る者に大きな感動を与えた格闘家である。現在はソウルの永登浦区で館長として『21世紀格闘技拳闘道場』を運営し、イ・ジェソン、イ・ウンスらの韓国格闘技界の若きスターたちを指導している。

03年、パク・ヒョンソンが初めてスピリットMCの舞台でリングに上がってガウンを脱いだとき、多くの観客はハッと息を飲んだ。それもそのはずだ。彼の全身にはひどい火傷の痕があったからである。とくに手首から上腕にかかる火傷は、とても激しいものでとても格闘技ができる状態には見えなかった。会場では**「あんな身体でどうやって選手として出場できるのか?」**というささやきがあちこちで聞かれた。実際、パク・ヒョンソンは立派な**第一級の火傷障害者**であり、現在でも毎日がその火傷との闘いである。**彼の身体は、10分動かなければ皮膚が固まってしまい、少しでも肌が何かに擦れると熱を帯びて激痛を発するという状態にある。**

しかし、それでも“不死鳥”パク・ヒョンソンは、リングに上がることを決意し、一回りも年齢の若い選手たちと、たぎるような闘志を燃やして闘い、ファンの涙腺を刺激するのである。

敵対する暴力団の組員によって、電動ノコギリでなんと足首のアキレス腱を切られてしまったのだ



火傷の疵が全身を覆っているパク・ヒョンソン。試合どころか、普通に生活することすら困難なはずだが――。

■かつては格闘エリート

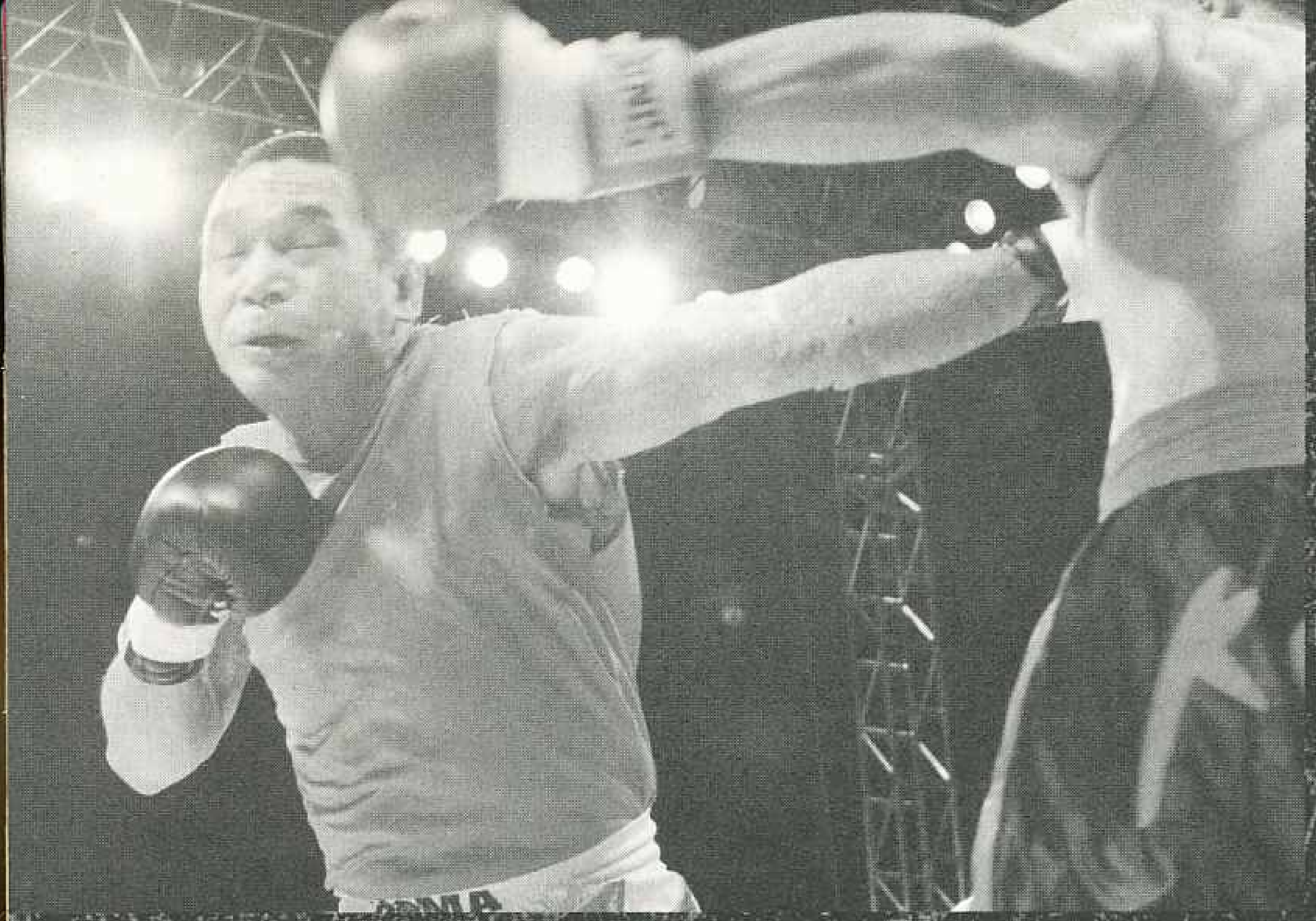
そんなパク・ヒョンソンも、最初から障害者だったわけではない。彼はかつて将来を嘱望されたボクサーであり、アマチュア含めて140戦以上を経験し、韓国国家を代表するほどの選手であった。

その経歴も華やかで、83年少年体育典優勝、86年には国家代表として『キングスカップ』に出場して銅メダル獲得、88年のソウルオリンピック代表選抜戦では、準優勝の成績を収めた。88年からは満を持してプロボクサーに転向、デビュー戦を白星で飾ると、破竹の勢いで5連勝を飾った。

■極道の世界から、転落の人生へ

しかし自分の“拳”一つでのし上がった彼は、リング外でも拳を統制できなくなり、次第にアスリートとしての表社会から足を踏み外し、血塗られたイバラの道を歩んでいくことに。**暗黒社会での活動**が増すにつれてパク・ヒョンソンは“ボクシング王”から“喧嘩王”へと変貌し、何度も獄中生活を繰り返すようになる。陰の世界で暗躍する彼の組織は、その勢力を拡大しながら首都圏にまで“縄張り”を広げていく。

しかし93年、パク・ヒョンソンは**敵対する暴力団の組員によって拉致され、電動ノコギリでなんと足首のアキレス腱を切られてしまう。**こうした彼を取り巻く血みどろの抗争劇はメディアでも報道され、“堕ちたヒーロー”としてボクシング界に拭いさることのできない汚点を残すことになる。ボクシング界の後輩や先輩の顔に泥を塗ってしまった罪責感が彼を自暴自棄にさせ、



ついにパク・ヒョンソンは**自ら命を絶つことを決意する。**ある日、彼は車椅子に乗って屋上に上がり、別れの杯として焼酒5本を空けた。そして、あらかじめ準備しておいた**ガソリンを全身に振りかけ、やがてタバコを吸い、ゆっくりとライターの火を自分の身体に近づけた……。**

次の瞬間、彼が目覚めたのは病院のベッドであった。朦朧とした意識の向こうで**「葬礼の準備を……」**という医者の言葉が聞こえてきた。しかし、彼の妻はかたくなに医師の言葉を受け入れず、「絶対に主人を死なせない!!」と、瀕死の夫をソウル大学病院に移すことにした。「助かる見込みはない」と言われたパク・ヒョンソンは、**身体の97パーセント**に火傷を負いながらも、**絶望的な状態から27回にもわたる手術を経て奇跡的に回復**し、九死に一生を得た。しかし自分の生命と引き換えに、彼は3年間の病床生活中に、**手の指二本の自由を失ない、足の指を切断することとなった。**もはや彼は、特殊な靴を履かなければ歩くこともままならない全身火傷を負った第一級の障害者パク・ヒョンソンとして生きてゆかなくてはならなくなったのである。

生命と引き換えに、手の指二本の自由を失ない、足の指を切断することとなった

■地獄からの復活

しかし自殺で見せた彼の勇気は、自らの生に対する執着心を取り戻すこととなった。

再び生きることを選択した彼は、障害を克服するために歯を食いしばってリハビリに努めた。そうした必死のリハビリによって、奇蹟のように彼の身が再び動き始めたのだ。98年以降、ボクシングの指導者として第二の人生を送り始めた彼は、4人の弟子にボクシングを教え、全国大会を制覇するほどまでに育て上げた。

その後、「中途半端にボクシングを辞めた」ことを心のわだかまりとして抱いていたパク・ヒョンソンは、**医者の制止にもかかわらず03年にスピリットMCに出場を決意する。**これは世間に対して、再び自分の"ボクシング魂"を見せるための闘いだった。スピリットMCの大会には、3大会に出場して2勝3敗と平凡だったが、それぞれの敗北は、掛け値なしに韓国ミドル級のトップファイターと渡り合った末に敗れたものである。どの試合でも絶対に諦めず、ド根性で相手の攻めを凌ぎ切り、闘いに対する常人離れした意思の強さを見せつけた。**一度死を見た人間にとって、この世で再び試合ができることは何よりの至福のときであり、リング上での痛みなどは自分の身体を焼き尽くす炎に比べれば、取るに足らないものであったのかもしれない。**

彼が次に挑戦したのは、キックボクシング大会である**KOMAヘビー級トーナメントであった。**78キロで出場したパク・ヒョンソンは体重差というハンディを華麗なボクシングテクニックでカバーしながら勝ち進んだが、準決勝で大成塾の新村優貴(現・悠羽輝)に、2RTKO負けを喫した。試合後、パク・ヒョンソンは「心配する家族の気持ちを考えると、もうこれ以上は試合に出られない」と述べ、二度目の現役生活に終止符を打った。

しかし、死の淵から生還した彼が、リング上で発信し続けた「どのような苦しい状況にあっても、諦めず闘い続けること」というメッセージは、多くの人にも確実に伝わったはずであり、命を振り絞りながら闘いに込めた彼のその"勇気"は、これからもさまざまな人の心の中で生き続けていくことだろう。



パク・ヒョンソン
1968年12月2日生まれ。177cm / 78kg。
チーム・フェニックス所属。　総合格闘技戦績、5戦2勝3敗。

インサイドコリア 韓龍格闘技情報

K−1 Korea MAX優勝者はイム・チビン!

2月26日に行なわれたK−1 Korea MAXでは、06年4月5日・東京で行なわれるWorld MAXの韓国代表の座をかけてGPが開催されたが、イム・チビンが危なげなく3試合を勝ち抜き、あらためて国内最強を証明した。豊富な国際戦での経験や学習能力の高いパフォーマンスは、他の追随を許さない安定感と群を抜いた強さを観ている者に感じさせた。

同大会では、小次郎の代役として、日本人の我龍真吾がKorea MAXトーナメントの1回戦に出場した。試合前のルールチェックのときにはメンチを切りながら対戦相手ムン・ジョンウンを威嚇し、試合で乱打戦を演じて会場をヒートさせたが、本戦ではドロー、続く延長ラウンドで惜しくも判定負けを喫した。

アンディ・サワーは韓国期待の若手選手キム・パンスと対戦したが、横綱相撲で3R3−0判定勝ち。ヴァージル・カラコダは現地で活躍するタイ人シンビ・テウンと対戦するが、予想外の苦戦を強いられ延長戦の末、2−1で辛勝した。

MARS KOREAが4月29日に旗揚げ大会を開催

GCMによる日本の新興格闘技プロモーションであるMARSが韓国での本格的な興行活動を行なうことを発表した。2月4日に日本の有明コロシアムでプレ旗揚げを済ませたMARSだが、韓国側の代表キム・ユンジョン氏は「あれはただの顔見せ興行に過ぎない。韓国での興行が本格的なMARSの活動の始まり」と韓国格闘技界への本格参戦を明らかにした。韓国では年間4〜5回の開催を予定しており、4月の大会では既存の韓国内格闘技プロモーションと摩擦のないかたちで、韓国で新たな人材を発掘し、日本、ブラジル、アメリカから世界的な格闘家を招聘して大会を行なうという。正式な記者会見は3月22日に行なわれる。

NEOFIGHTが復活?

スピリットMCと並ぶ老舗の格闘技団体であるNEOFIGHTが、本格的な復活興行を3月末に行なうと発表した。この大会の準備の一環として、2月26日にはNEOFIGHT初のアマチュア大会も実施し、多くの参加者が出場した。出場した選手の中には、プロと比較しても遜色のない技量を持つ選手もおり、評価の高かった選手は3月末の大会に出場させる予定だという。大会は立ち技打撃の試合と、グラウンド制限時間のある総合格闘技の試合の二種類に分けて行なわれる。すでに、全日本キックで伊藤崇文(パンクラスism)と対戦経験のあるハイパー・キック・リーの参戦が噂されている。

スピリットMCのトップファイターがBJペンのジムで出稽古

韓国唯一のメジャー格闘技プロモーションであるスピリットMCは、現在ケーブルテレビ会社XTMとのタイアップ企画で、スター格闘家育成のためのリアリティ番組『GO!スーパーコリアン』を放送しているが、この番組の中の主人公、ミドル級80キロ以下のイム・ジェソク、チェ・ヨン、イ・ジェソン、ペク・ジョングォンの四人がハワイにあるBJペンのアカデミーにおいて集中トレーニングを実施した。

UFCのリアリティ番組を意識した格闘技『GO!スーパーコリアン』は、4月22日に行われるスピリットMC8をクライマックスに、番組が全30話で完結することが発表されており、この大会で試合を行なう番組の4人がどのような成長を見せるかに関心が集まっている。

『UPPER』、『格闘伝説』に続いて、老舗『コング格闘技』も休刊!?

スーパーウルトラ大混迷

格闘技専門誌に何が起こっているのか?



どうする!? どうなる!?

紙媒体の現在を語る座談会

格闘技テレビ番組が高視聴率を獲得、一般的には“格闘技ブーム”と呼ばれてはいるが、
それを取り扱う紙媒体の現状は――
昨年末の『UPPER』、『格闘伝説』の休刊に続いて、なんと老舗『ゴング格闘技』までもが危機に貧している。
いったい格闘技マスコミに何が起こっているのか?　座談会でその深部をえぐり出す!

構成／ジャン斉藤　designed by Tani-yan（Two Three）

ジャン　どうする！　どうなる？　格闘技マスコミ！　ということで、今回は、老舗格闘技専門誌の『ゴング格闘技』の休刊騒動が勃発した格闘技専門誌の現状を事情通の皆さんに語っていただこうかなと。『ｋａｍｉｐｒｏ』編集部だけじゃ把握できてない現状もあるので、各媒体で活躍するフリーライターの橋本（宗洋）さんと、堀江さんルートで某フリーライターのストロングXさんに登場していただきます。

X　どうも。ストロングXです。とある事情のため、自分の立場は伏せさせていただきます（笑）。

ガンツ　ま、堀江ルートとは言っても、『週刊プロレス投稿常連会プレッシャー』の会員ではありませんので（笑）。

橋本　『プレッシャー』って、いまの読者には理解不能だよ！（笑）。

ガンツ　（無視して）しかし、『ゴン格』の騒動も凄いことになってるけど、今年に入ってからスキャンダラスな事件が立て続けに起きてますね。

橋本　この業界の〝厄年〟という感じさえするよ。まず大晦日に谷川（貞治）さんがホリエモン（堀江貴文）とカラオケに行った直後にライブドア事件が起きたでしょ。

ジャン　谷川さんが『ｋａｍｉｐｒｏ』のインタビューで掲げていた今年の目標「打倒・ホリエモン」を図らずも達成してしまったという（笑）。

橋本　で、ボビー・オロゴンの暴行事件が和解で無事済んだかと思ったら、須藤元気の箱根合コンを写真週刊誌にスクープされて。まあ、それは微笑ましくていいんだけどさ。続いて山本〝ＫＩＤ〟徳郁が修斗の代々木大会のバックステージで中山リングドクターに暴行……いや、暴言事件を起こした、と。

X　暴言を吐いたのは事実だけど、暴行の容疑に関しては、ＫＩＤの足の裏が中山リングドクターに触れた、ということだけども。

ガンツ　ま、ボクもロシアで前田日明さんに正拳突きを頂戴したのも、ある意味、手の甲が胸に触れただけですからね（笑）。

ジャン　（急に小声になって）極めつけは、3年前の『猪木祭り』の裏側で黒社会が暗躍していた件ですよぉ。

橋本　きたねえ、ついに。

ジャン　（さらに小声になって）まあ、この件についてはスペースがあまりないので、次の話題に移りたいんですけども。

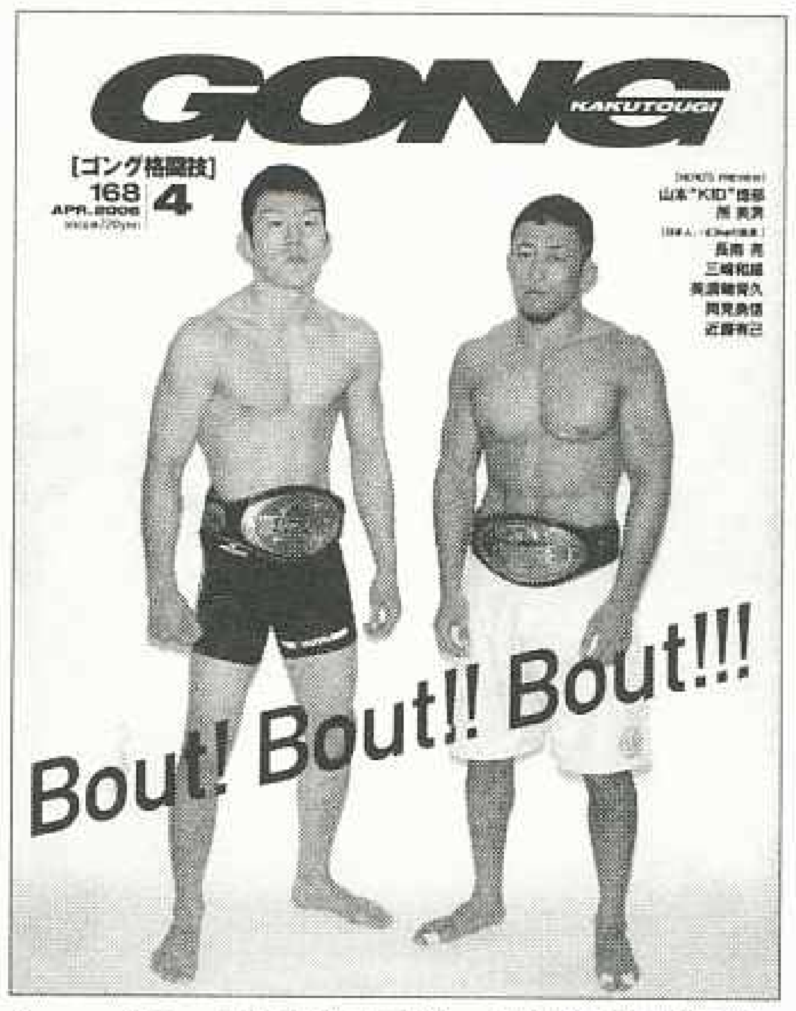
ガンツ　心配しなくてもページはたっぷりあるよ！（笑）。さ、続けて。

ジャン　う、う～ん。え～、おもいきりはしょって説明すると、『猪木祭り』を取り仕切っていたＫ氏を黒社会の方が脅した、と。

一同　…………（無言）。

ガンツ　……さ、よ～くわかったから、次の話題に移ろうか（笑）。

ジャン　真面目な話、いろんな報道が真偽問わず飛び交ってるので迂闊なことは言えないけど、この業界とはなんの関係のない第三者だったら、非常に興味深い事件ですよね。



ショック!!　4月号発売直後、休刊騒動が勃発した『ゴング格闘技』。次号発売日予告も記載されていたので、版元の日本スポーツ出版社が急転直下で判断したことが窺いしれる。とりあえず、3月は休刊、4月からリスタートが予定されている。

橋本　充分、迂闊なこと言ってるよ（笑）。

ジャン　幻に終わった橋本さんの『猪木祭り』出場の件も、便宜を図る、図らないのトラブルの末のことだったんですか？

橋本　あれは体重的にＤＤＴの橋本友彦と間違われただけだよ！　しかし、今年に入ってから、格闘技界のダークサイドがわりと表に出てきてるよね。

ガンツ　最初からそういう業界だったりするから、むしろそういったダークサイドがいままで出てこなかったのが不思議なぐらいですけどね。

橋本　でもさ、『ｋａｍｉｐｒｏ』に13歳の中学生の女の子から「所くんカワイイ、五味さんカッコイイ」というハガキがわんさか来たり、『ｋａｍｉｐｒｏ』の五味や所のページを切り抜いて下敷きに入れたりしてる女子がいる反面、ダークサイドには黒社会の方々がいるわけでしょ。

ジャン　つまり、違う意味でページを切り抜きたいダークな記事が掲載されてるわけですよ（笑）。

橋本　どんな業界でも膿はあるんだけど、この業界は〝村社会〟だから、いままで膿を出してこなかったというだけの話ですね。野球界なんかだと一場（靖弘）の金銭受注問題でナベツネ（渡辺恒雄）が巨人の球団代表を辞めちゃったりするんだけど。

ガンツ　あの東京ドームがダブ屋とくっついていたことが問題になったりね（笑）。

橋本　あと海外サッカーの八百長試合なんかも普通に報道されてるし。ほかの業界は頻繁に膿を出してるんだよね。

X　ただね、プロ野球やサッカーなんかは格闘技と違って、ジャンルとして確立されてるから。最近ニュースになったヤクルト私設応援団と暴力団の関係なんかも、ヤクルトの球団自体が一年間の活動禁止にはならないし、ヤクルトや野球自体がバッシングされるわけじゃない。でも、格闘技の場合は同一化されるんですよ。「お前ら同じ穴のムジナだろ！」って（笑）。

橋本　なぜかマスコミまでもがうしろ指を差される。因果な商売ですねえ。あ～、ヤダヤダ。

ジャン　そういう嫌な流れがある中で、老舗格闘技専門誌『ゴング格闘技』の休刊騒動が勃発しました。昨年4月のリニューアルからマニアのあいだではリアクションが良かった誌面構成だけに、ショックを受けている読者も多そうですね。

X　まあ、それはマニアというか、ごく一部のマニアの評価だと思うんですけど。とにかく宮地さん（前・編集長）は本当に気の毒でしたよ。2月号の作業が完全に終わって次号の制作に取りかかろうとしたら、上層部から休刊を告げられたらしいから。

ガンツ　だから2月号にはちゃんと次号予告が載ってるんですよね。連載物にも「以下次号」って告知してあったし。これ、出版界のルール的には掟破りな騒動ではあるんですよ。

橋本　それだけのゴタゴタがあったということ。今回の騒動の流れをイチから説明すると、昨年末に休刊した『格闘伝説』のグループ、つまり高須基仁&基一朗親子が日本スポーツ出版社から新しい格闘技雑誌を出すという噂があったんだよね。

ガンツ　噂どころか、こないだのK－1MAXへ取材に行ったら、プレスルームの俺の隣席に『ＧＯＮＧ battle legend』という紙が貼ってあったから、どこの媒体だろうと思って日本語で読むと『ゴング格闘伝説』だったという（笑）。

ジャン　『ゴング』と『格闘伝説』のコラボだ！（笑）。

X　俺が耳にした『ゴン格』の周辺情報から も、その動きが本当だとわかった。それで日本スポーツ出版社は『ゴン格』と『格闘伝説』を抱え込んで、一カ月に二誌編むんじゃないかって言われてたんですよ。

ガンツ　ところが、上層部は『ゴン格』を斬る決断に出たと。

橋本　そうそう。編集部員も入れ替えて、3月は休刊して4月からスタートするかたちでね。

X　ところがところが、高須親子体制が現実化することなく、『ゴン格』副編集長の松山氏が中心となって『ゴン格』が復活することになった。

橋本　ところがところがところが、元鞘という決着でもなく、宮地さんとそのブレーンでフリーの高島（学）さんたちは『ゴン格』から離れると。

ガンツ　ところがところが……。

ジャン　（さえぎって）あ〜、〝ところが〟ばっかで全然、わからないですよ！

橋本　ま、結論からいうと、結局は一回休みで体制が変わったということだね。『ゴン格』は『ゴン格』のままで、『格闘伝説』チームは加わらないと。この『kamipro』が出る頃には、また違った展開になってるかもしれないけど。

ガンツ　そもそも大晦日に〝打倒・紅白！〟を目標にするほど格闘技に勢いがあるのに、その年末からいったい何誌なくなったんだという話ですよ。

X　まあ何をもって〝格闘技ブーム〟というのか？　という定義づけの問題もあると思うんですけど。ブームだからテレビの視聴率もいい、新聞も雑誌も売れるっていうわけじゃない。全部を内包してるわけじゃなくて、あくまでも一部にしか恩恵をもたらしていないブーム。

ジャン　ボクシングの亀田興毅にしたって、視聴率は怪物的な数字を獲れるけど、会場の両国国技館は新日本並みの入りだったみたいですし。どこの景気もすべてに及んでるわけじゃないんですね。

橋本　とくに紙媒体はまれに見る大恐慌だよねえ。昨年の初頭、元『ゴン格』編集長の舟木（昭太郎）さんが白夜書房を版元に立ち上げた『UPPER』は事実上の休刊なんでしょ？

ガンツ　『UPPER』は6号出したところで休刊みたいです。いまは『UPPAR CALSS』というフリーペーパーを制作してますね。

橋本　で、高須親子の『格闘伝説』も休刊中。『GONG battle legend』はどうなることやら……。

ジャン　『UPPAR』や『格闘伝説』の休刊の陰には売り上げ的な問題も見えるんですけど、『ゴン格』の場合はちょっとケースが違うところもありますよね。

X　この騒動のおおもとは、日本スポーツ出版社内部の問題があるよね。2年前に竹内（宏介）さんが会社をいまの体制に売却してから、大胆な方針転換が立て続けにあって辞めてる人間も多いでしょ。

ジャン　GK（金澤克彦）、そして『ゴング』の編集長だった吉川さんも急に辞めてしまって。

橋本　しかしさ、『ゴング』もそうだけど、『ゴン格』だってこれまでマット界の文化を担ってきた媒体でしょ。結局、『ゴン格』は続行することになりそうだけどさ、まずは「なくしちゃいけない」という方向に進むべきはずなんだよ。へんな幕引きにならなかったことは不幸中の幸いですよ、ホント。

あくまでも一部にしか恩恵をもらたしていない格闘技ブーム（X氏）

X　もちろん、『ゴン格』内部にも問題はあったんだよ。次々に編集部員が倒れたりしたし、最後は編集スタッフが一人しか残ってなかったから。

ジャン　『ゴン格』ってそんなに編集業務がハードなんですか？

橋本　俺も『ゴン格』で仕事したことあるけど、月刊誌の分量を週刊誌並みのペースで作るね。

ガンツ　そこは『kamipro』も同じですよ！

橋本　胸を張るところじゃないよ！（笑）。で、なおかつできるだけいいものをと思ってやるわけだから、仕事はグチャグチャになる。

ガンツ　そこも同じだ（笑）。

橋本　宮地さんや高島さんが言ってたのは、「ここの仕事はベトナムのジャングルみたいなもんだから。それをみんなで切り拓いていこう」と。

X　それで必死に頑張っていたら、上空から味方の戦闘機が攻撃されたと（笑）。

橋本　『地獄の黙示録』かと思いましたよ（笑）。で、古参兵はジャングルでサバイバルする術を心得ていたけど、新兵は次々に倒れてしまって。

X　結局、『ゴン格』が売れていれば、今回の騒動も起きなかったと思うんですよ。

橋本　利益が上がってりゃ上層部だって宮地さん体制を斬るなんて選択しないはずですし。

X　志を持って世に出したけどっていう。でも、『Nambar』だって創刊して10年間は赤字だったっていうんだから。なんでそれが定着したかっていったら、母体の文藝春秋社が辛抱強く出し続けたからだよ。

ガンツ　『kamipro』の場合も会長（山口日昇）が借金抱えながらしつこく出し続けたからですからね。

橋本　『ゴン格』は経費がかかりすぎたと聞いたけど、日本スポーツ出版社としては辛抱できなかったということでしょう。「これは扱うべきだ」と思ったらガンガン海外出張に行くからね。

ガンツ　でも、それで扱うのはたったの2ページぐらいでしょ。採算的にはまったく合わないというか、ウチだったら海外取材したら30ページぐらい作りますよ（笑）。

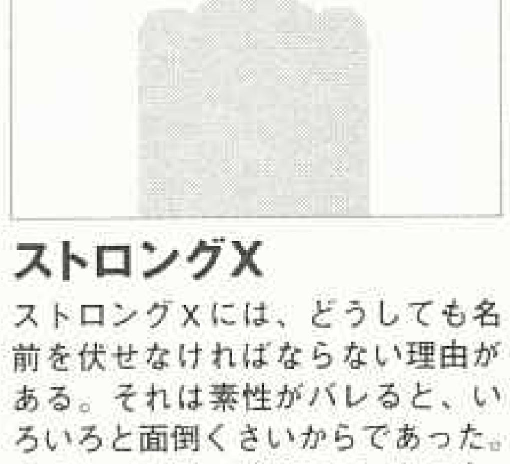
橋本　やっぱり最先端の情報を載せて業界

明日は我が身な座談会出席者

プロフィールはすべてTBS格闘技番組の煽り映像ふうにお読みください



ジャン斉藤
『kamipro』編集部ジャン斉藤の前に、編集者殺しの"最強の敵"が立ち塞がった。締切ド直前の座談会まとめ――しかも2本である。おこし文字を見てパソコンの前で固まった。都合5万文字強。ジャン斉藤30歳、4月上旬発売予定の吉田豪本も抱えたまま、どうなる――



ストロングX
ストロングXには、どうしても名前を伏せなければならない理由がある。それは素性がバレると、いろいろと面倒くさいからであった。しかし、親友・堀江のためにも、この勝負は避けられない。ストロングX32歳、素性を隠したまま愛妻の待つ家に帰ることは――



橋本宗洋
フリーライターの橋本宗洋にはどうしてもこの仕事をやり続けなければならない理由がある。なぜならばお金を貯めて年に一度のタイ旅行に出かけることと、毎日お腹いっぱい食べるため。そして、主戦場だった『SRS-DX』復刊……橋本宗洋33歳、負けられない――



堀江ガンツ
『kamipro』編集若頭の堀江には、この仕事をやり続けなければならない理由がある。それは、風呂上がりのビールをおいしく浴びるためである。堀江ガンツ32歳、ビールを飲むまで寝ることは許されない。故郷・宇都宮では両親が彼に祈りを捧げている――

をリードしたいっていう思いが強かったんだろうね。でもほら、最先端って細いじゃない。

ガンツ 先に行けば行くほど、行き詰まって。

橋本 せめてコスト管理や人材管理の面をうまく裁ききっていればという悔いは残っているだろうね。

ジャン 実際、『ゴン格』がなきゃないで業界的にも困りますよね。たとえばウチの『USA cool 宅急便』にしたって、『ゴン格』の堅めでコアな海外情報があるから成立してるんであって。

ガンツ もっと真面目にやれ! って話になるよね。あと前に『ゴン格』が格闘技名鑑みたいなムックを作ったじゃないですか。おそらく採算は合ってないんでしょうけど、こちらとしたら資料記事として大変助かりますから(笑)。

橋本 俺もそういう雑誌があったら読むよ。でも、それはやっぱり資料としてであってね。「読者」としてはとっつきにくい。凄い角度から攻めてるなあと思ったよ。

ジャン リニューアル後の宮地&高島体制は、マニアックの中のマニアックな誌面構成でしたね。

X ホジャ・グレイシーの表紙にはビックリしたよなあ。先物買いにもほどがある(笑)。

ジャン あと、『武士道』で打撃決着が相次いだときなんて、ちゃんと打撃偏重主義への警鐘を鳴らしてるんですよ。ただ、それが観客論にも偏ることに対してのアンチテーゼと同時に、どうも選手への要求も含まれてるから、理想の格闘技を求めるその姿勢は凄いなって。

ガンツ ハードルが高いよねえ。

ジャン 高すぎてボクにはさっぱり理解できませんでしたけど(笑)。

X それが当時の『ゴン格』の価値観だったんでしょうね。『ゴン格』はそんな問題提起が多すぎたと思うんだよ。問題提起のための問題提起っていうか。『kamipro』読者にはわかりづらい話だろうと思うけど、こないだのシュートボクシング(2月大会)で感じた最大のテーマが「外人を育てなきゃダメだ」っていうのはどうなのよ?

ジャン 本当に『kamipro』読者にわかりづらい話ですね(笑)。

橋本 (無視して)「ほかの雑誌がやらないことを」ってスタンスはわかるんだけどさ。『ゴン格』にとっては「お客さんが読んでおもしろいと思うかどうか」とか、「観客が沸くかどうか」というより、自分たちの理念に沿ったもののほうが大事だったんだろうね。

X 志は立派なんだけど、ファンに対する提示の仕方がもっと工夫できたと思う。「こういう見方しかないんだよ。これだけ見てればいいんだよ」というより、「こういう見方もおもしろいですよ」のほうがわかりやすいでしょ。

橋本 それで『kamipro』はどうなの? 売り上げの問題とかさ。

ガンツ どうなんですかねえ。

橋本 なんでそんな他人事なんだ(笑)。いまや『kamipro』は"与党"ですよ! しっかりしないと。

ジャン いや、ボクらはスポーツ平和党的な位置でいいんですけど(笑)。

橋本 いやいや、そういう意味でも「世の中が乱れたときこそ俺の出番!」(byアントン出馬所信表明演説)ですから(笑)。

ガンツ でも、ウチのアントニオ猪木は編集部とは違うところで、ハッスル中なんだけどね(笑)。まあ、『kamipro』は10

マニアックなことをやっても生き残る術なんていくらでもある(橋本)

年間、現状維持の別の意味でオバケ雑誌なんだけど、周りの部数はガクンと落ちてるから、周りからは凄く売れてると思われてるみたい。

橋本 雑誌が売れない理由は挙げればキリがないんだろうけど、『格闘伝説』に関して言うと、格闘技ブームだと思ってうっかり参入してしまったという感じだよね。そもそも格闘技雑誌のパイはそれほど大きくないでしょ。

X 確実に保証できるベースは、やっぱり後楽園ホール規模でしょ。

ジャン 関東圏在住の純格闘技ファンの数は、中量級リニューアル一発目の『武士道・其の七』の観客数が限界だと思うんですよ。

橋本 あのときは有明コロシアムで7〜8割の入りだったね。

ジャン あの大会はメンツもそうだし、興行のテーマ的にも格闘技ファンは絶対に観ておかないといけないムードがあったから、絶好のサンプルになると当時は思ったんですね。

橋本 3年前で言えば、『DEEP』有明コロシアムの入りがMAXかなあ。満員には全然なってなかったけど。

ジャン あの当時よりはさすがにパイは増えてますが、"格闘技ブーム"と呼ばれているいまの流れは、興行論とライブ観を重きに置いた『PRIDE』や、視聴率狙いのテレビ番組としてシフトしたK−1の勢いがかたちになっただけで、純粋たる格闘技ブームというわけじゃないですよね。

ガンツ それはマニアを対象に絞った『MARS』の客入りを考えたら、よくわかるはずだし。ウチだって『U−STYLE専門誌』にしたら大変なことになる(笑)。

橋本 いまだったら『MARS』の観客数をベースにどうやってライト層や一般層を引き込むかという作業が必要なわけでしょ。興行側も専門誌も。だいたい『週刊ベースボール』がどのくらい売れてるんだって話ですよ。格闘技ファンで格闘技雑誌を買っている率と、野球ファンで『週刊ベースボール』を買ってる率は、同じぐらいのパーセンテージだと思うから。どのジャンルでも専門誌まで買うほどのファンってそんなに多くないんだよ。

X だからいまの格闘技は、どちらかというと野球の方向に進んでると思うんですよ。テレビを観て、翌日のスポーツ新聞で試合後のコメントを読めばいいやぐらいの感覚。本当はサッカー化しなきゃダメなんだけど。

ガンツ サッカー化というと?

X サッカーはヨーロッパとブラジルがズバ抜けて強いじゃないですか。海外好きのディープなマニアがどんどん増えてるわけだよ、この5〜6年のあいだに。そのファンが固定化したから、サッカーは活字媒体が生き残る術を見つけられたんです。

橋本 そういう能動的なファンによって、サッカーってワールド系の紙媒体は売れてますから。

ジャン 日本のJリーグを扱っても売れないって言われますね。昨年のJリーグ観客動員数は過去最低だって聞きますし。

X だから日本より、ヨーロッパや南米サッカーを扱ったほうが確実に売れる。格闘技も同じで日本人選手より、ノゲイラやヒョードルにニーズがあると思うんだよね。要はそれだけ『PRIDE』のキャパがデカくなっている。『PRIDE』自体がワールドカップ化しているというか。

橋本 サッカーでいえば、チャンピオンズリーグを日本で開催しているみたいなもんで。

ガンツ　いや、ホント贅沢な環境ですよ。

X　世界の総合シーンを見渡してみても、なんだかんだ言われながら『PRIDE』が総合格闘技の最高峰の舞台だってことはたしかだからね。

橋本　でも、老舗の格闘技雑誌は、そんな格好の素材が目の前にあるのに、ただ指をくわえて眺めているところがあったんだよ。誌面にうまく反映できていないというかさ。

ジャン　要は、興行論を大前提とした格闘技イベントの流れにうまく乗ることができなかった。うまくリアクションが取れなかったという。

X　それはじつを言うと、格闘技雑誌が格闘技だけを扱うようになってから、まだ5〜6年しか経ってないからなんだよね。それまではプロレスと格闘技がゴッチャだったわけだから。

ジャン　ああ、格闘技専門誌が純粋な格闘技だけを取り扱った場合、どういう指針を示すべきか？　という思考がされたのはつい最近になってからなんですね。

ガンツ　そこで『格通』の朝岡（秀樹）元・編集長は"NO FAKE"を旗印に格闘技原理主義的なことをやり始めたわけですよ。朝岡さんは『ゴン格』のいわばパイオニアだった。しかし、朝岡さんは一定の読者のニーズには応えていたけれども、残念ながら部数を落としてしまって。

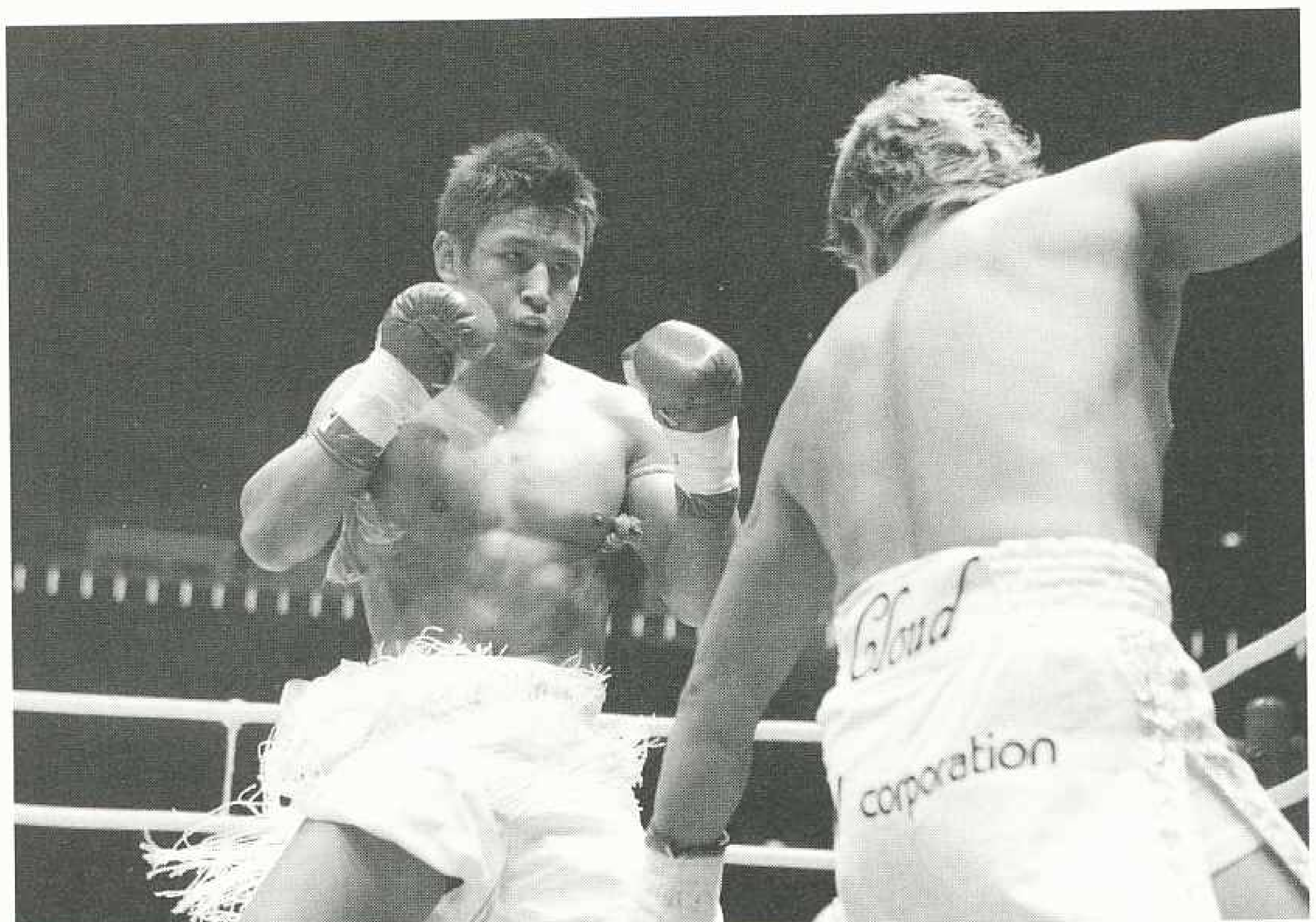
橋本　パイオニア戦志の剛竜馬にしろ、パイオニアは報われないもんだねえ（笑）。

ジャン　朝岡さんの元を辿ると、前田日明・女子便所説教事件で有名な山田（英司）さんになるんじゃないですか？

X　山田さんの影響はあったろうね。山田さんがやっていた『フルコンタクトKARATE』はUWFに対して、これはニセモノだってことをハッキリと主張していた雑誌ですから。絶対にリアルファイトしか扱わないという。

橋本　でも、その山田さんも『フルコン』を追われて。山田さん自体は才能がある人だから生き残っているけど、雑誌そのものは潰れつつあったわけじゃない。そうするといまの『ゴン格』の方向性は、本当に目の肥えたファンに向けた雑誌にありがちな運命だと思われがちだけど……。

X　いや、どんなにマイナーなものでも提示の仕方に工夫がされてれば、生き残りますよ。



摩裟斗を筆頭に、続々とテレビスターを生んできた昨今の格闘技界。一般層が格闘技に入り込む窓口、見出しとして充分に機能。新規ファン獲得のしやすさでは、理想的な環境であり、パイは増え続けているはずが——？

橋本　いや、ホントそうなんですよ。たとえば、白夜書房から『野球小僧』という雑誌が出てるんだけどさ。とんでもなくマニアックなことをやっていても、出続けてるのは採算が合ってるからだろうし、別冊も出しまくってる。特集の切り口とか、タイトリングもうまい。何せ巻頭特集が『空振り鑑賞』だから（笑）。そりゃ手に取っちゃうよ！

ジャン　特集『空振り鑑賞』（笑）。それはちょっと野球を知ってる人だったら、間違いなく反応すると思いますよ。

橋本　おもしろそうでしょ？

ジャン　で、ほかにはない切り口の新鮮さもプラスになってる。そんな鉱脈は格闘技にもあると思いますか？

X　あると思う。そういう鉱脈が絶対にあるはずだ。だから、格闘技専門誌のマニアックさって、結局は自己満足な部分があると思うんですよ。

橋本　そうそう。マニアックなことをやっても生き残る術なんていくらでもありますよ。『映画秘宝』も、アカデミー賞とかキネマ旬報ベスト10に入るような映画とまったくカブらない映画を扱ってても全然続いているし、おもしろいじゃない。だからディープにはディープなりの道はあるのよ。

ジャン　要は切り込む角度の問題になってくるわけですね。

X　ただ、格闘技マスコミのみなさんやジャンルも含めて、その道はまだ誰も見つけてないんですね。

橋本　それに、じつはメジャーへの針の振り方という面でも、試されてないことはたくさんあると思うんだよ。だって、専門誌の中で『kamipro』以外でおもいきりメジャーな方向に針を振った雑誌ってなかったよね。

ガンツ　『kamipro』はメジャーな方向というか、じつはどこまでいっても隙間産業なんですよ。『PRIDE』だってなぜかほかは大々的に取り扱わないじゃないですか。

ジャン　『PRIDE男祭り』の小川直也vs吉田秀彦なんていう大一番ですら、どの雑誌もまともにページを割いてなかったですよね。

ガンツ　おかげでほぼ独占させてもらっちゃいましたけど（笑）。ハッキリ言って、格闘技の雑誌なのにその年の大晦日最大の大一番を扱わないのは、怠慢ですよ。べつに小川vs吉田戦を煽らなくても、その雑誌なりの視点で斬る方法なんていくらでもあるんだから。

ジャン　中尾（芳広）さんも、『格通』や『ゴン格』は扱わない。やっぱり格闘技マスコミはプロレス色が濃いマガイモノには触らないという理念があるんですか？

橋本　『ゴン格』にはあったんじゃないかなあ。

ジャン　『ゴン格』には（笑）。

橋本　『ゴン格』は殉じるべき理念が見えるよ。続いてるのに殉じるべき理念のない雑誌ってあるからね。

X　フフフ。

橋本　例になるかわからないけど、最近『格通』でライターや編集者のフリーテーマのコラムがスタートしたんだけど、ある人が「ペンは拳より強し」とか「言葉の暴力」とか、要するに選手をリスペクトしたうえで書かなきゃいけないんだってことを書いてるわけ。そう思ってる人はわりと多いんですよ。だからなんかアクシデントがあったときに、それを茶化すような記事はまかり

ならんという潜在意識があると思うんだよね。

ガンツ　それはリスペクトっていいながら、じつは選手と自分を同レベルに見てるからじゃないの？　ボクらは取材してても、ある種、選手は別世界の人だから。批判も賞賛も肥やしにするのがプロでしょ。それなのに、そのコラムの言いたいことって、それぞれが同じ世界にいて、たとえば俺が橋本さんのことを悪く書いちゃいけないっていうようなレベルなんですよ。

橋本　それは理念でもなんでもなくて、単なる遠慮！

ガンツ　ちゃんと書けば、たとえ茶化してるように見えたって大丈夫なはずだしね。

ジャン　それは『格通』もわかってると思いますけどね。なにしろ川尻（達也）の金的悶絶シーンを表紙にして「このせつなさを愛せますか？」ってコピーを打ってるぐらいだから（笑）。

ガンツ　ガハハハハ！　ほとんどマゾだよね（笑）。

X　これはいいコピーだよなあ（笑）。

橋本　いやあ、俺は絶句したね。

ジャン　ボクもあまりにビックリして、『プロ野球・珍プレー好プレー』のみのもんたふうのナレーションで音読しちゃいましたよ！（笑）。

X　まあ、理念があるかどうかはともかく、いまの『格通』はあらゆる競技を網羅しているけど、「こう観たほうが楽しいですよ」という提案はないよね。

ジャン　そういう編集方針なんですかね？

X　編集方針なのかもしれない。ただ、何でも揃っているデパートではあるけど、ファンの道しるべにはなってないんだよね。

ガンツ　デパートというか、ドンキ・ホーテばりにメチャクチャに記事を詰め込んでる気もしますけど（笑）。

X　そうそう（笑）。ドンキ・ホーテはいろいろ商品が置いてあって楽しいけどさ。一番の問題は、どこに何があるのかがわからないことだよね。いろいろ散らばって目移りするし。



昨年の大晦日『ＰＲＩＤＥ男祭り』の大一番、小川直也vs吉田秀彦戦を、プロレス誌を含めどの媒体も恐ろしいほど誌面を割いていなかった。プロレス（or ハッスル）アレルギーがあった？　これほどまでにドラマ性の強い試合は100年に一度あるか、ないか。もったいない話である。

橋本　日本スポーツ出版社もそうなのかもしんないけど、ベースボール・マガジン社には広く日本のスポーツ文化に寄与するみたいな社是みたいなのがあって。「小さい大会も拾うのが俺たちの仕事」という気概みたいなものはあるんだ。中尾さんは拾わないんだけど（笑）、空手も扱えば、キックボクシングも扱って。だから、何か一つをガッと膨らませることができないんだよ。でもまんべんなさすぎて、全体に散漫な印象を残してる。

X　そういうこともあって、谷川貞治編集長時代に比べるとメッセージ性が凄く薄れてるよね。

ガンツ　『kamipro』も含めていまの格闘技雑誌は、谷川さん時代の『格通』をもう一度、読み返すべきだと思いますね。それはなぜかというと、あの頃の『格通』って、ファンにとっては知らない選手ばかりが誌面に出てるんですけど、そいつらがすんなり大物に感じられた誌面の色があったんですよ。そして試合を観てみたいと思わせる。ロブ・カーマンにしても、長田賢一にしても、チャモアペット・チョーチャモアンにしても。

X　当時の『格通』って、格闘技版『東スポ』みたいなノリがあったよね。誇張120パーセントなんだけど（笑）、それをきっかけにチケットを買って会場に行ったり、記者になってる人間がいたりしてる。

ガンツ　日本にグレイシー柔術を根付かせたのは、谷川さんとアンザイ・グレイシー（安西伸一）の力と言ってもおかしくないですよ（笑）。

X　同じ柔術でも『ゴン格』とは捉え方が180度違ったわけで。『ゴン格』は技術の深みを追求して、谷川さんはグレイシー柔術の持つ神秘性や幻想を膨らませていったわけですよ。

橋本　ホイスの「兄貴は俺の10倍強い」とか、そういう発言やエピソードを拾って拡大して読者に読ませてた。選手や試合の物語を紡ぐ作業をちゃんと誌面上で成立させてたってことだよね。

ガンツ　ボクだってね、ハッキリ言ってロシア勢の記事のときは、思いきり誇張して書いてますよ！（笑）。

橋本　ダハハ！　なにを言い出してるんだ（笑）。

ジャン　その谷川さんは『格通』を辞めてからサムライTV！と伝説の『格闘パンチ』を経て、『SRS−DX』を創刊することになりますね。

橋本　じつは『SRS−DX』の存在からあったから、当時の『格通』が『PRIDE』やK−1に一歩引いていたと思うんだよね。

ガンツ　それは絶対にあるね。

橋本　だって『格通』にいた谷川さんがやってる雑誌で、しかも柳沢（忠之／ローデス社長、ちっちゃい『紙プロ』元・発行人）さんも絡んでるなんつったらさ、意識せざるを得ないんだろうな。

ガンツ　そうなったら同じ目線に立つもんかって思うはずでしょ。

橋本　聞いたことあるんだけどさ、『格通』の記者たちは『SRS−DX』や『kamipro』は、『PRIDE』に特別扱いされてると思ってたみたいで。いまだに『kamipro』に対してもそういう目で見てるはずだよ。

ジャン　ふ～ん。声を大にして言いますが、特別扱いされてませんよ！

ガンツ　大きな声で誤解を招く発言するんじゃないよ（笑）。

橋本　選手のインタビューとかも、『SRS−DX』や『kamipro』は別口の豪華な部屋でのんびりとやってると思われてたんだよ。あきれる話だけど。

ガンツ　ガハハハハ！　スイートルームとかで収録してると思ったんだ（笑）。

ジャン　それって、SWSやプロレスバブ

ル時代にいい思いをしたマスコミの方々の影をいまだに見てるんじゃないですかね。

橋本　まったくさ、どんな妄想の目で俺たちを見てるんだって感じだよ。

ガンツ　まあ、ウチの松澤チョロさんという方を見ていただければ、まったくいい思いをしてないことがよ～くわかりますから（笑）。

ジャン　松澤さんは単に収入と支出のバランスが取れていないだけで、そんな誤解にはならないですよ！（笑）。で、あまり参考例をされていた『SRS—DX』は何が原因で休刊に至ったんですか？

橋本　やっぱりコスト的な問題かな……。広告収入が減ったんだよ。しかも末期は谷川さんが全面指揮していたわけじゃないからね。

ガンツ　末期はターザンカラーが全開でしたからね。ターザンのパリ特写を8ページにも渡って掲載したり。どんなカラーグラビアだよって（笑）。

橋本　ターザンとサングラスなしのテリー伊藤さんのツーショットが表紙を飾ったことも（笑）。谷川さんがもうひと踏ん張りしていれば、ちょっとは状況が変わったんだろうけど、当時の谷川さんはK—1プロデューサーなんだから、踏ん張る必要ないんだよね。

X　だって谷川さんは雑誌に対してそれほどのこだわりはもうなかったでしょ？

橋本　なかったですねえ。

ガンツ　その当時から谷川さんは「ガンツく～ん。紙なんかやってるダメ人間になるよ～」って言ってましたから（笑）。

ジャン　もしいまでも『SRS—DX』があったら、業界のバランスが良くなっていた気がしませんか？『kamipro』と『SRS—DX』は互いを補填し合っていた関係だったと思うんですけど。

ガンツ　たとえば、『SRS—DX』が田村潔司vsヘンゾ・グレイシー戦を叩けば、『紙プロ』が猛烈に反撃して。

ジャン　小川直也と藤田和之の棲み分けも自然とできてましたよね。

ガンツ　『SRS—DX』はちょうど『PRIDE』とK—1が別の道を歩み始めた頃の休刊だったでしょ。続いていれば、ウチが『PRIDE』で、『SRS—DX』がK—1を押すという二極化の構造になっていたかもしれない。

X　やっぱり対抗勢力があったほうが絶対におもしろいからね。張り合いがなくなると雑誌はつまんなくなる。それはどんなジャンルでもそうなんだけど。

橋本　そういう意味ではさ、もし『ゴン格』がパワーダウンして一番困るのは、『kamipro』かもしんないね。『ゴン格』がやっていたマニアックな要素をどこかがフォローしなきゃいけないわけだし、『格通』にそれができるかといえば……。

ガンツ　まあ、『ゴン格』がやらないぐらいマニアックなことをやる可能性は凄くありますよ。

ジャン　『紙のグラップル』で後藤達俊のバックドロップ徹底分析とか（笑）。

ガンツ　俺はダニー・ホッジのスーパーテクニックとかやろうかな（笑）。技術をテーマにするのは火中の栗ではあるんですけど。

X　でも、いまはプロレスのほうがヤバイわけでしょ？

ガンツ　大変だと思いますよ、週刊誌は。だっていまのプロレスを観てるファンの頭の中って、ボクでさえ理解不能だもん。ホントにね、いまのプロレスファンに向けて矢を放つのは、宇宙人に向けて放つのと同じようなもんですよ！

橋本　ククク。凄い作業だね、それは。

ガンツ　だって、曙vsブロック・レスナーやビッグマウス・ラウドの前田日明騒動を大真面目に取り上げないとダメじゃない。たしかに底抜け脱線ゲームとしてはおもしろいけど（笑）。

ジャン　いまのプロレスは、スキャンダラスな本しか売れてない現状がありますね。

X　表舞台だけ扱ってもダメだと。厳しい話だね。

ジャン　ただ、そのスキャンダラスな本にしたって、べつにもうなんら刺激はないですからね。選手や業界関係者にはウケるとは思いますけど。

X　あくまで業界内向けに発信されるに過ぎないわけね。

ガンツ　そこにきてNOAHっていうのは、ホントに素晴らしいネーミングセンスだと思うよ。だって絶滅寸前のプロレスファンを方舟に乗せて、ボクらの知らない世界へ旅立っちゃったんだもん。

橋本　ノアの箱舟だから〝NOAH〟なんだね。

ジャン　『ゴン格』が格闘技版・ノアの方舟にはなりえる感じはしませんでした？

橋本　あった。でも、間口が狭すぎたんでしょうね。

ガンツ　ほとんど秘密結社みたいなもんだから。マンホールを開けたら、そこが『ゴン格』だったみたいな（笑）。

ジャン　NOAHは間に合えば誰でも乗れましたけど、『ゴン格』の方舟は厳しい乗船試験がありそうですよね。たぶんボクなんかは乗れない（笑）。

X　「わかる人たちにだけわかればいい」という発想じゃなくて、「もっとボクたちの意見をわかってください」っていうことを広めていたら、ノアの方舟になれたと思うよ。そこは本当に残念。志は高かっただけに。

ジャン　いや、『ゴン格』は終わってなくて、まだ続くんですけど（笑）。最終的に格闘技専門誌はどういう方向に行けばいいんですかね。

橋本　それは盟主の『kamipro』に示してもらわないと（笑）。

ガンツ　方向ねえ（笑）。まあ、いまはメジャーだろうがなかろうが、読者が興味を持っていることに真っ向からぶつかってことしかないでしょ、基本中の基本だけど。言うちゃ悪いけど、『K—1MAX』や『HERO'S』の若い人気のある選手を「人気があるから」っていうだけで取り上げると、「取り上げましたよ」っていう匂いが絶対に出るもんね。

橋本　そういう気配も「俺たちは違うぜ」って見せたがる感じとかさ、読者はすぐわかるからね。

ガンツ　おもしろいもの、可能性があるものはしっかり追いかけますよ！　こだわりがないところをこだわりにする感じでね。リング上の選手たちの壮大な大河ドラマを描いていけたらと思います。

ジャン　では、皆さん、明日は我が身と言うことで、お仕事に励んでください！

橋本　どんな終わり方だよ、それ（笑）。

ジャン　いや、休刊問題の締めとしては、ぴったりです（笑）。それにウチの編集次長で影のボスと言われる松林総督から「偉そうなこと言ってないで、さっさと入稿しろ！」という連絡が入ってますので。

ガンツ　すぐ帰りま～す!!

【06年3月某日／代々木にて収録】

どうする!?　どうなる!?

プロレス週刊誌（紙）

『週刊ゴング』前々編集長 GK（金澤克彦）インタビュー



かつて『週刊プロレス』が（公称）40万部を売り上げるなど、プロレスを牽引してきたプロレス週刊誌（紙）。かつては圧倒的な影響力を誇っていた週刊誌がいまやネットや携帯サイトといった新メディアの登場で苦しい立場になっている。一時代を切り開いた『週刊ゴング』前々編集長GK（金澤克彦）に聞いた、プロレス週刊誌（紙）に未来はあるのか？

聞き手／ジャン斎藤、真下義之　designed by Tani-yan（Two Three）

—今日は「どうする？　どうなる？　プロレス週刊誌の未来」というテーマで金澤さんに語っていただきたいと思います！

GK　ん〜、それを俺に聞くの？（笑）。

—はい。いつもだったら、『週刊ゴング』のレギュラーコラムで有名なターザン山本！さんという方に「もうプロレスは終わってるんですよぉぉぉぉ!!」という具合に炎上してもらうんですけど（笑）

GK　ああ、あの人は『週プロ』を辞めた頃から「自分が終わった」ことを業界全体が終わったみたいに言ってるから（キッパリ）。それで「先見の明がある」って吠えてるだけだからねえ（笑）。

—ワハハハ！　それでどうですか、プロレス週刊誌の現状は？

GK　まぁ、プロレスってジャンル自体が厳しい局面なのは間違いないけど。そもそもプロレスの週刊誌って『ファイト』も含めると、毎週3誌（紙）もずっと出てること自体が異常じゃないですか？

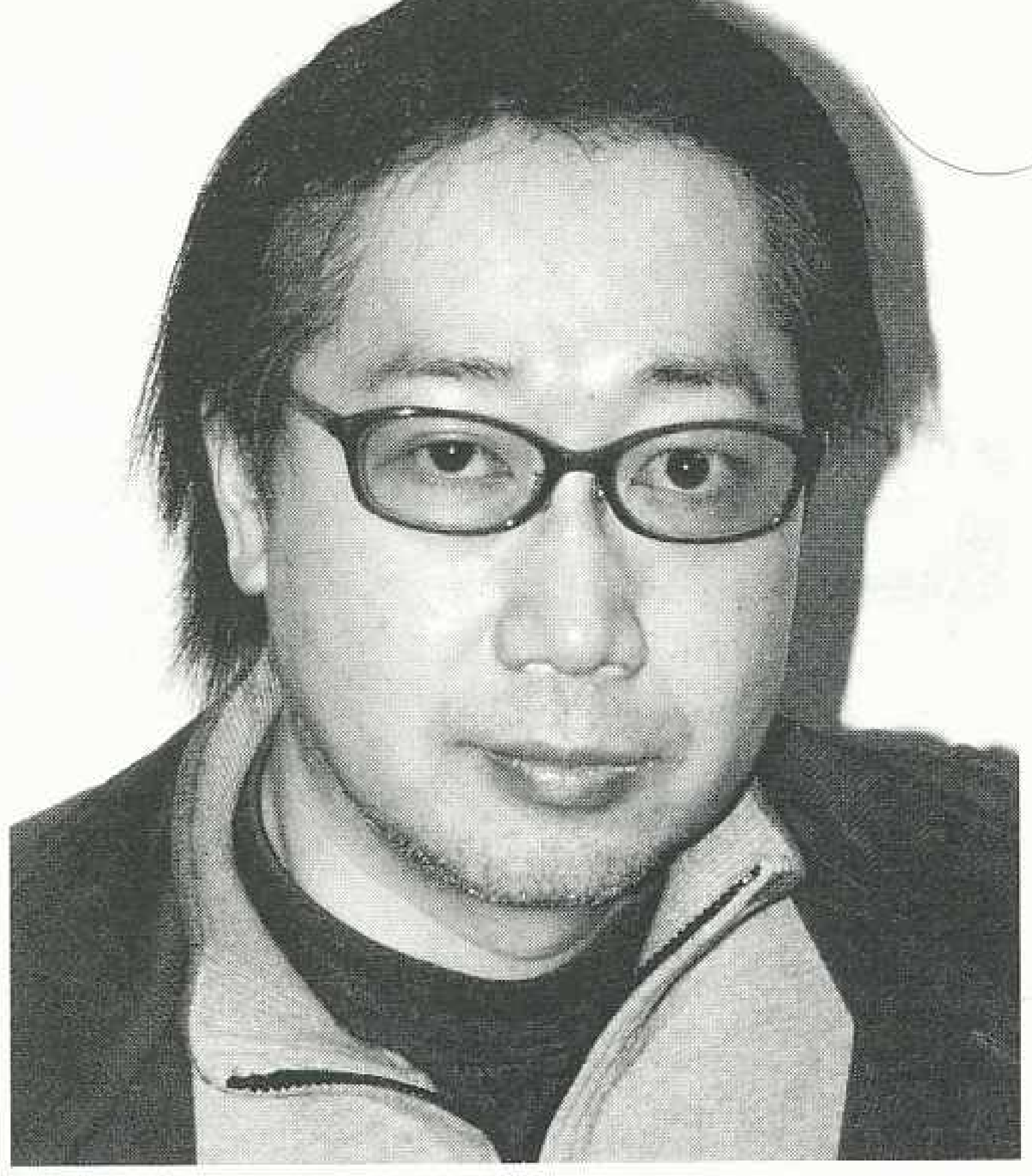
—月刊を含むならともかく、週刊で3誌（紙）も出てるジャンルは珍しいですよね。

GK　だから「プロレスは文化だ」って言うなら、その象徴は専門週刊誌（紙）が3つも出てるっていうことですよ。こんなマニアックなジャンルで……いや、もはやマニアックって言葉じゃ済まないけどね。

—「プロレス界は低迷してる」って言われてますけど、一方で「プロレスファンの数は減ってない」という話もありますよね。

GK　それはマスコミ的に言うと「潜在的なファンの数は減ってない」っていうことでしょうね。つまり、いままで雑誌を買ってた人が買わなくなったってこと。例を挙げると、非常に個人的な話で申しわけないんだけど、じつは僕が『ゴング』を辞めたのを知らない人ってけっこう多いんですよ。

——えっ、そうなんですか？
GK　僕は会場で顔見知りのファンと話したりするんだけど、そういう人っていままで絶対に『ゴング』は買ってたんですよ。そういう人でさえ僕がフリーになったことを知らなくて。辞めてから2～3ヵ月後に「金澤さん『ゴング』辞めたの？」って反応があったりする。もはや、そういうファンでさえ週刊誌をちゃんと読んでないんだよね。
——マニアほどメディアいらずで自己完結しちゃってるところがあるんでしょうね。
GK　うん。あと、先だって新日本プロレスの札幌大会に行ったとき、中西（学）も僕が『ゴング』を辞めたのを知らなかったこともわかったのね。
——ワハハハハハ！　それは衝撃ですね！
GK　前『ゴング』編集長の吉川くんは新日本札幌大会が最後の出張だったから、そこで選手に挨拶したみたいでね。僕はテレビの解説で行ってたんですけど、たまたまトイレで中西と会って。いろいろ話をしてたら「そういえば吉川さんが辞めるって聞いたんですけど、これで金澤さんの負担も大きくなりますね～」って言われて「はぁ……？」みたいな（笑）。
——ダハハハハ！
GK　「いや、俺はとっくに辞めてるよ!?」って言ったら「え！」って固まってた。新日本プロレスの選手は自分のことで精一杯かもしれないけど、週刊誌に目を通してれば気付くはずなんですよ。それを考えると最近は選手でさえ週刊誌を見なくなったのかな？　って感じもするんですよね。
——まぁ、中西さんの場合はあまりサンプルにはならないですけど（笑）。そこまで週刊専門誌を取り巻く状況が変わっているんですね。
GK　結局、「状況が変わったことに雑誌がついていけなかった」ということでしょうね。なんとかマイナーチェンジしてるんだけど、マイナーチェンジ程度じゃ追いつかなかった。唯一、『週プロ』さんの判型が大きくなったというのが、ここ数年のプロレス週刊誌の中では大きなトピックでしょ。
——あとはロゴをちょっと変えたりするレベルですもんね。
GK　ほかに問題を挙げるとすれば、僕が編集長をやってたとき感じたのは、雑誌が厚すぎるってこと。それから紙質が良すぎるし、値段も高すぎる。すべてにおいて時代と逆行してるよね。プロレス週刊誌は世の中の流れと隔絶されてて、ある種、自己満足的に本を作っちゃってる。いまだから言うけど僕にもそういうのはあったからね。
——金澤さんにはどういった自己満足があったんですか？
GK　一時期「見たいヤツだけ見ればいい」というおごりもあったし、たとえ部数が落ちても「俺は一生懸命やってるんだ」って心の支えがあるじゃないですか。週刊誌という過酷な状況下で「これ以上何を要求するの？」みたいな。
——部数が落ちてきたことに関して言えば、やっぱりネットの影響は大きいですか？
GK　確実に大きな要因でしょうね。
——ネットには真実はともかくケーフェイな話とか、週刊誌が取り扱わない裏ネタが転がってますしね。
GK　でも、ネットをやる人って週刊誌からネタから引っぱって転がしてくわけだから、読んではいるんですよね。それよりも携帯サイトとか、ネットのニュースサイトで結果や内容がすぐわかっちゃうほうの影響はデカイよね。



【かなざわ・かつひこ】
前々『週刊ゴング』の名物編集長として一時代を築く。ニックネームのGKは"ゴング・カナザワ"の意（ただし、現在はフリーである）。弊社の携帯サイト『kamipro Hand』でもコラム『金澤克彦の「やがて鐘は鳴る」』を絶賛連載中！

携帯サイトの登場で速報が速報でなくなり、スクープがスクープでなくなってしまった

——速報性という意味では、週刊誌の試合レポートは考え直さなければいけないですよね。
GK　もう速報が速報じゃなくなっちゃってる。
——昔はフォローするメディアはプロレス週刊誌しかなかったから「試合を観て楽しみ、雑誌でまた楽しむ」という二次的な構造がありましたけど。いまは携帯サイトがあって、ニュースサイトがあって掲示板やブログもあって……って感じでファンの目に触れるのは4番目か5番目ぐらいですもんね。ヘタすると会場の休憩時間には前半の速報が上がってたりする。もう会場内で追体験ができるっていう。
GK　それに携帯サイトやニュースサイトは更新時間とか団体の規制があるけど、個人のブログまで規制はかけられないじゃないですか？　だってビッグマウス・ラウドの徳島大会の詳細を知りたいと思ったら、ファンのブログを見たほうが早いんだもん。しかへたすると寸評から総評まで出てる。しかも前田日明のマイクが全部アップされているという……。
——それがノーギャラでやってるんだから凄まじい情熱ですよ（笑）。
GK　だからネットや携帯サイトの登場で速報が速報じゃなくなったし、スクープもスクープじゃなくなったっていうのは大きいよね。さらに言えば団体とマスコミの関係が壊れてしまったってことも大きいかもしれない。
——以前も、金澤さんは先を見越した報道ができなくなってしまったと言われてましたけど。
GK　うん。団体とマスコミが結託して状況を転がしていったりとか。そういう関係性も破綻してしまった。たとえば大仁田厚が新日本プロレスに登場したときは、大仁田と新日本とマスコミの3者がスクラムを組んで転がしていったわけですよね。「次に大仁田は何をやるのか？　目的は蝶野なのか？　何なのか？」って。団体との暗黙の了解がベースにあって、それを踏まえつつ煽ってく。マスコミと団体の連帯感があったよね。
——マスコミと団体が共犯関係をしっかり築いていたわけですね。

どうする!? どうなる!?

プロレス週刊誌

GK それって団体にも選手にもいいことだったし、ファンも乗りやすかったと思うんだけど。もはやそういう環境すらなくなっちゃった。それを一番得意としていたのが業界の盟主である新日本プロレスだったんだけど、いまや団体のケツに火がついちゃってるしね。

——そうなるとプロレスマスコミは物語性の薄いスポーツを〝観たまんま報道してる〟って状態なんですかね。

GK まぁ、非常にやりづらいでしょう。会場で起きたことをファンと同レベルで受け止めてそれを加工しなきゃいけない。でも現実的なスピードでは、ファンが一枚も二枚も先にいっちゃってる。週刊誌が見て見ぬふりしてる暴露本まで見聞きしてる。だから週刊誌はファンにナメられちゃうんです。

——そういったジレンマは編集長時代から抱えていたんですか?

GK 僕が編集長のときはなんとか「違う! そうじゃない!」「プロはこうやって観るんだ!」と誌面で煽っていた。そんなGKに対してファンも反発してたわけですよ。

——ああ、「金澤は狂ってる」とか(笑)。

GK 俺、全然狂ってないのにね。これほどいい人間いないのにって思ってるから(笑)。

——そんな金澤さんと対照的に、『週プロ』でターザンのあとを継いだ浜部(元)編集長は、プロレスをスポーツと同じように取り扱っていくような編集へシフトチェンジをしましたよね。

GK いわゆる〝クラスマガジン化〟ですね。

——そういう意味で、いまの『ゴング』も完全にクラスマガジン化している印象があるんですよ。

GK いまの状況下では、クラスマガジンにならざるを得なくなったんでしょう。僕は浜部さんが当時のターザン山本カラーを一掃するため、そういう方向性を示したのは正解だったと思いますね。

——そのぶん金澤さんが目立つことになった、と。



01年7月に『週刊プロレス』誌の表紙になった携帯サイト『週プロ愛モード』。01年8月からサービス開始。各社に先がけスタートしたが、当時は携帯サイトが週刊誌をおびやかす存在になるとは誰も思ってもみなかった。

GK まぁね(笑)。でもね、暗い話題ばかりじゃなくて、いまは暴露物とか事件もののムックが頻繁に出てるけど、この状況が一段落すると、読者はちゃんとした記事を読みたくなるはずなんです。でちゃんとした読み物ってどこでできるのかって言ったら、どうしても月刊誌になるでしょ。

——ウチは月刊誌ですけど……あんましちゃんとしていないんですけどね(笑)

GK あと最近の週刊誌を読んで思うのは、たとえばこの「長州が飛んだ!」っていう表紙は『週プロ』さんの姿勢そのままだと思うんですよね。「観たものを素直に受け入れて、ファンと同じ視線で何が一番印象に残ったかを表現する」。それが長州力のプランチャーだった、と。でもそれは普通の帰結点だと思うんですよ。プロレスが調子いい時代だったら普通に売れると思いますけども。

——いまだと凄く狭い世界で閉じてしまってる印象がありますね。

GK 一方の『ゴング』はビックマウス・ラウドを扱うときに「前田・船木が決別した」という事件を主軸にしてる。これはGK方式のスキャンダリズムというか(笑)。それを私の弟子の新編集長、

いまの状況下を見たらプロレス週刊誌は〝クラスマガジン〟にならざるを得ない

木幡くんが彼なりに踏襲した結果だと思うんですよ。

——木幡さんも厳しいタイミングで編集長に就かれましたね。

GK こういうふうに週刊誌というジャンルが厳しい中で、編集長をやるってことは本当につらいんですよ。僕の後任の吉川くんがちょうど1年4ヵ月くらいで辞めたわけだけども、僕があの環境でやったらまず3ヵ月でタップするね。

——3ヵ月で! そんなに苦しいもんですか。

GK というか……やっててもおもしろくないよ!!(キッパリ)。

——ワハハハハ! おもしろくない(笑)。

GK 日本スポーツ出版社があぁいうかたちで会社が一度破綻しちゃって、会社の仕組みが変わったから本を作る以外に組織としてこなさいといけないことが多いんです。編集長でありながら部長でなければいけないというか。

——金澤さんのときは編集業務に集中できたんですか?

GK 僕のときは竹内(宏介)さんが社長だったでしょ。あの人は編集の大変さをわかってる人だから、会社の会議も僕の予定に合わせてくれたり、本作りに専念する環境を作ってくれた。だけどいまみたいに編集に関わる時間が週の半分しかないような状況は厳しいでしょう。

もちろん木幡くんは編集者としても凄く技量がある人間ですよ。昔だったらまったく問題のないかたちでやれる人です。でもこの時代、編集者としてキチンとしてるだけでこの厳しい状況に立ち向かっていけるのか? って心配もあるんです。

——う〜ん。いったいどうしたらいいんですかねえ。

GK 僕が木幡くんにアドバイスするとすれば「もう思いっきり偏っちまえ!」ってことだよね。たとえば「君はNOAHを追ってきたんだから『週刊NOAH』を作っちまえ」というね。売れる、売れないは別にして。

——もう強烈なこだわりや偏ったものがないと、ファンには届かないでしょうね。

GK そこは木幡くんもわかってるでしょう。ただその偏り方が和やかな気持ちになるようなものでは駄目、雑誌を読んでる最中に投げ捨てたり、罵声を浴びせるぐらい熱量があるものじゃなければね。

——そのくらいの反応があれば、逆に喜ぶ

ファンもいるはずですからね。

GK　たとえば僕が昔、「グレート・ニタ、南港にて復活！」というコピーを打った表紙の『ゴング』(注1)は凄く売れたんですけど。発売した直後に全日本プロレスの武道館に行ったら、控室にその『ゴング』が破られて床に転がってたんです。

――快く思わない選手や関係者がいたってことですね。

GK　その状況を見たときは悔しい反面、「やったな」って思ったよ。やっぱりファンや関係者に刺激を与えなきゃダメだと思うし。でも雑誌が苦しくなるとすれば、そういう材料自体もなくなったときだよね。

――いまはもう加工して読者に届けたくなるような材料が見当たらない現状もあって。ああ、とりあえず煽ってるなって思うときもありますからね。

GK　苦し紛れなときはわかりますよね。それと同時にあらかじめ事件を予測して打ち出していくことも困難な時代ではある。昔さ、「藤波さんが後楽園ホールで引退を宣言する」という99パーセント確定な情報を踏まえて表紙を作ったことがあって、藤波さんがガウンを着たカッコイイ表紙にしたら、藤波さんが引退宣言を引っこめたんですよ（笑）。

――ククククク。さすがはドラゴンですねえ。

GK　あれは差し替えきかなくて大変だったね。編集後記で言い訳を書きましたけど（笑）。

――最近の週刊誌にはスクープとはある種、異なるそういったフライングが見当たらないですよね。その昔、『週プロ』が「健介がペイントしてウォリアーズになる。見たい！」ってフライングしたりしてました(注2)けど。

GK　ああ、あのときは『週プロ』さんのSクンという記者がルールを破ったんだよねえ（あきれながら）。

――ダハハハハ！　元・編集長のSさんですね（笑）。

GK　あれはまず、前もって坂口さんに「ウォリアーズっていう言葉は著作権に引っかかるからウォリアーズっていう言葉を一切使わないでくれ」って言われたのに、『週プロ』だけがやっちゃったっていう。

――使うなって釘を刺しているのに（笑）。

GK　このときばかりは僕もさすがに怒ったんですけどね。「ウォリアーズを使うなって言われたはずだろう？　なんでルール破るんだよ！」って詰め寄ったの。

――ダハハハハ！　金澤さんが詰め寄りましたか！（笑）。

GK　そしたら「口ではかなわないから仕事で勝負する」とかわけのわからないこと言うんだよね（笑）。まあ、いまや、スクープやフライングもできない手詰まりな状況がある。完全にファンが主導権を握っちゃってる。それをもう一度奪い返すっていうのは至難の技ですよ。それをやるんだったら編集長は完全に狂ってなきゃ届かないよね。

――「ジャーナリズムなんて必要ない」と放言していた全盛期のターザン山本！のように。

GK　そのターザンの放言の中で唯一うなずけたのは「世の中は全部プロレスだ！」って言い切ってるとこですね。ターザンが言うところに当てはめれば、『PRIDE』だってK-1だってプロレスとして観るからおもしろいんだよって。そこは同意できるんですよ。ファンだってそう観なきゃおもしろくないし、そういう感覚で本を作れたらまだまだおもしろいのかなって気はしますよね。

僕がいまの体制の『ゴング』の編集長だったらもう三ヵ月でタップしますよ！

――"プロレス"という言葉にアレルギーのあるファンやマスコミに向ければ、人間性を含めたドラマをすくいとるということ。I編集長なんかはそういった作業しかしてないですよね。

GK　I編集長の場合は確立された人間だからオッケーなところもあるんですよ。I編集長の「ジョシュ・バーネットに猪木プロレスの影を見た」という記事にしたって、あれを名前も知らねえヤツが書いたら「お前はアホか！」というね（笑）。

――ジョシュvs中村カズ戦の評論で"猪木プロレス"という言葉が出てくるんですからね（笑）。

GK　でも方法論としては間違っていない。僕も『ゴング』の連載で本誌では扱ってない『HERO'S』のこと書いたりしてたけど。それはプロレスという視点で見る感覚、興行として観た場合どうなんだって言う感覚は必要ですね。

――いや、本当にそうですよね。格闘技の競技的なおもしろさの追及って、ヘタするとクローズされた世界にはまりこんでしまう場合もありますし。

GK　だから年末の格闘技戦争なんて完全にプロレスですもんね。プロレスを格闘技という名前でやってるだけであって。「リング上で何をやるか」っていう違いがあるだけで、そこに至る過程とか試合後とかはプロレス的な視点で観ないと全然おもしろくないからね。

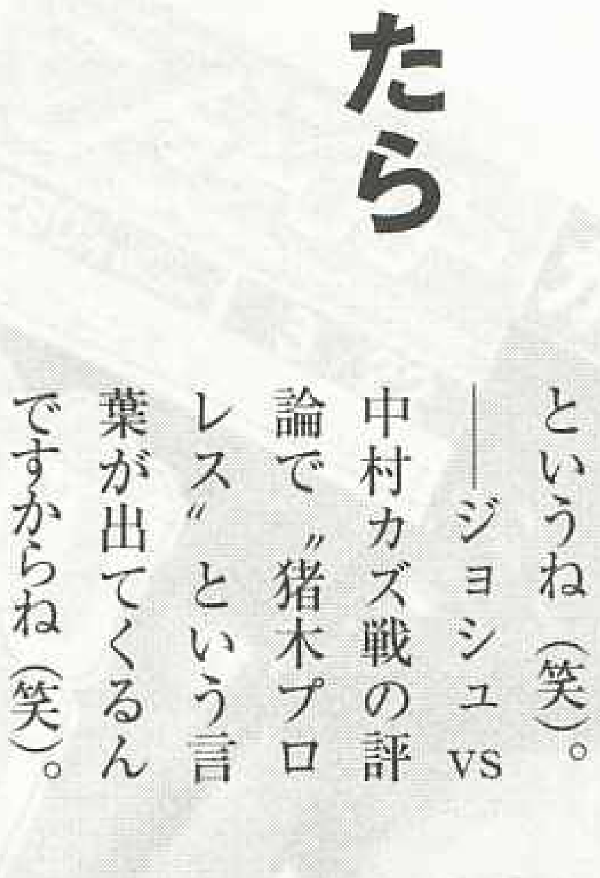
――よ～くわかりました！

GK　こんな感じでいいですか？　もっと日本スポーツ出版社に突っ込まなくてもいいですかね？（笑）。

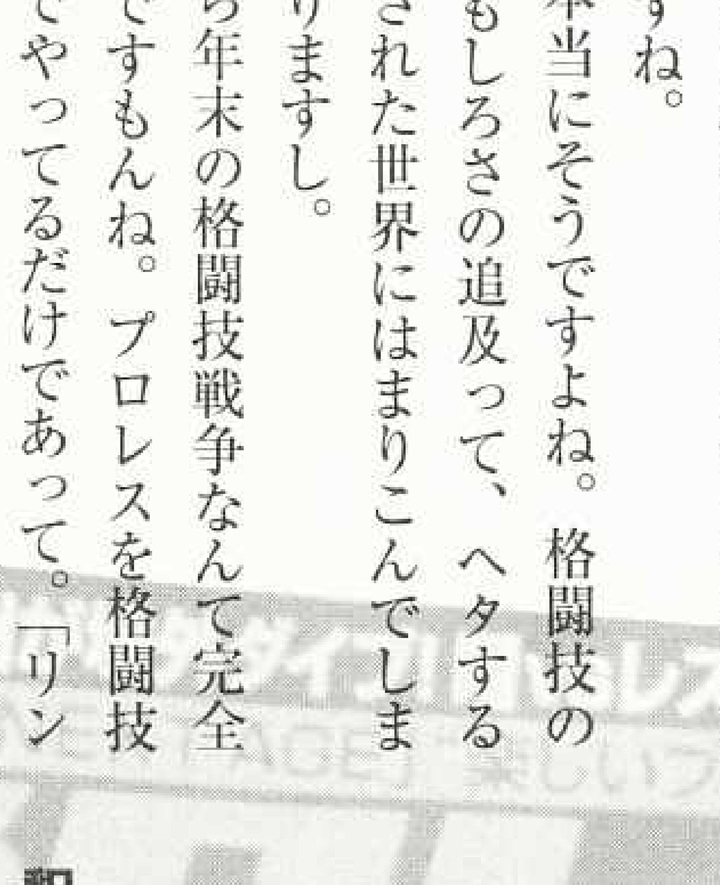
――ダハハハハ！　いやいや、それはタイミングを見計らって大きくやりましょう（笑）。今日はどうもありがとうございました！

【3月6日、水道橋『ニューヨーカーズカフェ』にて取材】

■注釈



注1：『週刊ゴング　No.776』（表紙、グレート・ニタ）　99年8月の新日本・神宮球場大会のvsグレート・ムタをにらみ大仁田厚が大阪・南港で"地獄の邪神"グレート・ニタを復活させた過程を巻頭特集。突き抜けた姿勢が話題になった。



注2：『週刊プロレス　No.524』（表紙、佐々木健介）　92年11月の新日本・両国国技館大会でホーク・ウォリアーと健介のタッグプランが浮上。坂口社長（当時）から事前注意があったにも関わらずフライング報道で問題になった。

究極の格闘技大戦争勃発!


no.49 '02.04 880yen

和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田／アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?／破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐり!

50号記念企画てんこ盛り号


no.50 '02.05 880yen

「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!／ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立


no.51 '02.06 880yen

両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談／新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!


no.52 '02.07 880yen

全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム／戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!


no.53 '02.08 880yen

ノーフィアー×無課美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ! マット・ガファリ／爆裂! 川村社長ガチンコ語録!／偽造王の知られざる半生!

『Dynamite』を大総括!


no.54 '02.08 880yen

"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット／純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!


no.56 '02.10 880yen

田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 髙田延彦／蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山／『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号


no.57 '02.11 840yen

サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ／北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!


no.58 '03.01 880yen

夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健／カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸

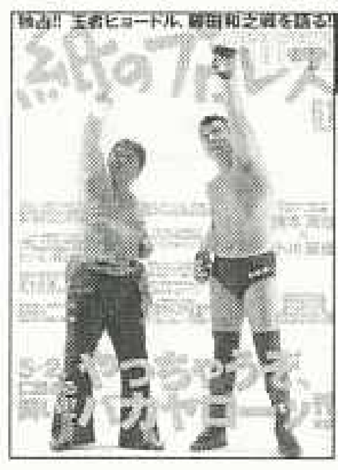

no.59 '03.02 880yen

いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス／爆発!! WJマグマ語録／吉田道場の秘密兵器 中村和裕／UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!


no.60 '03.03 880yen

ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気／あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし／全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!


no.61 '03.04 880yen

裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン／プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

地殻変動の予兆アリ!!


no.62 '03.05 880yen

ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介／現役復帰間近!? 船木誠勝／藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル／新日本バードを徹底検証!!

マット界、超絶リボーン!!


no.63 '03.06 880yen

「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括／猪木の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー／芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!


no.64 '03.07 900yen

"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー／ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!


no.65 '03.08 880yen

"最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル／"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ／吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司／闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!


no.66 '03.09 880yen

緊急独占インタビュー! ミルコ／マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮／"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦／『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!


no.67 '03.10 880yen

ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー／アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!


no.68 '03.11 880yen

大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦／曙とは何者か!?／一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志／"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

ハッスル1開催、ド直前!!


no.69 '03.12 900yen

出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也／『泣き虫』著者登場! 金子達仁／大晦日直前インタビュー! 田村潔司／アイアム リアルプロレスラー 美濃輪育久

紙プロ大賞'03発表!!


no.70 '04.01 880yen

PRIDE征服宣言! ミルコ／シウバに宣戦布告! 近藤有己／ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶／発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!


no.71 '04.02 880yen

『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／待望の『紙プロ』初登場! 川田利明／理想のプロレスを追い求める! AKIRA／幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!


no.72 '04.03 840yen

GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁／全て見せます!!『突撃! 佐々木健介郎』

最も過酷な道を行く男!!


no.73 '04.04 880yen

GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド／キックの名伯楽登場! 伊原信一／魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!


no.74 '04.05 880yen

PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー／掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!


no.75 '04.06 880yen

シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統／インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン／年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!


no.76 '04.07 880yen

小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志／新連載『月刊PG談（仮）』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!


no.77 '04.08 880yen

「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ／サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号


no.78 '04.09 840yen

衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／K-1のトップが小川を語る 谷川貞治／壮絶インディー人生! 田中将斗

高田総統がビターンと降臨!


no.79 '04.09 880yen

キャプテンに休息なし! 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さん推薦企画「曙は是か非か?」／ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!


no.80 '04.10 880yen

独占ロングインタビュー ミルコ／ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也／新連載! 佐山サトルの右流々ン探訪紀／袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!


no.81 '04.10 880yen

ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／スーパーひとし君登場! 草野仁／佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!


no.82 '04.12 890yen

"道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪／伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

RTTが皇帝に宣戦布告!!


no.84 '05.02 880yen

"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司／"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!


no.85 '05.03 860yen

PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、髙田延彦／パンクラス2大王者が揃い踏み! 髙阪剛×近藤有己／HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号


no.86 '05.04 860yen

大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!／PRIDE GP&K-1 MAX 出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!


no.87 '05.05 860yen

敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫／蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

① 『紙プロHand』で注文　② 電話注文 03-5368-1797

③ メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。

※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意 郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

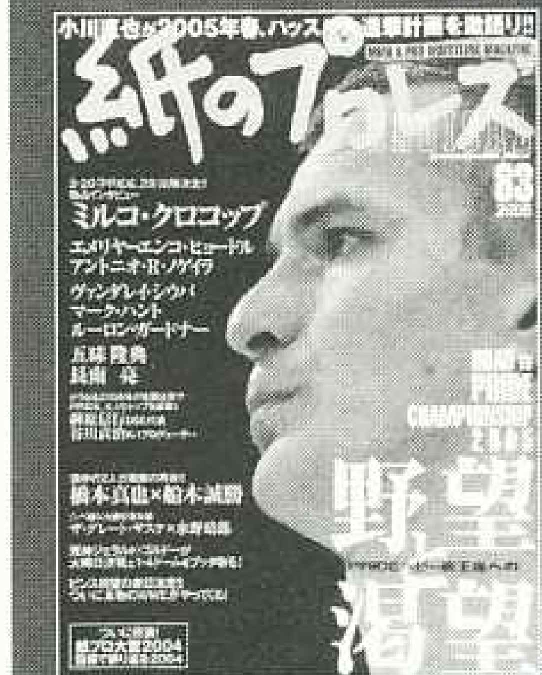


ライト級"絶対王者"そして PRIDEの星に輝く男、五味隆典

貴重な本誌初登場インタビュー!は 紙のプロレス RADICALで読める!!



五味隆典＝「武士道」宣言!!



no.83 '05.01

★五味が修斗時代～武士道、そして入場シーンのこだわりについて語る!（聞き手／橋本宗洋）

★その他、五味が初登場となった04年『PRIDE 男祭り』を怒濤の大総括! ミルコ、ヒョードル、ノゲイラインタビュー掲載!

880yen

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

平日
15:00～22:00
販売元
(株)ダブルクロス

本誌 Back Number

特集 神秘とは何か?



no.14

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 インディペンデントの逆襲



no.15

あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!／K－1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟(当時) インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 実況パワフル北朝鮮



no.17

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある! 「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本



矛・盾

97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF

格闘ノストラダムス!



no.16 '99.03 780yen

アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／相撲多重アリバイ 石川孝司／語ろうジャンボ鶴田

純プロ王国NOAHに迫る!!



no.29 '00.07 840yen

三沢、秋山『紙プロ』初登場!!／プロレススーパースター列伝 仲野信市／本誌独占ジャンボ鶴田夫人最愛の夫の真実を語る!!／TKおかん

"新"プロレスとは何か?



no.32 '00.10 840yen

田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村／"和製カレリン" 本田多聞

純プロレスを徹底検証!



no.35 '01.02 840yen

ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／"ノアの怪物" 杉浦貴／UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

燃えよ、闘魂の火種!!



no.36 '01.02 840yen

ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言／W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く／吉田豪に "ドラゴンの呪い" が襲う!!

純プロレス戦国絵巻!



no.37 '01.04 840yen

安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!／アブダビコンバット01一大探検記!／シュート活字×ファンタジー活字／比類なきプロレスがWWFにはある!

小川直也は是か非か?



no.38 '01.05 840yen

忘れ物の正体は――。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル／プロレススーパースター列伝 阿修羅原／死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

前田日明は是か非か?



no.39 '01.06 840yen

前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男／プロレススーパースター列伝・田上明

地上最強のプロレスとは?



no.40 '01.07 880yen

蘇れ! Uインター＆キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎／プロレススーパースター列伝 グラン浜田

"最後の黒船"WWF来襲!!



no.41 '01.08 880yen

リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!／W☆INGの真実・茨城清志／毒舌知能犯 秋山準語録

アントンパワー大爆発!!



no.42 '01.09 880yen

ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実" 辻よしなり／蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光

聖戦『PRIDE.17』迫る!!



no.43 '01.10 880yen

ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会／野武士が語るんだよな 中野巽耀

サク連敗とPRIDEの未来



no.44 '01.11 880yen

その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴／ハンス・ナイマン＆ディック・フライ／闘龍門大特集

一寸先はハプニング!!



no.45 '01.12 880yen

悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談／プロレススパースター列伝 グレート小鹿／語録で振り返るマット界2001

WWE日本侵攻、5秒前!



no.47 '02.02 880yen

"天才" 武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!／プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

桜庭、満開の日は近い!



no.48 '02.03 880yen

奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光／伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン



格闘技雑誌は〝大マジな論文集〟だからダメ 思いきって〝妄想〟で勝負せよ!!

プロレス・マスコミの“生きる伝説”

I編集長の

喫茶店トーク・ラウド

前号ではついに“殺し”の定義が明らかになった『喫茶店トーク・ラウド』。今月は休廃刊が相次ぐ、格闘技雑誌の問題点をブッタ斬ってもらいました。はたしてI編集長が考える専門誌復興案とは？今月も元気いっぱいお送りします！

聞き手／堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two Three)

I編集長とは?

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳になったいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。

——さて、井上さん。今日はですね、昨年末から『格闘伝説』、『UPPER』、『ゴング格闘技』と、格闘技雑誌の休廃刊が続いている現状を踏まえて、プロレス・格闘技雑誌は今後、どうすべきかという緊急提言からお聞きしようと思っているのですが。

井上 まぁ、ハッキリ言うたら、いま格闘技雑誌が売れとらんかったらおかしいんだよな！ 衰退一方のプロレスとは違い、プロ格闘技は時代性のある有望株なのだから。"有望株"といっても『ライブドア』のようなインチキなものとは違うからねぇ！

——格闘技人気は"風説の流布"ではないと（笑）。たしかに、いまおっしゃられたように、格闘技雑誌も本来なら右肩上がりで部数を伸ばしていっていいはずなんですけどね。

いまは"親指プロレス"の時代 結果だけ知って"ハイ、それまでよ" という植木等の世界ですよ！

井上 それなのに、全然売れとらんから休廃刊になるわけだ。では、なぜ売れないかと言ったら、そういった格闘技雑誌というのは、ズバリ言うと、大マジな論文集だからですよ！

——大マジな論文集！ また新しい"I用語"が増えましたね（笑）。

井上 インターネットが普及し始めた頃に言ったじゃないか。「短く要点のみを速報する電子活字が活字プロレスを追いやってのし上がるだろう」と。

——よく覚えております（笑）。

井上 「怖いのは、ケータイで結果だけをチョコっと知って、何もかも、ハイ、おしまいとなってしまうということだ」とも言うたはずですよ。「速報、すなわち、これ善」の世の中なのだからねぇ。ファンは——プロレスで言うと、（ブロック・）レスナーが中邑（真輔）に勝って、IWGP王座を防衛しただけで何もかもわかったような錯覚にとらわれてしまう。それと、それだけで充分であって、ゴチャゴチャした活字なんか、わざわざ駅の売店やコンビニでスポーツ紙買って読む必要なんかないっていうヤツだ。

——スポーツ紙の落ち込みもひどいらしいですからね。

井上 知りたいときに、知りたい情報が親指一本ですぐ得られる。この強烈な武器に、早くて翌朝5時のスポーツ紙が太刀打ちできるわけがない。ましてプロ格闘技誌においてをやだ。スポーツ紙を買って、初めて「あ、こういうこともあったんだ」となる部分もあるが、まず、このケースは数える程しかない。だから親指一本で充分という"親指プロレス""親指プロ格闘技"へドーッと流れていく。当然の話ですよ。これが時代。だから、俺はインターネットが出始めた頃に、そう警告したんだよな。その通りになったわけで、こんなのはI予言でもなんでもない。小学生にだってわかりますよ！

——さすがに小学生にはわからなかったと思いますが（笑）。

井上 ましてプロ格闘技は、見て、結果を知って、「ハイ、それまでよ」という植木等節の世界だ。そうなることはわかっとったんだよな！

——植木等は時代の先を走ってましたか（笑）。

井上 そりゃそうですよ！ 何しろ、あの詞を書いたのは青島幸男だからねぇ。いまから考えてみると、びっくりするような時代先取り感覚をしている。"大阪のバカ"と違って才能あるだな（笑）。

——いやいや（笑）。ところで、いま、お聞きしたような論点を混ぜて、5・5『PRIDE無差別級GP』大阪ドーム大会の見どころをお話いただきたいのですが？

井上 おいおい、格闘技雑誌の王者がそんなドン臭いこと聞いていいのかね（笑）。この程度のレベルでないと、"大阪のバカ"には答えられないだろうという『kamipro』の温かいご配慮とお受けしましたが（笑）。

——それほどの配慮もアタマもございません（笑）。



井上 まぁ、ハッキリ言うと、5・5大阪ドームを観に行く人は、「どんなんかなァ。嬉しかるかる（落語家・笑福亭仁鶴のギャク）」でいいわけですよ（笑）。でも、活字にする側は学術論文ではダメだ。どうしても試合経過中心に流れてしまう。私が『週刊ファイト』の編集長だった頃、活字にもしたのだが、「試合経過と勝利者インタビューは書くな」とウチの記者連中には口が酸っぱくなるぐらい言い渡していた。ターザン山本！なんか「必死になって書こうとしているんですが、試合経過とインタビューを除くと何も書くことが思いつかないんです」と夜中の2時に電話をよこすことが度々だった。必死だったんだなあ、あの先生も（笑）。

——いまは競馬以外に必死になることはないみたいですけどね（笑）。

井上 試合経過はいらない。読者はみんな知っている。ただタイムまで覚えていないだろうから、テーブルだけは上のほうにでもまとめて掲載しておくことは当然だ。私なんかもよそさんの活字をひっくり返して見るのは、タイムと決まり手だけだからな。

——しかし、書く側にすれば、試合経過とインタビューにまるで触れないというのは、何かソワソワと落ち着かないものなんですが……。

井上 思いきってやってみることだ。試合経過にほとんど触れないと、書く側は何かソワソワと落ち着けない。それは、私も経験しているので痛いほどわかるんだ。しかしだな、お立ち会い（笑）。「それを書いていたのでは誰が読むか」とのI用語をよーく考えてもらう必要がある。キミに聞くが、活字になった試合経過、試合後、記者をズラーッと目の前にしての勝利者インタビューを読むかね？

——ズバリ言って読みません（笑）。

井上 誰も読まない活字をどうして書かせるのかね。「デスクはなぜ、このことに気付かないんだろう」とプロ格者としょっちゅう、言い合っている。わからんねぇ。本題に入るか（笑）。

——お待ち申し上げていました（笑）。

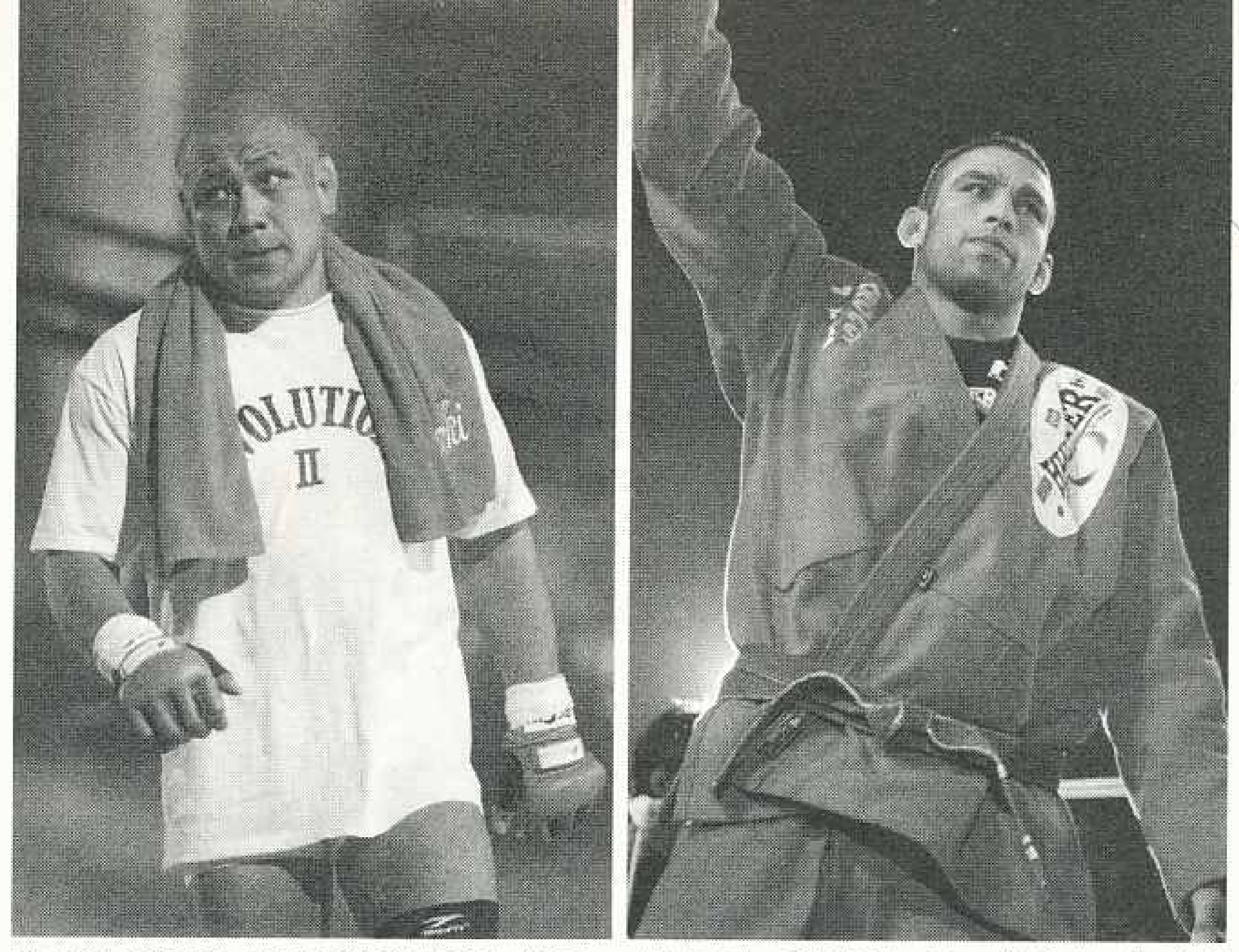
井上 重量級も中・軽量級の選手もだが、ウエートの違う、同じクラスの選手が使っていないスピード、攻防、タイミングをどうさばくかが観ていておもしろい。この前（2・26『PRIDE・31』）の中村和裕のように（対戦相手はジョシュ・バーネット）ウエートとパワーが違う相手との闘いはハンデと見えて、その実、闘い方はいくらでもあるっていうことだ。同じウエート——ミドル級ならミドル級の選手と同じ闘いをしていて勝てるのはヴァンダレイ・シウバ、マウリシオ・ショーグンなどごく一部のファイターだけだ。アリスター・オーフレイムがヘビー級のハリトーノフに勝っているが、オ



ーフレイムのウエートは103キロでヘビー級の選手となんら変わるところがなかった。「ウエート、ウエートと言うんじゃないですよ」というのが、プロ格者と話しているときの決まり文句になってしまっているが、『格闘技にウエートの別なし』は宇宙経営的な真実だと思う（笑）。

――宇宙経営的ってどんな真実ですか（笑）。

井上 （無視して）ポイントは別にもある。ヒョードルは5・5大阪ドームを欠場するだろうが、7月、9月の大会にも出てこられないんじゃないか。鉄の棒が腕に入っているの、右手の親指のあたりに埋め込んだプレートの除去手術が終わったばかりという最悪のコンディションをじーっと考えてみると、「5・5ではヒョードルはシードされる」を鵜呑みにしている御仁が大半だけど、〝大阪のバカ〟にすればお笑いだ。まず7月、9月とも出てこないと俺は見ている。「今年の無差別級GP王者はヒョードルではない」、この1予言を覚えておいてほしい。榊原社長には、毎度毎度タテついて申し訳ないのだが、今年いっぱいのヒョードルの出場は無理なんじゃないの？



井上さんが考える『PRIDE無差別級GP』夢のカードはなんと、藤田和之vsファブリシオ・ヴェウドゥム！　誰も予想しなかった超・異色カードだ。はたして、野獣の無差別級GP出場は実現するか!?

――う〜ん、それもありえますかね。

井上 第一、ヒョードルがシードされるとなると、1試合流れるわけだから14人に減ってしまう。不戦敗だってれっきとした負けだからね。ましてトップクラスの選手だけを特別扱いするのは片手落ちですよ！　勝負とは、出て勝ってがすべてだ。そんなことをやったら、真剣勝負の苛酷さが薄らいでしまう。もう少しシビアに対処することが肝要だ。ファンも、こうした凄まじいほどの苛酷さに向き合う必要がある。（ファンの）話を聞いていると、甘いなあとつくづく思う。それが平和な日本の現状ではあろうけ

試合経過や試合後の共同インタビューなんて、誰が読みたいというんだよ！

れども、マスコミが甘やかすからそうなる。

――肝に銘じておきます（笑）。

井上 ハリトーノフ、ショーグンが（5・5大阪ドームに）出てこられればいいが、まず無理。「そんなら、2・26はなんだったんだとなりますからね」とのプロ格者のBさんの指摘が本当だ。人材豊富な『PRIDE』なのだから、ミルコ、ノゲイラ兄、シウバ、マーク・ハント、エメリヤーエンコ・アレキサンダー、桜庭、吉田……と指を折っていくと、すぐに14人揃ってしまう。五味隆典は「無差別級GPには出ない」と言い切っているので除外するとしてもだな。

――ヒョードルは出られない以上、負けとして16人全員を揃えろというわけですね。

井上 ケガをして朝青龍が初日から欠場しとったのに、中日（なかび）あたりから途中出場して、しかも休場していたあいだは〝不戦勝〟とする、なんていうナンセンスが考えられるかというんだよ！（ドンッ）。

――……。

井上 だからヒョードルの途中出場なんて認めるべきじゃない。そうなると、ノゲイラ兄が絶好調なので優勝候補のトップに挙げているんだが、それは現時点での話でね。さて、5・5ではどうかとなる。練習中のケガもあるしね。

――先ほどからミルコの名前が一向に出てきませんが……（笑）。

井上 ミルコは終わったね。どうして、ああも進化しないんだろう。寝技のテクニックをファブリシオ・ヴェウドゥムから学んだからといって、あれはディフェンス・テクニックであって、相手を絞め殺す、〝お命、頂戴します〟じゃない。しかも相も変わらずの大砲一発屋。どうしてワン・ツー・スリー・フォー・ファイブ攻撃ができないんだろうと不思議でならない。ジャブ、ロー（キック）などで連続攻撃を掛けておいて、ここぞというタイミングで左ハイをぶっ放すという芸当ができない。あれではヒョードル、ハントだけじゃないく、みんなにタイミングを読まれてしまって当然だ。本人はまるで気付いていないんだから、コーチもだが、『kamipro』がバシッと言い聞かせてやる必要がある。

――あ、ウチがミルコに言うべきですか（笑）。

井上 暑にしたって、「プロレス以外は無理」と口を酸っぱくして言いたくもない憎まれ口を叩いたはずだ。あんなことでは暑のプロ格闘家生活は終わる。

――もう終わったと、もっぱらの評判ですけどね（笑）。

井上 ミルコはベガスか何かに出ていって、第2のミルコを1から構築することだ。UFCなど闘う場はいくらでもある。

――ノゲイラ、ミルコ以外に期待している選手を教えてください。

井上 ヴェウドゥム、アレキサンダー、バーネット、ハント、エイネモ、シウバ、ショーグン、出られればの話だが、ほかにホジャー・グレイシー、パウエル・ナツラ、桜庭、吉田もやるだろう。藤田（和之）を引っぱり出すことができると、大変なことになる。ヴェウドゥムとの異色対決なんか、もの凄く観たいものね。

――藤田vsヴェウドゥム！　またシブいところ突いてきますね（笑）。

井上 DSEもこういった新鮮味のあるカードを組まないとダメですよ。

――そして、書く側にすれば〝学術論文〟では駄目だと……。

井上 当然だ。そんな記事ばかりだから格闘技の雑誌は売れない。「記事を書かせるな。読み物にしろ」と『週刊ファイト』の連中にはなんべんも言っている。そのためには〝小説家〟が必要だ。自分のことを言うわけじゃないが、『井上小説』の類（たぐい）だな（笑）。

――いつも読ませていただいています（笑）。

井上 「そんなことはないだろう」だの、「それは飛ばし（記事）だよ」などとデスクが言っているから、クソおもしろくもない記事オンリーになる。読者は、書かれてあることはとっくの昔にご存知だし、自分の中で消化し血とし肉にしている。そこへわかりきったレポートだ。だからポイと横へやられて呼んではもらえない。それがプロ格闘技雑誌が大苦戦を強いられている要因だ。思いきって妄想で勝負しろ。「プロレスでも〝大阪のバカ〟が書いているような記事は好ましくない」などと言っているから読み物ゼロ雑誌になる。カチンと気に障る話をしたが、ご容赦願いたいね。

【06年3月7日／電話取材にて収録】





柴田、「このリングは最低！」

カラエフ、腕相撲100人抜き達成！

前田&船木が決別宣言！

いつだって波瀾万丈

ビッグマウスラウド ホラ吹き大全

前田&船木から決別宣言が飛び出したかと思ったら、今度は柴田vs棚橋戦ボイコット騒動が勃発！　その裏ではカラエフが腕相撲100人抜きを楽々達成するなど、いつだって波瀾万丈なビッグマウスラウド。今回の特集では徳島大会の模様を中心に、どこもやらないBML選手&関係者名鑑などもまじえ、ホラ吹き大全としてお届け！

構成&撮影／松澤チョロ　助手／ささきぃ
designed by shiraki (TwoThree)

ーフレイムのウ
の選手となんら
ート、ウエート
うのが、プロ格
句になってしま
トの別なし』け
（笑）。
――宇宙経営的
井上　（無視して



ードルは5・5
が、7月、9月
ゃないか。鉄の
親指のあたりに
が終わったばか
をじーっと考え
ドルはシードさ
が大半だけど、
だ。まず7月、
いる。「今年の無



ついにこの日がやってきた
～PLAY BACK 2・26 BIG MOUTH LOUD～
in 徳島市立体育館

前田日明、船木誠勝がビッグマウスラウド決別宣言！

ビッグマウスラウド大激震！
2・26徳島大会の休憩明け、和田友良BML最高顧問に呼び込まれ、前田日明、船木誠勝、そして、真樹日佐夫BML特別顧問がキャプチュードに乗ってリングイン。マイクを手にした前田の口から飛び出したのは強烈な決別宣言だった。ビッグマウスラウド大特集の初っ端は、前田劇場ほぼ完全再録からスタート！

「**本来ならここで、船木誠勝選手の再デビュー戦を行なう予定だった**のですが、いろんな問題がありまして、それができなくなりました。今日は査定という形で来る予定だったんですが、（スーパーバイザー辞任の）新聞発表のあとに上井さんのほうと話をしまして、自分たちとしては新たなUWFスタイル……UWFというのは未完成で終わってしまったんで、そのあとどういうふうにやっていくのか。僕はリングスで経験を積み、船木君はパンクラスで経験を積み、その力を合わせ21世紀のストロングスタイルを作り上げていこうという部分で協力してやってきました。あらためて**上井さんに『独自スタイルでやっていく気持ちはありますか？』と確認したところ、彼自身は『そういう気持ちはありません』**とのことでしたので、今日は査定とかそういうものは関係なくなりました。残念です。今日ここにいらっしゃる和田会長には、一番最初にビッグマウスラウド（以下BML）を応援してもらうというときに『BMLは何をする団体ですか？』と聞かれて、**上井さん共々『スーパーUWFという独自の形を目指します』**と。『それだったら応援します』とおっしゃっていただきました。それがこういうことになってしまい、一番面目を失なっているのは和田会長ではないかと思います。誠に申し訳ないという気持ちでいっぱいです。残念なのは、いまのプロレスのダメさ加減、至らなさ加減もそうですが、プロレスがダメになったと言われながら、**いまのプロレス界だけでなく、そこから一歩も出れなかったビッグマウスにも相当ガッカリしました。**自分は自分なりに誠実に応えようと、用意、努力をしてまいりましたが、こういう次第になって、ファンの皆さんに対して、いろいろ期待や夢を持たしたのに誠に申し訳ありませんでした。リング上よりお詫び申し上げます」と、観客、そして和田会長に頭を下げた前田。

続いてマイクを持った船木は「いま、前田さんから発表があったとおり、**ビッグマウスとは袂を分かつことになりました。**いろいろと面倒くさいことがたくさんあって、ここでは言えない話も多いですし、これから先も不透明な部分もあると思うんですけど、事情があって今日は最後のBMLのリングということになるのですが、このあと機会があれば、またこの徳島のリングで元気な姿を見せられたらいいなと思います」と挨拶。

最後にマイクを持ったのは、先日、特別顧問に就任した真樹日佐夫先生。「前田君、船木君、二人とは懇意にしてるんで、なんか今回入れ違いみたいになって私も非常に残念です。しかしながら、非常に将来性のあるプロレス組織だと認識したからこそ、特別顧問を引き受けたわけですから、今後とも微力ながら尽力させてもらいます。**押忍!!**」

リングを降りた前田と船木は、試合を観戦することなくバックステージへ直行。船木は控室へ姿を消し、前田が一人で報道陣の囲み取材を受





（BMLは）すべて行き当たりばったりで計画性がないんですよ（前田）

けコメントを発表した。

前田「今後？　僕は元々いた場所に帰るだけですよ。（プロレス界との関わりは？）正直言って、真の意味でのストロングスタイルって部分だったら協力できるんですけど、自分らが現役じゃない以上、やるほうに覚悟がなかったら無理ですね。（今後は船木さんと一緒にやっていくのか？）団体とかそういう考えはまったくないですよ。船木にしても自分にしても育ててる選手がいるんで、そういう選手たちを鍛える場を作りたいなと。いま日本人選手が総合の場で、70kgクラスは凄くいいんですけど、重いクラスで勝てなくなってきてるんで、そういう強い選手、ヘビー級でトップを取れる選手を作るようなジムがあったらいい。（それはUWFスタイルの進化したようなものか？）あくまでも、それはBMLのためだから。BMLが21世紀のストロングスタイルを目指すんであればね。UWFもプロレスの原点回帰を目指した団体だったんで、それで実験の途中だったんですよ。いま田村も何か**UWFスタイルとか言ってやってるみたいだけど、あれは違うと思うん**で。自分たちはその先を見て世界最先端のプロレスができるかと思ったんだけどね。**総合に出ても勝てるプロレスラーを作るという部分で、その方法論として〝スーパーUWF〟をやる**という部分があったんですよ。それだったら協力できるよと。それが上井さんに『独自スタイルでやるつもりはありません』って言われた以上、できないですね。

（撤退を決意したのは1・4東京ドーム？）伏線はいろいろあったんですけどね。決定的になったのが東京ドームってだけで。あの試合も自分らが聞いた話によると、新日本からどうしても出てくれと言ってきてると。でも正直言って、いまのプロレスと絡んでも意味ないじゃないですか。新しいものを目指そうというのに。まあ、どうしてもやるんだったら、柴田君も村上君もこのままじゃダメだよって。**相手の腕を折るとか、ノドを突くとか、そういうことをさせるつもりはないんですよ。ノーコンテストで帰ってこい**と。そしたら二人ともきっかりプロレスをやってるんで。その様子を見て二人ともやる気ないんだなと。1月4日も自分は行こうとしてたんだけど、来なくていいと。いまから考えたら来てもらったら困るような話し合いをされてたんだろうなと。**いまの新日本の状況も、上井さんが出ていったときみたいに、敵だらけの状況じゃなくて、上井さんシンパの人間がやってるん**だよね。あとあと聞いてみたら上井さんの方からオーダーしたって話もあるしね（苦笑）。

でも、取り組み始めたときから、選手を食わすっていう部分で、団体運営をちゃんと考えていたのかなって疑問に思いましたし、マッチメイクの相談も一切なかったんでね。で、来年から独自スタイル、21世紀のストロングスタイルとしてスーパーUWFっていうのを考えたんですけど、お金がないという理由でドンドン試合が組まれていく。自分は2月から手伝い始めましたけど、**5月の段階では村上君も柴田君もお金がなくて、家賃を踏み倒すような状況だっ**たんですよ。結局、いつまでも安定的に練習できる道場を作らなかったりとかね。21世紀のストロングスタイルって、どうなんかなぁ、どこまでやる気あるんかなぁって思ったんですよ。**すべて行き当たりばったりで計画性がないんですよ。長州さんに会ったら長州さんに影響されて、結局、上井さんがプラプラしてる。**

最終的に撤退を決断したのは新聞発表後ですね。『自分も船木も上井さん次第ですよ』って話をして。独自スタイルでスーパーUWFができるんなら離れるつもりもないんで。用意はいつでもできてます、と。柴田もそういう練習をやってるし、村上も総合の経験もちょっとあるし、それプラス、昔のリングスの仲間とか、海外の自分の持ってる選手のルートとかでも強い選手はいるんですよ。どこのプロレス団体と絡まなくても独自の路線でやっていけますよ、と。**日本人の中核に船木がなるわけだから、失敗するわけないんですよ。でしょ？**」

会見を終えると、前田は、すぐさま控室に姿を消し、試合も見ることなく船木とともにメイン前に会場をあとにした。その後、和田会長やスポンサーとの関係から打ち上げには顔を出した前田だったが、この日をもってBMLから完全撤退という形に。旗揚げ以来、最大の転換期が訪れたBMLは、いったいどこへ向かうのか？

リング上で前田さんに何を言われようが開き直ってました（苦笑）



「そのとき上井文彦氏は?」

2・26徳島大会終了後、撤去作業中の会場内で記者陣にコメントを出した上井文彦氏。衝撃の前田&船木のBML撤退宣言のあとではあったが、上井氏は「リング上で何を言われようが開き直ってました」と、ときおり笑顔も交えながら、今後のBMLの展望を語ってくれた。

僕は1月4日の時点で、前田さんから「スーパーバイザーを降りる」と留守電をもらったことで、気持ちの踏ん切りはついていたんで、べつにどうってことないですね。そこで話はなくなったと思ってましたから。今回は徳島っていうUの聖地ってこともありましたし、和田オーナーとかその辺の絡みもありますし、それで前田さんも来たっていう部分があるんで。だから営業は僕と村上と柴田の3人でしましたから。もうリング上で何を言われようが、開き直ってました（苦笑）。

僕は前田さんにおんぶに抱っこという形が多かったんで、これからは新生ビッグマウスラウド（以下BML）という形でやっていかないとダメだなと。まあ、捨てる神もあれば、拾う神もありって言いますからね。拾ってくれるところがあるかもしれないし、逆に僕らが拾いに行かなきゃいけないと思いますし。また新しい展開を見せたいと思ってます。現実に今日は門馬選手が僕らのところに来ると表明してくれましたしね。心強い戦力も整ってきたし、僕は僕なりに強いプロレスを目指していこうと思ってます。

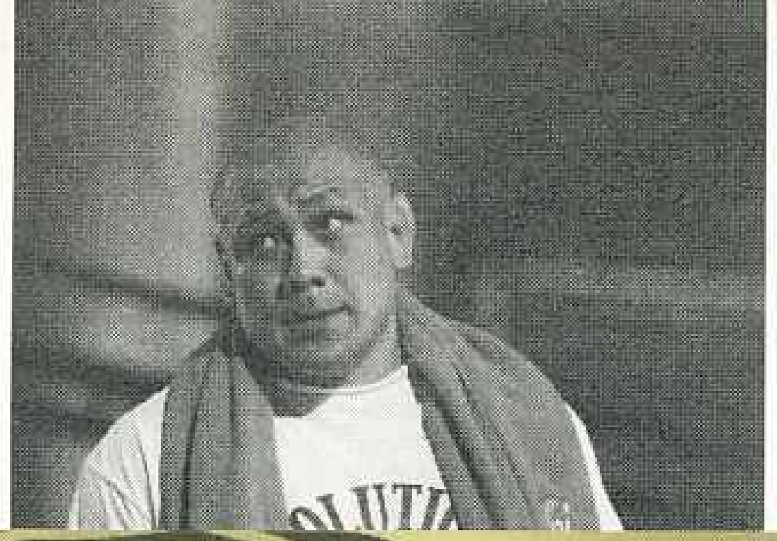
前田さんからは厳しいお言葉をいただいたし、船木さんからも惜別のご挨拶をいただきましたんで、それはそれで仕方ないと。前田さんたちが目指すものがあるんであれば、それを目指してやっていただきたいと思うし。まあ、僕がスーパーUWFをやれなかったっていうことに尽きると思うんですけど、ただ僕はプロレス界全体の調和を考えたいんで。いまはプロレス界が凋落して大変な時期ですから。今日は徳島に2000人以上のお客さんを集めたってことはBMLは自信を持ってもいいんじゃないかと思ってます。やっぱり何か心を打たれるものがないと、応援もしてくれないと思いますし。もともと僕は棺桶に入るまでプロレスをやると宣言した以上は、やり抜きたいと思います。

いまだから話しますけど、船木さんの再デビュー戦の予定もあって、この会場を押さえてたんですよ。まあでも、ウチのリングじゃなくても僕は船木さんの復帰戦を観たいと思ってますから。どっかのリングで上がってもらいたいなと思いますよ。カラエフにしてもAJスタイルズにしても、このリングで独占するつもりはないですから。村上社長でも柴田選手でもドンドン外のリングに上がってもらっていいし、僕たちがやりたいことは、このBMLのリングでできればいいと思いますんで。

3月22日に後楽園がありますけど、また一からやり直しますんで、よろしくお願いします。僕はもう1回、ホラの吹き直しからやっていきますよ（笑）。

ーフレイムのウ
の選手となんら
ート、ウエート
うのが、プロ格
句になってしま
トの別なし』は
（笑）。
――宇宙経営的
井上（無視して





ードルは5・5
が、7月、9月
やないか。鉄の
親指のあたりに
が終わったばか
をじーっと考え
ドルはシードさ
が大半だけど、
だ。まず7月、
いる。「今年の

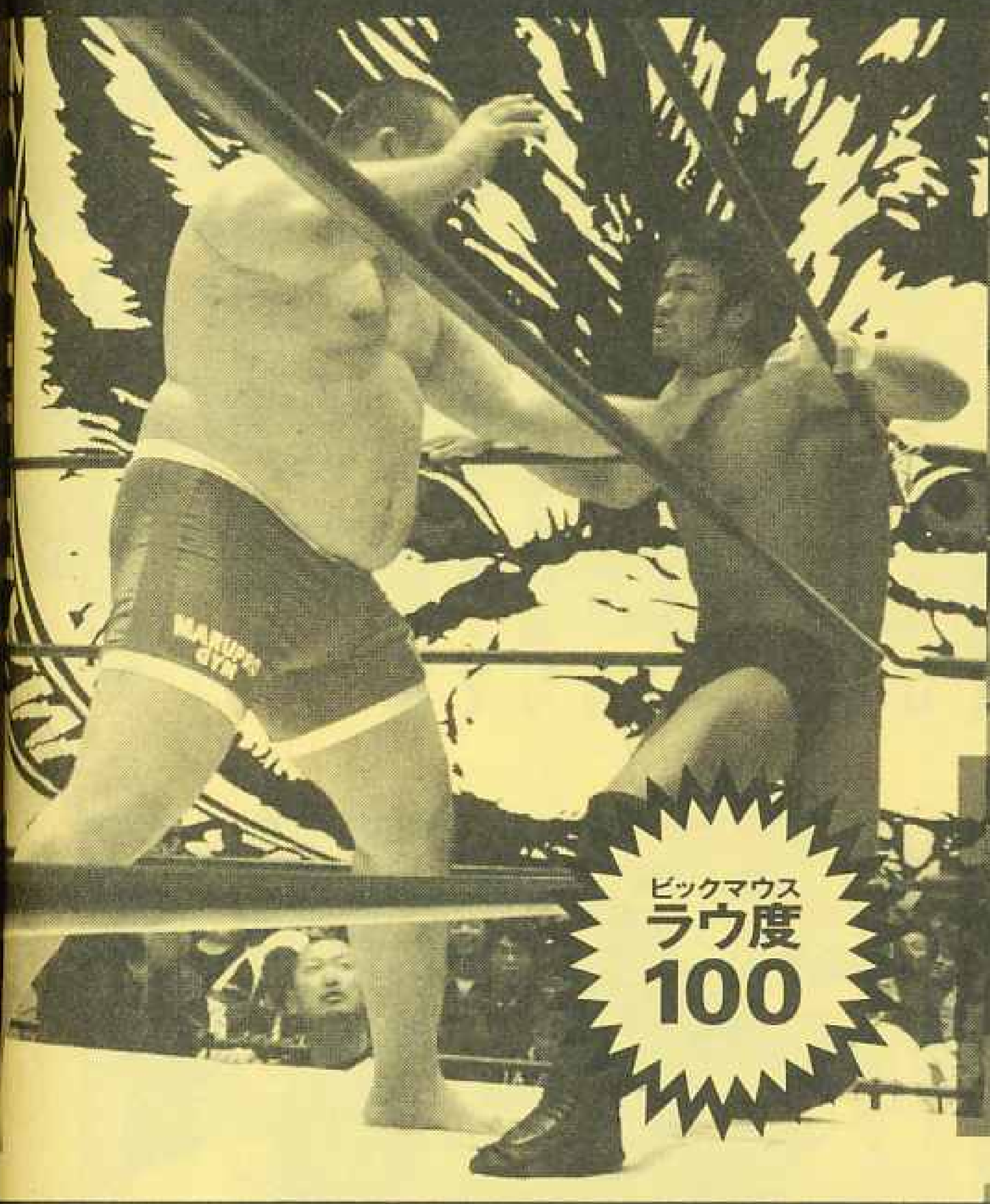
2・26BML徳島大会をバーディクト
ビッグマウスラウ度TOP10

前田&船木の決別宣言ばかりが目立ってしまった2・26ビッグマウスラウド（以下BML）徳島大会。メインの柴田vsカラエフといった試合はもちろん、それ以外も見どころ満載だった徳島大会。そのインパクトを"ビッグマウスラウ度"として勝手にランキング！



No.1 会場を飲み込むほどの巨大なBMLフラッグ！

BMLを観戦したことがある者なら誰もが気になってしょうがないのが超巨大な団体ロゴフラッグだろう。この日もロゴの狼が観客を飲み込んでしまいそうなくらい目立ちまくり。というわけでビッグマウスラウ度1位はぶっちぎりで巨大フラッグ！ う～、MAX!!





No.2 腕相撲100人抜き楽々クリア！ カラエフがプロレスデビュー！

大会前日には腕相撲賞金マッチ（勝者は100万円）に挑み100人相手に余裕の勝利を飾ったアラン・カラエフ。約二倍の体重差を克服し勝利をつかんだ柴田も良かったが、怪力を活かし大暴れしたカラエフはじつにプロレス向き。ケツに書かれた「バリ5」も気になるぞ！



No.4 久々登場の中野イス大王を退治！

BML名物の村上和成指名選手「X」。"イス大王"栗栖のあとに流れた「X」のテーマ曲は『あしたのジョー2』！ 久々の試合となる中野だったが体調は万全の様子でイス攻撃を何度も食らいながらも、打撃で圧倒！ 最後は栗栖を踏みつけ勝ち名乗り。ビッグマウスラウ度88!



No.3 "世の中に前田日明はいらない" 永田さん絶口調！

昨年末の後楽園で対戦、闘いを通じて認め合った村上&エンセン組が新日本プロレスの永田&飯塚組と激突。残念ながら前田と永田の絡みは見られなかったが、試合後、永田さんの「世の中に前田日明はいらない!」というトンチのきいた発言とナマ敬礼ポーズが見れただけで満足。



こんな時代だからこそあえて振り返る!

前田日明&上井文彦 ビックマウスなお言葉

【2005年、上井文彦語録】

「(前田日明は)おそらくこれから
厳しいことを言ってくれると思う」
※まさに、その通りでした。　(05年1月22日、上井文彦新団体設立会見)

「旗揚げ戦は4月17日まででしょうね。
なぜかというとテレビの地上波の
特番とか限界を聞いたら4月17日までなんで」
※残念ながら、いまだ地上波枠も特番枠も取ることはできず。今年に期待!

「前田日明の思うプロレスと
僕の思うプロレスが違っていたら、
前田日明がそこからいなくなるかも(笑)」
※こちらも、その通りの結果に。　(『週刊ファイト』05年2月2日号)

「ワールドワイドに展開したいというのが
ありましたので、FEGの谷川社長に
『WRESTLE-1』という私の大好きな名前を
貸してくださいとお願いした」
※さすがに、いまは嫌いな名前になっているかもしれません。
(05年3月1日、『WRESTLE-1』発表会見)

「ホント、マスカラスさんが出た時点で
涙が出そうでした」
※いつまでもプロレス少年時代のハートを忘れない、それが上井さんだ。
(05年6月27日、『WRESTLE-1』会見)

【2005年、前田日明語録】

「永田なんかよせばいいのに、なんの準備もなく
ヒョードルとやって。怖いんだったらやめとけって」
※この発言がもとで、その後、永田と前田は大舌戦を展開!
(05年1月22日、上井文彦新団体設立会見)

「猪木さんが夢見たりハッタリで
言ったりしたことは全部俺が実現したよ」
※さすがの前田さんでも永久電気は実現してないはず。

「なんかあのオッサン(ターザン山本!)、
60近いくせにインターネットで
若い女の子とつきあってるとか、ラブレターを
アップしたりしてるんでしょ?　みっともない」
※ターザンのラブレターをアップしているのは『kamipro Hand』だけ。
そんなことも知ってるなんて。みっともないけど感激!

「(山本宜久は)これから先、自分が
面倒を見ることになりました」
※あれから約1年、交通事故を乗り越えたヤマヨシが遂に『HERO'S』参戦!
(05年3月1日『HERO'S』発表会見)

「正直何もない。
ちょっと沸いた試合もあったけど、
ルチャでウケを取ってるだけなんで、ルチャで」
※「あの試合、ルチャはやってないんだけどなぁ」byディック東郷
(05年4月16日、リキプロ後楽園大会観戦後)

「山本KIDクラスを二人、ヘビーではヒョードル、
ノゲイラ並みの選手を一人発掘した」
※楽しみに待ってます!　(05年4月25日、『HERO'S』発表会見)

「来年から自分たちの同志となってやる
中心人物を紹介します。船木誠勝選手です!」
※そして、二人はBMLから離脱……。
(05年9月11日、BML旗揚げ戦での挨拶)

上井さんお気に入り門馬が参戦表明!



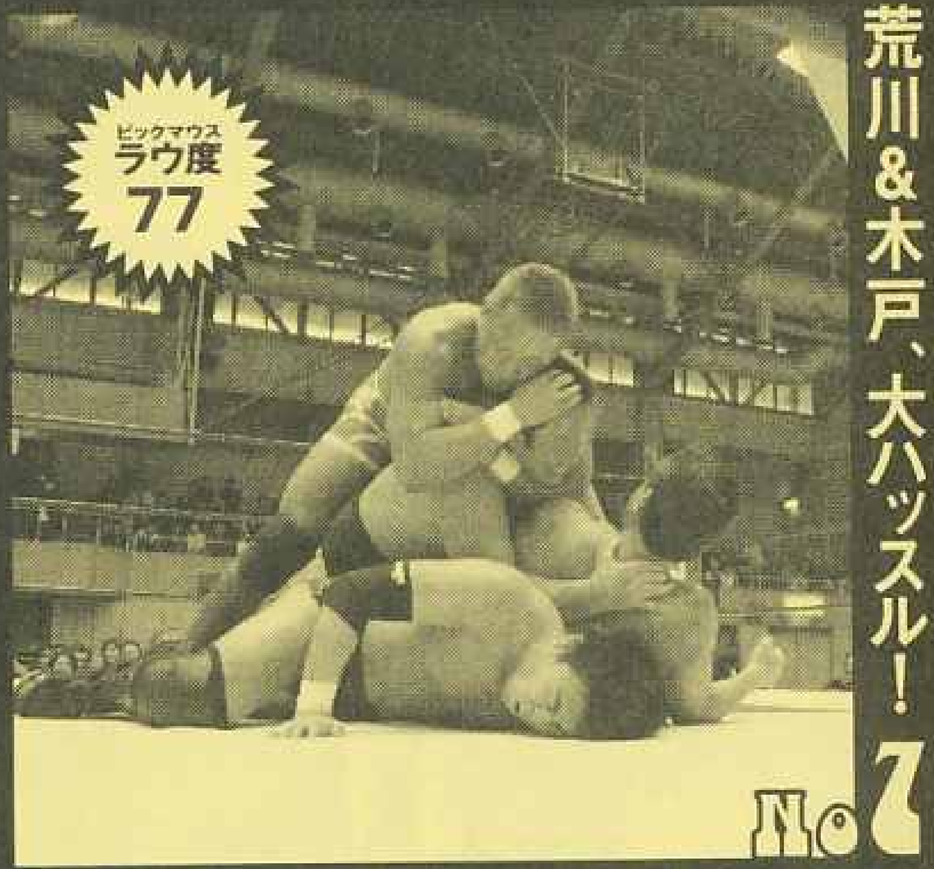
第3試合終了後、新日本にも参戦経験がある和術慧舟會A3の門馬秀貴がリングに上がりBMLへ参戦表明。続けて柴田の名をあげ「柴田選手、良かったら僕と闘ってくれませんか?」と紳士的に対戦要求。ビッグマウスラウ度84!

3人目のマスコットガール登場!



休憩明け、リング上で紹介されたのがBML3人目のマスコットガール・和田紗代子(21)。「皆さんと一緒にBMLを盛り上げていきたいです」と挨拶した紗代子ちゃん。その可愛らしさはビッグマウスラウ度80!　4人目は誰だ!?

荒川&木戸、大ハッスル!



第一試合は荒川さんと木戸が、それぞれ澤宗紀、原学を従えタッグで激突。開始早々から、ひょうきんプロレス全開で徳島の観客を沸かせまくった荒川さん。その鋭い浣腸の連発と木戸のハッスルぶりにビッグマウスラウ度77!

伊藤が先輩越え!



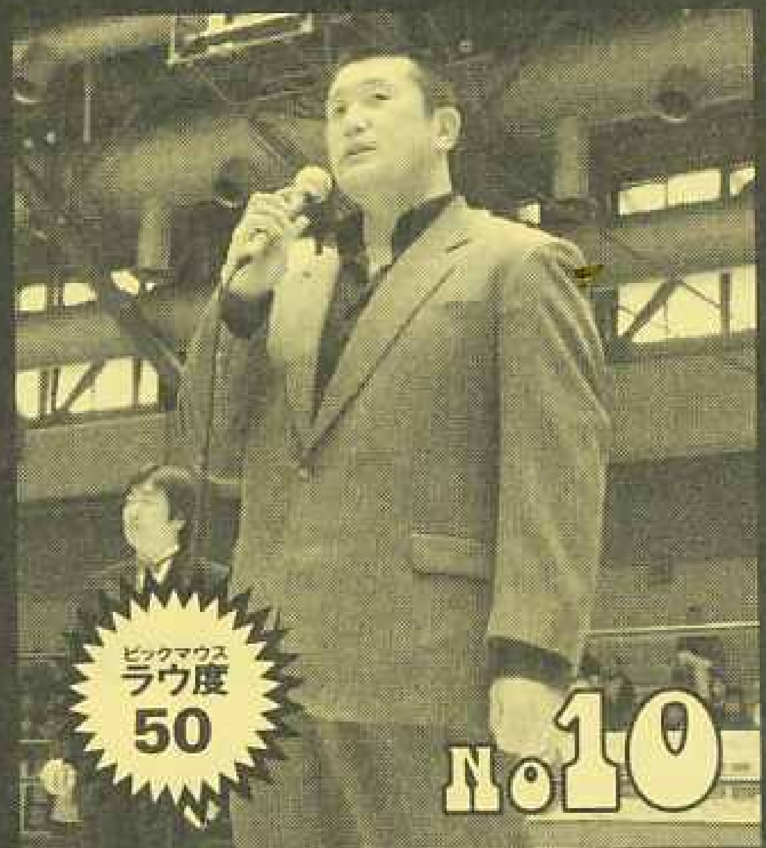
U系団体の先輩後輩にあたる臼田と伊藤が初対決。レフェリーは久々のプロレスルールで緊張の面持ちの和田良覚。試合は、最後に豪快なハイキックで臼田をKOで下し、見事、先輩越えを果たした伊藤にビッグマウスラウ度70!

BMLのリングでアカペラ披露!



大会前、オープニングライブとして[illegible]アカペラグループ、パーマネントフィッシュが登場。「僕らはBMLが大好きです」と挨拶するとリング上で2曲を披露。その、とろけるようなハーモニーはビッグマウスラウ度68!

BML期待のアマレス戦士、近日デビュー!?



試合開始前、リングに上がったのがアマレスで国体優勝の実績を持つ篠原健一郎。篠原は「BML徳島道場の一員として一日も早くリングに上がれるよう頑張ります!」とアピール!　顔は怖いが期待を込めてビッグマウスラウ度50!

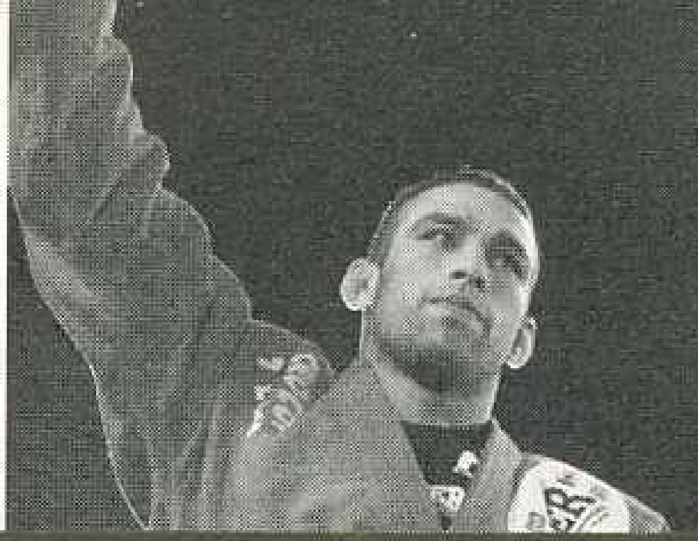
もうすぐトップ10!

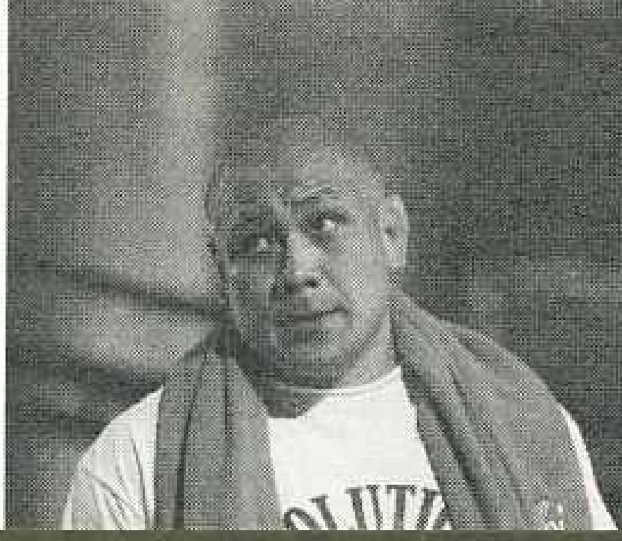


BMLと言えば会場内に溢れかえる、のぼりがお馴染みだが、グッズ売り場で「キング・オブ・スポーツを取り戻せ!」と書かれた上井さんのミニのぼりを発見!　ある意味、ビッグマウスラウ度は、これが一番かも。BML!　BML!



ーフレイムのウ
の選手となんら
ート、ウエート
うのが、プロ格
句になってしま
トの別なし』
（笑）。
——宇宙経営的
井上（無視して





ードルは5・5
が、7月、9月
ゃないか。鉄の
親指のあたりに
が終わったばか
をじーっと考え
ドルはシードさ
が大半だけど、
だ。まず7月、
いる。「今年の無

あんな人から、こんな人まで!!
ビッグマウスラウド 選手&関係者 COMPLETE FILE.com

見てみぃ、この数！ 選手から関係者まで個性豊かなメンツがズラリ勢揃いのビッグマウスラウド。上井さんではないが、まさに"リアル新日本プロレス"といった感じである。この調子で突き進めーーッ!!



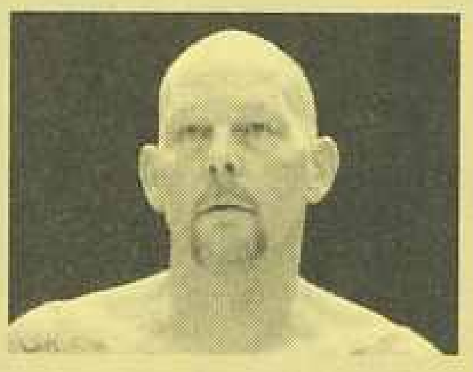
義経

よしつね■みちのくプロレス所属。平治元年（1159年）6月22日生まれ。次期みちプロのエース。村上和成が義経のファンだったのでBMLへ参戦。徳島のファイトを見て大ファンになったため、3・22後楽園大会へ継続参戦。



門馬秀貴

もんま・ひでたか■和術慧舟會A3所属。昭和48年10月23日生まれ。プロレスデビューは男色ディーノ戦。これが認められたか新日本参戦、上井さんの高い評価を受ける。徳島大会でBML参戦表明。柴田との一騎打ちが決定。



ジェラルド・ゴルドー

じぇらるど・ごるどー■ドージョー・カマクラ所属。誕生日は不明。必殺技は無表情のラフファイト、目●し、道衣を脱いでのパンチ、和彫り。旗揚げ戦に村上和成指名選手として登場しエンセンと闘ったが腕十字で敗退。通称・死神。



藤原喜明

ふじわら・よしあき■藤原組組長。昭和24年4月27日生まれ。必殺技はワキ固め、。昭和新日を代表するレスラーの中で数少ない現役。関節技の鬼としてだけでなく、前田に敬語を使わないレスラーとしても貴重な存在感を見せる。



原学

はら・まなぶ■BML所属。昭和57年1月19日生まれ、必殺技はジャーマンスープレックス。BMLには旗揚げから連続参戦、パトラーツジム生え抜き選手としてパトを支えてきたが、上井さんが強引に頼んでBMLに入団させてしまった。



村上和成

むらかみ・かずなり■BML所属&社長。昭和48年11月29日生まれ。必殺技はパンチ、キック、暴走、絶叫。リング内の暴走ファイトとは裏腹にリング外ではいたって紳士。社長として会見には、ほぼ毎回自前のスーツで登場している。



ラッセ

らっせ■みちのくプロレス所属。昭和57年5月21日生まれ。必殺技はジャガラギ、ジャガラギ捻り。みちプロ提供試合としてBML徳島大会へ登場、会場を沸かせた。3・22後楽園では義経とのシングルマッチでBML連続参戦。



天龍源一郎

てんりゅう・げんいちろう■フリー。昭和25年2月2日生まれ。必殺技はパワーボム、天龍チョップ、53歳。その頑固親父っぷりと天パーを武器(?)にBML以外にもNOAHやハッスルで大活躍を続ける56歳。人呼んでミスタープロレス。



伊藤博之

いとう・ひろゆき■チーム・アライアンス所属。昭和51年9月11日生まれ。必殺技はミドルキック。リングスでプロデビュー、平成17年にはヤングライオン杯準優勝の実績を残す。デビュー戦の相手、門馬とBMLでの対戦はあるのか?



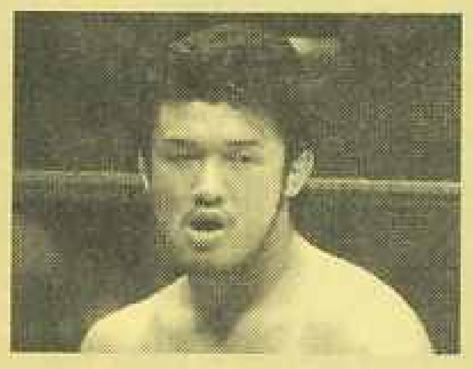
木戸修

きど・おさむ■フリー。昭和25年2月2日生まれ。必殺技はキドクラッチ。01年11月引退したものの、上井さんのラブコールによってBML旗揚げ戦で復帰。旗揚げ戦第1試合で藤原組長相手に変わらぬいぶし銀ファイトを見せつけた。



エンセン井上

えんせん・いのうえ■PUREBRED大宮所属。昭和42年4月20日生まれ。必殺技はパンチ、キック、大和魂、ブログ更新。新日時代はクレイジードッグスとして魔界と抗争。BML旗揚げ戦で村上と一騎打ち後、認め合い共闘を宣言。



柴田勝頼

しばた・かつより■BML所属。昭和54年11月17日生まれ。必殺技はペナルティ・キック、似顔絵描き、長州力のモノマネ。「K-1のKは腰抜けのK」「BMLは最低のリング」他、発言一つにも非凡なセンスが光るBMLのエース的存在。



中野巽耀

なかの・たつあき■フリー。昭和40年6月16日生まれ。必殺技はスープレックス、シャチホコ固め。UWFは旗揚げから参加。BMLには村上和成指名選手として徳島大会に登場。昨年1月にはSB博多大会にも参戦している。



佐々木健介

ささき・けんすけ■健介office所属。昭和41年8月4日生まれ。必殺技は各種ストラングルホールド、北斗ボム、ラリアット。BMLは3・22後楽園が初参戦。新日退団時の因縁が記憶に新しい村上和成とタッグを結成し天龍組と激突。



石川雄規

いしかわ・ゆうき■パトラーツ所属&炭火焼石川屋オーナー。昭和42年2月8日生まれ。必殺技は延髄斬り、卍固め。村上和成を「弟みたいな存在」と呼ぶが、村上からは「プロレスの親父みたいな存在」と言われてしまう39歳。



栗栖正伸

くりす・まさのぶ■フリー。昭和21年11月15日生まれ。必殺技は頭突き、イス攻撃。好きな有名人は椎名誠。BMLでもイス大王として臼田、中野を相手に大暴れ。ド迫力のイス攻撃はリングサイドのカメラマン&観客も油断大敵だ。



ドン荒川

どん・あらかわ■フリー、心のSWS所属。昭和20年3月6日生まれ。必殺技は市役所固め、サラ金固め、カンチョー攻撃、接待。旗揚げから三大会連続して登場、3・22後楽園も参戦が望まれたが、フルマラソン出場を控え無念の欠場。



臼田勝美

うすだ・かつみ■BML所属。昭和45年3月17日生まれ。必殺技はキックと交通整理。パトラーツからフリーを経て、自ら特攻隊長を志願してBML入り。DEEPでの長南戦ではのヒザ蹴りで5秒で敗退という不名誉な記録を持つ。



斉藤彰俊

さいとう・あきとし■NOAH・ダークエージェント総帥。8月8日生まれ。必殺技はスイクルデス、クリスマス興行。生年は非公開だがデンジャー松永の同級生。BML第2回大会に"X"として突如参戦、最後は毒霧で反則負けを喫した。



鈴木みのる

すずき・みのる■パンクラスMISSION所属。昭和43年6月17日生まれ。必殺技は逆落とし、ビンタ、性格の悪さ、風になる。BMLへは前田と入れ替わるように3・22後楽園に初参戦。かつての師匠・藤原組長と一騎討ちで激突。



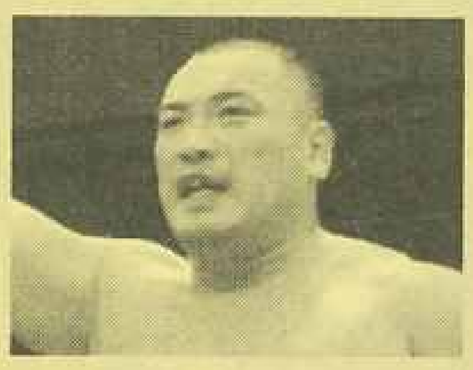
澤宗紀

さわ・むねのり■パトラーツ所属。昭和54年4月20日生まれ、必殺技はアマレスムーブ、シャイニング・ウィザード、突然鼻血を出すこと。BMLには村上の推薦を受け継続参戦中、ランジェリー武藤としてZERO1他でも活躍している。



永田裕志

ながた・ゆうじ■新日本所属。昭和43年4月24日生まれ。必殺技は各種ナガタロック、敬礼。ヒョードル戦をめぐって前田日明と激しい舌戦を展開。村上とは新日本、BMLの両リングで激戦と、BMLにとって欠かせない存在となる。



新崎人生

しんざき・じんせい■みちのくプロレス社長。昭和41年12月2日生まれ。必殺技は拝み渡り、極楽固め。社長になってからは口も達者。徳島大会はみちプロが押さえていた日程だったが仏の精神で快く譲渡、試合も提供するなど協力。



アレクサンダー大塚

あれくさんだーおおつか■AO/DC所属。昭和46年7月17日生まれ。必殺技はジャイアントスイング。現在は男盛としてみちプロで活躍。ディーノから「やるなら本気でやれ！」とアドバイスを受けるが、地元徳島ではアレクとして参戦。





山崎一夫

やまざき・かずお■山崎バランス治療院所属。必殺技は解説、バランス治療。『ゴング』ではコラムニストとしても活躍。BML旗揚げ戦のメイン、柴田vs村上戦のレフェリーとして登場。以後は新日本プロレス道場のコーチ役に就任。



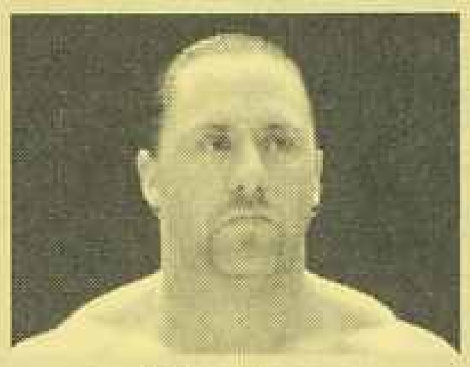
前田日明

まえだ・あきら■元BMLスーパーバイザー。昨年、上井文彦氏の説得を受けプロレス界に電撃復帰し、BMLのスーパーバイザーに就任するも2・26徳島大会のリングで正式に辞任を表明。HERO'Sのスーパーバイザーは継続中。



福田典彦

ふくた・のりひこ■BML取締役兼徳島支部道場長兼フクタレコード店長。通称・フクタの大将。BML版UWFの発案者であり構成員。必殺技はDJ。徳島大会前日には自身の店の前でカラエフの腕相撲100人斬りを実施。



ピーティ・ウィリアムズ

ぴーてぃ・うぃりあむず■NWA-TNA所属。昭和57年8月26日生まれ。必殺技はカナディアン・デストロイ。TNAを代表するレスラーの一人。初来日は現在活動休止中のWAP。BMLでは第2戦でAJスタイルズと対戦し敗れている。



池田大輔

いけだ・だいすけ■フーテンプロモーション所属。昭和43年2月13日生まれ。必殺技は大ちゃんボンバー。BML旗揚げ戦に参戦、村上とはバト時代からの関係があり、自主興行「BATI-BATI」に村上を参戦させるなど認め合っている。



飯塚高史

いいづか・たかし■新日本所属&選手会長。昭和41年8月2日生まれ。必殺技は魔性のスリーパー。新日本に来場しリングサイドを陣取ろうとしたBML軍団に対し、唯一立ちふさがった男。村上和成とはUFO時代から続く因縁がある。



古田信幸

ふるた・のぶゆき■ケンユウオフィス所属の声優。必殺技は「ただいまより～!」「5分経過!」の声で観客を一瞬ビビらせること。第二次UWF、リングスを経て、ZST、HERO'S、BMLなど前田絡みの大会のリングアナを務める。



船木誠勝

ふなき・まさかつ■元パンクラス顧問、現在は俳優として活躍中。「悔いなく死ぬため」BMLへの協力を宣言するも、復帰するはずだった2月の徳島大会で決別宣言。今後は前田と行動をともにする模様だが、柴田との練習は継続中。



真樹日佐夫

まき・ひさお■BML特別顧問&真樹道場総本部宗師。必殺技は素手ゴロ。村上が真樹先生&佐藤氏に対する尊敬の念から顧問を依頼、両者が快諾して就任となった。BMLからは離脱してしまった前田&船木とも懇意の仲。



スティーブ・マジソン

すてぃーぶ・まじそん■フリー。昭和58年4月9日生まれ。必殺技はラリアット。BML旗揚げ戦では長州&宇和野組と対戦、長州の目の前で宇和野にサソリ固めを繰り出し、最後はラリアットで勝利。過去WJにも参戦経験あり。



真霜拳號

ましも・けんご■K-DOJO・GET、勤王党所属。昭和53年11月25日生まれ。必殺技は真剣、無道。IWGP実行委員会の推薦を受けて新日本参戦も果たす。BMLではタッグながら伊藤博之に勝利。ZSTへの出場経験もある。



小島聡

こじま・さとし■全日本所属。昭和45年9月14日生まれ。必殺技はラリアット。三冠王者としてBML2戦目に参戦、メインで柴田に勝利も「こんな恐い試合はなかった。もっとも恐ろしいリングだった」と、あまりにも素直な心情を吐露。



YURI

ゆり■BML所属初代マスコットガール。1990年12月17日生まれ。初めて好きになったレスラーは小島聡(ちなみにその次は棚橋)。旗揚げ戦で上井さんから「石川専務の娘」と紹介されたが、秘蔵っ子であって実の娘ではないらしい。



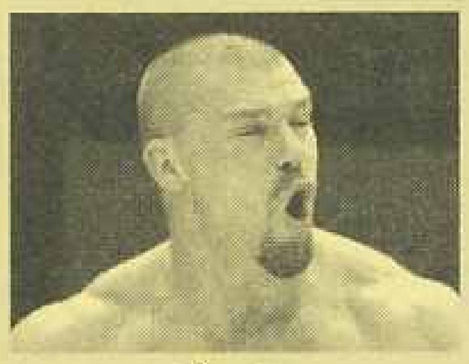
柴田勝久

しばた・かつひさ■BML専属レフェリー&柴田勝頼のパパ。必殺技は厳格なレフェリング。大相撲を経てプロレス入り。新日本は旗揚げから参加。76年の引退後はレフェリーへ転向した。現在、地元・三重で柴田道場を主宰している。



佐藤勝昭

さとう・かつあき■BML特別顧問。極真会館の第1回世界大会優勝者。現役引退と同じくして極真会を脱会、日本空手道佐藤塾を設立。現在はNPO法人・空手道POINT&KOルール協会理事長。『空手バカ一代』にも登場。



バック・クォーターメイン

ばっく・くぉーたーめいん■フリー。昭和42年7月24日生まれ。必殺技はギロチンドロップ。BML旗揚げ戦で日本初登場。スティーブ・マジソンとのタッグで長州&宇和野組と激突するも、その後、日本マットへは登場していない。



KAZMA

かずま■K-DOJO・GET、勤王党所属。昭和57年10月1日生まれ。必殺技はKAZ-MAX、FATKAZROCK、AZボンバー。恵まれた体格を活かし人気&実力ともに急上昇中。BMLには第2戦の後楽園に真霜とのタッグで登場。



長州力

ちょうしゅうりき■リキプロ所属。昭和26年12月3日生まれ。必殺技はリキラリアット。昨年8月リキプロ後楽園では柴田と対戦し勝利。BML旗揚げ戦ではWJ常連ガイジンと対戦。現在は新日本現場監督としてニラみをきかせる。



村上梓

むらかみ・あずさ■BML所属2代目マスコットガール。1991年8月22日生まれ。旗揚げ第2戦で初登場、初代マスコットガールのYURIと共に花束贈呈を行った。剣道初段の腕前。名字は同じだが村上和成社長の娘ではないらしい。



山本小鉄

やまもと・こてつ■新日本プロレス永遠の道場長。必殺技はアクションが小さめのレフェリング、解説。BML第2戦で藤原喜明の試合を裁き、対戦相手の斉藤彰俊から毒霧を浴びると、怒りのビンタをお見舞いし大歓声を浴びた。



横峯良郎

よこみね・よしろう■BML顧問。プロゴルファーとして活躍する横峯さくらのパパ&専属キャディー。日プロ時代からの熱心なプロレスファン。前田の大ファンだったことから顧問に就任したが、前田撤退後の去就は今のところ不明。



上井文彦

うわい・ふみひこ■BML総合プロデューサー。必殺技は電撃発表(たまに自爆)と土下座外交。前田を表舞台にあげるところまでは成功したものの、長くは続かず。しかし、プロレスへの情熱は業界NO1、ルチャ好きな一面も。



アラン・カラエフ

あらん・からえふ■マルプロジム所属。昭和52年5月19日生まれ。必殺技は怪力。腕相撲世界王者の経歴をひっさげ総合デビュー。リンゴを握り潰す握力に惚れ込んだ上井さんは早くからプロレス参戦を熱望していた巨漢戦士。



石井智宏

いしい・ともひろ■リキプロ所属。昭和50年12月10日生まれ、必殺技は垂直落下式ブレーンバスター。旗揚げ戦の伊藤との激戦は記憶に新しい。その後、リキプロのメインで村上と対戦。長州からは「智宏」と名前で呼ばれている。



和田紗代子

わだ・さよこ■BML所属3代目マスコットガール。1984年4月12日生まれ。徳島出身。将来の夢はスポーツキャスター。好きな格闘家はヒース・ヒーリング。名字は同じだが和田京平(or良覚)レフェリーの娘ではないらしい。



和田京平

わだ・きょうへい■全日本プロレス所属。必殺技はキッチリとしたレフェリング、ダンス。柴田vs小島聡戦のためBML第2戦に登場。3・22柴田vs門馬戦でもレフェリーを務めるなど、何げに柴田のビッグマッチを裁く機会が多い。



星野勘太郎

ほしの・かんたろう■魔界倶楽部総裁であり、村上和成の"心の神"。必殺技は「ビッシビシいくからな!」と神戸地区のプロモート活動。「もぬけのカラとなった新日本」を潰す勢いで日々、村上、柴田らにゲキを飛ばしまくっている



和田友良

わだ・ともよし■BML最高顧問、BML版U.W.F.(上井、和田、福田)メンバーの一人にして横綱・朝青龍の全国後援会会長を務める。BMLは和田氏が前田・上井両氏を朝青龍の披露宴に招待したことからスタートしている。



AJ・スタイルズ

えーじぇい・すたいるず■NWA-TNA所属。昭和52年6月2日生まれ。W-1でのカズ戦前から上井さんのお気に入りのレスラーの一人。BMLではTNA直輸入のXディヴィジョンマッチでピーティと対戦するも本領発揮とはならず。



宇和野貴史

うわの・たかし■リキプロ所属。昭和51年10月3日生まれ。プロデビューはIWAジャパン。必殺技はSTU、裏投げ。BML旗揚げ戦ではWJ常連ガイジン、スティーブ・マジソンに敗退。長州からは「宇和野」と名字で呼ばれている。

〈緊急座談会〉

ビッグマウスラウドは どこへ行く

前田決別宣言が飛び出し大揺れのビッグマウスラウド。締切間際の現在も柴田vs棚橋戦キャンセル問題が絶賛勃発中。果たしてビッグマウスラウドはどこへ行こうとしているのか？　匿名座談会で占ってみました！

BML座談会出席者紹介

B＝待画はBMLのロゴというBML大好き人間。「♪ビッグビッグビッグ、ビッグマウス・ラウド！」と、よく口ずさんでいる。

M＝一般誌や実話誌等で活躍するフリーライター。元々プロレスファンだったが、最近、観戦するのはもっぱら総合オンリー

L＝某プロレス&格闘技系の携帯サイト記者。プロレスファン歴は約15年。BMLは徳島大会も含め、すべてチェック済み。

B　早速だけど、前田日明&船木誠勝脱退後のビッグマウスラウド（以下BML）はどうなると思う？

L　これまでの大会とか見る限り、前田ファンや船木ファンって、かなり会場に来てたんで、普通に考えたら厳しくなっていくんじゃないの。

M　でも、団体として考えたら案外メリットのほうが多いんじゃないかな。よく言われてることだけど、前田がいることによって、これまでBMLに上がれなかった人って多かったわけでしょ。

B　それこそ、新日時代、上井さんが土下座外交でブッキングしてた健介、みのる、天龍の3人が3月の後楽園で揃って参戦してるからね。

L　ひょっとして、メインで柴田と対戦する門馬も前田がいなくなったから上がったの？　いまはどうかわからないけど、前田と慧舟會の久保社長の関係も良くなかった時期があるって聞いたことがあるし。

B　いや、上井さんに聞いたら「久保社長は、そんな小さいことを気にするような人じゃないですよ」って言ってたから、それはないと思うよ。

L　そうなんだ。でも、目新しさはないけど、健介、みのる、天龍といったビッグネームが使えるようになったっていうのは大きいんじゃない？　いくら前田人気が凄いっていっても、実際試合するわけではないからね。

M　たしかに。ただ、前田の発言は試合以上のダメージを与える場合が多いからね（笑）。

B　上井さんは「スーパーUWFはできません」って前田に言ったみたいだけど、以前から目指している"リアル新日本プロレス"構想には、かなり近づいてきてると思うよ。

L　それは、どういう意味で？

B　モノ凄くベタなところで言えば、荒川、木戸、組長、栗栖、あと柴田勝久レフェリー、小鉄さん、星野総裁といった昭和の新日のレスラーをたくさん出してるっていうのもそうだし、かつてのタイガーマスクブームじゃないけど、TNAのXディビジョンマッチを直輸入してみたり、グレート・アントニオやジャイアント・グスタブのバス引きに負けじと、カラエフに腕相撲賞金マッチをやらせてみたり、なんか昭和の新日本っぽくない？

M　まあ、言われてみれば（笑）。

B　当日までシークレットの"X"も12月の彰俊、2月の中野と、ホントに入場するまで誰だかわかんなくてドキドキさせられたもん（笑）。

L　それはよかった（笑）。でもやっぱり、リアル新日本を目指すなら、猪木さんに相当する人がいなきゃダメでしょ。現時点では柴田と村上のどっちかってなるんだろうけど、村上は営業とか含めて社長業が大変みたいだしね。

B　この間の徳島大会は柴田も営業活動してたみたいだし、その辺は大所帯じゃないからしょうがない部分でもあるんだろうけど。そういう意味では、前田はともかく、船木の離脱のほうが痛いんじゃない？

M　たしかに、今後のことを考えたら、選手としての活躍を期待していた船木の離脱のほうがダメージはデカイよね。

B　船木自身も以前から言ってるように、もう総合はやるつもりはないだろうし、柴田とかとプロレスをやりたかったと思うんだけど。実際、いままでも練習は一緒にしてるみたいだしね。

L　でも、結局、船木は前田と一緒の道を選んだわけでしょ。そうなると復帰プランはどうなるんだろ？

M　前田自身はプロレスには関わるつもりはないみたいだからね。ホント、上井さんじゃないけど「どこでもいいから船木さんの試合が見たいです」って感じだよなぁ。

B　いなくなってしまったのはしょうがないし、やっぱり残った柴田に期待するしかないでしょ。先日の会見で「このリングは最低です」なんて上井さんの目の前で言ってたけど、最高のリングにしたいというか、できるという自信があるから、あそこまで言ったんだと思うし。

L　この号の発売日には、もう終わっちゃってるけど、柴田は次は門馬と試合が決まってるんだよね。その前に、ドタキャン騒動勃発中の棚橋戦もあるんだけど（笑）。

B　ドタキャン騒動は、さすがの『ファイト』でもアングルなのかガチンコなのかよくわからないって書いてたから、「kami-pro」もあえてこの件には触れない（笑）。

M　上井さんの携帯が壊れて、連絡が取れなくなったのはガチンコみたいだけどね（笑）。

B　会見のときに上井さんは「携帯が壊れて番号が変わったので、いまから新しい番号をお伝えします！」って読み上げてたし（笑）。

L　まあ、いま柴田vs棚橋が見たいかって言われてもねぇ。長州は毎日でもやらせたいらしいけど、柴田の言葉を借りると「ナンセンス」の一言でしょ。

B　同感。柴田も、それよりも門馬戦で頭がいっぱいって言ってたし、門馬戦はI編集長じゃないけど、何か実験的な試みをするような気がするんだよね。

M　と言うと？

B　BMLのポスターには「このリングが新しいプロレスの実験場となる」って書かれてるんだけど、柴田はカラエフ戦も含めて「これまでは新しい実験は何もできてなかった」って言ってて、門馬戦決定会見では「最低でも俺の試合は新しい何かを生み出したい」って意気込んでたんだよ。俺は、その言葉に期待したい。

M　大胆にバーリトゥードを取り入れたプロレスルールとか？

B　なんか、そんな感じになるような気がする。

L　現実問題、前田&船木が抜けたら、残った柴田、村上、あと先日正式入団した臼田、原学に頑張ってもらうしかないからね。

M　BMLとWJを比較したがる人も多いけど、なんとかBMLにはヴァーッと踏ん張ってほしいよね。

B　頑張れ、BML！……というわけで、最後はBMLのテーマでも歌って締めますか？

M&L　は？ BMLのテーマって何？

B　（無視して）♪ビ〜ッグ、ビッグ、ビッグ、ビッグマウス、ラウド！

村上が天下一武闘会に出陣！

北九州格闘技フェスティバル
天下一武闘会スペシャル

福岡・西日本総合展示場（中展示場）
3/26（日）開始 17:00（開場 16:00）

［対戦カード］
【特別試合30分1本勝負】
村上和成（BML）vs **無法松力**（チームPOWER）
※レフェリー・和田良覚
その他、バーリトゥード、キックボクシングなどリアルファイト20試合あり

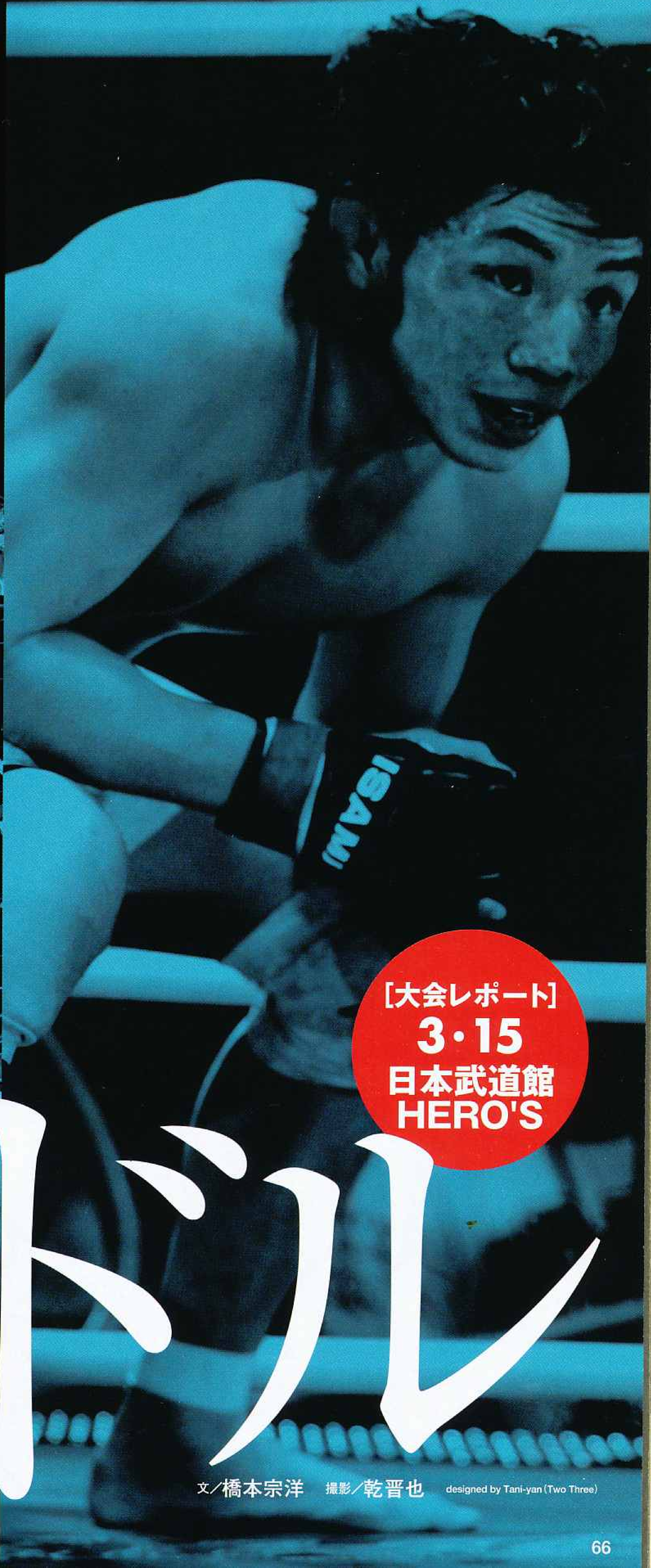
［入場料金］
RRS7.000円、RS5.000円、自由席 4.000円
※RRS、RSはSOLD OUT

［問い合せ］
大会事務局■ル・クレール TEL.093-551-8830


旗揚げ前から上井さんが惚れ込み、投入の機会をうかがっていたのが、3・22後楽園大会で柴田と激突した和術慧舟會A-3の門馬秀貴。上井さんの、もう一人のお気に入り、クラフターMのBML参戦はいつになる？


吉田豪の
セメント!!
スーパースター列伝
ストロング小林
田代まさし
猪木快守
イーデス・ハンソン
阿修羅原
鶴見五郎
サムソン・クツワダ
康芳夫
倉持隆夫
田中佳一
小川宏
パート1
kamipro終身名誉アドバイザー
吉田豪
セメントインタビュー
11連発
必読! プロレスインタビュー本の最濃傑作!
驚ガクの全344ページ!!
プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!
4月上旬発売予定
B4変型判 344ページ
定価=1890円（本体1800円＋税）
enterbrain
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
TEL.0570-060-555（代表）
[通信販売のお問い合わせ先]
http://www.enterbrain.co.jp/
吉田にニラまれたら、
生きてる心地がしない。
リリー・フランキー



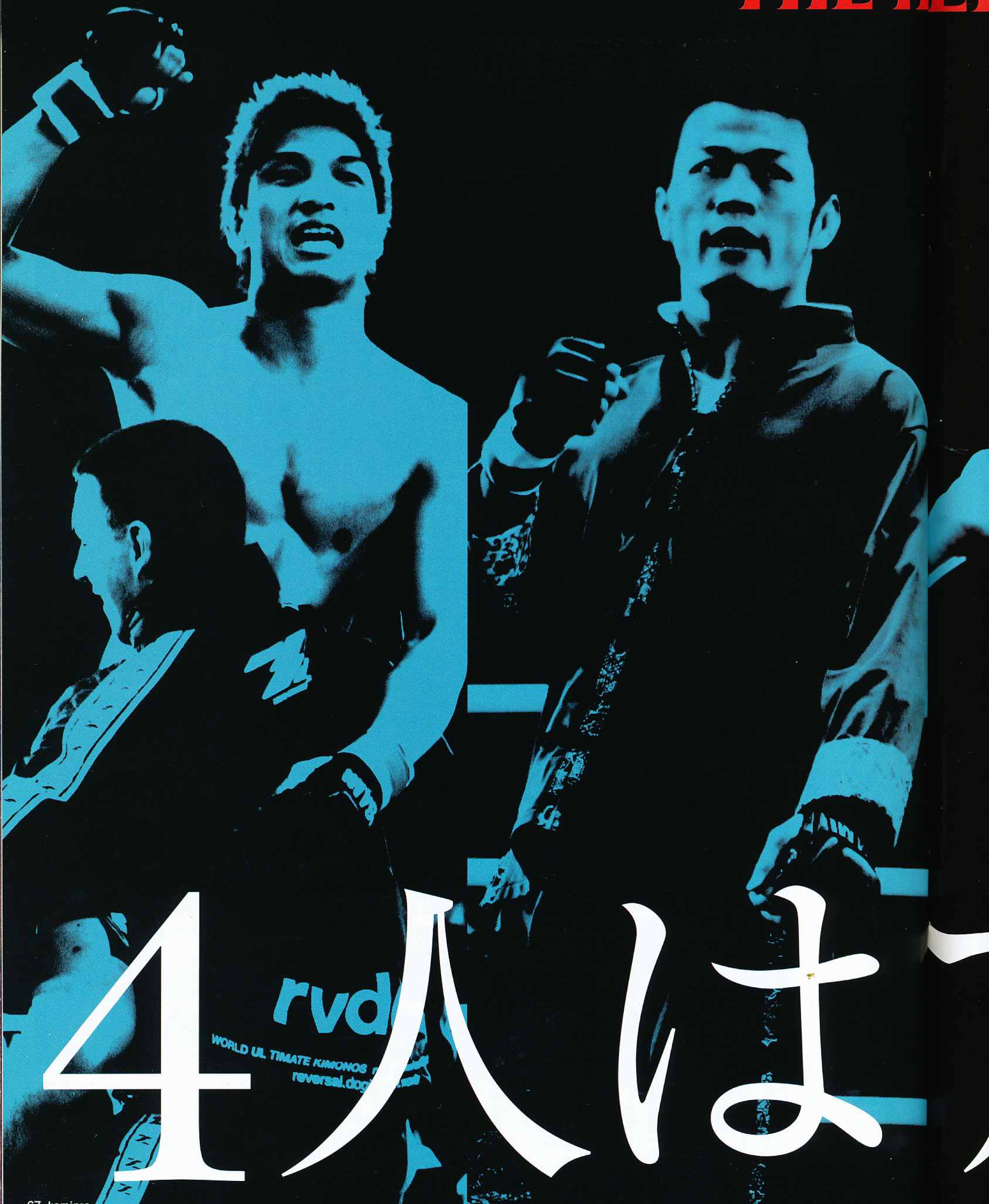


［大会レポート］
3・15
日本武道館
HERO'S

アイドル

文／橋本宗洋　撮影／乾晋也　designed by Tani-yan（Two Three）

THE HE



4人は

『HERO'S』の日本人中量級ファイター、とくに山本〝KID〟徳郁、所英男、須藤元気、宇野薫の4人は、いまや完全にアイドルである（今回KIDは試合をしなかったが、リング上から挨拶を行なった）。まさに〝4人はアイドル〟なビートルズ状態で、客席から飛ぶのはただただ黄色い声。そのうち誰か失神するんじゃないか。

もちろん、それは決して悪いことじゃない。いままで格闘技を観ていなかった人がファンになってくれれば、より業界が大きいものになるわけだから。いまの〝格闘技ブーム〟が、そういうライト層、ビギナー層に支えられているのも事実。ただ気になったのは、選手をアイドルとして観るという以外の目線が、この日まったくといっていいほど感じられなかったことだ。

念のため、試合を振り返ってみよう。宇野はリッチ・クレメンテに判定勝ち。攻められているように見える場面もあったが、じつは最初から最後まで宇野ペースの試合だった。バックを取られても、それは得意の〝宇野逃げ〟から反撃していく布石。やっぱりうまい。だけど、宇野がうまいのはいまに始まったことじゃない。とっくに承知である。だから、宇野にはもっと何か爆発的なものを見せてもらいたかった。

須藤はオーレ・ローセンに大苦戦した。1Rから何度も極めにいくシーンがあったのだが脱出され、2Rにはパウンド連打で窮地に追い込まれるシーンも。本戦から内容的には押していたのだが、画竜点睛を欠くといった感は否めない。

じつは須藤は1Rに足を傷めていたそうで、それがかなり影響したんだろう。ただ、それを差し引いてもオーレの健闘は称えたい。柔術の練習もみっちりやり込んできたというオーレだが、彼の本職はキックボクシングである。本来はMAXに出るべき選手なのだ。そういう男が、須藤を相手に最後まで極めを許さず、それどころか攻め込む場面まで作ったのは立派というほかない。

そしてメインは、所が極真の池田祥規に三角絞めで一本勝ち。1R49秒という圧勝だった。付け加えるなら、マウントからの三角は所が最も得意とするパターンである。レミギウスに勝利したときも、このパターンだった。

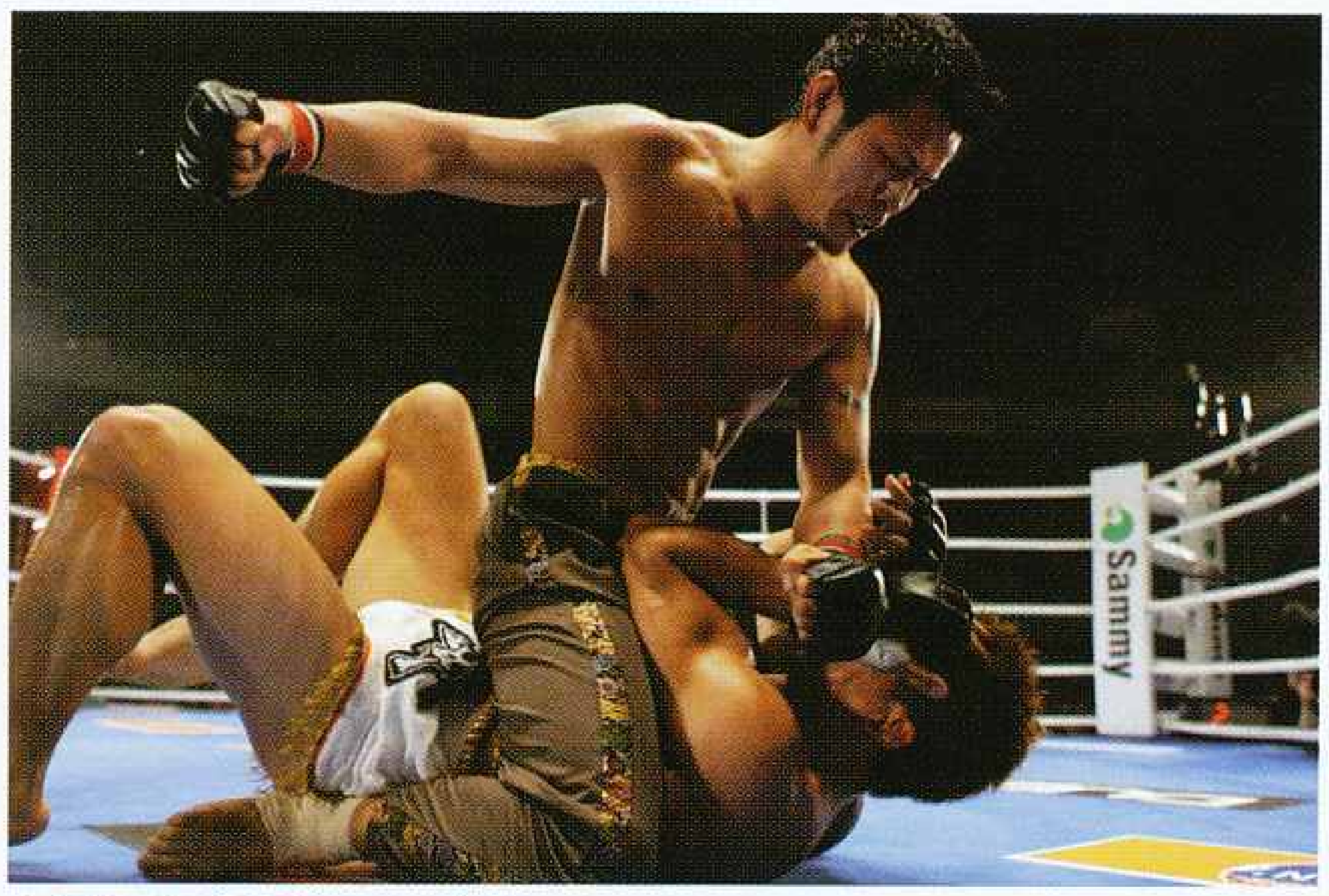


○宇野薫[2R 判定3-0]リッチ・クレメンテ×

前日計量でパンツを脱ぐも体重オーバーしたクレメンテには、1ポイントの減点が与えられて試合スタート。宇野がタックルから上を取り、パンチからパスガードを狙う。2R、クレメンテも宇野のバックを取り粘るが、宇野はあせらずグラウンドへ持ち込む。両者とも極めきれぬままゴングで試合終了。判定で宇野が勝利した。

でも池田は総合2戦目である。所が圧勝しても〝そりゃそうだね〟でしかない。もちろん勝負に絶対はないし、メインのプレッシャーを跳ね返してよくぞ一本勝ちした、という見方もできる。だが、そういうレベルには止まらないのが所英男という選手じゃなかったか。所にはやはり〝大舞台のメインできっちり一本勝ち〟以上のプラスアルファを期待してしまうのだ。それこそが「ZSTからきた所です」（試合後のマイクより）の真骨頂というものだろう。

……と、ここまで書いてきたような試合のポイントに対する客席の反応は、皆無といってよかった。宇野が判定決着になろうが、須藤がピンチを迎えようが、客席から聞こえてくるのは「キャー！」だけである。そういう声〝も〟聞こえたというのではなく、そういう声ばかり。須藤vsオーレ戦の2Rに起こった須藤コールも女性ファンの声ばかりで、逆に彼女たちにとってアイドルじゃない選手がパスガードしても危機を脱して反撃しても、会場のリアクションはゼロ。要はアイドルが勝つところだけが観たくて、それ以外の要素は（試合内容ですら）どうでもいいという感じだ。「アイドルってそういうもんだろう？」といわれればそれまでなのだが、そういう空気が会場全体を覆ってしまっているのには違



○須藤元気[延長1R 3-0]オーレ・ローセン×

特別コスチュームが許されるルールで、カンフー着を身にまとい半身にかまえ後ろ回し蹴りを放った元気。足関節、スリーパーと序盤幾度もチャンスを掴むが、2Rから苦戦し本戦ドロー。延長R、元気がタックルからサイドをるも極めきれずゴング。元気は足をひきずってコーナーへ。延長の判定は三者とも元気勝利をつげた。

和感を感じないわけにはいかない。

所や須藤、宇野が素晴らしいのは〝世界屈指の実力を持ちながら、なおかつアイドル性もある〟ということだったはずだ。その前提条件が、『HERO'S』ではあまりに軽んじられてやしないか。格闘家をアイドルとしてしか観ていない人たちに、それ以外のおもしろさ、もっと楽しめる見方を提示するというのも専門誌の役割だとは思う。だが今回はそれ以前の問題だろう。

そんなことを思っていると、メイン終了後にさらなる衝撃的光景が展開された。勝った瞬間、猛ダッシュで前田日明スーパーバイザーに駆け寄る所。それを前田氏はハイタッチで出迎える……。前田日明ともあろう人間がハイタッチ⁉ リングス時代の赤ブレザー姿を知る者には〝軽すぎる〟としか思えない光景。結局、会場の空気がそうさせたということなんだろう。

試合前の煽り映像にも〝軽い〟という印象が付いて回った。何かといえば「○○には負けられない理由があった」で、その理由はどの選手も〝家族のため〟。たぶんTBSの格闘技中継の原点に『猪木祭り』の安田劇場があることや、最近でいうと亀田人気も影響してるんだろう。家族愛はウケる？ 確かにそうだ。そして一般層に響く〝ツボ〟を押すことに関しては、TBSは抜群にうまい。でも何度もそれを繰り返されたら、お手軽、お手盛り感が漂ってしまうもの。まさか〝こういうの見せときゃ客は喜ぶんだよ〟ということではないと思うけれど……。観客をつかまえて「見てるあいだじゅう泣きっぱなしでした」だの「男

と男の闘いって……涙が止まりません」なんて言わせる映画CMみたいな安っぽさは、格闘技とは無縁のはずなのに。

『HERO'S』って、そんな軽いものじゃないだろう。見たいのはギリギリのせめぎ合いと、そこでムキ出しになる選手たちの土性っ骨や意気地。それが見えたから、去年のミドル級トーナメントはあんなにおもしろかったのだ。主催者や観客の視線が果たす役割は、選手を砂糖でコーティングすることじゃない。

4人はアイドル。でもそんな状況には〝HELP!〟だ。ビートルズは、アイドルの衣を剥いだら超のつく実力派だった。『HERO'S』の中量級アイドル4人だって、ビートルズ級の才能を持っているのは間違いないのだ。アイドル人気全盛時のアルバム『HELP!』に〝イエスタディ〟が収録されていることを忘れちゃいけない。



4人はアイドル



○所英男[1R 0:49 三角絞め]池田祥規×

シンデレラボーイ所英男の相手は極真世界王者32歳。所は鮮やかなタックルでいきなりマウントを奪取。反転させて上になる池田だが、所は下からの三角絞め。池田はタップしなかったが落ちた様子を見てレフェリーが試合をストップさせた。勝利が告げられると所は真っ先に前田のもとへ、前田は両手を出して所とハイタッチをかわした。



3・15「HERO'S」日本武道館
○ 秋山成勲 [2R 1:41 袖車絞め] 石澤常光×

元GKインサイドリポート

「なんとか生き延びた」石澤は私にそう言った

文／金澤克彦

designed by Tani-yan (Two Three)



元GKインサイドリポート
「なんとか生き延びた」石澤は私にそう言った

　試合から3時間後、試しに石澤の携帯電話を鳴らしてみた。思い出すのは、6年前の8・27西武ドーム大会（PRIDE．10）。ハイアン・グレイシーに僅か2分でKOされた石澤は一晩中、携帯の電源を切っていた。今回は、あっさりと出た。周りが騒々しい。藤田和之と高橋義生は先に帰宅したので、3人目のセコンド、ボンバー斉藤（全日本プロレス・レフェリー）と一緒に食事をしているという。

　いつもの石澤常光だった。ところが、突然、カシン節が全開となって飛び出してきた。

「世の中に永田裕志と敬礼はいらない！　これ書いておいてくださいよ」

「えっ、なんで？」

「試合前に前田日明が激励に来てくれてねえ、あの人、いい人だよ。『いろいろ大変なんだって？　頑張ってよ』って。あんないい人を悪く言うヤツは俺が許さない。前田日明の悪口を言う人間がいたら、俺がその前に立ち塞がるよ。永田、文句があるなら『HERO'S』のリングに出てこい！」

「でも永田はアナタからお呼びがあれば、会場に行く気もあったみたいだよ。でも声が掛からないから、今晩の『ニュース侍！』に出演して、その後、六本木で『永田会』だって言ってた」

「バカ野郎！　そうやって酒飲んだり食ったりばかりしてるから、プロレスがダメになるんだ。トップレスラーがそういうことじゃダメだろ。だいたいレスラーは練習をしなさすぎる。だから格闘技に抜かれたってことにみんな気づいてないんだ。格闘技はプロレスラーの知名度を利用してるって？　アホかって。格闘技はいまのプロレスラーに利用価値なんかないと思っているんだよ。そこに気づけって」

「ああ、ハイハイ。で、今日はノー・ダメージなの？」

「ああ……いや、ちょっと顔が腫れてるかな」

「やっぱりタックルから上を取るのが作戦だったの？」

「いや、あれはテイクダウン取るタックルじゃないから。まあ、上を取ったら取ったで動いていくし。相手が打ってくれば打つし。だから組んでいて、離れ際にパンチを入れるとか……まあ、そんな3日、4日で作戦なんか立てられないよ」

「じゃあ、リベンジしよう！　1ヵ月あればいけるんじゃないの？」


石澤は素顔で登場。着ていたTシャツは「カシンvsヒサエ」裁判Tシャツ（オリジナル）だった。

「俺の言うことじゃないよね。それはお客さんが望めば、マスコミがもう一回と思うのなら。まあ、これでなんとか生き延びたかなあ」

　カシン節から、素の石澤語録へ。これだけ聞けば充分だ。ハッキリ言って、戦前の私の予想は石澤の惨敗だった。それも秋山のパンチ一撃、あるいはグランドに引きずり込まれてからパウンドの嵐によってKO負け。もう対戦が決定した瞬間から、そのシーンが頭に浮かんでいたのだ。

　ところが、現実はどうだったか？　昨年末に古傷のある腰を痛めたとはいえ、秋山は3・15復帰戦だけに照準を絞り準備してきた。一方の石澤は10日夜に緊急オファーを受け、中4日の練習（調整）で出陣してきた。こういった場合、プロレスラーはどうなるか？　ボコボコに打たれてのKO負け。いったい過去に何度そういうシーンを見せられてきたことか!?

　しかし、石澤はグッドシェイプだった。もちろん、プロレスで失業中ということもあるが、元々、三度の飯よりスパーリング好きと言われる男。ロス道場でも日本でもトレーニング＆コンディショニングだけは欠かさなかった。「プロレスラーは練習が足りない。ちょこちょこってバーベル挙げて終わりとかね。レスラーなら常にプロレスとシュート、両方の練習をしておくべきなんだ」。最近の石澤の口癖である。今回はたまたまイジリやすい永田が標的となったが、石澤はその点でも有限実行の男だった。


セコンドについたのは、藤田和之と高橋義生。藤田もこのまま石澤に続いて『HERO'S』参戦となるのか？


秋山のパンチによる打撃KOはまぬがれた石澤。されど今後もMMAと続けるなら、打撃対策は急務と言える。

　石澤の要請で高橋と共に練習相手とセコンドを買って出た藤田もこう証言している。

「オファーを受けて3、4日しかないから、無理に追い込むんじゃなくて疲れを残さないことを第一にやろうと。だから合計1時間ぐらいしか練習やってないんですよ。だけど普段やっているから反応がいいし、タックルのキレも昔と変わらない。肌合わせてみて、これはいけるんじゃないかってね」

　反対に、正直に言うと、「あれ、秋山成勲ってこの程度なの？」というのが私の率直な印象だった。仮にも『HERO'S』がイチ押しするライトヘビー級のエースである。とても褒められる内容ではなかった。

　試合が決定して以来、常に沈着冷静だった石澤の傍らで、思いっきり入れ込んでいた藤田もこう言う。

「1ラウンドが終わって高橋さんが『大丈夫か？』って聞くと、石澤先輩は『うん』って言って涼しい顔をしていた。呼吸も普通なんですよね。秋山選手はもっと打撃が凄いと思ったけど、予想していた程じゃなかったし。これ、いけるな！って。だから悔しいんですよ。俺、今晩眠れないですよ。でも多分一番悔しいのは本人でしょう。秋山選手に負けたことより、あそこであいう形でタップした自分自身に悔しいんじゃないですか？　僕はね、リベンジしなきゃ、ケンドー・カシンじゃないと思ってますから。ハイアンにも2ヵ月の練習期間でリベンジした男ですからね」

　藤田の言葉はそのまま私の願望でもある。いや、石澤をよく知る者ならみんな同じ思いを抱くはずなのだ。そこで、最後に石澤のセリフをもう一度確認しておきたい。

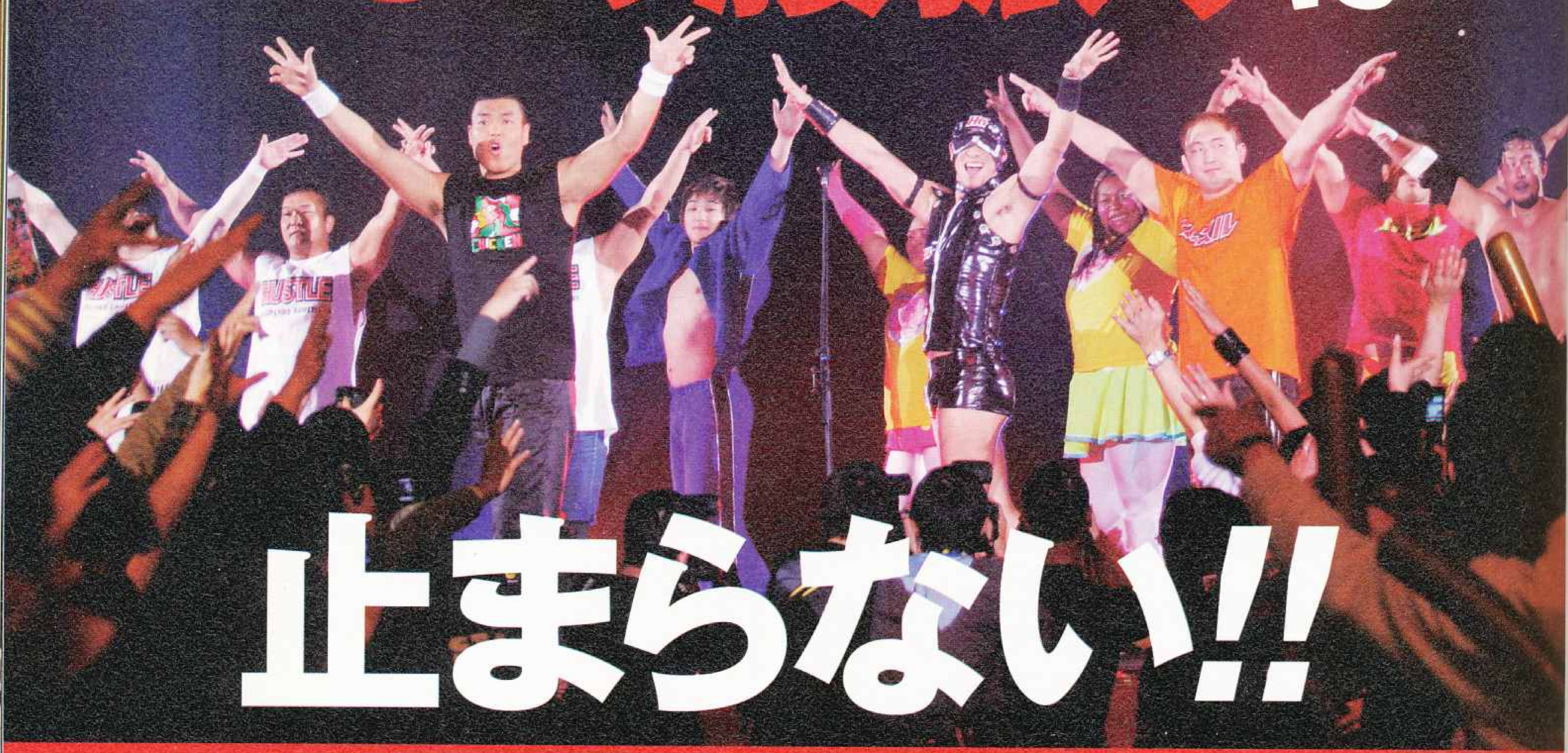
「（リベンジは？）お客さん、マスコミが望むなら」＝リベンジマッチをやらせろ！

「これでなんとか生き延びたかなあ」＝やっと俺の目標が見つかった！

　通訳すると、そういうことになる。破格のギャラを得たから生き延びたわけではない。ストイックな男に相応しい「リベンジ・ストーリー」がいまスタートしたということなのだ。

モンスター軍の強敵相手に2連勝!!

HGの腰振りは止まらない!!



3・5横浜 3・9後楽園 3・12名古屋 怒濤の3連発を大特集

ハッスルの快進撃も止まらない!!

2月のハッスル・オーディションを経て、さらにパワーアップ(でオー!)したハッスル。『ハッスル・マニア2005』以降も勢いは衰えることなく、着実にプロレスファンや一般層に熱い支持を広げている。怒濤の3月3連戦を追いながら、ハッスルの世界をどこよりも深く熱くお届けしよう!

試合写真/乾晋也、平工幸雄、山口比佐夫、真下義之 試合提供/DSE

構成/坂井ノブ、真下義之 designed by matsu (TwoThree)



フォフォフォフォ~!!

ついでにRGも止まらない!?
いきなりGMに就任!!

3月シリーズのキーマンを個別に徹底追跡 001

HG

熱愛騒動乗り越え、完全無欠のエース宣言！


メインに登場したHGはHGルックに身を包んだ"HGキッズ"たちと「ハッスル、フォー!」をキメつつ入場し、マイクでもPTA軍団に圧倒!

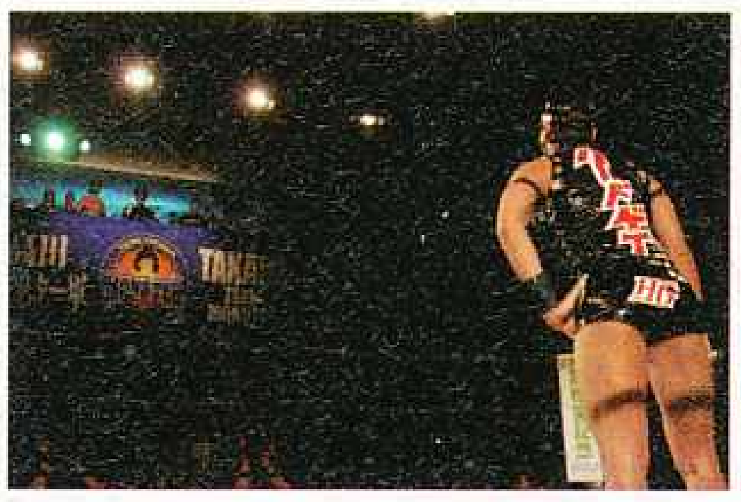

『ハッスル11』終了後、多くの報道陣に囲まれたHG。だが話題は"熱愛報道"に終始、たじたじのHG。それでも「ワワワ、ワッショーイ!」で締めてしまうのが、ゲイ人の悲しい性。


最後はTAJIRIの毒霧アシストを受けたHGが69ドライバーからPTAを見事にフォー！　ル勝利。



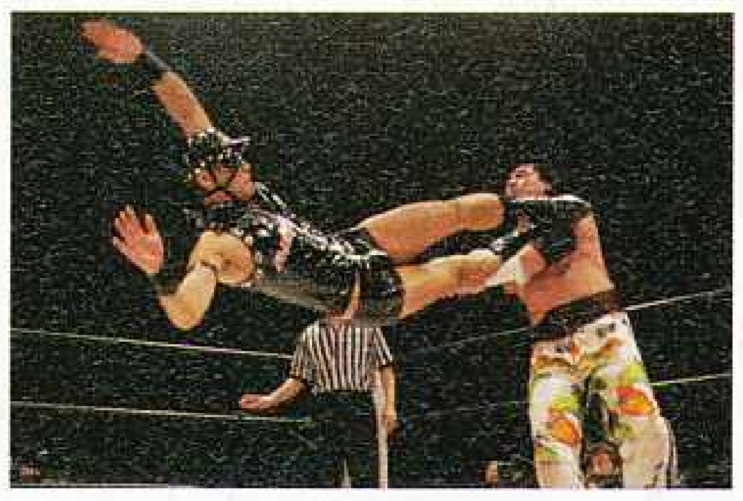
「腰振り断固反対!」の巨大横断幕を振りながら、リングインしたお母さん方とモンスターPTA。


大谷からのリクエストを受け、「ハッスル、フォー!」で華麗に締めてみせたHG。


『ハッスル・ハウスVOL.12』の試合後、HGは、川田と健想に「まとめてバッチコーイ!」。


HGは総統に「大阪では本番プレイでアナタのいきり立った通天閣、バッチコーイ!」と挑発。


最後はTAJIRIの毒霧噴射から、健想を"お尻丸出し"にしながら、HGが3カウント奪取!


健想による腰への集中攻撃に苦しんだHGは、華麗なドロップキックで反撃すると大歓声!


『ハッスル12』名古屋では、川田の攻撃を受けまくったHG。起き上がりチョップが炸裂!

ニューシーズン幕開けとなったハッスル3月シリーズで注目を浴びたのはやはり、HGだった。

まず「HG熱愛報道」が加熱する中での『ハッスル14』横浜大会ではモンスター軍が"小さな子を持つ保護者や教師の怨念"を込めた刺客、ザ・モンスターPTAが登場。「腰フリ断固反対」の横断幕を持ったPTA軍とリング上を占拠するも、ここに"HGキッズ"を引き連れたHGが登場し「空気読んでくださいよ〜。そもそも子どもは誰が腰を振って生まれてたんですか〜？」と正論を爆発させ、すごすごと退場させる。

試合はハッスル軍に新加入した元WWEのTAJIRIとタランチュラ競演などで見事に勝利！　だが名古屋で激突予定の鈴木健想が乱入し、HGのマスクをはいで遺恨が加速！　また試合後には髙田総統や報道陣からの熱愛報道へのツッコミにたじたじのHGだった。

続く『ハッスル・ハウスvol.12』後楽園大会でHGはメイン終了後に登場して健想と乱闘を展開し、『ハッスル15』名古屋で「川田、健想vsHG、TAJIRI」の頂上対決が決定した。

当日は"腰振り潰し"を公言する川田が起き上がりこぼしチョップ、拷問コブラなどでHGを圧倒！　だがHGもドロップキックやPWで大反撃。最後は仲間割れした川田＆健想の隙を突き浩子の介入に乗じたHGがTAJIRIの毒霧アシストから"お尻丸出し"の健想を丸め込み逆転勝利！

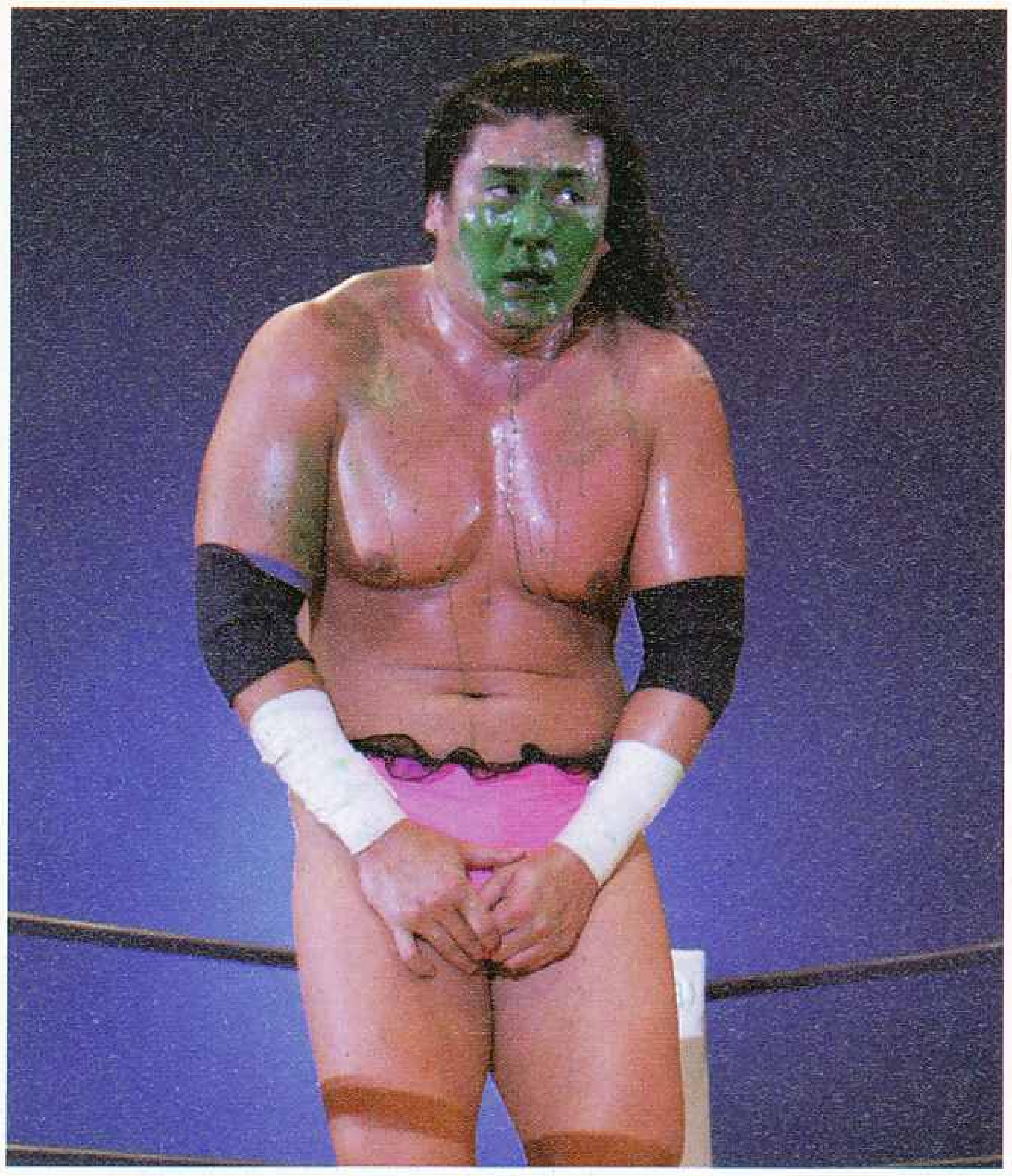
次回、HGは地元である『ハッスル16』大阪大会に待望の凱旋！　全面対抗戦を前に「ハッスル、フォ〜！」と勝ちどきを上げた。

3月シリーズのキーマンを個別に徹底追跡 002

健想&浩子

GM退任、離婚寸前、最後はお尻丸出し……


『ハッスル12』名古屋大会。総統に洗脳された健想をサポートせんと試合介入した浩子。だが健想がキレて、無惨にも“お尻丸出しの刑”に……。


『ハッスル15』にてHGにズボンをはぎとられ、ピンクのTバック姿の健想は。総統の洗脳が解けたのか「ここどこ?　何にも覚えてない」とパニック状態!


結果的に「空中“浩子”チョップ」が炸裂し、川田が丸め込んで3カウント奪取に成功


『ハッスル11』横浜大会での川田vs健想戦。浩子は「空中元彌チョップ」に似た体勢に。


髙田モンスター軍入りした健想は髙田総統劇場にて総統を「総督!」と言い間違える大失態!


『ハッスル・ハウスvol.12』で健想奪還に失敗、GM職も退任、離婚宣言とドン底の浩子。


『ハッスル15』名古屋大会のメインに健想のために介入した浩子に健想は怒りの張り手一閃!


GMを解任された浩子だったが、時期GMに鈴木家の一員RGを指名するもグダグダ状態突入。

「健想のハッスルエース化計画」をもくろむ鈴木浩子GM（当時）は『ハッスル14』横浜大会で健想vs川田戦をマッチメイク。これを不満とする川田は「俺が勝ったら、健想がモンスター軍入り」を含む複数条件を逆要求すると、鈴木家はあっさり受諾した。

試合は浩子が介入し、川田にニンジャパウダーを見舞う非道三昧。だが川田は頭脳プレーで浩子と健想をかく乱して勝利。あらためて健想に離婚を勧めてモンスター軍に勧誘、健想もHGを襲撃するなどまんざらでもない様子。

健想を失った浩子は『ハッスル・ハウスvol.12』後楽園大会で、鈴木家所属のRGと健想との試合を組み「RGが勝てば健想奪還、RGが負ければ浩子GM退任マッチ」に挑む。

だが健想は髙田総統から洗脳され「（鈴木家に戻りたい）健想はわざと負けるハズ」という浩子の読みは外れ、RGは完敗！　浩子はGM職から失脚、健想からは離婚宣告を突きつけられ不幸のドン底へ……。

だが懲りない浩子は『ハッスル15』名古屋大会で後任のGMになんとRGを指名！　健想は川田と組んでHG&TAJIRI組と激突も勝利目前で仲間割れ。健想のピンチに浩子も乱入したが浩子にキレた健想は着物をまくってお尻を露わにする暴挙！　だが健想もHGにコスチュームを脱がされ、まさかのTバック姿に。

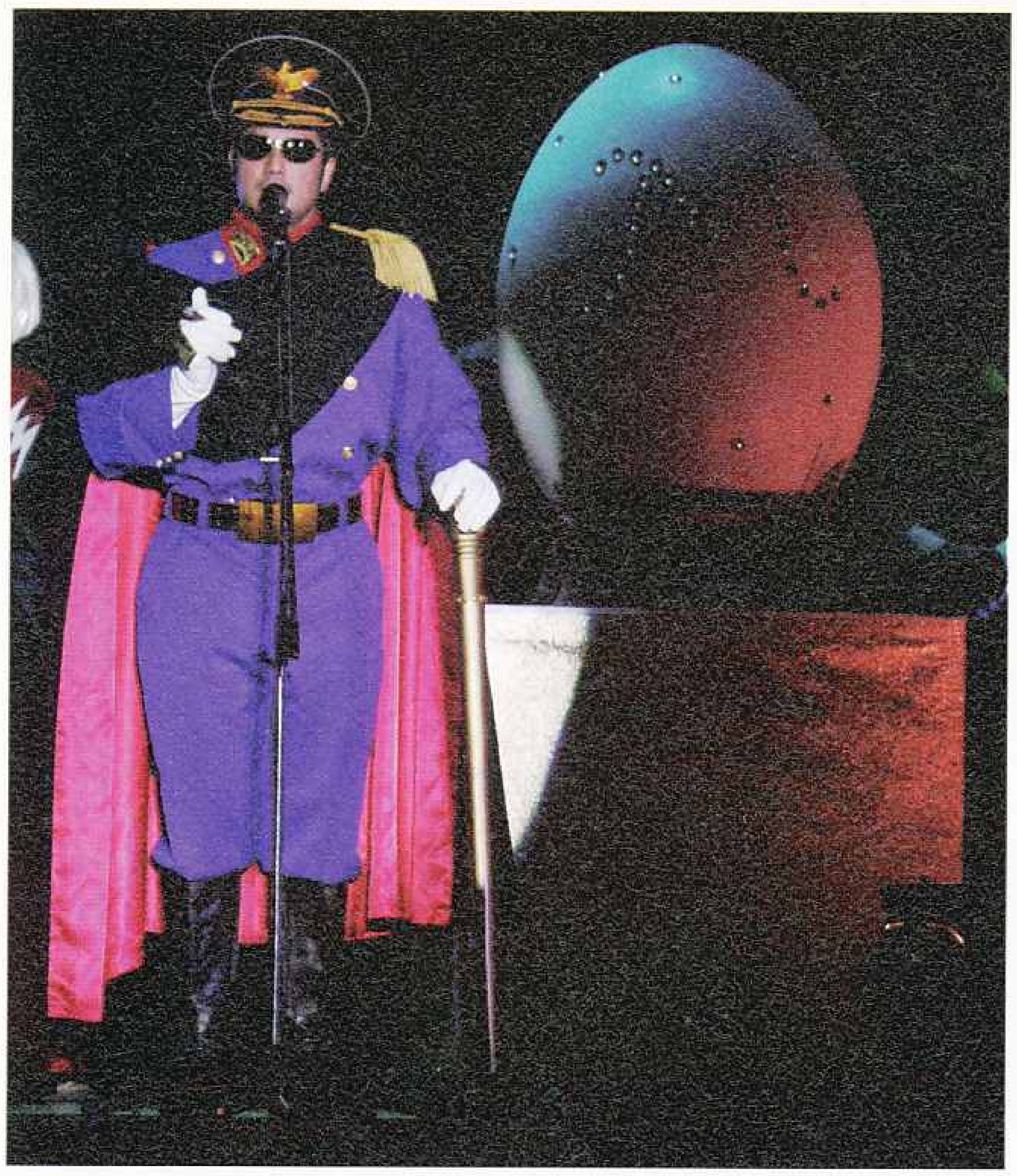
試合後、総統の洗脳が解けた健想は、我に返り「なんで裸なの、浩子～」と涙目で訴えた。鈴木家はヨリを戻し仲良く退場。離婚危機は回避されたものの、果たしてすべてを失なった鈴木家にハッスルで活躍の場はあるのだろうか……?

髙田総統

冴え渡るマイクが絶好調 もう誰にも止められない!



締めのハッスルポーズを譲り合うハッスル軍と対照的に総統の締めの言葉「バッドラック!」を奪い合って、大紛糾する髙田総統と川田の両名。



「素晴らしいものを見せよう」と『ハッスル14』横浜大会にて、超巨大化したイン卵様を披露した髙田総統。はたして4月の大阪大会までに孵化するのか?



『ハッスル・マニア』以来の横浜降臨となった髙田総統は「ひさしぶり!」とライトな挨拶。



『ハッスル14』で「♪ガンガン、ズンズン、グイグイ、総統」と今井メロばりのラップを披露!



『ハッスル・ハウスvol.12』後楽園にて、総統は浮ついた気持ちの健想を「ビターン!」洗脳。



バレー出身の長尾を前に「苦しくったって〜♪」と『アタックNO.1』を歌い出す総統。



髙田総統が『ハッスル16』大阪大会での全面対抗戦の大将に指名したのはイン卵様だった!



名古屋は名古屋国際女子マラソンが開催中　これに合わせ、髙田総統はマラソンルックで登場!

3月シリーズの表の主役がＨＧなら、裏の主役は髙田総統が完全に独走状態!

まず『ハッスル14』横浜大会ではＨＧの熱愛騒動に「タレこんだのが私ならどうする?」とニヤリ。ＨＧにプレッシャーをかける。さらには超巨大化した〝イン卵〟も観客に披露した。

続く『ハッスル・ハウスvol.12』後楽園大会において、健想が「そ、総督!」と「総統」を言い間違える大失態も「こりゃとんだハプニングだな! オイ!」と切り返す見事なアドリブを披露。ＴＡＪＩＲＩから「卵は食べちゃったんですか?」と言われると「言うに事欠いて、食べちゃっただと? このヤロオオオ!」と大炎上! さらに川田が「今日はここまでだ! バッドラッ……」と締めようとすると「オイ! それはやっちゃいけないだろ? 締めは俺だろ?」と叱り飛ばす新展開をみせる。

さらに『ハッスル15』名古屋大会では『ハッスル16』大阪大会での5対5勝ち抜き戦を承諾し、勝ち抜き戦に〝イン卵〟の投入までぶち上げてみせた総統。

この日も川田が「では大阪で会おう。バッド……」と締めそうになると「オイ! びっくりさせんなよ! 締めは私だろ! わかるだろ?」と怒る総統に、川田は「わかるだろ? そういうことだよ。バッ……」と再び重ねると「オイ、二段攻撃か? このヤロ〜! なんだその挑戦的な目は? このあと楽屋で話そうか?」と荒井注といかりや長介ばりの掛け合いが炸裂。

常に進化し続ける髙田総統劇場、まだまだ加速するハッスルから目を離すな!

HUSTLE DIGEST

3・5 ハッスル14 ［横浜文化体育館］

坂田・崔 with 青木裕子がS（スーパー）タッグ選手権を奪取！



Erica&マーガレットに頼み込んで試合に出場した石狩だったが女子として登場。石狩太子だ。



金村&田中とダンス&ネタを披露した電撃ネットワーク南部虎弾。ペットボトルが落ちない！



ハッスル初登場のチーム3Dはハードな攻撃を展開。イスをブチ抜く強烈なものだった。



ゴルフクラブで殴打された金村もハッスル！ 爆YAMAをディーボンに炸裂させた！



ハッスルスーパータッグ選手権は「青木裕子負けたら即水着マッチ」として行なわれた。



坂田が安田からフォールを奪い、水着を嫌がっていた青木裕子も笑顔で記念撮影に収まった。

3・9 ハッスル・ハウス vol.12 ［後楽園ホール］

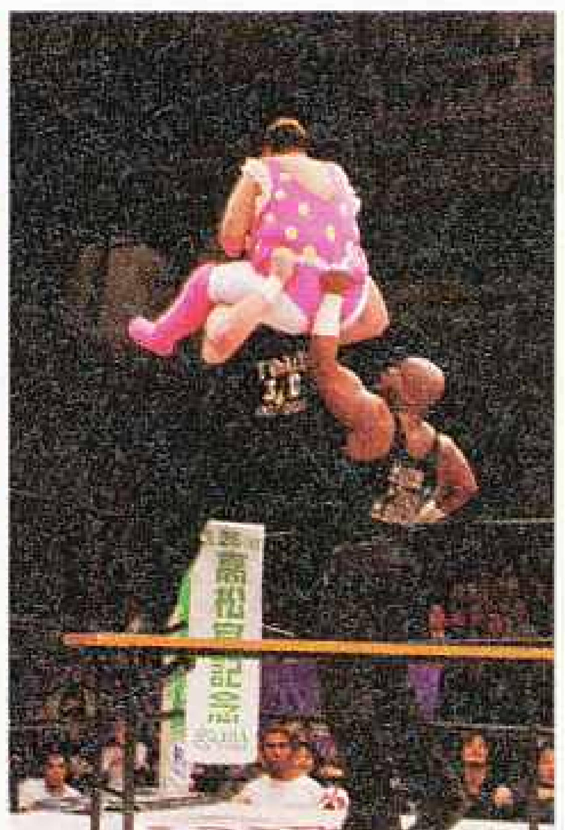
後楽園ホールが大熱狂！ 3D旋風が吹き荒れた！



崔領二は坂田のかけ声を「ヒーヒー言わしたりましょう」と提案。即採用された。



第一試合で観客を大興奮させたのは、青森のご当地モンスター、恐・イタコ。降霊術が凄い！



対男子路線のErica＆マーガレットも3Dにはテーブルボムで玉砕するもおおいに会場を沸かせた。





ハッスル軍に加入した田中未由だが石狩の青汁毒霧を受けてブチ切れ。石狩を蹴り飛ばした。

長尾にビターンを注入する前にアニメ『アタックNo.1』のテーマを口ずさむ総統。お茶目だ！



長尾浩志あらためジャイアント・バボは巨体とジャンプ力を活かした攻撃でハッスル軍を圧倒!

3・12 ハッスル15 ［愛知県体育館］

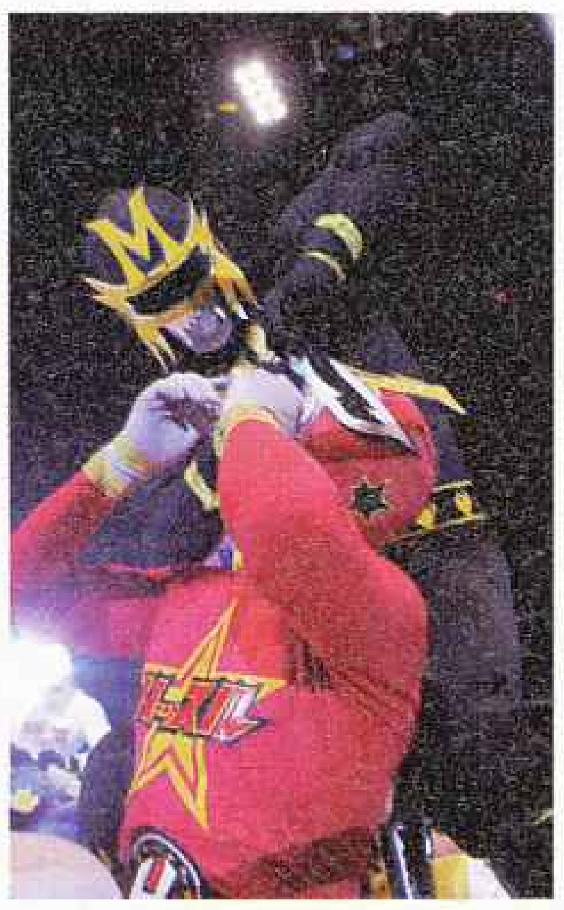
超満員札止め御礼！ お膝元・名古屋が炎上



オープニング遺贈でマイケルのモン軍解雇が発表される波乱の幕開け。「ドンマイケル!」。



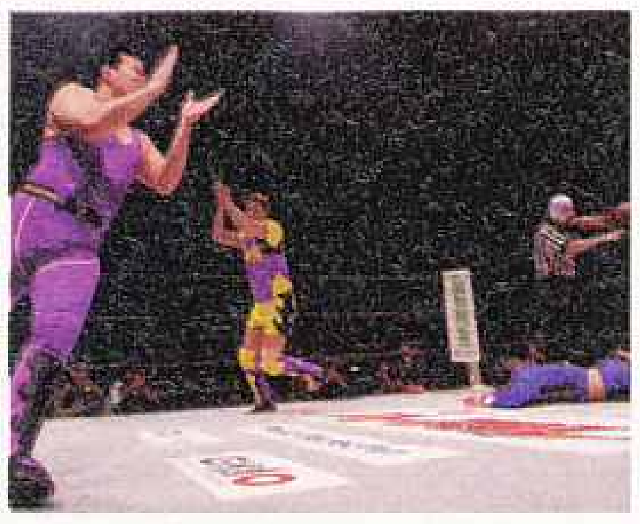
当たれば百発百中エルボー（AHE）に続く軍鶏侍の新技・手羽先チョップ（先ッチョ）も不発!



試合に勝ったモンスター仮面はハッスル仮面のマスクに手をかけて破り捨てる暴挙に出た。



横浜以来、坂田と天龍の遺恨はヒートアップ!! 敗れた坂田は握手を求め坂田軍団に勧誘!



バボ&アンはいいコンビネーションが決まると、「モンスター！ チャ！ チャ！ チャ！」。



前日に7500名（満員）を動員した某老舗団体を上回る8870名（超満員札止め）を動員。

新キャラまとめて紹介!!



馬のモンスターが登場すると聞いて自らこの試合に加わった安田。馬はニンジンに釣られるなどムラっ気があった。3・12登場。



高田総統のビターンによってジャイアント・バボに生まれ変わった長尾。バレーボール片手に大暴れした。3・9登場。



小さなお子さんを持つPTA軍団を引き連れて登場したザ・モンスターPTA。教育ママ然とした毅然とした態度だ。3・5登場。



シウマイの本場・横浜のご当地モンスター・奇妖拳。頭部のシウマイを取られると意識を失なってしまうのが欠点。3・5登場。

HG vs RG

緊急対談

RGM政権発足でハッスルはどうなる!?

なんと！　鈴木浩子前GMの退任にともない、新しく任命されたGMはRGだった!?　この無謀とも言える人選に最も警戒心を募らせているのが相方であるHGだ。そこで本誌は両者の対談を緊急セッティングした。今後のハッスルの命運を左右するRGMとHGの関係に迫る!

聞き手／坂井ノブ
撮影／山口比佐夫
試合写真／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

──ついにハッスルでRGさんがGMという最高権力の座に上り詰めたわけですけど、相方のHGさんとしてはいかがですか？

HG　そうですね、ハードゲイのキャラをパクってここまできたRGのことを私は〝ウィルス〟とか〝寄生虫〟と呼んでたんですけど、GMにまで登り詰めたとなるとこのウィルスを止める手立てはないですね。すごい速度でハッスルに侵入してますから怖いですよ。屋台骨にまで食い込んでしまったので、RGがシロアリにならないことを祈りますよ。早く駆除したほうがいいとハッスル関係者には申し上げたいですねぇ。

RG　ヨォヨォヨォ！　ワッツ・アップ？　誰がシロアリやねん！　去年の『ハッスル・マニア2005』はチケットを買って自腹で見に行ってたぐらいですからね。このスピード出世はHGのブレイク以上の早さでしょう。

──まあ、たしかにスピードだけで言えばそうですね。

RG　初登場のとき（05年12月25日の『ハッスル・ハウス　クリスマススペシャル』）にマイクでしゃべ



…ないと大変なことになる」

HGが衝撃提言!!
「RGは寄生虫。早く駆除しないと



ろうと思ったらスイッチが入っていないという大失態をやらかしておきながら、なぜか僕が失敗すれば失敗するほど喜んでもらえるという不思議な状況なんですよね。

HG モンスター軍はヒールですけど髙田総統はカリスマ性があるから声援も混じってしまうんですが、RGの場合は心の底から罵声を浴びせられるという素晴らしい才能の持ち主ですからねぇ。

RG そこはジレンマというかね。面白くなっちゃいけないんじゃないかなと思って自制してるんだけど。

HG セイセイセイ！ そんな心配はいらん！

RG （急に態度がでかくなり）俺を誰だと思ってんねん。GMやぞ。

——さっそく権力を振りかざしてますね（笑）。

RG あんまり調子に乗ってるとお前を解雇したり、お前に百人組手とかやらすからな。これからは口のききかたとか気をつけろよ。

HG くそぉ……。ホンマにお前ムカつくなぁ！

——芸人としてのRGも最近はどんどん露出が増えてますよね。

HG まあね。確かにピンでの仕事が増えてきたというのは僕もうれしいんです。RGにも頑張ってほしいと思いますから。

RG おかげさまでありがたい限りなんですけど、これは僕のおかげでもなんでもなくて、単純に敏腕マネージャーがHGに仕事の依頼が来ると、さりげなく僕のこともねじ込んでくれてるんですね。それで凄く助かってるんです。あと、ハッスルもHGほど忙しくない僕に「なにかやらせてみよう」ということで最初にリングに上がるキッカケをくれたんです。マネージャーとハッスルだけには足を向けて寝れないですよ。

HG おい!! オレには!?

RG ああ、そうだそうだ。HGにも足を向けて寝れませんね。

HG 「ああ、そうだ」じゃないやろ？ 「会ったら毎回『すいません』『ありがとうございます』って言え」って言うてるやろ！

——いちばん足を向けちゃいけない人ですよね（笑）。RGのキャラは前から確立してたんですか？

HG とんでもない。HGは4年前に誕生したんですけど、RGなんてたったの2カ月ですよ。

——HGのブレイク後に、取って付けたように現われたんですね（笑）。

RG （なぜか自信たっぷりに）生まれるときはすぐ生まれて、環境によって育つときはあっという間に育つもんだなぁと思いましたね。RGというキャラもテレビ局の企画で生まれたものなんですけど、最近は自信が生まれてきましたね。

HG もう自信がついたの!? いくらなんでも早すぎだろ。早漏、フォ〜！

RG すごくハードルが低いんですよね。仕事のオファーを頂いたら、普通はその仕事を終えて初めて満足しなきゃいけないんでしょうけど、僕の場合はオファーがあった時点で満足しますから。

HG ただ、RGが現場で仕事をキッチリやったという評判は私、一向に聞かないですね。

——仕事をキッチリやってるかどうかはともかく、ハッスルではついにGMになってしまいました（笑）。

RG 自分で言うのもおかしいですけどハッスルで結果を残したというわけではないでしょう。でも、僕が何かを失敗すると観客が笑う。この〝笑う〟という結果においてはゴール地点が一緒ですから。

——異常に前向きな考え方ですね。

RG いまでこそ超ポジティブシン

キングですけど、ＨＧが売れすぎて「自分はどうすればいいんだ?」って悩んでたときは、あまりに心配しすぎて顔にぶつぶつが出ましたから。それ以来、あんまり心配とか反省はしないようにしてます。

――そんなＲＧさんでも最近は給料が2倍になったとか。

HG ホンマに?

RG そうですよ。まあ、いちばん低いところから2倍になっただけなんで、ＨＧに比べれば雀の涙みたいなもんですけどね。先月の給料から2倍ぐらいになったんで調子に乗って、車を買おうかなと思ったんですけど、今月は横ばいだったんで早速、計画は頓挫してしまいました。

HG 給料が1カ月上がっただけで車買おうとすんな! せめて3カ月は見とけ!

RG 伸び率を考えたら「2倍、4倍」っていくかなと思ったら、「2倍、横ばい」でした。……うまいっ!（自画自賛）。

HG 誰も笑ってへんぞ。

RG このネタ、パクるなよ。

HG パクらへんよ。

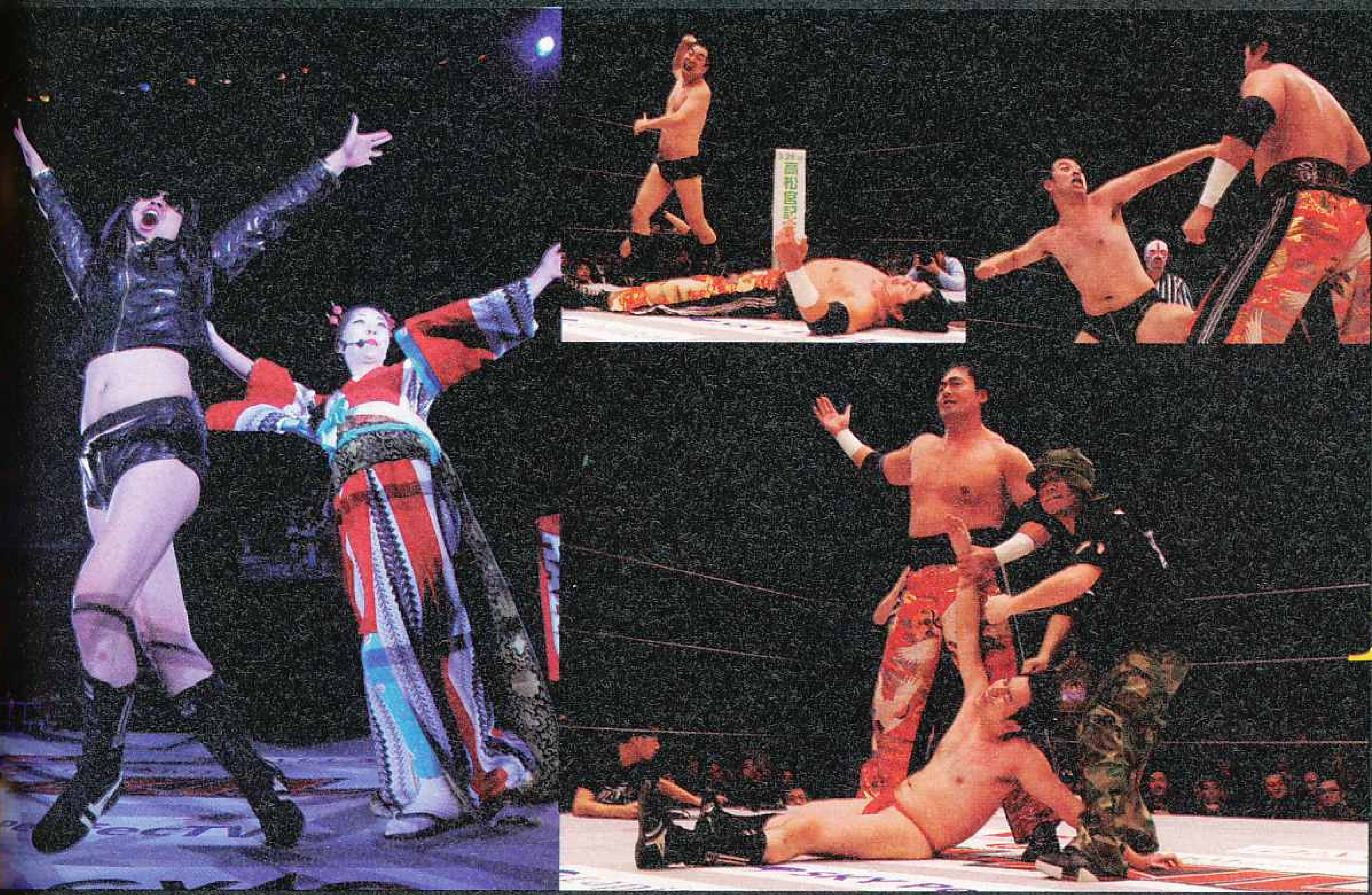
――あとＲＧさんのネタというか、技で〝おジャーマンスープレックスホールド〟っていうのがありますけど、ＨＧさんから見ていかがですか?

HG 〝おジャーマン〟については「すべってるのになんでやり続けてるんだろう?」ってずっと思ってたんですよね。まあ、相方が好きでやってることなんでほったらかしにしといたんですけど。さすがに最近、「ウケてないのになんで〝おジャーマン〟やるの?」って聞いたんですよ。

RG ウケてるやん。

HG セイセイセイ! すべってるよ! 〝おジャーマン〟は頭を硬い床にゴンと打ち付けて耳鳴りがしてるからＲＧにはウケてるように

RG



「フォフォフォフォ〜」「ヨォヨォヨォ」「バッチョ来い」などHGのパクリ芸でブーイングを一身に浴びていたRGが、運命のイタズラでハッスルデビュー。鈴木家入りしたもののその鈴木家が崩壊の危機に陥った。HGが言う通りRGは「寄生虫」なのかもしれない。

聞こえるらしいんです。

RG 〝おジャーマン〟は頭を打ち付ける音が大きければ大きいほど、歓声が大きくなるんですよね。

HG セイセイセイ! それは歓声じゃなくて耳鳴りが大きくなってるだけだから。

RG ……なんで俺に厳しい現実を突きつけるんだよ!?

HG え……まあ、うん、死んでほしくないからな。

――じつは吉本興業が出しているマンスリーＤＶＤ『よしもと本物流ｖｏｌ．１』ではお二人の対戦も実現してますよね。

HG まあ、あの試合に関して言えば、ＤＶＤのための収録なんで試合の大筋は事前に決めておいたんですよ。当時、僕は腰を痛めてて、控室で「腰だけは攻撃しないでくれよ」って言ってたんですけどね。

RG 僕がブック破りをして腰に大きなダメージを加えたんですね。

――ブック破り!?（笑）。

HG そんな大層なモンちゃうよ。アクシデントだろ。ＲＧが技を失敗して頭から腰に落ちてきて……。

RG あと、僕がパワーボムの受け身を失敗して、ヒザが自分の鼻に入っちゃったんですね。どう考えても自分のせいなのに、なぜかＨＧがひどいことをしたような雰囲気になってしまったんですよ。

――ＨＧさんを引き立たせるどころか、悪く見せてしまったわけですね。

RG しかも、あの試合中にはフンドシから僕のチ●コが出そうになったんですけど……。

HG 普通だったらとっくに出てるはずなのに、ＲＧのチ●コは出てこないんですよね。

RG 武藤（敬司）さんは「ＮＢＭ（ナチュラル・ボーン・マスター）」ですけど、僕のチ●コは「ＮＢＳ」つまり「ナチュラル・ボーン・スモール」だったんですね。

――そんなＲＧさんも先日は鈴木健想戦でデビューしたわけですが。

HG まあ、ＲＧのプロレスに関しては〝しょっぱい〟の一言ですね。

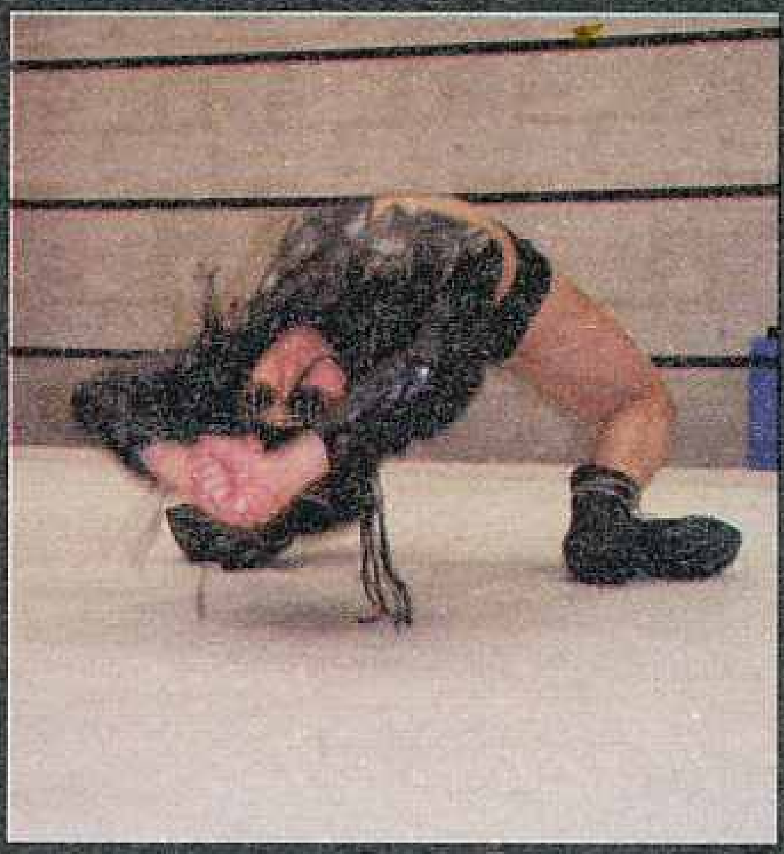
RG ヨォヨォヨォ、そんな一言は聞きたくないぜ!

HG 他でもない『ｋａｍｉｐｒｏ』さんなんでご開チンしますけど、ＲＧが壊しそうになったのは私の腰だけじゃないんです。学生プロレス時代には現在は某老舗団体に所属するあのＴ選手の首も破壊しようとしましたから。

――えっ、あのＴ選手ですか? ちなみにどんな技だったんですか?

HG イスの上でのツームストン・パイルドライバーですね。

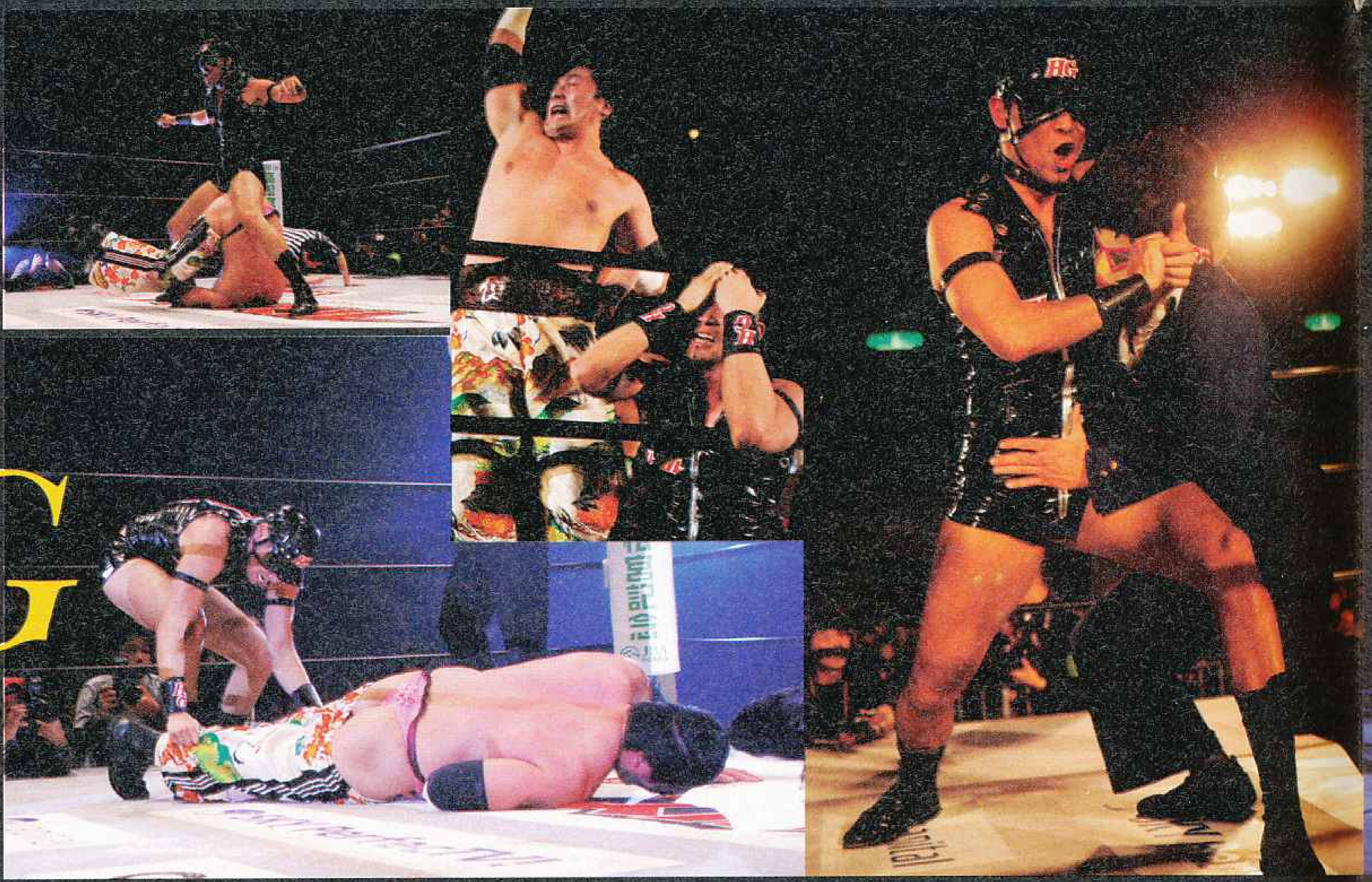
――そんな危ない技を!?



「おじゃま〜、おじゃま〜、おジャーマンスープレックスホールド!」と勢いよくひとりジャーマンをする自爆ギャグ。それがおジャーマンだ。

RG　とにかく僕はHGとT選手、二人と因縁を持ってますから。これを使わない手はないと思ってます。なんなら後楽園ホールで3WAYマッチをやってもいいですよ！
――それは観たい！（笑）。ところでRGさんは最近ワイドショーのレポーターにHGさんの情報をリークすると宣言してましたけど、あれはつまり自分が売れるためなら相方のプライバシーだろうと売るということですよね？
RG　まあ、そうですね。HGが『FRIDAY』に載った件も、僕が知ってればもっと早く皆さんにお知らせできたと思うんですよ。
――ということは今回の件については知らなかった？
RG　そうですね。最近、異常に警戒されてるんですよ。相方なのに今回の件も『FRIDAY』で知りましたから。
HG　こいつはほんとになんでもしゃべりますからね。まあ、あれに関しては巻頭5ページも割いてもらって、いい宣伝になりましたよ。
――あれを髙田総統にネタにされるというのはいかがでしたか？
HG　非常に厳しい攻撃でしたね。こう見えても私、ハードゲイであると同時にハードMでもあるので受けきって見せますよ。まあ、ゴリゴリのハードゲイであるHGと、性的にはいたってノーマルな住谷クンは別人ですからね。
RG　彼女は「RGのほうが好き」って会見で言ってたらしいじゃないですか。
HG　HGのことはあんまり好きじゃないみたいですね。RGの自堕落なところが母性本能をくすぐるのかもしれないですけど。
RG　あとはトークがおもろいところとか？
HG　セイセイセイ！　べつにおもしろくないから。
RG　なんで？　さっきの「2倍、横ばい」とか面白かったろ？
HG　あんなの1年に一回出るかどうかだろ！
――ここまでの話を聞いてると、RGさんにはヒールになる要素が完璧に備わってますね。
HG　そうでしょ？
RG　どうしてこうなったんですかね？　お父さん、お母さんに愛情をたっぷり注がれて普通に大きくなったんですけど……。俺はもっと好かれたい！
HG　いい加減にしろよ、お前！
――ましてやGMの座に就いてしまったら、みんなから嫌われたり恨まれたりするのが日常茶飯事ですからね。
RG　（逆ギレして）じゃあ、いいですよ。できてない人間が権力の座に就くと、どういうことになるか見せてやりますから。HGには次々と嫌がらせをしてやりますんで。
HG　ホントに最悪だなぁ。
RG　最近、HGとはガチで仲悪くなってますんで、RGM政権はそのコンビ仲が思いっきり反映されるでしょうね。
――ちなみに4月のハッスルは、大阪大会があるんですよね。お二人とも凱旋になるわけですが。
HG　嬉しいですねぇ。じつは大阪ではHGでテレビに出たこともあまりなくて、吉本新喜劇でちょっと出たぐらいだったんですよ。HGとして膨張した股間……いや、成長した姿を見せたいと思います。
RG　大阪には僕を育ててくれた先輩たちがいっぱいいるので、「こんなことになっちゃいました」という姿をお見せしたいです。
――ハッスルの最高責任者・RGMとしての凱旋ですからね。
RG　大阪のファンのために、ビッグサプライズをいろいろ用意しようと思ってますから、楽しみにしていてください。それじゃ、今日の取材も大阪の予行演習として僭越ながら私が締めさせていただきます。RGMとしてこれからハッスルするぞ～！　3、2、1、ハッスル！ハッスル！　フォフォフォ（ここでHGの地獄突きがRGのノドに炸裂）グエッ！
HG　調子に乗るのもいい加減にせえよ！　ハッスル！　ハッスル！フォ～！
――本日はどうもありがとうございました（笑）。
【06年3月13日、都内某所で収録】

HG



RGがグダグダながらもGMにまで登り詰めているあいだに、HGはモンスター軍と激闘を繰り広げていた。横浜ではHGの腰振りを阻止すべく投入されたザ・モンスターPTAと鈴木健想に二連勝！健想にはマスクを剥がれたが、コスチュームを剥いでリベンジした。



えいちじー（左）■1975年12月18日、兵庫県出身。昨年、大ブレイクしたハードゲイ。いま日本で最も忙しい芸能人の一人。05年11月3日の『ハッスル・マニア2005』でデビュー。ハッスル軍のエースとして連勝を重ねている。
あーるじー（右）■1974年6月9日、愛媛県出身。HG人気に便乗して登場してきた相方。HGとともに関西の学生プロレスで名を馳せた。今年2月の「ハッスル・オーディション」で鈴木家にスカウトされたばかりだが、3月にはGMに就任してしまった。



「ベルトを巻くよりクリエイティブな部分に携わりたかったんです」

TAJIRIがハッスルする理由【前編】

WWEで世界的な名声を勝ち取った正真正銘のスーパースター・TAJIRIがハッスル軍に加入した！　TAJIRIがなぜこの新しいプロレスのリングを選択したのか、その理由はインタビューを読めばわかる！　リング上はもちろんだが、それ以外の部分にもTAJIRIは関心を持っているのだ。今号と次号で前後編に分けて、TAJIRIが語るプロレスの神髄をお届けしよう！

聞き手／坂井ノブ、真下義之　撮影／菊池茂夫
試合写真／乾晋也、山口比佐夫
写真提供／DSE　designed by matsu（TwoThree）

——WWEの日本ツアー以外では久々に日本での試合となったわけですけど、ハッスルのリングはいかがでしたか？

TAJIRI　いま日本で最も世間の注目を浴びてる人と一緒に試合をやらせてもらって凄くおもしろい経験だったなと思います。いままで僕が日本でやってきたプロレスの雰囲気とはまったく違ってました。

——ハッスル14での試合はTAJIRIさんの出番が序盤と要所だけで、あとはほとんどHGさんの独壇場のような展開でしたよね。凄く斬新な展開というか（笑）。

TAJIRI　ちょっと日本のプロレスにいままでなかったような展開だったでしょ？

——そうですね。

TAJIRI　やっぱりハッスルの試合というものを確立する必要があるんじゃないかと思うんですよね。

——よりストーリーが強調されるような試合ということですか？

TAJIRI　それはもう絶対に必要な課題だと思います。この前、夜中にテレビつけたらたまたま日本のプロレスをやってたんで観たんですよ。凄くいい試合なんです。だけど、何か物足りないんですよね。

——何が足りないんですかね？

TAJIRI　いまの世の中、いろんな情報が人間の頭にバンバン詰め込まれてるじゃないですか？　そういう時代の中では、もうプロレスの試合だけの刺激じゃ物足りないんじゃないかなと思うんですよ。実際に僕はそうだったから。ハッスルみたいに、試合以外の情報もバンバン発信していないと、どんどん時代遅れになる。

——そうですね。最近は某老舗団体も、会場に大型ビジョンを設置したみたいですから。

TAJIRI　日本のプロレスがそういうふうに変わり始めたちょうどいいタイミングで僕が入ってきたのかなと思うんですよ。



——ホントにそうですね。そういう時代の中でハッスルを主戦場と決めた理由はなんですか？

TAJIRI　WWEを辞めてからいろんな話があったんですけど、国内外の他団体の場合は、「いきなり上のほうでベルトに挑戦させてあげてもいい」とかそういうオファーだったんですよね。でも、僕はそういうことをやっても何も変わらないと思うんですよ。だからあんまり魅力を感じなかったんですよね。WWEでベルトはいっぱい巻いてるから、ベルトに関しては僕はどうでもよかったんですね。それよりも、何か新しいものを作るのに加わりたかった。そっちのほうがよっぽどやり甲斐があるから。プレイヤーとしての欲よりも、クリエイティブな部分に携わっている人たちに加わりたいって欲のほうが強かったんですよね。

——ハッスルの場合はテレビ、活字、演出、もちろんプロレスの専門家がいろいろアイデアを出し合いながら会議と演出のリハーサルを重ねて練り込まれていくわけですけど。

TAJIRI　本来、プロレスってチケットをお客さんに買ってもらって魅せるショービジネスじゃないですか。それなのにストーリーもない上に、演出のリハーサルもない。日本にはそういう団体が多いんですよね。でも、今後それは通用しないでしょう？　お客さんがチケットを買ってるのに演出のリハーサルをやらないなんて、そっちのほうがナメてると思いますよ。

——いまでも日本はほとんどの団体がそういう状況ですね。逆にWWEはそういう部分まで公開してしまう。TAJIRIさんはWWEであらゆることを経験されてたと思うんですけれども、WWEとハッスルが一番違うのはどこですか？

TAJIRI　う〜ん、ハッスルは出てくるアイデアが日本ふうだけど、手法的にはWWEと変わらないと思うんですよ。凄く近いと思いますよ。WWEといういいお手本があるから、逆にハッスルのほうが伸

びるのは早いんじゃないかと思うんですよ。ビンス（・マクマホン）が20年かかったことを見ながらやっていけば5年ぐらいでいけるんじゃないかなって気もしますね。

——それはもう後発の強みというか、ある程度の叩き台ができてるから可能なわけですね。

TAJIRI　ええ。

——日本の場合はプロレスに関してはNOAHという別のベクトルの団体がありますよね。

TAJIRI　NOAHはNOAHでどんどんあの路線で頑張ってほしいですよね。そしたら対極になるものが目立つから。

——お互い二つの、両端と両端で、それこそどんどんレベルを高め合っていくっていう。

TAJIRI　それこそ一時期のWCWとWWEみたいな感じで伸びていくんじゃないですかね。

——競争によって成長するという部分もありますからね。最近は少なくなったとは思うんですけど、タレントがプロレスやるということに関して思いっきり抵抗感を感じるプロレスラーの方もいるとは思うんですけども、TAJIRIさんは違和感っていうのはなかったですか？

TAJIRI　まったくないです。だって当たり前ですからね。人気がある人をうまくお互い利用しあってみんなでそれで食っていこうというのがショービジネスですから。実際にHGさんや和泉元彌さんの間の取り方、テンポのはかり方、表情の作り方、しぐさ、これはもう10年やったレスラーでも彼らより下手くそな人いっぱいいますからね。僕はプロレスとはそういうものだと思ってるし、そういう点でしかプロレスを見ていないから。それで充分だと思うんですよ。極論すればベンチプレス○○キロだとかそんなの関係ないと思うんですよね。だって僕たちはお客さんが観て楽しいって思ってもらうためにやるんだから。僕は楽しませることができる人なら、誰でもリング上がる資格はあると思いますよ。

——TAJIRIさん自身、プロレスをずっと好きで自分で努力しながら道を切り開いてきたわけじゃないですか？　そこまでスパっと割り切るのってなかなか難しいですよね。

TAJIRI　そこはやっぱ時間がかかってこういう考え方になってるんだと思いますよ。

——ところで、ハッスルの場合は試合が立て込むときは立て込むんですけど、オフの期間がけっこう長いじゃないですか？　その期間はどのように過ごしてるんですか？

TAJIRI　WWEのときはずっと家に帰れない生活だったから、まず家にいられるという点が嬉しいわけですよ。ハッスルの試合っていうのは、試合数をバンバンこなしてスキルを磨くとかそういうことよりも、いろんな人と話したり、テレビを観たり、映画を観たり、本を読んだり、そういうことによって上達していくプロレスなんじゃないかなと思うんですよ。だからオフのあいだにいろんな経験をすること、それが練習期間だと僕は思ってます。

——なるほど！　確かにいろんなエンターテインメントのよい部分を吸収していく必要はありますよね。

TAJIRI　そうです。だから僕も前回のオーディションからこの期間のあいだに、映画を観に行ったり、演劇を観に行ったりしてましたから。アメリカじゃ観られないような日本のエンターテインメントをいろいろ観に行ったりしてるんですよ。本もいっぱい読んだし。

——感性をどんどん磨いていかないといけないわけですね。

TAJIRI　そう、感性の勝負なんですよ。もう野獣同士がぶつかり合うような試合を誰も喜ばなくなってきた結果、プロレス界がこういう状況になってるわけですから。

——ホントにそうですよね（笑）。

TAJIRI　野獣系もおもしろいものはおもしろいけど、そればっか見せられたら飽きちゃいますよね。むしろ野獣系の魅力は『PRIDE』とK-1にギッチリ詰まってると思うんですよね。

——そもそも最初にTAJIRIさんがハッスルを今後の主戦場として意識したのはいつ頃ですか？

TAJIRI　去年『ハッスル・マニア』があったときに最初は「これなんだろう？」ってフナキさんと話してたんです。「（日本でやるなら）これじゃないかな」っていう気がそのときからしてたんですよ。

——映像はご覧になってたんですか？

TAJIRI　ええ、観ました。「日本でこんなものが出てきたんだな」っていうショックですよね。「これはどういう人たちが作ってるんだろう？」と思ったんですよ。

——いままでのプロレスの文脈とはまったく違いますもんね。たとえばハッスルだといろんなスタッフのアイデアを選手がリング上で表現していく形になりますよね。その一方で「俺はプロレスラーだから構成作家の言う通りに動けばいいってもんじゃない」というプライドを主張する選手もいますよね。

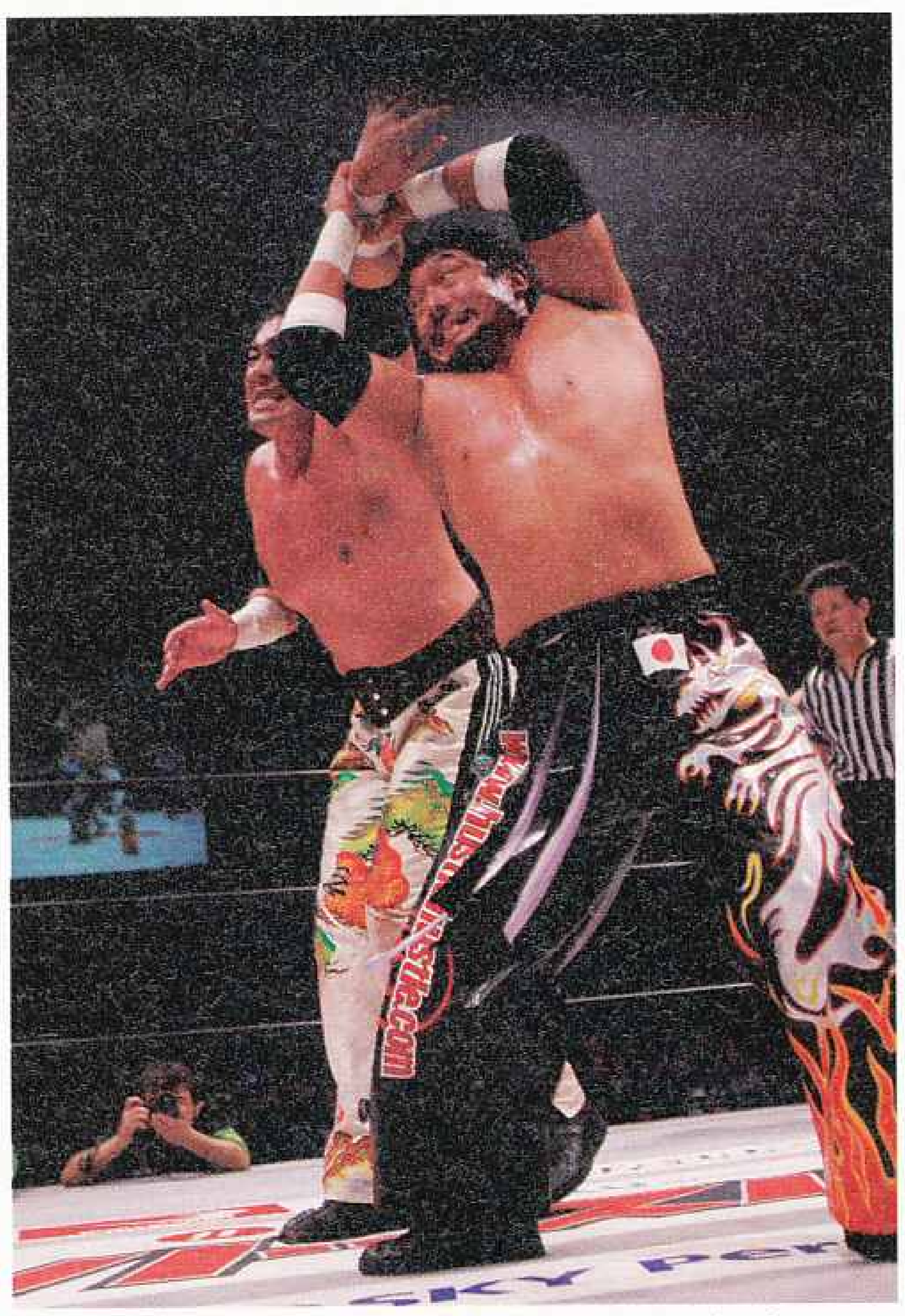
TAJIRI　うん、もちろんプライドは絶対必要なものだし、持ってなきゃいけないものですけど、じゃあ、プロレスラーが好き勝手にやっていいかというとそうじゃない。そんなの当たり前のことだと思うんですけどね。ショー全体をうまく作り上げるためにレスラーがいる。それは歯車じゃないですか。レスラーが好き勝手なことをやりたいというのは、たとえば照明さんが「いや、俺はリングじゃなくてこっちに光を当てたいからこっちに当ててるんだ」って言ってるのと変わらないですよ、自分の勝手なことを試合でやりたいっていうのは。「何言ってんの？」って話ですからね。

——TAJIRIさんの考え方としては、与えられた時間とスペースで自分の全部を出すっていうことになるんですかね？

TAJIRI　そうです。

——レスラーってホント野放しになってた時期が凄く長いし、それが伝統として残っている部分もいまだに大きいじゃないですか。急に変えるのは難しいかもしれないですよね。

TAJIRI　でも、昔のアメリカのプロレスには、ちゃんとそれぞれ役割があったはずなんですよね。一



日本に帰国して感性を磨き続けるTAJIRIが、これからいかなる進化を遂げるのか？　この男から目が離せない。



お客さんを楽しませることができる人なら誰でもリングに上がる資格はあると思う



ハッスル15ではHGとともにメインに出場、グリーンミストで試合を決定付けた。試合後のマイクでもTAJIRIはハッスル16（大阪）での5vs5シングル勝ち抜き戦を提案、髙田総統もこれを受け入れて正式に決定した。

試合目はこうやってやれ、二試合目はこうだんだん盛り上げていけって。だからスタイルとしては古典的なんですよ。

――なるほど。いわゆるマッチメーカーやブッカーと言われるような現場をちゃんと掌握している人がいたんですよね。

TAJIRI　だからあれこれ口を出されるのは嫌だっていう人たちは、プロレスの本質をよく知らないんじゃないかなと思うんですよね。

――自分のやりたいことさえできればっていう意識は、いまだに根強いですけどね。

TAJIRI　でも、本来プロレス界にそんな考え方はないんですよ。そういう考え方は日本にあったわけですけど、それは本来のプロレスがゆがんだ形で発展を遂げた結果だと思うんですよね。

――そもそもプロレスの起源はカーニバル・レスリングやサーカス・ショーだと言われてますよね。

TAJIRI　そうですよね。やっぱ最後のライオンの火の輪くぐりまでだんだん盛り上げていかなきゃいけないわけでしょ？　ショーはそれが基本ですよ。相撲だって最初は弱い人から順番に土俵に上がって、だんだん強い人が出てくるじゃないですか。

――日本ではいつのまにかプロレスの起源がローマ帝国時代のパンクラチオンとかにすり替わってましたからね（笑）。

TAJIRI　パンクラチオンの闘いはたぶん、人に見せることを目的としたショーじゃなかったと思うんですよね。王様が自分の趣味を満たすためにやってたようなものなんじゃないですかね？

――起源をどっちにするかで、プロレスの考え方がかなり変わってきますよね。ＴＡＪＩＲＩさんはアメリカやメキシコをはじめとする世界中でいろんなプロレスのエッセンスを吸収してきたわけですけど、今後はそれをハッスルにどんどん落とし込んでいくつもりなんですか？

TAJIRI　そうですね。ルチャだけじゃなくて、アメリカ式のサイコロジーとか日本式のレスリングとか、いろんなものを伝えていきたいですね。とにかくお客さんのニーズに応えてやっていかなきゃと思いますから、そういう点でいろいろこれから力になれたらと思います。ハッスルのリングにはいろんな可能性が埋まってると思うんですよ。こういうことにかかわっていくことで、ベルトよりも価値のあるものがつかめるんじゃないかと思ってるんです。

●

メキシコ～アメリカと渡り歩く中で培われてきたＴＡＪＩＲＩのプロレス観は、いまどん底であえぐ日本のプロレス界にとって大いなる道標となるはずだ。後編では、今後のプロレス界、そしてハッスルには何が必要なのかを語り尽くします！

【06年3月7日、東京・竹芝にて収録】



たじり■1970年9月29日、熊本県玉名市出身。94年9月19日、IWAジャパン愛知・蒲郡市民体育館大会でデビュー（対戦相手は岡野隆史）。その後、フリーとなりメキシコに遠征。帰国後は大日本プロレスで活躍するが、再びメキシコへ。ECWを経て崩壊後はWWEへ。WWEではクルーザー級、タッグのベルトを巻くなど大活躍。05年末にWWE退団を決意して帰国。得意技はバズソーキック、タランチュラ、グリーンミスト。身長175cm、88kg。



HGが完全なる主役となった3月シリーズ総括

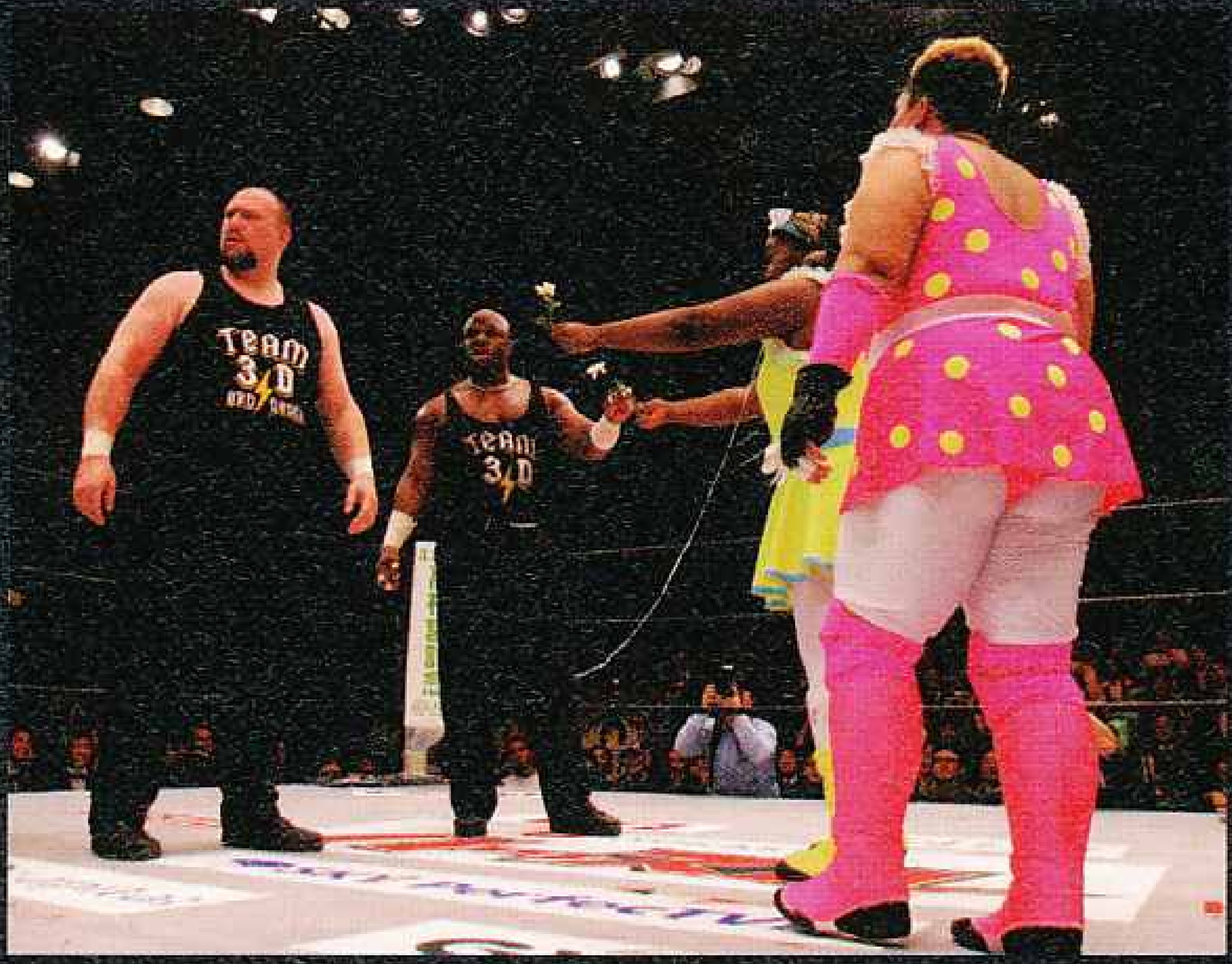
ハッスルはガンガン、ズンズン、グイグイ、上昇!

今回の3月シリーズは各会場ともおおいに盛り上がった。とくに愛知県体育館はチケットか完売！　毎週ハッスルの番組が地上波で放送されているという地の利はあるにせよ、現在のハッスルの勢いを象徴していると言えるだろう。

やはりというべきか、当然というべきか、横浜、後楽園、愛知といずれの会場でもHGの人気は群を抜いていた。髙田総統のラップや3Dの試合や坂田と天龍のやりあいなど、おおいに盛り上がる場面はあった。他のプロレス団体とは比べると異常なほどの高密度でネタは詰まっていたのだ。だがそれでもHGが登場してからの盛り上がりはその上をいくのだ。これは一度、会場で体感してみればわかる。上の写真を見てもらえれば、どんな状況か少しはおわかりいただけるだろう。HGの存在感はいままでハッスルの頂点に君臨してきた髙田総統の牙城にも食い込みつつある。ハッスル全体を俯瞰して見ると、HGを頂点とするハッスル軍というピラミッドと、髙田総統を頂点とするモンスター軍というピラミッドが真っ向からぶつかり合うという構図がようやく完成しつつあるようにも思う。この二つを4月の大阪大会では、5vs5のシングル勝ち抜き戦でぶつけようというのだから盛り上がらないはずがない。

2月シリーズからは軍団抗争に割って入るかたちで鈴木家が浮上してきたが、3月シリーズが終わってみれば鈴木家はフェードアウトしてハッスル軍とモンスター軍の対立構造が際立つ結果となった。スイカに塩をかけると甘みが引き立つように、鈴木家という隠し味を混入することでハッスル本来の持ち味がより明確になったということだろう。3月シリーズの3大会を通じて徐々に焦点が絞りこまれて、ハッスル軍vsモンスター軍、もっと言えばHGvsモンスター軍という闘いのテーマが明確に浮かび上がっていった。それはやはりHGという主役が放っていた光と、それを際立たせる周囲の働きが合致した結果であろう。

時間の経過と共に焦点が絞り込まれていくという転がし方は、試合の中にも見ることができた。後楽園の4WAYイリミネーションタッグマッチだ。4チームが入り乱れて場外乱闘を繰り広げた大混乱の中から、世界最高峰のタッグチームであるチーム3Dとハッスルが生んだ最高のタッグチームであるEric a&マーガレットのぶつかり合いへとなだれ込んでいく。その課程で場内は加速度的にヒートアップしていった。最初は意図的にピントをぼかしながら徐々に合わせていくことで観客はその闘いに集中することができる。ピントを合わせっぱなしだと目が疲れるだけだし、ピントがボケっぱなしでは何も見えない。そのバランスが見事だった。



試合も、大会も、シリーズ全体も、結局は流れの中でどのように線を描いていくかということが重要なのであり、その構成の仕方にはありとあらゆる方法がある。ここにきてハッスルはその引き出しが一気に増えたように感じる。

3年目に入り少し気を緩めるとマンネリという名の安定期に入りそうなものだが、それはハッスルの進むべき道ではない。プロレス業界のダメな部分に向かって矢を放ち続けたハッスルは、そうになる前に自ら手を打った。

6月に決定した『ハッスル・マニア』級のビッグマッチに向けて、ハッスルの勢いは衰えるどころか、髙田総統が披露した今井メロRAPのように「ガンガン、グングン、ズイズイ」と上昇しているのだ。（坂井ノブ）

ハッスル先取り情フォ〜局



髙田総統がハッスル軍潰しに重大決断!?
4・20大阪大会でイン卵様が試合出場!

さらに6・17に『ハッスル・マニア』級のビッグイベント開催決定!

ついにハッスルが大阪に再上陸する!

HGがデビューしてから初めての地元・大阪であり、RGMが初めて手腕を振るうことにもなる。まさに機は熟したと言っていいだろう。

昨年7月、〝ハッスル・キング〟こと〝破壊王〟橋本真也さんが急逝した直後の大阪大会は、大きな悲しみの反作用とハッスル初登場の興奮が化学反応を起こして凄まじい爆発となった。〝笑い〟を大きな武器とするハッスルと大阪という街の相性の良さもあるだろう。ちなみに、昨年のハッスルのベストシーンの一つであるインリン様のムチ投げロープエスケープも大阪だったことも付け加えておきたい。

4月20日にはおそらく新たなる伝説が生まれることになる。すでにハッスル15でTAJIRIが提案したハッスル軍と髙田モンスター軍のシングル勝ち抜き戦5vs5マッチが行なわれることは決定している。しかも、モンスター軍の大将には巨大化を続ける謎の生命体・イン卵様が試合に出場することを髙田総統が明言しているのだ。

インリン様が産み落としたM字遺伝子を持つ生命体であるイン卵様は、昨年12月にはせいぜい10センチ程度だったが、いまや1メートルを超す大きさになっている。約2カ月で10倍以上になるというおそるべきスピードでいまだに成長を続けている模様だ。果たして大阪決戦で登場するのはさらに巨大化したイン卵様なのか、それともイン卵様が孵化して別の生命体が現われるのか!? 一瞬たりとも見逃せない。

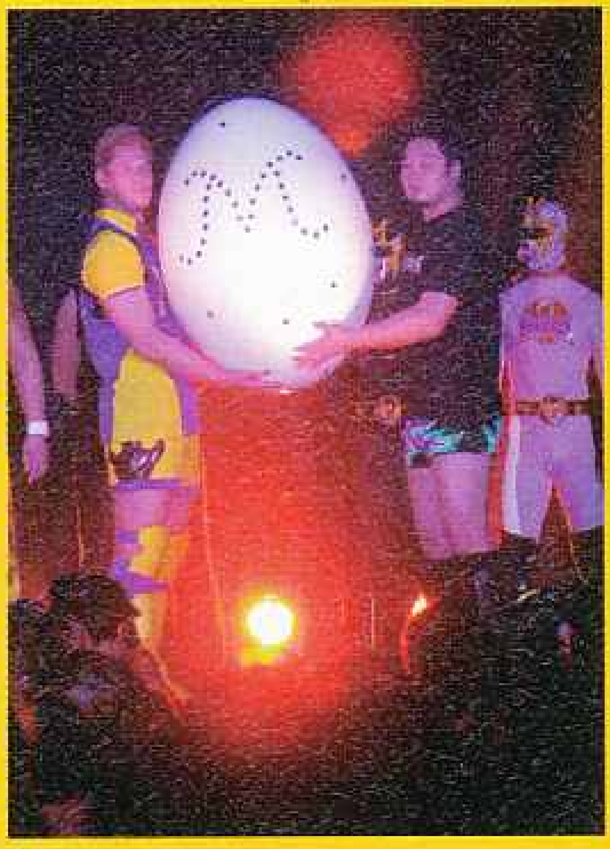
それと、最後に今後のハッスルを左右する重要な大会が決定したことをお知らせしておきたい。

6月17日(土)、さいたまスーパーアリーナにハッスルが進出することが明らかになった。ハッスル旗揚げ戦の地である。さいたまスーパーアリーナの最大バージョンでの閑散とした雰囲気はハッスル関係者のトラウマとなっていると聞く。ここで行なわれるのは、当然『ハッスル・マニア』級のビッグイベントになる。大会名称は未定だが、秋に開催される『ハッスル・マニア』と共に大きな柱となっていく模様だ。詳報を待て!

(坂井ノブ)



ハッスル16大阪大会のポスターはイラストレーター・金子ナンペイさんの力作だ! 大阪の名所をバックにHG、RG、あちちに加え、くいだおれ人形に扮した小川やKID・DATA・ローなど多彩な顔ぶれ。



ハッスル14と15でもイン卵は公開された。Mの刻印はそのままに超巨大化している。モンスター軍の中でも特に大型の〝モンスターK〟佐藤耕平とジャイアント・バボが抱えているのに、この大きさ!

4月も怒濤の3連戦!
ハッスルチケット情報

★ハッスル16
大阪・大阪府立体育会館　4月20日(木)開場18:00　開演19:00
[チケット料金]※全席指定・消費税込み

ハッスルVIP【特典:ハッスルグッズ付】	12,000円
RRS	8,000円
スタンドS	6,000円
スタンドA	4,000円

(スタンドAのみ小学生以下は2,000円。ドリームステージにて受付)

★ハッスル・ハウスvol.13
東京・後楽園ホール　4月22日(土)開場18:00　開演19:00
[チケット料金]※全席指定・消費税込み

ハッスルVIP	12,000円
スタンドS	7,000円
スタンドA	5,000円
スタンドB	3,000円

★ハッスル・ハウスvol.14
東京・後楽園ホール　4月23日(日)開場11:00　開演12:00
[チケット料金]※全席指定・消費税込み

ハッスルVIP	12,000円
スタンドS	7,000円
スタンドA	5,000円
スタンドB	3,000円

[お問い合わせ]DSEハッスル事業局
TEL.03-5464-1731/http://www.hustlehustle.com/

I LOVE KO!!

レミギウス・モリカビュチス とは何者か?

REMIGIJUS MORKEVICIUS

23試合中15試合がKO勝ち。勝利数のうちのKO率は、なんと8割を優に超える。この恐るべき数字は、レミギウスが20歳の頃から順調に重ねてきた実績。とはいえ、現在の年齢はまだ23歳。この可能性に満ちあふれたリトアニアの若き戦士はどのようにして生まれたのか。そして最も注目される4·5『K-1 WORLD MAX』魔裟斗戦の行方は?

本文/橋本宗洋　構成/松下ミワ　design by さおとめの事務所



魔裟斗刈りまで秒読み段階!!

~4·5『K−1 WORLD MAX』世界一決定トーナメント~ 一回戦から波乱の予感

そうか、あれからまだ1年半しか経ってないのか……。

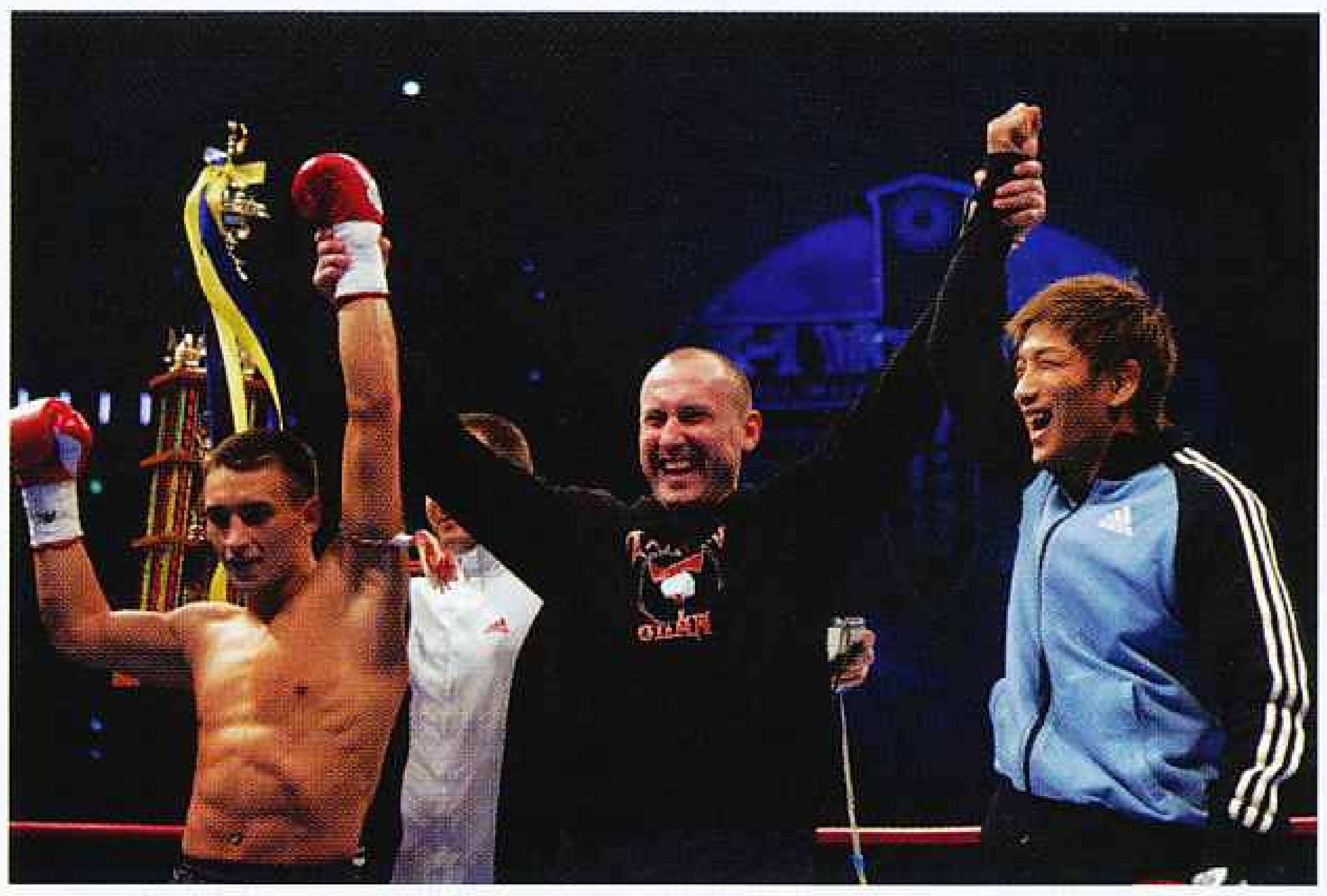
この原稿を書くため、レミギウス・モリカビュチスに関する過去の記事を調べていて、深い感慨に襲われた。2004年の11月、筆者は本誌からの依頼で、リトアニアの首都ヴィリニュスで開催されたリトアニア・ブシドー主催大会『ラママス・ムシス』を取材した。メインの取材対象だったヴォルク・ハンの引退試合がキャンセルとなってしまったのは痛かったが、それを補ってあまりある収穫もあった。それが、リトアニアでも最強のジムと呼ばれ、レミギウスやダリウス・スクリアウディス、先日の『ZST9』で所英男をKOしたエリカス・ペトライティスらが所属する『ティターナス』を訪問できたことだ。海外のジムということで個人主義的な、あるいは和気あいあいとした練習風景を勝手に想像していたが、ジムのドアを開けた瞬間にそれが間違いだとわかった。

ヴィリニュス市街から道路交通法を完全にぶっちぎった過激なドライブを続けること1時間半。郊外の街カウナスに『ティターナス』はあった。雪に覆われた外の風景とはうって変わった熱気に圧倒される。そこで行なわれていたトレーニングには、さらに圧倒された。会長を務めるマリウス氏の号令のもと、一糸乱れぬ合同練習。隅っこのほうでダラダラしてるやつなんて一人もいなかった。練習内容はといえばタックルを切ってのヒザ蹴りやマウントパンチといった実戦に即したもの。それを、現役のプロ選手に混じって若い女性や子ども(!)も黙々と繰り返している。

このときの様子を書いた記事を、筆者はこんなふうに締めくくった。

〈彼ら（注：レミギウスとダリウス）の存在が世界中の格闘技ファンに知れ渡るのは時間の問題だろう。試合での闘いぶり、ジムでのたたずまい、あるいはそれぞれの個性。そのいずれからも、この二人には大ブレイクを間近に控えたファイター独特のオーラが漂っている〉

いや、べつに筆者が慧眼の持ち主だとかそういうことではない。誰にでもわかるくらいのオーラを、確かにレミギウスとダリウスは放っていたのだ。あれから二人は——ことにレミギウスは——瞬く間に出世街道をひた走っていった。『HERO'S』と『K−1 MAX』に参戦して実力を満天下に知らしめ、4・5MAXでは魔裟斗と対戦である。こうなることは彼の闘いぶりを観てきた者には不思議でもなんでもないが、それにしても早い出世ぶりだ。



2月4日『K-1 WARLD MAX』我龍真吾戦で、なんと1R8秒KO劇を演じたレミギウス。あまりの喜びに盟友・所英男もリングに上がり大はしゃぎ！

格闘家を志した理由？　それはボクがリトアニア人だからだよ

格闘技を始めた理由とリトアニアという国の特性

格闘技の道を志した理由を、レミギウスは「自分がリトアニアの人間だから」と言う。地理学的にヨーロッパの中心に位置することもあってか、リトアニアは古くから他国の侵略を受け続けてきた。ソ連からの独立にあたっても、多くの血が流れている。リトアニアの人間には、自由であるため、ありたい自分であるためには闘わなければならないという遺伝子が存在するのかもしれない。補足するなら、「リトアニアでは、ケンカはポピュラーなスポーツです」（レミギウス）というわけだ。

と同時に、彼が幼い頃に両親と別れ、祖母と一緒に暮らしてきたという背景もあるのだろう。「ウチが普通の家庭と違うというのは、子どもの頃から感じてました。つらい思い出だから、あまり話したくはないけど……」というレミギウス。彼にとって最も必要なのが〝強くあること〟だっただろうことは想像に難くない。TBSの番組では〝闘神〟と呼ばれるレミギウスは言う。

「ボクにとって、人生とはすなわち闘いなんです」

ジムに入る前からの親友だったレミギウスとダリウスがお互いに付け合ったニックネームは、レミギウスが〝ブルース・リー〟でダリウスが〝ヴァン・ダム〟。憧れのスターを真似てパンチやキックを繰り出す彼らの素質は、他の門下生と比べて際立っていたとマリウス会長は言う。

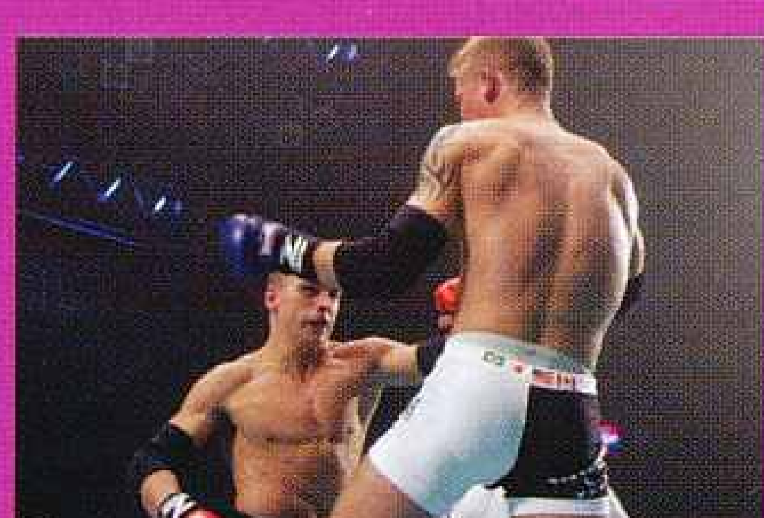
「二人の存在はセンセーションでした。最初は目立つ存在ではなかったんですが、次第にほかの生徒とは違うなと感じるようになりましたね。ダリウスは蹴りが強いし、

レミギウス・モリカビュチスのKO劇を見よ！



vs 矢野卓見 KO!

“東洋の神秘”矢野卓見相手でもレミギウスは大暴れ。渾身のパワーボムで矢野をマットに叩きつけると矢野は失神。『ZST GP』連続のKO劇で場内をどよめかせた。



vs メノー“ザ・マシンガン”ディクストラ KO!

“『ZST』負けなし”の戦績を引っさげて挑んだ『ZST GP』。一回戦はオランダの総帥クリス・ドールマン推薦のメノーを鮮烈な左ヒザ蹴りで、なんと1R20秒でKO!!



vs 所英男 KO!

レミギウスは所英男と仲良しなことで知られているが、じつは過去に2戦し、1戦はレミギウスがヒザ蹴りでKO勝ちを収めている。レミギウスの実力は所も実体験済みなのだ。



vs 坪井淳浩 KO!

日本での初試合は坪井戦。レミギウスはいきなり飛びヒザ蹴りで坪井のアゴを捕らえ、みごとKO！日本デビュー戦を衝撃的な勝利で飾ったレミギウス。KO劇はここから始まった。

レミギウスには心の強さがあった。レミギウスは生活が大変でしたから、自然とそうなったのかもしれません」

レミギウスにとって最初のリングは13歳のとき、ムエタイの試合だったという。初来日は2002年11月の『ZST』旗揚げ戦。ミンダウガス・スタンコスとタッグを組んで矢野卓見、今成正和の〝チーム・イリホリ〟と対戦したが、一本目をミンダウガスがアンクルホールドで、二本目をレミギウスがヒザ十字固めで取られ完敗を喫している。この頃はまだ、寝技に不慣れなストライカーという印象が強かった。

だが、すぐにレミギウスの存在は無視できないものになっていく。続く『ZST2』では坪井淳浩を2R1分37秒、得意のヒザ蹴りでKO。さらに『ZST3』では、のちに盟友にして最大のライバルとなる所英男を、やはりヒザ一撃で失神させた（1R2分54秒）。そのほか、レミギウスの主なKO勝利（試合の大半がそうなのだが）と、そのタイムを見てみよう。

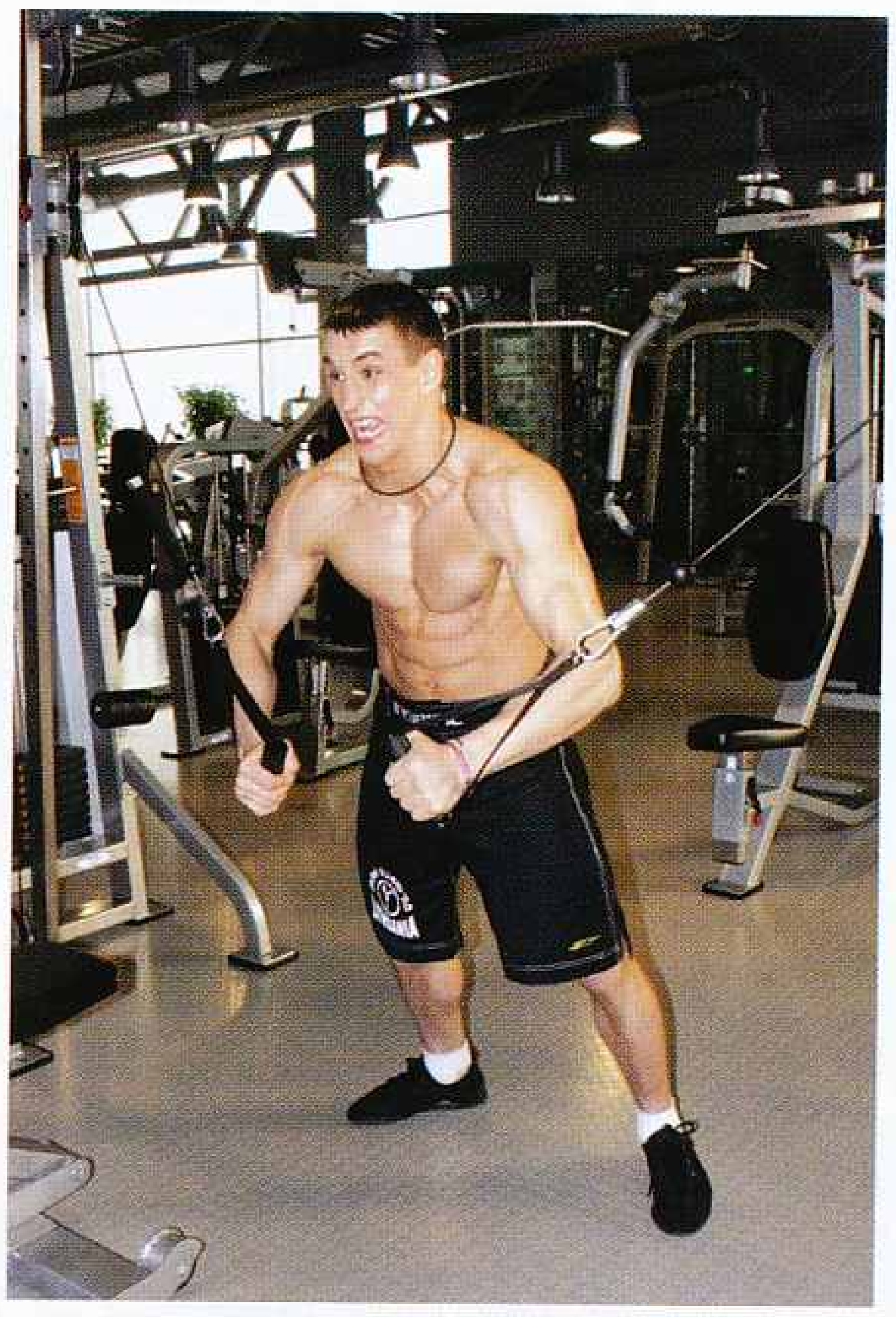
『ZST4』坪井淳浩戦＝1R0分41秒
『ZST GP』メノー・ダイクストラ戦＝1R0分20秒
『ZST GT—F』内山貴博戦＝1R1分48秒
『ZST GP2』ボウラム・ベラーニ戦＝1R0分5秒
『ZST GP2』宮川博孝戦＝1R0分48秒
『ZST GP2』大石真丈戦＝1R3分13秒
『HERO,S』村浜武洋戦＝1R1分14秒
『K—1 MAX』我龍真吾戦＝1R0分8秒
『ZST9』稲津航戦＝1R1分15秒

リングに上がると、途端にスイッチが入るんだ 日常生活とはまったく違う自分になれる

秒殺、秒殺、秒殺……。付け加えるなら、昨年10月、MAXデビューとなった安廣一哉戦では、判定ながら3Rでじつに6回のダウンを奪って圧勝している。

『ZST』広報の上原氏によれば、普段は大会翌日に上野動物園に行って「パンダ見る、パンダ！」とはしゃぎまわる「まだまだ子ども」なレミギウス。だが、いざリングに上がれば人格そのものが一変する。本人曰く「スイッチが入って、日常生活とはまったく違う自分になれるんです」。

ゴングが鳴った瞬間に猛ラッシュ。息をもつかせぬスピードと異様なまでのテンションでパンチを、蹴りを、ヒザを繰り出し、それは相手が倒れるまでやむことがない。観ていてこれほど迫力が伝わりやすく、かつ相手にとって嫌なスタイルもないだろう。昨年5月、タッグマッチでレミギウスと対戦した勝村周一朗は、三角絞めでタップを奪ったにもかかわらず、試合後にこう



この筋肉を見よ!!　まさに超合金と呼ぶに相応しい肉体だ。あの強烈な左フック＆ストレートはこの苛酷なトレーニングによって生み出されているのだ。

REMIGIJUS MORKEVICIUS
I LOVE KO!!

言い残している。

「レミギウス？　もう二度とやりたくない」

ただひたすらに殴る蹴る。そのファイトスタイルは、一見、勢いとスピード、パワーにまかせた単純なラッシング戦法にも思える。だが、レミギウスがこんな発言をしているのを見逃してはいけない。

「自分にとって、格闘技は身体ではなく頭の仕事です」

90年までソ連に併合されていた（ということは〝鉄のカーテン〟の内側だったということだ）リトアニアは、決してプロ格闘技の先進国ではない。キックボクシングであれ総合であれ情報は乏しく、ゆえにあらゆることを自分たちで考え、工夫していく必要があった。彼らは自らの身体と、そして頭を酷使して自分たちの闘い方を編み出していったのだ。常識、セオリーから外れているかもしれないが、しかしそこには確固たる〝理〟がある。

「ほかの国では当たり前のことでも、ここでは教わるのではなく、自分たちで考え、イメージしていかなくてはいけなかったんです。もっと情報がほしいという気持ちもありますが、自分たちのやり方を変えるつもりはありませんね。ファイトは歌みたいなものですよ。人の歌を歌うより、オリジナル・ソングを歌ったほうが楽しいに決まっている」

そう語るのはマリウス会長だ。自分たちが積み重ねてきた練習と試合スタイルへの自信は、まったくといっていいほど揺るぎない。レミギウスは言う。

「ボクたちにはいいトレーナーがいるし、み



VS 稲津航 KO!

右の我龍真吾戦からわずか2週間での『ZST』参戦となったレミギウス。しかし！　そんなことはお構いなしに、臆せず攻め込む稲津に対し、またも1R電光石火のKO劇。凄すぎる!!



VS 我龍真吾 KO!

試合時間なんとたったの8秒!!　この日、『K—1 MAX』日本トーナメントの第一試合を務めたレミギウスは、この8秒のあいだで一気に観客のボルテージを最高潮に上げたのだった。



VS イ・スファン KO!

K-1参戦後、初KO勝利を達成したのがこのイ・スファン戦。しかも、なんと2Rで計4回ものダウンを奪っているから驚き。怒濤の打撃にレフェリーもたまらず試合をストップさせた。



VS 村浜武洋 KO!

7月6日に開幕した『HERO'S』ミドル級トーナメント。一回戦で対戦した村浜相手に、レミギウスはまたもKO。初の地上波放送だったこの試合。"レミギウス"の名を世に知らしめる勝利となった。

んなが大志を抱いている。『ティターナス』での練習は、すべてがオリジナルです。それがよかったということは、ボクたちが残した結果を見てもらえればわかるでしょう?」

4・5魔裟斗戦を占うレミギウスの言動

対戦カード発表記者会見で、魔裟斗は「ああいう選手との闘い方はわかってますから。弱点も見つけてますよ」と語った。レミギウスとの対戦オファーを、二つ返事で了承したとも。ナメているとまでは言わないまでも、魔裟斗はレミギウスを〝難しくない相手〟と考えているんだろう。もちろん、どちらが勝つ確率が高いかと聞かれれば、MAX第2代世界王者である魔裟斗だ。だが、魔裟斗がレミギウスを「パワーとスピードはあるが粗い選手」と思っているのなら、勝負を司る天秤はレミギウスに少しずつ傾いていくはずだ。レミギウスのファイトスタイルは〝荒々しく〟はあっても〝粗く〟はないのだから。

また、K—1ファンの多くは魔裟斗vsレミギウスを〝中量級トップのカリスマファイターと総合格闘家の対戦〟と見ているだろう。だが、レミギウス自身はそういう見方を真っ向から否定する。

「ボクは〝総合ファイター〟じゃありません。〝ファイター〟です。自分にはルールなんて関係ないし、むしろ打撃の試合のほうが得意なくらいですよ」

実際、彼が寝技でタップするところは見たことがあっても、スタンドの打撃戦で遅れを取ったことはない。『HERO'S』での高谷裕之戦では〝打ち負け〟ていた場面もあったが、それは苦手とするグラウンドでのダメージを差し引いて考えなければならないだろう。打撃のみの勝負であれば、レミギウスはより真価を発揮するといっていい。

おそらく魔裟斗には〝総合ファイターにはローキックが効果的〟〝背の低いファイターにはヒザが当たる〟と考えているはず。常識的に考えて、それは正解である。ただ、それはあくまでも常識の範囲内でのこと。本人が言うように、レミギウスは単なる総合ファイターではないし、そもそも総合でも〝ティターナス式〟の闘い=常識の埒外にあるスタイルで勝ってきた選手なのだ。

もう一つ、レミギウスと彼のファンにとって希望を見出せるポイントは、魔裟斗がここ数年で喫した敗戦、苦しんだ試合にある。2002年のMAX世界大会ではアルバート・クラウスに左ストレートでダウンを奪われて判定負け。2004年、ブアカーオ・ポー.プラムックに敗れた際には前蹴りを何度となくヒットされた。さらにはその年の大晦日、山本〝KID〟徳郁と対戦した魔裟斗は、1Rに左ストレートでまさかのダウンを奪われている。

REMIGIJUS MORKEVICIUS
I LOVE KO!!



昨年11月26日に行なわれた『HERO'Sリトアニア大会』の前日会見で現地記者のインタビューに応えるレミギウス。国内でのレミギウス人気は相当なものなのだ!

ルールなんて関係ないね。むしろ打撃のほうが得意なくらいだよ

あまりに単純な見方かもしれないが、魔裟斗は〝速くて、まっすぐ〟な攻撃に弱い。ほかの選手に比べればそれでも図抜けてはいるのだが、唯一、穴を見つけ出すとしたらそこだろう。そしてレミギウスは、そんな〝速くて、まっすぐ〟なアタックを最も得意としているのだ。

『ZST9』の試合後に自ら魔裟斗戦をアピールしただけあって、この試合に臨むレミギウスの士気は高い。

「魔裟斗はいいファイターだし、本当のプロ。経験豊富で心も身体も強い。弱点らしい弱点はないと思います。彼のことは尊敬しているし、ずっと前から闘いたかった」

あふれんばかりのリスペクト。闘う前から、魔裟斗を上位概念だと認めてしまっているようでもある。でも、ちょっと待ってほしい。「ずっと前から闘いたかった」ということは、つまりずっと前から闘う相手として意識していた、ということである。

〝MAX4戦目で早くも魔裟斗と対戦〟というのは周囲の見方であって、彼にとっては既に準備済みなわけだ。魔裟斗に勝つために何が必要だと思うかという質問に、彼はこう答えている。

「強運ですね」

弱気な発言? いや、逆だろう。レミギウスは〝運がよければ勝てる(実力では勝てない)〟と言っているのではなく〝運が勝負を左右するくらい、実力には遜色がない〟と言いたいのだ。

勝負のカギは、レミギウスが普段通りの闘いをできるかどうか。いつものようにゴング直後から爆発し、魔裟斗の〝うまさ〟を引っかき回せば必ず勝機は訪れる。逆に、へんにかしこまった、キレイな闘いを見せようとすれば、K—1におけるキャリアの差が如実に表われてしまうだろう。〝それらしい〟闘いをしようとするあまり自ら長所をスポイルし、自滅したファイターをK—1のリングで何度見てきたことか。

だが、その点は心配はなさそうだ。試合への意気込みを、彼はこう語っている。

「いつものようにハードな練習をして、いつものように激しく闘うだけです」

そう、いつものようにやればいいのだ。そうすれば、レミギウスはきっと驚かせてくれることだろう——我々を、そして魔裟斗を。

■戦績

○	vs Dmitrijus Vasiljevas	KO	02年12月14日	『リトアニアBUSHIDO6』
○	vs 坪井淳浩	KO	03年 3月 9日	『ZST2』
○	vs 所英男	KO	03年 6月 1日	『ZST3』
○	vs 坪井淳浩	KO	03年 9月 7日	『ZST4』
○	vs メノー"ザ・マシンガン"ディクストラ	KO	03年11月23日	『ZST GP opening stage』
○	vs 矢野卓見	KO	04年 1月11日	『ZST GP final stage』二回戦
×	vs マーカス・アウレリオ	三角絞め	04年 1月11日	『ZST GP final stage』準決勝
○	vs 内田貴博	KO	04年 3月 7日	『ZST GT-F』
○	vs Artemij Sitenkov	ギロチンチョーク	04年 4月 4日	『Shooto Lothuania-Vendetta』
×	vs 所英男	三角絞め	04年 5月 5日	『ZST5』
×	vs 小谷直之	腕ひしぎ十字固め	04年 7月 4日	『ZST-Battle Hazard 1』
○	vs Boulem Belaini	KO	04年11月 3日	『ZST-GP2 OPENING STAGE』
○	vs Jakob Shaap	三角絞め	04年11月20日	『リトアニアBUSHIDO』
○	vs 宮川博孝	KO	05年 1月23日	『ZST-GP2』フェザー級トーナメント準決勝
○	vs 大石真丈	KO	05年 1月23日	『ZST-GP2』フェザー級トーナメント決勝戦
○	vs ダニー・ベルゲン	腕ひしぎ十字固め	05年 4月 7日	『Shooto Lithuania-Chaosas』
○	vs 村浜武洋	KO	05年 7月 6日	『HERO'S』ミドル級トーナメント一回戦
×	vs 高谷裕之	TKO	05年 9月 7日	『HERO'S』ミドル級トーナメント準々決勝
○	vs 安廣一哉	判定3-0	05年10月12日	『K-1』
○	vs イ・スファン	KO	05年11月 5日	『K-1 MAX』
×	vs 永田克彦	判定3-0	05年12月31日	『Dynamite!!』
○	vs 我龍真吾	KO	06年 2月 4日	『K-1 MAX』
○	vs 稲津航	KO	06年 2月18日	『ZST9』

K-1 WORLD MAX **生徒** 松下ミワ

ココを見よ!



はしもと・のりひろ■1972年生まれ、茨城県出身。『格闘技通信』『SRS・DX』を経て、フリーライターとして活躍。驚異的な量の知識と情報と皮下脂肪を持つ橋本さんに、今回は『K−1 WORLD MAX』の見どころをピンポイントで教えてもらいました。

魔裟斗が敗れる可能性はある! 拳を交えない嘉洋と小比類巻のウラの闘いにも要注目!!

——橋本さん、ズバリ、今回の『K−1 WORLD MAX』の見どころを教えてください!

橋本 それはやっぱり、前のページでさんざん語った魔裟斗vsレミギウスでしょ。

——やっぱり。たしかにあの秒殺KOの山を見せられたら「もしかして……」と思っちゃいますよね。で、実際レミギウスは魔裟斗を倒せるんでしょうか?

橋本 可能性はぜんぜんあると思うよ(キッパリ)。

——ぜんぜんありますか!

橋本 うまい選手って、基本的にムチャクチャやってくる相手がイヤなんだよ。普通の相手ならカウンターを取れても、レミギウスはセオリーにないタイミングで攻撃してくるから。ましてスピードもパワーもあるしね。思いもしない一撃が当たるとか、しょっぱなから魔裟斗がペースを乱されて、そのまま試合終了、とかね。あと原稿にも書いたけど、魔裟斗は速いまっすぐの攻撃にやられることが多いから。

——逆にレミギウスはそれが得意ということですか?

橋本 踏み込みが早いからね。出会い頭でバコッといっちゃう可能性はある。

——では反対に、魔裟斗はどんな闘い方をすれば勝てますか?

橋本 実力を出すことだね。

——実力ですか(笑)。

橋本 魔裟斗の何が強いかっていうと、オプションが多いのよ。パンチが得意な相手にはミドルとヒザとか、相手の苦手なスタイルに切り替えることができる。だからレミギウスが突っ込んできたら、打ち合わずにミドルと前蹴りでパンチの距離に入らせないとかね。

——なるほど。

橋本 そういうところが魔裟斗の強み。あと、レミギウスがへんにK−1向けのうまい闘い方をしようとしたら魔裟斗有利だね。だからレミギウスは普段通りの闘い方をしたほうがいい。それは魔裟斗に関しても同じ。無理やりKOを狙おうとしたら、どうしてもスキができるから。

——そのあたりの二人の駆け引きも見物ですよね。

橋本 でも、個人的には佐藤嘉洋vsザンビディスのことを語りたいなぁ。

——佐藤嘉洋はコツコツと日本トーナメントを勝ち上がってきた選手ですよね。

橋本 コツコツとね(笑)。今回の試合は嘉洋にとって正念場なんだよ。嘉洋は、これまでとにかく結果を出すことで認められてきたわけでしょ。じゃあ、そういう選手が結果を出せなかったら何が残るんだって話だから。

——でも、その初戦の相手があのザンビディスというのは厳しくないですかね?









橋本 だから正念場なのよ。嘉洋って、もともとムエタイにどう勝つかっていうテーマでスタイルを作ってきたんだよ。だからブアカーオみたいな相手なら嘉洋のよさが出やすいんだけど、パンチャーのザンビディスはやりにくいだろうね。実際、ボクサーのヴァージル・カラコダに負けたし、TATSUJI戦も1ラウンドは攻め込まれたし。

——ということは、かなり危険だと。

橋本 うん。でね、ザンビディスみたいな背の低いパンチャーにはヒジとヒザが凄く有効なのよ。頭下げて飛び込んでくるでしょ。そしたらバンバン当たるじゃん。

——なるほど! そうですね。

橋本 でも、これK−1ルールだからね(笑)。

——だけど、これで嘉洋が勝ったらかなり名が上がるのは間違いないですよね。

橋本 「やっぱ強え!」ってなるか「世界トップレベルが相手じゃダメなんだ」か、今後の大きな分岐点だね。でも嘉洋が認められればられるほど、立場的に危うくなる男もいるんだけどね。

——その男というのはもしかして……。

橋本 もちろん小比類巻。いままで日本で魔裟斗に続く選手というのは小比類巻だったわけだけど、その座を嘉洋に奪われかけてるじゃない。

——そういえば、小比類巻はどうして世界トーナメントに出られるんですか? 予選に出てないのに。

橋本 だってほら、去年のベスト8ファイターだから、一応。去年、本人曰く"スネ"でダリウス(・スクリアウディス)を粉砕してベスト8に入ったからシード権があるんだよ。

——そうでした(笑)。スネの硬さに関してはかなり自慢されてましたね。

橋本 でも、ここで負けたら完全に嘉洋に追い抜かれちゃうわけでしょ。

——きっついですね〜。

橋本 だから、開幕戦では小比類巻vs嘉洋ってカードが一番見たかったんだけどなぁ。そうなると正念場度合いもケタ違いでしょ?

——ホントですね! それはかなり見応えがあるというか。

橋本 結局、小比類巻の相手はイム・チビンになったけど。それはそれでキツイよね。イムってじつは相当強いから。それと今回注目してるのは、ドラゴだなぁ。ドラゴは試合が派手だし、ヘビー級のバダ・ハリに続く"まだ見ぬ強豪、ついに来日!"なんだよね。

——いろんな意味で注目を集めている、あのバダ・ハリと並ぶ人材なんですか!?

橋本 「いろんな意味で」って、キミはヘンな部分だけはちゃんと抑えてんだねぇ。

——い、いや、今回はこれでK−1の見どころもちゃんと抑えましたよ!

橋本 そう? だといいんだけど(笑)。

——大丈夫ですよぉ。当日はこの知識を持ってしかと観戦します!

『K−1 WORLD MAX 2006 〜世界一決定トーナメント開幕戦〜』
東京・国立代々木競技場第一体育館4月5日(水)試合開始17:30

[対戦カード]
魔裟斗(日本/シルバーウルフ) vs レミギウス・モリカビュチス(リトアニア/リングスリトアニア)
マイク・ザンビディス(ギリシャ/メガジム) vs 佐藤嘉洋(日本/フルキャスト)
ブアカーオ・ポー・プラムック(タイ/ポー・プラムック) vs ヴァージル・カラコダ(南アフリカ/スティーブスジム)
小比類巻貴之(チームドラゴン) vs イム・チビン(Kpプロモーション)

[スーパーファイト]
TATSUJI(日本/アイアンアックス) vs ニック・"ザ・ゴースト"・ゴンザレス(USA)

[その他の出場予定選手]
アンディ・サワー、アルバート・クラウス、ガゴ・ドラゴ、ブラック・マンバ

[入場料金]
SRS席 22000円/S席 13000円/魔裟斗応援シート 13000円/A席 6000円
【問い合わせ】(株)FEG 03−3796−5060



○川尻達也vsヨアキム・ハンセン×
（1R 8秒 反則）

修斗ウェルター級タイトルマッチ
川尻、金的攻撃を受けつつ

不本意にもベルト死守!!

去年の5月から川尻達也は主戦場である『修斗』のリングをいったん離れ、最大のライバル五味隆典がいる『PRIDE武士道』で闘っていた。第8代修斗・世界ウェルター級王者である川尻にとっては、もちろん以前同じベルトを持っていた五味（五味は第5代修斗ウェルター級王者）と一騎打ちをするという大きな野望があっただろう。しかし、修斗王者の思うところはそれだけではなかったはずである。

『PRIDE武士道』初参戦となった5月のキム・インソク戦、続く7月のルイス・ブスカペ戦で勝利した川尻は、次第にファンから五味戦を望まれ、自らの力で存在感を拡大させていった。そして、ついに迎えた9月の五味戦では、黒星がついたにせよ、ファンが記憶から消せないほどの熱戦を繰り広げたわけである。つまり、川尻は修斗王者の価値を高め、本来の目的である〃ホームリングに観客を呼び戻す〃ということに成功したのだ。

大会当日、川尻達也vsヨアキム・ハンセンというビッグマッチを観に集まった観衆は4120人。代々木第二体育館は満員である。しかし、まだこの段階では川尻の心境は複雑だっただろう。なぜなら、多くのファンに評価されたとは言え、世紀の一戦で修斗王者はライバル五味に負けたのだから。ハンセン戦というビッグカードで勝利しなければ、川尻の再出発はずっと遠のいてしまうわけである。

そんな心境で迎えたゴング。その8秒後に、あの事件は起きてしまったのだ。

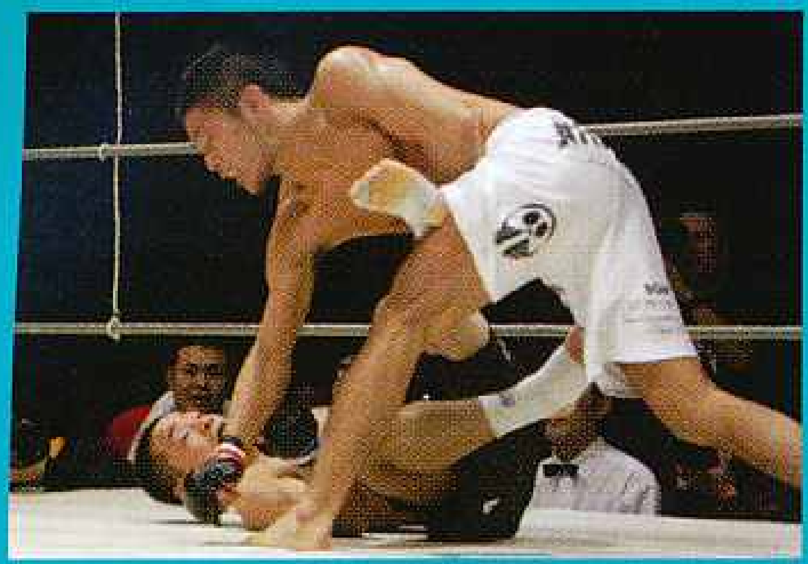
ハンセンの蹴りを受け、突如、苦悶の表情でリングに沈む川尻。

……おっと、これはいったいどういうことなんだ。

1R8秒、ローブローの反則により、川尻達也、ベルト防衛。

緊急事態のチャンピオンに、会場からは「また観にくるから！」と盛んに温かい声が飛ぶ。

2・17
『修斗・代々木大会』レビュー



○大沢ケンジ vs 植松直哉×
（判定2-0）

“打撃の大沢vs寝技の植松”の闘いは、テイクダウンから強烈なパウンド連打を叩き込むなど、1Rから積極的に仕掛けた大沢に軍配。ビッグネームに勝利した大沢は、試合後のマイクで修斗・世界ランキング1位の外薗晶敏に挑戦状を叩き付けた。



○藤井恵 vs 瀧本美咲×
（2R 4分36秒 腕十字テクニカル一本）

第一試合からつかみはOK！　とばかりに盛り上げてくれた両者。下から三角絞めを狙う藤井に対し、三角のロックを逃れようとする瀧本。しかし、一瞬のスキを突いて腕十字へと狙いを変えた藤井がみごとに一本勝ち。藤井は盤石の強さを見せつけた。



○アントニオ・カルバーリョ vs 佐藤ルミナ×
（2R 49秒 TKO）

8月20日『修斗・横浜大会』ギルバート・メレンデス戦で流血によるTKO負けしたルミナ。今度こそはと臨んだ試合だったが、今度はカルバーリョの怒濤のマウントパンチに2R TKO負け。再起を図りたい“カリスマ”だが、復活への道はまだまだ長い。



○青木真也 vs 菊地昭×
（判定3-0）

世界ミドル級タイトルマッチとして行なわれたセミファイナル。世界王者のベルトを持つ菊地に対し、スタンドにしろグラウンドにしろ、アメーバーのようにまとわりつく青木。勝利と同時にチャンピオンの座を手にした青木は「俺は一生、修斗しかやりません！」と突然絶叫。その後、自らリングに呼び寄せた仲間に胴上げされ、喜びを噛み締めた。



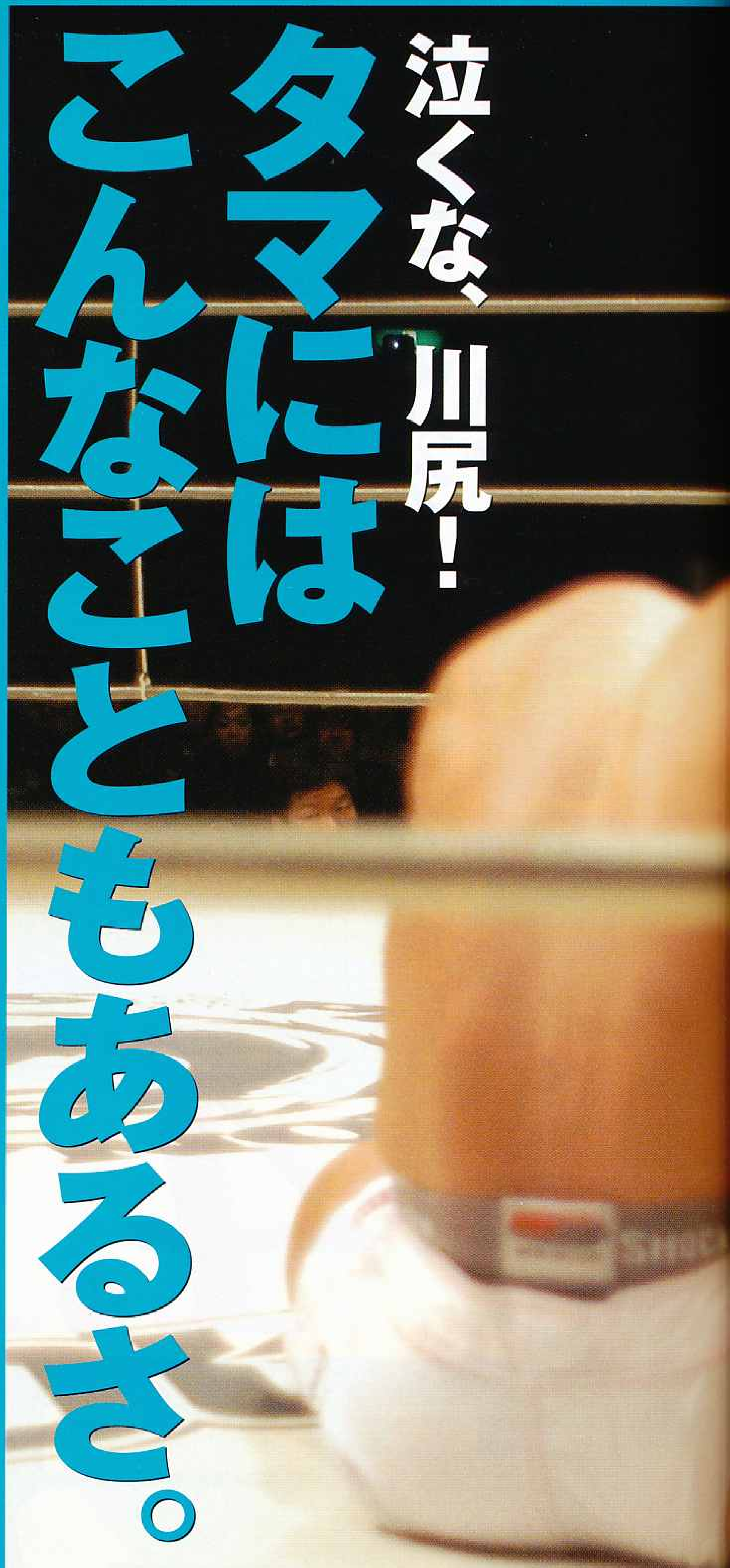
須田匡昇引退式

この日は修斗・世界ライトヘビー級王座に君臨し続けた須田の引退式も行なわれた。長南亮や郷野聡寛ら、かつての戦友から花束を渡された須田は「あんまりマイクがうまくないので」と遠慮がちにコメント。堂々と担いできたベルトもこの場で返上した。



○石田光洋 vs 富樫健一郎×
（判定2-0）

ウェルター級世界王者の川尻と同じTブラッドに所属する石田は環太平洋チャンピオンをめざす。長身な富樫から石田は果敢にテイクダウンを奪い鉄槌攻撃。これが功を奏してみごと判定勝ちを収めた。この勝利がきっかけか、石田は『武士道・其の拾』への参戦が決定!!



泣くな、川尻！
タマにはこんなこともあるさ。

修斗特有の不思議なムード。しかし、川尻は果たしてこの声援を受け入れられただろうか。久々の修斗でメインという重役を務めた川尻に。

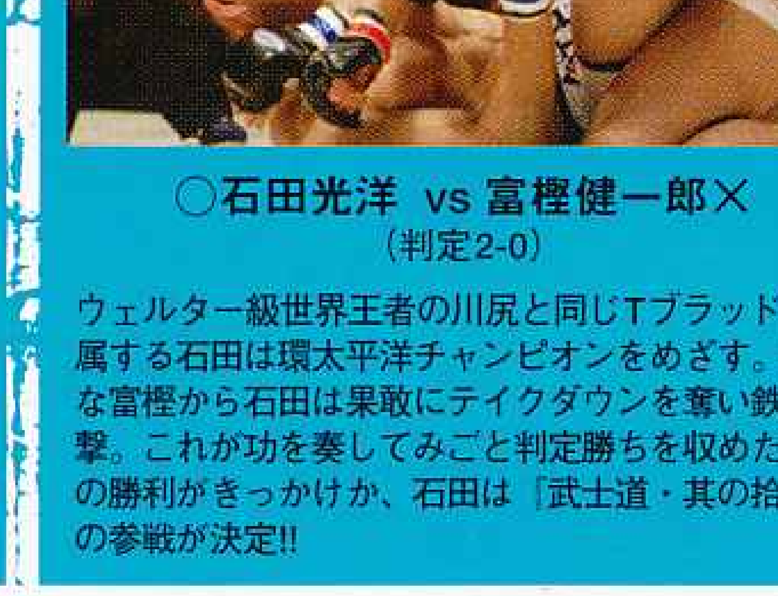
今回、修斗のリングに上がった川尻は、それこそ『武士道』で体感した〝観客を満足させる〟という概念、修斗には希薄だった（かもしれない）概念を持って戻ってきたはずである。そう考えると、観衆に何も見せられないままアクシデントを迎えた川尻にとって、この結果はもしかするとハンセンにベルトを奪われるよりも苦しい結果だったのではないだろうか。川尻が見せたかったのはきっと、強い姿、おもしろい試合。

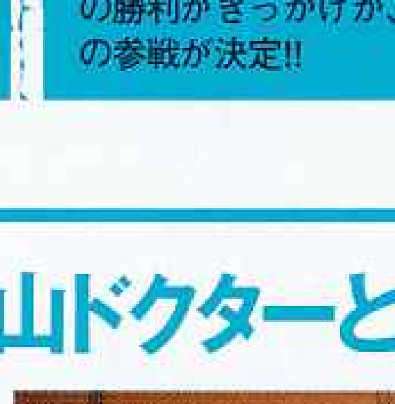
残念ながら、本大会では〝川尻が望む川尻の姿〟を観ることはできなかった。……が、また次がある。次に迎える本当の再出発こそ、川尻には強くて魅せるチャンピオンの姿を見せてほしいと思う。

（松下ミワ）

山本“KID”徳郁が中山ドクターとひと騒動!?

大会当日、菊地昭のセコンドについていた山本“KID”徳郁が、リングドクターの中山健児氏に暴言を吐き、暴力行為を働いたという情報が格闘業界を駆け抜けた。この衝撃の事態に対し、日本修斗協会は「控室で菊地昭をドクターチェックしていたリングドクターに対し、所属ジム代表である山本徳郁が謂われ無き理由で暴言を吐いた上、暴力行為を行うという極めて遺憾な事態が発生しました」とし、KIDと所属ジムのKILLER BEEに対し、全修斗公式戦への出場停止処分とすると発表!!　しかし！　その2日後、よくよく事情を聞いたサステイン代表・坂本一弘氏は突然会見を開き、一転してKIDと中山ドクターの和解を報告。中山ドクターは「ドクターチェックをしているときに、足の裏でポンと押されただけ」と話し事態はなんなく終焉へ。なんだか不思議な展開となったが、とにかく事件は無事一件落着となったのだった。





当のKIDは会見で「後輩のことになると熱くなりすぎて、抗議にも度が過ぎたかなと思っています」と話し素直に謝罪。

た観にくるから！」と盛んに温かい声が飛ぶ。

難解クラシックをズバリ攻略！

皐月賞

フサイチリシャールは逃げ切れるのか？／アドマイヤムーンの勝利の確率は？／フサイチジャンクはどこまで成長する？／サクラメガワンダー巻き返しの可能性は？／ジャリスコライトの真の実力とは？

混迷の牝馬戦線をズバリ解明！

桜花賞

テイエムプリキュアは桜で買い？／アドマイヤキッスのトライアル→本番連勝はある？／シェルズレイはまだ強くなる？／コイウタのローテーションは◯？／ダイワパッションはマイルの距離も克服可能？



ディープインパクトの陣営をズバリ直撃！

天皇賞・春

ディープインパクトは3200mを克服できるのか？／インティライミ逆転の可能性は？／デルタブルースは完全復活できるか？／アドマイヤフジのステイヤー度は？／リンカーン悲願のGⅠ制覇なるか？

先取り！ POG情報

06−07年POGは、もう始まっている！

注目種牡馬の産駒リスト

早出し！ あの名牝が産んだ今年の2歳馬は？

特出し！ 持ち込み＆マル外を徹底追跡

丸出し！

ホントに出ます（笑）

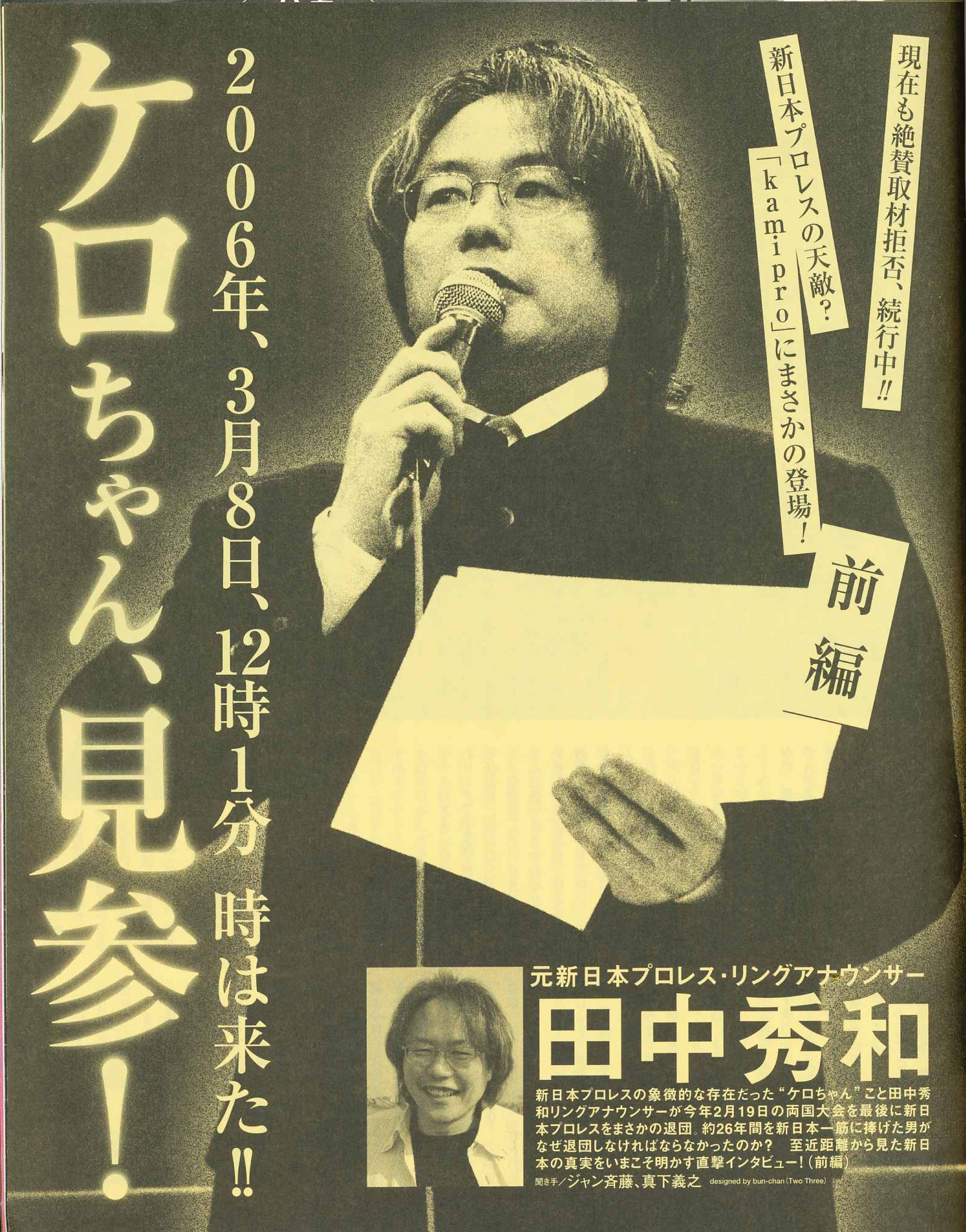
4.1（土）緊急発売！

サラブレEX

春競馬がズバリわかる本

enterbrain 株式会社 エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 電話 0570-060-555（代表） URL http://www.enterbrain.co.jp

芸能界一のプロレスファン斉藤清六も大興奮!



現在も絶賛取材拒否、続行中!!

新日本プロレスの天敵?「kamipro」にまさかの登場!

前編

2006年、3月8日、12時1分 時は来た!!

ケロちゃん、見参!

元新日本プロレス・リングアナウンサー

田中秀和

新日本プロレスの象徴的な存在だった"ケロちゃん"こと田中秀和リングアナウンサーが今年2月19日の両国大会を最後に新日本プロレスをまさかの退団。約26年間を新日本一筋に捧げた男がなぜ退団しなければならなかったのか? 至近距離から見た新日本の真実をいまこそ明かす直撃インタビュー!(前編)

聞き手/ジャン斉藤、真下義之 designed by bun-chan(Two Three)

—ご存じかと思われますが、『kamipro』は田中さんや新日本プロレスにとって天敵というか、未来永劫取材できないような関係なんですけども。

ケロ まだ取材解禁にならないんですかねえ。

—いろんなタイミングでお話し合いはしてるんですが、選手会のほうがダメみたいで。

ケロ そういやユークスさんの買収発表会見に、『kamipro』の記者が現われてちょっとした騒ぎになってましたね（笑）。

—あのときは『kamipro』携帯サイトのスタッフ（ささきぃ）が乗り込んだんですよね。

ケロ でも『kamipro』さんって団体をけなしてるわけじゃないんでしょう?

—いやいや、もの凄くけなしてます!（笑）。

ケロ あっ、けなすんだ? まぁ、俺も前号を読んで「（ZERO・1MAXの中村）祥之の野郎、こんなこと言いやがって!」って頭にきましたけど（笑）。俺、泣きながら退団宣言なんてしてないよ。笑顔でしゃべったんだから。

—そういった誤解を含めて、田中さんにはぜひ至近距離から見た新日本の真実を語っていただきたいと思っております。

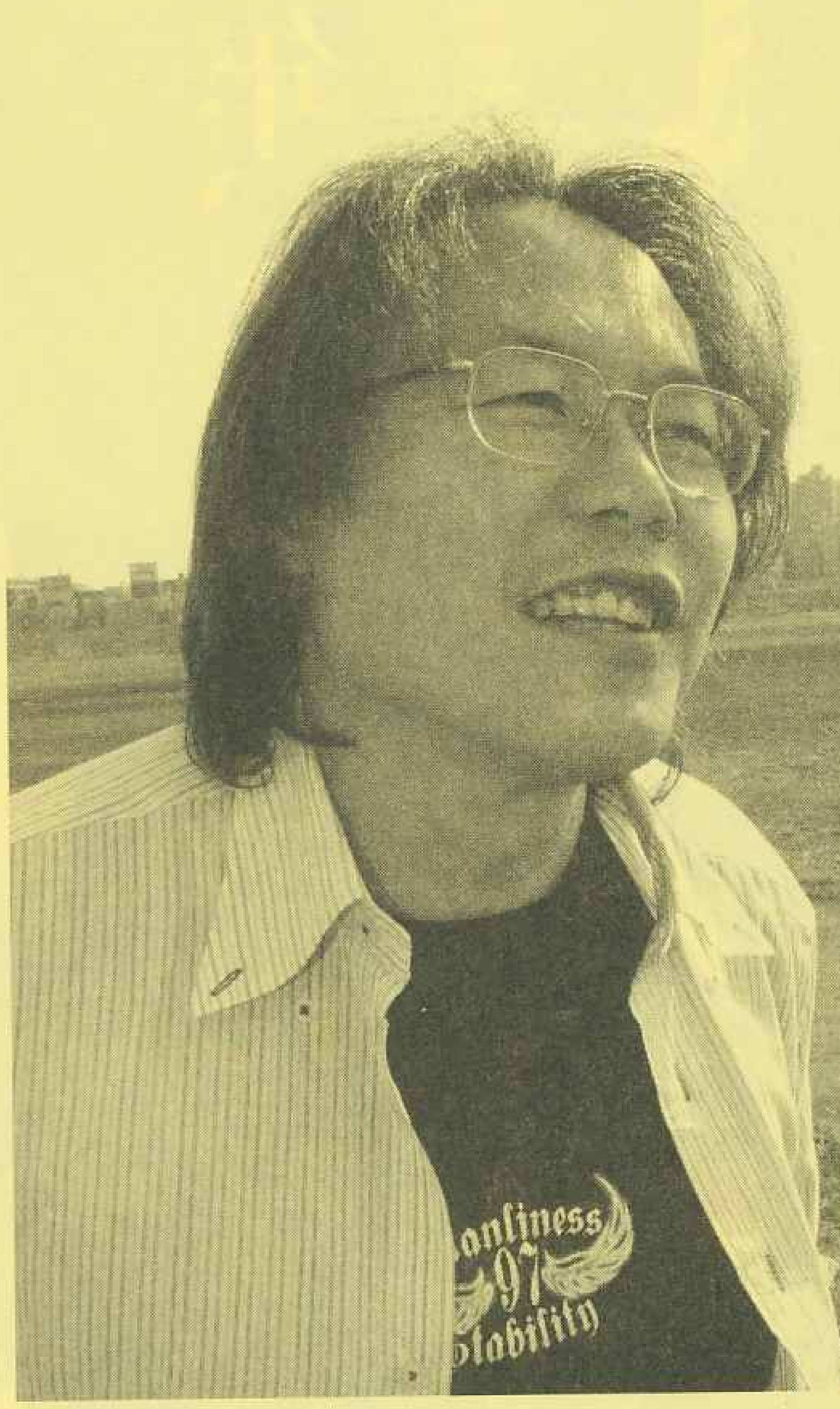
ケロ よろしくお願いします。とりあえず、〝あの人〟の悪口を言えばいいんでしょ?（笑）。

—ワハハハハ! いや、〝あの人〟についてはほかの媒体でたっぷりしゃべってるみたいなんで、新日本プロレスに入社したきっかけからお願いします! そもそも新日本に入ろうと思った動機はなんだったんですか?

ケロ もともとプロレスは好きだったんですが、でも中学や高校のときはどっちかというと吉本興業に入りたかったんですよ。

—吉本興業志望からプロレス入り! なんだかHGみたいですけど（笑）。

ケロ 不思議でしょ? それで中学を出るとき親に「俺は漫才師になる」って言ったら、「高校ぐらい行け!」って猛反対されたんです。で、高校に行ったあとに「吉本新喜劇に入る」って言ったら



どっちかと言うとプロレスより、吉本興業に入りたかったんですよ

「大学くらい行け!」って。まぁ親に騙されたパターンですね。それで大学のために上京したら、その頃ちょうど東京で吉本をやってなかったんです。それで結果的に自分の中でプロレスが占める割合が大きくなって。

—そのまま新日本プロレスに入社を志望された、と。

ケロ でも入社できたのは運とタイミングですね。当時、新日本はリングアナも社員も募集してなかったんですけど、どうしても新日本に入りたかったから、大学の卒業論文で「日本におけるプロレス経営」というテーマをデッチ上げて。

—やけに強引なテーマ設定ですね（笑）

ケロ それで「研究資料がないので、直接お話を聞かせてください」って新日本に電話して会社に行ったんです。新間（寿）さんに挨拶して、総務部長の望月さんという方の話を聞いてね。粘りに粘って3時間から4時間はいましたね。

—それだけの時間を費やして「入社したい」という思いを訴えたんですか?

ケロ いや、そうじゃないんです。そのとき「倍賞鉄夫が新しいリングアナを探してる」っていう話を耳に挟んだんですよ。

—倍賞さんというと、美津子さんの弟で新日本のリングアナを務めて、最近まで猪木事務所の代表だった方ですね。

ケロ それ聞いて「ラッキーじゃん!」って。でも「すぐやらしてくれ」ってのも図々しいからいったん帰ったんです。タイミングを見て「聞き忘れたことがあるから、もう一度うかがっていいですか?」ってまた行ったの（笑）。

—今度は計画的犯行ですね。

ケロ 履歴書持参で行きました。それでその場で倍賞鉄夫さんに面接されて。そのとき大学4年の夏休みだったんですが「連絡するから」って言われて家で待ってたんですよ。そしたら「一緒に巡業に連れてくから、それで良かったら合格」って言われてこの仕事を始めたんです。でも「合格」という言葉はないままに26年間も働いてましたけど（笑）。

—まあ「巡業についてきたから合格」という意味だったんでしょうね。

ケロ そうですね。大学を卒業するまでアルバイトで、そのまますんなり社員になりましたから。

—大学は大東文化大学なんですよね。

ケロ はい。NOAHの菊池毅くんが後輩ですね。菊池くんが全日本プロレス入りするときには大学から電話があって「菊地をよろしくお願いします!」って。団体が違うんだけどなぁ（笑）。

—最初からリングアナウンサー志望だったんですか?

ケロ プロレスラーになりたい気持ちもありましたけど、当時のレスラーは大型ばっかりだったでしょ? グラン浜田さんや藤波（辰爾）さんみたいなジュニア戦士もいましたけど「キツイだろうな」って思ってましたし。そうすると目立てるのは、レフェリーかリングアナ、花束嬢くらいでしょ? 花束嬢はなれねえし、レフェリーもレスラー上がりから補充されてたから「リングアナしかないな」って。

—とくにリングアナという職業に憧れてたわけではないと?

ケロ とにかく目立ちたかったんですよ（笑）。

—そこはケロイズムですね（笑）。

ケロ でも、日本プロレス時代

芸能界一のプロレスファン斉藤清六も大興奮!



2月19日両国大会、試合終了後に反体制軍、新日本本隊の順でセレモニーが行なわれ、本隊は胴上げでケロちゃんを送り出した。

のリングアナのコールは凄く好きでしたよ。「あ～か～コォナ～」っていう独特のイントネーションとか。じつは3試合ぐらいそのスタイルでやったんです。そしたら倍賞さんから「違う言い方しろ」って言われてね。でも倍賞さんからいただいた指導はその一言だけでした。

――誰からもコールの仕方は教わらなかったんですか？

ケロ なんも言われたことないですよ（キッパリ）。ただ最初は「リングに慣れなさい」って、道場へ1週間行かされてコールの練習はやりましたけどね。そのときに髙田（延彦）くんとか新倉（史祐）さんが手伝ってくれたんです。二人ともデビュー前で、僕が「ストロング小林～ィ！」って叫ぶと髙田くんが小林さんのマネしたりね（笑）。

――髙田さんのそういった素養はヤングライオン時代からあった、と（笑）。コール自体は最初からスムーズにやれたんですか？

ケロ どうでしょうねえ。ただ緊張しなかったのは憶えてます。初めての大会は品川プリンスホテル（80年8月22日）だったんですけど、いきなり猪木vsボブ・バックランドのタイトルマッチだったんですよ！

――デビュー戦が猪木vsバックランドですか！

ケロ いざ会場入りしたら、新間さんに呼ばれて猪木さんの前に連れていかれてね。「今日からリングアナをやります、田中といいます！」って挨拶したら猪木さんから「ここでやってみろ！」って言われたんです。で、その場でコールしたら「ああ、いいじゃねえか！」（アゴを突き出し猪木口調で）って言われてね（笑）。

――それでお墨付きをもらってデビュー戦に挑んだと。

ケロ はい。当時は試合前に「場内禁煙」とか売店の説明をしなきゃいけなくてね、それやったあと、試合でしゃべるまでの間隔が長いんですよ。だから最初の一言を発するまでは緊張しました。そのあとはリングに立とうが何しようが緊張しなかったですけど。

――その強心臓ぶりは凄いですね。

ケロ なんででしょうね。昔から目立ちたいタイプで、漫才やるのも好きでしたし。大学のときは吉本新喜劇を目指して4年間、演劇やってたから、発声練習とか舞台度胸が生きてるのかなって思いましたけど。

――演劇と並行してプロレスも観ていたわけですか？

ケロ 観てましたね。

――よく言われることですけど、「プロレスと演劇」に共通するところって何かありますか？



ケロ　やっぱり「見得を切る」ってことかな。ちょっと話が飛んじゃいますけども、去年の『ハッスル・マニア』で和泉元彌さんが試合に出たじゃないですか。あの試合についてプロレスラーはなんだかんだ言っているし、僕も『ハッスル』を全面的に肯定する気はありませんけど、和泉元彌さんには「凄いなあ」と感心したんですよ。

―和泉元彌のどのへんに凄さを感じました?

ケロ　やっぱり登場する際の目線だとか、目の動き、見得の切り方、間の取り方を見て、「スッゲ〜!」と思って。これ観てプロレスラーは勉強しなきゃいけないと思いましたね。いかに観客を惹きつけるかという間の取り方の勉強をね。

―最近、そういう間の取り方ができてるレスラーっていますか?

ケロ　いませんね（キッパリ）。

―また即答しましたね（笑）。武藤（敬司）さんはどうですか?

ケロ　ムトちゃんは技の少なさをカバーする間の取り方だよね。蝶（野正洋）ちゃんもそう。

―そういう意味では二人の才能を感じますけど。

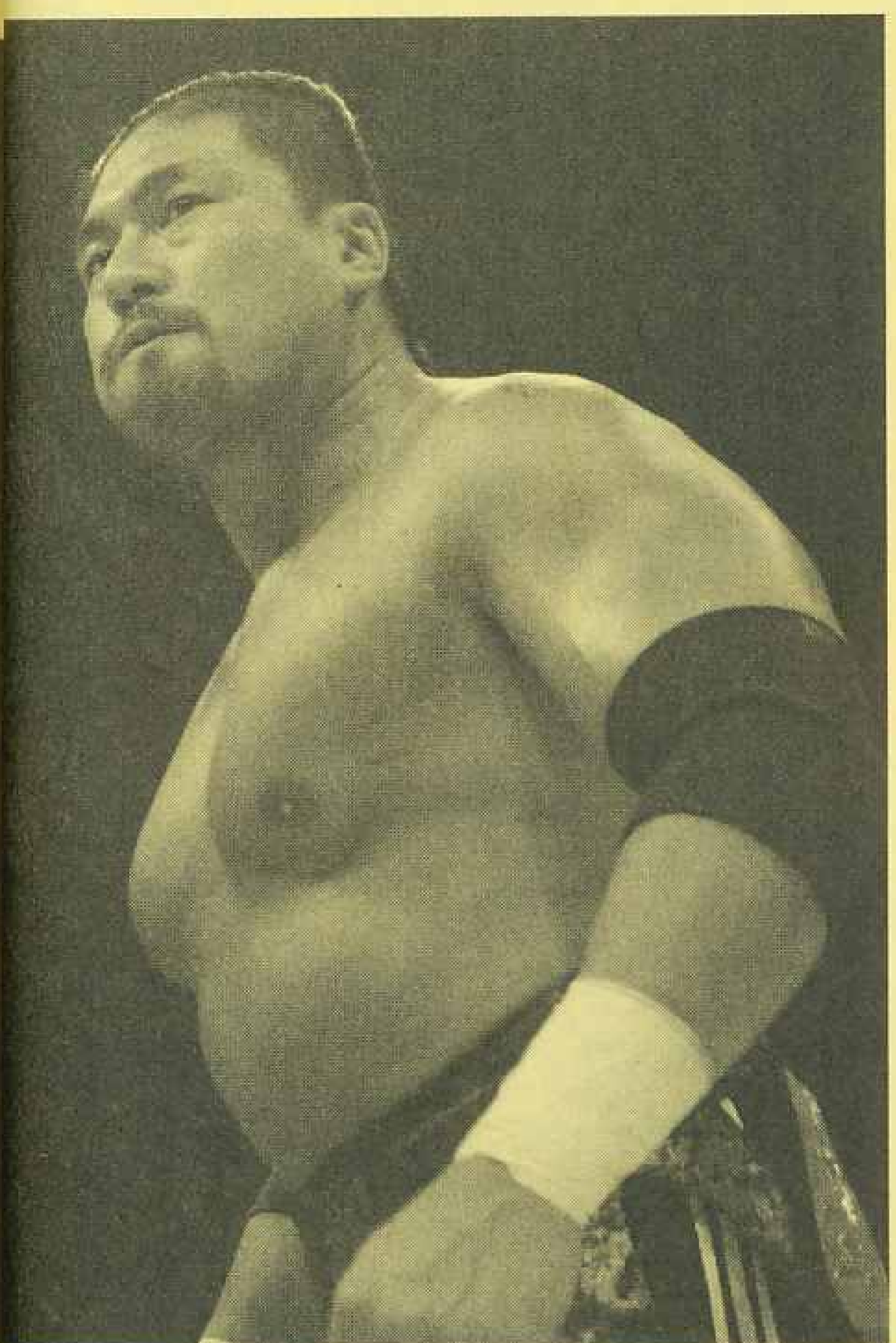
ケロ　そうですね。いかに少ない技で効果的に魅せるか。いかに自分が動かず試合を作って、いかに自分を魅せるか。これは猪木さんにも言えることで、結局は倍賞美津子さんにそういった魅せ方を教えてもらったって話だよね。あの間の取り方とか表情の作り方とか、入場シーンの目線のキメ方とか。

―女優の美津子さんに教わって、鏡を見ながら表情の作る練習をしていたそうですね。猪木さんってそれまでは「しょっぱいレスラーだった」という風評もあったぐらいなんですけど。

ケロ　猪木さんはどっちかというと、しょっぱい部類だと思いますよ（笑）。運動神経はないですし、こんな運動音痴な人がなんでトップなんだってぐらいね。

―要は自分の魅せ方が超一流だったと。

ケロ　あと猪木さんが若手によく言ってたのが、「逆エビを極められたときに顔を伏せるな!」ってこと。「痛いんだろ?　だったら痛いのを客に伝えろよ!」って。



和泉元彌さんの"間"を観て
プロレスラーは
勉強しなくちゃいけないなと。

―それは納得ですね!

ケロ　「誰か一人、客を見つめればいいじゃん、5列目の客に『俺は痛いんだ!』って伝えろ!　それが2階のうしろの席まで広がっていくんだから」って。

―武藤さんが「アントニオ猪木こそ、アメリカンプロレスの権化だ」って言ってましたけど、猪木さんのスタイルって多分に演劇の要素を含んだものだったという。

ケロ　ただ、プロ野球でもなんでもプロの選手はそういう部分があるんじゃないですか?　イチローさんの構えも「タイミングのため」って言いながら自然に観客を意識したスタイルだと思うし。〝魅せるプロ〟の人はどの業界でも同じだと思いますけど。

―たたずまいや動作が一流であればあるほど、自然と〝魅せる〟要素につながっていくのかもしれないですね。

ケロ　自分もお客さんから「どう見られるのか」を意識してましたし。リングは舞台と違って四方向ありますしね。

―舞台だったら「お客さんにお尻を向けない」っていう約束事がありますけど。

ケロ　プロレスも常に正面を向いてるんですけど、うしろの客も満足させないといけない。

―そこは難しそうですよね。

ケロ　あと、プロレスって〝目の動き〟が凄くおもしろいんです。レフェリーの目の動きって客席から見てると凄くよくわかる。たとえば選手が技をかけてる。レフェリーは相手に「ギブアップ?」って言いつつ、目線でチラッと相手コーナーを見たりするんですよ。それが客席から見たら凄く目立つ。つまり「カットに入ってくるのかな?」と予感させるでしょ?　きっと無意識だと思うんだけど、レフェリーは絶対しちゃいけないことなんです。

―目の動きでさえ慎重を期さないとダメなんですねえ。

ケロ　あと相手がコーナーに振られるときレスラーって自分から手を出す癖がある。いかにも「さぁ、振ってくれ」みたいな。これも無意識の動作なんですけど、客にとったら違和感がある。

―そんな〝プロレスの演劇性〟という意味では、当時は新日本より全日本のほうが詰まっていたような気がしますけど。「全日本プロレスに入りたい」という気持ちはなかったんですか?

ケロ　いや、やっぱり僕は猪木さんのファイトが好きでしたから。当時の猪木さんは若者向けのファイトをしてましたし。

―たしかに刺激的でしたね。ZERO-1MAXの中村祥之さんは「どんな人間でも新日本プロレスという組織に入ると、新日本プロレスの刻印を押されてしまう。宗教的な感じでストロングな思想に取りつかれてしまう」っておっしゃってましたけど、田中さんもそうでした?

ケロ　う〜ん。一時期あったかもしれないですね。

―あ、一時期だけ（笑）。

ケロ　新日本ってすげえデカいもんでしたから。「絶対に世界一の団体にしなきゃいけない」って気持ちがありましたし、若い頃は凄く狭い視野でプロレスを観てた。正直、『週刊プロレス』や『週刊ゴング』に悪く書かれると「ふざけんな!」という部分もありましたね。「お前ら、これで食ってんだろう?」っていう。

―凄く耳が痛いですね（笑）。

ケロ　まぁそういう時期もあったからこそ、いまいろんなことを考えられるのかなって。

―リングアナ以外の仕事もこなすことでプロレス観が深まっ

芸能界一のプロレスファン斉藤清六も大興奮！

ていったと思うんですけど。

ケロ　リングアナは興行部になるので、選手の移動方法も考えないといけないんですよ。日程から電車やホテルの手配をしたり、あと巡業先での選手のマネージャー的な仕事や経理的なこと。経費を払ったり、選手の交通費を払ったり、各ホテルからの電話代を払ったりとか。

――巡業をこなすことで選手の信頼関係が結ばれたり？

ケロ　いや、僕はあくまで社員なんです。巡業に出ても選手ともどこかで仲間じゃないような気がする。会社にずっといるわけじゃないから、会社の人も仲間じゃないような気もする。どっちつかずな状態で疎外感を感じたことはありましたねぇ。

――あ、それは意外ですね。田中さんってレスラーと凄く仲が良かったイメージがありますし。

ケロ　僕はやっぱりプロレスラーじゃないから……。

――完全には踏み込めない？

ケロ　踏み込めないし、踏み込んじゃいけないところもあった。いまならズバズバ言えるけど（笑）。要するに選手は会社の不満や要求を僕に言うわけです。僕はそれを会社に伝えなきゃいけない。でも会社の事情もわかるし、逆に会社から選手への要望も僕にくる。「そんなの直接、話せばいいじゃん」ってことや、言いにくいこともまず僕を通すから、それが嫌でしたねえ。

――選手がプライベートで起こすトラブルにも振り回されたりしたんですか？

ケロ　そっちも大変でしたけどね。トラブルの事後処理で一日中、警察に行ったりして（笑）。

――そういった伝説が多いのは、やっぱり橋本（真也）さんだと思うんですけど（笑）。

ケロ　橋本はめちゃくちゃおもしろかったですね（笑）。単純におもしろい男だし、生まれながらの豪傑なんだろうな。ホントに〝純粋バカ〟でしたね。やっぱりプロレス界って、ああいうトンパチがいなきゃいけないよね。

――もともとトンパチの素養があった橋本さんに（ドン）荒川さんの指導が加わったことで開花して。

ケロ　そうですね（笑）。ただ昔は団体で動いてたけど実際は個人主義でしたから。藤原（喜明）さんも個人主義でしょ？　いまの選手は高校の部活みたいに固まってる感じですね。会社としては管理しやすいから、そっちのほうがいいんでしょうけど。

――昔は集団で集まってバカやってるってイメージが強かったんですけど、そうでもなかったと？

ケロ　それはたぶん巡業のときに旅館に宿泊してたからじゃないかな。いまの若い子は一人部屋のホテルじゃないですか。「お疲れさん」ってホテルに帰ってもバラバラ。昔は旅館でみんな一緒に食事したりすることが多かったしね。それで酔っぱらって旅館に迷惑かけて（笑）。

――昔の新日本にはそんなことがしょっちゅうあったみたいですけど、そういうとき田中さんはどうされてたんですか？

ケロ　すぐに逃げます（笑）。それで翌日に旅館の人と被害の確認をして、会社に被害額を電話するのが私の役目です。

――ダハハハ！　ちなみに一番最大の被害金額はいくらぐらいだったんですか？

ケロ　詳しい額はわかんないけど、水俣の旅館を完全に破壊したことがあって。あれは何日か開業できなかったと思います（笑）。

――伝説になってる武藤さんと前田（日明）さんが飲みの席で殴り合ったときですよね。後藤達俊さんは真剣を持ち出して振り回していたと言う。

ケロ　そうそう。髙田くんたちがスッポンポンで外に飛び出して道路でタクシーを停めちゃったり。後藤選手も壁に大きな穴をあけたりね。あんとき、宴会場が5階建ての一番上の階で、そこのトイレを詰まらせたもんだから、みんなの汚物が下の階に流れていったんですよ（笑）。

――ガハハハハ！　そんな被害も発生してましたか（笑）。

ケロ　凄い悪臭が下まで流れてきてねえ（しみじみと）。

――しかし、5階建ての旅館が営業できないぐらい壊すって、本当に凄いですね。

ケロ　でも一番凄いのはね。翌日に俺が朝風呂に入ってたら、旅館の周辺を猪木さんが黙々とランニングしてんの（笑）。

――猪木さんのランニング好きは有名ですけど、そんなときまで平然と（笑）。

ケロ　でも翌日、前田日明は顔が腫れて試合ができなくて……。そこでファンに嘘をつかなくちゃいけないのがつらかったですね。

――最近はそこまでの事件はなさそうですけども。

ケロ　そうですねえ。蝶ちゃんが遅刻して試合できないかもしれないってのはありましたけど。

――蝶野さんの遅刻は度を超して凄いらしいですね。あの武藤さんが「蝶野とは絶対に待ち合わせをしない」というぐらい。

ケロ　凄いですよ！　京都の試合のとき、開始一時間前になってもいないから、蝶ちゃんに電話したら家にいて「いま起きた」って言ってるの。「どうすんのアンタ？」って（笑）。

――ワハハハハ！　開始一時間前にまだ自宅（笑）

ケロ　それで無意識にタクシーに飛び乗って新幹線に乗ったらしいんだけど、それでもメインに間に合っちゃうんだからねえ。

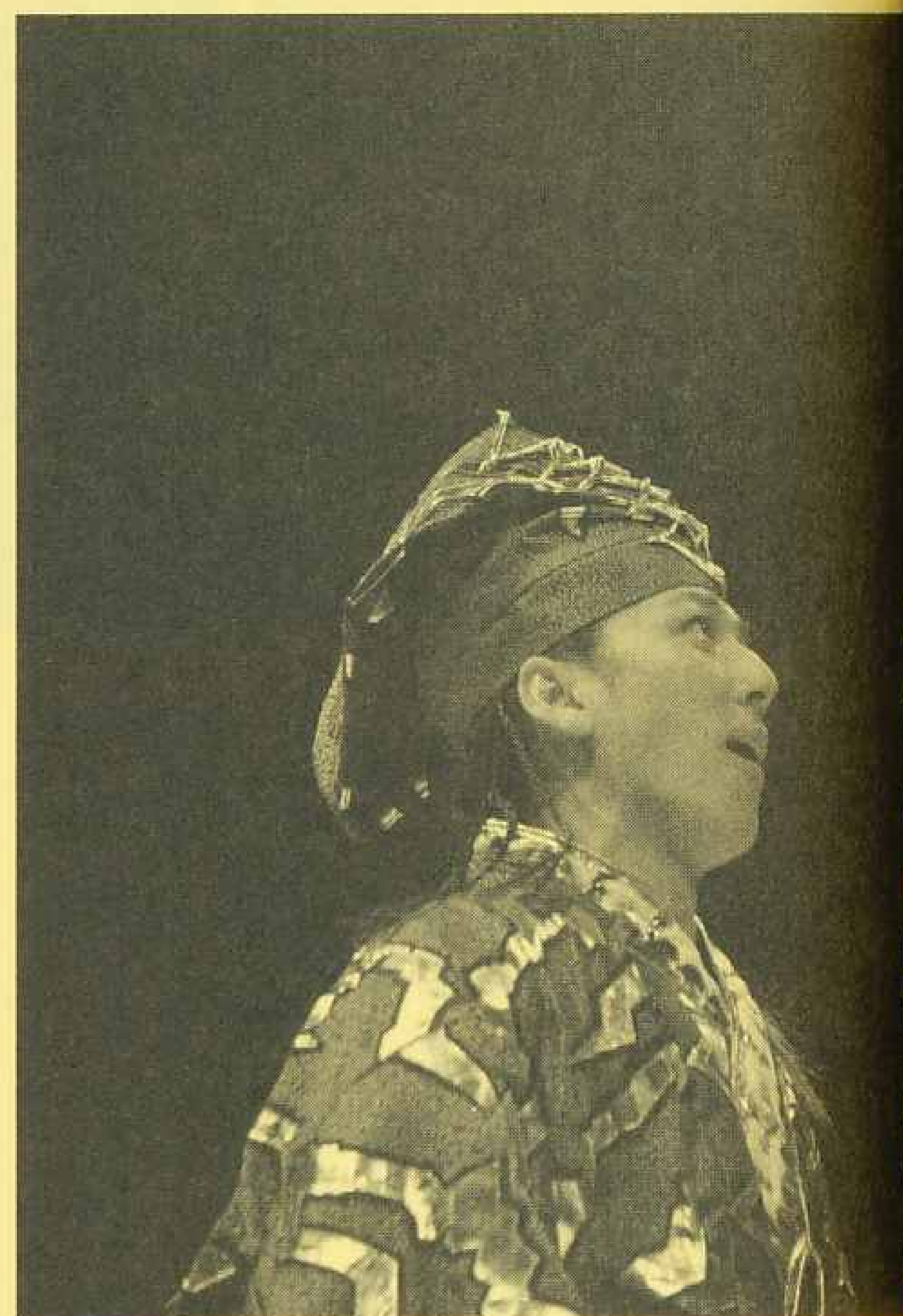
――間に合っちゃうところが再び事件を誘発するというか（笑）。

ケロ　あのときは開始からメインまでは3時間ぐらいあったんだけど、蝶ちゃんは携帯から「（試合を）引っ張れ！」を連呼してね。控室では「俺が代わりをやる！」ってマサ（斉藤）さんが準備してましたけど（笑）。

――非常にマサさんらしいですね（笑）。徹底して起きない蝶野さんも凄いですけど。

ケロ　会議も絶対、時間通りに来たことがないですから。

――でも新日本内では「それはそれ」で通っちゃうんですよね。





ケロ　通っちゃいますね。で、〝蝶野時間〟と言って、一時間前を集合時間にしたりするんですけど、結局バレますから。かと思うと試合のない日にいきなり来たりして。「今日は休みって言ったじゃん！」って言うと「え？　そうだっけ」って（笑）。

――そんな人間が現場監督だったんだから最高です！（笑）。そうなると、闘魂三銃士で一番常識があったのは武藤さんですか？

ケロ　どうかなあ〜。ムトちゃんはムトちゃんで凄く純粋な人間だしマイペースですよね。あの3人は個性が違ったし、試合内容も全然違うじゃないですか？　だから3人を足したら猪木さんを超えるかなって。

――3人足しても猪木さんにはならないけど、猪木さんを超えるという。

ケロ　うまい具合にキャラが分かれたから3人とも売れたんでしょう。新日本は全日本があったからこそ、ああいうスタイルになったと思うし。想像ですけど、猪木さんって本当は馬場さんと同じようなプロレスをやりたかったと思うんですよ。

――結果的にはスキャンダルプロレスというか、事件性を意識したプロレスでしたけど。

ケロ　あまりに意識しすぎて大変なことになってますけど（笑）。

――昔から田中さんはそういう面で苦労されてたというか、暴動が起きたときの火消し役だったじゃないですか。

ケロ　うん。新日本の暴動って全部、僕がリングアナ担当でしたもん（笑）。日本でほかにないんじゃないですか、あれだけ暴動を経験した人っていうのは。

――でもよく考えると暴動が起きても不思議じゃないんですよね。87年の『イヤーエンド・イン国技館』のビックバン・ベイダーの初登場のときとか。

ケロ　あ、あれは本当にヒドイですよ！

――猪木さんがメインの猪木vs長州戦を勝手に猪木vsベイダー戦に変更して「どうですか、お客さん!?」というマイクアピールに大ブーイングが飛んでるのに実行するという（笑）。

ケロ　怒りますよ、ホント（笑）。

――いまは暴動が起きる熱がファンにないなんて言われてますけど、そうじゃなくて当時の新日本がたまに凄いことをやっていたんですよね（笑）。

ケロ　だよね。あと猪木さんとラッシャー木村の髪切りマッチなんて「負けたら髪切り」だったのに猪木さんが逃げるんですよ！　すぐタクシーで帰っちゃうの。しかもそのタクシーを手配したのが僕だったというね（笑）。

――で、田中さんは残って苦情を一身に浴びる、と（笑）。暴動にはどういうスタンスで対処してたんですか？

ケロ　まず「治めなきゃいけない」っていう思いが強かったですね。僕はファンの気持ちも、新日本サイドの気持ちもわかる。でも後楽園で長州さんとやり合ったときは……。橋本が帰ってきて、ひさびさに蝶野と橋本をぶつけるっていう試合のとき。僕も期待してたら、開始2分ぐらいで反則かなんかで終わっちゃって。完全な消化不良でお客が怒って帰らなくてね。さすがに「これはひでえや！」と思って。

――田中さんはずっとリングサイドに残られてましたよね。

ケロ　残ってましたね。完璧にファン側に付いてしまいました。一社員としてはいけないことなんですけども。

――暴動と同時に、選手の大量離脱も数多く経験されてますね。

ケロ　長州さんたちが辞めて全日本に行ったときは全然、事情がわかんなかったですね、何もわからないまま「とにかく新日本を守らなきゃ」って。会社に悲壮感はなかったですね。

――逆にそういったことが新日本の団結心を生んだのかもしれないですよね。

ケロ　それはよく思ってました。「新日本を出てった人間を見返してやる！」って。印象的なのは旧UWFができたときに地方のどっかで電車を降りてホテルまで歩いていたとき、なぜか路上にUWFの宣伝カーが停まってたんです。そしたら当時UWFの営業をしてた上井文彦が突然マイクで俺らを挑発してきやがってね。「オイ！　藤原喜明〜、UWFに来てみろぉ〜！」って。

闘魂三銃士は個性がバラバラ
3人足したら、猪木さんを超えたかも

――ガハハハハ！　上井さんは昔から熱かったんですね（笑）

ケロ　だから上井さんが新日本に帰ってきても「この人は敵だ！」って思ってたから。

――当時は全日本プロレスともいろいろあったじゃないですか。

ケロ　外人の引き抜き合戦とかね。最初に新日本が仕掛けときながら、向こうに引き抜き返されたら「こんにゃろ〜！」って頭きてましたから（笑）。会社としては「絶対、全日本には負けたくない！」と思ってましたよ。観客動員でも試合内容でもね。

――全日本のリサーチとか、試合を観戦したりしてたんですか？

ケロ　隠れてしてましたね。ただ猪木さんが「新日本は全日本に全然負けてねえぞ。選手もリングアナも全然負けてねえぞ！」って言ってくれて、それは嬉しかったです。でも最後に「レフェリーだけは負けてるけどな……」って言ってて「それはそうかもな」って思いましたけど（笑）。

――え〜、ミスター高橋さんのことですね（笑）。昔から全日レフェリーのうまさは定評がありますけど田中さんから見ても和田京平さんのレフェリングは目を見張るものがありました？

ケロ　和田さんはうまいですね。あの人はリングで自分を出してない、それは試合に溶け込んでるってことですよ。ところがミスター高橋さんの場合、試合からはみ出していく。悪い意味で存在感がありましたからね。

――でも、新日本が一番の団体だという思いはあった、と。

ケロ　ずっとありましたよ。何があろうと一番だと。だって僕は定年まで働き続けると思ってましたから。ところが26年目で辞めることになってしまって……。

――一番印象的な時代というといつくらいになりますか？

ケロ　ん〜、自分の中ではお客さんが入ろうが入るまいが、あんまり関係なかったんですよ。困ったのは初代タイガーマスク時代のお客さん。もうめちゃくちゃ客が入るじゃないですか？　でもマナーが悪かったんですよ。トイレットペーパー投げるわ、生卵投げるわ。当時は「生卵投げたやつを絶対に捕まえてやる！」って息巻いてましたね。

――当時の新日本ってそういう怖さがあったじゃないですか。迷惑な客に若手レスラーが突っ込んでったり。

ケロ　行きましたよ！　汚い野次の客にも「行け！」って若手

芸能界一のプロレスファン斉藤清六も大興奮!



は言われてましたし。

—昔は野次った客を捕まえてボコボコにしてたそうですけど、最近そういう話を聞かないですが方針が変わったんですか?

ケロ　え～っとね、それは「訴えられたとき」から(笑)。

—ダハハハハ! お客さんに訴えられましたか!(笑)。

ケロ　けっこうヒドイ客がいてねえ……。リングサイドでさんざん汚い野次を飛ばして、選手に叩かれたりすると、すぐ警察に行くんですよ。

—それは最低ですねえ。

ケロ　ホント頭にきますよ!「だったら記憶をなくすぐらい殴っとけばよかったな」って。

—ガハハハハ! いや、犯罪ですけど正論です(笑)。

ケロ　いまは「客に手を出しちゃいけない」ってことにしてるんですけど、ワザと怒りを誘発するようなことをするヤツもいますしね。だからテレビの生放送のとき言われたのは、客がワーッと集まって来たときには「手で殴るな、足でいけ!」って。

—そんな三原じゅん子的なノリがあった、と(笑)

ケロ　「ヒザをカッカツ当てていけ!」ってね。だってテレビに映ったらマズイでしょ。

—90年代・新日本プロレスも客入りは凄かったと思うんですが、初代タイガー当時と比べるとマナーは良かったんですか?

ケロ　そうですね。紙テープを禁止したので、投げ入れること自体が減りましたね。

—いま考えると、あの頃の新日本が一番理想的なプロレス団体だったんじゃないかと思うんです。闘魂三銃士がいて、長州さん藤波さんがいて、ベイダーとかノートンの外人エースがいて。

ケロ　役割分担がしっかりしてたかもしれないですね。

—最初の『G1クライマックス』(以下、G1)で蝶野さんが優勝したときは異常に盛り上がりましたし。

ケロ　あれ、蝶ちゃんが優勝した貯金があるから、G1はいままでもってるんですよ。コケた大会もありましたけど。あの感動がいままでずっと引っ張ってきてくれてますね。第一回のG1の信用があるから決勝は異様に盛り上がるんですよ。

—一番印象に残った大会は、第一回目のG1になりますか?

ケロ　やっぱり第一回ですね。でも、最近だったら去年の大阪の藤波vs川田戦なんです。

—意外なセレクトですね。

ケロ　あそこまで藤波さんができると思わなかったから(笑)。

—あ、これまたハードルが低い。

ケロ　いや、藤波さんはいつもG1に出場したがりますけど、半分は見栄ですからね。今回も途中に何回も言われましたよ、「ケロ、もう休んでいいか?」って。

—毎年、出場を直訴しときながら、弱音を吐きまくると(笑)。

ケロ　「優勝できなくていいから」って言うから「いや藤波さんの優勝はないです」って(笑)。

—やっぱり藤波さんは最高ですね(笑)。それで90年代の新日本に話を戻すと、やはり印象的なのはドーム大会なんですが、ドームという空間はリングアナから見てどうなんですか?

ケロ　正直な話、6万人ギッチリだろうと感覚的には500人の会場と変わらないんです。ただ第一回目のドームでリングに上がって挨拶したとき6万人の歓声が下から来たんですよ。いままで感じたことのない歓声が地鳴りみたいな感じで足から入ってくるんですよ。

—もの凄く低音が効いてる感じですかね。

ケロ　リング上で震えたのはあとにも先にもあれ一回です。でも一回感じると慣れてしまって、どうってことないんですけど。

—東京ドーム初進出のときは無謀だとは思いませんでした?

ケロ　あの頃は「やってやれ!」って思ってましたね。新日本は当時、イケイケでしたし。最初に世界タイトルマッチでマイク・タイソンにやられましたからね。じつは東京ドームの観衆って、タイソン戦が基準なんですよ。

—あ～、あのときの観衆発表が基本になってしまったと。

ケロ　5万ちょっとという発表だったんですけど、ドームはあれを基準にしたんです。あそこで発表された人数がもっと低かったら、ウチのドームの観客人数ももっと低かった(笑)。

—それはおもしろい話ですねえ。その新日本のドームは一回目はけっこうお客さんが入って、二回目のドームも最終的には超満員になりましたけど。

ケロ　鶴田さんとか天龍さんとか全日本勢が上がって、ソールドアウトしたときですね。

—あれこそドームの超満員だと思うんですけど。



ケロ　でも記録上では、最高入場者数は猪木さんの引退興行なんですよ。これはドームでのイベントの最高記録。あそこは回転扉が人数を正確にカウントするんですよ。

――じゃあ本当の最高記録は『K―1』のアンディ・フグメモリアルではなく、猪木さんの引退興行なんですか？　猪木さんの動員を100人くらい上回ったという話がありますけども。

ケロ　いや、ドームの実数記録は猪木さんの引退興行でしょうね。あの入りは半端じゃないっすもん。

――当時はドームの四方の隅々まで観客を入れてましたからね。

ケロ　外野まで客を入れようとしたから、あえてセットを小さくしたんですよ。いまは反対で「セットを大きく作って客席を潰せ」って感じですけど（笑）。

――ガハハハハ！　でも、90年代はドーム大会が定例化して、年間4回のドームツアーもやってたじゃないですか？　東京ドームはまだしも、名古屋ドームも満員になってて。

ケロ　あ～、昔は楽だったなあ（しみじみと）。

――あとドームとかビックマッチで顕著だったのが、田中さんの衣装がどんどん派手になっていって、どんどん宝塚的な方向に走ってましたよね。

ケロ　あれは自覚的だったんですよ。「オスカルの服いいな～！」って（笑）。

――あ、そうだったんですか！（笑）。いわゆる『ベルサイユの薔薇』方面に至るきっかけは何かあったんですか？

ケロ　リングアナって、それまで誰でもできる職業っぽく見られてたんですよ。で、最初は僕もただの背広だったんですけど、そのまま客席にいくと観客の中に溶け込んじゃうんですよね。それで最初は赤いブレザーにしたんです。大学時代に伸ばしてたんだけど、入社したときに「切れ」って言われた髪の毛も伸ばしてね。

――でも、なんで宝塚も真っ青な衣装にシフトチェンジしていったんですか？

ケロ　既製品じゃダメだと思ったんですかね。どれも特注なんですよ。グループサウンズの衣装を作ってた人に作ってもらってます。

――ちなみに何着ぐらい所有されてるんですか？

ケロ　はおりものに関していえば、あの二つですよ、青と白しかないです。

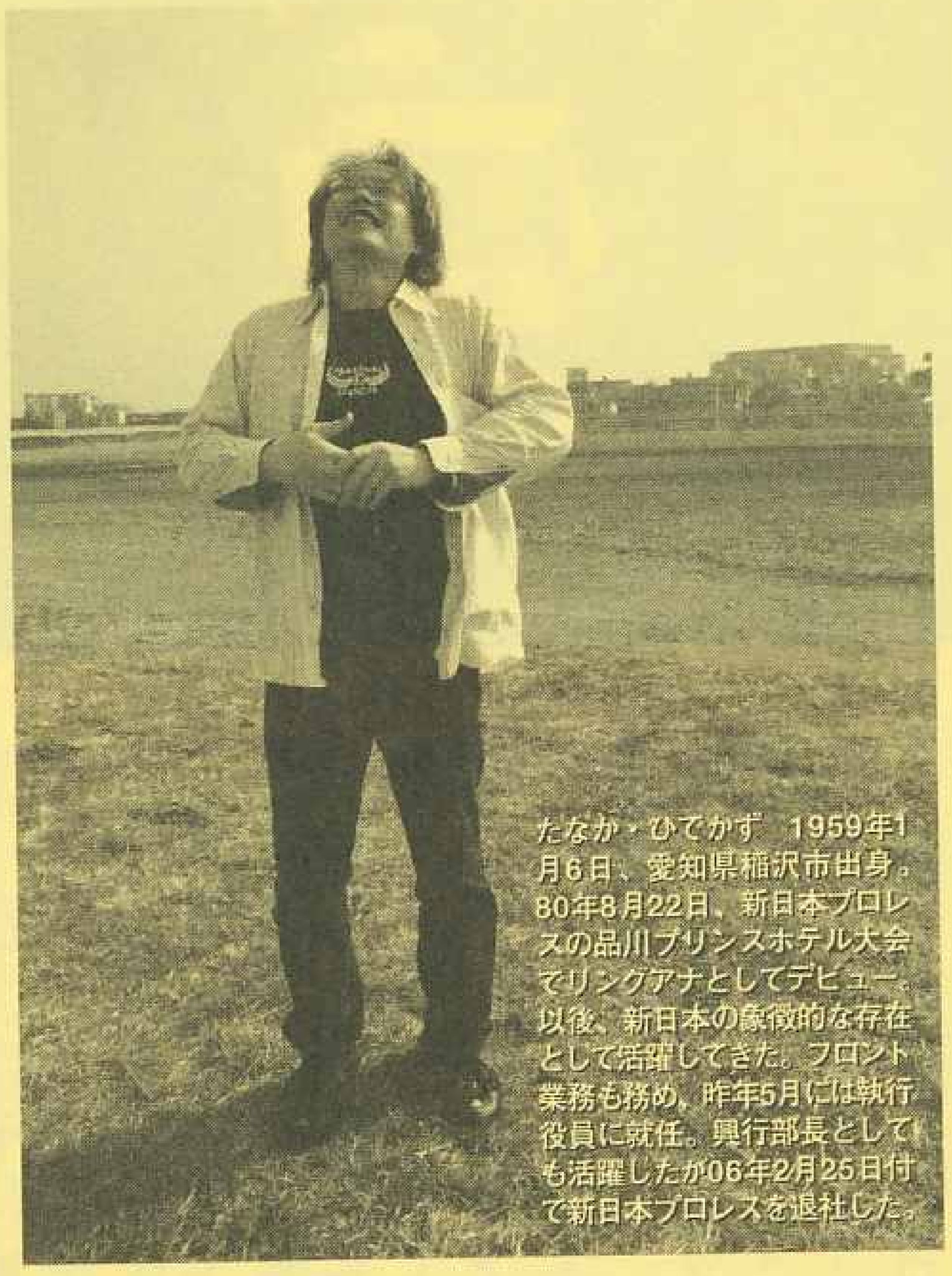
――え、ホントですか⁉　もう30着以上は持ってると思ってたんですけど（笑）。

ケロ　いやいや（笑）。でも、演歌歌手と取り替えっこしたこともありますから。

――それと比例して、前口上もかなり名物的なものになって。

ケロ　最初に考えたのが、まず身長体重ですよね。だって「300パウンド～！」って言ったって、田舎の子どもやおじいちゃんおばあちゃんはわかんないですよ。そこを140キロって言ったら、実感するじゃないですか。次に身長をつけて……ま、身長はみんなごまかしてますけどね（笑）。

――この業界の通例ですよね。



たなか・ひでかず　1959年1月6日、愛知県稲沢市出身。80年8月22日、新日本プロレスの品川プリンスホテル大会でリングアナとしてデビュー。以後、新日本の象徴的な存在として活躍してきた。フロント業務も務め、昨年5月には執行役員に就任。興行部長としても活躍したが06年2月25日付で新日本プロレスを退社した。

僕の衣装ハデですか？ 演歌歌手と取り替えっこしたこともあります

ケロ　まぁ、ヒロ斎藤さんだけは体重が重いのに、なぜか軽く申告してましたけど（笑）。あと僕の前口上って、最初は単なる状況説明だったんですよ。

――『PRIDE』の煽り映像みたいなもんだったわけですね。

ケロ　そうそう。「このガイジンは強いですよ、今シリーズは負けなしですよ。さあ、今日は負けるんでしょうか⁉」みたいな説明を補足的につけようと思ったんですよ。そっからどんどんヒートアップして現在の煽り主義になっていったわけですけど。

――よく聞かれると思うんですが、ご自身で一番気に入ってる前口上はありますか？

ケロ　う～ん、やっぱり「時は来た！」ですかね。

――「7時1分！　時は来た！」（笑）

ケロ　そう！　あのとき、7時ちょうどだったらどうしようかと思いながらドキドキしましたよ。

――「7時！　時は来た！」だとちょっとリズムが悪いですしね。

ケロ　あとはやっぱり「グレート・ムタ、見参！」ですかね。

――ボクが一番気に入ってるのは「K―1、『PRIDE』、プロ野球、Jリーグ、いいか、よ～～く見てろ！　これがプロレスのパワーだ！　プロレスは絶対に負けない！」なんです（笑）。

ケロ　まぁ好き放題にやってましたからね。猪木さんも「好きにやれや！」って言ってくれてましたし、辞める前のシリーズでは長州さん直々に「前口上をつけてくれ」って言われました。

――あ、長州さんから直々に。

ケロ　「中邑（真輔）と棚橋（弘至）がタッグを解消する」と言いながらタッグになったとき「これが最後のタッグになるかもしれない、これからは別々の道を歩んでいくんだ、ということをお前が言ってくれ」って。ホントは山口（アナウンサー）が言う予定だったんですけど「ケロ、頼むよ」って言われて。

――長州さんも田中さんのスタイルは認めていたんですね。

ケロ　最後は地方では前口上をやらないで、デカい会場の特典としてやるようになってましたけどね。大きい試合のときにファンや選手の気持ちを高める、演出の一つになってきた。

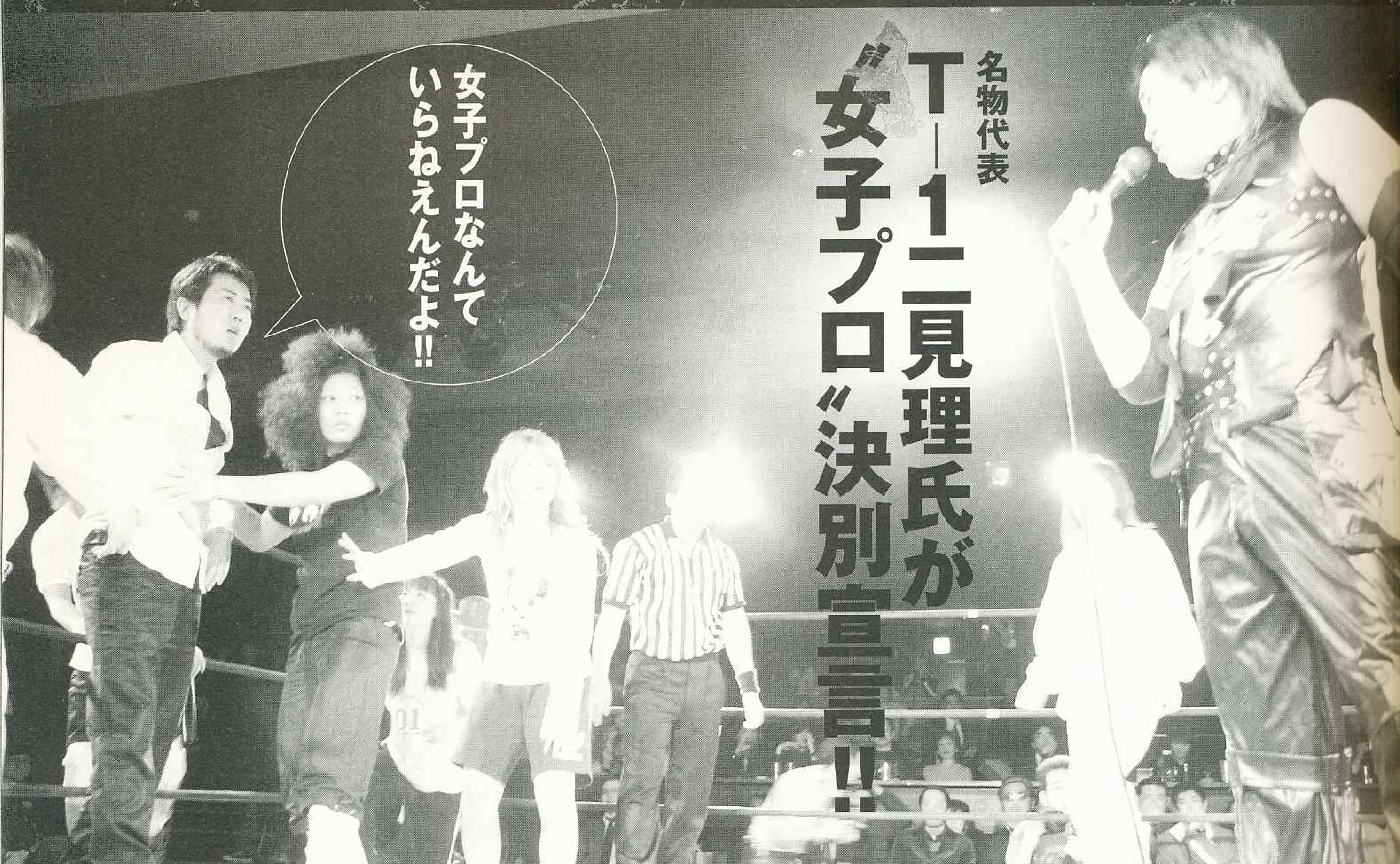
――今後、コールスタイルを変えたりすることはあるんですか？

ケロ　どこでリングアナをするかわかりませんけど、どうせやるなら新日本とは違うスタイルを見せたいなと思ってます。

――田中さんの今後は非常に興味深いですね。そのあたりも含めて、次号でも引き続きよろしくお願いします！

【3月8日、坂口道場近辺の『テニーズ』で収録】

芸能界一のプロレスファン斉藤清六も大興奮！



専門誌（プロレス）では報じられない 2・23 T-1グランプリの真実

例えば、DSE榊原代表が低調に終わってしまった『PRIDE』の試合後、リング上で「しょっぱい試合しやがって、ふざけんなコノヤロー!!」と絶叫したなら、あなたはどう思うだろう？「おもしろいけど、そんなことあり得ない」と思う人が大半だろうし、実際、そんなことをするはずがない。しかし、その"あり得ない"ことをやってのけた男は実在する。その男とは2・23『T-1GP』を主催した二見理氏である。プロレス専門誌では決して報じられることのない『T-1GP』の真実を、いまここに明かそう！

構成＆撮影／松澤チョロ　design by さおとめの事務所

さすがのターザンも完敗宣言!

“狂乱”の二見劇場 誌上再録



「こんな腐った女子プロ界から金巻き上げられて……アホらしい!」

とにかく凄まじかった2・23『T－1GP』。どれぐらい凄かったかというと、大会数日後、たまたま訪れた『T－1』で、芸能界一のプロレスファンとして知られる斉藤清六さんが、お店に顔を出し「二見さん、この間の大会最高でした! どの選手より輝いてましたよ。ばいなら!」と大絶賛して帰っていったのだ。これ以上何がある?

またしても二見代表ブチギレ!“T－1伝説”続行ッ!!

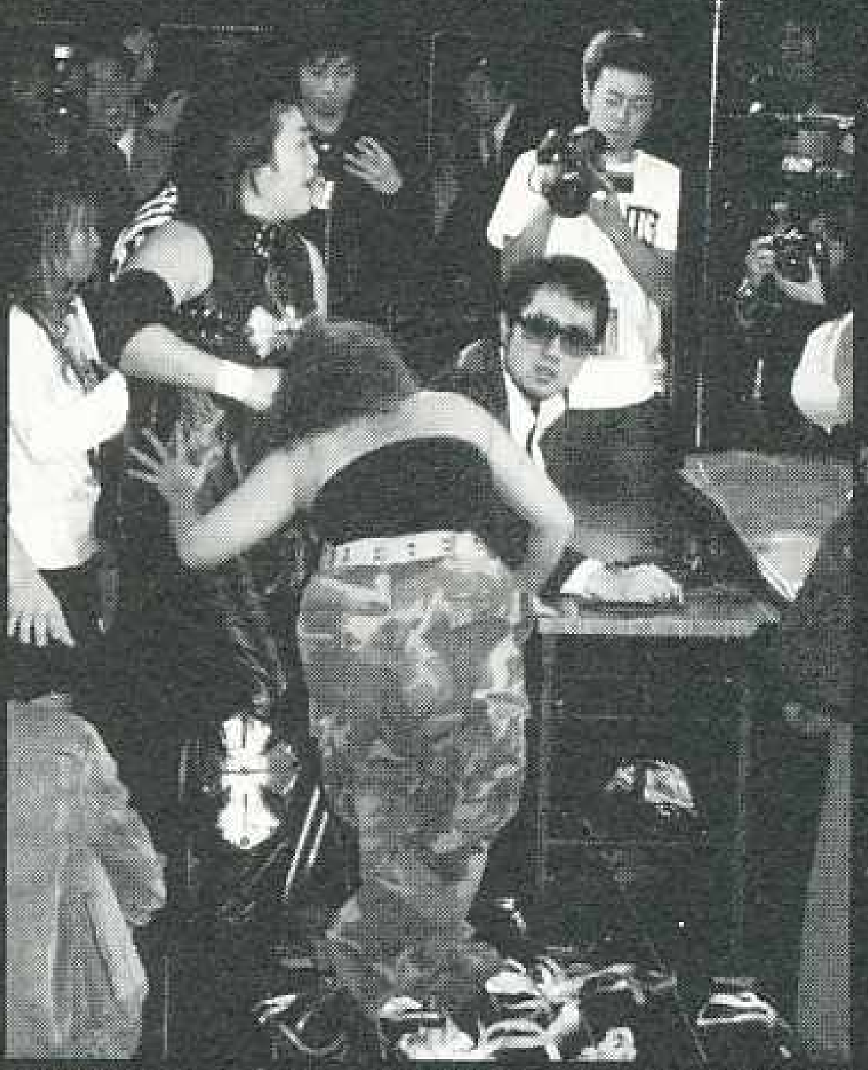
昨年、8月23日、二見代表は自身が経営する『チケット&トラベルT－1』の10周年を記念し、後楽園ホールで『T－1グランプリ』(以下T－1GP)を開催。メインでは堀田祐美子と前川久美子が金網デスマッチで激突。試合は前川が勝利を収めたものの、「意味のない金網マッチはやりたくなかった」と試合後、観客に頭を下げた前川。これに激怒した名物代表の二見理氏と前川は金網をはさんで大舌戦を展開。主催者と選手が客前でやり合うという前代未聞のこの大会は、一部では、伝説化され、その模様が収録されたDVDはかなりの売り上げを記録したという。

その日を境に“前川ストーカー”として、会見のたびに前川を挑発しまくってきた二見代表。あまりのしつこさに参ったか、前川は二見代表に対して完全黙秘。すると、二見代表は第一回大会で前川と“しょっぱい試合”(by二見代表)をした堀田を新たなターゲットに。堀田の所属するAtoZと二見代表は第一回大会の際、バックステージで揉めた経緯もあり、二見代表と堀田は大会前から激しく火花を散らしていた。



開会式、休憩明けと止まらない二見代表の毒舌マイク。しかし、キャットファイト集団CPEと立ち上げた新人プロジェクトに名乗りを挙げた女の子に絡まれると、見たことがないほどのニヤけ顔に。やっぱり、お前も男だ!

そして、迎えた2・23『T－1GP』新宿大会。正直、第一回大会を超えるハチャメチャぶりは期待していなかったのだが、結果的には一発目を軽く超える超絶興行となったのだった。『週プロ』や『週ゴン』(※二見裁定で『レディゴン』とともに絶賛取材拒否中)といった専門誌では、ほとんど触れられることがなかった2・23『T－1GP』の模様(というか、二見劇場)をどこよりも詳しく誌上再録!!



対戦相手のみならず、自ら本部席の二見代表に体当たりするなど挑発三昧の堀田。これにブチ切れリング下から堀田の足を引っ張ったり蹴りを入れたりと試合に介入しまくる二見代表。大会ハイライトはメイン後に訪れた!

【メインの堀田祐美子&豊田真奈美&倉垣翼vs尾崎魔弓&藪下めぐみ&アメージング・コング戦は、本部席に腰を下ろした二見代表に堀田が対戦相手を何度も誤爆させ、試合中から二見代表はイライラ状態。終盤、ついにブチ切れた二見代表はリング下から堀田の足を引っ張るなど試合に介入。混戦の中、堀田が藪下を下しゴングが鳴らされたものの、このゴングの音を合図に二見vs堀田が本格開戦!(豊田はニヤニヤ)。勝ち名乗りをあげる堀田に襲いかかった二見代表だったが、堀田は二見代表のトレードマークのサングラスを奪い取ると、そのサングラスを自ら掛けて挑発。さらに二見代表の目の前で真っ二つに叩き折るという暴挙に!】

堀田「オイ、二見! お前なぁ、女子プロレスをナメんじゃねえぞコノヤローッ!! やってやるから、いつでも来い! 私がお前を退治してやるよ! だいたい、お前は頭がおかしいんだよ、バカッ!!」

【堀田の女性ファンから黄色い歓声が飛ぶ。控室に戻ろうとする堀田に二見代表が慌ててマイクを取り絶叫!】

二見「オイ、待てよ! 逃げんなッ!」

【堀田ファンから一斉に「逃げてねえよ!」と野次が飛ぶ】

二見「うるせえな、コノヤローッ!! オイ、堀田、しょっぱいファイトしやがって、コノヤローッ!!」

【堀田ファンは止まらない。「どこがだよ、バ～カ!」と野次りまくり】

二見「(無視して)グラサン代はギャラから天引きするぞ、コノヤローッ!」

【あきれた堀田が本気で控室に姿を消そうとする】

二見「待てよ、話は終わってねえんだよッ! 俺のこと怒らせたらどうなるかわかってんのか!? やるのかやらないのかハッキリしろよ! なんだよ、退治って!?」

堀田「リングの上でカタ付けてやるっ



「どいつもこいつも、しょっぱい試合しやがって!」と試合内容にダメ出しをした二見代表。唯一、可能性を感じた選手として米山香織を呼び込み大会を締めさせようとするも結局は物別れに。二見劇場は、ここから一気に加速!

“女子プロレスなんぞしらねえんだよ!!（怒）

専門誌では報じられない T-1グランプリの真実

て言ってんだよ！」

二見「あっそう。じゃあ、いまやる？（と、堀田に向かって突進する二見代表）」

【観客・拍手＆「フタミ」コールが発生。野口レフェリーが割って入り両者を引き離すと、堀田はバックステージへ姿を消す。リング上は二見代表一人っきりに】

二見「……しまらん終わり方、しょっぺえなぁ……。ここからが見せ場なのによ！ プロレスやる気はねえぞ、コノヤロー！（「ゼイゼイ」と息が乱れる二見代表）俺も歳だから2分3秒（※フタ・ミタイム）でやっつけてやるよ！」

【観客・拍手＆爆笑】

二見「なんなんだよ、今日の試合はよぉ、しょっぱい試合ばっかりで。……でも一人だけ可能性あるヤツいたよな。米山（香織）いる!? 米山来いよ！」

【しばらくしてから米山がリングサイドに姿を見せる】

二見「米山、上がってくんねえか？」

【憮然とした表情のままリングイン】

二見「これは俺の大会じゃないんだよ。選手の大会なんだよ。それなのに選手がしょっぱいからこういうことになるんだよ。でも米山、お前は素晴らしかったよ！ お前だけだよ。だから一言言え！（強引にマイクを手渡す）」

米山「（不服そうな顔でマイクを持ち）最後はプロレスラーの私が締めるので、二見さんはリングを降りてください!!」

【観客・拍手。しかし、二見代表はリングを降りる素振りも見せず】

米山「降りてください！」

二見「（渋々エプロンへ移動）ここで見届けてもいいだろう」

米山「リングの下から見届けてください！（キッパリ）」

二見「悪いが俺のルールにそんなのねえんだよ！ お前が降りろよ!!」

米山「あなたが上がれって言ったんじゃないですか！」

二見「じゃあべつに締めなくたっていいよ。俺が締めるから」

【観客・笑＆「え〜〜っ？」の声。米山はマイクを叩きつけリングを降りる。そこにボリショイ・キッドが駆け寄り何やら話しかけ二人は無言でバックステージへ。再びリング上は二見代表一人ぼっちに】

二見「これがいまの答えだよ。とりあえず、これにてT－1GPは終わりだ！ 伝説もクソもねえ、これがいまの女子の現状だ。どうなんだよ、お客さんよぉ!?」

【観客・ノーリアクション】

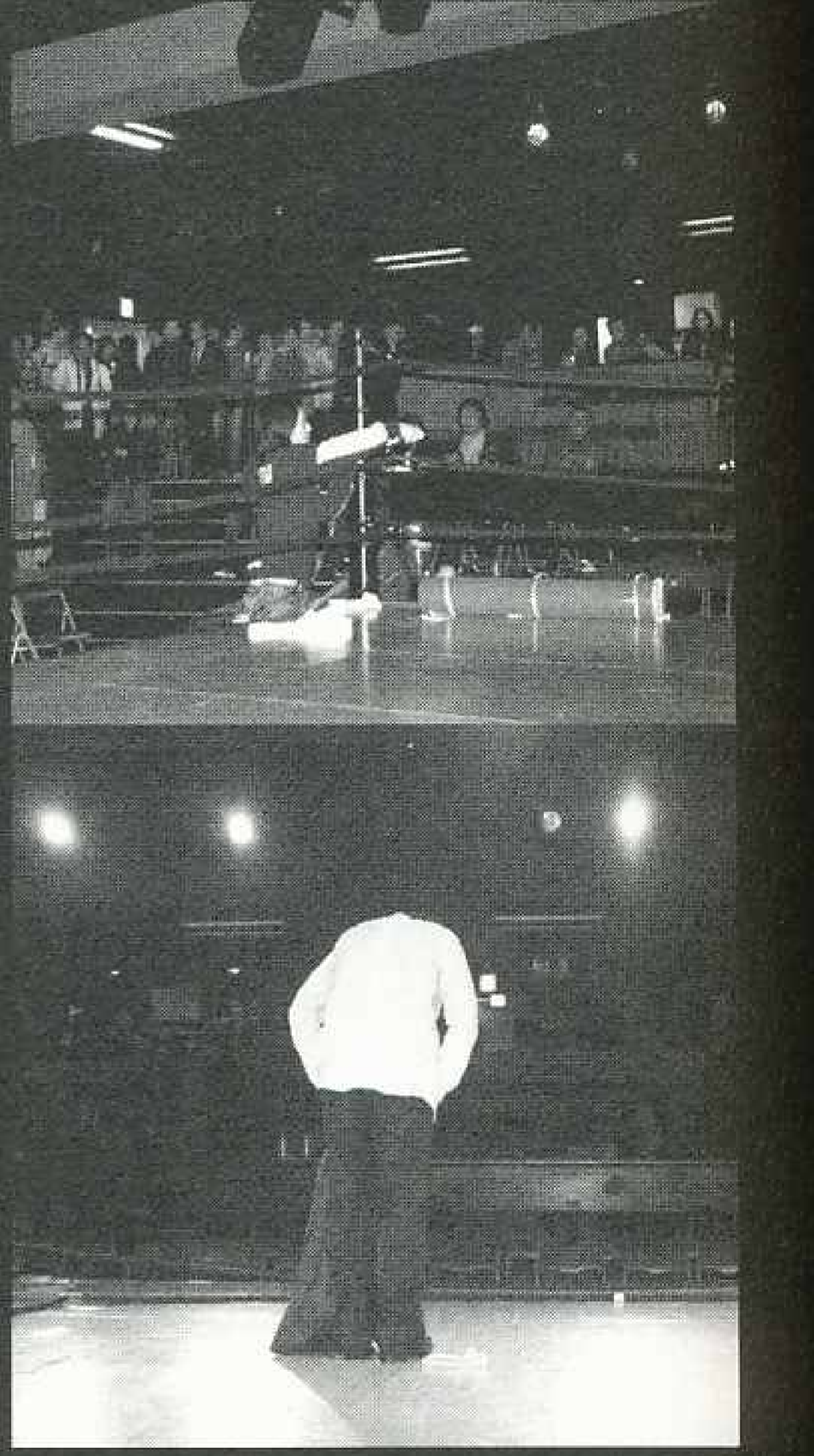
二見「反応ねえな。これにて終わり！」

【エンディングテーマが流れる中、二見代表は堀田の控室に直行。ドアをガンガン蹴りまくり「出てこい、堀田！」と毒づくも、木村響子が身体を張って進入を阻止。収まりのつかない二見代表はリング撤去作業中の会場に戻り、帰りかけていた観客に向い再びマイクを手にする】

二見「バカくせえよ、こんな女子プロレスよぉ！ こっちは半端な気持ちでやってんじゃねえんだよ!!」

【キレ気味の二見代表を前に「シーン」と静まりかえる観客】

二見「オイ、黙ってねえで、なんか反応しねえのかよ！ テメエら、こんな腐った女子プロレスから金巻き上げられてよ……こっちが泣きてえよ。みんなグルになってよ。アホくせえ。こんな予定調和なんかクソくらえだ！ バカバカしい！ だから、東城えみも呼べねえんだよ！」



米山がリングを降りると「今日はこれにて終わり」と二見代表は、いったん姿を消してしまったため、そのタイミングで帰ってしまった観客もチラホラ。あと何分か待てば“伝説”を体感できたのに。ん〜、もったいない！

【突然、東城の名が飛び出し驚く観客】

二見「東城えみが来なかった理由は、3回目を開催できねえからなんだよ。あのコが気つかったんだよ！ 俺なんかに気つかわなくたっていいのによぉ。なんだよ、『東城を出す』って言ったら、どいつもこいつも反対しやがって。じゃあ、出ねえ？ ふざけんなよ！」

【あまりのエキサイトぶりに一部の観客が失笑】

二見「笑ってんじゃねえ！ みんなクソ食らえだ！ 堀田とか尾崎とかもよぉ、前川と同罪なんだよ。マスコミだってわかってんだよ。だから、俺の大会に取材に来るんだろ！ 他の女子の大会にこんなに取材来んのか。客は少ないかもしんねえけど。こんなちっぽけな世界で、俺もちっぽけな人間だよ。東城一人呼べなかったよ。情けねえ！ これは二見劇場でもなんでもねえんだよ、いまの女子プロの真実なんだよ！ 高いギャラ払ったって俺のほうが悪者なんだよ。みんなフロントは堪えてんだよ。俺は大人じゃねえから堪えられねえよ。いままでフロントのほうが悪いと思ってたけど、選手が悪いや、こりゃ。俺、マジで金払わねえぞ!!」

【観客・拍手＆「そりゃないよ！」と、もっともな野次も】

二見「金払ったもんが偉いとは言わねえけどよぉ、金出してるヤツを悪者にすんのだけは許せねえんだよ！ 悔しかったらテメエらも金出してやってみろよ！ 何百万も払ってよぉ、なんでこんな目に遭わなきゃいけねえんだよ！ ふざけんな!!……（息を整え）ここまで真剣に俺の話を黙って聞いてくれてありがとう！ 悪いこと言わない。もう他の新しいモノ見つけたほうがいいな。俺の力じゃ無理だったよ。俺はもう女子プロレスは卒業させていただきます。皆さんの熱い声援は忘れませんよ。こんな俺でも良かったら店に来て、なんでも言ってください」

【二見、ありがとう！」と歓声が飛ぶ】

二見「ありがとう！……マスコミさん、俺は腐った女子プロレスを破壊するって言ってきたけど、破壊できなかったよ。俺にはそんな力なかった。悪かった、マスコミ各社！ 最後まで残ってくれた、お客さん、今日はありがとう！」

【観客からの温かい拍手と「フタミ」コールに包まれ二見代表がバックステージへと姿を消し、大波乱の第二回『T－1GP』は幕を閉じたのだった……】



トレードマークのグラサン（約5万相当）を堀田に叩き割られてしまった二見代表だったが、記者陣に囲まれると別のグラサンをしっかり装着。吉川晃司マニアとしても有名だ。

バックステージに戻った二見代表は多数のマスコミ陣を前に、大会総括という名のマシンガントークを繰り広げた。「これで終わりでしょう。もう女子の大会は終わりにしたいですね。男子も根っこは同じだけど、女子のほうが腐ってます。それに女は難しいですね（苦笑）。堀田？ プロレスではやるつもりはないです。全日本キックやパンクラスからはオファーありましたから。対前川で。やっても負けるわけね〜じゃん。でも、今日出た連中はもういいや。東城えみを出せなかった俺を含めて、ちっぽけな枠に収まりたくないんで。やるんだったら、もっとビッグビジネスをやりたいですね。女子プロはもう卒業します。〝言葉はいらねえ〟（※二見代表の決めゼリフ）じゃなくて、〝女子プロはいらねえ〟だよ！」と最後まで二見節を炸裂させ、改めて女子プロ界との決別を宣言！

「T―1GP」大会後、沈黙を続ける二見代表に堀田が仕掛けた!!

2・23『T―1GP』から数日後、女子プロ決別宣言を行なった二見氏に今後の女子プロとの関係をあらためて語ってもらおうとインタビューを申し込むと、「いまは沈黙のとき」と一言。あれだけ前面に出まくり二見節を炸裂させていた二見代表に何が起こったのか？　やはり、女子プロ卒業発言は本当だったのか？　それとも女子レスラーにボコボコに!?

ならばと、あの二見代表をキレさせた張本人、堀田祐美子を直撃！　ちなみに、『T―1GP』メイン後、二見代表のサングラス（5万円相当）を破壊した堀田に、その修理代を「試合の報酬から天引きする」と語っていた二見代表だったが、その後、堀田の所属するAtoZ側から、3・19『ONLY ONE』後楽園大会のチケットで相殺できないかと提案があったという。第一回『T―1GP』ではAtoZのフロントとモメ、絶縁状態に。それ以来、AtoZとはチケットの取引を停止していた二見代表だったが、今回の提案に「金のない団体からそこまで要求しても仕方がない」と、チケット5万円分以上を受け取ることを条件に、これを了承。今回の堀田インタビューの直前からT―1では3・19後楽園大会のチケットの取扱いを再開していた。

——先日の『T―1GP』は、いろんな意味で女子プロ史に刻まれるほどの凄い大会だったと思うんですけど。

堀田　そうなのかなぁ（笑）。まあでも、自分も20年以上プロレスをやってきたけど、あんなヤツ初めて見たよ。でもさぁ、ちょっと危なくない？

——まあ、たしかに危険な香りはしますよね（笑）。

堀田　でも、ここ最近忘れてた、殺るか殺られるかっていう、そういった気持ちがよみがえってきて久々に燃えたよ！



3月10日、突如、二見代表の経営する『チケット＆トラベルT―1』へ殴り込みをかけた堀田。二人の因縁はどこまで深まるのか!?

——堀田さんが控室に戻ってからの二見代表の独演会は聞いてました？

堀田　あれだけフルボリュームでわめいていれば聞きたくなくても、耳に入るよ（苦笑）。あれ聞いてホント頭にきたし、ムカついたね！　ただね、ハッキリ言って二見の言う通りだとも思ったよ。べつに認めるわけじゃないけど、これだけ女子プロ界が低迷しているのは自分も含めて選手にも原因はあるよ。

——ある意味、理解できるところもあると。ただ、二見代表は、このあいだの大会で「女子プロは卒業する」、そして「女子プロなんかいらねぇだろ！」と発言し波紋を呼んでるわけですが。

堀田　お前、このままやり逃げするのかって！　たしか、アイツは女子プロレス復興のために開催すると言ってたよな。それで、さんざん、前川のことを「逃げてんじゃねえよ！」とか挑発しておいて、嫌なことがあったらフェードアウトするつもりか？　それに関してはガッカリしたよ。

——それと、二見代表は堀田選手とは全日本キックやパンクラスといった第三者のリングでの対決を熱望していましたけど。

堀田　ゴチャゴチャ言ってないで、ウチのどこの会場でもいいから来いよ！　なんか二見って『T―1GP』では調子のいいことを言っているけど、敵地ではなんにも言えないんじゃない？　意外と小心者だったりして（笑）。

——う〜ん、どうなんでしょう（笑）。

堀田　あ、ちょうどいい。ウチのリングなら二見の大嫌いな前川もいるぞ。アイツ、前川のストーカーなんだろ？

——自ら〝前川ストーカー〟って言ってますからね（笑）。

堀田　なんなら試合を組んでやってもいいぞ。まあウチのリングに来る勇気があればの話だけどね（笑）。自分の庭でばっかり吠えてないで、たまにはアウェーで吠えてみろって！

——では、最後に二見代表へ何かメッセージがあれば、お願いします。

堀田　お前を退治してやる！　二見がいらないのか、女子プロがいらないのか？　どっちがいらねえかハッキリさせてやるよ！　覚悟しとけ、バ〜カ！

ターザン山本！から二見社長へのラブレター

『Kami-pro Hand』より転載

T―1二見社長様

「T―1チケット」の二見社長が開催した女子プロレスの新宿FACE大会を見てきましたよ。近頃、見たプロレスの興行ではハッキリ言ってナンバー1だね。冗談抜きでそう思ったよォォォォ！

とにかく二見社長の〝狂人ぶり〟〝狂乱ぶり〟には頭が下がった。この人はホントに凄いなあと感心したね。

本来、プロレスの興行はレスラーが主役であるはずなのに、この人はマイクを何回も持って自分をアピールしまくりなのだ。あれは女子レスラーに嫌われる（笑）。でもギャラ（ファイトマネー）を払っているのは二見社長なんだしさあ、あの超、超、超クレイジーマイクパフォーマンスはあきれるやら、笑えるやら、バカ負けするやら、もうそのはじけっぷりは天下一品だね。マット界では他の追随を許さないものがあった。

ホント、二見社長は超、超、超マジメなプロレスファンか、そうでなかったら完全に狂っているよォォォ！

さすがのオレもあれには負けた。敗北宣言だ。この厳しい2006年の冬のMVPは断然、絶対に二見社長ですよォォォォ!!



こちらは、ブチギレの先輩（？）ターザン山本！が数年前のイベントで大暴れした際のもの。一度キレたら止まらないターザンも認めた二見代表のキレっぷりは本物ですよォ！

専門誌では報じられないT-1グランプリの真実

前ページの堀田インタビューから数日後の3月10日、二見代表が経営する『チケット&トラベルT—1』から徒歩1分の『ファイティングカフェ・コロッセオ』にて、AtoZ小山代表とともに堀田祐美子が出席し、3・19ONLY ONE後楽園大会の会見が行なわれた。

会見冒頭、小山代表は、T—1二見代表から送られてきたという手書きのFAXを読み上げた。宛先には「貧乏団体AtoZ及び"試合で暴走しろ"の堀田へ」と書かれた、このFAX。続けて「いろんなところで好き勝手に吠えてたが、俺のお陰で取材が増えて良かったな！ 俺は女子プロレスを卒業したんで、前川と一緒にするな。ハッキリ書くが女子プロレス界は腐っている。それは堀田も含めてだ！ あと、ショッパイ試合しかできないくせに俺にからんでサングラスを破壊しやがって。こっちは売れないAtoZのチケットをたくさん売らないと元が取れないんだよ。AtoZなのか、ONLY ONEなのか、わけのわからない大会に行く暇はねぇえよ！ しかしやり返さないと腹の虫が治まらない。お前が『T—1GP』をメチャクチャにしたように、お前の大会をグチャグチャにしてやろうか？ 3・19後楽園でのタッグトーナメント、1チーム枠を空けておけや!!」（一部略・原文ママ）と書かれていた。

これを聞いた堀田はあきれた表情で「わけのわかんないチケット屋のオヤジが選抜する選手なんて想像がつくけど、アイツと絡んでしまった以上、条件を出すけど、来るなら来いよ。まあ、アイツが条件を飲む覚悟があるか先に確認を取らないとね。近くにあるんでしょ、アイツの店。一緒に付いてきてください」と、マスコミを引き連れ、アポなしで『T—1』へと向かったのだった。

マスコミを引き連れ現われた堀田の姿を確認した二見代表は「何しに来たんだよ！ いま営業中なんだよ!!」と早くもキレ気味。「誰もいねえじゃねえか！」と堀田がツッコむも、二見代表は「なんだよ、（大会名の）『トーナメント・ONLY ONE』って。略したらT—1じゃねえか！ おちょくってんじゃねえよ！ 俺が刺客を送ってやっからよ!!」と暴走モード突入。堀田は「出してやってもいいけどなぁ、優勝できなかったら条件飲めよ！」と言い放つも「関係ねえだろ！ だいたいなぁ、お前のパートナーは誰なんだよ!?」と堀田に詰め寄る二見代表。

堀田は「お前が怖がる前川だよ」と二ヤリ。「はぁ!? 怖い？ 冗談じゃねえよ！ 俺が行くって言ったらアイツは逃げるんじゃないか。ヘタレだからな。お前もアイツと一緒に引退したほうがいいんじゃないの？」と堀田に噛み付く二見代表。「まあ、今日は帰れ！ 営業中なんだよ!! お前のネックレスを壊したくねえからな」と小馬鹿にすると、堀田も「お前、今日はサングラスしてねえのかよ？」と言い返す。「営業中だからしてねえんだよ！」と、もっともな返答をする二見代表に堀田は「今度はメガネじゃすまねえぞ！ 脚とか手を折ってやるからな!!」と凄むと、「やれるんならやってみろよ！ とりあえず、前川をガッチリ押さえておけよ。すぐ逃げるから！」と念を押す。「トーナメント枠は空けておくから、ちゃんと約束守れよ！」と言い残すとエレベーターに乗り込んだ堀田。二見代表は「お前、ちゃんと練習しとけよ!!」と捨てゼリフを吐くと堀田の後ろ姿にガンを飛ばしていた。

その後、1Fのエレベーター前にて囲み取材に応じた堀田は「どうせ、アイツが用意するチームなんてしょぼいよ。ただ、私の目的はそんなんじゃないから。アイツらが負けて私の要求を聞くこと。その要求は当日発表する。（二見代表と因縁のある前川はなんと言ってる？）『べつにいいですよ』と。『関わりたくないけど』って。ただ前川は引退も控えてるし、アイツのことはどうでもいいんじゃない？ ホント、あぁいうキ●●イがいるから女子プロがバカにされるんだよ。誰かアイツを退治しなきゃいけない。まあ、あぁいうバカはなかなかいないからおもしろいっちゃあ、おもしろいよね（笑）。でも、言っとくけど私と二見、全部ガチだから」と笑顔でカミングアウト。


果たして、この男はどこまで行ってしまうのか——!?



ふたみ・おさむ■1969年、神奈川県出身。大学卒業後、音楽関係会社に就職が決まるもすぐ退社。92年、某チケットショップに入社。退社後、95年8月23日、『チケット&トラベルT－1』を設立。昨年8月23日に創業10周年を記念し『T－1GP』を開催。プロレス&格闘技の聖地・水道橋の名物代表として絶賛活躍中！

その後、報道陣は再び7Fの二見代表のもとへ大移動。報道陣を前にした二見代表は「（発表されたばかりの3・19カードを見て）しょっぼいカードだなぁ。こっちだって、この大会のチケットを押し付けられて売らなきゃいけねえってのに、こりゃあねえよな。まあ、俺が出なければ客も呼べないんだろ。それなら、ちゃんと『出てください』って言え。だいたい、ファンが何を観たいって、一番観たいのは二見vs前川のサシだろ。前川が逃げなかったらやってやるよ。第一回のT—1グランプリから7ヵ月。ようやく時は来たな」と二ヤリと笑みを浮かべると「もう女子プロなんて関わりたくなかったけど、前川とサシで勝負ですから。当日を楽しみに見ててください。だいたい、俺を入れねえと、客が入らねえだろ!!」と二見流のキメポーズ（右手で"フタ"左手で"ミ"。上の写真を参照）で波乱の会見を締めくくった。

この号の発売日には、とっくに終わってしまっているが、因縁の堀田、そして禁断の関係、前川と二見代表が接近遭遇する3・19ONLY ONE後楽園大会では、何か、とんでもないことが起こっているはず！ 女子プロは死んでしまうのか？ それとも二見代表が……!?



吉江豊

桃豚はなぜ新日本を離脱したのか?

フリーの生き方食い方

『週プロ』でおなじみの爆笑王がKamiproにもの申す!? プロレス観を語るロングインタビュー

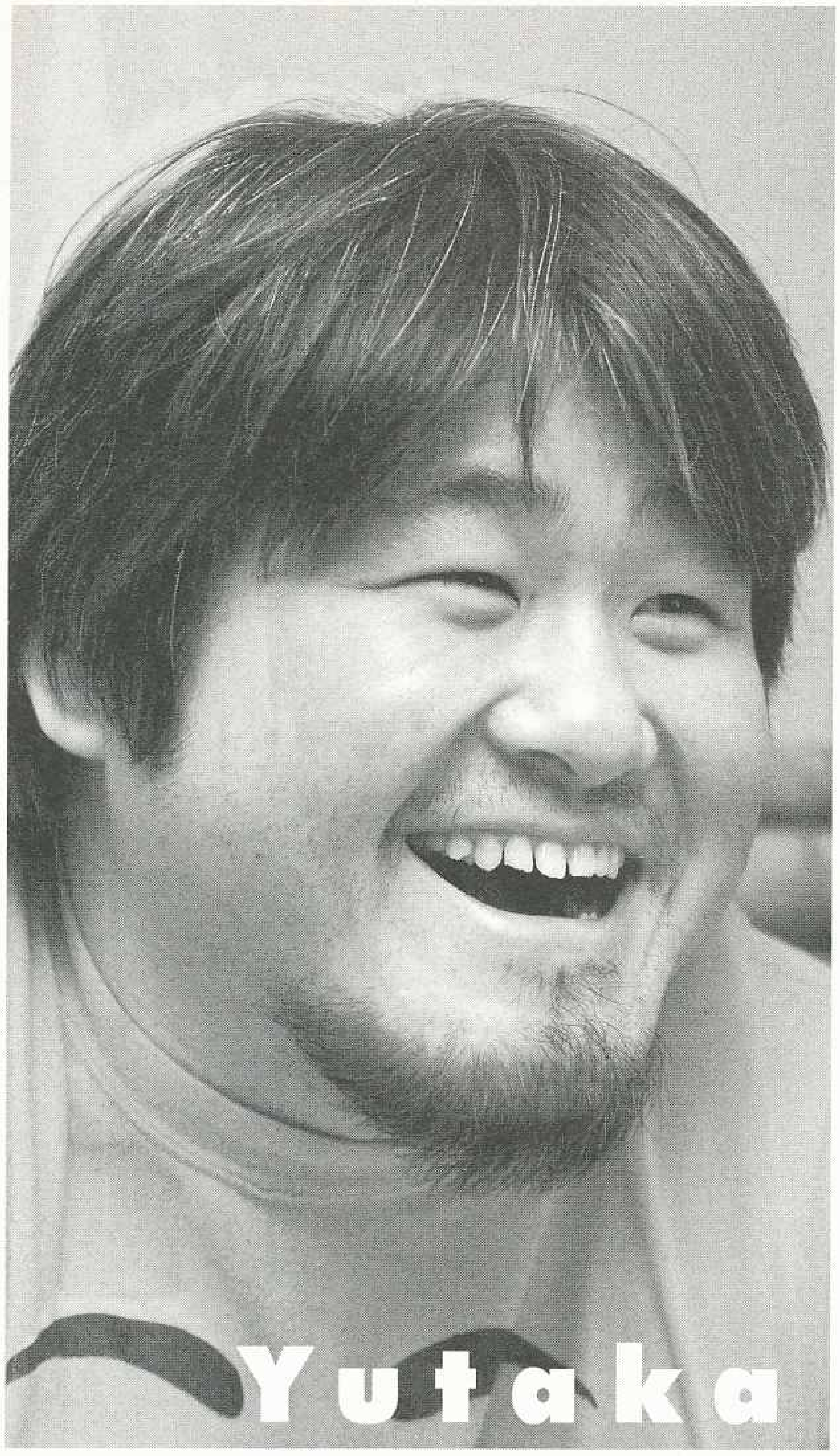
吉江豊が今年の新日本プロレス契約更改でまさかのフリー宣言!! 見た目だけで楽しめるユーモラスな巨体と明るさ爆発のファイトスタイルは新日本にとって貴重だったが……。どういう心境での選択だったか? ゲストとして招かれたターザン山本!＆吉田豪の『格闘二人祭り』でも、すべての質問をのらりくらりと受け流した。はたして今回のインタビューは……!?

構成／ジャン斉藤　撮影／丸山剛史　試合写真／平工幸雄

design by さおとめの事務所

Yoshie Yutaka

橋本さんの喜ぶ顔を見ると、宴会芸をやったかいがありました



―吉江さんが出演された『ターザン山本！&吉田豪の格闘二人祭り』（新宿ロフトプラスワン）のバックステージで軽くお話しさせてもらったかぎりでは、吉江さんは『Kamipro』にあまり良いイメージを持っていない感じがしたんですけど。

吉江　ん？　べつにそういうわけじゃないですけどね。ボクは『Kamipro』さんに対して偏見の目で見てますかね？（笑）。

―いや、ロフトでお話ししたときは「『Kamipro』には斜めからプロレスを見るファンが多い」って言われていたので。

吉江　どうなんでしょうねー。いや、いや良くなくないですよ。大丈夫ですよ。フッハッハッ！

―吉江さんは『Kamipro』をご覧になったことはあるんですか？

吉江　見てないです。

―じゃあ、いろんな噂を聞いてるんですね？

吉江　いや、そんなことないですよ（笑）。

―いままで新日本を辞めたレスラーで、『Kamipro』に出たのは誰ですか？

―たくさんいますけど、一番多く誌面に登場してもらったのは橋本（真也）さんになりますね。

吉江　あ、そうなんすか。橋本さんはそんなにインタビューで出られたんですか。

―毎月のようにくだらない話をしてもらってました。

吉江　それはわかるなあ……（笑）。橋本さん、ほぼシモネタですよね。

―はい。人生相談も最終的にはシモネタで決着を付けるっていう（笑）。

吉江　それもわかるなあ。「いいからヤれ！」みたいな（笑）。

―吉江さんもそんな橋本さんの影響を受けられたりしたんですか？

吉江　影響というかね、宴会芸を含めて。そこは橋本さんつながりというか（笑）。

―そういえば、橋本さんお気に入りの宴会芸を吉江さんは持っていたそうで。

吉江　そうなんですよね。やっぱ橋本さんの喜ぶ顔を見ると「やってよかった！」って思いましたもん（笑）。それに、やっぱりプロレスの世界は厳しい上下関係があって、先輩に「やれ」と言われたら芸の一つや二つはできないとダメだし。見て喜ぶ方々を私の喜びとしてましたから。それこそプロレスですよ。見てる方々の喜びが私の喜びですもん。

―これはちょっとムチャな要求だなって思ったことはなかったんですか？

吉江　ないですよ、俺は（キッパリ）。

―さすがですね！

吉江　というか、先輩に「なんかやれ！」って言われる前に、なんかやればいいんですよ。

―たとえば、どんなことをやりました？

吉江　飲んで踊って、ケツ出して……。

―ケツ出して？

吉江　ま、その……うん、やめましょう！（もったいぶりながら）。

―いや、続けてくださいよ！

吉江　いやあ〜、もうそれは封印奥義ですからね。

―封印してるんですか？　だったらなおさら教えてくださいよ！（笑）。

吉江　ウワハハハ！　まあまあ。私は下（後輩レスラー）にそういうことはやらせないんですけど、逆に進んでやってる姿を見ると悔しいんですよ。お前がやるんだったら、俺がやる！　っていう（笑）。

―橋本さんなんかも率先して馬鹿やってみたいですね。

吉江　『Kamipro』はウチの会社の宴会って来てました？

―いや、そもそも試合すら取材できなかったんで。

吉江　あ、〝ウチの会社〟というか、俺はフリーなんだ。染み付いてますね、もう……。

―12年間も所属していれば、自然とそうなりますよね。

吉江　そうですね。俺は新日本が嫌で辞めたわけじゃないし、辞めるときにも「ありがとうございました。これからもよろしくお願いします！」というかたちですから。

―しかし、吉江さんが退団されたのはホント意外でしたね。

吉江　いや、ホントそうですよ。自分でも思ってなかったですからね、「なんだ、それ！」って感じで（笑）。

―昨年11月の段階から、辞める選手たちの憶測がいろいろ飛び交ってましたけど、吉江さんのことは想像もしてなくて。

吉江　そうですよね。実際、俺はどんなことがあっても新日本でやっていこうと思ってたんですよ。ホント、何がなんでも。

―一回目の契約更改の席では、辞めるそぶりすら見せなかったですよね。

吉江　あのときはすでに悩んでまして。あくまで合意のうえでの保留で「家族会議をしてきます」っていう感じだったんですけどね。

―家族会議というと、もしかして奥さんの意見がわりと重要なんですか？

吉江　ないですよ（笑）。すべてを決めるのは俺ですから。それで二回目の契約のとき、

椅子に座った瞬間、「辞めます」って言ったんですね。

――辞められたのは、個人的な理由のほうが大きいんですか？

吉江　個人的な理由ですよ。「俺も一度、外に出ていろいろ見てみたいな」と思いまして。誰かと一緒にということでもなく、俺は一人でフリーとしてやってみたいという思いが強くなりましたね。あと体力的なことも考えると、俺が動くのはいましかないと。

――いまの新日本にはネガティブな問題がいろいろ浮上してますけど、そういった影響も関係あったんですか？

吉江　直接、関係はないですよ。そういった考えもどっかにあったかもしれないけど、それはまるっきり別物ですね。自分中心の考えというか、それはどうしてもワガママになっちゃいますけどね。会社としてはいろいろプランもあって、曙とやる話もあったし。

――新日本のリングで吉江さんにかかる期待は大きかったわけですよね。

吉江　いや、そうでもなかったですね。もっと引き止められると思ったけど、そうでもなかった（笑）。

――あ、そうなんですか。

吉江　いやいや。冗談ですから（笑）。

――あ、冗談。

吉江　フッフッフッ。たしかに引き止められもしましたよ。でも、新日本を辞めてもプロレスは続けるから、プロレス全体が良くなればいいですよ。そういう活動をしていきます。

――かつて"インディ世直し"をテーマにしていたターザン後藤さんみたいなもんですか。

吉江　よくわかんないですね、それは（笑）。

――ターザンつながりで強引に話題を変えますが、ロフトのイベントで遭遇できなかったターザン山本！のことはどういう人物だと思ってるんですか？

吉江　いや、そんなに話したことないですから。何度か顔を見かけたぐらいで。だからどんな方なのか話してみないとわからないし。レスラー吉江豊がどういうふうにその目に映っているのかも聞きたかったし。でも、俺が呼ばれてイベントに行ったら、いなかったという（笑）。

――ふてくされてしまって、ゲストを待ちもしないで途中退席ですからね。

吉江　人生、好きなことをやるのもいいですけど、その好きなことによって人に迷惑をかけてしまうっていうのはダメですね。

――ダメ人間ですね（笑）。でも、レスラーもけっこう無頓着だったりしますよね。

吉江　すいません。ボクも今日ちょっと遅れてしまって（笑）。



Yoshie

この暑苦しさ、カラーでお届けできない!!　新日本プロレス1・4東京ドーム大会で曙と巨漢タッグを結成した吉江。デブリンピックがあれば日本代表に相応しいコンビでこのまま快進撃するかと思われたが、吉江の離脱によって一回きりの邂逅であった。

――いや、べつに嫌味を言ったわけじゃなくて。

吉江　私もどっちかというと、待たしてしまうほうですね。

――決して奨励するわけじゃないですが、やっぱりプロレスラーはそうじゃないと。

吉江　……いや、違うんですよ。何事も人より3倍、時間がかかるんですよ、いろんなことに（笑）。

――あ〜。身体が大きいこともあって。

吉江　俺、まだ自分の身体の大きさが把握できてないんですよ（笑）。コントロールはできるんですけど、大きさ自体を把握できてないんです。靴下を履くのに時間がかかるし。なんでかっていったら、かがむと息が止まるんですよ（笑）。

――（冷静に）なるほど、なるほど。

吉江　なるほどって（笑）。笑うところですよ！

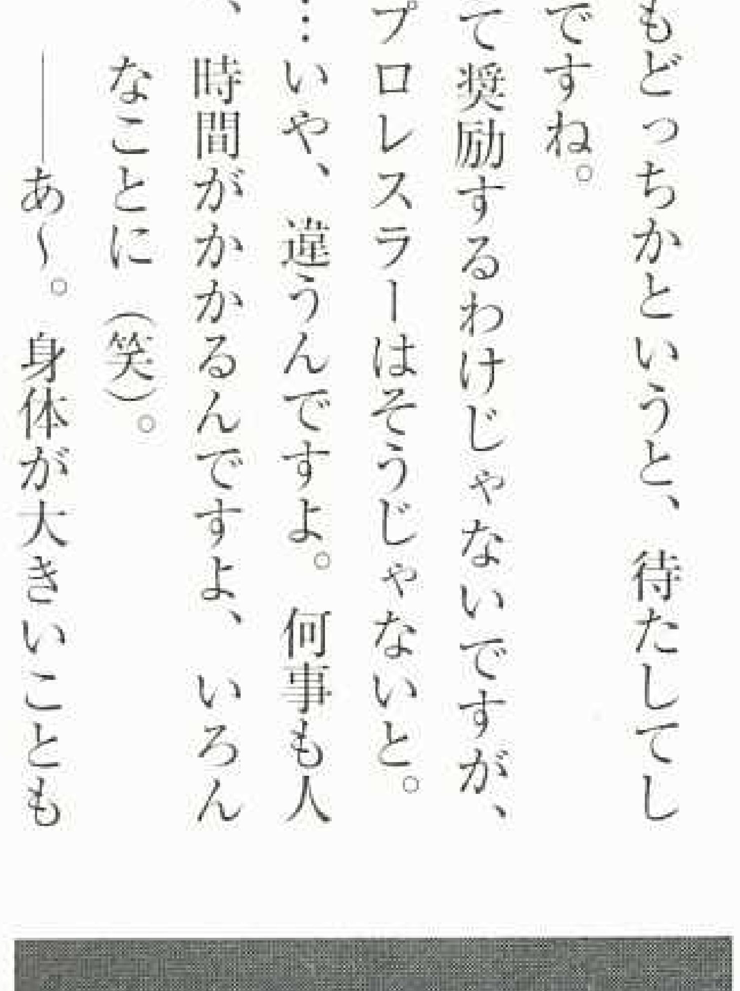
――いや、冷静に聞いちゃいました。たとえば、デブは何をやっても不利だっていうイメージが世間には漠然とあるような気がするんですけど。

吉江　デブはフリー⁉　デブは自由なんですか？

――いやいや、不利です。まあ、意味合いは通じなくはないですが。

吉江　う〜ん、何事においてもデブは不利なんでしょうかね。普通だったら、太っている人は自己管理ができてないという目で見られるわけでしょ？

――まあそうですよね。



ZERO1・MAXに参戦中の吉江の友人、Y2P−160㎏！　吉江の友人だけあってピンクのカラーをフィーチャーしたコスチューム。デブは不利という認識を吹き飛ばすデブはフリーな大暴れ。ちなみに呼び方は「ワイ・ツー・ピー・ワン・ハンドレット・シックスティ・ケー・ジー」!!　試験に出るから暗記するように!!

吉江　でもね、太ることも自己管理なんですよ。基本的に減ってしまうんですから！

――いや、それは目からウロコですね！　ちなみに新日本を辞められたあと体重は増えました？

吉江　維持してますよ。

――努力のうえの現状維持。

吉江　そうそう（笑）。フリーになってあまりに頑張りすぎちゃって、このキャラじゃなくなったら困りますしね。吉江豊はこういう体格とキャラクターだからこそ、興味を持ってくれる団体もあるわけで。

――キャラクター性以外で、太っていて得な点って何かありますか？

吉江　……なんでそんなこと聞くんですか？（笑）。

――いや、話の流れ上、聞いておこうと思いまして。

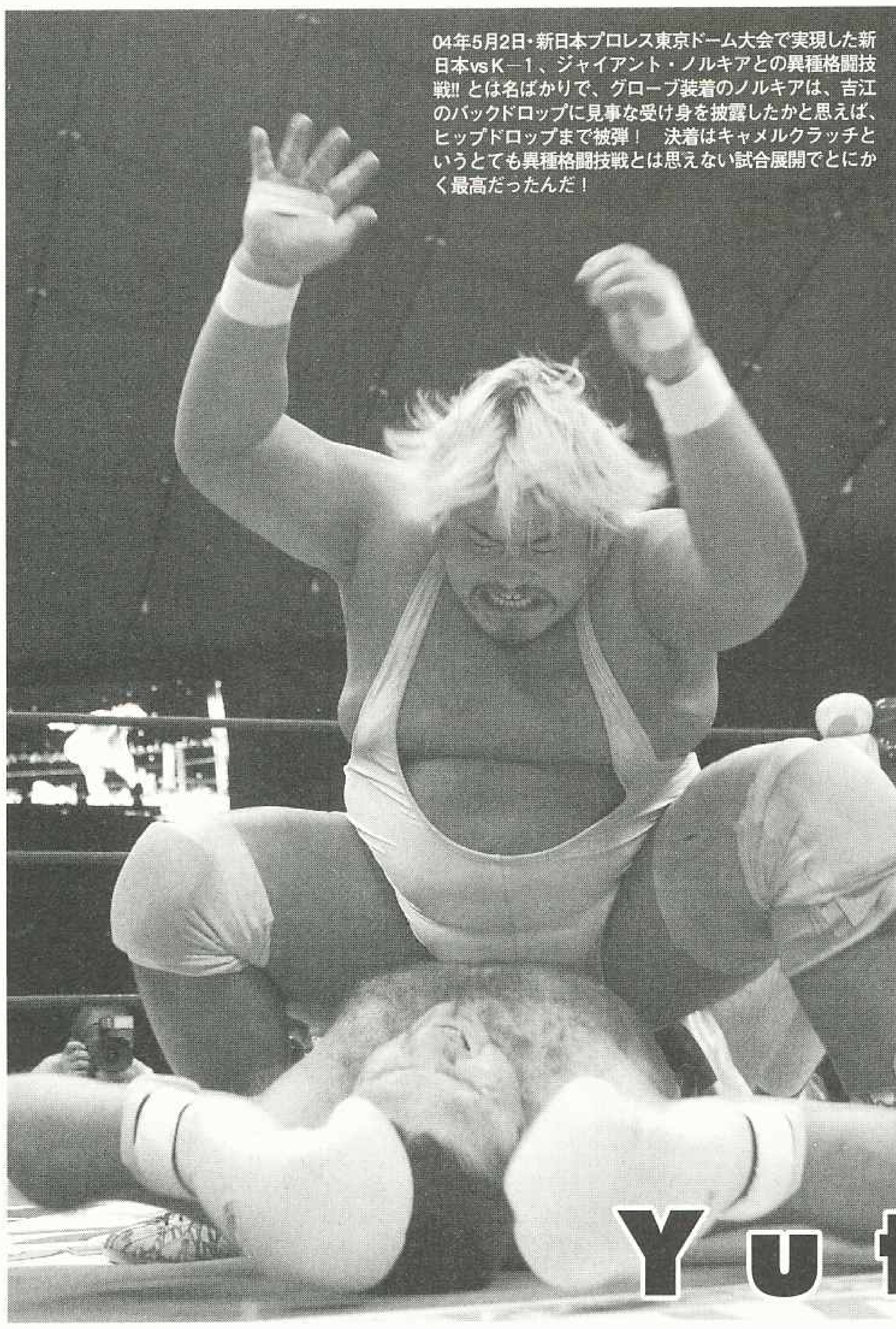
吉江　まあ、なんでしょうね……気を遣ってもらって、ご飯を多めにしてもらったりとか。気の利いた定食屋のおばちゃんとかいるし（笑）。

――それぐらいなんですかね？

吉江　これぐらいじゃダメなんだ（笑）。

――う〜ん、もっと全国の肥えている方の元気が出るようなエピソードがあれば、お

俺のやりたいことというか、俺はすべてプロレスですからね



04年5月2日・新日本プロレス東京ドーム大会で実現した新日本vsK－1、ジャイアント・ノルキアとの異種格闘技戦!! とは名ばかりで、グローブ装着のノルキアは、吉江のバックドロップに見事な受け身を披露したかと思えば、ヒップドロップまで被弾！　決着はキャメルクラッチというとても異種格闘技戦とは思えない試合展開でとにかく最高だったんだ！

Yutaka

願いします。

吉江　あとはなんにしても、椅子が大きめだったり、部屋も広めなところを用意してもらえるところですかね（笑）。

――要は特別扱いしてくれるってことですね。

吉江　あと街を歩いてても、通りすがりの人は俺を「なんかやってる人かな?」という目で見ますよね。

――たしかに体型的にもプロレスラーってわかりやすいですよ。最近のプロレスラーは一般人と変わらないイメージがありますけど。

吉江　いや、それもね、それぞれの選手が信念というかポリシーがあってやってるんでしょうから、俺がどうこう言えることじゃないけど。俺の考えはこうだってことですよ。

――吉江豊を知りたければこの体格を見ろ！　と。

吉江　見るからにプロレスラーだとわかるっていう。

――そんな吉江さんからすると、こないだのロフトに集った客層から何を感じたんですか?　吉江さんは話をすかしているような印象を受けたんですけども。

吉江　う～ん、プロレスにはいろんなファンの方たちがいるし、いろんな見方があっていいと思うんですけど、ちょっと笑いのポイントが違ったかなって。

――ほとんどのお客さんは、要は公にできないエピソードなんかを求めてますね。

吉江　そういう部分はどうしても聞きたいと思うんですよね。でも、俺はほかのレスラーのことや、裏話をしゃべるのは好きじゃないんですね。

――そういったニーズがあることは理解されてるんですか?

吉江　わかるけど、すべてそういうものを楽しみにしてしまっているというのも……。べつに俺もこういうふうに見てくれって押し付けたりはしないし、見てくださるならどういう見方をしてもいいけど、まあ、いろんなことを言ってる方たちも、なんだかんだ言って見てくれてるわけですもんね。だったら、そういう人たちも楽しんでもらえるようなことをしていけばいいんですよ。

――斜めから見ているファンって、吉江さんからすると嫌悪感が強いんですか?

吉江　そういうものをすべて取り込んじゃうようにしたいです、俺は。完全に拒否するんじゃなくて、取り込んで、巻き込んで。プロレスの楽しさを知ってもらいたいですもんね。見ないでいろんなことを言うのではなくて、とりあえず見ていただいて。批判するのは誰でもできるじゃないですか。

――最近の新日本はファンやマスコミから、とにかく批判されがちですけど、吉江さんがやりたい楽しいプロレスを実践できる環境でした?

吉江　俺がやりたいのは、楽しいプロレスなんすか?　楽しいプロレスというとニュアンスが違う。見ている人たちが楽しいんだよ。

――では、新日本はそういったプロレスができるような環境でしたか?

吉江　俺は新日本にいるときもこのままの吉江豊でやってきたし、これからも変わらないと思うし。だから俺は常に「新日本らしくない」とか言われてきましたからね。

――新日本のカラー的にはそうかもしれないですけど、でも、多くのファンは吉江さんを見ていると安心するような部分はあったと思うんですね。

吉江　フハハハハ！　あ、そう?（笑）。

――前に柴田（勝頼）と武蔵さんが異種格闘技戦をやったときがあったじゃないですか?

吉江　はいはい。

――同じ大会で吉江さんもジャイアント・ノルキアと異種格闘技戦をやりましたけど、あの試合はホント凄かったですもんね。

吉江　フハハハハ！　何が?

――何がって、新日本が柴田さんを使ってやりたいことをいい意味でひっくり返したな、と。

吉江　いい意味で?（笑）。

――言葉は悪いですけども、柴田さんと武蔵さんの〝異種格闘技戦〟はたしかに熱はあったと思うんですが、もう前時代的なものとしてしか感じられなかったんです。一方、吉江さんの〝異種格闘技戦〟はこれこそプロレスだ！　という打ち出しで。本質的には同類である柴田さんと武蔵さんの試合があったから、それに対するアンチテーゼになったというか。

吉江　そうですか。そういう捉え方をしてもらってもいいし、俺は俺のやりたいことというか、俺はすべてプロレスですからね。だから新日本の中では浮いていたのかもしれないし。

――ピンクのコスチュームは、上層部から

何か言われたことはあるんですか？

吉江　それはないですね。やっぱりプロは目立ってナンボっていうか。

――ピンクといえば、永源（遙）さんか吉江さんかっていうぐらいですし。

吉江　いや、永源さんも引退されましたから。もう俺が独占しますよ（笑）。やっぱりほかの人が使ってない色を使いたかったんですよ。で、しかもインパクトがあるのはピンクだろうなって。

――そういえば、ターザン山本！もピンクが大好きなんですよね。

吉江　じゃあ、俺はやめましょうか（笑）。まあ、俺のやりたいことは、子どもたちの興味を惹けるようなプロレスですよね。昔は社会に対して凄く影響力があったわけじゃないですか、プロレスっていうものは。

――子どもに楽しんでもらえることができるプロレスラーで、パッと思いつく方はいますか？

吉江　誰でしょうねえ、吉江豊ですか（笑）。

――あ、ご自分ですか。

吉江　俺は子どもが喜ぶプロレスをやりたいんですよ。プロレスを人生っていうふうに捉えれば、お金をもらうことやベルトを巻くことだけを考えるんじゃなくてね。

――なるほど。

吉江　真剣に聞いてます？（笑）。

――聞いてますよ！　で、今後のことなんですけども。

吉江　やっぱり新日本でやってきたことと真逆のことはやらないですよ。新日本で培ってきたものにさらに磨きをかけるためのプロレスということで。あくまでも俺がやりたいことはプロレスですからね。プロレスの中で俺自身を広げていくだけじゃなくて、プロレス自体を広げていきたいです。そのためにプロレス以外のとこにもどんどん出て行きたい。プロレスを知らない人も多いじゃないですか、実際に見てない人たちもいるし。

――テレビ中継の時間帯も深夜だし、一般層がプロレスに触れる機会はなかなかないですね。

吉江　見ていただいてダメならいいんですけど、見ていただいてない、わかってない方たちにどんどん広げていかないとね。見ていただいてる人たちにも、もちろん満足して帰ってもらわなきゃいけないですけど。自己満足であってはならないですよね。

――言葉が適切かわからないですけど、新日本の選手って昔から自己満足的なところが求められるじゃないですか？

吉江　それは、もちろんそういうものも持ってますよ、俺。そこは競技としてやっぱりトップを狙いたいし……うーん、なんだろ。言葉を選びすぎちゃって、選ぶ言葉が出てこないっていうか。

――そうですか。

吉江　選ぶ言葉というか、言いたいことは簡単なんだけどね。俺のやりたいことというのは、プロレスを広めたうえでベルトなり、トップを狙うっていうことですからね。いや、もうあれっすよ。俺は叩きようのないレスラーになりたいっすね。完璧ってことじゃないですよ、逆の立場ですよ。



ファッション誌のモデルをやれば"あがり"なんて思う身の丈知らずな選手がウジャウジャいやがる最近のマット界。吉江のトレーナーを見ろ!!　個性とはこういうことだと一発でわかるファッションだ。圧巻である。

Yoshie

――イメージはなんとなくわかります。

吉江　突っ込みどころのないような完璧な人間ではなく、完璧を求めてる人間ほど逆に突っ込まれやすいですよ。だって人間なんて突っ込まれて当たり前じゃないですか。だから突っ込んで当たり前の人間に突っ込んでもおもしろくないわけですよね。ま、とにかくクリーンなイメージのインタビューでいきましょうね！

――そう言われましても（笑）。

吉江　『Kamipro』らしくないインタビューで、きれいな質問。

――きれいな質問。じゃあ、吉江さんって減量を考えたことってあるんですか？

吉江　それがきれいな質問？（笑）。いましてますよ……って、ウソです！

――あ、ウソ。橋本さんが「俺が痩せたら破壊王じゃなくなるやろ！」って言ってましたけど、吉江さんもそういうイメージがありますよね。

吉江　これが吉江豊っていうのは定着しつつありますし。

――痩せたら物足りなくなっちゃいますよね。

吉江　俺が物足りない？

――いや、吉江さんが痩せてしまったら、なんだか違うなって。

吉江　ああ、びっくりした。俺が物足りないって言ってるのかと思った。

――すいません。

吉江　あとは健康のことを考えて。なんでも食えばいいってもんじゃないですけどね。ちゃんと健康は考えてますから大丈夫です。

――ちなみに今日の朝は何を食べられたんですか？

吉江　今日は軽くですけど。……「朝からどんぶり飯何杯」とか言ったほうがいいですか？（笑）。

――いや、ホントに食べてるんだったら言ってほしいですけど。

吉江　いや、軽くですよ、ホントに軽くですよ。（急に小声になって）……トースト2枚。

――それはちょっとガッカリですねえ（笑）。

吉江　でしょ？　でしょ？

――でも、おもしろいからこのまま載せましょう！

吉江　俺のキャラを殺す気か！（笑）。でも昔は一食で6合の飯を食ってました。いまは3～4合ですけど。昨日の夕飯も4合ぐらい食ったんじゃないですかね。前は普通に6合食ってましたからね。5合炊きで6合炊いてたっていうカミさんもカミさんですけどね（笑）。

――やっぱり凄いなあ。ちなみに吉江さんの趣味ってなんですか？

吉江　趣味はなんですかねえ。生活自体が趣味みたいなもんですね。いや、ホントに。何事においても楽しいから。……趣味ってなんですかね？

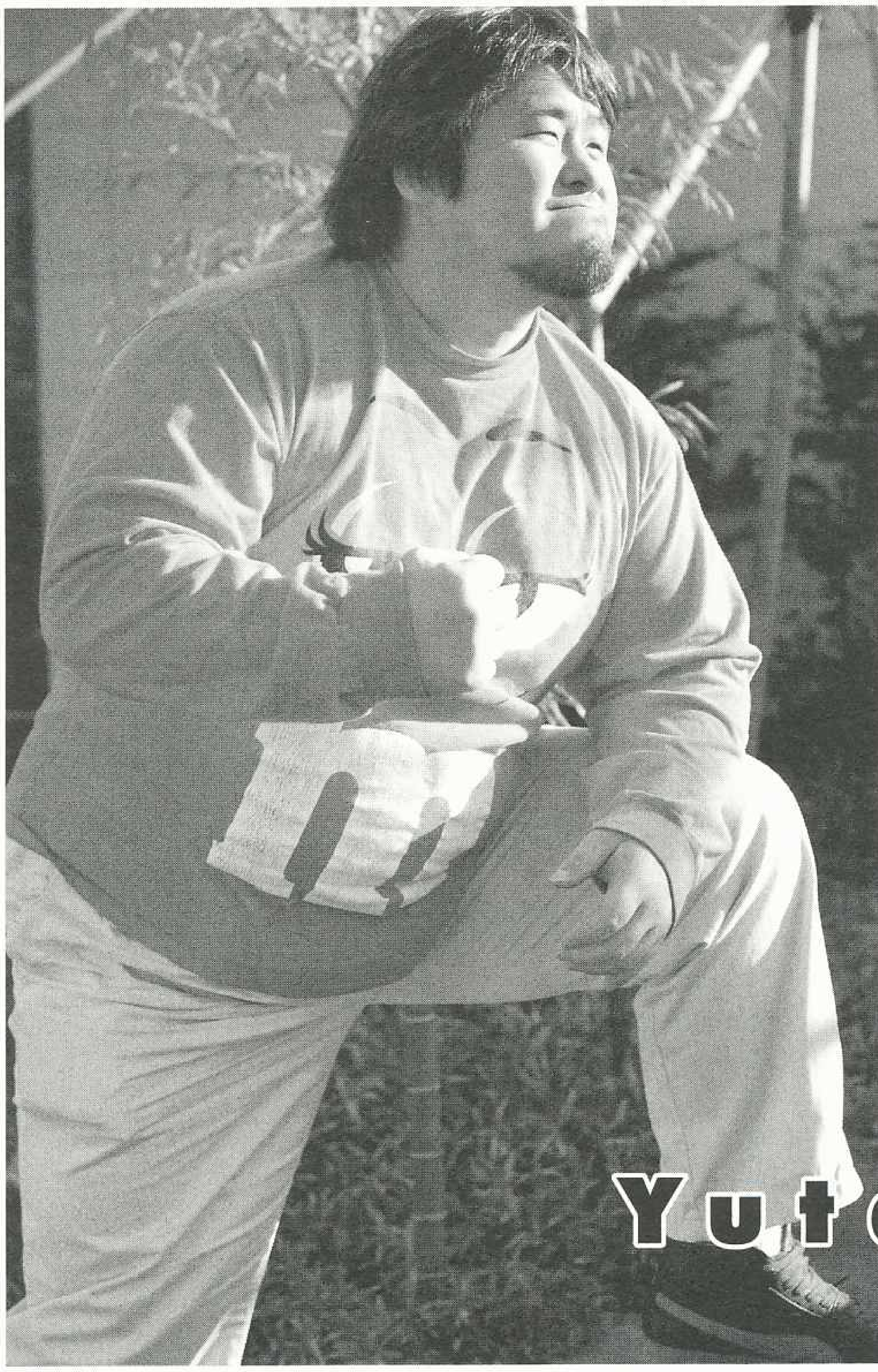
――切手収集とか映画鑑賞とか模型作成とか。

吉江　生活していくための息抜きであったり、楽しめることですよね？　そしたら生きてること自体が趣味でいいんじゃないですかね。何かに凝らなくてもいいんですもん、だって。

――暇つぶしっていうんですか。巡業バスの中でどうやって過ごされていたんですか？

吉江　寝てます。あとは妄想ですね（笑）。

——も、妄想？
吉江　そう。妄想。
——ワハハハハハハハハハハ!!
吉江　なんで（笑）。
——い、いや、なんかツボにはまりました（笑）。
吉江　いろんなことをイメージすることですよね。試合に対してのイメージもあるし。
——それは空想に近いような。妄想っていうと、別世界の中に自分を没頭しているようなイメージがあるんですけど。
吉江　ああ、なるほど。違うワールドに行くわけね（笑）。
——もの凄く病的なものも感じますし。
吉江　じゃあ、空想に近いイメージだ（笑）。俺の中にも何人かの吉江豊がいますからね。



【よしえ・ゆたか】1974年1月5日、群馬県前橋市出身。中学・高校時代は柔道に励み、プロレスラーを目指してアニマル浜口ジムに通う。94年、新日本プロレスに入門。永田裕志、中西学らが結成した伝説のG-EGGSのメンバーでもあった。06年1月、新日本を退団。全日本プロレスのリングなど活躍している。兄はタレントの吉江常雄。

Yutaka

——心の中でいろんな吉江豊が闘ってるわけですね。
吉江　「そう言っとけよ！」「いや、今回は……」とか（笑）。
——その中に暴走する吉江豊っていうのはあるんですか？
吉江　結婚している身でこういうことは言っちゃいけないんでしょうけど、そっちのほうでは（笑）。
——フフフフ。そんな自分がいたこともあるということですね、かつては。
吉江　結婚する前の話ね、男としてフリーのときの話。いまは妻一人ですよ、ボクは。
——独身時代は凄かったわけですか？
吉江　そりゃ暴走しますよ！　でも俺の人生の中で選んだ暴走ですから。

イジられて笑われてるんだけど、笑わせているわけよ

——ファン目線だと、暴走してこそプロレスラーっていうイメージはありますよね。
吉江　勝手に決めつけるのは良くないけど、レスラーとはこうあるべきだっていうのはやっぱり必要ですよね。そういう見方をしてくれてるんだったら。ただねえ、それが理由でそういうことをやってるわけではないんでしょうけどね、諸先輩方たちは（笑）。
——そう考えると、最近の選手や関係者は“これこそがプロレスラー”という意識にとらわれすぎですね。
吉江　まあ、暴走しても笑い話で済んでしまうこの世界っていうのもいいんじゃないですか？　普段の社会では考えられないようなこともできてしまうっていう。犯罪になってしまったらダメですけど（笑）。
——おそらく犯罪と呼べることもあるんでしょうけど（笑）。
吉江　すべての面において喜びであり楽しみが大事ですよ。笑い話になるっていう時点で、もう笑うっていう行為が喜びなわけですよ。幸せになれるんですよ、人間。しかしこれ、俺がフリーになるにあたっての話が中心なんですよね？
——いや、吉江さんがどういう人間かを読者にわかってもらえれば、それでいいと思ってます。
吉江　ま、いいのか、吉江豊だから。吉江豊を知ってもらえればいいんですよね。どんな話題になっても俺はこのままですからね。自分自身をネタにしたり。
——最終的には脱いだり。
吉江　イジられるからね。笑われてんだけど、笑わせてるわけよ。
——よ～くわかりました。
吉江　わかりましたって、ホントはわかってないじゃないですか（笑）。

【06年2月13日／都内某所にて収録】

新 卓球少女(仮)松下ミワの ハガキ愛ランド



もうすぐ春ですね。ちょっと気取ってみてください。早く! そんなのぜんぜん気取ってないです!! というわけで、みなさんいかがお過ごしでしょうか。こんにちは。春と言えば、おかしな人がどんどん出現する季節ですが、読者のみなさんはその張本人にならないように気をつけてくださいね。では、今月もはりきって行きましょう。3、2、1、サクラだ、サクラだ、う～、ハメられた!!(流血)。

kamipro96号へのお便り紹介

所さんの特集、めっちゃ良かったですー。所さんのおうちとか見れて、幸せでした! スーツ姿なんて、めっちゃカッコよくて、キューンときました。所さんのお父さんも出てて、幼少時代の写真とかサイコーでした。ぜひ第二弾を出してください!!

【千葉県・長谷川菜月さん・中学生・13歳】

⬇所選手、ついに面白かった記事ランキング1位に輝きました!! おめでとうございます。赤裸裸に明かしすぎた所選手のお部屋に衝撃を受けた乙女も多数。所選手、早く引っ越してください。

応募するのが初めてでドキドキしています。でも、どうしても所選手のアディダスのジャージが欲しくて!! 所さんは私にとって恩人です。そんな人の特集、本当にステキな内容でした。大切にします!

【大阪府・高田真央さん・学生・17歳】

⬇所英男特集へは10代からのハガキが殺到!! 高田さんをはじめ、初めて『kamipro』を買って読んだという女性陣が多数お便りをくれました。さ～て、所選手のプレゼントは誰に当たるのでしょう～。

藤田選手とGKの対談(?)は面白かったです。でも、結局何が話したかったかまったくわかりませんでした。でも、面白かったです。

【愛知県・加藤修也さん・高校生・18歳】

⬇結局は、藤田選手が空手家だったということと、奥さんがいたということです!

藤田久々の登場にワクワクしながら読んでいたら、なんと聞き手は元GKじゃないですか! 藤田が小川に対する「想い」をこんなに熱く素直に述べたことはいままでなかったのではないでしょうか。藤田と小川がまた一緒にトレーニングするのか。はたまたセコンドにつくとか……。夢が広がりますね!

【茨城県・和田智裕さん・学生・22歳】

⬇夢も広がりますが、やっぱり気になることと言えば、藤田選手がいったいどこのリングに上がるのか、ということですよ! ちなみに、あまりの"はぐらかされっぷり"に、大御所GKもクタクタ。お疲れさまでした～。

学プロの特集が面白かった。じつは、関西の大学文化祭はほとんどチェックしいています。今回の記事を読んで「なんや、知ってるがな」っていうつ少し優越感が最高に気持ちよかったです。

【大阪府・山内義久さん・空手指導員・37歳】

⬇そんな優越感があったとは!! とすると、もしかしてHGやRGが学プロ現役のときの様子もご存知なんでしょうか? う～ん、気になる。

学プロ特集が面白かったです。来年、自分も学プロに入る予定なので、とても参考になりました。

【神奈川県・尾谷友洋さん・学生・18歳】

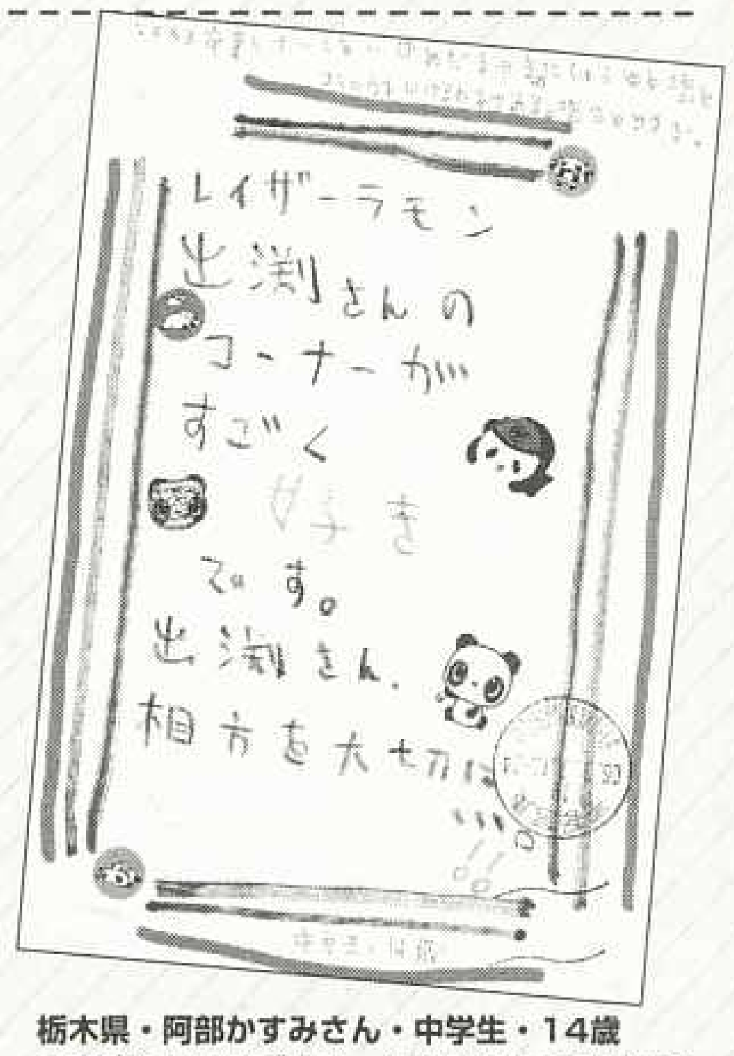
⬇本当ですか!? それは、ぜひ頑張ってください。



中尾芳広選手の30の質問で「自分ち掘ったらいろいろ出てきますよ」と言う発言が気になってしまいました。編集部で実際に掘りにいってください。

【北海道・安倍正典さん・フリーター・33歳】

⬇それは掘りたいところですね! ちなみに、中尾選手は3月の『HERO'S』でヒーリングと再戦を組まれる予定だったのですが、自ら断ったとか。また、中尾選手オリジナルの仕返しをするには早すぎたのか!?



栃木県・阿部かすみさん・中学生・14歳

➡素晴らしいラブレターをありがとうございます! きっとRGさんにも思いは届くと思います。

ニックの心配り、マサの企業秘密、旧友……、こういう間柄を現在のレスラーたちも持っているのかなぁ。60～70歳頃に現在のプロレスラーたちはどんなことをしているんだろう。いろいろ考えると、じわっときました。

【埼玉県・糸永直樹さん・老人ホーム勤務・37歳】

⬇お二人がプロレスをしているところを私は観たことがありませんが、インタビューを読んだだけでじわっときますね。糸永さんはお仕事がお仕事なだけに、そういう部分がとくにズキッとくるのでしょうか?

今月(96)号は古くからの読者も大満足の内容でした。とくに、ミミ萩原さんとかマサ斉藤さんとか。これからも頑張ってください!!

【石川県・浅井清治さん・会社員・33歳】

⬇レジェンドの話は、正直よくわかりませんが、ミミ萩原さんのコスチュームには衝撃を受けました。あの際どさはインリン様と同等!?

ー編集長の喫茶店トーク・ラウドは最高でした。ようやく"殺し"の意味がわかりました。相変わら

96号・面白かった記事ランキング

1位	所英男大特集
2位	藤田和之インタビュー
3位	中尾芳広インタビュー
4位	マサ斉藤×ニック・ボックウィンクル
5位	喫茶店トーク・ラウド

全20ページの所英男特集が96号の第一位! おめでとうございます! つづきましては、久々の『kamipro』登場で期待大だった藤田選手のインタビューがランクイン。さらにさらに、「ヒーリングの唇はカサカサだった」と衝撃発言をぶちまけた中尾選手のインタビューが3位になりました。レギュラーながら、5位に入ったのは喫茶店トーク・ラウド。やはり2時間トークのパワーが波及したのか!?

2006年 この春、卒業したいこと

3月と言えば、そう! まさに卒業の季節。でも、学校をさよならするだけが卒業ではありません。そこで、日頃「もういい加減、卒業したいよ」と思っていることを読者の方々に宣言してもらい、キッパリお別れしてみよう!! というコーナーを作ってみました。それでは行きます! せーの、バイチャ!!

妻から言われるのは「そろそろ(いい加減に)サインをもらったりするのは卒業しなさい」と。しかし、5歳と2歳の子どもをダシにして、もらったりする手法を使ったりしています。結論として、卒業できません。

【神奈川県・佐々木学さん・会社員・40歳】

▽それではダメなのです。コーナー最初からつまずいてしまうではありませんか!!

朝から晩までプロレスのビデオを見ること。

【大阪府・山内義久さん・空手指導員・37歳】

▽空手指導員という職業柄、プロレスのビデオはやめても大丈夫なのでしょうか? というか、その卒業宣言は『kamipro』的に困ります。

チキンハート。鶏肉ばかり食べていると、チキンになっちゃうんですかね。35歳で独身なのもそこに原因があるような気がします。トリノ五輪を見ながら自分自身を振り返る今日このごろです。

【千葉県・大木憲博さん・会社員・35歳】

▽つまり、大木さんが独身なのは、鶏肉ばかり食べているからだという結論ですか。じゃ、今日からケンタッキー禁止で結婚目指しましょう!!

ガンダム。

【千葉県・内野さとしさん・会社員・38歳】

▽非常に具体性に欠く宣言ですが、仕方がない! では思い切って、ガンダムをやめてもらいましょう。

子どもの持ってる仮面ライダーフィギュアとPRIDE選手フィギュアとを闘わせること。いつもPRIDE選手が負かされます。

【北海道・大川清人さん・会社員・31歳】

▽それは、勝ってからやめましょう! 立つ鳥、あとを濁さずです。

くしゃみをするときに「ハクション!」ではなく、わざと「ヒクソン!」と言うようにしていること。

スクープ！ ザ・目撃!!



●2月10日、『ハッスルハウスvol.11』の会場で、**電撃ネットワークの南部さん**を見ました！ スタッフ、関係者に囲まれて、オレンジのツナギを着ていたので間違いありません。ハッスルブレイク時にリングに上がるのかと思ったら、そのまま帰っちゃいました。次回、**3月15日『ハッスル14』で上がるのかな？**
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

➲大内さんはなんて勘が鋭いんですか!! 3・5『ハッスル14』ではまさしく、その南部さんが金村キンタロー＆田中将斗と一緒に出場したのです。いや〜、素晴らしいヨミ。

●**先日某大学の入試の帰路、小田急線下北沢駅のホーム**で女の人と一緒にいた**高瀬大樹選手**を見かけました。その後、一人になった高瀬選手に話しかけようかどうか距離を取ってチラ見しながら**躊躇している**と自分が注目されてることに気付いたのか僕の**怪しい様子が目に入ったのか**今度は高瀬選手が僕をチラチラ見てきました。直後に電車が来てそのまま別々の車両に乗ったのでそれから**後はわからなくなってしまいましたがやっぱりあのとき話しかければよかったなあ**といまは後悔しています。あと、間近で見た高瀬選手はやっぱりデカかったです。
【チェンマイさん（kamipriHand投稿）】

➲そういうときは、思い切って声をかけましょう!! ちなみに、私は向こうから歩いてくる中年女性を自分の母親と間違えて、思いっきり手を振って走っていったことがあります。話しかける場合は、くれぐれもよく確認してから、というお話でした。

●今日うちの会社に**いきなりヒョードル選手が表敬訪問**で現われた!! ヤジウマで見に行ったら**手帳にサイン**してくれて握手まで！（手術跡の痛々しい右手じゃなく左手で）**おだやかなエメリヤーエンコスマイル**でした〜。大興奮!!
【としゆきさん（kamipriHand投稿）】

➲ヒョードルがいきなり会社に現われるのは、まさに60億分の1の確率で凄い!! ちなみに、としゆきさんの会社は何をされてるところなのでしょうか？ ヒョードル選手って、そんなにどこでも出没するもんなんでしょうか？

●2月17日の修斗の会場で、**五味選手**を見ました！ 休憩時間に人がかなり群がっていたのですが、五味選手は笑顔で応えてくれたので、やっぱりステキな人だなと思いました。これからも、五味選手の**ニカッと笑う写真をいっぱい載せて**ください！
【東京都・フリークさん・レジ係・20歳】

➲私もその現場を見ていましたが、五味選手の人気ぶりはたしかに凄かったですね。人だかりとは、まさにあのこと。



岐阜県・西脇康朗さん・会社員・28歳
➲世界侵略をめざす猪木さん。いま地球のどこにいるんでしょう〜？

ず飛ばし気味なー編集長がますます好きになりました。
【東京都・遠山幸男さん・会社員・36歳】

⬇今回、〝殺し〟をテーマに電話取材したところ、I編集長のお話は2時間以上にもおよんだそうです。I編集長の電話取材は平均で1時間。今回は新記録達成!! テーマがテーマなだけにってことでしょうか。

飯伏幸太インタビューが面白かった。飯伏くんの就職した成田空港の会社は私の兄のいる会社だったそうです。インタビュー通り、彼は人見知りが激しくて、仕事に関しては池田課長という人が厳しく注意していたそうです。ボビー弟と闘うと聞いて、会社全員とても驚いたそうです。
【千葉県・内野さとしさん・会社員・38歳】

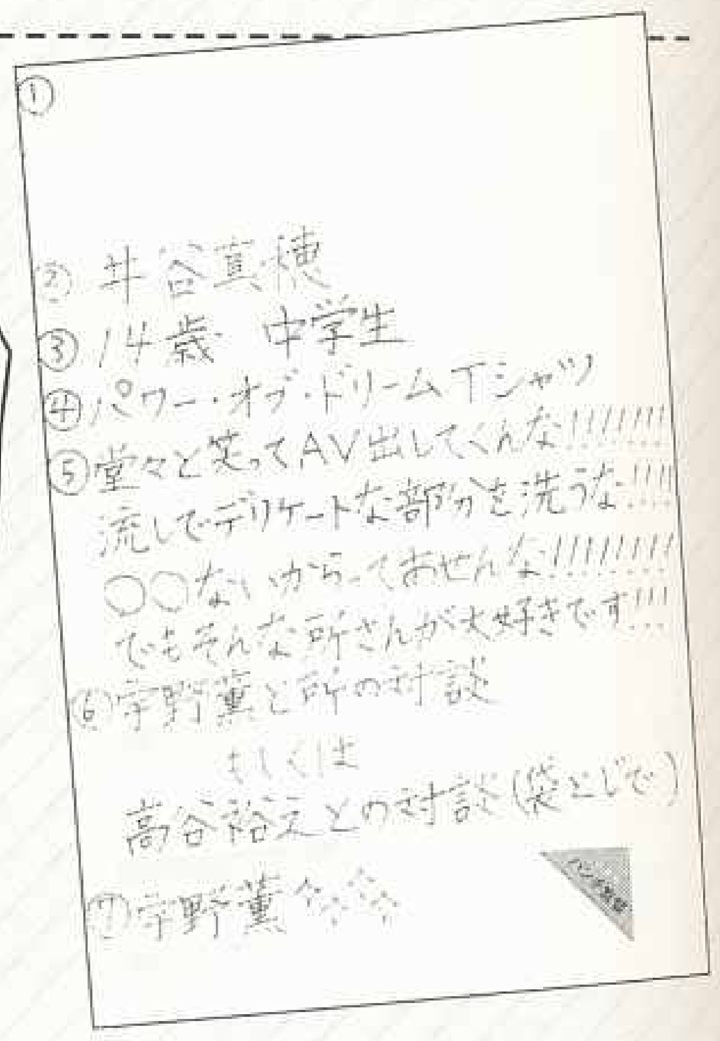
⬇飯伏選手にそんな過去があったとは。でも、1日7000キロカロリーとらないと痩せてしまうって言うのは、健康診断を目前に控える私としては非常にうらやましい限り。

埼玉県・大崎洋二さん
➲UFCでマット・ヒューズとの対戦が決定しているホイス。圧倒的不利を囁かれていますが、ど〜なるんでしょうか？





埼玉県・中川雅博さん・自由業・28歳
➲『PRIDE.31』マリオ戦での勝利で一気に無差別級GPへの期待感を増幅させた高阪選手。出場はあるのか。そして、その先は？



大阪府・白河甚平さん
➲井谷さんの満点ハガキ第二弾！ 素晴らしいのひと言です!! 来号にもぜひ送ってください。

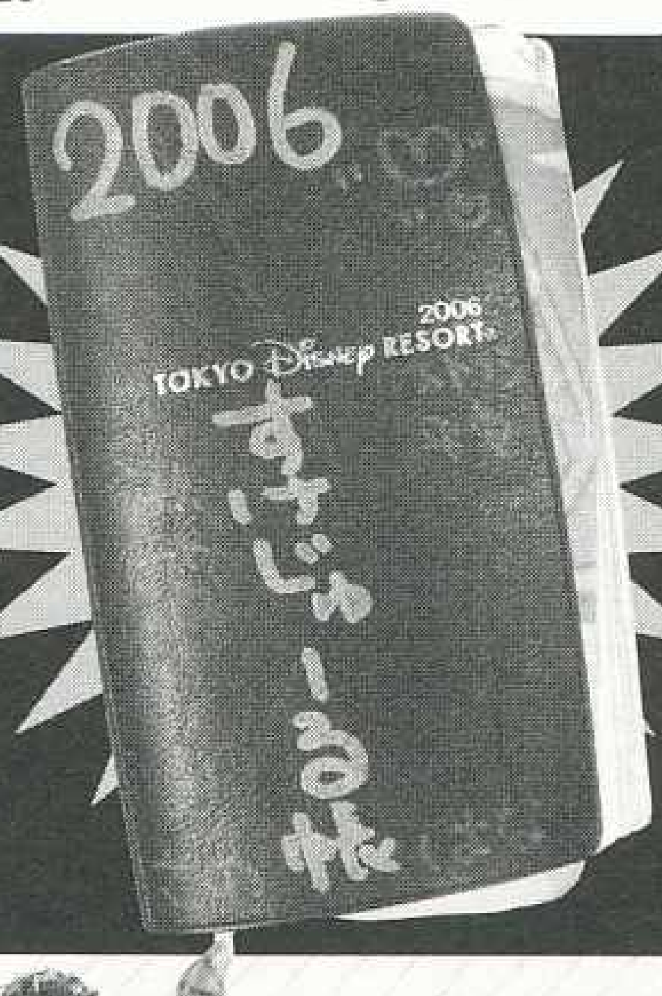
久々に 写真投稿のコーナー



村上選手と柴田選手の写真に続いて、残念ながらビッグマウスラウドをやめてしまった前田日明さんの写真を送るので、よかったら使ってください。この前、ハガキ愛ランドで「桑本さんはUWFスネークピットジャパンの会員？」と書いてありましたが、そうです。ボクは会員ですよ!!
【東京都・桑本薫平さん・中学生・13歳】

➲桑本さん、写真＆ご返答ありがとうございます！ スネークピットでどんどん強くなって、アラン・カラエフをも倒す大物になってください!!

探しています!!



2月末日の雨の日、都内・千駄ヶ谷にあるダブルクロス近くの『am／pm』の店頭で**女子高生の「すけじゅーる帳」**を拾いました。雨に打たれて水浸しだったので一時的に避難させていたが、**持ち主の「はな」ちゃん**、もしくは知り合いの方、思い当たる人がいましたら、ダブルクロス（担当・チョロ）まで連絡ください。あと個人的なことなんですが、わたくし**チョロは**諸事情により**9月10日まで「禁酒・禁煙・禁風俗」の三禁生活**を送ることになりました。三禁を破っているところを目撃しましたら、写メールを撮って、『**kamipro**』編集部まで送りつけてください。**金壱万円を差し上げます。**というわけで、一昔前の女子レスラーのようにピュアハートで頑張ります！

告知 **マシプレは無事もらい手がみつかりました。**

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構！ お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

- ●ザ・目撃!!
- ●おもしろ写真投稿
- ●選手に対するご意見、試合の感想
- ●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先＆メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部「★」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。



【東京都・寺田純さん・豆腐売り・24歳】

▽それは、これからも続けてください。

缶コーヒーにノベルティがついていると、つい買ってしまうこと。
【長野県・浦原俊之さん・会社員・41歳】

▽逆に、私はノベルティがついている缶コーヒーを買うのは店員に「おもちゃが目的なのか」という目で見られるのが怖くて買えません！

目玉焼きにしょうゆと塩とコショウをかけるのをやめる。塩分とりすぎ。
【栃木県・阿部かすみさん・中学生・14歳】

▽その若さで健康に気を遣うとは、素晴らしい!! たしかに、それはいろいろかけすぎなので、気をつけましょうね。

▼小太り体型。アレックス・シェリーみたいな、スッキリマッチョになりたいです。
【大阪府・藤原伸行さん・大学生・24歳】

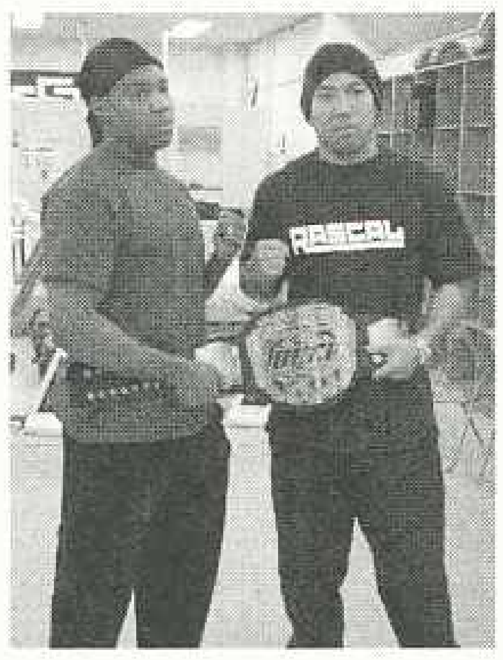
▽それは賛成です！ ぜひ、いい身体になって、写真を送ってください！ でも、私にはアレックス・シェリーが誰だかわかりません。

マット界の掲示板
kamipro
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

ハミ出し 情報局

4月7日の後楽園ホール大会を皮切りに、今年も春の祭典『チャンピオン・カーニバル』がいよいよ開幕！　優勝戦の行なわれる20日の代々木大会まで、新潟、静岡、愛知、兵庫、大阪、京都、富山と昨年同様、日本全国で熱戦が展開!!　とは言うものボクは都内の興行しか観たことがないのですが……担当は、じつは2号前から代わっていた上杉です。花粉症です。ハイ。

五味の弟分・帯谷がライト級王座にリーチ!!
滑川は、大場を絞殺した強豪スネークと激突!!



『DEEP 24 IMPACT』

★日時　4月11日（火）18:30開始

★会場　東京・後楽園ホール

★主要対戦カード

【DEEPライト級王者決定戦】

帯谷信弘（TEAM RASCAL）vs 雷暗暴（雷道場）

滑川康仁（TEAM M・A・D）vs

ザ・スネーク（TEAM Boon!）

いりえ・やまと（※入江秀忠から改名 キングダム・エルガイツ）

vs ゲガール・ムサシ（ジュロージンジム）

横田一則（GRABAKA）vs ミルトン・ヴィエイラ（BTT）

長谷川秀彦（SKアブソリュート）vs クイントン・アレンサ（フリー）

山崎剛（GRABAKA）vs 宮川博孝（チーム・アライアンス）

宮本優太朗（ビバリーヒルズ柔術クラブ）vs 中台戦（フリー）

しなしさとこ vs X

★問　DEEP事務局　052-339-0303

杉浦に続いて金ちゃんが念願の
パンクラスヘビー級トーナメントに!!

PANCRASE『2006 BLOW TOUR』

★日時　4月9日（日）16:00開始　★会場　東京・ディファ有明

★主要対戦カード

【ヘビー級王座決定トーナメントBブロック】

野地竜太（パンクラスGARO）vs 杉浦貴（ノア）

金原弘光（U.K.R.）vs アルボーシャス・タイガー（ラトビア士道館）

中西裕一（フリー）vs 瓜田幸造（掣圏会館）

渡辺大介（パンクラスism）vs 久松勇二（和術慧舟會TIGER PLACE）

金井一郎（パンクラスism）vs 山田護之（チームPOD）

和田拓也（SKアブソリュート）vs 小路伸亮（KILLER BEE）

『第12回ネオブラッド・トーナメント準決勝』

★日時　4月2日（日）　試合開始14:00

★会場　ゴールドジムサウス東京アネックス

★主要対戦カード

川村亮（パンクラスism）vs 渡辺悠太（A-スクエア）

熊澤伸哉（闘心）vs 高橋渉（高田道場）

植村"ジャック"龍介（パンクラスP's LAB東京）vs 長谷川孝司（パンクラス稲垣組）

★問　パンクラス　03-5792-0815

エース宍戸が
"ブラジルの子連れ狼"を迎撃!!

シュートボクシング協会『NEO OPΘPOZ Series 2nd』

★日時　3月25日（土）17:30開始

★会場　東京・後楽園ホール

★主要対戦カード

宍戸大樹（シーザージム）vs マルフィオ・カノレッティ（ブラジル）

土井広之（シーザージム）vs キム・パンスー（韓国）

緒形健一（シーザージム）vs キム・ヨンジョン（チョンアン・チョンムジム）

及川知浩（龍生塾）vs 竹村健二（名古屋JKF）

石川剛司（シーザージム）vs 梅下湧暉（湘南ジム.）

★問　シュートボクシング協会　03-3843-1212

全日本キックが歌舞伎町で
男女別昼夜連続興行を開催!!

『CUB♀KICK'S-I／CUB☆KICK'S-II』

★日時　4月16日（日）13:00／18:30開始

★会場　東京・新宿FACE

★『CUB♀KICK'S-I』（昼の部）出場予定選手

WINDY智美、星野久子、「ANGEL'S」推薦選手、「J-GIRLS」推薦選手ほか

★『CUB☆KICK'S-II』（夜の部）主要対戦カード

【全日本スーパーウェルター級王座決定トーナメント準決勝】

吉武龍太郎（アイアンアックス）vs（3/19・山内裕太郎 vs 小松隆也の勝者）

白川祐規（S.V.G）vs（3/19・濱崎一輝 vs 佐藤皓彦の勝者）

★問　全日本キック　03-3365-1171

Fight & Ticket

ZERO1・MAXの"原風景"！
奉納プロレス、今年も開催!!

『ZERO1・MAX』

★日時　3月28日（火）
18:30開始

★会場　東京・後楽園ホール

★主要対戦カード

大森隆男 & 崔領二 vs 中西学 & 山本尚史

大谷晋二郎 & 田中将斗 & 高岩竜一 vs

佐藤耕平 & 佐々木義人 & 関本大介

【インターナショナルJr.ヘビー級選手権試合】

菅原拓也 vs GENTARO

日高郁人 & 藤田ミノル vs

クレージー・ボーイ & 飯伏幸太

スティーブ・コリノ vs コルト・カバーナ

【山笠Z'信介再デビュー戦】

山笠Z'信介 vs X（当日発表）



靖国神社境内のキレイな桜の下、お祭りムード溢れる中で、44年ぶりに行なわれた昨年の奉納プロレス。東京でありながら、何か昔の地方大会の雰囲気を漂わせる。お祭り好きは集合!!

『大和神州ちから祭り』

★日時　4月1日（日）16:00開始

★会場　東京・靖国神社相撲場
（※雨天決行）

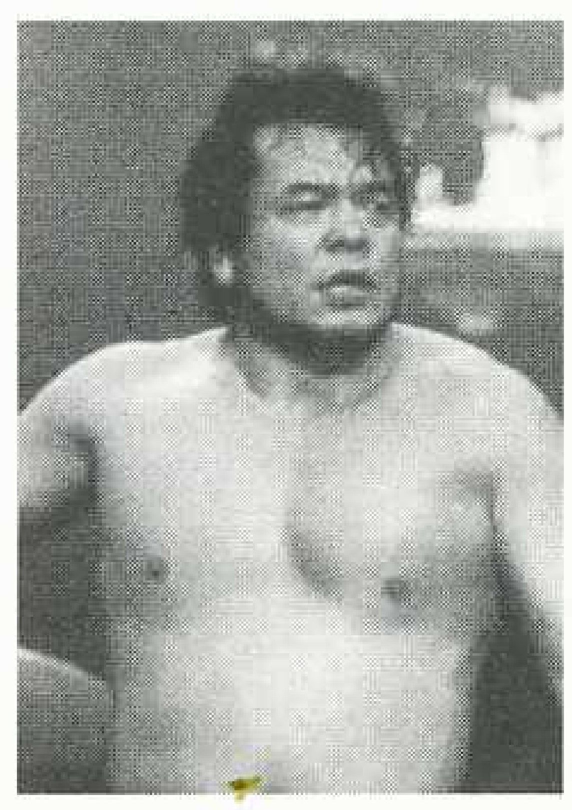
★主要対戦カード

村浜武洋 vs 小笠原和彦　川田利明&高岩竜一 vs 安田忠夫&後藤達俊

大森隆男 vs（3/21・大谷 vs 長井の勝者）

★問　ファーストオンステージ　03-5730-3966

王道、方針転換!!
三沢、丸藤らノア勢が参戦へ!!



『キングスロード第三章』

★日時　4月9日（日）12:30開始

★会場　東京・後楽園ホール

★出場予定選手

三沢光晴、菊地毅、志賀賢太郎、丸藤正道（以上ノア）、宮本和志、相島勇人、高西翔太（以上キングスロード）、越中詩郎、長井満也、池田大輔、橋本友彦　ほか

★問　キングスロード　03-3403-7344

グレート・ムタ参戦！
ルチャリブレ観戦ツアー決定!!

5・13 闘龍門MEXICO自主興行『DRAGO MANIA』観戦ツアー

★日程　5月11日（木）～5月16日（火）　★目的地　メキシコシティ

★費用　214,000円

★石森太二、ミラノコレクションA.T.とのEMLL観戦 & マヤ遺跡観光付き！

★問　近畿日本ツーリスト 東京イベントコンベンション支店　03-3268-5581

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

Recruit

JDが次世代の風香を大募集！



★応募資格
・15歳以上の健康な女性
（中学生は来春卒業見込みのみ）
・入寮可能なこと
（寮は新木場1stRINGの近くで、費用負担なし）

★応募方法
履歴書に身長・体重を必ず明記し、写真2枚（バストアップ、全身）を同封の上、郵送。〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9FJDスター「格闘美　新人レスラー募集係」まで
※20歳未満の未成年者は保護者の承諾書を添付。
説明会希望の有無も明記して下さい。

★選考方法　書類審査後、体力テストあり

★問　JDスター　03-5524-2339

Eat

リキプロでちゃんこパーティ開催!!



★日時　4月1日（土）
13:00～16:00

★会場　東京・リキプロ道場

★会費　5,000円

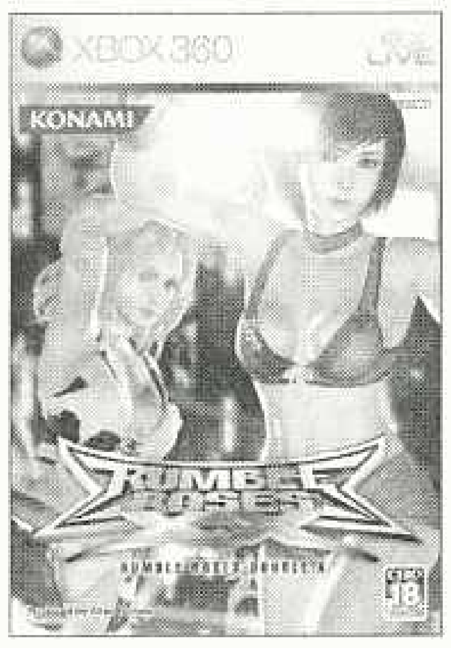
★定員　40名（先着順）

★申込み方法
リキプロ事務所に電話予約後、現金書留にて会費をリキプロ事務所に送付。〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1 リキプロ「ちゃんこパーティ」係

★問&予約 リキプロ事務所
03-3754-6340（平日11時～18時）

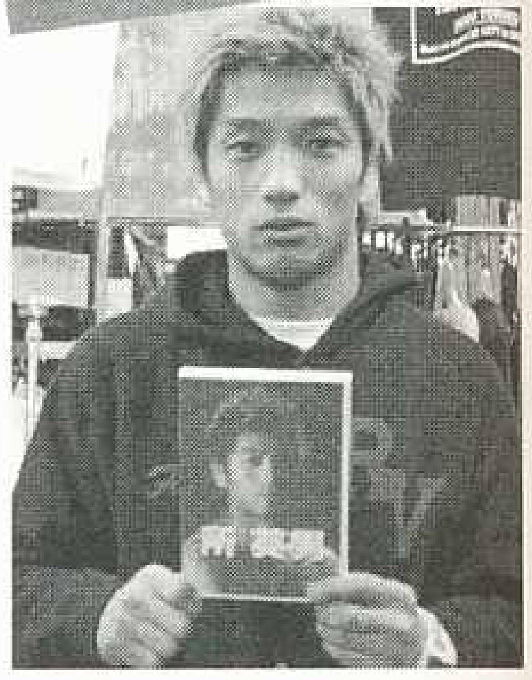
Dvd & Game

より過激に！　よりセクシーに!! ランブルローズ新作発売!!

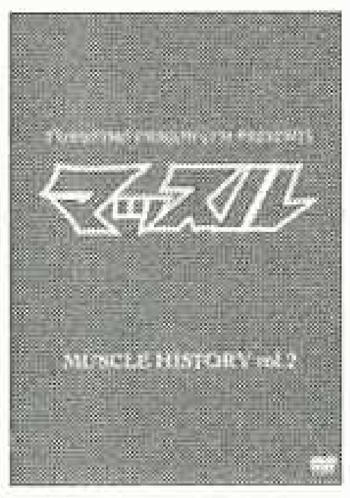


レースクイーン、女教師、看護婦、女子高生らがくんずほぐれつのセクシーバトル！　昨年2月、コナミから発売されるや否や、人気が爆発したPS2ソフト『ランブルローズ』。当時、あの長州力が「登場キャラに挑戦したい」と参戦をブチ上げたというほど、美しい女性たちが闘う本格的プロレスゲームがついに次世代機「Xbox 360」で登場!!　前作を遥かに上回るビジュアルに加え、前作にはなかったタッグマッチや格闘モード、オンライン対戦、さらには、かなりエロい罰ゲームなど新たな遊びの要素を凝縮。はたして長州参戦の可能性はあるのか!?　タココラ!!

『ランブルローズ ダブルエックス』
★対応機種　Xbox360　★価格 7,329円（税込）　★発売中!　★コナミ　ホットライン　0570-086-573



なんと92パーセントOFF! 『マッスルヒストリーvol.2』発売!!



第一弾が大好評だったマッスルオリジナルDVDの第2弾作品がついに発売! 約4時間という収録時間のアップに伴ない、定価は38,000円となってしまったが、マッスルホームページならびに会場では、なんと特別価格3,000円で販売中だ!　といっても、もちろんほかでは買えませんが。収録内容は、伝説となった『マッスル5～8』と初の後楽園ホール進出となった『マッスルハウス』。さらにマッスル坂井の友人の結婚披露宴でのみ上映された感動ドキュメンタリー「玉虫兄弟の真実」など、特典映像も多数収録とのこと。プロレスの向こう側という遠いところに行ってしまったマッスル。その歩みを辿れ!!

『マッスルヒストリーvol.2』　★価格　3,000円（税込み）
★問　DDT 03-5360-6653　★HP　http://www.ddttec.com/muscle

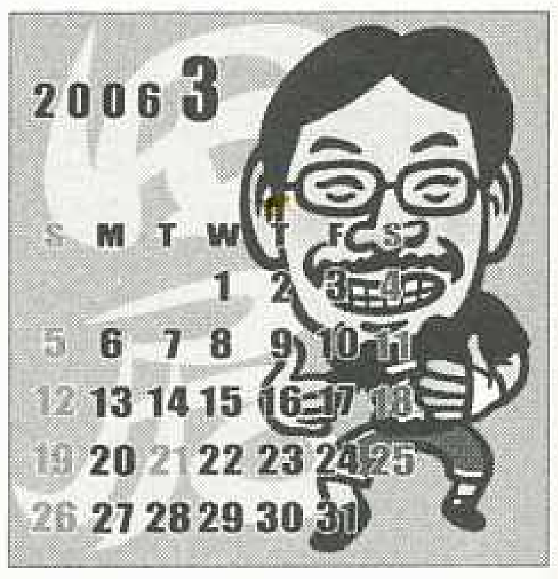
“世界の所さん”のすべてが詰まったDVDが新発売!!

昨年の『HERO'S』で一躍スターダムにのし上がった所英男。そのデビュー戦からの名勝負の数々を完全収録したDVD『所英男 2001～2005 BOUT COLLECTION』が発売中!!　所の名シーンやテクニックのほか、貴重なプライベートでの素顔を余すところなく紹介している。2月4日に行なわれた先行発売イベントでは、次から次へと200名以上のファンが詰めかけ（約7割が女性!）、大盛況。なんと中には「大好きです!」と、突然告白しだす女性まで何人か現われるほど。「ボクのすべてみたいなところもあるんで、成長を見てほしいです」と本人も言ってることなので、まずは焦っていきなりコクらないように、このDVDで研究してみては。もちろん所ファンならずとも必見です!!

『所英男 2001～2005 BOUT COLLECTION』
★価格5,880円（税込）　★発売中　★クエスト 03-3360-3810

Hand

携帯サイト『Kamipro Hand』の水曜コラム『PRIDEマニア』に、ジョシュ・バーネットが登場！　土曜コラム『VIVAハッスル！』には、なんと島田二等兵が登場、知られざる（？）その正体を30の質問で徹底解剖！　月曜の井上編集長、木曜のターザン、そして金曜のGKと毎日更新のコラムはどれも見逃せない!!　さらにサイトではただいまリニューアルに向けてアンケートを実施中！　より良いサイト構成のため、細かい点までご意見を募集しています。アンケートに答えてくれた人の中からTシャツを毎週1名にプレゼント中です!!　レッツ・アクセス！



Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

▶ 紙プロHand

お詫びと訂正 『kamipro No.96』での「学生プロレス特集」におきまして、UWF関東学生プロレス連盟のホームページアドレスを旧HPのアドレスを掲載してしまいました。現在のUWF関東学生プロレス連盟のホームページアドレスは http://wind.ap.teacup.com/uwfgakupro/ となります。関係者の皆様、大変失礼いたしました。というわけで、入学シーズンも近づいてきました。『kamipro』読者の皆さんもレッツ・学プロ!!（担当：チョロ）

kamipro calendar



25 SAT.

NOAH■石川・石川県産業展示館(18:00)
ZERO1・MAX■青森・八戸市民体育館(18:00)
DRAGONGATE■福井・福井市体育館(18:30)
みちのく■福岡・甘木青果市場(17:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
我闘姑娘■東京・新木場1stRING(12:30)
JD■東京・新木場1stRING(18:30)
シュートボクシング■東京・後楽園ホール(17:30)

26 SUN.

NOAH■石川・スポーツセンターろくせい(17:00)
DRAGONGATE■三重・津市体育館(17:30)
みちのく■宮崎・延岡市民体育館(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:00&16:30)
北都プロ■北海道・弟子屈町福祉センター
FUCK!■大阪・羽曳野J2K道場(15:00)
Ozアカデミー■東京・新宿FACE(18:30)
前川久美子引退興行■東京・後楽園ホール(12:00)
新日本キック■東京・後楽園ホール(17:00)
R.I.S.E.■東京・ディファ有明(16:00)

27 MON.

みちのく■熊本・興南会館(18:30)
WMF■秋田・秋田市立茨島体育館(18:30)

28 TUE.

ZERO1・MAX■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■長崎・島原市復興アリーナ(18:30)

30 THU.

JWP■東京・板橋グリーンホール(19:00)

31 FRI.

大日本■東京・後楽園ホール(19:00)
GIRLS DOOR■愛知・名古屋市総合体育館(18:30)



1 SAT.

ZERO1・MAX■東京・靖国神社相撲場(16:00)
大日本■埼玉・桂スタジオ(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)
D.O.G■東京・ディファ有明(17:00)

2 SUN.

PRIDE武士道■東京・有明コロシアム(15:00予定)
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)
大日本■静岡・ツインメッセ静岡(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
ターザン後藤一派■東京・浅草インディーズアリーナ
JD■東京・新木場1stRING(12:30)
AtoZ■滋賀・県立文化産業交流会館(15:00)
女帝興行■東京・新宿FACE(18:30)
パンクラス■東京・ゴールドジム大森(18:30)

5 WED.

K-1MAX■東京・国立代々木競技場第一体育館(17:30)
NOAH■神奈川・横浜市金沢産業振興館(18:00)
K-DOJO■東京・後楽園ホール(18:30)

7 FRI.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
NOAH■愛知・ZeppNagoya(18:30)
THE WOMAN■東京・新木場1stRING(19:00)

8 SAT.

NOAH■岡山・オレンジホール(18:00)
全日本■新潟・長岡厚生会館(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(25:00)
DRAGONGATE■富山・イベントプラザ富山(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
GIRLS DOOR■福島・ビッグパレットふくしま(18:30)

9 SUN.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
ZERO1・MAX■埼玉・ふじみ野駅特設リング(15:00)
キングスロード■東京・後楽園ホール(12:30)
大日本■石川・金沢流通会館(18:00)
アパッチ■兵庫・高砂市総合体育館(14:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
FTO■大分・イベントホール(18:30)
JWP■東京・八王子市民会館(13:00&18:00)
AtoZ■宮崎・ニューワールドテニスクラブ(15:00)
パンクラス■東京・ディファ有明(18:30)
新日本キック■千葉・市原臨海体育館
OkinawanGladiators■沖縄・ナムラホール

10 MON.

NOAH■兵庫・神戸サンボーホール(18:30)

11 TUE.

全日本■静岡・キラメッセぬまず(18:30)
ZERO1・MAX■千葉・佐原市民体育館(18:30)
大日本■富山・高岡テクノドーム(18:30)
DRAGONGATE■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:30)
DEEP■東京・後楽園ホール(18:30)

12 WED.

NOAH■熊本・興南会館(18:30)
全日本■愛知・名古屋国際会議場(18:30)
DRAGONGATE■東京・後楽園ホール(18:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(19:00)

13 THU.

NOAH■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)
全日本■兵庫・県立武道館(18:30)
ZERO1・MAX■東京・後楽園ホール(19:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(14:00)

14 FRI.

DDT■大阪・アゼリア大正(19:00)
DRAGONGATE■兵庫・SITE KOBE(19:00)
アパッチ■東京・後楽園ホール(19:00)

15 SAT.

NOAH■長崎・シーハットおおむら(18:00)
全日本■大阪・大阪府立第2競技場(18:00)
ZERO1・MAX■宮城・多賀城市総合体育館(18:00)
DRAGONGATE■岐阜・商工会議所(18:30)
DDT■福岡・さざんぴあ博多(19:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
長与プロデュース■東京・ディファ有明(19:00)
JD■東京・新木場1stRING(12:30)
UFC■米国カリフォルニア州・アナヘイム

16 SUN.

NOAH■福岡・博多スターレーン(17:00)
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■京都・KBSホール(17:00)
DDT■岡山・水島サロンコミュニティプラザ(17:00)
DRAGONGATE■神奈川・相模原市体育館(18:00)
闘龍門■東京・後楽園ホール(12:00)
大阪プロ■大阪・IMPホール(15:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:00&16:30)
T後藤一派■東京・浅草インディーズアリーナ(15:30)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館(13:00)
ドレイク森松自主興行■東京・ディファ有明(12:00)
CUB♀&☆KICK'S■東京・新宿FACE(13:00&18:30)

17 MON.

NOAH■福岡・西日本総合展示場(18:30)
全日本■富山・イベントプラザ富山(18:30)

19 WED.

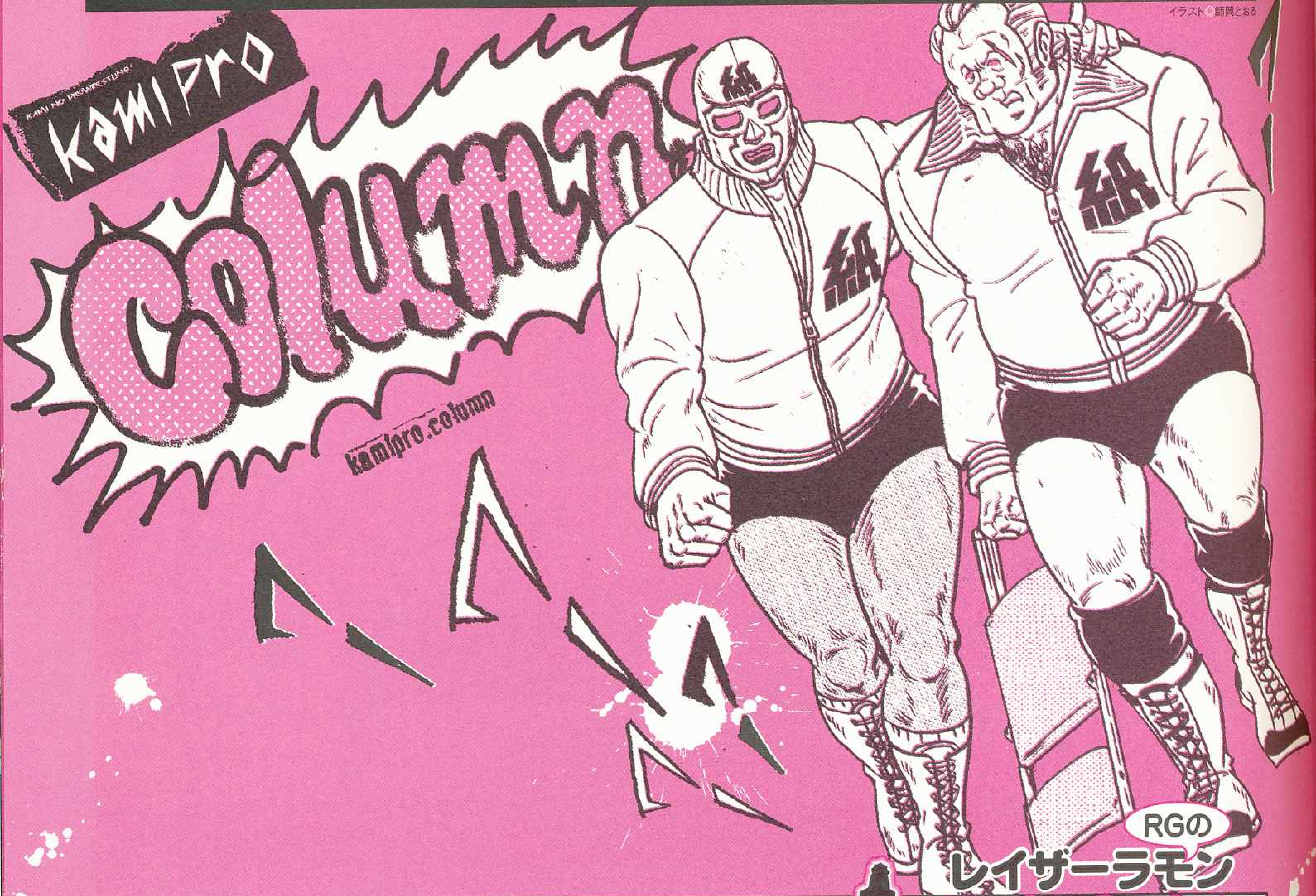
NOAH■広島・福山ビッグローズ(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(19:30)

20 THU.

ハッスル■大阪府立体育館(19:00)
全日本■東京・国立代々木競技場第二体育館(19:00)
NOAH■鳥取・米子ビッグシップ(18:30)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

イラスト◎師岡とおる



RGのレイザーラモン
英知自慰（えいちじい）

第6回 HGの『FRIDAY』騒動をリークしたのは……

イラスト◎出渕誠

今回は学生プロレス時代のタッグパートナー、Mr.珍ポーゴについて書こうと思ったのだが、締め切り直前にビッグニュースが飛び込んできたので、Mr.珍ポーゴどころではなくなった！　なんとHGが『FRIDAY』されちゃったのだ！

人気者の宿命とはいえ、ついに撮られてしまったか……。ニュースの当日、とあるテレビ局の楽屋で僕とマネージャーとディレクターで「『FRIDAY』ってこわいな〜」と話をしてたら、マネージャーが「RGが『FRIDAY』に情報を売ったというアングルはどうですか？　RGは日本一のヒールになれますよ！」と笑いつつ提案してきた。

たしかにプロレス対決でHGの腰を怪我させたり、ワイドショーでHGの私生活暴露をして、みんなのヒーローHGを〝削りまくって〟いたRGが最終手段に出た！という流れにできなくもない。WWEなら抗争劇として充分に使えそうだ。

『FRIDAY』編集部でニヤニヤしながら金を受け取るRG、そこに窓ガラスを割って突入するHG（たけし軍団、『FRIDAY』編集部乱入事件へのオマージュ）、編集部で大乱闘！　命からがら逃げ出しタイヤをギュルギュル鳴らして車で逃走するRG！　トラックに乗り込み追跡するHG！　ド派手なカーチェイス！　ヘリコプターのカメラも上空から追う！　RGが横浜アリーナの駐車場（大田区体育館や北沢タウンホールでも可）に着いたとたん、後方からHGのトラックが追突！　ごみ収集場前で大乱闘！　RGが向かうのは横アリのリング（ツインメッセ静岡や新木場1stRINGでも可）！　この模様はすべてスクリーン上に映し出され、入場口から走ってくる！　追うHG！　ゴング！　試合開始だ！

いや〜書いてて興奮してきたよ、WWEでおなじみのこのパターンを日本でもやりますか！　最後はHGがRGに放水車から大量のミルクを噴射！　ミルクの海で溺れそうになるRG！　客席から投げられた牛乳パックを飲み干すHG！　どうよこれ？　HGかっこいいじゃん！

実際、RGがHGにプロレスで怪我をさせた話（とそのVTR）があるトーク番組で流された直後、「RG最低！」「HGに近づくな！」という抗議の手紙が何通もきたらしい。この話をすると「普通、腹が立っても手紙まで書かないよ！　RGは手紙を書かせる熱があるんだよ！」とディレクターから褒めてるんだか貶してるんだかわからないコメントを頂いた。

思えばかつて僕らはT・J・シンを本気で憎んだし、海賊男の乱入には心底腹が立った。ダンプ松本は実家に石を投げつけられたと聞く……。RGはこれらの偉人の仲間に入ることができるかも。

醒めきった現代、大衆が本気で怒ることもなくなった。政治家や官僚の事件には怒りを感じるが、そこにハッピーエンドはない。やはり求められるのは勧善懲悪。

HGという稀代のベビーフェイスが、最低の生き様のヒールRGを叩きのめしたときこそ、真のハッピーエンドがおとずれるのでは？　ここは「僕が情報を売りました！」と宣言しなきゃいけない様相を呈してきた！　よし、行くか。

でもこれやったら確実に解散を言い渡されるなぁ……。



Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
吉本興業のお笑いコンビ、『レイザーラモン』HGの相方、RG。HGを“アレンジ”した「フォフォフォ、フォー！」をキメ言葉に絶賛活躍中。先日、『ハッスル』のリングでプロレスデビュー！

第6回

ゴン格ショック!!

ブリッツCMで、あややとアフロ共演？

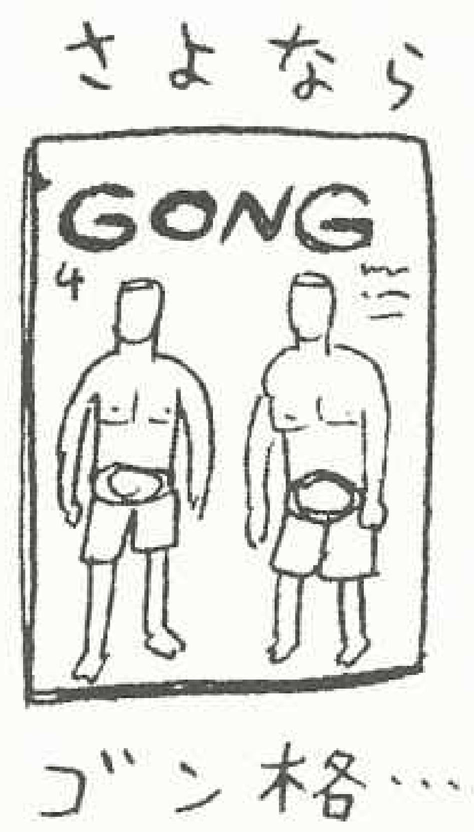
花くまゆうさく

リングの汁

今月公開されてるサモ・ハンvsドニー・イェンの『SPL　狼よ静かに死ね』で、ドニー・イェンがカンフーアクションに柔術テクをミックスさせています（今月の報告）。『燃えよドラゴン』でブルース・リーといち早くオープン・フィンガーグローブをはめて総合してたサモ・ハン・キンポーが、また も絡んでいるのが偶然だろうが興味深い。映画と総合格闘技がシンクロするとき、そこにはいつもサモ・ハンがいる。いつも受け手だけど。

2・17の修斗、代々木大会は平日の4時開始なのに開場前から長蛇の列ができているのにオドロいたが、この日は青木真也の強さにつきる。菊地昭を相手に普通に圧倒してるとこが凄い。修斗しか上がらないと言っていたが、もう相手がいないんじゃないのかなぁ。いまの時代に極めを売りにする貴重な選手なので、いろんな人と闘うのを見てみたいもんですが。

翌日のZSTでは、グラップリングのGT・Fをまたやると発表されてうれしい。またジェフ・カラン呼んでほしいな。



ジェフ・グローバーや足関十段、こないだのパンクラスキャッチで優勝した徹肌イ郎もぜひお願いします上原さん。それでエディ・ブラボーはGーグラップリングで呼んでほしいな、お願いします浜島くん。

ショックなのは、現体制の『ゴング格闘技』がなくなるらしいとのこと。ウワサ通りに後釜が『格闘伝説』になるとしたら、ゴン格好きにとっては最悪！　『kamipro』でこんなこと書くのもなんだが、業界誌で唯一の寝技がわかってる雑誌だっただけに残念すぎる。嗚呼、僕たち『ゴング・グラップル』はもう読めないのか？　DSEバックに大きくなった『kamipro』で、前ゴン格スタッフに『紙のグラップル』でも作らせてもらえないだろうか？

「こないだの『PRIDE31』が何気にけっこう面白かったのは、中村（和裕）と田村（潔司）が完敗したからだ、間違いない！」といまごろ、思わず長井秀和口調になってしまうほどスカッとしました『PRIDE31』。

そして大会後の榊原社長の田村へのガチな発言は最高です。



Hanakuma Yusaku
◎校了時に、今成vsバルヴァーのニュースが！　スゲェ!!

イナズマKの

ハードコアドージョー

第6回

狂猿復活!!　葛西純インタビュー

Inazuma K
◎仕事で台湾行ってきました。食い物ウマい！　あの小龍包の味は忘れません！

クレイジーモンキー・カマゲン！突然の病気休養から5ヵ月。3月1日のアパッチプロレス軍興行の乱入を経て3月19日の『西遊記～復活～』で佐々木貴組を相手についに葛西純がリングに戻ってきた。欠場前より身体もビルドアップ。さらなる狂猿ぶりに拍車をかける葛西純に緊急ミニインタビューを敢行！

——まず、病気になったときの話から聞かせてください。

葛西　去年の10月30日、急に腹痛をもよおして食中毒だと思って病院に駆け込んだら〝小腸に腫瘍がある、腸重責、腸閉塞、虫垂も腫れてる。早く取らないと命に関わる〟って言われて緊急入院だよ。こう見えてもネガティヴな性格だから俺っちの人生終わったなって思ったね。

そんなときアパッチの仲間が励ましてくれてさ。でも若干一名、金村キンタローは「相部屋だと騒げないから個室にしろ！」とかムチャクチャ言ってんだよ。

でもホントならね、今頃俺っちがデスマッチヘビーのチャンピオンになってたのに（アブドーラ）小林ってあんな豚が巻きやがってなぁ。でも支援興行やってもらえたのはありがたかった。それがなかったら今頃、子供とカミさん連れてホームレスになってたよ。

——仲間のありがたさも知ったと。そういえばウェブの日記でも、子供が励みになったって書いてありましたね。

葛西　まぁ我が子がいる、守るべきものがあると違うよね（しみじみ）……ってキャラと違うこと言わすんじゃねーよ！

——すいません。でも、キャラとは違うけど親バカですよね。

葛西　（開き直って）そうだよ！つーかね、俺っちが休んでるあいだ、取材に来るマスコミもいないし、俺っちの名前挙げる選手もいない。それでひねくれて日記に子どもの写真ばっか載っけてたんだよ。週刊誌も長州力がブランチャしただけで表紙にするなって。毎回同じヤツばっかインタビューしやがって……寂しかったつーの（泣）

——そうだったんですか。ところでトレーニングもかなりやってたようで身体が分厚くなってるのがわかりますよ。

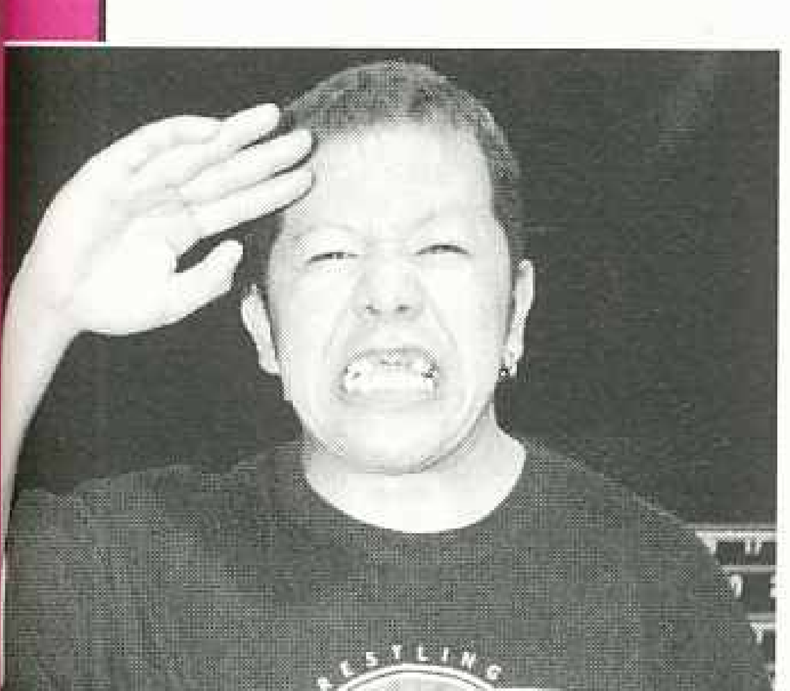
葛西　そんなこと言っても何も出ねーよ！まあZERO―ONE辞めて大日本プロレスにUターンして安定収入が得られなくって、倒れる前は練習不足だったから身体もノッペラしててさ。でも欠場して悪いとこ全部取って身体も一から作り直したんで。病気前よりコンディションもいいしパワーもついたよ。ウェイトもメチャンコ凄い重量挙げてるよ。ビリー・カズマイヤーばりだよ！……例えが古いっつーの！

——若い子はわかんないですよ（笑）。では復帰後はどんなファイトを見せてくれますか？

葛西　ガンガンやるよ！　離れて見るとプロレスが元気がない感じなんで俺っちがドカンと凄い試合やってさ、まあ俺っちだけが潤えば一番良いんだけど業界自体も盛り上がれば良いなと。

——蛍光灯のリングに戻ることの恐怖感はないですか。

葛西　そんなものねーよ！　恐怖感あったらできないし、俺っちはキ○○イだから喜んで飛び込んでくよ。家族がいるからといって、普通のレスラーは守りに入るけど俺っちの場合は違うから。ますますムチャクチャやって葛西はホントに気が狂ってるって試合を毎回やってくから！



葛西純インタヴュー、さらなるハードコアトークは『kamipuro Hand』で近日アップ！

せき詩郎のサムライ二味 シロー

第4回

２１３発のビンタ

先日行われたＧＨＣヘビー級選手権試合、秋山準vs鈴木みのるは張り手合戦となった。なんと２１３発ものビンタが飛びだしたのだ。お互い意地を張り合った結果生まれた２１３という数字。親、先生、あるいは部活の先輩にビンタされたとしても多くてせいぜい数発程度。２１３発のビンタなど想像しがたい数字である。

例えば煩悩は１０８個あると言われている。除夜の鐘が１０８回なのは、たしかここからきているはずだ。２１３発というのは、煩悩の数の約2倍にもなる数字なのである！

２１３発という数字を少しでも実感してもらおうと例えを出し、しかも「なのである！」とちょっと張り切ってみたが、よりによって煩悩という具象的ではないものを引き合いに出してしまったがために、まったくもって実感できない結果になってしまった。

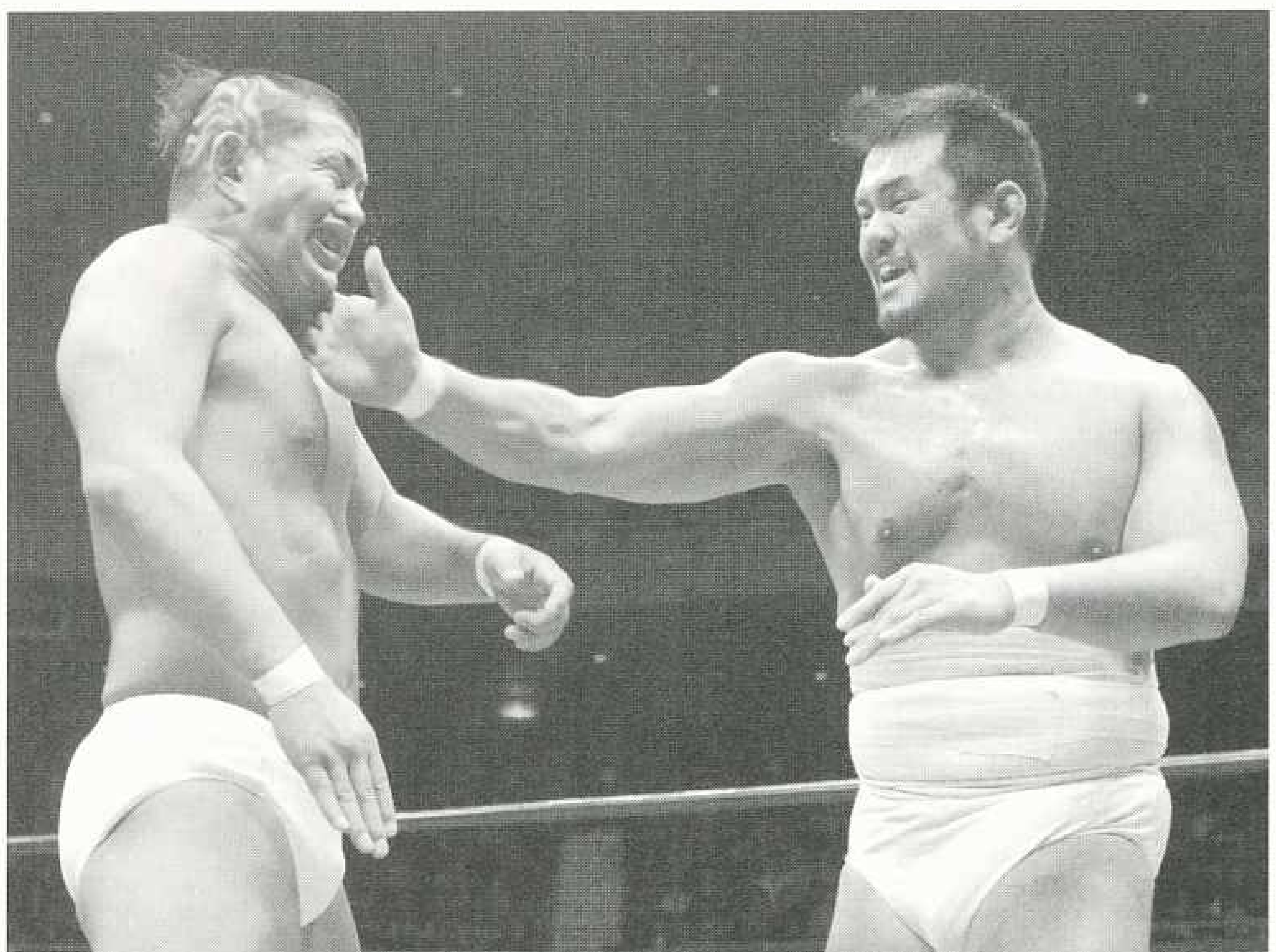
では違う例を挙げてみよう。『魔太郎が来る!!』という漫画がある。藤子不二雄Ａ先生の代表作の一つだ。ご存知の方も多いことだろう。この漫画の中で唐突に「ここで魔太郎がいったい何回殴られたか数えてみよう」という説明が現われ、『魔太郎なぐられ名場面集』なるものが登場する話がある。いままで魔太郎が何回殴られたかが発表されるわけだが、なんとその数５７３回！

と、ここで５７３という数字が登場したが、自分の記憶の中ではせいぜい２００回程度だった。「２１３発のビンタは魔太郎が殴られた数とほぼ同じだぞ！」とかなんとか書いてうまいことまとめようかと思っていたが、実際調べてみると５７３回。秋山と鈴木みのるが出したビンタの約2倍という数字。ビンタは霞み、魔太郎が殴られたエピソードだけ際立つことになってしまった。なのでこの例えはなかったことにしよう。

とにかく、想像できないほどの、そして何かに例えることができないほどのビンタが飛び交った試合だった。その説明だけでも鈴木みのるが不敵に笑いながらビンタするさまが目に浮かぶ。実に鈴木みのるらしいビンタだ。だが、ビンタは計２１３発、一人あたり単純に計算して約１０６発のビンタを繰り出したわけだ。約１０６発すべて不敵な笑みのまま行なったとは考えにくい。

不敵に笑いながらもあれば、同じ笑いでも「思い出し笑い」というのもあったはずだ。鈴木みのるが思い出し笑いをしながらビンタ。２１３発もあったわけだから1発くらいはそんなビンタもあっただろう。前日見た『エンタの神様』のことでも思い出してクスクスと笑いそうになったのではと考えられる。

しかし試合中、無関係なことで笑うわけにはいかない。そこで笑いを堪えながらのビンタというのもあったことだろう。自分の太ももをつねりながらビンタしたかもしれない。



3・5NOAH武道館大会で行われた王者・秋山vs鈴木みのるのGHC戦はビンタの嵐。王座は防衛したものの試合後は「張り勝ったのは彼じゃないですかね」とビンタ戦では敗北を認めた秋山。みのるに張り勝つのは誰だ!?

もちろん笑いだけではなく、鬼の形相でのビンタもあったはずだし、最初はふざけあってビンタしていたのにいつしかヒートアップしたビンタもあったのではないかと思われる。もしくは、ビンタするつもりはなかったのだが偶然、鈴木みのるの手が秋山の頬に当たり、「ごめん」と謝ったが秋山がちょっと不機嫌になって「ごめん。怒ってる？」と鈴木みのるが聞くと「べつに怒ってない」と少し怒りながら秋山が言い、鈴木みのるが「本当に怒ってない？」としつこく聞いたために「怒ってないって言ってるだろ！」と秋山が怒り、そこから始まったビンタもあっただろう。

また「しっかりしろ！」という意味のビンタもあったはずだ。錯乱状態だった秋山が我に返り「あれ？　俺いままでいったい……？」と呟いたと思われるビンタだ。

じつは秋山の頬に蚊が止まっていて、それを退治しようとしたために結果的にビンタになった。ビンタの数は計２１３発、そんな定番な理由があってもおかしくはない。また２１３発中８発は秋山と鈴木みのるが二人で歌った『ハイスクールララバイ』前奏部分の振り付けによるものであったとも考えられる。

そうこうしているときに鈴木みのるが突然のビンタを秋山に。倒れこむ秋山。「いきなり何すんだよ！」そう怒鳴りかけた秋山の横を数発の銃弾が通り過ぎていく。「……お前がビンタしてくれてなかったら、俺は、いま頃蜂の巣状態……」そう、鈴木みのるのビンタは秋山を救うためだったのだ。そんなビンタもあったのではないだろうか。

「もーっ、エッチ！」そんな言葉とともに放たれたビンタもあっただろう。

「もーっ、鈍感！」そんな言葉とともに放たれたビンタもあった。

「もーっ、しらないんだから！」そんなビンタもあった。

「もーっ、優柔不断なんだから！」そんなビンタさえもあった。

「自分の胸に聞いてみなさいよ！」そんなビンタだってあった。

「いまのはシオの分。次はカクの分。これはルカワの分。次はタバコを押し付けたリョータ君の分。そしてこれはリョータ君と折られたモップの分」と言いながらのビンタ。「モップはてめえが……！」秋山がそう言う暇も与えずにビンタが飛ぶ……。

こんな様々なビンタが飛び交った試合は、28分15秒リストクラッチ式エクスプロイダー→ビンタで秋山の勝利。ジャイアント馬場の身長の２０９を凌ぐ２１３という数字を残して、秋山はこの日、馬場越えを果たしたのかもしれない……。

そういうわけで結局何を言いたかったかというと、ノアで今度開催されるらしい『いぶし銀トーナメント』に興味津々ということだ。２１３回のスモールパッケージホールド合戦などが飛び出しそうで、いまから胸が高まる。

これは久々に私を会場へと足を運ばせる理由として充分なものとなることだろう。みなさん会場でお会いしましょう。



マガジンハウスから1575円（税込）で絶賛発売中のせき詩郎こと、せきしろ本『去年ルノアールで』。「現代ストレス社会における究極の癒し系娯楽エッセイ」と斎藤彰俊も賞賛するこの本を読まないヤツは極刑ッ!!

Seki Shiro

◎特にありません。強いて言うならば「サイレン2」をクリアしたことぐらいです。

金ちゃんのどこまでやるの？

イラスト◎中川画伯

●番外編 **史上最狂！ 結婚式の思い出**

――金原さん、じつは今回コラムはお休みなんですよ。

金原 え！ なんで!?

――いや、今回は金原さんのパンクラス・ヘビー級王座決定トーナメント出場（4・9ディファ有明）が決まったということで、特別版としてインタビュー形式で行なわせていただこうかなと。

金原 なんだ、そうなんだ。まさかこの長寿連載を打ち切ろうとしてるんじゃないかと思ったよ（笑）。

――で、早速ですけど試合が決まったいまのお気持ちはいかがですか？

金原 いや〜、やっとだよね。２００６年も4月になってようやく初仕事ですよ（苦笑）。でもさぁ、前回のコラムで俺「減量宣言」したじゃん？

――そうでしたよね。今年は85キロか83キロで闘っていくって。

金原 だから、ちゃんと減量に取り組んで、93キロから88キロまで5キロ落としたところだったんだよ、それで身体軽くなって動きやすいなぁ〜と思ってた矢先に99キロ以下契約のヘビー級トーナメントのオファーが来るんだからね（苦笑）。

――ウェルター級に落とそうと思ってたのに、なぜかヘビー級（笑）。

金原 そういう運命にあるんだよ、俺は（笑）。だから、ちょっと出ようか出まいか迷ったんだけどさ、金原家の生活を考えたら迷ってる場合じゃねえなと思ってさ（笑）。

――半年ぶりにせっかく入った仕事ですからね（笑）。

金原 しかも、トーナメントだからさ、ちゃんと勝ち上がれば4月に1回戦、6月に準決勝、8月に決勝と、久々に連続で試合ができるわけじゃん。フリーとしては、その魅力に負けたよね。だから、この前まで減量してたのに、これからは逆に増量ですよ（笑）。

――でも、金原さんにとってもチャンスですよね。優勝したら、パンクラスのヘビー級チャンピオンという肩書きが手に入るわけですからね。

金原 そうだね。やっぱりチャンピオンベルトを巻いてみたいっていうのは、プロレスファンの頃からずっと思ってたことだからね。ただ、体重差がかなりあるから、それがちょっと気がかりだよね。1回戦で闘うアルボーシャス・タイガーって、試合は去年10月に高橋（義生）選手とやったのしか見たことないけどさ。身体大きくて力は強そうだったもんね。パワーもありそうだし、打撃もうまいみたいだから、気を引き締めて頑張るよ。これに勝ったら、杉浦（貴）君と当たるかもしれないからね。これは楽しみだよ。

――金原vs杉浦が実現したら、目玉カードでしょう。杉浦選手とは昔けっこう練習したことあるんですよね？

金原 そうだね。高田道場とかで何回か練習したことあるよ。ノアのファンとかは知らないかもしれないけど、杉浦君は普段から総合の練習ばっかりやってるからね。

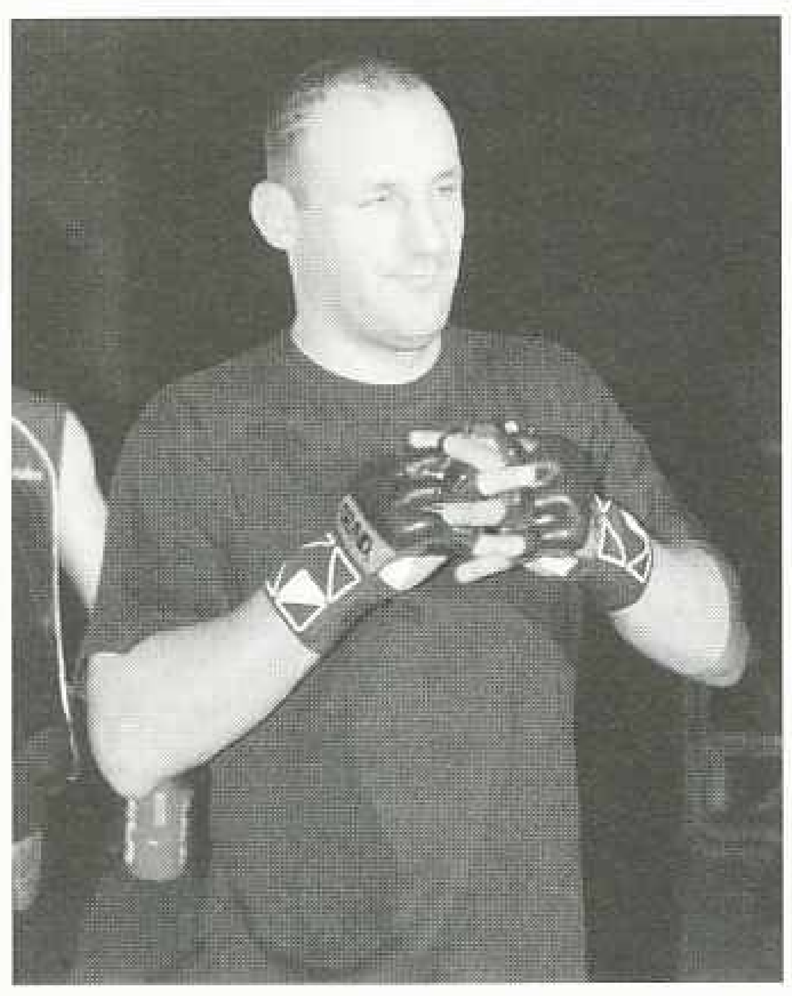
――前回、一緒に練習したのっていつ頃なんですか？

金原 ずいぶん前だよ。もう3年ぐらい前じゃないかな。だからどのぐらい強くなってるか、当たるのが楽しみだよ。でも、その前に1回戦を油断しないでキッチリと勝たないとね。まあ頑張りますよ。試合についてはそんなもんかな。

――もう試合についてはいいんですか（笑）。

金原 そんなにしゃべることもないでしょう（笑）。それよりさぁ、今回のコラムは結婚式のネタにしようと思ってたんだよ。

――そういえば先月、滑川（康仁）さんの結婚式があったんですよね。どうでしたか？ 久々に凄いメンバーが集まったって聞きましたけど。



金原の1回戦の相手は、ラトビア士道館所属のアルボーシャス・タイガー。士道館全世界オープン選手権を2連覇し、総合でも「ミックスド・ファイト・バルチック・オープン」で優勝している強豪だ。

金原 そうそう。元リングスだけじゃなくて、いろんな選手とか関係者が集まっててさ、たぶん滑川が一度でも練習したりお世話になった人全員集めたんだと思うけど（笑）。それで高山（善廣）君と「こんなにみんな集まる機会ってなかなかないよね。次は松井（大二郎）の結婚式かな」とかしゃべってたんだけど、そしたら高山君が「いや、次に集まるのは和田（良覚）さんの葬式かもしれませんよ（笑）」とか言って盛り上がってたんだよ。

――ダハハハ！ ひどいこと言いますね（笑）。それだけのメンバーが集まると、何か“事件”はなかったんですか？

金原 いや、ちゃんと盛り上がって、いい結婚式だったよ。それにひきかえ、俺の結婚式は最低だったなと思ってね（笑）。

――7年ぐらい前にリングス勢とUインター勢が競い合うように飲みまくったという伝説の結婚式ですね（笑）。

金原 そう。しかも俺は新郎だから、双方からメチャクチャ飲まされてさ、途中からまったく覚えてないんだけど、あとからビデオで見て冷や汗かいたからね。

――そんな衝撃映像でしたか（笑）。

金原 だって俺、最後の挨拶してないんだよ。マイク握ってしゃべろうとした瞬間に、口からたらふく飲まされた赤ワインと白ワインが混ざった、薄紫色の液体をピューっと大量に吐き出して、そのまま失神して倒れてんだから（笑）。

――ダハハハ！ それはたしかに最低ですね（笑）。

金原 そんな結婚式聞いたことないでしょ？ でも、みんなには「凄くいい結婚式だった」って言われたんだけどさ（笑）。

――異常に盛り上がったことはたしかでしょうね（笑）。

金原 でも、俺はまったく覚えてないから。結婚式やってたはずなのに、気づいたらホテルで寝てたからね。それで嫁が部屋に帰ってきたとき「ごめんね、ケーキカットしないで」って謝ったらさ、「何言ってんの？ あんたケーキカットしたあと、真っ先にケーキ食べたわよ」って言われてさ、もう何から何までまったく覚えてないんだよ（笑）。

――ちなみに、新郎が途中でブッ倒れて、最後はどうやって式は終わったんですか？

金原 いや、俺もどうやって終わったんだろうってビデオで見たらさ、俺が倒れたあと、前田（日明）さんがパッと前に出てきてマイク持ってさ、「金原がこんなふうになっちゃってすいません」って謝って、俺の代わりに前田さんが長い長いスピーチしちゃってんの（笑）。

――ダハハハ！ なぜか新郎じゃなくて前田さんが挨拶（笑）。

金原 だから、嫁からは「ちゃんとした結婚式をもう一度やり直したい」って言われたよ（笑）。

――そりゃそうでしょうね（笑）。

金原 両親への挨拶も何もしてないんだもん。2次会なんて俺が倒れていないのに、みんなで勝手に盛り上がってたらしいからね。新郎新婦のいない結婚式の2次会なんて聞いたことないでしょう（笑）。

――もはや結婚式というより、リングスvsUインターの単なる飲み会（笑）。

金原 でも、その代償は大きかったよ。来てくれた人みんなが酔っぱらってるわけじゃない。だから、式が終わったら器物破損が凄いのよ（苦笑）。

――リングス、Uインターと言えば、忘年会で店を破壊する人たちですからね（笑）。

金原 高山君が式場の家具に腰掛けて壊して弁償になったり、山本（宜久）さんも酔っぱらって式場の鏡に正拳突きで叩き割って、10万円以上する鏡弁償させられたりさ（苦笑）。俺は俺でタキシードはレンタルだったんだけど、ゲロまみれにしちゃったから買い取りになったりね。余計な出費だらけだったよ。式場の絨毯までワインで汚しまくったから、これで絨毯まで買い取りだったら何百万だろうなと思ってビクビクしてたら、それはクリーニングでなんとか落ちて大丈夫でほっとしたけど、ホントにとんでもない結婚式だったよね。

――リングス、Uインター勢揃いしたおかげで（笑）。

金原 あんなメンバーが揃うことはもうないだろうね。ホントにそれこそ和田さんの葬式ぐらいでしょう（笑）。

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中→金原弘光オフィシャルHP　http://www.hiromitsu-kanehara.com/

掟ポルシェの萌え萌え女々苑



イラスト◎ゴローちゃん

連載開始早々、小学生レスラーやテメェんとこの新入り編集者に話を聞くなど禁じ手続きの『萌え萌え女々苑』そろそろちゃんとしないと立派な大人から怒られそう！　ヤバイ！……と思ってたところに先月アストレスを卒業したばかりのど真ん中アイドルレスラー・風香が来た！　これで今月はダイジョーV！　萌え死ぬ覚悟でアリコの掛け捨て保険も加入済み！　俺が死んだら墓に『萌え～』と彫っといてくださぁ～い！

風香　萌え路線は2・26で卒業しました。

掟　エ～～～ッ!?

風香　ちょっと遅かったですね（笑）。

掟　あ、あの、〝萌え〟を卒業した途端に、急に一人称が〝オレ〟になったりとかしないですよね？　角刈りになってツルハシ&ヘルメットの現場ルックで入場したり。

風香　全然そんなのないです（笑）。普通にいきます。

掟　たしかにそれじゃぬまっちです。そういう極端なキャラ変更じゃないんですね。

風香　はい。萌え封印はただ自分に甘えをなくすっていうだけで。周りの人からしたら何も変わらないかもしれないけど。

掟　風香選手は元々プロレスラーになりたかったわけじゃないんですよね？

風香　全然です。芸能がやりたくて……ていうか、SPEEDになりたかったんです！　自分がメンバーになりたいぐらい好きです！

掟　じゃあアイドルになるために田舎から上京して……。

風香　（遮って）いえ、SPEEDになるためです！（笑）。そのために『月刊オーディション』という雑誌を買っていろいろ応募したんですけど。

掟　SPEEDになるためにJDスターに？　募集要項にはなんて書いてあったんですか？

風香　「映画に出れます」みたいな。一応、「女子プロレスの2年間の修行期間があります」って書いてあったんですけど。説明聞いたときも、「本物のレスラーじゃないから受け身とかそんなに取るわけじゃないし」とか言われて、アタシはてっきり芸能人がするプロレスごっこだと思ってたんです。

掟　軽い気持ちで始められるよっていう騙し文句ですね（笑）。まぁそのおかげで、いまの風香選手があるなら問題なしです！　しかし、SPEEDになる夢からは、かなり迂回しちゃってますよね。

風香　そんなことないです！　まだいけますよ！



第5回 風香（JDスター）の巻

■本名・柿本風香（弟の大地はDDT所属のプロレスラー）。1984年8月20日生まれ。A型。奈良県出身。157cm、50kg。小中高とバスケで県選抜オールスターに選出されるなど実はかなりの運動神経の持ち主。2・26新木場大会で2年間のプロレス修行を終えアストレス&萌えキャラから卒業するも、今後もプロレス続行を宣言。『週刊プレイボーイ』でも取り上げられるなど大好評のブログは→http://blog.livedoor.jp/jdstar_fuka/　※ JDスターでは『格闘美』で活躍するヒロイン&新人レスラーを絶賛募集中。詳細はP119参照ッ!!

掟　なんでそんなに好きなんですか？

風香　中学、高校と結構イジメられるタイプで……。辛いときに救ってくれたのがSPEEDの歌だったんです。

掟　女子のイジメは陰湿ですからねぇ。当然、カラオケでも？

風香　はい、SPEED全部歌うんです、上から。「4704～」がSPEEDの曲なんで、「470401」とか「02」とか順番に入れていくんです。

掟　入力コード覚えてるんだ！　スゲェ！

風香　邪魔されないようにカラオケは一人で行きます。

掟　家の中でCDに合わせて歌うだけでも一緒な気がしますけどね（笑）。いや、居住環境とかもあるから大声では歌えないか。

風香　お昼なら大丈夫ですよ。隣近所の人が何時から何時までいないか一応チェック済みです。

掟　やってることが空き巣と同じですよ、それ！（笑）。そういえば風香選手のブログ、すんごい更新頻度ですね。

風香　はい……アタシ、友だちがいないんで（笑）。

掟　たかがブログの話だと思っていたら、何か聞いてはいけない領域に入ってきましたね……イジメられるわ、友だちはいないわ、一人カラオケはするわ。

風香　根暗ですね。引きこもりですから……。会ったときにしゃべってくれる人はいっぱいいるんですけど、連絡取り合って遊ぶとかいう人は、同期の二人だけで。一人はもうプロレスは辞めちゃいましたけど。

掟　3WAYダンスが限界、と。プライベートでも同期と仲がいいって珍しいんじゃないですか？

風香　そうなんですか？

掟　人を殴ったりする商売だから闘争心を持ってないとダメだろうし。一日も早く同期よりも抜きん出てやろうとか。

風香　あ～、そうですよね。でも、その三人には欲がなくて。

掟　持ってくださいよ、欲！

風香　アタシはまだ人前に出るのは嫌じゃないんですけど、その二人は人前に出るのも嫌だし。

掟　それ、レスラーに向いてませんよ！　いまはプロレスをやってて楽しい時期みたいですけど、同時に総合格闘技の試合にも出てるんですよね。

風香　はい。総合は始めて半年です。初戦は2週間の練習で試合に出たんですよ。

掟　試合のDVDも観ましたが、初戦であれだけ動けたら凄いセンスいいですよ！　惜しくも腕ひしぎ逆十字で負けちゃいましたけど、あれ、極まってませんでしたよね。

風香　はい。ポカーンとして、意味がわかんなくて。何がダメで止められたのかわかんなくて。柔らかいんですよ、アタシの関節。

掟　ダブルジョイントだ！　アントニオ猪木と同じ才能を持つ女・風香！

風香　そうなんですか？　始めて2週間で細かいルールもわかんないから、たぶん自分は何か反則しちゃったんだろうなと思ってました。

掟　見えないところで相手の目ン玉くり抜こうとしてたとか？　ダニー・ホッジみたいに。

風香　ダニー・ホッジ？　ちょっと意味がわからないです。

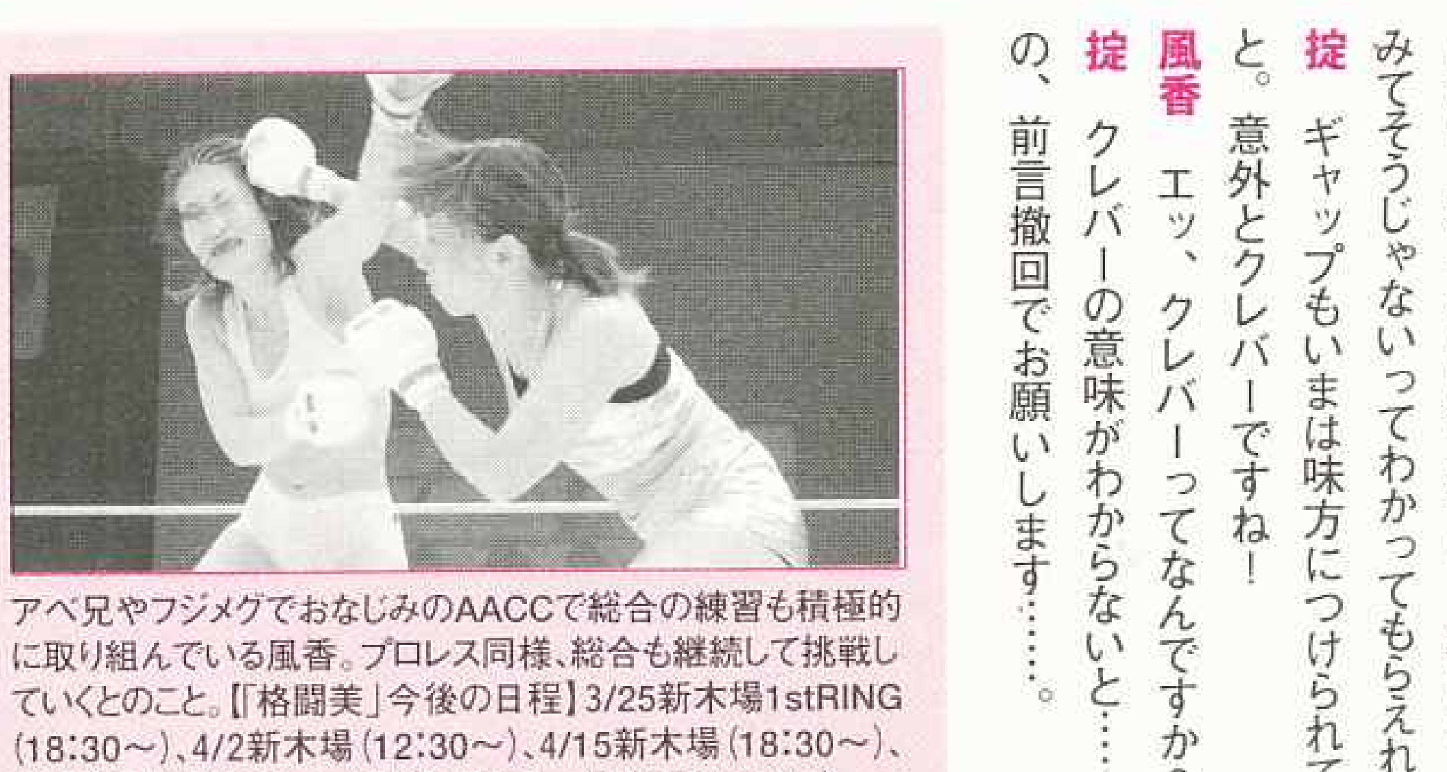
掟　何か、いま自分が流智美になったような錯覚が……表現がクラシックすぎました。しかしこの萌え萌えなルックスのおかげで総合でも相手にナメてかかられてますけど、それはちょっと心外ですよね？

風香　いや、嬉しいですよ。最初は油断してくれるんで（笑）。でも、そのギャップっていうのはずっとテーマにしてきたことだから。弱そうに見られても、実際やってみてそうじゃないってわかってもらえれば。

掟　ギャップもいまは味方につけられてると。意外とクレバーですね！

風香　エッ、クレバーってなんですか？

掟　クレバーの意味がわからないと……あの、前言撤回でお願いします……。



アベ兄やフジメグでおなじみのAACCで総合の練習も積極的に取り組んでいる風香。プロレス同様、総合も継続して挑戦していくとのこと。【「格闘美」今後の日程】3/25新木場1stRING（18:30～）、4/2新木場（12:30～）、4/15新木場（18:30～）、4/23新木場（12:30～）【問】JDスター（03-5524-2339）

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）掟ポルシェのバンド『ロマンポルシェ。』の4月ライブ予定！　4・19（水）新宿ロフト（03－5272－0382）。対バンはラムライダー、ニルギリス、パフューム!!　チケットはローソンチケット（L：32844）チケットぴあ（P：223－667）、新宿ロフト店頭で発売中！　その他諸々の出演情報などは掟ポルシェBLOGをご参照ください！　【http://blog.excite.co.jp/porsche】

※ジョシュとの奇妙な関係、勉強三昧時代の話など衝撃事実満載の風香インタビュー、続きは「kamipro Hand」で近日公開!!

チーム鈴木の明るい未来

世界に羽ばたく夫婦コラム



波瀾万丈の鈴木家も花粉とRGにはタジタジ？　今月は健想と浩子がの考えるプロ論を語り尽くします!

健想　嫌な季節になってきたよ……。

浩子　花粉症ね（笑）。君のはひどいからね〜。

健想　この季節は毎年本当に憂鬱。とめどない鼻水だけでブルーになる。何年か前にはそれを止めようとして両方の鼻の穴にティッシュで栓をして、詰めすぎて完全に栓をしちゃったために、くしゃみをした瞬間に空気が逆流して肺に穴が開いた……。

浩子　あれはひどかったよ。考えられない！　笑えなかったもん。

健想　俺だって笑えなかったよ。だけどあのときは橋本（真也）さんの付き人で、同じく重度の花粉症だった橋本さんがそう教えてくれたんだよ（笑）。

浩子　考えてみたらアメリカに行ってからあんまりひどい花粉症になってないね。

健想　NYもひどいとは聞いてたんだけど、日本を離れてからそうでもない。去年なんて、くしゃみもまったく出ないまま、この季節が終わってた。

浩子　去年はフロリダに引っ越してたから、海も近いし、空気中に舞う花粉も少なかったんじゃない？　ただアメリカで市販されてる花粉症の薬はすごく強くて一発で止まるんだよね。日本に住んでた頃は旅行に行って大量に買い込んできてたけど、実際住むようになったらいらなくなっちゃった。

健想　今年もまだ大丈夫だから。このまま出ないといいんだけど。鼻水とくしゃみが止まらない中で試合するのはきついから。

浩子　試合といえば、我が鈴木家にはRGが加入したけど……。

健想　って、あなたが入れたんでしょ？（笑）。

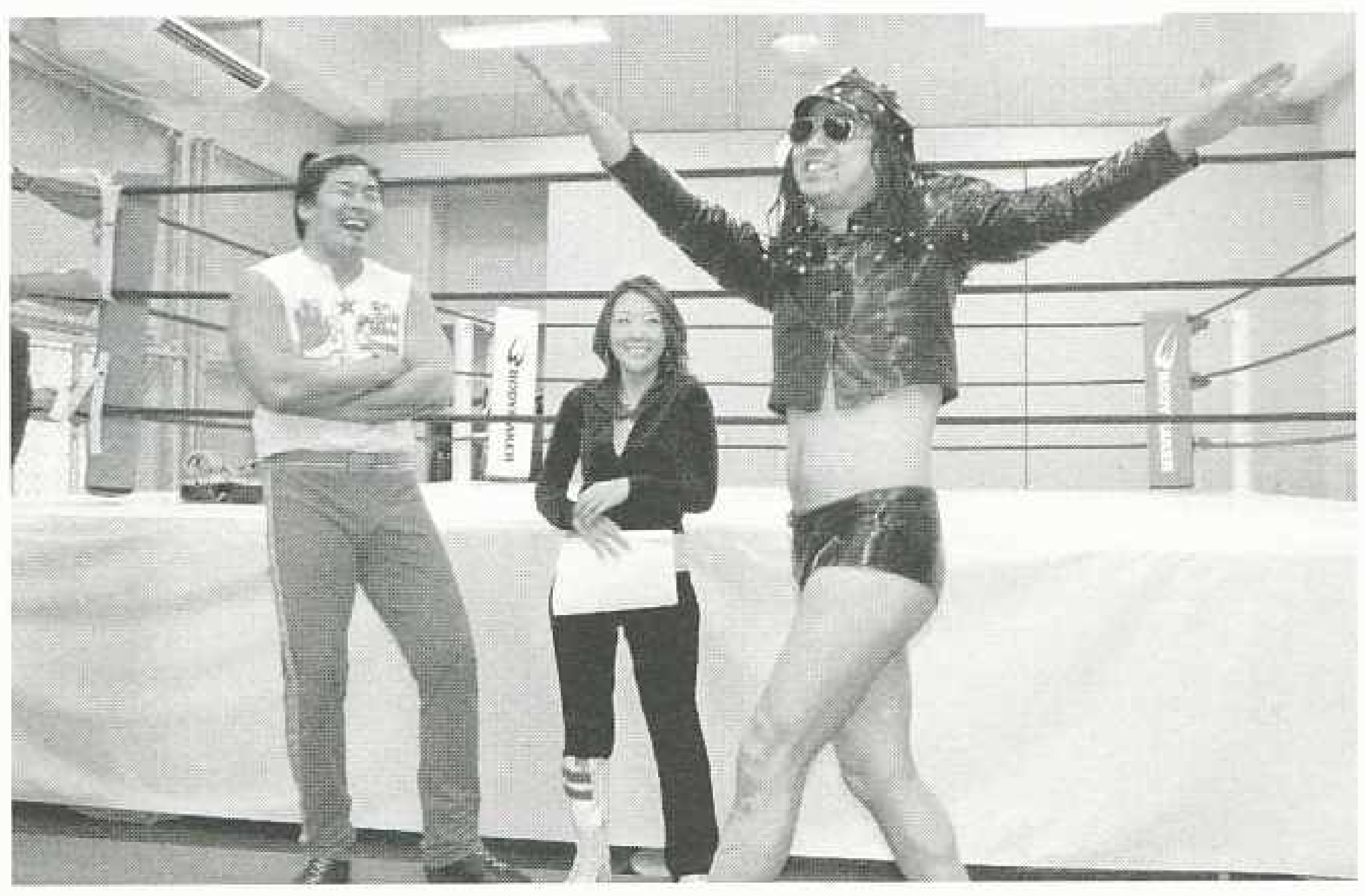
浩子　そうそう。いやいや、プロレスどうこうってことは選考内容とは別よ。

健想　そりゃそうさ。

浩子　だけどキャラクターが面白いじゃない？　HGはすっごく人気があって、綺麗でさ、見た目もよくて。ところがRGはまったくもってマイペース（笑）。全然わが道。おなかは出てるし、毛は生えっぱなしだし（笑）。

健想　ダンスは軸がぶれまくりだし（笑）。あの〝おジャーマン〟だって、ギャグにならない首への衝撃でしょ（笑）。ツボにはまりまくりですよ。一緒にいい仕事できる気がする。

浩子　会見で並んだ、私と健想とRG。もの凄いミスマッチ（笑）。



RGとの記者会見では笑いをこらえきれない鈴木家であったが……。

健想　どこで突っ込んでいいのかもわからない間の悪さ……たまらないね。凄い人材を獲得したよ（笑）。

浩子　ただ、学生時代にプロレス経験あるわけでしょ？

健想　俺は、正直そういうの関係ないと思ってる。それってカラオケがうまい素人と一緒。ちょっとカラオケがうまいと「できる！」と思っちゃう。だけど実際にはプロの歌手とは全然違うんだよ。ちょっとかじるとできると思っちゃうんだよ。とくに〝プロの国〟の欧米に対して、日本は〝広く浅く〟の国。ちょっと専門外のことができると「これもできる！」って評価される。

浩子　だからアメリカでは、何かを「出来ます！」っていう子のスキルはハンパじゃないんだよね。

健想　こう言うとちょっと矛盾するかもしれないけど、俺の中で和泉元彌はプロレスがうまかったよ。負けて言うのもなんだけど（笑）。プロレスでは表現力っていうのもすごく重要な要素だと思うわけ。その中で、彼の表現力って、やっぱり見習うべきところもあるよ。さすがに日本の古典芸能の継承者だなと思う表現力が絶対にある。どうしても日本のプロレスではそこを二の次にしがちだけどね。実際、いまもレスリングがすげぇうまいレスラーも、身体の大きいレスラーも大勢いて、それでもプロレス人気はいまいちなのが現実でしょ。原因は強さとか見た目とかリング自体の内容とかそればかりじゃない、というのが俺の持論。例えばブロック・レスナーはWWEでスーパースターだけど、はっきり言って新日本ではいまいち名勝負が生まれない。じゃ、これが新日本のせいかって言うと……。俺はそうじゃないと思う。日本のレスラーの求めるレスリングとブロックのレスリングが違うっていうのもひとつの理由じゃないかな。試合見てるとブロックの〝表現力〟はやっぱり凄い。健在だよ。やつがWWEでやってた時代と比べていまは力を抜いてると思えない。ところが、それでも見ていて浮いちゃってる気がするわけ。もちろん相手の選手たちも浮いちゃう。どちらがうまいとか下手とかでもなく、生かす生かさないでもなく、お互いが求めてるレスリングの方向性が違うだけ。俺はアメリカでの経験でブロックのやりたいレスリングがなんとなく見える気がする。試合してみたいなとも思う。〝表現力〟をどう捉えるかという意味でね。そういう方向で考えたら、和泉選手（笑）もブロックと試合ができるんじゃない？

浩子　それが健想の言う「和泉元彌はプロレスがうまい」っていうことの意味ね。

健想　武藤（敬司）さんだって、橋本さんだって、やっぱスターはそういう《表現力》に長けてる。武藤さんはプロレス自体ももの凄くうまいけど、〝表現力〟だって相当のもの。大事だよ。と、そういうことを考えると、プロレスの経験が云々とかじゃないところで……。

浩子　RGを評価すると？（笑）。

健想　これまでのHGの試合だって、経験あるからとかそういうことだけが理由じゃないよ。レスラーの習得すべき〝表現力〟があるってのも重要なファクターだよ。

浩子　たしかに、ジャイアント馬場さんとかアントニオ猪木さんとか往年のスーパースターはものすごい個性。それだけ個性を目立たせたのは……やっぱり〝表現力〟かも。

健想　だろ？

浩子　だね。

健想　うまくまとまった!!

浩子　今月からはメキシコCMLLでの試合も始まるし、各土地でいろんなレスラーの姿を見て様々な〝表現力〟を学べるといいね。

健想　だからいまはいろんなリングを体験して、見て、勉強したいんだよね。ありとあらゆるプロレスをやりたい。なんでも！

浩子　それで自分の〝色〟を見つけられたら最高だね！

※この原稿はハッスル3月シリーズ前に書かれたものです。

日本在住のメキシコ人3人組がアメリカンプロレスのウワサを追いかける

アメプロ★ウワサル〜ン

vol.5

いよいよ今年もやってきました！ プロレス界最大の祭典『WRESTLEMANIA』の季節が！ 全世界が注目するこの大会の見どころを表と裏からサクッとお届けします。

ホセ 口は悪いがプロレス魂を持つ熱い男。広い情報網を持ち、行動力もある。

ミゲル プロレス業界内部と太いパイプがあるクールな男。最新情報をいちはやく握る。

パンチョ 他の二人の情報に「へぇ〜」とか「はぁ〜」とか言ってることが多い。



イラスト©エロコエロオ／Photo©George Napolitano

パンチョ いよいよ今年も年間最大の祭典『WRESTLEMANIA』（以下『WM』）が近づいてきましたね。今年はシカゴで開催ですけど……。

ホセ （さえぎって）俺は行くぞ。

ミゲル 思案中だな、俺は。

パンチョ 僕は仕事が入ったんで行けないんですが……。なんか同時期にイリノイ州でROHが大会を開催するみたいですね。

ホセ そうなんだよ。もちろんROHも観に行くし、久々に開催されるWWEのファン感謝イベント『AXXESS』にも行くし、『HALL OF FAME』（殿堂入り）パーティーにも行くぞ。今年は『WM』前日にUSAネットワークで午後11時から生中継されるんだけど、これも観に行くぜ！

パンチョ うらやましいなぁ（泣）。

ホセ 泣くな、ボケ。他にも涙を飲んでる人は大勢いるんだ。特に今年は近畿日本ツーリストで『WM』観戦ツアーの企画を立ち上げた永﨑さんも行けないそうだ。

ミゲル えっ、そうなの？

パンチョ あのターザン山本！のコラムでもおなじみの？



ホセ そうだよ。なんでもあの方は昇進して支店長になって、ツアー自体も別の支店の案件となったから今年は行けないらしい。ECWを立ち上げた初代オーナーのトッド・ゴードンのような心境だと嘆いていたよ。まあ、ツアー自体も最盛期は300名を超えていたのが、今年はいまのところ二ケタに落ち着いているみたいだな。

パンチョ この数字は日本におけるWWE人気のバロメーターみたいなものですよね。

ホセ まあ、世間一般まで巻き込むような一時期の勢いはなくなってきているということなんだろうだな。

ミゲル ビンスが出てきたことでストーリーには軸ができたけどね。

ホセ たしかに。今年最大の見どころはビンス・マクマホンvs〝HBK〟ショーン・マイケルズだよ。そこにブレット・ハートが来るのかどうか？ すでに殿堂入りすることが決まっているからパーティーには来るんだけど、果たして『WM』の当日に会場に現れるのか、と注目が集まってるよ。ちなみにパーティーでのプレゼンテーターはストーンコールドに決定済みだ。

パンチョ いいですねぇ、この顔合わせ！

ミゲル ビンスとブレットは絡まないのか？

ホセ ブレットは、ビンスとショーン・マイケルズに裏切られた97年のモントリオール事件から約10年ぶりのWWE登場なんだ。その後にオーエンの事故もあった。浅からぬ因縁が渦巻いてるから、当日まで何をやらかすか分からないという状況だよ。ビンスはもちろん、ショーン・マイケルズもこのパーティーには出席するはずだから見逃せないだろ？

パンチョ 生で映画『レスリング・ウィズ・シャドウズ』の再現が見られるかもしれない！

ミゲル その他の受賞者は？

ホセ シェリー・マーテルとエディ・ゲレロだね。あと何人か追加になるかもしれないけど。ダスティ・ローデスも候補に挙がったみたいなんだが、来年以降になるようだ。まあ、いまWWEでエージェントをやってるから、いつでも出来るってことなんだろう。

パンチョ 『WM』の他のカードは決まってるんですか？

ホセ トリプルHがジョン・シナのベルトに挑戦するんだ。『ROYAL RUMBLE』で優勝したミステリオはカート・アングル、ランディ・オートンとベルトを懸けて闘う。噂によると、エディへのはなむけでミステリオが王座を獲得するんじゃないかと言われてる。

ミゲル これは現場で見たら鳥肌立ちそうだなぁ。

ホセ それにストーンコールドの復帰も決定したんだよ！『SATURDAY NIGHT MAIN EVENT』っていう土曜日に放送する1時間枠の新番組でJBLと対峙する。これは噂の域を出ないけど『WM』ではストーンコールドvsハルク・ホーガンと言われてるよ。

パンチョ ホントに実現するんですかね？

ホセ いまだに何にも伏線がない状態だから、どうなるんだろう？ もう1ヶ月もないのにどうやって盛り上げるのか気になるな。まあ、このビックネーム同士の対戦なら「前振りはいらないんだよ」ってことなのかもしれないけど（笑）。

ミゲル 世間的にも、プロレスファン的にも、このカードが一番響くはずだね。実現させてほしいなぁ。

ホセ これ以外のカードは、アンダーテイカーvsマーク・ヘンリーの棺桶マッチ、ビッグショー＆ケインvsカリート＆クリス・マスターズ、リック・フレアーvsシェルトン・ベンジャミンvsRVDvs『SMACKDOWN！』選抜選手によるマネー・イン・ザ・バンク戦、エッジvsミック・フォーリーのハードコアマッチだ。

ミゲル こういっちゃなんだけど、どっかで見たことあるようなカードが多いような気がするな（笑）。

ホセ ロックは今年も出ないな。もう他団体の大物がWWE参戦という路線も駒が尽きた感はある。

ミゲル それでも、『WM』のチケットは完売だし、今年に入ってからの『RAW』の視聴率はここ3〜4年の中でもかなり好調だって聞いてるぞ。

ホセ ビンスが出てる影響だろうな。

パンチョ また「キス・マイ・アス・クラブ」とかやって、自分の尻にキスをさせてますからね。見ちゃうでしょう、これは！

ホセ ちなみにHBKは『WM』を最後にパートタイム的な参戦形態になるらしい。最後の大舞台だからビンス戦では、乱入してくるマクマホン一家に次々とスイート・チン・ミュージックを決めて、勝ち名乗りを受けてるところにブレットが乱入してきてシャープシューターを決められる姿を見てみたいよ。

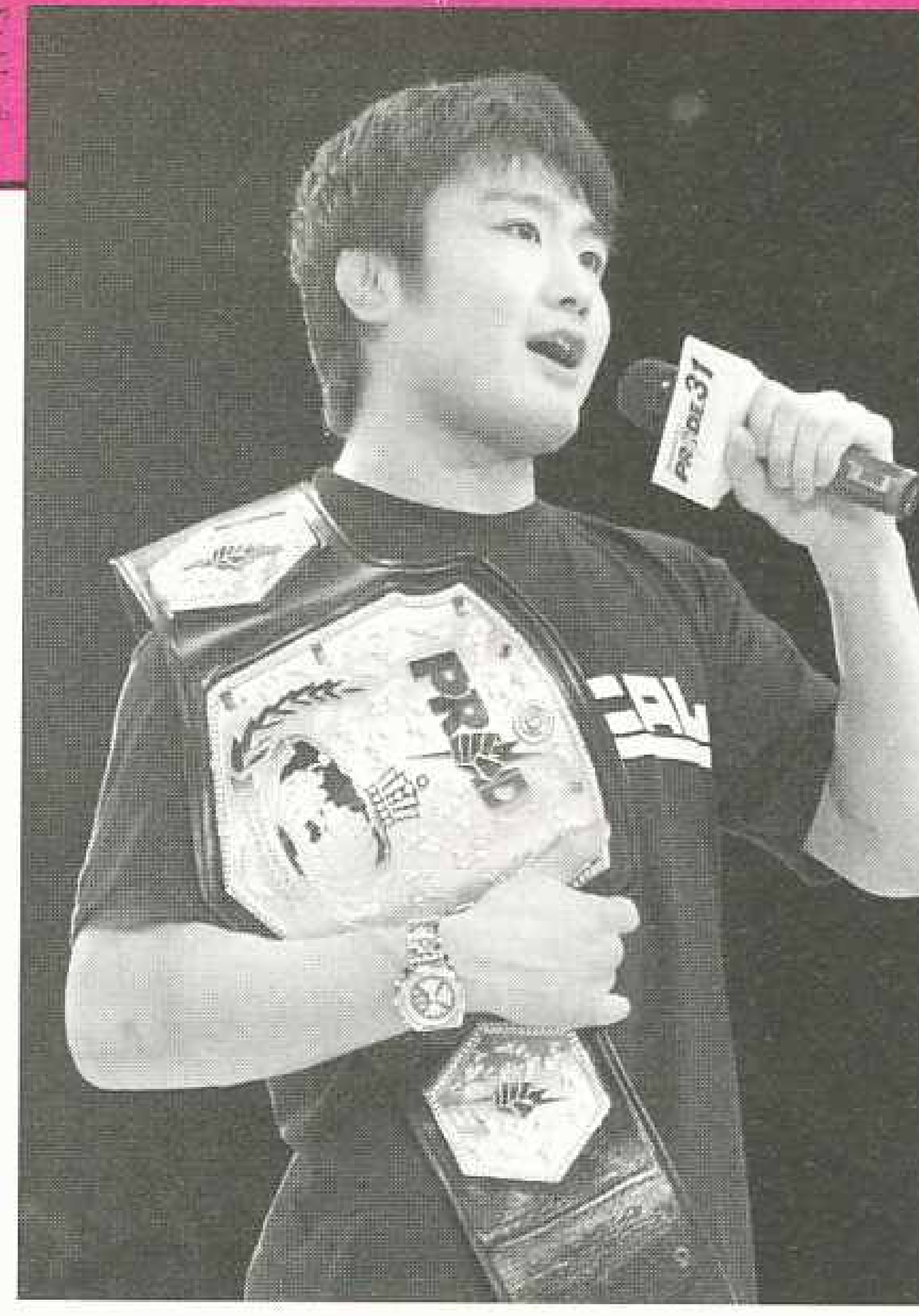
パンチョ 妄想の世界に突入してますね（笑）。モントリオール事件とは逆にブレットがシャープシューターを決める、と。

ホセ そこにジム・ナイトハードが出てきてゴング要請！ 最後はブレットがビンスとHBKにツバを吐く！ これが一番のハッピーエンドだよ。実現してほしいなぁ。

パンチョ 来月号では現地の模様を報告してください！

【06年3月某日、群馬県某所にて収録】

「逃げも、隠れも、倒れもしねえ。」ライト級〝絶対王者〟五味隆典、06年初試合がついに決定！


2月26日『PRIDE31』でチャンピオンベルトを肩にかけつつ、挨拶した五味。

五味隆典、06年待望の初試合がいよいよ決定！ 4月2日『PRIDE武士道―其の拾―』有明コロシアム大会にて、〝フロリダのリトルキング〟マーカス・アウレリオ選手と激突する！

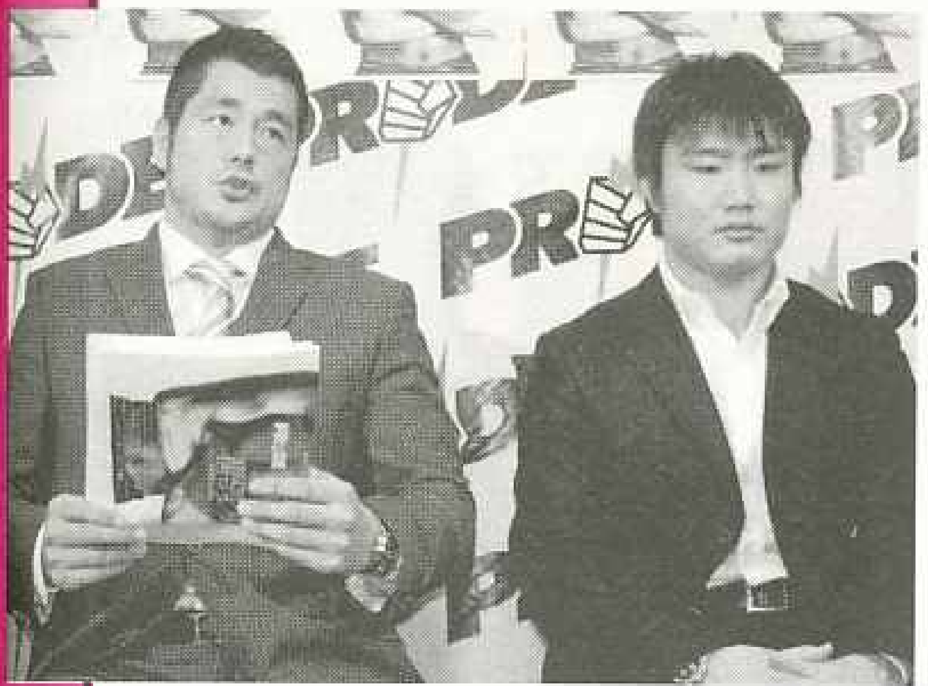
今年、初めてのPRIDE大会となった2月26日の『PRIDE.31』に、初の日本人王者となった五味隆典が登場！「今年1回目の試合を4月2日に有明コロシアムで、メインイベントでやらしていただくことになりました。チャンピオンらしい試合をしますので、遊びにきてください！」と大観衆にアピールした。この時点では五味の対戦相手は未定だったが、それから10日後の会見でついに五味の対戦相手が明らかになった。

会見では髙田延彦統括本部長によって、対戦相手がホイラー・グレイシーにも勝ったことのある実力者、マーカス・アウレリオ選手であることが明かされた。さらに「五味選手は世界中のファイターから首を狙われているが、今回は思いのほか（五味との）対戦に手を挙げる勇気のある選手がいなかった」と王者が強すぎるゆえのカード決定の苦労も告白。

一方、五味は「アウレリオ選手が対戦を受けてくれたことはありがたい」と感謝しつつも「出場メンバーの中で一番インパクトのある試合をしたい。メインらしくKOして気持ちよくお客さんを帰らせたい」と発言。アウレリオ選手に関しては「三角や腕十字は怖いけど、グラウンドでも上からいいパンチが当たれば終わる」と自信をのぞかせた。

今大会のポスターは「逃げも、隠れも、倒れもしねえ。」という五味隆典自身が語った言葉をメインコピーとして使用し、写真も五味ひとりだけのものを使用するなど、名実ともに〝PRIDEの顔〟となった五味隆典が完全な主役として登場する、重要な舞台。

ファンや関係者からの熱い期待を一身に背負いつつ、絶対王者、メインイベンターとしての重責を見事に果たすことができるか？ 4月2日『PRIDE武士道―其の拾―』から目が離せない！


『PRIDE武士道―其の拾―』へ向け、五味への大きな期待を口にした髙田統括本部長


『PRIDE武士道―其の拾―』に出場する日本人精鋭選手と。左が三崎和雄選手、右が今成正和選手。

見事、賞金100万円を獲得！「ディメンション・ゼロGP」初代チャンピオンに直撃！



『ディメンション・ゼロ』初代チャンピオンの中村慎太郎さん。表彰式で笑顔爆発！

プロプレイヤー制、高額な賞金制度が導入されたカードゲーム『ディメンション・ゼロ』。その公式大会「ディメンション・ゼロ　GP―1―」で優勝！　見事に賞金100万円を獲得したのが中村慎太郎さん（大学4年生）だ。初代チャンピオンとなった中村さんにいまの気持ちをうかがった。

「優勝した後、カードをやってる友人から『凄いな～！』と口々に言われましたね。あと親もびっくりしてました（笑）。賞金の入金も確認したんですが、いままで持ったことない金額ですので、やっぱり壮観でしたね。

カードの練習は、週1回知り合いが集まって情報交換したりする場で、3時間くらい必ずやってましたし、ゲームの駆け引きはそこで覚えました。友人はプロ資格を持つ賞金圏内の人ばかりなので、その中で練習できたのも大きかったですし、「強い友人との密度の濃い練習」という面では格闘技に近い部分があるかもしれません。

でも毎回、上位をキープするのは困難だと思いますから「これだけで食べていく」というのは、まだ難しいかも（笑）。

じつは僕、4月から社会人なんですよ。4月30日の第2回のGPにも出場枠を頂いてるんですけど、新人研修の真っ最中だと思うので、行けるか不安なんです。でも『ディメンション・ゼロ』初代チャンピオンとしては、今後とも頑張って両立して続けていきたいですね」（談）

ファースト・センチュリー
ストラクチャーデッキ
～武士道の定め～&～騎士道の誇り～
【発売日】2006年3月17日(金)
【税込価格】各1300円(税込)
【製品内容】カード40枚、ルールブック、クイックマニュアル、ゲームマット。



2·26 PRIDE.31波瀾続出!

風雲急を告げるPRIDE無差別GP

闘いはすでに始まっている!!


Emelia
nenko
Fedor

手術した右拳はいまだ
プレートが埋め込まれたまま!!

ヒョードルは本当に無差別級GPに出てくるのか

「いつ復帰できるか、現段階では具体的に言うことはできません」



階級の枠を取り外し、真の“最強の男”を決めるべく開催される『PRIDE無差別級GP』。しかし、その“人類最強”にもっとも近い男の出場にいま黄色信号が点滅している。今年1月末、古傷の手術をしたヒョードルの右手にはいまだプレートが埋め込まれたまま、復帰のメドが立っていないのだ。はたして、ヒョードルは本当に出場できるのか?

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

designed by hisa (TwoThree)

──ヒョードル選手が1月末に拳の手術をしたと聞いて、ファンはいつ復帰できるのか心配してるんですけど、いま現在はどんな状態なんですか?

ヒョードル　状態としては良好です。右手親指の付け根部分をメスで開けて、そこにプレートをはめ込んで固定させるような形をとったんですけど、手術の状態や術後の経過も医師側としては満足しているとのことです。

──ヒョードル選手は2003年も同じケガで欠場してますけど、そのときから続いているケガなんですか?

ヒョードル　そうですね。ゲーリー・グッドリッジと対戦したとき（03年8月）骨折してしまったのが始まりです。

──そのあと03年11月にミルコ戦をキャンセルして手術したと思うんですけど、そのときは完治しなかったんですか?

ヒョードル　ミルコ戦をキャンセルしたときは手術はしなかったんです。日本でレントゲンを一度撮って医者に診てもらったら手術の必要はないということで、指を固定して治療に努めたんですけど、時間や試合とともに状況が悪化していったので今回手術をしました。

──では、ここ数年は痛みをごまかしながら闘ってきたという感じなんですか?

ヒョードル　そうですね。ヘビー級のGPやミルコとのタイトルマッチなどがあって、治療に専念するわけにいかなかったので、負傷を抱えたまま二年間闘ってきたんです。

──そんな状態なのに、昨年まで「ヒョードルはミルコから逃げてるんじゃないか?」とか言われたりしたのは、相当腹が立ったんじゃないですか?（笑）。

ヒョードル　もちろんそれは不愉快なことでした。骨折していたのは事実ですし、レントゲン写真も公開したのにそういうふうに言われたのは残念です。だから、昨年8月のミルコ戦も準備段階においてトレーニングに支障が出ましたので、100パーセントの状態では挑めなかったんですよ。

──不完全な状態であれだけの試合をやったわけですか……。では、今回手術に踏み切ろうと思ったのはどういったきっかけからなんですか?

ヒョードル　試合を重ねるごとに痛みが強くなってきて手が動かなくなってきたので、ミルコ戦が終わったら手術をしようと思ってたんですよ。でも、大晦日という大舞台に出ることが決まっていたので、手術を年明けまで延ばしたんです。

──じゃあ、大晦日のズール戦はすぐに終わってしまいましたけど、あれは逆に長引かせるわけにいかないという気持ちもあったわけですか?

ヒョードル　それは痛みとは関係ありませんね。私は常に試合を早く終わらせようと思ってますから。

──では今後のことについてうかがいたいんですけど、ケガの状況からしてご自分では復帰はいつ頃になると思っていますか?





2・26『PRIDE.31』で、“レッドデビル第3の男”ゼンツォフが、ノゲイラに次ぐブラジルヘビー級の強豪ヒーゾをわずか25秒、左フック一発でKO！ヒョードルによってチーム全体がレベルアップしていることを感じさせた。

ヒョードル　いつ復帰できるか、私の口から具体的に言うことはできません。それは医者が判断することです。一度ロシアに帰っていま入っている金属のプレートを取り出す手術を受けなくてはなりませんし。ただトレーニングに関しては、いまでもできるものはやっています。たとえば来月は弟のアレキサンダーと一緒にコーカサス地方のキスロボツクというところで高地トレーニングをする予定です。

──そこでは、どんなトレーニングをする予定なんですか?

私の最大のライバルは
弟のアレキサンダーです
彼はノゲイラやミルコを
もう超えたと思います

ヒョードル　まず第一に弟のアレキサンダーのトレーニング。自分自身もコンディションをよい状態にしておくためにジョギングであるとか左手を使った打撃の練習、あとはキックの練習をする予定です。

──では、ズバリ聞きますけど、ご自分では現時点で『無差別級GP』に出場する意志はありますか?

ヒョードル　もちろん参加したいと思っています。ただどの時点で自分が参加できるようになるのかはわからないです。

──それは、場合によっては一回戦をシードにして、二回戦から出場という形を希望するかもしれないということですか?

ヒョードル　どういった形になるかは『PRIDE』とマネージャーに任せますが、自分としては医師の許可が出次第、出場したいと思っています。

──では、もしGPに出場できたらの仮定になりますが、今大会で一番のライバルは誰になりそうですか?

ヒョードル　それはもちろん、弟のアレキサンダーですね（微笑）。

──では、とりあえず弟を抜かすと誰になりそうですか（笑）。

ヒョードル　本当にいい選手がたくさん集まっているのでなんとも言えませんが……あえて名前を挙げるならばノゲイラとかミルコ・クロコップ、あとマーク・ハントらだと思います。

──では、逆に言うとノゲイラ、ミルコ、ハントらよりも、アレキサンダーのほうが客観的に分析して頭一つ上だという思いがあるわけですか?

ヒョードル　私はそう思います（キッパリ）。

──アレキサンダー選手は一昨年ミルコにKO負けしていますが、その頃と比べてどの辺りが一番成長していますか?

ヒョードル　それは私の口から言うわけにいかないので、秘密にしたいと思います（微笑）。でも、試合で彼の姿を見たら、私の言っていることが間違いじゃないとわかっていただけると思いますよ。

──では、一部ファンのあいだではですね、これまでヒョードル選手を一番苦しめたのは藤田和之だという意見もあるんですけど、藤田選手がもしGPに出場してきたら、彼も強力なライバルになると思いますか?

ヒョードル　たしかにフジタさんとの闘いでは一発だけ打撃を許してしまいましたけど、それを除けばとくに難しい場面はなか

ったので、一番苦しめられたとは思っていません。私としては普通の試合だったと思います。
――では、藤田選手はもし出てきても眼中にない感じですか？
ヒョードル　そんなことはないです。フジタさんがいまどのぐらいの実力なのかは、しばらく彼の試合を見ていないのでわかりませんが、もし闘うことになったら、しっかりと準備をして挑みたいと思いますので、おそらく前回のようなパンチは受けずに済むんじゃないかと思います（微笑）。
――先ほどライバルになりそうな選手の中に、セルゲイ・ハリトーノフの名前が出てきませんでしたけど（※このインタビューはハリトーノフがアリスターに負ける前に収録）、彼はノゲイラ、ミルコ、ハントらと比べると、若干落ちると思いますか？




03・6・8『PRIDE.26』■藤田和之の右ゴリラフックにより、ヒョードルがあわやKO負けという姿をさらしたことで語り草になっているこの一戦。しかし、ヒョードルは「あれはラッキーパンチ。とくに難しい試合じゃなかった」と言う。はたしてファン待望の2度目の闘いは実現するのか？

Emelianenko Fedor

ヒョードル　いえ、セルゲイは非常にいい選手なので、そんなに差はないと思います。ただ、私自身はセルゲイをそれほど強力なライバルだとは思いません。
――では、ここに来る前にヒョードル選手のオフィシャルサイトを見てきたんですけれども、そこでのヒョードル選手のコメントで「GPで実現したら見てみたいカード」としてアレキサンダーvsノゲイラ、ハリトーノフvsミルコ・クロコップ。この二試合を挙げていたんですけど、それはどういった理由からですか？
ヒョードル　セルゲイのことは本当にいい選手だと思っています。まあ5段階の内で4＋とかそれぐらいのレベルにはあるので、ミルコと闘ったら勝てるのではないかと思って名前を挙げました。
――そうなると、アレキサンダーvsノゲイラというのも「ナンバー2であるノゲイラよりも、アレキサンダーのほうが強いということが見られるよ」という話なんでしょうか（笑）。
ヒョードル　そうですね。アレキサンダーは本当に一生懸命トレーニングをしていますので、すでにノゲイラを超えたと私は思っています。だからこそ、私はGPでの最大のライバルにアレキサンダーを挙げたんです。
――彼はそこまで成長していますか。たしかヒョードル選手にはもう一人弟がいるんですよね？
ヒョードル　はい。イワンという名前なんですが、彼も大変強い青年です。ただ、まだ18歳と若いので、総合格闘家になったとしても『PRIDE』のような舞台に出るのは、もう少しあとになると思います。
――そのイワンさんは、もうヒョードル選手と一緒に練習したりしてるんですか？
ヒョードル　たまにすることもありますが、まだイワンは私たちと同じメニューというわけにはいかないので、本格的には参加していません。いま現在、彼がもっとも力を入れているのはボクシングです。
――まだ総合格闘技の試合は一試合もやってないんですか？
ヒョードル　そうですね。ロシアでは18歳まで総合格闘技の試合に参加することは許可されていないんですよ。
――あ、そうなんですか。
ヒョードル　だからまだトレーニングをしているというだけですね。でも、すでに小さな大会でなら試合ができるレベルにあるとは思います。
――何か、そういう話を聞くと、向こう10年間はエメリヤーエンコ3兄弟が『PRIDE』のトップを独占しそうな気がしますね（笑）。
ヒョードル　そうなればいいですね（微笑）。
――では、まずは『無差別級GP』でのヒョードル選手の活躍を期待していますので、ぜひ一刻も早くリングに戻ってきていただけたらと思います。
ヒョードル　ありがとうございます。私も努力して少しでも早くリングに戻れるように頑張ります。

【06年2月26日／さいたまスーパーアリーナ『PRIDE・31』大会開始前に収録】


Emeleanenko Fedor■1976年9月28日、ウクライナ出身。第2代PRIDEヘビー級王者、『PRIDE・GP2004』優勝を誇る、“人類60億最強の男”。昨年は宿敵ミルコを下し、まさに無敵状態。はたして今年『無差別級GP』も制し、『PRIDE』完全制覇なるか？182cm、105.5kg。



1回戦から出られないならヒョードルに無差別級GP出場の権利はない!

Antonio Rodrigo Nogueira

陽はまた昇る!　不屈の柔術マジシャン、ノゲイラがさらに実力をアップさせ、8カ月ぶりに『PRIDE』マットに登場。2·26『PRIDE.31』では圧倒的な強さで田村潔司に完勝し、無差別級GPへ向け準備万全なところを見せつけたこの男が狙うはもちろん、ヒョードルの首一つ!　しかし、その肝心の王者ヒョードルのGP出場がいまだ正式決定しておらず、1回戦シードという噂も持ち上がるこの現状にノゲイラのいら立ちが爆発した!

聞き手/堀江ガンツ
撮影/菊池茂夫
designed by matsu (TwoThree)

――2・26『PRIDE・31』の田村潔司戦は8カ月ぶりの試合だったわけですけど、ずいぶん身体が大きくなりましたよね？

ノゲイラ　5月から始まるGPのために、6キロ増やしたんだ。

――6キロも増やしたんですか！

ノゲイラ　というのは、2年前のトーナメント（ヘビー級GP）のときに、もっとパワーをつけなければならないと感じたからなんだ。だから、そのときから、次回のグランプリまでには身体を大きくして、パワーアップを計画していたんだよ。

――それはヒョードルに組み負けないためということですか？

ノゲイラ　もちろん。ヒョードル以外には、前の体格でも誰にも負ける気はしないけど、ヒョードルを極めるためにパワーアップの必要性を感じたんだ。それ以外ないよ。

――このあいだの田村戦は、まさにパワーアップでオー！　って感じでしたけど、6キロ増量したノゲイラ選手にとっては、85キロしかない田村選手はやっぱり物足りなかったんじゃないですか？

ノゲイラ　もちろん力の面ではまったく負ける気はしなかったけど、あの試合は力で勝ったわけではなく、ポジション取りやグラウンドのテクニックで勝ったわけだから、たとえ体重が昔と変わらなくても、同じ展開になっていただろうね。

――6年前に闘ったときは、仕留めるのに2ラウンドまでかかった田村選手を今回は2分で極めたわけですけど、やはり前回よりさらに実力差が開いたとは思いますか？

ノゲイラ　タムラも上達しているんだろうけど、ボクのほうがより強くなっていたことは確かだろうね。でも、彼のボクシングのテクニックはリングス時代からよかったけど、さらにうまくなってると思ったね。ただ、あの身体で無差別級で闘うのは難しいよ。彼は85キロぐらいだろう？　83キロでやったらもっともっと活躍できると思うよ。

――83キロ級ならトップクラスでも通用すると思いますか？

ノゲイラ　もちろんその可能性は高いと思う。ただ、あの階級にはムリーロ（・ブスタマンチ）とパウロ（・フィリォ）がいるから、タムラはよくて3位かな（笑）。

――ウェルターに下げても『PRIDE』は楽じゃないですね。

ノゲイラ　今回も試合が決まったときムリーロに言われたんだ。「なんでミノタウロがタムラと闘うんだ。タムラは私の相手だよ」って（笑）。

タムラはウェルター級なら
トップクラスで通用すると思う。
でも、ムリーロとパウロがいるから、
よくて3番手ぐらいかな（笑）。

――俺の獲物だ、と（笑）。自分の試合以外で印象に残った試合はありましたか？

ノゲイラ　自分の試合の前というのは、あまり観てなくて、ちゃんと観たのは最後のマーク・ハントの試合だけなんだ。

――あの試合はどう思いましたか？

ノゲイラ　ハントvsニシジマはベスト・ファイトではなかったけれども、試合自体はエキサイティングでおもしろかったし、会場も凄く盛り上がってたから日本のファンにとってはよかったんじゃないかな。

――「日本のファンにとっては」ということは、ノゲイラ選手的にはあまり評価していないわけですか？

ノゲイラ　いや、そんなことはないよ。ニシジマはこれが総合格闘技のデビュー戦だから、そりゃあ技術的にはまだまだな部分は多いけど、やっぱりボクシング技術は素晴らしいし、何よりハートの強さを見せたからね。





［PRIDE.31］
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs 田村潔司×
（1R 2分24秒 腕ひしぎ十字固め）
99年10月のリングス『KOK』以来、6年ぶりの対戦となったこの一戦。ノゲイラは序盤からテイクダウンに成功しバックを制すと、チョーク狙いをエサにしての腕十字で完勝！　あの田村に何もさせない完勝劇だった。

――あの試合は、マーク・ハントが西島選手に合わせたからこそ、好勝負になったという意見もありますけど。

ノゲイラ　確かにそういう場面もあったけれど、マーク・ハントという選手は、じつは非常にクレバーで、力をセーブする場面とラッシュする場面をよくわかっているファイターなんだと思う。手数は少ないけれど、仕留めるべき場面が来たら、きっちり仕留める。それはミルコ戦でもそうだったよね。ミルコは1ラウンドからラッシュして、アクセルを踏みっぱなしで最後はバテてしまったけど、ハントは攻めるべき場面以外はほとんど動かないから、最後まで力が出せる。それは彼が身体が大きいのと、打たれ強さがあるからなんだろうけど、そういった自分の特性をよく理解しているからこそ、相手にある程度攻めさせながら勝つことができるんだろうね。

――なるほど。確かにそうですね。それでいま、ハントの評価が非常に高まっているんですけど、ノゲイラ選手から見て、ハントはいわゆる〝3強〟に入り込むぐらいの実力がすでにあると思いますか？

ノゲイラ　もちろん、ここ2年間の彼のファイトを観ていると、総合格闘家としても凄く上達していることがわかるし、ミルコやヴァンダレイといった強い選手も倒していることも確かだよ。でも、いまの彼にはまだまだグラウンド・テクニックが不足しているから、そこを突かれたらモロさが出るだろうね。ただ、将来的には彼は絶対に侮れない相手だとは思っているよ。

Antonio Rodrigo Nogueira

根拠のない大口を叩き続けてきたジョシュにGPで実力の違いをわからせてやろうと思う

——逆に言えば、現時点ではまだ脅威ではない、と。

ノゲイラ　ボクやヒョードルに勝つというのはなかなか難しいと思うけど、ミルコとはもう遜色ないと思う。レスリングやグラウンドがうまいぶん、ミルコのほうが総合力で少し上だと思うけど、ハントの成長のスピードを考えると、ミルコを近い将来、完全に抜き去ると思うね。

——では、現時点ではヒョードル、ノゲイラの二人がトップでミルコ、ハントが第2グループという感じですか？

ノゲイラ　そうだね。

——そうなるとジョシュ・バーネットはどのあたりに位置するんでしょうか？

ノゲイラ　ジョシュはまだ『PRIDE』でミルコとナカムラ（中村和裕）しかやってないから、まだよくわからない部分もあるけど、ミルコ、ハントより少し下だと思う。

——ジョシュはハントより下ですか。では「GP1回戦はジョシュと闘いたい」という発言がありましたけど、それは、ジョシュがまだ実力の底を見せていないからこそ、闘ったらおもしろいというところからですか？

ノゲイラ　ジョシュに関してはべつに「いい試合ができそう」だとか、彼の実力を評価してとかじゃない。ただ単に、彼がこれまで大口を叩いてきたから、それなら闘ってやろうというだけだよ。

——ジョシュの口を塞ぎたいだけだ、と。

ノゲイラ　彼はまだ『PRIDE』に上がる前から、「ノゲイラには勝てる」とか「自分のほうが上」などと、なんの根拠もない大口をメディアで繰り返してきた。だから何年も前から、彼と闘って本当の実力をわからせてやろうと思ってたんだ。

——そういえば、2002年に国立競技場でやったボブ・サップ戦の直後から、挑発されてましたもんね。

ノゲイラ　うん。あれだけは絶対に許せないね。じつは『Dynamite!』でサップと闘う前日に、ジョシュはボクの部屋を訪ねてきて、そのときはTシャツを交換し合ったり、いろいろ話をしたりして仲良くなったんだ。それなのに、そのまさに翌日、ハードな試合を終えた直後にリング上でボクを侮辱するような発言をしたんで、「あいつだけは信用できない」と思ったね。前日、ナイスガイのふりをしてボクの部屋を訪ねたのも全部ウソだったんだなって。

——まぁ、あのマイクはプロとして対戦を盛り上げるためにやっただけで、悪気はないのかもしれないですけど……。

ノゲイラ　それにしては度が過ぎてるよ。あのときボクは、ボブ・サップという当時一番勢いがあって、誰も倒し方がわからないような怪物と死力を尽くして闘って倒したのに、その直後にリング上でマイクを使って何万人もの観客の前でボクを卑下するような発言したので、許せないと思ったね。

——パフォーマンスだとしても、言われた本人にとってはそうでしょうね。

ノゲイラ　リング上であんなことをされる前までは、ボクはホントに彼のことが好きだったし、友だちだと思っていた。2回ほど一緒にバーに行ったこともあるしね。でも、あの日以来、彼と一緒に遊びに行くことはないよ。

——では、次の無差別級GP1回戦で彼と闘いたい、と。

ノゲイラ　もちろんOKだよ。でも、ジョシュはべつにボクにとって特別な選手じゃないから、ファンやDSEが違う選手と闘ってほしいと言えば、違う選手でも全然いいけどね。

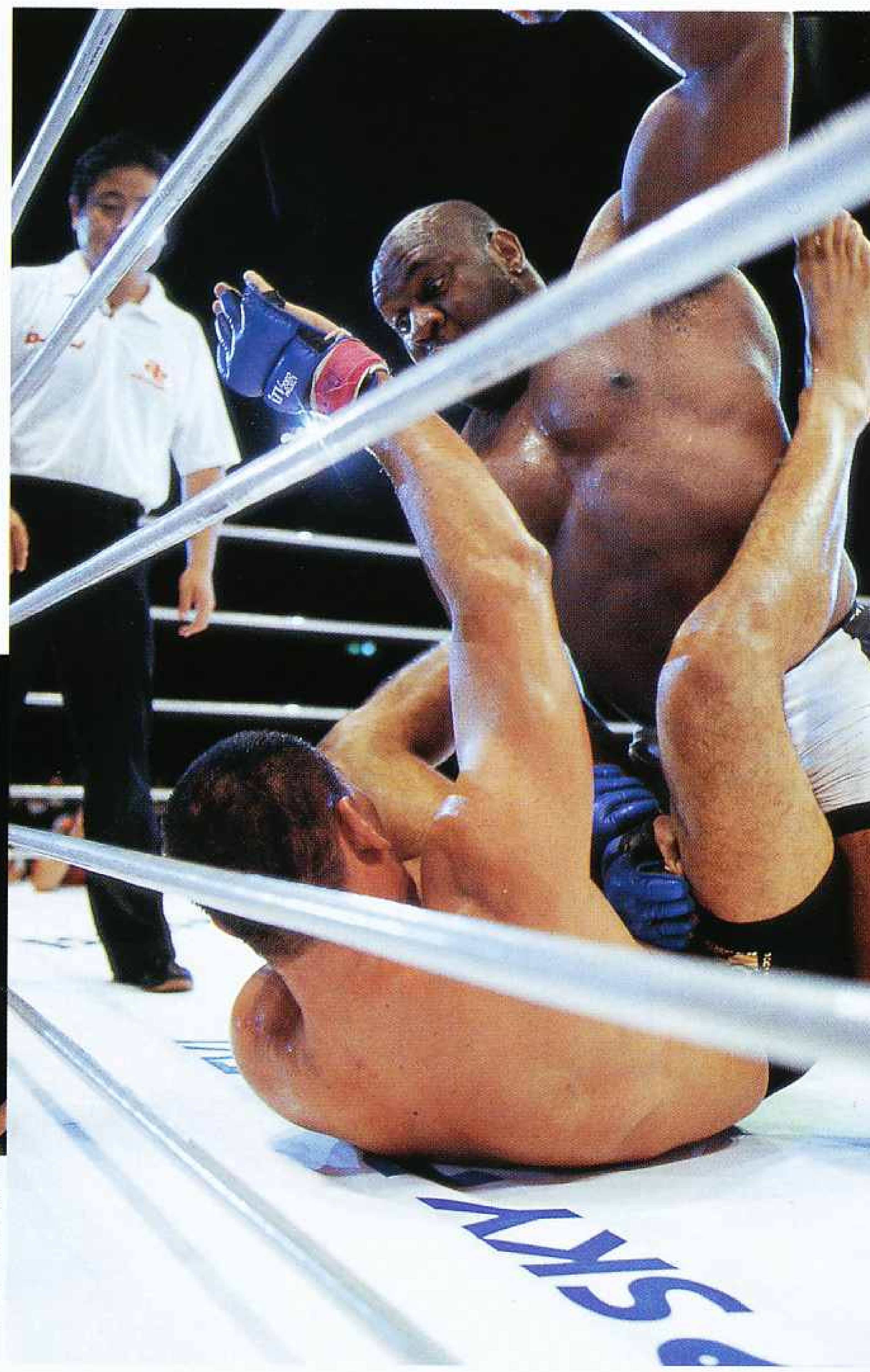
——今回は無差別ですから、夢のカードはいくらでもあるでしょうからね。そういえば、ヴァンダレイ・シウバが「もし無差別級GPに出ることになったら、ノゲイラと闘ってみたい」と言ってたんですよ。

ノゲイラ　ヴァンダレイだったら望むところだよ。たしか彼は『PRIDE』でタップアウト負けしたことがなかったと思うけど、ボクだったらしっかりと一本極めてみせる。でも、ボクがヴァンダレイと闘ったらホジェリオが怒るだろうな「ボクの獲物を取るな」ってね（笑）。

——田村戦でブスタマンチに怒られたのと同じですね（笑）。

ノゲイラ　だからヴァンダレイはホジェリオに譲りたいけど、ファンが望むならボクのほうはいつでもOKだよ。今回の『PRIDE・31』だって、ジョシュやショーグンと闘おうと思ってたんだからね。

——あとは、ファブリシオ・ヴェウドゥムとの「寝技世界一決定戦」が観てみたいという意見もあります。ファブリシオはよく





02年8月28日、国立競技場で行なわれた『Dynamite!』。『PRIDE』とK-1の共催のような形で行なわれた、いまでは考えられないこの夢の大会で、ノゲイラは当時、飛ぶ鳥を落とす勢いのボブ・サップと対戦。いまでこそ“チキン”ぶりが知れ渡ったサップだったが、この頃は怖いもの知らずで攻めまくり、その圧倒的パワー差でノゲイラは大苦戦。しかし、3Rに逆転の腕十字で一本勝ちを奪い、この日、最高の名勝負と讃えられた。ところが試合直後、ジョシュがリングに上がり、マイクで「オマエハモウ、シンデイル!」と挑発! ノゲイラはこの無礼に激怒したのだ。



アレキサンダーがボクに勝てるだって？ よく言うよ。ヒョードルは弟をGPに推薦したくてしょうがないんだろうな

「"ノゲイラも取れなかった"柔術世界選手権2連覇」「寝技ではノゲイラ以上」みたいな感じでプロモーションされているんですけど、彼はどう評価してますか？

ノゲイラ　彼はいい柔術家だと思うよ。でも、『PRIDE』では"期待のルーキー"の一人にしかすぎない。だって彼がそのアマチュアの柔術トーナメントで優勝したとき、ボクはプロの最高峰であるPRIDEヘビー級チャンピオンだったんだよ。なぜ、彼と比較されるのか理解できないね。

――プロのリングではレベルが違う、と。ちなみにヒョードルは「弟のアレキサンダーはすでにノゲイラ、ミルコに勝てる実力がある」と言ってるんですけど。

ノゲイラ　（鼻で笑って）よく言うよ。弟をGPに推薦したくてしょうがないんだろうね。彼には弟の宣伝ばかりしてないで、早くケガを治して出てこいと言いたいね。

――ヒョードルは1月に拳の手術をしたばかりで、無差別級GPの1回戦欠場が噂されているんですが。

ノゲイラ　その噂は聞いているよ。もし、DSEがヒョードルを2回戦から出場させることを認めたら、このGPは残念ながらアンフェアな大会と言わざるを得ない。2年前の『ヘビー級GP』のとき、ボクはヒジをケガしていて真っすぐ伸ばせない状態だったけど、GPのために手術をせずに、ケガを押して出場したんだよ。それなのに彼はチャンピオンにも関わらず大事なGPの前に手術をして、自分の都合で1回戦に間に合わなかったのなら、その時点で彼は「失格」じゃないか。それなのに1回戦シードを認めたりしたら、絶対にフェアじゃない。GPに参加するなら、みんな1回戦から出場すべきだよ。それはヒョードルであろうが、誰であろうがね。

――でも、ヒョードルだったら1回戦突破は確実だし、これまでの実績を考えたら、1回戦はシードにしてもいいんじゃないかというファンもけっこういるんですよ。

Antonio Rodrigo Nogueira
1976年6月2日、ブラジル・バイア州出身。"柔術マジシャン"の異名を持つ寝技の達人で、初代PRIDEヘビー級王者に輝くが、03年にヒョードルに敗れ王座転落。無差別級GPではヒョードルへの3年越しのリベンジを虎視眈々と狙う。191cm、109kg。

ノゲイラ　確かにヒョードルは完璧に近いファイターだけど、勝負に絶対はない。だって2年前のGPでミルコが1回戦負けするなんて、誰も予想してなかっただろう？あのときだって、もしミルコが1回戦シードだったらファイナルまで行っていたかもしれない。

――その可能性はあったでしょうね。

ノゲイラ　それにこれは「無差別級」のGP。階級の枠を超えて、トーナメントで真の最強の男を決めるものだよね？　それなのに、もしヒョードルのシードが認められるなら、昨年のGP王者であるショーグンだってシードでいいだろうし、ミドル級王者のヴァンダレイだってシードを主張していい。そういった選手たちがみんなシードを主張したらどうするつもりなんだ？

――収拾がつかないでしょうね。

ノゲイラ　だから、もしヒョードルが1回戦に出てこられないなら、彼に出場資格はないと思う。でも、彼がPRIDEヘビー級チャンピオンであることは間違いないのだから、GPが終わったあと、無差別級GPの優勝者と闘えばいいんだよ。

――大晦日にヘビー級王者とGP王者が闘うというのでもいいですよね。

ノゲイラ　このGPはヒョードルの防衛戦ではなく、あくまでも階級の枠を外して誰が一番強いかをトーナメントで決める大会。その趣旨を壊すようなことはあってはならない。もちろん、ヒョードルがちゃんと1回戦から出てくるのなら、ぜひ闘いたいけどね。まぁ、ボクはヒョードルが出ようと出まいと、優勝するために最善を尽くすだけだよ。

――わかりました。では、GPでの活躍を期待してます！

【06年3月2日／都内・某ホテルにて収録】

2.26 PRIDE.31 Puti Review



○ジョシュ・バーネット vs 中村和裕×
（1R 8分10秒 裸締め）

中村は増量してくるが体格差は歴然。途中ジョシュがアンクルホールドを極めかけるが中村はなんとか脱出。しかしその後ジョシュがバックを奪い最後は魔性のスリーパーで柔道家中村から一本勝ち!



○ファブリシオ・ヴェウドゥム vs ユノラフ・エイネモ×
（3R 終了 判定 3-0）

柔術世界王者vsアブダビ王者のハイレベルな寝技対決が期待されたが、お互いの寝技を警戒してか打撃中心の展開に。結局、ヒザ蹴りで鼻血を出させるなどスタンドで上回ったヴェウドゥムが勝利。



○Q・"ランペイジ"・ジャクソン vs ユン・ドンシク×
（3R 終了 判定 3-0）

2戦して未だ勝ち星のないユンが強豪ランペイジに大善戦!　判定でジャクソンに敗れたものの、1Rに腕十字を極めかけ3Rにはマウントを奪うなど成長ぶりを存分にみせ、次回への期待をもたせた。



田村潔司

謎に包まれたノゲイラ戦の真実
敗戦後の舞台裏で何が――

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也
designed by matsu (TwoThree)

Kiyoshi Tamura

謎、謎、謎！

試合が終わっても、やっぱりこの男だけはわからなかった。

対戦が発表されたときから、なぜいま田村がノゲイラと闘うのか、多くのファンが首をかしげた今回の一戦。20キロ以上の体重差があり、『PRIDE』での実績にも大きく開きがあるノゲイラ戦。誰もが無謀だと思うこの闘いに、ましてや3年連続で大晦日の桜庭和志戦のオファーを蹴った直後の大会に出ていくからには、必ず何かしらの考え、企み、秘策が田村にはあるものだと思っていたが、終わってみればわずか2分で完敗。いったい田村は何がやりたかったのか。試合をすべて観終わったあと、ますますわからなくなってしまった。

ただ、田村にはこのノゲイラ戦に何かしらの考え、もしくは期するものがあったことは間違いない。それは田村が〝ここぞ〟というときにしか持たない〝守護神〟小太刀のお守りをここで携えて入場してきたことからも、充分にうかがえた。伝説のヘンゾ・グレイシー戦や吉田秀彦戦ですら持ってこなかったこの小太刀をここで持ってきたところに、田村のこの闘いに対する並々ならぬ思いを感じずにはいられない。しかし、なぜとくに因縁もないノゲイラにそこまでの思いを抱いたのかは、いまだわからないままだ。

この小太刀以外にも、田村はノゲイラが入場するあいだ、コーナーに向かって腰を下ろし、目をつぶって精神統一するなど、いつもと違う行動が目立つ。そして試合ではノゲイラにグラウンドで子ども扱いにされての一本負け。敗れた田村は大の字になってしばし天を仰いだあと、マットを叩いて悔しがった。田村がこれほど悔しさを露わにするのも珍しい。

いったい田村は今回の闘いに何を求め、敗れて何を感じたのか？　おそらく田村本人にインタビューしたところで、例のごとく肝心の部分ははぐらかすであろうことも考え、本誌ではノゲイラ戦当日、田村のセコンドについたU-FILEの佐々木恭介に当日の田村の様子を聞いてみた。

まず、なぜ田村はノゲイラと闘おうと思ったのか？

「ボクらもなかなか田村さんの考えてることはわからないんですけど（笑）、たぶん、以前リングスで闘ったときに噛み合って、『やってて凄くおもしろかった』って言ってたんですよ。だから、もう一度やってみたい。ノゲイラとはいい試合ができるって思いがあったんだと思います」

打撃全盛時代を迎え、ますますハードで危険度を増している『PRIDE』での闘い。そんな中、田村はノゲイラと技術の攻防をすることで、一瞬でも格闘技界の流れを、もう一度、バイオレンスな方向からテクニカルへと変えたかったのか……。しかし、田村が望むような〝いい試合〟や〝攻防〟にはならず、試合は一方的な展開となってしまった。

「凄く勝ちたいという気持ちも、もちろんあったと思うんですけど、それ以上に、ノゲイラといい試合をしたかったんだと思うんですよ。それなのに、自分がやりたいことを全然出せずに終わってしまったんで、余計に悔しかったんだと思いますね」



田村さんは試合後、控室でミット打ちを始めたんです

（セコンドの佐々木恭介）



久々に"ここぞ"というときにしか持ってこない小太刀のお守りを携えて入場してきた田村。しかし、結果はその神通力も空しく、ほとんど何もできないまま完敗。田村の胸に去来するものは何か。

試合に負けただけでなく、自分が望んでいた〝いい試合〟すらできなかった。これでは闘った意味がない。そんな二重三重の悔しさは、試合後、控室に戻っても続いていたという。

「田村さんは試合後、しばらく控室の裏のほうで考え込まれていて、ボクらも入れないくらいだったんですよ。かなり長いあいだ、1時間ぐらい考え込まれてましたね」

試合直後の1時間、田村は何を考えていたのか。そして、ようやく立ち上がった田村は意外な行動に出る。

「そのあと田村さんは、大久保（一樹）さんを呼んで、ミット打ちを始めたんですよ。こんな試合後に控室でミット打ちとか練習をやり始めるなんて、ボクが知ってる限り初めてですね。しかも、これも1時間ぐらいやってましたから、よほど悔しかったんでしょうね」

持って行き場のない悔しさ。いますぐ何かやらずにはいられない。一刻も早く練習をしなければいけないという危機感からだろうか。


「それが終わったあと、田村さんが会場に来ていたU-FILEの選手全員を集めたんですよ。ボクは『辞める』とか言い出すんじゃないかと思って心配してたんですけど、田村さんは『お前らも悔しいと思うけど、俺も悔しい。まだまだ頑張るから』ってそういう話をされてましたね。こんなことも初めてでなんでびっくりしました」

気持ちの整理をつけてから、弟子たちだけに話した再出発宣言。田村がこのあとコメントルームで「ノゲイラを追いかけていきたい」と語ったのは、こういった背景から、まだまだ自分は強さを求めていくという宣言だったのだ。

そして、このノゲイラ戦の2週間後、田村はU-FILE CAMP西調布アリーナで『U-Zeal（ユージール）』という大会を開いた。これは総合格闘技でありながら、観客を楽しませる試合をコンセプトにした大会。田村潔司はこれからも、強さと試合内容を追い求め、さらにそれを兼ね揃えた若き人材を育てていこうとしているのだ。

Russian
Calvin × Overeem
Alistair

ルシアン・カルビン×アリスター・オーフレイム



オランダ版・リアル

ジョーと段平

～あしたのために その一～

とんでもないことが起きた！　“ストップ・ザ・ヒョードル”の最右翼と思われていたハリトーノフが無差別級GP前の査定試合で粉砕されたのである。その犯人こそこの男、アリスター・オーフレイム。最強の恩師ルシアン・カルビンに教えを請うアリスターは、『PRIDE・31』でルシアンの作戦を完全実行。その姿はまさに『あしたのジョー』に見る矢吹丈と丹下段平のようである。

聞き手／橋本宗洋　構成／松下ミワ
撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也
designed by matsu (TwoThree)

肉体を使ったチェスに、ボクらは勝利しただけさ

――『PRIDE・31』で見事ハリトーノフを下したアリスター選手ですが、今回はその強さ、勝因を探るべく師匠であるルシアン・カルビン会長にも同席してもらいました。まずはアリスター選手のほうから、カルビン先生のことを読者に紹介してもらえますか。

アリスター　彼は世界でも最高の偉大なコーチだね。現役時代は、オランダの打撃格闘技創世紀にチャンピオンだった。いってみればオランダ格闘技界の歴史を作ってきた人物だね。最高の技術を持ち、人望があり、ユーモアもあって……カンフー映画に出てくるお師匠様そのものみたいな人だよ。

――そもそも、オランダでキックボクシングを始めたのがカルビン先生たちだったわけですよね。

カルビン　そう。最初は空手をやっていたんだが、あるとき日本に修行に行った仲間が、キックボクシングの試合をフィルムに撮ってきたんだよ。それを見て、我々もキックをやってみようということになったんだ。連盟を立ち上げたのは、その半年後だったな。

――プロモーターや指導者がいたわけではなかった、と。

カルビン　そう。すべて自分たちで研究し、発展させていったんだ。最初はローキックのブロックもわからなかったけどね。いろいろ工夫しながら、一つ一つの技術を身につけていった。タイに練習に行ったときも、首相撲でしこたまやられてな。「これは使える」というんでオランダに持ち帰って広めたんだよ。

――まさにオランダ・キック界を一から作り上げてきた、と。アーネスト・ホースト選手やロブ・カーマンさんも、現役時代のカルビン先生に憧れてたらしいですからね。ところで、アリスター選手とカルビン先生の出会いはいつ頃だったんですか。



［PRIDE.31］
○アリスター・オーフレイム vs セルゲイ・ハリトーノフ×
（1R 5分13秒 TKO レフェリーストップ）
ゴング後、すぐにテイクダウンを奪ったアリスターは、サイドポジションから延々とヒザ攻撃！　ハリトーノフに何もさせないまま勝利を手に。試合前の下馬評とは反対に、無差別級GP出場への距離を縮めたのはハリトーノフではなくアリスターだった。

カルビン　アリスターとは日本で最初に会ったんだったな。

――あ、そうなんですか？

アリスター　リングスに出ていた頃だね。そのとき、自分はナメカワとの試合で、カルビン先生はギルバート・アイブルのセコンドで来ていたんだ。

カルビン　当時のアリスターはコーチがいなくてね。試合前に「セコンドについてもらえませんか」といってきたんだよ。同じオランダ人同士、協力し合うのは悪いことじゃない。そこで、まずは控室で動きを見せてもらった。

――当時のアリスター選手の動きはいかがでしたか？　やっぱり素質がかなりあったというか。

カルビン　最初に見たときは……何かの冗談かと思ったがね（笑）。

――あちゃ～（笑）。

カルビン　技術的には、お話にならないくらいレベルが低かった。一応、口では「いいじゃないか」と言っておいたんだがね。

アリスター　それでこっちは有頂天になったよ（笑）。おかげで試合には勝てたしね。

カルビン　あの調子に乗ってるところが、またおかしくてな（笑）。

――とはいえ、その後コーチを引き受けるわけですよね。アリスター選手のどんな部分が気に入ったんですか？

カルビン　ハートが強いところと、潜在能力の高さだね。当時は荒削りだったが、素質という点では素晴らしかった。それに実際に練習してみると、ハードワークを苦にしないんだよ。どんな厳しい練習でもついてくる。私が教えたことを忠実に守るのも、成長した要因だろう。私の指導は、蹴るときの足の開き方や角度を、細かく指示するスタイルだ。それをアリスターは確実に身につけていった。逆に「オレはそういうやり方じゃない」と反論してきたのがアイブルだよ。

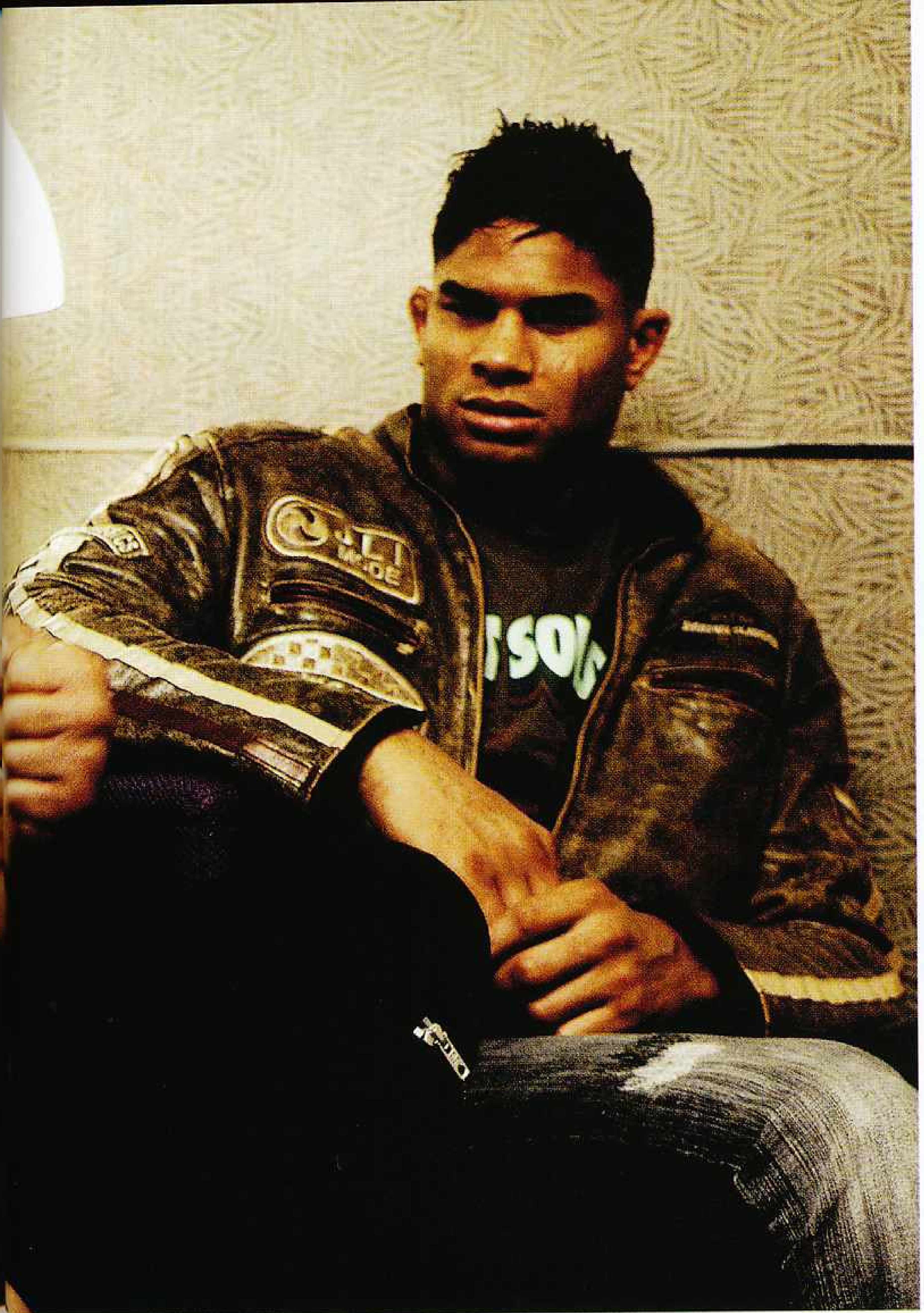
――結局、アイブル選手はカルビンジムを抜けてしまいましたよね。まあ、アイブル選手に細かい技術を守れっていうのも無理な話だったんでしょうね。

カルビン　そういう選手は、私のジムにはいらないね。それに、どちらが正しかったかは結果が示しているだろう。アイブルも素質があって、以前はアリスターよりはるかに強かった。それがいまでは、完全に逆転しているじゃないか。

――何しろアリスター選手はミドル級GPでベスト4、さらにハリトーノフ選手にも勝ちましたからね。しかも圧勝で。

アリスター　試合前に考えていた作戦が完璧にハマッたんだよ。

――ファーストコンタクトの投げでほぼ勝負が決まっていたという感じもするんですが、あの投げは一昨年の大晦日、ヒョードル選手がノゲイラ選手に仕掛けたものに似てるなと思ったんですよ。ヒョードル選手は去年、カルビンジムで練習してるので、



ありすたー・おーふれいむ■1980年5月17日、オランダ・ユトレヒト出身。『PRIDE.24』から『PRIDE』に参戦し、昨年はミドル級4強にまで登りつめた。『PRIDE.31』で強豪ハリトーノフに圧勝したため、無差別級GP参戦も囁かれている。195cm、103.3kg。

もしかして教わったのかなと。

アリスター　教わったってわけではないけどね。でも一緒に練習していて、学ぶことが多かったのは確かだよ。

――試合中、ハリトーノフ選手の腕の異変には気付きましたか?

アリスター　最後の2分間はまったくディフェンスする様子がなかったんで「腕を痛めたかな」って感じはしたね。

――そこで攻め切ってKOまでもっていった、と。あそこまで圧倒できた要因はどこにあるんでしょう。

アリスター　それはハードワークに尽きるね。練習でボロボロにされるのは、試合で勝つために重要だと思うよ。幸い、ボクには打撃のカルビン先生、組み技のマルタイン（・デ・ヨング）というハいコーチがいるからね。

カルビン先生はカンフー映画に出てくるお師匠様そのものだよ

Alistair Overeem

――カルビン先生から見て、ハリトーノフ戦はいかがでしたか?

カルビン　試合前から、まったく不安はなかったね。もちろんハリトーノフのパンチの強さは警戒していたが、あらゆる面でアリスターが上だと確信していたよ。

――そこまで自信があったんですか⁉

カルビン　ハリトーノフの長所は、裏を返せば弱点だとわかったからね。言うまでもなく、ハリトーノフの長所はボクシングだ。特に凄まじいハードパンチを持っているところだね。だから、彼はいつも自信満々で前に出て、相手に圧力をかける。ハリトーノフの相手は、それに押されて下がってしまうから負けるんだよ。

――そうですね、はい。

カルビン　ただハリトーノフの前進は直線的だから、こっちは右へ右へとステップして相手の動きをスカしてしまえばいい。そうすれば彼の武器は使えなくなるし、そうなったときは脆かっただろう。サンビストでもある彼を、アリスターは見事にテイクダウンしてみせたからね。

――確かに。

カルビン　アリスターがハリトーノフのパンチをかわせているのを見て「ああ、これは1ラウンドで勝てるな」と確信したよ。マーク・ハントとやったとしても同じだろうね。ハードパンチャーが相手の場合、そのハードパンチさえ殺してしまえば何も怖いものはないんだ。

――アリスター選手も打撃が得意だからといって、むやみに打撃勝負をすればいいわけじゃないと。

カルビン　その通り。格闘技というのは、肉体を使ったチェスみたいなものだ。相手の長所と短所を見抜き、長所には絶対に付き合わない。そういうことのできる頭のよさが必要なんだよ。それから耳も重要だな。

――耳ですか?

カルビン　試合中、セコンドの指示をよく聞いて、それを忠実に実行することが大事なんだよ。それができているときのアリスターは、誰にも負けないだろうね。残念ながら去年のショーグン戦は、コンディション調整がうまくいかず、途中で集中力を切らしてしまった。そこがあの試合の敗因だったね。

――先ほど「ハントが相手でもハードパンチさえ殺せば怖くない」という言葉がありましたが、ということは無差別級GPでもアリスター選手はかなりいけるだろう、と。

カルビン　いけると思うね。ただし、やはりヘビー級のパワーは脅威だよ。アリスターのスピードやテクニックは、ヘビー級が相手でもまったく問題はない。ただ、19分間有利に試合を進めていても、最後の最後にたった一発で逆転KOされてしまうこともあるのがヘビー級の怖さなんだよ。だから無差別級で闘うにあたっては、パワーの問題をクリアする必要があるだろうね。逆にいえば、もう少しパワーがつけば心配はないということだ。

――実際、ハリトーノフ戦では103・2キロという体重で試合に臨みましたよね。普段より10キロ重い体重で試合をしてみた感覚はいかがでしたか?

アリスター　スピードに関しては、まったく問題なかったね。いつもより重い体重でも、自分のスピードだったらヘビー級のハリトーノフが遅く感じたからね。だからスピードは落とさず、充分なパワーを出せるベストなウェイトをGPまでに探っていこうと思ってるよ。ハリトーノフ戦のときの体重がベストかどうか、まだ結論を出すの

は早いと思う。

――そのへんも「今回よかったから大丈夫」というわけではない、と。あくまで慎重に考えるあたり、さすがカルビン先生の弟子ですね（笑）。

カルビン　言っただろ。アイブルあたりとは頭の良さが違うんだよ（笑）。

――いままで教えてきた選手の中で「コイツは頭がいいな」と思った選手はアリスター選手以外で誰になりますか？

カルビン　最近でいえば、やはりヒョードルだね。ミルコ戦の前に練習に来たんだが、彼は本当にクレバーな選手だった。

――それはどういう部分で感じたんですか？

カルビン　とにかく、飲み込みが早いね。私が教えたことを、どんどん吸収していくんだよ。彼が私のジムで練習したのは3週間ほどだったが、その短期間でミルコのキックをブロックする技術を身につけてしまったからね。ミルコが蹴りを出す一瞬のスキを狙って攻撃するという作戦も、きちんと遂行できていたな。ヒョードルより長い期間キックを学んでいる選手でも、リングでミルコの蹴りをさばけるかというと、そうではないからね。もう一つ彼のいいところは、ジムでは羊のようにおとなしく、リングではライオンのように獰猛になるところだ。

――ジムではマジメに指導を受けて、それをリングで爆発させる、と。

カルビン　そう。その逆だったのが……。

――もしかしてアイブル選手ですか（笑）。

カルビン　その通りだよ（笑）。

――なんか、よっぽどなんだなって感じですが（笑）。ほかにミルコ戦にあたって、ヒョードル選手に授けたことってありますか？

カルビン　とにかく、ミルコの左の蹴りを絶対に怖がるな、ということだ。後手に回るんじゃなく、いつでも自分から仕掛けていけ、と。それはかなり強調して伝えたね。

――そのために、何か特別な練習をしたりとか。

カルビン　それはなかったな。大事だったのは信頼関係だよ。私の言葉を、ヒョードルが全面的に信じたということが重要なんだ。試合に勝つために一番必要なのはそれなんだよ。試合の直前になって、控室でセコンドが「ああしろ、こうしろ」と言うのは愚かなことだね。コーチと選手に信頼関係ができていれば、わざわざ念を押さなくとも、選手はセコンドの指示通りに動いてくれるものだよ。

――頭脳と信頼関係で選手は強くなると。

カルビン　いくら身体が大きく、パワーがある選手でも頭を使わなければ決して強くはなれないな。コーチの教えをよく聞き、それをきちんと理解して自分のものにできる選手は強いよ。たとえ指が折れても腕が折れても選手は闘うことができる。諦めずに闘えば、勝つチャンスも出てくるだろう。だが頭が壊れてしまったら、ファイターは何もすることができないんだよ。

アリスター　ホントにカンフー映画の師匠みたいだろ？

――まさしく（笑）。アリスター選手が強くなっていった理由がわかった気がしますよ。ところで、アリスター選手はいつもキレイな彼女と一緒ですよね。

アリスター　ん、そうだけど何か？

――いや、そういうところも師匠譲りなのかなと（笑）。

アリスター　ワハハハハ！　そこは師匠に全然かなわないけどね。ボクはほら、彼女は一人だけだから（笑）。

――聞くところによれば、カルビン先生は非常にモテるらしいですね。しかも若い女性に（笑）。

カルビン　私は54歳になるが、いまでもアクティブだからな。休みの日に「スケートに行こう」「泳ぎに行こう」というと、同年代の女性はついてこれないんだよ。だから必然的に、お付き合いするのは若い女性になってしまうわけだ。同世代の中にいると、どうも私は浮いてしまうんだよ。

――いや～、うらやましい限りですね。何かモテる秘訣はあるんですか？

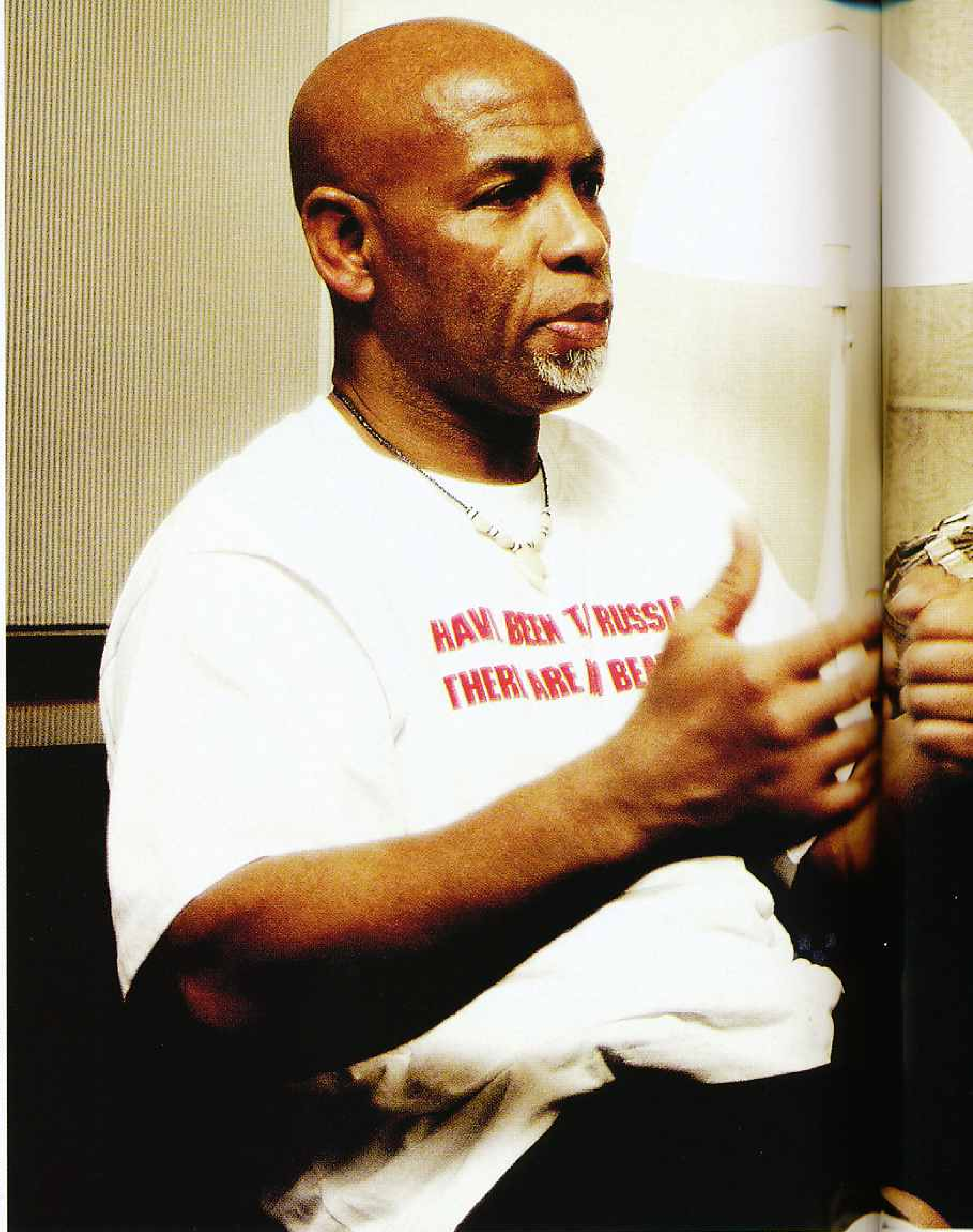
カルビン　私は経験豊富だからな（笑）。自分から追いかけるんではなく、向こうに追いかけさせるのが大事だね。

――そこも頭を使うのが重要だ、と（笑）。

カルビン　相手を研究しておけば、何も怖いものはないんだよ（笑）。


【06年2月27日／都内ホテルにて収録】

言ったただろ。アイブルあたりとは頭の良さが違うんだよ（笑）



るしあん・かるびん■オランダ格闘技界の礎を築いた人物で、かつては打撃格闘技のチャンピオンの座をほしいままにしていた。現在はアリスターをはじめ、ギルバート・アイブルや王者ヒョードルまでもが教えを請う名伯楽。世界No.1トレーナーの呼び声も高い。

Russian Calvin



人類最強
ヒョードルへの道は
閉ざされたのか——。

『PRIDE』無差別級GP参戦、赤信号!!
セルゲイ・ハリトーノフ
無念

本文／橋本宗洋
撮影／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

おおいなる挫折……、その先にある死神復活劇とは?

Sergey Kharitonov

衝撃とはまさにこれ、目を疑う光景とはまさにこのことだろう。

冷酷、冷血、冷徹。刃向かう者を常にその拳で殲滅してきた戦場格闘術の使い手ハリトーノフが、何もできない。アリスターのサイドポジションに抑え込まれ、鉄槌を浴び、ヒザを突き刺されて文字通りの〝無力化〟……。2年前、ノゲイラと闘ったときでさえ攻め込む場面を作り、初敗北にも未来の可能性を感じさせたハリトーノフだが、この日は完敗以外の何ものでもなかった。アリスターの攻撃に反撃を許されず、次第に抵抗する力さえ失なっていく様は、かつてハリトーノフ自身が葬ってきたセーム・シュルトやペドロ・ヒーゾの無残な姿にも重なるようにさえ見えた。

試合が始まると、アリスターはハリトーノフの間合いを外しつつ、一気に組み付いてテイクダウン。この時点で、勝負の行方はあらかた決まっていたといっていいだろう。受け身に失敗したハリトーノフは右肩を負傷。形勢が逆転することは一度もなかった。

もちろん、この試合について語るのなら、まず第一にアリスターの強さと、昨年から続く急成長ぶりだろう。だから本誌でも、アリスターとその師匠であるルシアン・カルビン会長にインタビューを行なっている。ただし、ことはそれだけでは収まらない。アリスターが勝ったこととハリトーノフが負けたことには、それぞれ別の意味があるのだ。『PRIDE・31』におけるハリトーノフ惨敗の衝撃は〝あのハリトーノフが負けるなんて〟〝あそこまで弱々しい姿は想像できなかった〟という衝撃以上の重みを持つ。

髙田延彦統括本部長曰く、『PRIDE・31』のマッチメイクは、5月5日から開幕する無差別級GPへ向けての「完全査定試合」。そういう試合で、ハリトーノフは敗れ、しかもケガを負って戦線離脱を余儀なくされたのだ。

今回の無差別級GP、その見どころは、つまるところ〝誰がヒョードルを止めるのか〟である。ノゲイラが2度敗れ、ミルコでさえも完敗を喫したいま、その最右翼はハリトーノフでなければならなかった。PRIDE史上、究極の因縁対決。ヴォルク・ハンが語った「ロシア人はロシア人が始末する」という予言。このGPの最大のクライマックスは、ヒョードル vs ハリトーノフになるはずだったのだ。PRIDEファンが最も見たかったカードも、やはりこのロシア人対決だったろう。

だが、GPでの対戦実現は、もはやかなわぬ夢となった。最大の軸を失った無差別級GPがどうなってしまうのか、新たな〝目玉〟は生まれるのか……。そこに思いを巡らせるとき、ハリトーノフ敗戦の重みが（主催者にもファンにも）ズシリとのしかかってくる。

ただ一つ確かなのは、ロシアン・トップチームがこのままでは終わらないということだ。ハリトーノフのGP参戦は不可能となったが、チームの総監督パコージン氏は当然のように第二の刺客を用意しているという。

その男の名はヴォルク・アターエフ。かつてリングスで活躍した〝ヴォルク・ハン格闘術〟の一番弟子であり、ロシア勢の中で唯一〝ヴォルク(狼)〟のリングネームを名乗ることを許された男である。『PRIDE』には2002年12月の『PRIDE・24』でアリスターに敗れて以来、出場を果たしていないが（これも何かの因縁か）、決してPRIDEファイター失格の烙印を押されたわけではない。

格闘ベースを打撃、とりわけ中国武術・散打とするアターエフは、ここ数年、総合よりも散打の試合を優先してきたという。つい先日も、散打の国際大会で優勝を果たしたばかりだ。だがハリトーノフが敗れたいま、その矛先は『PRIDE』に向いた。最後の日本マット登場から3年あまり、26歳という年齢を考えても、大幅に実力を上げていることは確実。昨年の『リングス・スポーツセンター』完成記念大会でも、アターエフはパウンド一発で対戦相手を失神KOに追い込んでいる。

そしてもちろん、ハリトーノフもこのままでは終わらない。アリスター戦で露呈した弱点を、欠場期間中にキッチリと修正し、さらなる強さを蓄えて『PRIDE』のリングに戻ってくることになる。打撃に付き合わない相手をどう仕留めるか。グラウンドで下になったとき、どう反撃していくか。直属のコーチであるイリューヒン・ミーシャ以下、チーム一丸となって〝ハリトーノフ再生〟に取り組んでくるはずだ。

そもそも、ロシア勢はバーリ・トゥードというブラジル産の、自分たちとはまったく流儀の違う闘いにイチから取り組み、結果を出してきた実績がある。

「我々は負けず嫌いだからな」

そう語るのはパコージン氏。アリスター戦後、彼が「どうしてケガをした時点でギブアップしなかったんだ」と聞くと、ハリトーノフはこう答えたという。

「自分から負けを認めるなんてごめんだ」

自ら負けを認めない限り、闘いは終わらない。それはリングス時代からロシアン・トップチーム（リングス・ロシア）の試合を観てきた者には一瞬で理解できることだ。ハリトーノフもまた然り。〝死神落下傘〟が再び降下するときこそ、ヒョードルに最大のピンチが訪れる――。



今回の敗戦はハリトーノフにとって『PRIDE』のリングで味わう最大の挫折に値するだろう。肩のケガのためにしばらく潜伏するハリトーノフが、次に姿を見せるときにどんなことになって出てくるのか、期待したい!

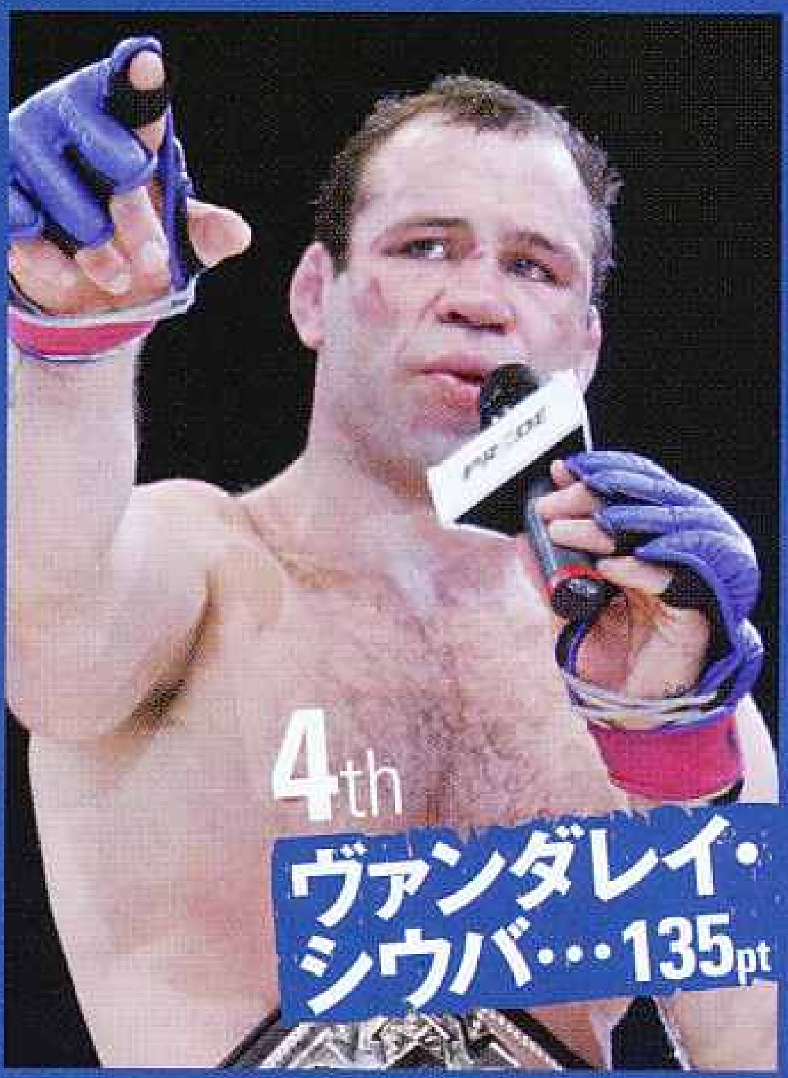
出場してほしい選手



「出るか出ないかわからない、でもぜひ出てほしい!」というファンの思いが一目でわかるこのアンケート。第1位はブッチギリで"野獣"藤田和之!『PRIDE』か『HERO'S』か、その動向が注目されているが、やはりファンがもっとも望むのは最強を決めるGP出場。はたしてこの声は藤田に届くのか? 2位には一昨年のヘビー級GPでハッスル旋風を巻き起こした"キャプテン"が登場。永田さん、中尾さんもやっぱり顔を出している。



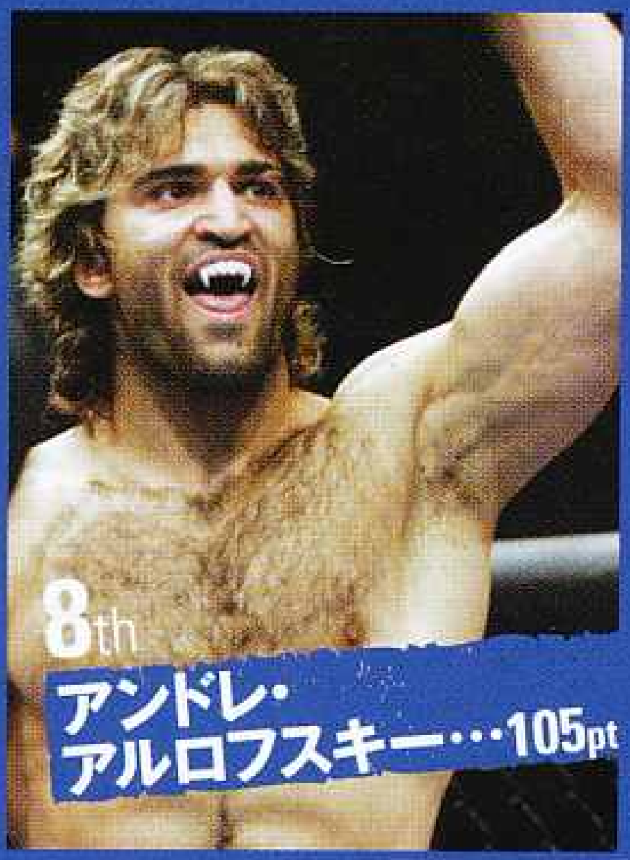
















11.ヒクソン・グレイシー…87pt　12.永田裕志…85pt　13.マーク・ハント…82pt　14.ミルコ・クロコップ…80pt　15.中尾芳広…76pt

PRIDE無差別級GP 出場してほしい選手

回答総数1302人! ケータイサイト『kamipro Hand』で行なった「あなたが『無差別級GP』に出てほしいと思う選手を3人」と「観たい夢のカードを二つ」のアンケート結果をここに大公開! ファンが観たい選手&カードはこれだ!

観たいカード＆出場

kamipro Hand ユーザーが選ぶ

観たいカード



5th A・ホドリゴ・ノゲイラvsジョシュ・バーネット…62pt



2nd E・ヒョードルvsW・シウバ…93pt



8th W・シウバvs西島洋介…48pt



6th 藤田和之vsM・ハント…60pt



3rd 吉田秀彦vs藤田和之…75pt



7th 小川直也vs藤田和之…54pt



4th A・ホドリゴ・ノゲイラvs吉田秀彦…65pt



夢のカードナンバー1は人類最強の殴り合い!!

1st エメリヤーエンコ・ヒョードル vs マーク・ハント…183pt

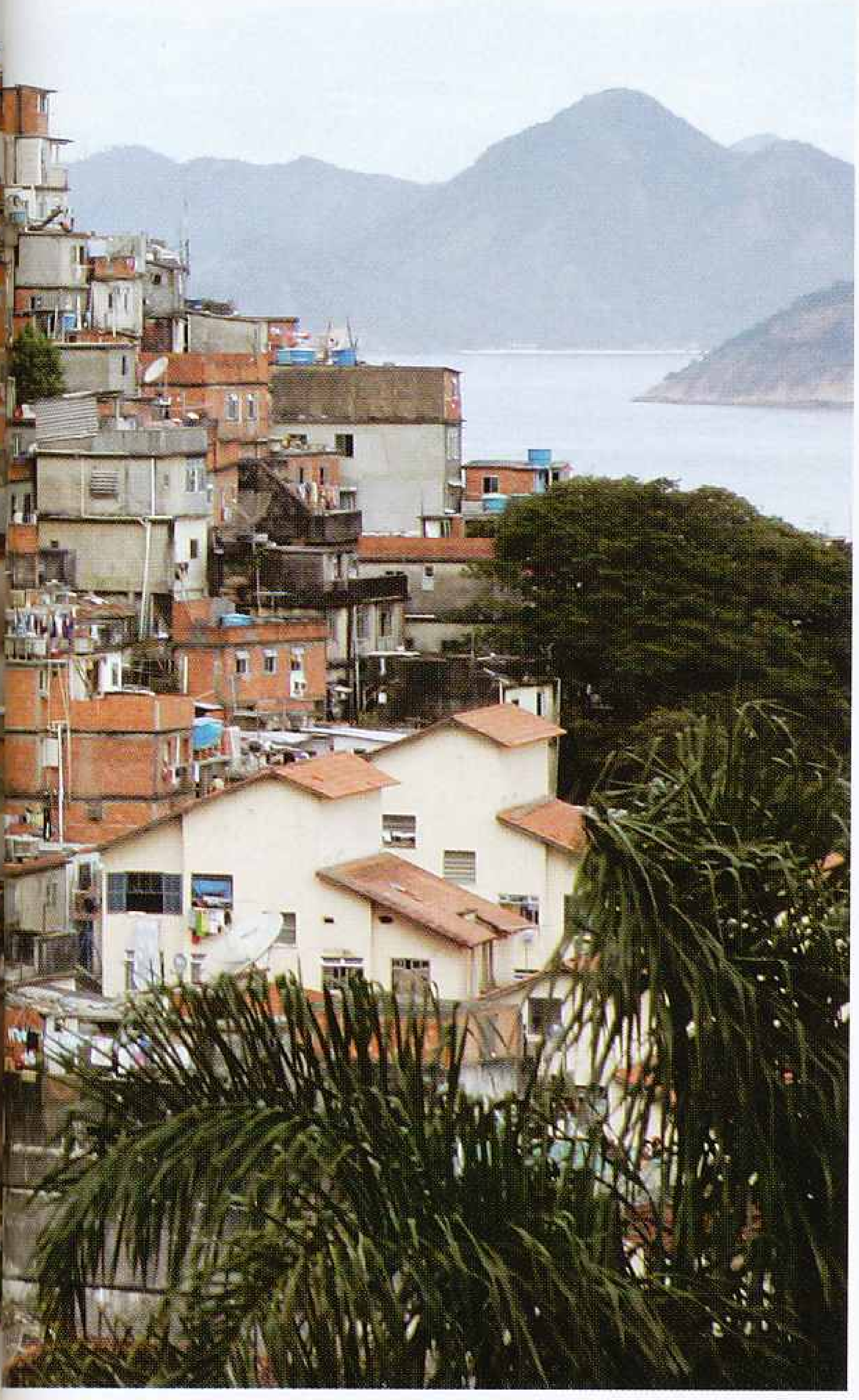
9.E・ヒョードルvs藤田和之	45pt
10.W・シウバvsM・コールマン	44pt
11.A・オーフレイムvsM・クロコップ	41pt
12.A・ホドリゴ・ノゲイラvsW・シウバ	38pt
13.E・ヒョードルvsS・ハリトーノフ	36pt
14.E・ヒョードルvsヒクソン・グレイシー	35pt
15.E・ヒョードルvsA・アルロフスキ	30pt

階級無差別ということで、夢のカードはいくらでも出てくるが、やはりファンが観たいのは「誰がヒョードルを倒すか?」。それを表わすような1位2位となった。続いては藤田vs吉田の日本人大物対決。藤田はほかにvs小川、vsヒョードルもランクインしており、この大会での藤田への期待度の高さがここでも証明された。なお、永田さんvs中尾さん夢の対決は惜しくも17位。

［リオ・デ・ジャネイロ　ファベーラ**潜入**リポート］

絶望の街に希望を

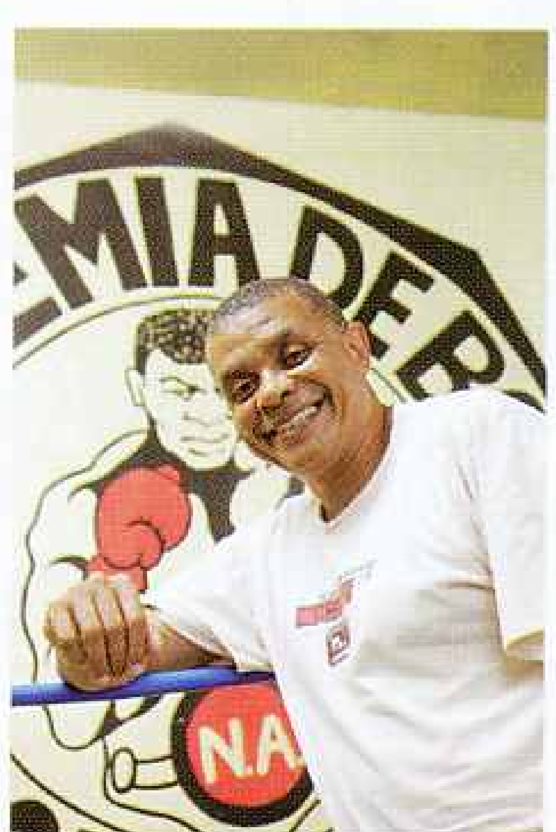
知られざるブラジル格闘界の真実



世界中でもっとも貧富の差が激しい国の
一つとして知られるブラジルには、ファベーラと
呼ばれる世界的に有名なスラム街が
都市部に点在している。そこには我々、日本の
格闘技ファンの知らない、
もうひとつのブラジル真の姿が存在した——。

取材・文／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
design by さおとめの事務所

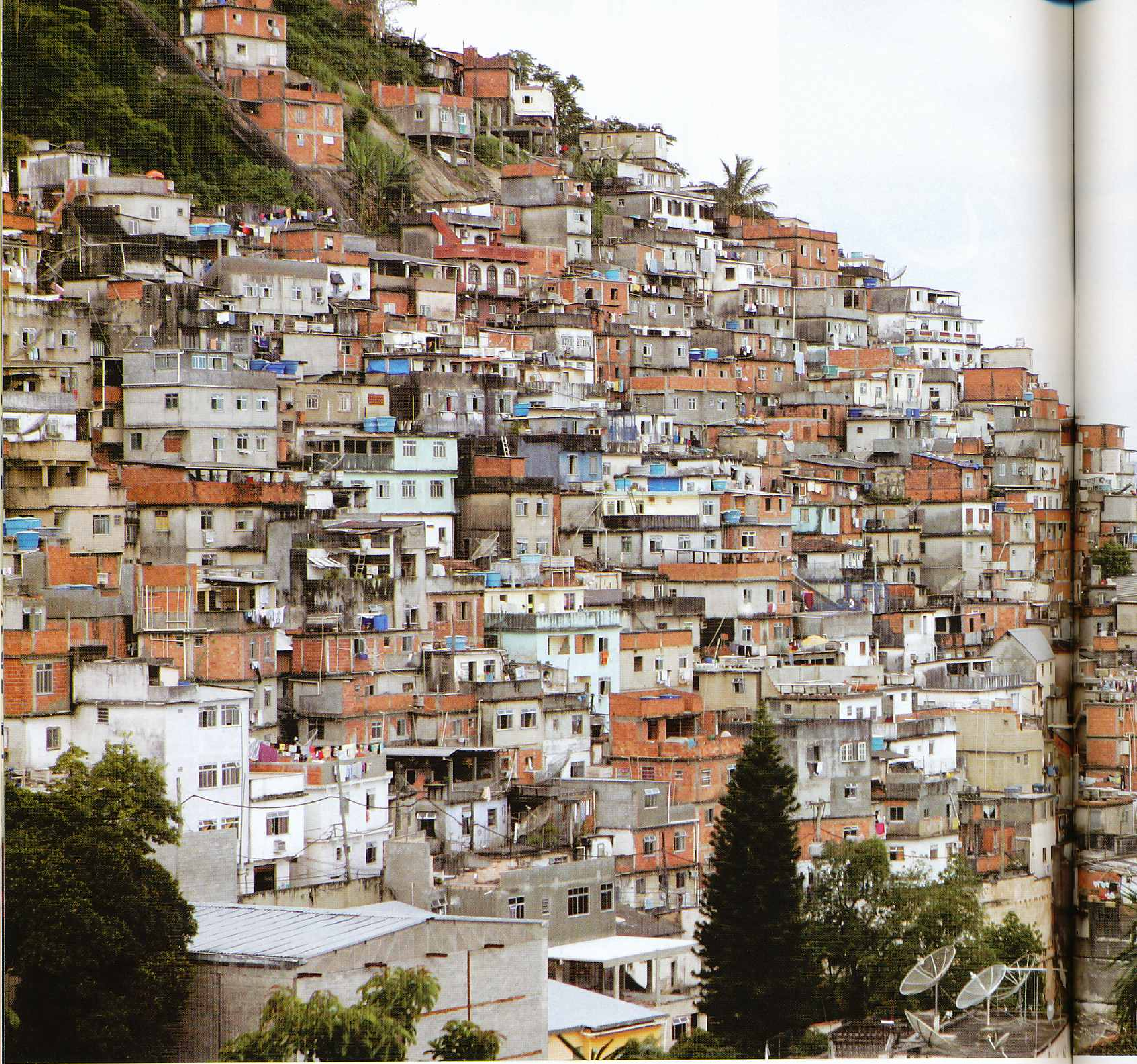






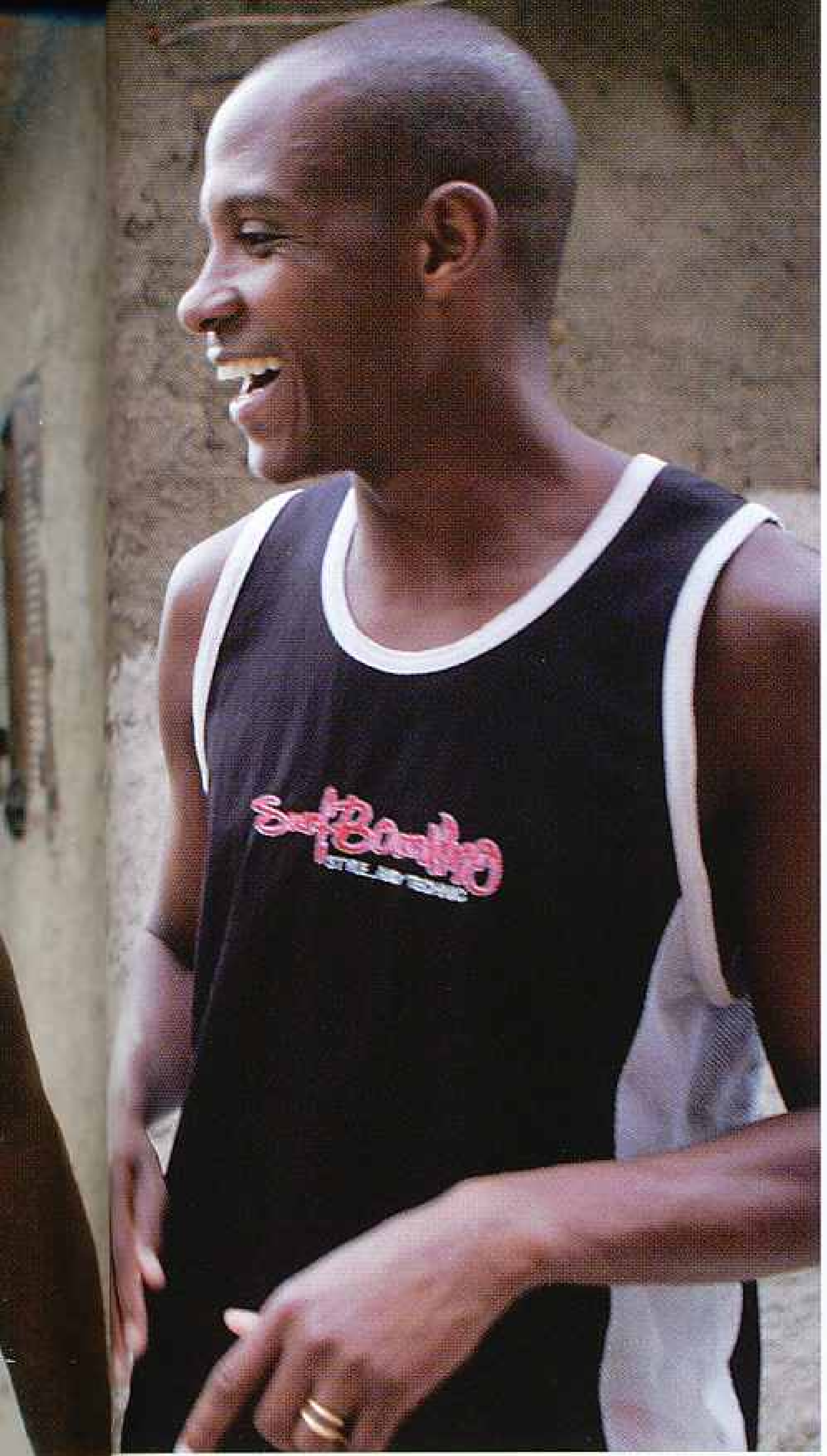
Arte

ファベーラの中のボクシングジム ノーブレ・アルテ



Nobre A

ACADEMIA
DE BOXE



「今日の夕方、君たちをスペシャルな場所に連れていこうと思うけど来るかい？」

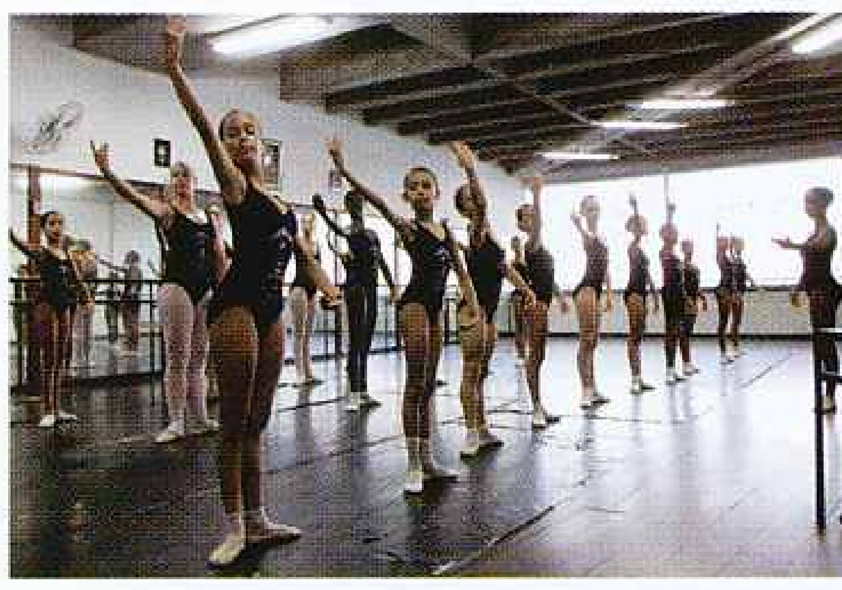
昨年12月、大晦日の『男祭り』を前にしてブラジル現地取材を行なった際、リオ・デ・ジャネイロでの案内役を務めてくれたブラジリアン・トップチームの首領、マリオ・スペーヒーがそう我々に持ちかけてきた。

そのスペシャルな場所とは、マリオやムリーロ・ブスタマンチらが通っているボクシングジム。なぜそこが"スペシャルな場所"なのかというと……「これから行くジムはあの山の上、ファベーラの中にある。君たちをそこへ案内しようと思う」

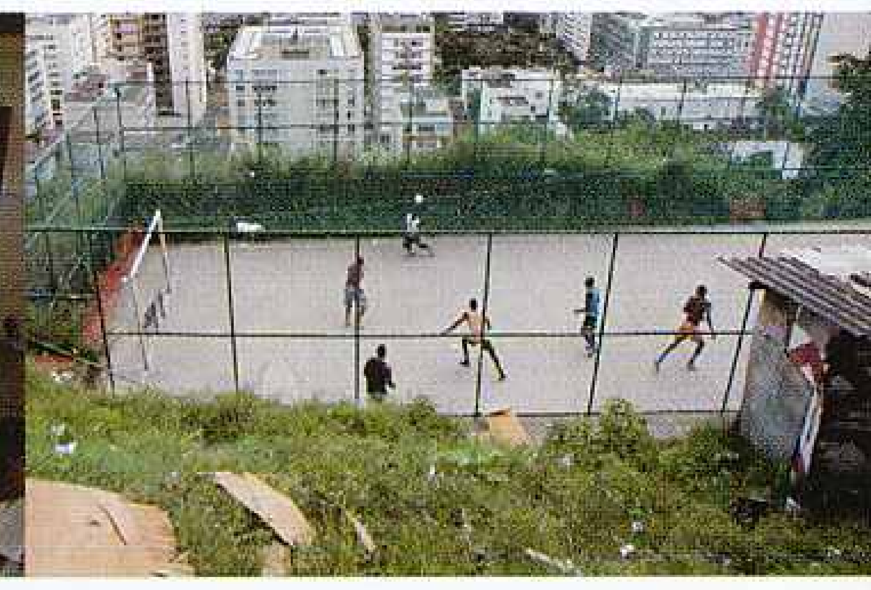
なんと、マリオは我々を"あの"ファベーラに案内しようというのだ。

リオやサンパウロといったブラジルの大都市に行くと、山の斜面にレンガや廃材、コンクリートで作られたバラックが所狭しと建てられたスラム街があちこちにある。その貧しい集落の総称が「ファベーラ」だ。

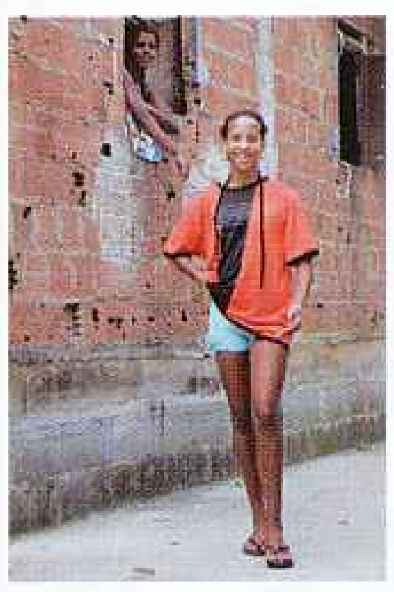
ファベーラにあるバラックは、主にブラジル東北部から仕事を求めて都会に出てきた人たちが、土地の所有者に無断で建てたもので、電気も電線から盗電している。なぜ、他人や国の土地にバラックを勝手に建てることが可能かというと、ブラジルでは屋根のない建物は強制撤去できるが、一度屋根ができてしまうと居住権が認められてしまい、政府も強制撤去ができなくなってしまうからだ。だから、ファベーラはとりあえず警察の目の届かない山の斜面に、わずかな時間の突貫工事でバラックが建てられていくという。

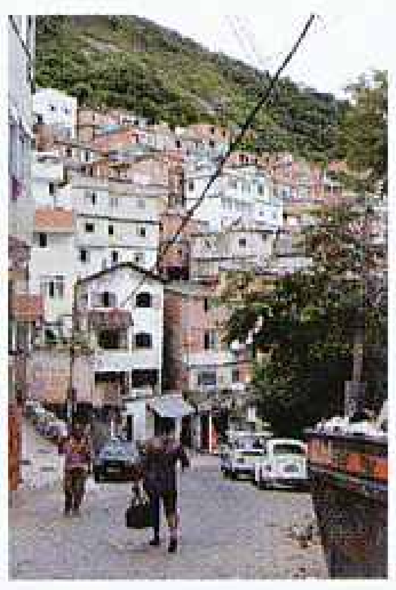






『リオ・アルテ・ポプラル』にはボクシングだけでなく、ご覧のようにサッカーやバレエ、カポエラなども学べ、しかもレベルが高いという。バレエはここからロシアのバレエ団に入団した子どももいるとか。









このようにファベーラはゲリラ的に作られていくので、リオでは高級マンションが立ち並ぶハイクラスな地域のすぐ裏の斜面に、巨大なスラムが形成されているような場所がたくさんある。こういった状態を称して現地では「リオは天に地獄、地に天国がある」と表現する。すなわちビーチ沿いの低地には超大金持ちたちが住む巨大マンションが立ち並び、そのすぐ裏の山には、貧困を極めるファベーラが広がっているということだ。

またファベーラは南米でも屈指の危険な地域としても知られている。それはこういったファベーラのほとんどが、麻薬密売組織によって牛耳られているからだ。そのため、リオに点在するファベーラでは日々、組織同士、または組織と警察との銃撃戦が日常的に繰り返されているという。そのため一部、観光地化されたファベーラ以外は、観光客はおろか、現地のブラジル人も足を踏み入れることはない。だからこそ、マリオは"スペシャルな場所"と言ったのだ。

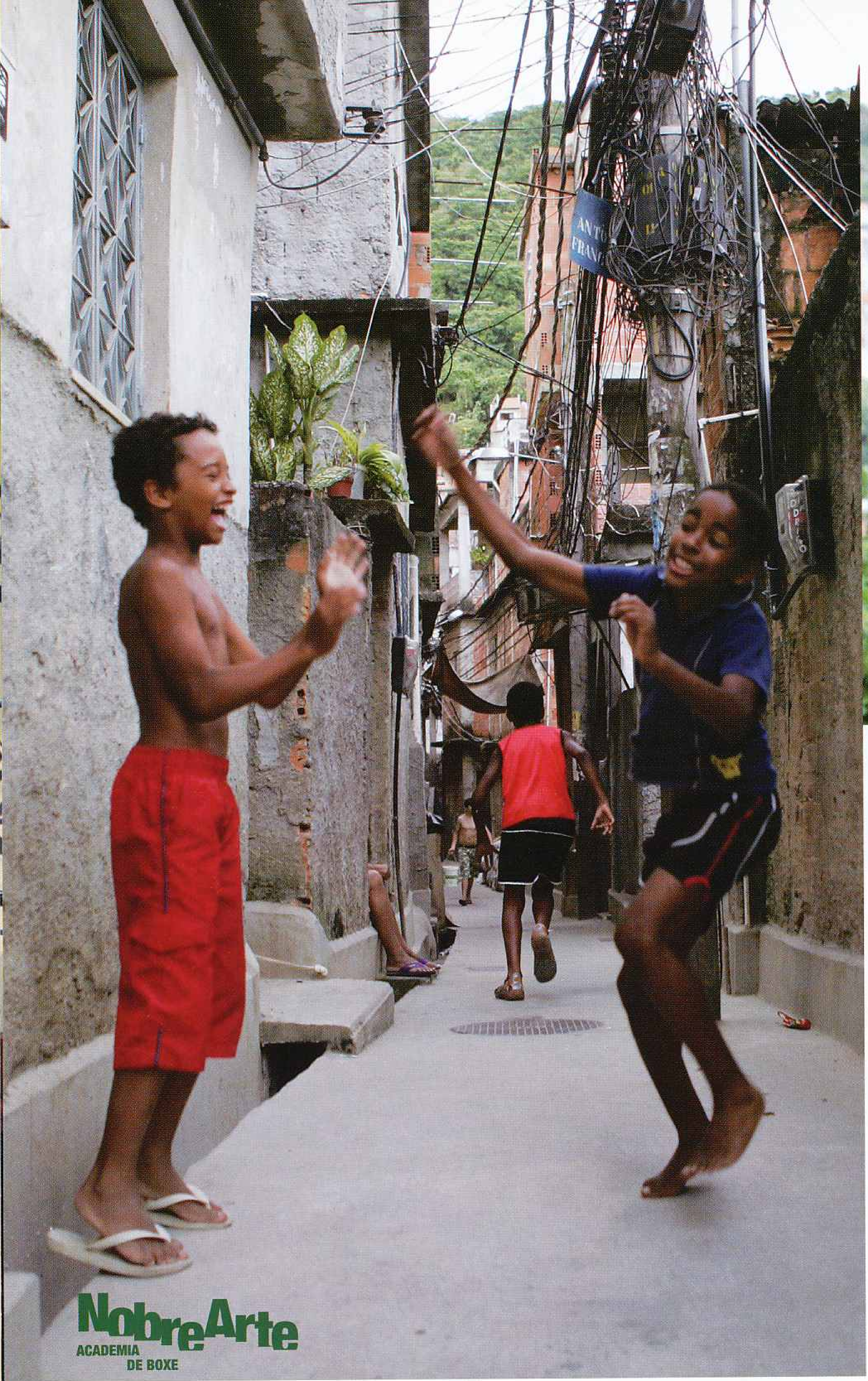
こういった機会でもなければ、我々のような一般人が本物のファベーラの中に入ることはできない。いや、もし入ることはできても、出てくることはできない――

夕刻。マリオの車に乗ってファベーラへと出発。といってもBTTから車で10分もかからない目と鼻の先だ。我々が向かう先は、高級ホテルが立ち並ぶコパカバーナと、リオの裕福層が住むイパネマ地区に挟まれた「カンタガーロ」という名のコミュニティ。これほどまで近いのに、そこではブラジルの一般社会と、まったく違うルールで生きる別世界が広がっているのだ。

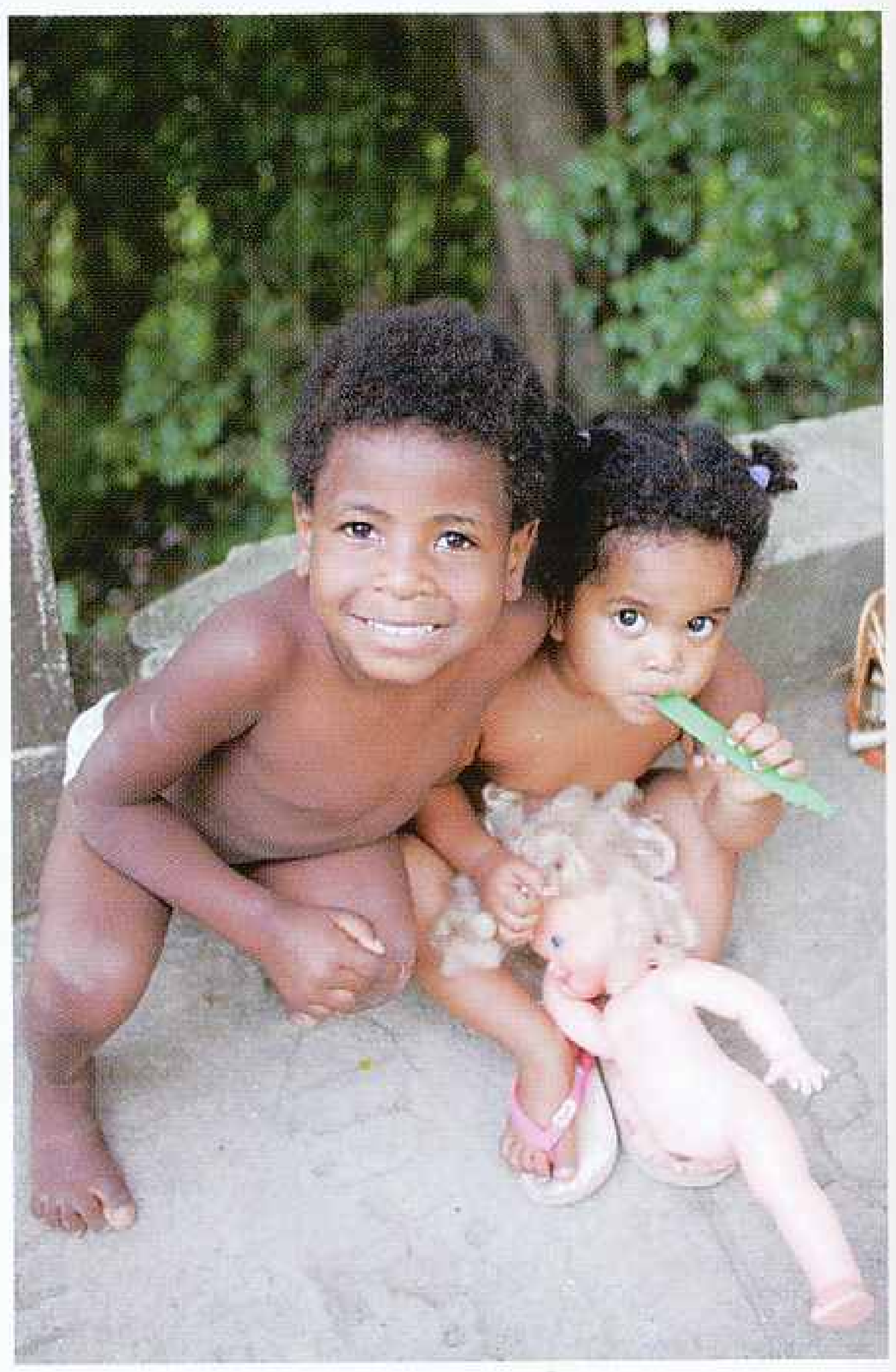
カンタガーロの入口となっている路地に到着すると、マリオは車の窓をすべて全開にするように言った。ファベーラは集落全体が麻薬組織となっていると言っても過言ではない。だから、よそ者が入ってくることを極端に嫌う。もしかしたら、車の中にピストルを持ったスパイや、警察が潜んでいるかもしれない。そうしたら、組織が多大なダメージを被る。そうならないために、疑わしい人間は迷わず消す。それが組織防衛のためのここでのルールなのだ。そして、マリオが全部の窓を開けたのは、危害を加えるようなものは何も持っていないことを車内をすべて見せることでわからせるため。要は両手をあげて"丸腰"をアピールしながら入っていくということだ。

さらにマリオはファベーラに入る前に、ケータイでカンタガーロ内の人間に連絡。「これから日本人を連れていくけれど、危害を加える人間ではない」ことを伝えておく。そうしなければ、不意に撃たれることも本当にあるのだという。

窓を全開にした車でファベーラの坂道を登っていく。そこでは子どもたちが駆けずり回り、酔っぱらいが徘徊し、また新たなるバラックを建てる労働者たちの姿が見える。そして、そこにいるみんなが我々を見ているような気がする。マリオが言うには、ファベーラ内では町の角という角すべてに見張り役がいて、"よそ者"の行動をすべてチェックし、組織のボスに連絡がいくようになっているという。すなわち、ここに入った瞬間から我々の行動はすべて監視されているのだ。







ている人々のほとんどが、ピストルを隠し持っており、いつでも〝始末〟できる状態にあるのだという。怖すぎる！

そんな恐ろしい坂を登りきると、そこにはようやく我々が目指す施設があった。その施設の名前は『リオ・アルテ・ポプラル』。英語読みにすると「リオ・アート・ポピュラー」、日本語に直訳すると「リオの庶民の芸術」といった感じか。ここは、その名の通り、ファベーラに住む子どもたちが無料でさまざまな芸術、スポーツを習うことができるよう政府が支援する施設で、サンバ、バレエ、絵画、カポエラ、サッカー、そしてボクシングの指導を受けられるようになっている。

なぜ、このような施設をわざわざ政府が支援しているのかというと、少しでも〝組織〟に入る子どもたちを少なくするため。そもそも、ここファベーラには夢や希望といったものは存在しなかったからだ。

ファベーラに住む人たちは総じて貧しい。それは彼らが満足に収入を得る職業に就くことができないからという理由がある。ここに住む人たちの主な職業というのは、日雇いの肉体労働やビルの門番、それからメイドといったもので、しかも支払われる賃金は政府が定める最低賃金（月給1万数千円程度）でしかない。そのわずかな収入で平均5〜6人は子どもがいる大家族を食わせなければならないのだ。そうなると、ファベーラの子どもたちが唯一憧れるものは、そういった職業に就くことではなく、自分たちの街のトップになること、すなわち〝組織〟に入るということだ。だからファベーラでは、驚くほど若いうちから組織の一員になる子どもたちが多いという。そして当たり前のようにピストルで殺し合い、若い命を失っていく。

そんな絶望的な状況下にある子どもたちに、夢を見るということを教えてあげる施設。それが「リオ・アルテ・ポプラル」なのである。ここでサッカー、バレエ、絵画、バスケットボール、ボクシングなどに触れることで初めて、子どもたちは、自分たちもプロスポーツ選手や音楽家などになれる可能性があることを知り、夢を見るということを覚えるのである。

マリオらBTTのメンバーが通うボクシングジム『ノーブレ・アルテ』もこの施設の中にある。このジムの会長を努めているのが、クラウジオ・コエーリョ。このコエーリョさんこそが、ブラジル総合格闘技界と密接に関係するボクシングの名トレーナーだったのだ。

コエーリョさんはファベーラで生まれ、ファベーラで育ち、いまもここカンタガーロというコミュニティに住んでいる。マリオに案内されてジムの中に入ると、コエーリョさんが笑顔で我々を歓迎してくれた。

「私はこれまで9回日本に行って、日本人の秩序や礼儀正しさを見てきました。そして生徒たちにそれを話して聞かせました。今日は日本のみなさんに来ていただけて本当に嬉しい」

意外にも9回もの来日経験があったコエーリョさんが初めて日本に行ったのは96年。『バーリトゥード・ジャパン』でホイラー・グレイシーが朝日昇と対戦するために来日した際、セコンドとして同行したのだという。

「私はボクシングの技術をバーリ・トゥード用に改良した最初の人間だと思います。だからこのジムの壁に書いてあるとおり、ブラジル人のバーリトゥードファイターはみんな私のアカデミーをパスしてきたんですよ」



この人物がクラウジオ・コエーリョ。柔術家にボクシングを教え、総合格闘技を進化させた陰の立役者でもあったのだ。

たしかにジムの壁にはヒクソンらグレイシー・ファミリーをはじめ、有名ブラジル人格闘家の名前が数多く書かれている。また、コエーリョさんと格闘家が一緒に写った写真も多数飾られていた。

「バーリ・トゥードの選手たちはそれまで自己流の打撃しか持っていませんでした。ですからいくら寝技が上手くても、ケンカのような試合ばかりだった。そんな中、私が10数年前、初めて黒帯柔術家にボクシングを教えたんです。最初の弟子はムリーロ・ブスタマンチでした。ムリーロはこのジムがまだコパカバーナにあった頃、彼がまだ10代の頃から私の指導を受けているんです。そして、彼を通じて少しずつ柔術家が私の指導を受けるようになったのです。しかし、私がこの世界で有名になるきっかけとなったのは、ヘンゾ・グレイシーです」

95年10月、アメリカ・ノースキャロライナで行なわれた『ワールド・コンバット・チャンピオンシップ』。この大会はホイス・グレイシーを〝主役〟としたUFCに対抗するかのように、ヘンゾ・グレイシーを大会の軸に据えてきた。この大会がヘンゾの〝メジャーデビュー〟戦。この大事な大会を前にヘンゾは『ノーブレ・アルテ』の門を叩いたのだという。

「当時、彼は柔術の世界チャンピオンでした。その彼をホイスに続いてアメリカで成功させるため、彼のお父さんがこの大会に参加させることにしました。でも、この大会の出場メンバーにボクシングのチャンピオンがいたんです（元IBF世界クルーザー王者ジェームス・ワーリング）。そのことを彼のお父さんが大変心配して、ある友だちに頼んでヘンゾを私のアカデミーに連れてきたんです。それで私が彼に付きっきりでトレーニングして、ヘンゾは見事に1日に3試合闘って優勝したんです」

ヘンゾが登場した96年当時、グレイシー一族にも関わらず、ボクシングテクニックを持つヘンゾは異色の存在だった。それを称して、〝進化するグレイシー〟などと呼ばれていたが、その〝進化〟を助けたのが、他ならぬこのコエーリョさんだったのだ。

「それ以来、グレイシー・ファミリーは私のメソドを大変気に入ってくれ、グレイシー・ファミリー以外の柔術家もこぞってここに来るようになったんです。これは私たちにとってもいいことでした。なぜなら、私たちは貧しく、このジムも予算がないため、トレーナーを雇うということも、私たちは経済的にできないんです。ですから、バーリ・トゥードのファイターにボクシングを教えることで、金銭を得ている部分もあるんです」

コエーリョさんが言うように、基本的に



いつも笑顔を絶やさないコエーリョ氏であるが、練習のゴングが鳴ると、途端にトレーナーの顔になる。



BTT勢は週3階ほど、ここに通っており、コエーリョ氏は昨年大晦日もムリーロのセコンドとして来日した。



ジムの中には、ここで練習したさまざまな選手の写真が飾られているが、その中に中村カズの写真も発見！


AQUI NÓS SEGUIMOS: UM MESTRE, UM AMIGO E UM PAI.
OBRIGADO POR TUDO.
A EQUIPE NOBRE ARTE
HOMENAGEIA SEUS GUERREIROS CAMPEÕES QUE COM GARRA, DISCIPLINA E DEDICAÇÃO, CONTRIBUIRAM PARA TRANSFORMAR NOSSA ACADEMIA NO (TEMPLO DO BOXE)
ATENÇÃO!!
NobreArte
ACADEMIA DE BOXE



NobreArte
ACADEMIA DE BOXE

ボランティア施設であるこのジム。ここを存続させるために、コエーリョさんに指導を受けた格闘家たちがさまざまな支援を行なっているという。

「バーリ・トゥードのファイターたちは、ここにトレーニング器具や、トレーニングウェアを提供してくれたりしています。それから、彼らがお金を払って私をセコンドとして、海外のいろいろな場所に連れていってくれたりもしますね。それからコミュニティの子どもたちに無償で柔術を教えてくれたりして、彼らはもはや私たちの家族といってもいいでしょう」

90年代と違い、いまは柔術家がボクシングのトレーニングを受けるのは当たり前になり、総合用のボクシングを教えるトレーナーもたくさんいる。それでも、まだこの老トレーナーの指導を受ける選手たちはあとを絶たない。

「いま現在もムリーロ、ゼ・マリオ、ミノタウロ、ミノトゥーロ、シャオリン、ペドロ・ヒーゾらが頻繁に来ています。彼らはコミュニティの人間を決して差別することのない人格者ばかりです。彼らの支援のおかげで、このジムはいまもコミュニティの子どもたちにボクシングを教えることができているのです」

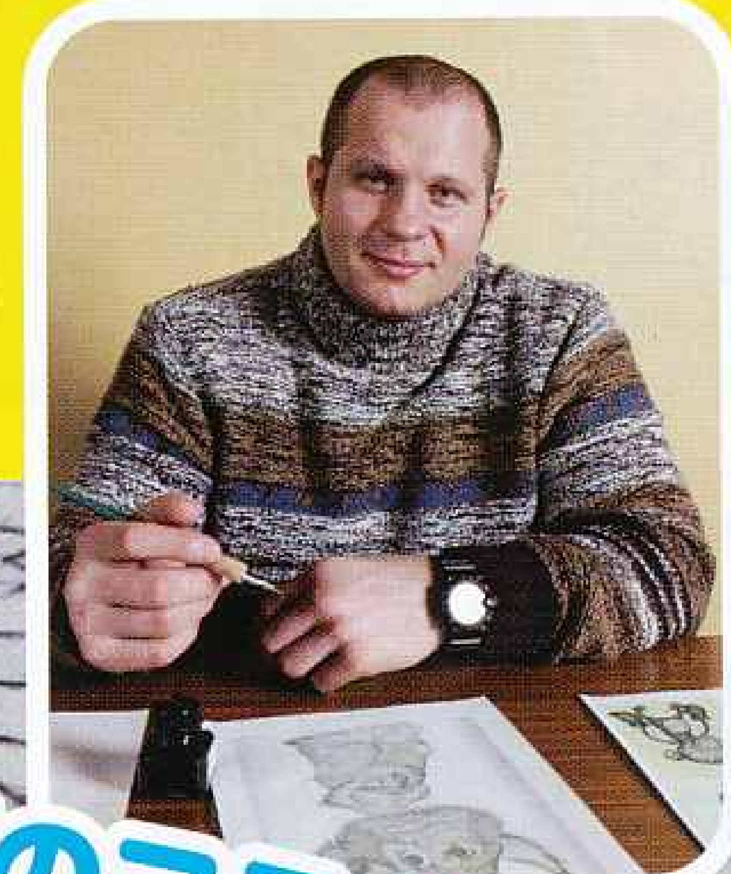
かつてここでボクシングを習っていた子どもたちの中で、マリオやブスタマンチ、ヒーゾらと接する中で、バーリ・トゥードのファイターになるという夢を抱き、BTTやノヴァ・ウニオンで練習をするようになった若い選手も増えてきているという。地球の裏側ブラジルの、絶望の街と呼ばれるここファベーラで、「日本でプロ格闘家になる」ということが、子どもたちの希望になりつつあるのだ。■

前人未到の超絶PRIDE本、ついに完成!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

3.28 ON SALE! 860yen



衝撃！ヒョードル画伯のイラスト大公開!!

なろう、なろう、明日なろう!! 格闘技とまんがのコラボが実現！

PRIDEまんが道



エメリヤーエンコ・ヒョードル
ジョシュ・バーネット
長南亮

相原コージ
にわのまこと
中澤一登

夏目房之介
竹熊健太郎

［奇跡の三大対談も実現!］
ふんどしノゲイラ×高田統括本部長
★
桜庭和志×HG
★
ヴァンダレイ・シウバ×インリン・オブ・ジョイトイ
ほか、超絶企画が満載!!

写真：相原コージ先生の柔術ノートより

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

読プレ 満開!!!

お花見の季節になりました。kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は4月16日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤面白かった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦入学&入社に関する思い出⑧『PRIDE』無差別級GPの優勝者予想

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「終電のがして〜ビッグ!マウス!ラウド!」係まで

※締切は2006年4月15日（土）当日消印有効

kamipro 097 応募券 しゃおらぁ!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!



PRIDE

■PRIDE HP***http://www.prideofficial.com/
■メディアファクトリー HP***http://www.mediafactory.co.jp/

五味選手サイン入りTシャツ

今号の表紙を飾った五味選手がPRIDEオリジナルTシャツ2枚にサインをしてくださいました。五味ファンのあなた！　どちらかほしいほうを書いてバンバンおハガキ送ってこいやー!!　【DSE提供】



PRIDE ステンシルTシャツ
¥3990（税込）

各 1 名様

サイン入り



I♥BUSHIDO Tシャツ
¥3990（税込）



もれなくジョシュの名刺がついてくる!!

ジョシュ・バーネットの名刺

『PRIDE.31』で来日した際に報道陣をはじめいろんな人に名刺を配りまくってたジョシュ。「読者プレゼント用にください」とお願いしたら、なんと半ケースぶんくらいくれました!!

プレゼント フォー!! ユー!



PRIDE 男祭り2005ーITADAKIー

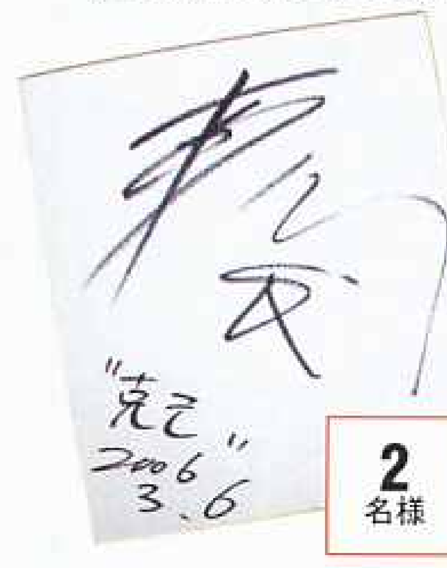
DVD／100分／¥5040（税込）

小川直也vs吉田秀彦、五味隆典vs桜井“マッハ”速人など、沸きに沸いた『PRIDEオ男祭り』のDVDが早くも発売開始。高田本部長のタップダンス&暴れ太鼓ももちろん完全収録!!　【メディアファクトリー提供】

1 名様

高阪選手サイン色紙

“克己”と、いかにも高阪選手らしいお言葉入りのサイン色紙をプレゼント。TK、はたしてPRIDE無差別級GP参戦なるか？ そして賢者の道をまっとうするのか!?



2 名様







1 名様

TAJIRI Tシャツ ¥3990（税込）

『ハッスル14』からデビューしたハッスル軍・TAJIRIの新作Tシャツが早くも発売開始！　今号では特別に1名様にMサイズをプレゼントします!!　【DSE提供】

TAJIRIサイン色紙

世界のスーパースターTAJIRIのサイン色紙を2名様にプレゼント。色紙にかじりついてもらったので（写真参照）、どちらか1枚にはTAJIRIの唾液がもれなくついてきます！

2 名様

HUSTLE

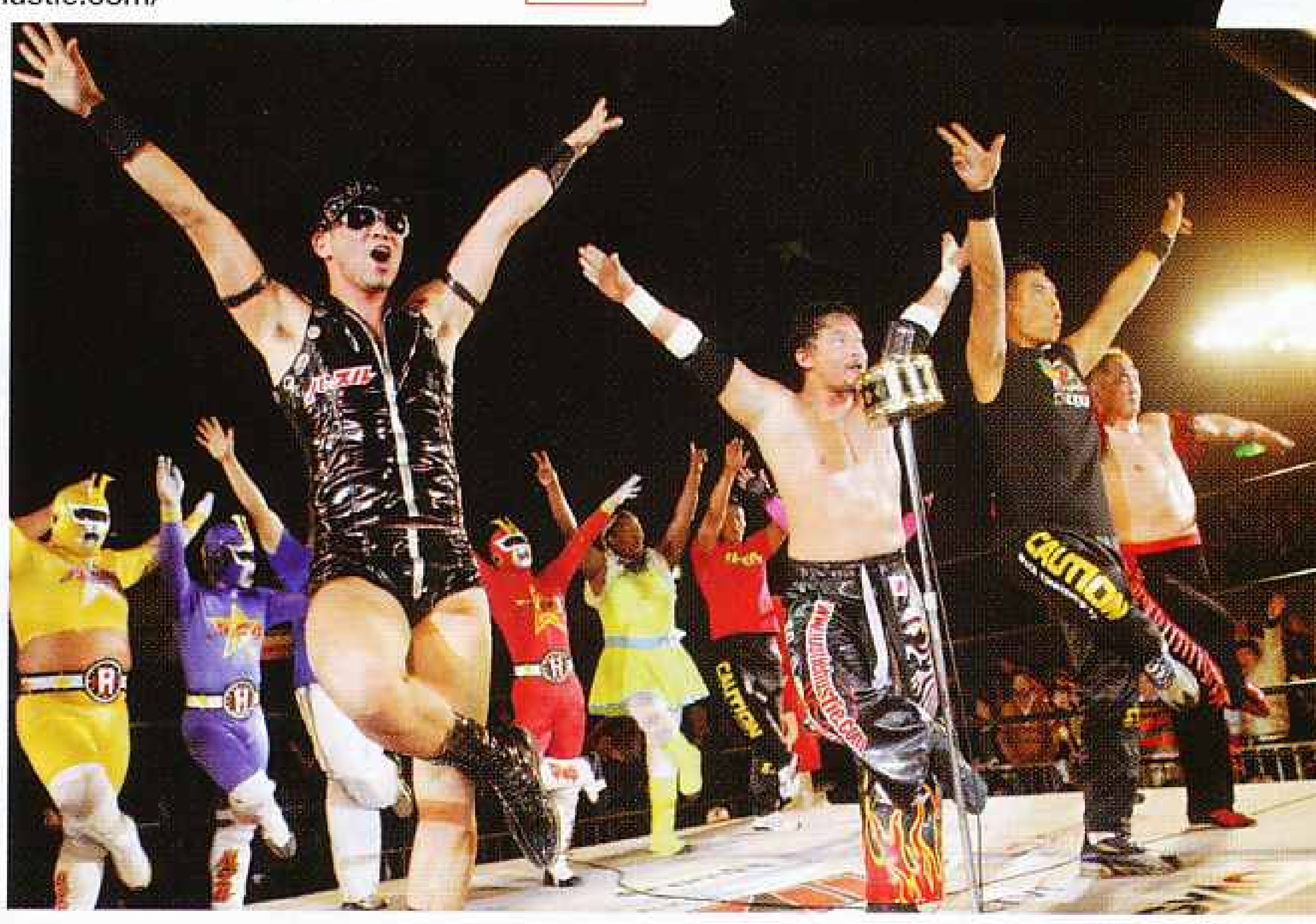
■HP***http://www.hustlehustle.com/



1 名様

『ハッスル』パンフレット

RGやTAJIRIなど、ハッスルオーディションに合格したニューレスラーが続々とリングに登場！『ハッスル14』『ハッスル・ハウスvol.12』『ハッスル15』をカバーしたパンフを1名様に。



LUTADOR

■ルタドールHP***http://www.lutadorfight.com/
■TEL***03-3229-8996

各1名様





ルタドール　ロゴTシャツ

東京都・中野新橋から徒歩すぐのLURADORは、オリジナルロゴTシャツから選手用のジャケット、BTTやシュートボクセの商品まで豊富に揃うセレクトショップ。要チェック!!

FF2 Gi-Feminino2006×SmackGirl-F×LUTADOR FIGHT Tシャツ

LURADORでは、2月3日に行なわれた女子格闘技の祭典「FF2 Gi-Feminino2006×SmackGirl-F」とのコラボTシャツを販売。これ、全出場選手が着用したTシャツです!!

KERO

1名様



田中リングアナ肉声入り目覚まし時計

あのケロちゃんの肉声がこの中に!「2006年、朝は来た。プロレスの夜明けを見よ。60分1本勝負を行ないます!!」のアナウンスで毎朝起こされてください。

FIGURE

■コナミHP***http://www.konami.co.jp/

フィギュメイト ランブルローズ Vol.1

(¥368(税込)©2005 2006 KONAMI)

人気ゲーム『ランブルローズ』のフィギュアが3月2日に発売開始! 写真のほかにレアバージョンのタイプが2種。首と胴体は取り外しが可能なのでほかのフィギュアと付け替えることもできます。【コナミ提供】

◎全7種・ノーマル5種(日ノ本零子、イーブル・ローズ、紅影、愛原誠、キャンディ・ケイン)・レア2種(日ノ本零子2Pカラー、紅影マスクなし)



各1名様



BOOKS

■東邦出版HP***http://www.toho-pub.com/
■エンターブレインHP***http://www.enterbrain.co.jp/

3名様

『吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1』

(エンターブレイン/¥1890(税込))

『紙のプロレスRADICAL』に収録されている吉田豪さんインタビューを集めた超豪華版。阿修羅原さんから田代まさしさんまで、いま読んでもかなり濃厚な内容です。抽選にハズレた人は買ってでも見よ!!



1名様

田村潔司『孤高の選択』

(東邦出版/¥1470(税込))



田村潔司が高田延彦の引退試合や桜庭和志のことを語った『孤高の選択』を、ご本人のサインを入れて1名様にプレゼント。謎めく田村の心の中がちょっとばかりのぞける!かも。

HEAR

■アデランスHP***http://www.aderans.co.jp/
■男性向けコンテンツTEL***0120-02-1960(24時間)
■女性向けコンテンツTEL***0120-86-0930(24時間)

アデランスコンディショナーインシャンプー&育毛ローション

アデランスの「テレフォンヘアチェック」が2月17日からリニューアル。新キャラクター・菅井玲さんのCMも絶賛放送中です!! さあ〜、気になるあなたは新・電話番号に3,2,1,ダイヤル! ダイヤル!



セットで5名様



GAME

■セガTEL***0570-000-351



携帯型液晶ゲーム「そだてて!甲虫王者ムシキング」

©SEGA,2006

5名様

子どもたちのあいだで爆発的な人気を呼んでいるムシキングに、初の育成ゲームが登場。携帯型液晶ゲームとして楽しむだけでなく、なんと!育てたムシを他のムシと闘わせて遊ぶことも可能。【セガ提供】

STICKER

■ファイターHP***http://www13.ocn.ne.jp/˜fighter/



各10名様

テツジムステッカー

元関西ライト級チャンピオン、ガルーダ・テツが会長を務めるジム"テツジム"のステッカーです。「暗闇から獲物を狙う怪鳥ガルーダ」をイメージしてデザインした商品だそうです。



我龍真吾ステッカー

元・新日本ライト級王者で、現在は「K-1 WORLD MAX」「R.I.S.E.」のリングを主戦場に活躍する我龍真吾選手。思いっきりその名前が入ったオリジナルステッカーを10名様にプレゼント。

DVD

各1名様











01★古傳圓心流　組討剣傳
35分/¥4935(税込)
02★武神館DVDシリーズvol.25 大光明祭2005
196分/¥5880(税込)
03★龍飛雲　蛇拳
63分/¥5880(税込)
04★飛び関十段青木真也(仮)
106分/¥5880(税込)
05★塩田剛三直伝 合気道養神館研修会 vol.3
85分/¥5880(税込)



3名様

K-1 PREMIUM 2005 Dynamite!!

120分/¥6090(税込)©K-1

山本KID徳郁vs須藤元気、中尾芳広vsヒース・ヒーリングなど、数々の名勝負が行なわれた『Dynamite!!』のDVDがついに発売! 地上波では放送されなかったあの試合もくまなくチェックしよう。



3名様

所 英男

236分/¥5880(税込)

所ファン必見! 昨年「HERO'S」で人気大爆発した所英男選手のデビュー戦から05年リトアニアでのエリカス・ペトライティス戦まで全25試合が収録されたDVDがついに発売。熟練ファンもにわかファンもこれ1本あれば、所選手を完全網羅できます!

■ポニーキャニオンHP***http://www.ponycanyon.co.jp/
■QUEST HP***http://www.queststation.com/



ファイティングスタンド・フルセット

50,000円→**10,800円**（消費税込）

サンドバックを使いパンチ、蹴りの練習。逆サイドでパンチングボールを使いコンビネーションの練習。これ1台であなたの部屋が本格練習場に!

さらに 先着500名様に限り SBスプリングをプレゼント!

トレーニング時の揺れやショックを軽減しすばらしい打撃感を実現!!



サンドバッグDX

クサリ付き



ファイティングバッグ

パンチにキック激しい衝撃をガッチリ受け止める。自宅でできる本格トレーニング!

高級レザー

30,000円→**14,800円**（消費税込）

打撃本体には、多重構造ウレタンを使用。



ファイティングセットⅢ

97,000円→**49,800円**（消費税込）



ファイティングセットⅡ

65,000円→**34,800円**（消費税込）



ベンチマット

8,000円→**4,800円**（消費税込）

サイズ:110cm×200cm×厚5mm



セーフティプレスベンチセット

47,500円→**29,800円**（消費税込）



サイズ:8oz・10oz・12oz・14oz　カラー:黒・赤

プロフェッショナル ボクシンググローブ

最高級本革製　19,800円→**4,800円**（消費税込）



サイズ:フリー　カラー:黒・赤

プロフェッショナル ヘッドガードインナーバー

最高級本革製　17,800円→**5,800円**（消費税込）



サイズ:フリー　両手

プロフェッショナル パンチングミット

最高級本革製　9,800円→**3,800円**（消費税込）



サイズ:フリー　カラー:黒・赤

プロフェッショナル レッグガード

14,800円→**4,800円**（消費税込）

最高級本革製



サイズ:40×18×10　カラー:黒(打面)・赤(打面)

プロフェッショナル キックミット

9,800円→**3,800円**（消費税込）

最高級本革製

(株)ファイティングロード

〒547-0027 大阪市平野区喜連2-5-49 龍本平野ビル7F

お申し込み方法

ご注文はTEL・FAX・ハガキにて 通販OK

TEL／06-6706-4411

FAX／06-6706-4412

HPアドレス　http://www.fightingroad.co.jp

Eメールでのお申込み　shop@fightingroad.co.jp

受付時間 AM9:00〜PM9:00（年中無休）
1月1日〜3日のみ休業致します。（1月4日より通常営業）

便利なクレジットカードもご利用OK!

■ハガキでのお申し込み方法

切手　〒547-0027 大阪市平野区喜連2丁目5・49龍本平野ビル7F ファイティングロード 紙プロ係	商品名 電話番号 住所 氏名

- 受注後スピード配送!（但し、地域により異なります）
- 代金は商品到着時、配達員にお支払い下さい。
- 表示価格には送料は含まれておりません。
- 返品、交換は未開封に限り、到着後7日以内にて（送料はお客様負担になります。）
- 改良の為、予告なく色・形状が変わる事があります。
- 全商品に生産物賠償保険付
- お客様の個人情報は商品およびカタログの発送以外には使用いたしません。







正しく学ぼう!

P入り商品お買い上げの方には、トレーニング解説DVD「ファイティング」をプレゼント!!

第1部は魔裟斗選手の試合直前本格練習を収録しました!!☆魔裟斗選手による正しい打撃、蹴りのアドバイスもあるぞ! **第2部は**あの東京大学ウエイトリフティングチームによるより良い筋肉の造り方を収録!!☆ベンチプレス、ダンベル、腹筋・・・等、正しいフォームを学ぼう!

バーベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	12,000円→6,800円
50kgセット	17,000円→9,800円
70kgセット	22,000円→13,800円
100kgセット	29,500円→17,800円
140kgセット	39,000円→23,800円

シャフト付き

ダンベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	7,000円→4,800円
30kgセット	9,500円→6,800円
40kgセット	12,000円→7,800円
50kgセット	14,000円→8,800円
60kgセット	16,500円→10,800円

シャフト付き

プレート ブラックタイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	300円
2.5kg	600円
5.0kg	1,200円
7.5kg	1,800円
10.0kg	2,400円
15.0kg	3,600円
20.0kg	4,800円

バーベルラバータイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	16,000円→9,800円
50kgセット	24,000円→13,800円
70kgセット	32,000円→19,800円
100kgセット	44,000円→26,800円
140kgセット	60,000円→34,800円

シャフト付き

ダンベル ラバータイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	9,500円→6,800円
30kgセット	13,500円→8,800円
40kgセット	17,500円→10,800円
50kgセット	21,500円→12,800円
60kgセット	25,000円→14,800円

シャフト付き

プレート ラバータイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	400円
2.5kg	800円
5.0kg	1,600円
7.5kg	2,400円
10.0kg	3,200円
15.0kg	4,800円
20.0kg	6,400円


W130×D137×H100〜130

キングofベンチ
(プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
35,000円→12,800円(消費税込)


W62×D126×H85〜105

ハードベンチ (プレートセット別売)
ワンタッチでシットアップベンチ。折りたたみが可能!
20,000円→9,800円(消費税込)


W52×D126×H100

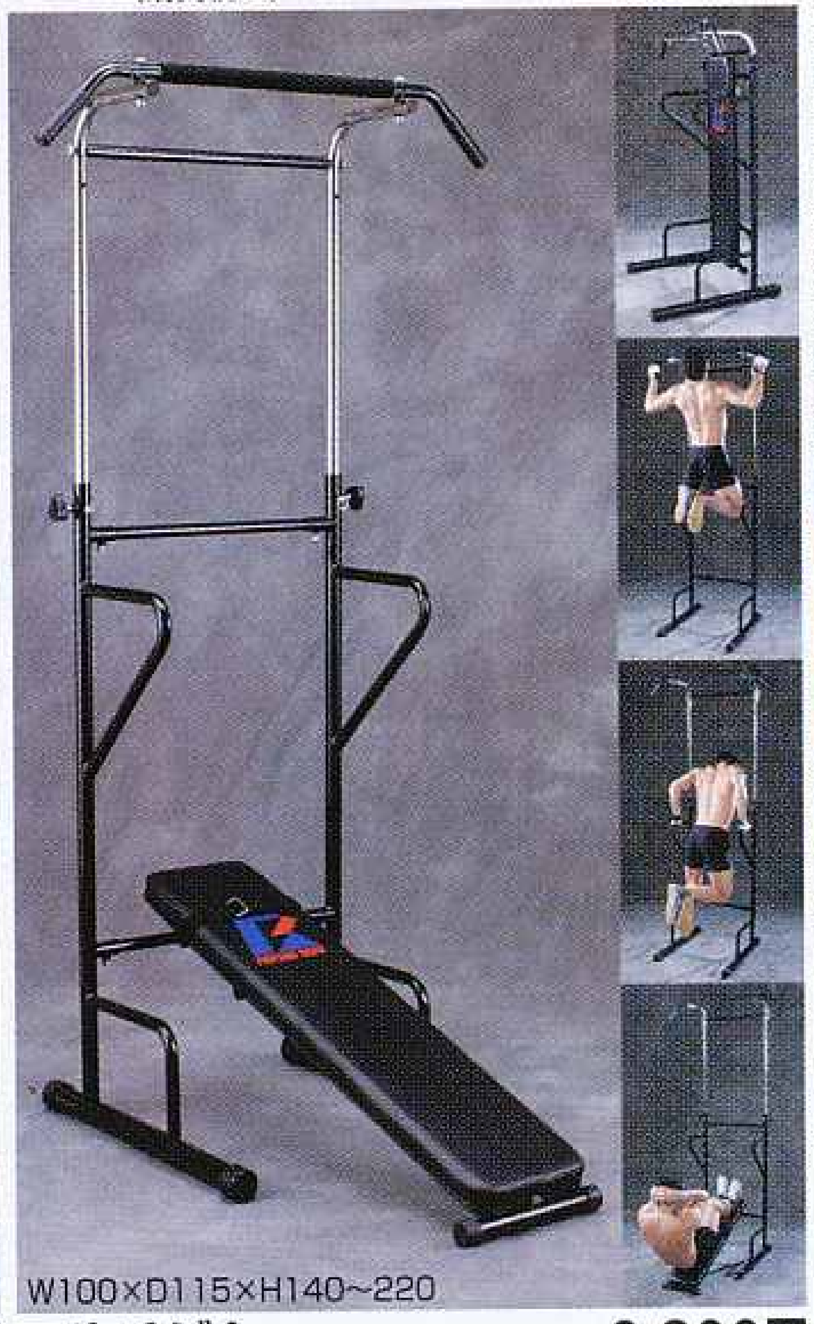
トレーニングベンチ (プレートセット別売)
安定感抜群のベンチプレス台
12,000円→5,800円(消費税込)


W130×D137×H205

キングスセット
(プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
40,000円→18,800円(消費税込)
ラット運動によるショルダー部の集中強化によりパンチ力強化、持久力が備わります!


W130×D195×H205

キングスセットDX
プロスクワット台付
(プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
58,000円→27,800円(消費税込)


W100×D115×H140〜220

マルチジム
高さ調整可能
24,800円→9,800円(消費税込)



W51×D80×H111cm

フィットネスバイク fr
サドル高さ調整可能
39,800円→7,800円(消費税込)


W55×D130×H45

フラットベンチPRO
極太パイプを使用抜群の安定感!
10,000円→4,800円(消費税込)


W56×D127×H123

シットアップベンチ
手軽に腹筋・背筋のトレーニングが出来ます。
10,000円→4,800円(消費税込)
5段階の角度調節が可能!


W45×D51×H60〜82

ベンチセーフティ
ベンチの両サイドにセットすれば安全にプレス運動ができます。
13,000円→6,800円(消費税込)


W100×D60×H120〜160

プロスクワット台
(プレートセット別売)
18,000円→9,800円(消費税込)

kamipro 紙のプロレス

No.97

2006年4月7日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下義之
松下“かぼちゃ”ミワ
八木賢太郎（花粉症にならないため非番）

電気部
さささぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ
プリン体2号？ 上杉だるま

見習い
岡田イブラヒム

終身名誉パイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RGM

編集次長リローデッドPart.6
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂“ダークサイドの住人”マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口“お誕生日”ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
丸山剛史
平工幸雄
戸成嘉則
山口比佐夫
松本 崇
吉場正和

お勘定&衣料部
林 一枝

換気しま〜す
プリン体1号・入江（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“花見ならどこでも行きます”芳司

“だから年度末なんですよ!”編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

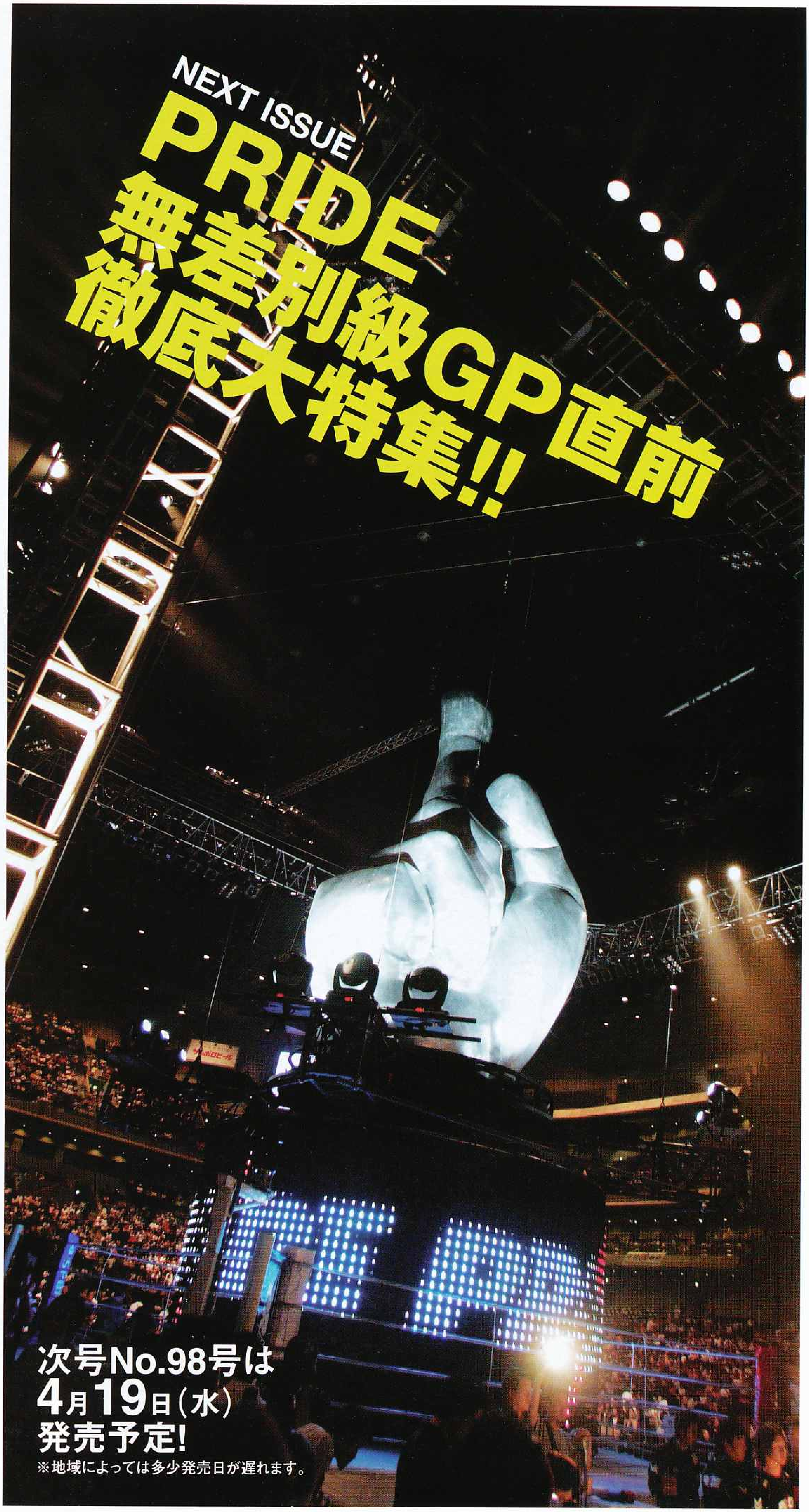
印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。





めざせ頂点!
Dimension 0
King of card game
賞金総額2,000万円!
国産初の本格的プロ賞金制TCG!
トレディングカードゲーム
ディメンション・ゼロ オフィシャルホームページ
http://www.dimension-zero.com
ファースト・センチュリーエクスパンション
~勝利への計略~
好評発売中!
カード種類数:全100種
1パック:カード10枚入り 税込価格:330円
ゲームデザイン/中村聡(遊宝洞) 協力/ニッポン放送、ドリームステージエンターテインメント、ゲームギャザ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント 発売元/株式会社ブロッコリー
ユーザーサポート係 TEL:03-5946-2812【月~金(祝日を除く)10:00~12:00/13:00~17:00】mail:support@dimension-zero.com ©BROCCOLI ©DSE
ブロッコリー

kamipro 2006 97
4・2『武士道』で輝け!!
真っ赤に燃える王者の印!
PRIDEの星

2006年4月7日
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

定価：本体838円＋税
雑誌61953-89 Ⓗ2006.7
Printed in Japan 図書印刷
ISBN4-7577-2698-8
C9476 ¥838E
9784757726987
1929476008381
enterbrain